

財務省委託

広報資料の改善を目的とした各種調査

総合報告書

2020年3月31日

“Fielding for REALITY”

 株式会社 サーベイリサーチセンター
SURVEY RESEARCH CENTER CO.,LTD.

指標項目結果(パンフレット確認前後の変化)

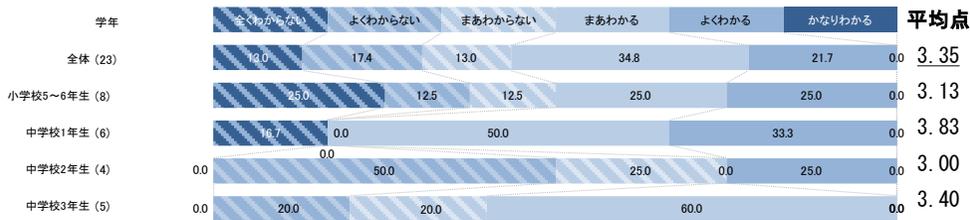
- ・パンフレットの効果を測定する設問は、「日本の財政に関する興味・関心(記入用紙にて回答を聴取)」および「財政に関する4つの用語」に対する認知や理解等をヒアリング
- また、保護者についても、「日本の財政についての理解」と「日本の財政に関する興味・関心」を実施 ※いずれも記入用紙にて回答を聴取
- ・すべての項目において、パンフレットを読んだ後で、平均点が大きく高くなっている。
- ・「日本の財政に関する興味・関心」は、子どものほうがよりパンフレットを読む前後での平均点の差が大きい
- ・4つのワードについて見ると、「国の借金について」の理解が、パンフレットを読む前後での平均点の差が大きい

	項目	パンフレット	平均点	
子ども	「財政」という言葉の認知および理解 (1~6点)	読む前	3.35	パンフレット確認前後で、平均点がすべての項目で増加 差が最も大きかったのは「国の借金について」
		読んだ後	4.78	
	「歳出」という言葉の認知および内容の理解 (1~6点)	読む前	3.52	
		読んだ後	4.96	
	「歳入」という言葉の認知および内容の理解 (1~6点)	読む前	3.91	
		読んだ後	5.00	
	「国の借金」に関する内容の理解 (1~6点)	読む前	3.13	
		読んだ後	4.61	
	日本の財政に関する興味・関心 (「ない 1」「2」「3」「4」「ある 5」)	読む前	2.61	パンフレットを読む前は2点台(興味・関心なし寄りの値)だった平均点が、読後は4点台弱(興味・関心あり寄りの値)まで向上
		読んだ後	3.74	
保護者	日本の財政についての理解 ※11項目平均 (「言葉自体を知らない 1」「言葉を聞いたことがある程度 2」「内容をまあ知っている 3」「内容を人に説明できるくらい詳しい 4」)	読む前	2.14	パンフレット読後、日本の財政に関する「理解」および「興味・関心」が向上
		読んだ後	2.99	
	日本の財政に関する興味・関心 (「ない 1」「2」「3」「4」「ある 5」)	読む前	4.00	
		読んだ後	4.17	

パンフレット確認前後の指標変化(子ども) ※財政・歳出

- ・「財政」という言葉の認知および理解は、平均点がパンフレット読前の3.35から読後4.78に向上(1.43ポイント増) ※すべての学年で1ポイント以上向上
- ・ヒアリング時には、「お金」「公共サービス」といった言葉が挙がった
- ・「歳出」という言葉の認知および理解は、平均点がパンフレット読前の3.52から読後4.96に向上(1.44ポイント増) ※すべての学年で1ポイント以上向上
- ・ヒアリング時には、「予算」「社会保障」といった言葉が挙がった

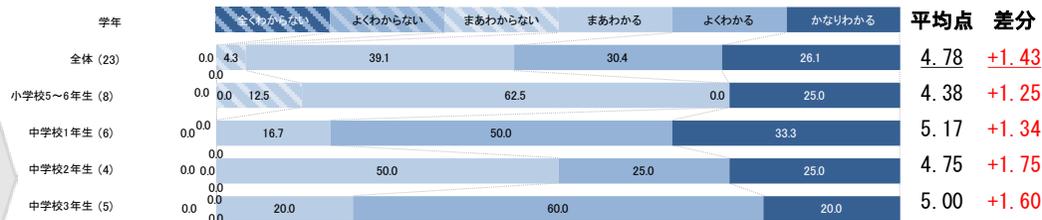
「財政」という言葉の認知および理解
パンフレット読前



<ヒアリング内容(理解度等)>

- ・「国のお金のこと」と回答。(多数)
- ・ニュースで聞いたことがある。(多数)
- ・塾(私立中学受験)の社会の授業でやった。(小6)
- ・学校の授業で聞いたことあるぐらい。内容はよくわからない。(多数)
- ・学校では習っておらず、ピンとくる言葉はない。(小5、中2他)

パンフレット読後

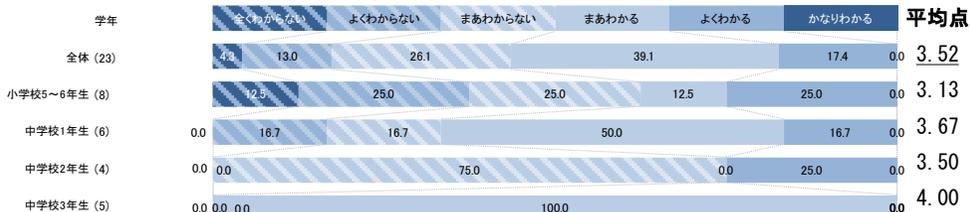


<ヒアリング内容(理解度等)>

- ・「公共サービス」はみんなのためのものということがわかった。(多数)
- ・「公共サービス」について「教育」「医療」等の用語が出てきた。(多数)
- ・財政とは、国が必要なお金をつけることだと理解した。(中2)
- ・財政についてわかった。ただ説明するのは難しい。(中2)
- ・少しわかったが、全般を通じてわかりにくい。(小6)
- ・一人あたりのサービスの金額はわかりやすい。また絵もわかりやすかった。(中1)
- ・「②医療費」と「③道路整備等」はイラストだけではわかりづらかった。(小6)

「歳出」という言葉の認知および理解

パンフレット読前



<ヒアリング内容(理解度等)>

- ・「歳出」は聞いたことない、「予算」はニュースで聞いたことがあると回答。(多数)
- ・ただし、予算の規模については、わからない。(多数)
- ・「予算」は、令和2年の予算についてのニュースを見て知っていた。(中2)
- ・「(歳出の)円グラフ」を見たことがあると回答。(小6)

パンフレット読後



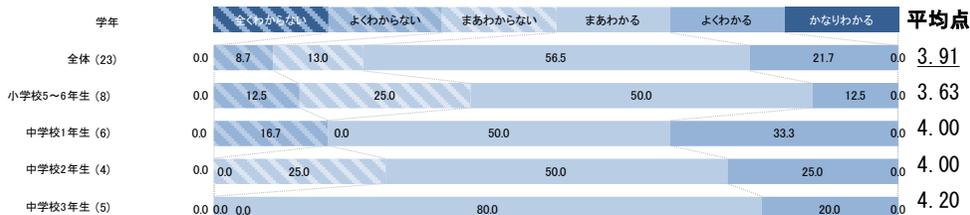
<ヒアリング内容(理解度等)>

- ・社会保障が一番使われていると回答。(多数)
- ・「社会保障」は「医療」や「年金」等であることがわかった。(小6)
- ・国のお金の使い道として、多い順から「社会保障」「地方への交付金」「公共事業」「農業」「防衛」「教育」といった用語が出てき、それぞれ意味も理解できていた。(中2)
- ・「地方交付金」は読む前は用語すら知らなかったが、理解できた。(小5)
- ・「子ども・子育て」のイラストはわかりやすかったが、他の絵はわかる様なわからない様な感じ。(小6)

パンフレット確認前後の指標変化(子ども) ※歳入・国の借金

- ・「歳入」という言葉の認知および理解は、平均点がパンフレット読前の3.91から読後5.00に向上(1.09ポイント増) ※すべての学年で1ポイント以上向上
- ・ヒアリング時には、「消費税」「所得税」などの様々な種類の税の名前が挙がってきた
- ・「国の借金」という言葉の理解は、平均点がパンフレット読前の3.13から読後4.61に向上(1.48ポイント増) ※すべての学年で1ポイント以上向上
- ・読前は「国が借金していることは知らなかった」という意見が多かった 読後は「ワニ口」「富士山」「エベレスト」等のパンフレットの挿絵に関する意見が多く挙がってきた

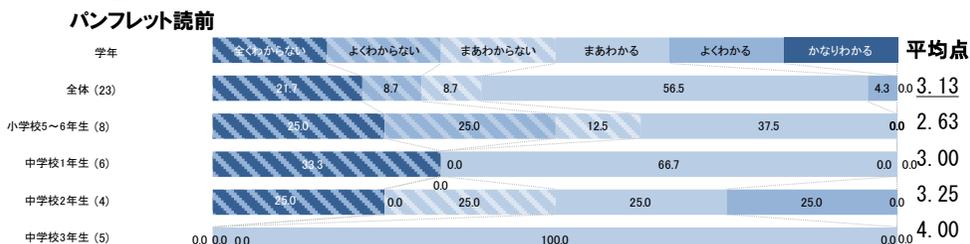
「歳入」という言葉の認知および理解 パンフレット読前



<ヒアリング内容(理解度等)>

- ・「歳入」という用語は知らなかったが、税金という用語は知っていた。(多数)
- ・「消費税」「所得税」という用語が出てきたが、「所得税」の意味は理解できておらず。(多数)
- ・「消費税」「所得税」「固定資産税」という用語が出てきた。租税教室で習ったため、「固定資産税」を覚えていた。(中2)
- ・塾の社会の時間に教わった。(小5)

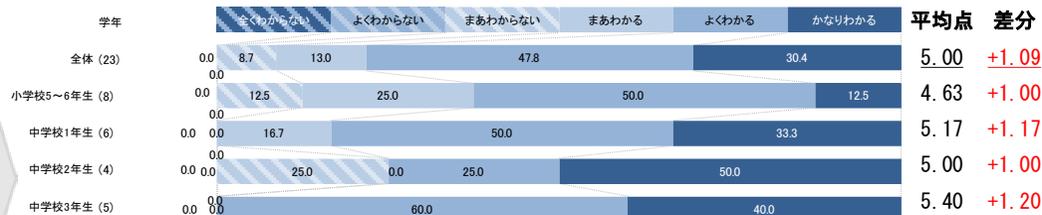
「国の借金」についての理解 パンフレット読前



<ヒアリング内容(理解度等)>

- ・「国が借金している」ことは知らなかった。(多数)
- ・国が借金していることは聞いたことがある。その規模についてはわからない。(中3他)
- ・日本が借金しているということは社会の授業で習っており知っていた。その金額についてはわからないが、たくさん有ることは知っていた。(小5)
- ・国の借金総額が1,000兆円近く有ることは知っていた。ネットで調べた。(小5)

パンフレット読後



<ヒアリング内容(理解度等)>

- ・多数理解できた税の種類も増えた。(多数)
- ・税の種類として「消費税」「所得税」という用語が出てきた。(それぞれある程度意味も理解できていた)(中2)
- ・読む前は知らなかった「法人税」「揮発油税」について理解できた。(中2)
- ・「揮発油税」は初めて知った、その他の税は授業や普段の生活のなかで見たり聞いたりしていた。(中3)
- ・消費税率上げについて税率、軽減税率は知っていた。引上げ時期は知らなかった。(中1)

パンフレット読後



<ヒアリング内容(理解度等)>

- ・「ワニ口」という言葉を覚えていて差が年々開いていることを理解していた。(多数)
- ・金額は覚えていないが、エベレスト、富士山のページは覚えており、借金が大変という認識。(多数)
- ・原因が社会保障費の伸びであることを理解。背景に高齢化があることまで理解。(多数)
- ・借金が伸びているということがわかった。矢印やエベレストがわかりやすい。(小5)
- ・社会保障が要因だとわからなかった。グラフや絵が有るとわかりやすい。(中1)
- ・P14は難しい言葉が多いので、なんとなくしか理解できていない。(中3)
- ・「GDP」「受益」など、意味がわからない用語が有った。(小6)

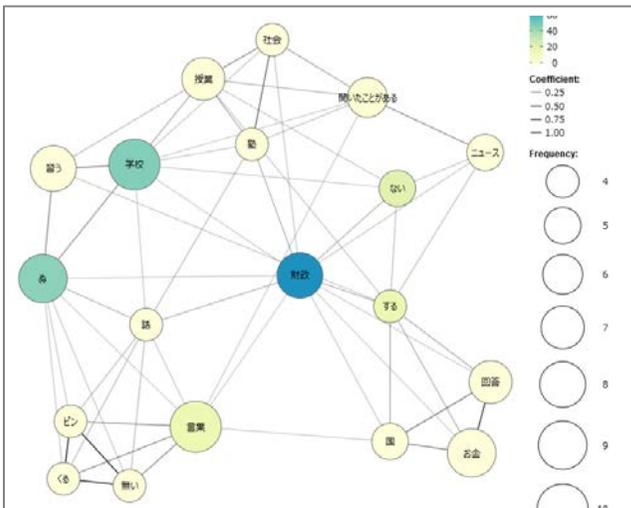
パンフレット確認前後の理解度変化(子ども) ※財政

- ・パンフレット読前は、「学校では習っていない」「(財政に関して)ピンとくる言葉は無い」といった回答や、「国のお金のこと」といった回答が多かった
また「受験の際に学んだ」「ニュースで聞いた」等の意見もあった
- ・パンフレット読後は、財政のことが「分かった」「理解した」という回答が多くみられ、対象者の口から「公共サービス」や「医療」「教育」等の単語も出てきた

「財政」という言葉の認知および理解

パンフレット読前

抽出語	出現回数
学校	10
言葉	10
お金	9
ぬ	9
財政	8
習う	8
回答	7
授業	7
聞いたことがある	6
ない	5
ニュース	5
国	5
くる	4
する	4
ピン	4
社会	4
塾	4
分からない	4
無い	4
話	4



<多く出現した単語>

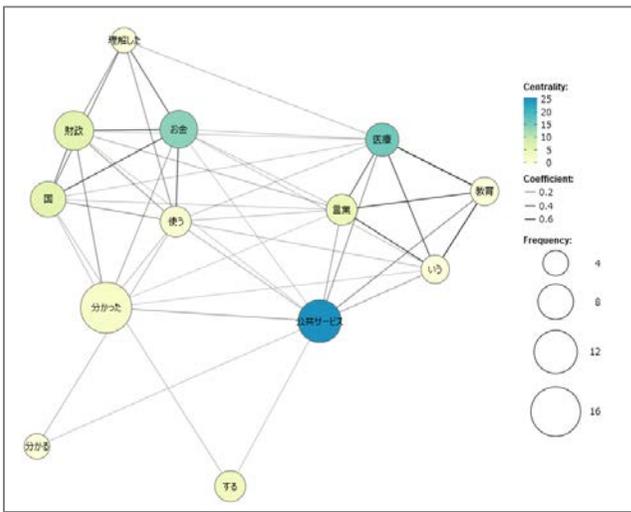
学校、言葉、お金、ぬ(否定語)、財政 等

<同時に使われやすい単語(結びつきが強い単語)>

- ・学校、習う、ぬ(否定語)
...「学校では習っておらず、」
- ・言葉、ピン、くる、無い
...「ピンとくる言葉は無い」
- ・お金、国、回答
...「国のお金のこと」と回答
- ・授業、塾、社会、ニュース、聞いたことがある
...「社会の授業で聞いたことがある」
「中学受験の際の塾の社会の時間に～」
「ニュースで聞いたことがある」

パンフレット読後

抽出語	出現回数
分かった	17
公共サービス	12
財政	10
お金	9
国	8
医療	7
する	6
言葉	6
使う	6
いう	5
教育	5
分かる	4
理解した	4



<多く出現した単語>

分かった、公共サービス、財政、お金、国 等

<同時に使われやすい単語(結びつきが強い単語)>

- ・財政、国、使う、お金、理解した
...「財政とは、生活のためのお金の使い方だと理解した」
「財政とは、医療や学校など、国が生活に必要なところにお金を使うことだと理解した」
- ・言葉、医療、教育、いう
...「公共サービスの例も「教育」、「医療」、「年金」と言えた」
「「公共サービス」について「教育」「医療」「犯罪から守ること」という言葉が出てきた」

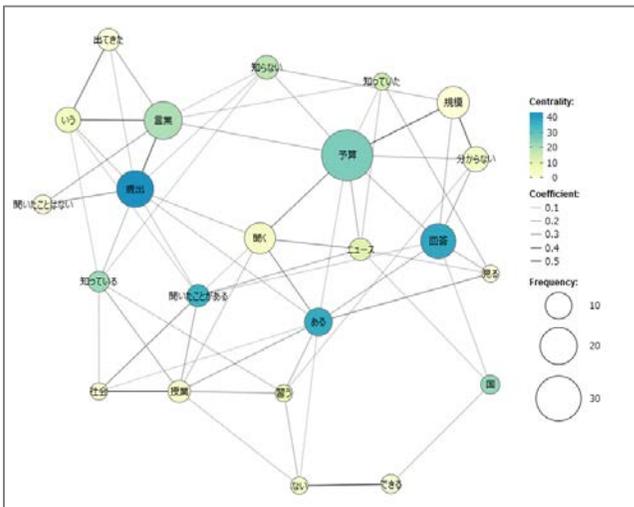
パンフレット確認前後の理解度変化(子ども) ※歳出

- ・パンフレット読前は、「歳出」という言葉は聞いたことはない一方、「予算」という言葉はニュースで聞いたことがあるといった回答が多かった
ただし、ほとんどが予算規模までは答えられなかった
- ・パンフレット読後は、「社会保障」という言葉、また「社会保障費に多くのお金が使われていること(人によっては歳出に占める社会保障費の割合まで回答)が分かった」という回答が多かった
また、「社会保障が身近な存在である」といった意見や、読前には答えられなかった「予算規模」も回答できた方もいた

「歳出」という言葉の認知および理解

パンフレット読前

抽出語	出現回数
予算	39
言葉	21
歳出	20
回答	18
規模	15
聞く	14
ある	11
いう	9
分からない	9
知らない	8
ニュース	7
授業	7
出てきた	7
聞いたことがある	7
知っている	6
できる	5
国	5
聞いたことはない	5
ない	4
見る	4



<多く出現した単語>

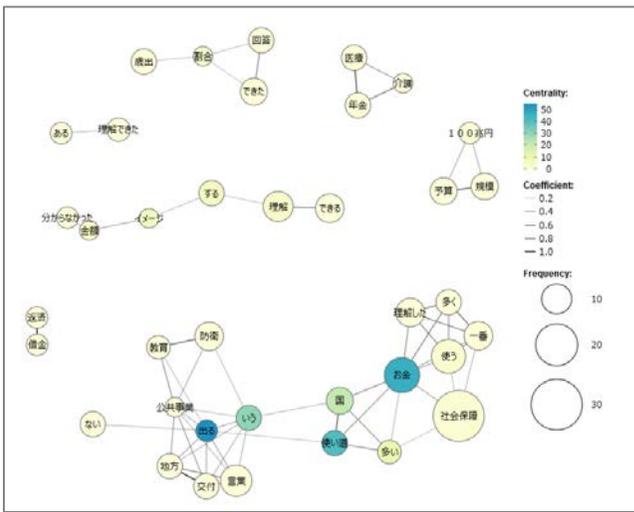
予算、言葉、歳出、回答、規模 等

<同時に使われやすい単語(結びつきが強い単語)>

- ・予算、規模、分からない、回答、知らない
...「予算の規模については、分からないと回答」
- ・言葉、歳出、出てきた、聞いたことはない
...「歳出」という言葉は聞いたことはない
「歳出」と「歳入」という言葉が自分から出てきた」
- ・聞く、ニュース、見る、知っていた
...「予算」は、ニュースを見て知っていた」
- ・授業、社会、聞いたことがある、知っている、習う、ない(否定語)
...「歳出」については社会の授業で聞いたことがある」
「予算規模については授業で習った記憶はあるものの思い出せなかった」

パンフレット読後

抽出語	出現回数
社会保障	30
お金	14
分かった	14
使う	13
言葉	11
理解	10
できる	9
一番	9
防衛	9
理解した	9
できた	8
規模	8
国	8
予算	8
いう	7
する	7
ない	7
医療	7
回答	7
交付	7



<多く出現した単語>

社会保障、お金、分かった、使う、言葉 等

<同時に使われやすい単語(結びつきが強い単語)>

- ・社会保障、お金、使う、理解した、一番、多く
...「社会保障費」に一番多くのお金が使われていることについて理解した」
- ・言葉、防衛、教育、公共事業、地方、交付、出る
...「国のお金の使い道として、「社会保障」「地方への交付金」「公共事業」「農業」「防衛」「教育」といった言葉が出てきた」
- ・予算、規模、100兆円
...「予算規模100兆円についても分かった」
- ・割合、回答、できた
...「歳出に占める社会保障の割合(約3割)も回答できた」
- ・医療、年金、介護
...「社会保障」が「医療」や「年金」「介護」等の身近なものであることについて理解した」

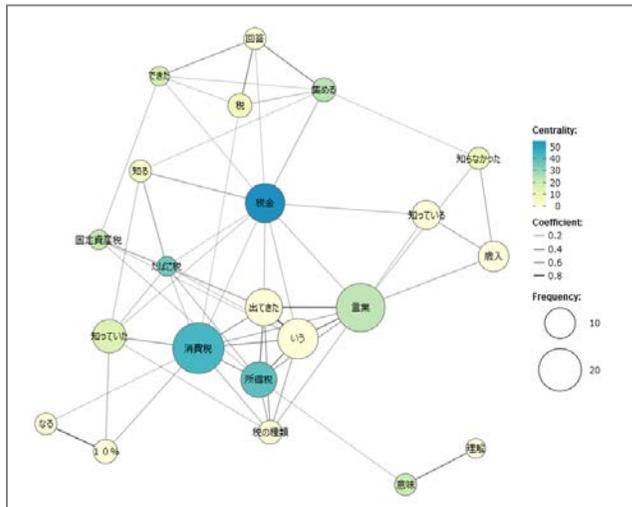
パンフレット確認前後の理解度変化(子ども) ※歳入

- ・パンフレット読前は、「歳入」と同様に「歳入」という言葉は知らない」一方、「税金」という言葉は知っているといった回答が多かった
また、「消費税」や「所得税」は多くの方が知っていた
- ・パンフレット読後は、多くの税の種類が答えられるようになり、ひとによってはそれぞれの意味まで理解できるようになった

「歳入」という言葉の認知および理解

パンフレット読前

抽出語	出現回数
消費税	29
言葉	26
いう	18
税金	17
出てきた	15
所得税	14
知っていた	12
歳入	10
知っている	9
10%	6
集める	6
税	6
税の種類	6
なる	5
意味	5
回答	5
知らなかった	5
知る	5
たばこ税	4
できた	4



<多く出現した単語>

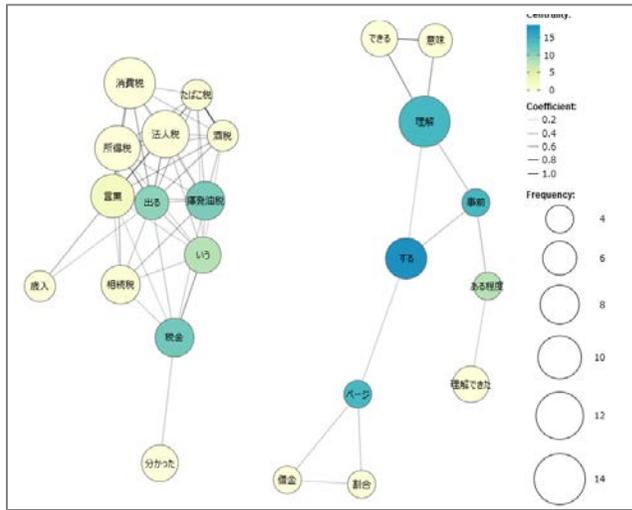
消費税、言葉、税金、出てきた、所得税 等

<同時に使われやすい単語(結びつきが強い単語)>

- ・消費税、言葉、出てきた、所得税、税の種類
...「税の種類として「消費税」「所得税」という言葉が出てきた」
- ・税、回答、集める
...「どのように集めているかと聞くと「税」と回答」
- ・歳入、知っている、(知らなかった)、(税金)
...「「歳入」という言葉は知らなかったが、税金という言葉は知っている」
- ・10%、なる、(消費税)、(知っていた)
...「消費税率が10%になったことを知っていた」

パンフレット読後

抽出語	出現回数
消費税	14
理解	14
法人税	12
所得税	11
言葉	10
する	9
揮発油税	8
税金	8
相続税	8
いう	7
できる	7
分かった	7
理解できた	7
意味	6
出る	6
たばこ税	5
歳入	5
酒税	5
税率	5
ある程度	4



<多く出現した単語>

消費税、理解、法人税、所得税、言葉 等

<同時に使われやすい単語(結びつきが強い単語)>

- ・消費税、法人税、所得税、言葉、揮発油税、出る、たばこ税、酒税
...「大きなところの「所得税」「消費税」「法人税」が出てきた他に、「揮発油税」と言葉が出てきた。さらに「酒税」「たばこ税」が出た」「読前は知らなかった「法人税」「揮発油税」について理解できた」
- ・理解、意味、できる
...「それぞれの意味も理解できていた」

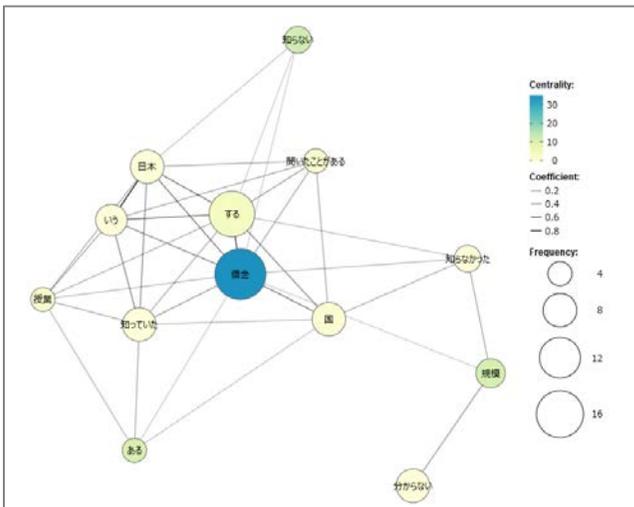
パンフレット確認前後の理解度変化(子ども) ※国の借金

- ・パンフレット読前は、国が借金していることは「知らない(知らなかった)」という方、また「知っている(聞いたことがある)」といった方のどちらもいたが、その規模までは分からない方がほとんどだった
- ・パンフレット読後は、パンフレットの「ワニの口のイラスト」から、「借金が増えていることを理解した」という意見が多かった、また借金の総額が回答できる子どもいた
- また、その背景に「社会保障」や「高齢化」が関わっていることが理解できたという意見もみられた
- P. 9、P. 10のページが「見やすい」という意見もみられた ※P. 9は「ワニの口のイラスト」が含まれているページ

「国の借金」に関する内容の理解

パンフレット読前

抽出語	出現回数
借金	19
する	15
国	8
知っていた	8
日本	8
分からない	8
いう	7
規模	6
知らない	5
知らなかった	5
ある	4
授業	4
聞いたことがある	4
金額	3
知っている	3
あまり	2
あり	2
たくさん	2
ない	2
ぬ	2



<多く出現した単語>

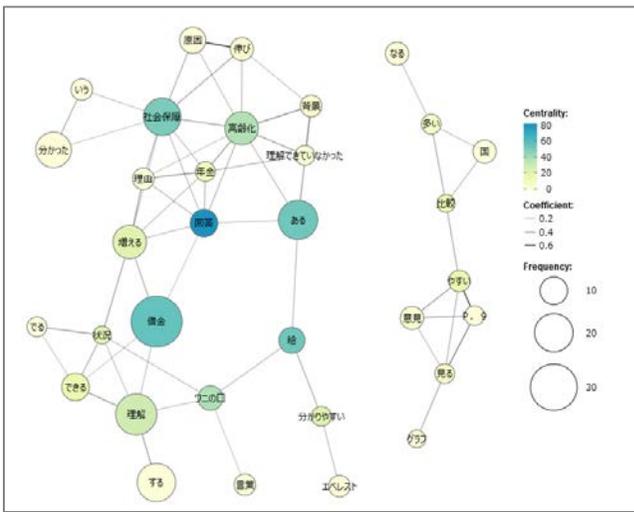
借金、国、知っていた、日本、分からない 等

<同時に使われやすい単語(結びつきが強い単語)>

- ・借金、する、国、聞いたことがある
 - …「国が借金していることは知っている」
 - 「国が借金していることは聞いたことがある」
- ・日本、知っていた、授業
 - …「日本が借金しているということは社会の授業で習っており、知っていた」
- ・規模、分からない
 - …「ただし、その規模については分からない」

パンフレット読後

抽出語	出現回数
借金	36
理解	23
ある	21
する	20
社会保障	19
分かった	17
高齢化	15
増える	15
ない	13
できる	10
回答	10
絵	9
原因	9
ワニの口	8
なる	7
意見	7
国	7
伸び	7
いう	6
やすい	6



<多く出現した単語>

借金、理解、ある、社会保障、分かった 等

<同時に使われやすい単語(結びつきが強い単語)>

- ・社会保障、高齢化、理由、原因、伸び、背景、理解できなかった
 - …「社会保障の伸びの原因が高齢化ということも分かった」
 - 「借金が増えた理由は社会保障が多くなってしまったためと回答」
 - 「その背景に高齢化があることまでは理解できていなかった」
- ・ワニの口、理解、状況、できる
 - …「ワニの口を理解し借金が増えつつけている状況を理解できていた」
- ・P. 9、意見、見る、やすい(形容詞)
 - …「P. 9、P. 10は見やすいとの意見」

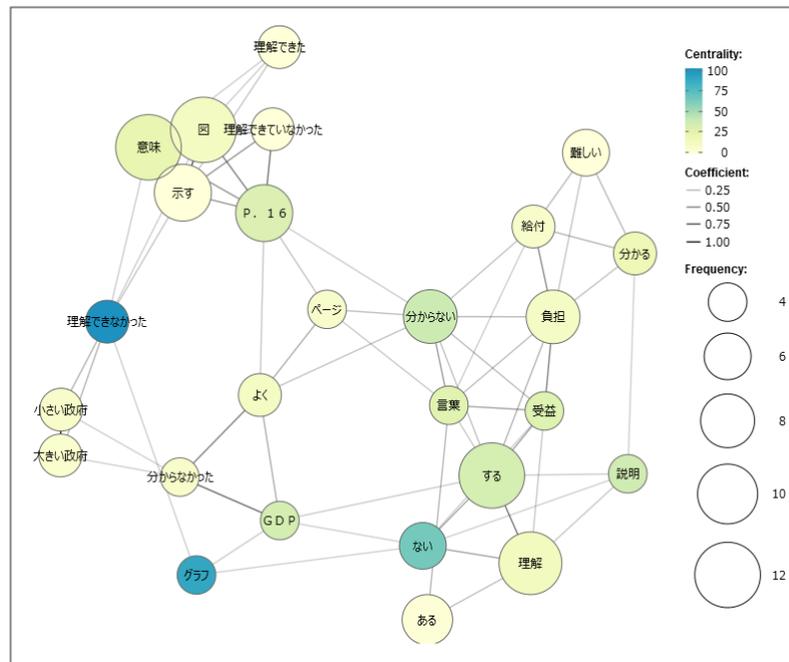
「給付と負担のバランス」に関する内容の理解(子ども)

- ・「給付と負担のバランス」については、「理解できない」「分からない」「難しい」といった否定的な意見が多かった
- そのなかで挙げた言葉は「負担」「給付」「受益」「GDP」「大きい政府」「小さい政府」と数も多かった
- ・難しい言葉が多く含まれる「P. 16(社会保障の給付と負担の関係)」は保護者からも分かりづらいという意見も多くみられた

「給付と負担のバランス」に関する内容の理解

パンフレット読後

抽出語	出現回数
理解できた	12
する	12
意味	12
図	12
理解	11
P. 16	9
示す	9
負担	8
分からない	8
ある	7
ない	6
難しい	6
よく	5
給付	5
小さい政府	5
大きい政府	5
分かる	5
理解できた	5
理解できていなかった	5
理解できなかった	5
GDP	4
グラフ	4
ページ	4
言葉	4
受益	4
説明	4
分からなかった	4



<多く出現した単語>

意味、図、理解、P. 16、示す 等

<同時に使われやすい単語(結びつきが強い単語)>

- ・する、受益、負担、給付、言葉、理解、ない(否定語)、分からない
 - …「受益と負担についてはあまり理解をしていなかった」「負担と給付が分かりにくく、相当難しい印象」
- ・P. 16、理解できていなかった、図、意味、示す
 - …「図(P. 16)の示す意味が理解できていなかった」

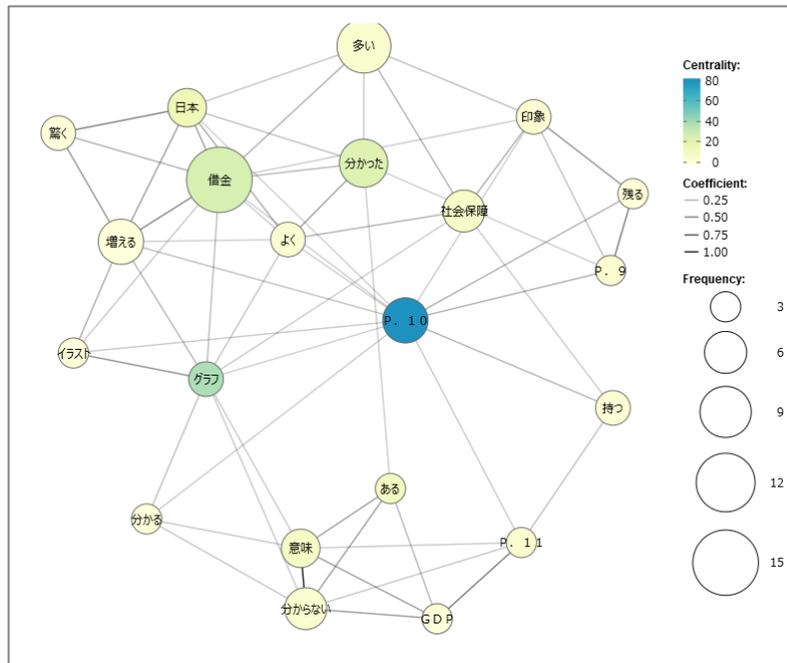
- ・大きい政府、小さい政府、理解できなかった
 - …「大きい政府、小さい政府が理解できなかった」
- ・GDP、よく、分からなかった
 - …「GDPがよく分からなかった」

関心をもった・気になった・覚えている言葉等(子ども)

- ・「関心をもった・気になった・覚えている言葉等」を聞いたところ、「日本の借金が増えていること」「P. 10(国の「借金」の状況)が見やすく内容としても記憶に残りやすい」といった借金に関する意見が多く挙げた
- ・逆に「意味が分からない言葉が出てきた」といった意見も挙げており、P. 11(「借金の国際比較」等に記載されている「GDP」という言葉がそのひとつとなっている
- ※他に「受益」「硬直化」などが挙げている

関心をもった・気になった・覚えている言葉等
パンフレット読後

抽出語	出現回数
借金	15
多い	10
分かった	8
P. 10	7
増える	7
社会保障	6
分からない	6
意味	5
日本	5
よく	4
グラフ	4
印象	4
驚く	4
持つ	4
GDP	3
P. 11	3
P. 9	3
ある	3
イラスト	3
残る	3
分かる	3



<多く出現した単語>

借金、多い、分かった、P. 10、増える 等

<同時に使われやすい単語(結びつきが強い単語)>

- ・借金、増える、日本、驚く
 - ・・・「日本の借金が増え続けているという事実に驚いた」
 - 「P. 10借金が増えていくグラフとイラストが面白かった」
- ・P. 10、P. 9、印象、残る
 - ・・・「P. 9P. 10が見やすく内容としても記憶に残りやすい」
 - 「借金の積み上げのページのエベレストや富士山が印象に残っている」
- ・GDP、P. 11、意味、分からない
 - ・・・「P. 11「GDP」が何か分からなかった」
 - 「「GDP」「受益」「硬直化」など、意味が分からない言葉があった」
- ・よく、分かった
 - ・・・「「社会保障費」が色々なことに使われていることがよく分かった。」
 - 「P. 9歳出と歳入の差が借金だと分かった」
 - 「他の国より日本の借金が多いことがよく分かった」

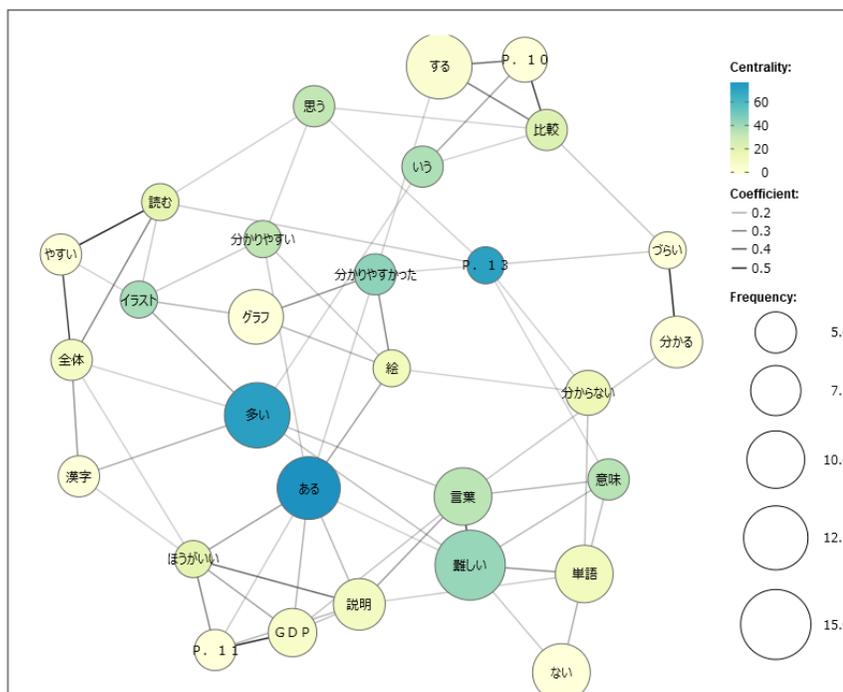
パンフレットの良かった点・悪かった点(子ども)

- ・「パンフレットの良かった点・悪かった点」を聞いたところ、「イラストや絵、グラフ等が分かりやすかった」といったポジティブな意見が多い一方で、「難しい言葉が多い」「漢字が多い」といったネガティブな意見も多く挙がった
- ・また「難しい言葉には説明を付けた方がよい」「フリガナを入れたほうがよい」というような今後の改善につながる意見も挙がった

パンフレットの良かった点・悪かった点(子ども)

パンフレット読語

抽出語	出現回数
難しい	15
する	13
多い	13
ある	12
ない	10
言葉	10
単語	10
グラフ	9
説明	8
分かる	8
GDP	7
P. 10	6
分からない	6
P. 11	5
いう	5
やすい	5
意味	5
漢字	5
思う	5
全体	5
比較	5
分かりやすかった	5
P. 13	4
づらい	4
ほうがよい	4
イラスト	4
絵	4
読む	4
分かりやすい	4



<多く出現した単語>

難しい、多い、言葉、単語、グラフ、説明、分かる 等

<同時に使われやすい単語(結びつきが強い単語)>

- ・難しい、言葉、単語、意味、ない(否定語)
 - ・・・「難しい言葉が結構あった」
 - 「歳出」「歳入」など普段使わない難しい単語などがでてきた
 - 「難しい言葉が多いので言葉の意味を説明してほしい」
- ・多い、イラスト、全体、漢字、読む、やすい(非自立語)
 - ・・・「文字も大きいしイラストやグラフが多くて読みやすかった」
 - 「全体的に漢字が多い」
- ・ある、ほうがよい、説明、GDP、P. 11
 - ・・・「P. 11 GDPの説明あったほうがよい」
- ・グラフ、絵、分かりやすかった、分かりやすい、P. 13、分からない、分かる、づらい(非自立語)
 - ・・・「絵やグラフがあったところは分かりやすかった」
 - 「P. 13 分かりやすかった」
 - 「P. 13、P. 14 よく分からない。意味が分からない」
- ・P. 10、比較、する
 - ・・・「P. 10 金額で比較するなら、身近なものが何個買えるかがいいのでは」

パンフレット確認前後の指標変化(保護者) ※日本の財政についての理解

- ・日本の財政についての理解は、平均点がパンフレット読前の1.96~2.43から読後2.83~3.13に向上 ※すべての項目で向上
- ・「税金の種類やその割合」が増加が最も高く、パンフレット確認前後で1.09ポイント増 ついで「国の借金の問題点」で1.00ポイント増
- ・男女ともにパンフレット読後の理解度が増加

日本の財政についての理解
パンフレット読前

項目	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい	平均点
1.日本の財政(N=22)	0.0	72.7	22.7	4.5	2.32
2.国の予算の使われ方(歳入)(N=23)	0.0	73.9	26.1	0.0	2.26
3.国の社会保障の内訳や割合(N=23)	4.3	91.3	4.3	0.0	2.00
4.国の社会保障以外の主な歳出(N=23)	13.0	78.3	8.7	0.0	1.96
5.国の歳入(税収や借金)(N=23)	9.1	68.2	18.2	4.5	2.18
6.税金の種類やその割合(N=23)	4.3	87.0	8.7	0.0	2.04
7.国の借金の状況(N=23)	8.7	73.9	13.0	4.3	2.13
8.国の借金が積み上がった原因(N=23)	8.7	73.9	13.0	4.3	2.13
9.国の借金の問題点(N=23)	13.0	73.9	8.7	4.3	2.04
10.高齢化による日本の財政への影響(N=23)	4.3	52.2	39.1	4.3	2.43
11.社会保障の給付と負担の関係(N=23)	4.3	82.6	13.0	0.0	2.09

理解度増加: 差分が+1.00以上

パンフレット読後

項目	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい	平均点	差分
1.日本の財政(N=23)	0.0	17.4	69.6	13.0	2.96	+0.64
2.国の予算の使われ方(歳入)(N=23)	0.0	13.0	78.3	8.7	2.96	+0.70
3.国の社会保障の内訳や割合(N=23)	0.0	21.7	69.6	8.7	2.87	+0.87
4.国の社会保障以外の主な歳出(N=23)	0.0	17.4	73.9	8.7	2.91	+0.95
5.国の歳入(税収や借金)(N=23)	0.0	8.7	69.6	21.7	3.13	+0.95
6.税金の種類やその割合(N=23)	0.0	4.3	78.3	17.4	3.13	+1.09
7.国の借金の状況(N=23)	0.0	21.7	56.5	21.7	3.00	+0.87
8.国の借金が積み上がった原因(N=23)	0.0	17.4	65.2	17.4	3.00	+0.87
9.国の借金の問題点(N=23)	0.0	17.4	60.9	21.7	3.04	+1.00
10.高齢化による日本の財政への影響(N=23)	0.0	17.4	56.5	26.1	3.09	+0.66
11.社会保障の給付と負担の関係(N=23)	0.0	30.4	56.5	13.0	2.83	+0.74

【性別】
保護者(男性)

項目	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい	平均点
1.日本の財政(N=11)	0.0	45.5	45.5	9.1	2.64
2.国の予算の使われ方(歳入)(N=12)	0.0	58.3	41.7	0.0	2.42
3.国の社会保障の内訳や割合(N=12)	0.0	91.7	8.3	0.0	2.08
4.国の社会保障以外の主な歳出(N=12)	16.7	66.7	16.7	0.0	2.00
5.国の歳入(税収や借金)(N=12)	0.0	63.6	27.3	9.1	2.45
6.税金の種類やその割合(N=12)	0.0	83.3	16.7	0.0	2.17
7.国の借金の状況(N=12)	0.0	75.0	16.7	8.3	2.33
8.国の借金が積み上がった原因(N=12)	0.0	66.7	25.0	8.3	2.42
9.国の借金の問題点(N=12)	0.0	75.0	16.7	8.3	2.33
10.高齢化による日本の財政への影響(N=12)	0.0	50.0	41.7	8.3	2.58
11.社会保障の給付と負担の関係(N=12)	0.0	91.7	8.3	0.0	2.08

保護者(女性)

項目	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい	平均点
1.日本の財政(N=11)	0.0	100.0	0.0	0.0	2.00
2.国の予算の使われ方(歳入)(N=11)	0.0	90.9	9.1	0.0	2.09
3.国の社会保障の内訳や割合(N=11)	9.1	90.9	0.0	0.0	1.91
4.国の社会保障以外の主な歳出(N=11)	9.1	90.9	0.0	0.0	1.91
5.国の歳入(税収や借金)(N=11)	18.2	72.7	9.1	0.0	1.91
6.税金の種類やその割合(N=11)	9.1	90.9	0.0	0.0	1.91
7.国の借金の状況(N=11)	18.2	72.7	9.1	0.0	1.91
8.国の借金が積み上がった原因(N=11)	18.2	81.8	0.0	0.0	1.82
9.国の借金の問題点(N=11)	27.3	72.7	0.0	0.0	1.73
10.高齢化による日本の財政への影響(N=11)	9.1	54.5	36.4	0.0	2.27
11.社会保障の給付と負担の関係(N=11)	9.1	72.7	18.2	0.0	2.09

【性別】
保護者(男性)

項目	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい	平均点	差分
1.日本の財政(N=12)	8.3	66.7	25.0	0.0	3.17	+0.53
2.国の予算の使われ方(歳入)(N=12)	0.0	83.3	16.7	0.0	3.17	+0.75
3.国の社会保障の内訳や割合(N=12)	16.7	66.7	16.7	0.0	3.00	+0.92
4.国の社会保障以外の主な歳出(N=12)	8.3	75.0	16.7	0.0	3.08	+1.08
5.国の歳入(税収や借金)(N=12)	0.0	58.3	41.7	0.0	3.42	+0.97
6.税金の種類やその割合(N=12)	0.0	75.0	25.0	0.0	3.25	+1.08
7.国の借金の状況(N=12)	8.3	58.3	33.3	0.0	3.25	+0.92
8.国の借金が積み上がった原因(N=12)	8.3	58.3	33.3	0.0	3.25	+0.83
9.国の借金の問題点(N=12)	16.7	50.0	33.3	0.0	3.17	+0.84
10.高齢化による日本の財政への影響(N=12)	16.7	41.7	41.7	0.0	3.25	+0.67
11.社会保障の給付と負担の関係(N=12)	16.7	58.3	25.0	0.0	3.08	+1.00

保護者(女性)

項目	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい	平均点	差分
1.日本の財政(N=11)	0.0	27.3	72.7	0.0	2.73	+0.73
2.国の予算の使われ方(歳入)(N=11)	0.0	27.3	72.7	0.0	2.73	+0.64
3.国の社会保障の内訳や割合(N=11)	0.0	27.3	72.7	0.0	2.73	+0.82
4.国の社会保障以外の主な歳出(N=11)	0.0	27.3	72.7	0.0	2.73	+0.82
5.国の歳入(税収や借金)(N=11)	18.2	81.8	0.0	0.0	2.82	+0.91
6.税金の種類やその割合(N=11)	9.1	81.8	9.1	0.0	3.00	+1.09
7.国の借金の状況(N=11)	0.0	36.4	54.5	9.1	2.73	+0.82
8.国の借金が積み上がった原因(N=11)	0.0	27.3	72.7	0.0	2.73	+0.91
9.国の借金の問題点(N=11)	18.2	72.7	9.1	0.0	2.91	+1.18
10.高齢化による日本の財政への影響(N=11)	18.2	72.7	9.1	0.0	2.91	+0.64
11.社会保障の給付と負担の関係(N=11)	0.0	45.5	54.5	0.0	2.55	+0.46

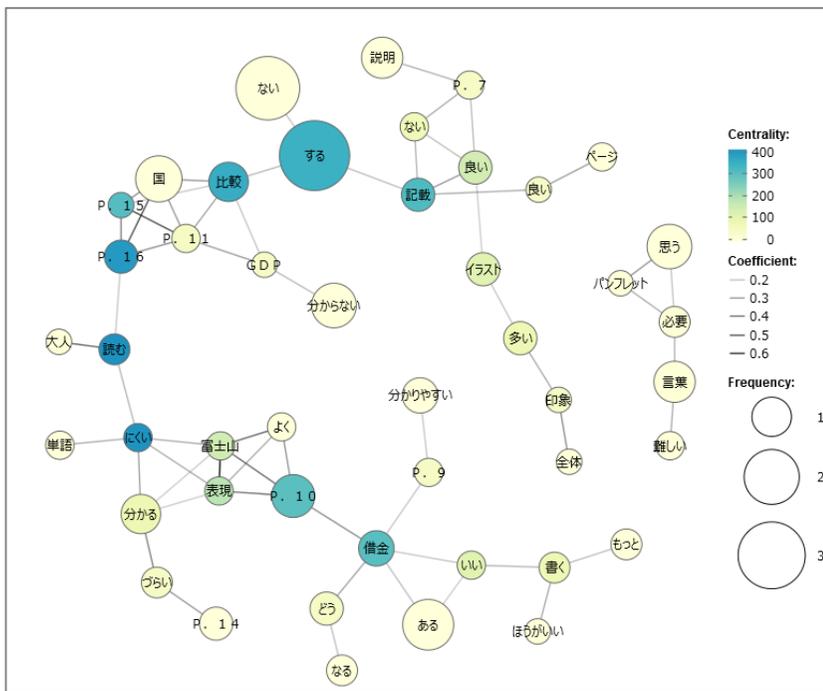
パンフレットの良かった点・悪かった点(保護者)

- ・保護者にも「パンフレットの良かった点・悪かった点」を聞いたところ、子どもと同様に「イラストや絵、グラフ等が多い」ことに対する評価が挙がった一方で、こちらも同様に「分かりづらい」「全体的に字が多い」「説明が必要」といった意見も多く挙がった
- ・以下のような今後の改善につながる意見も多かった
 分かりやすい言葉がもっと必要／漢字にはルビを振ってほしい／身近な国と比較してはどうか(P. 11等)／なぜGDPで比較するのか分からない。借金の金額で比較してはどうか(P. 11)」

パンフレットの良かった点・悪かった点(保護者)

パンフレット読語

抽出語	出現回数
する	33
ない	27
ある	17
国	14
思う	13
分からない	13
P. 10	12
言葉	11
説明	11
比較	10
分かる	10
借金	8
分かりやすい	8
P. 14	7
P. 16	7
どう	7
イラスト	7
記載	7
多い	7
良い	7
づらい	6
なる	6
もっと	6
書く	6
読む	6
必要	6
P. 11	5
P. 7	5
P. 9	5
いい	5
ない	5
にくい	5
よく	5
ページ	5
子ども	5
単語	5
難しい	5
表現	5
富士山	5



<多く出現した単語>

国、思う、分からない、P. 10、言葉、説明 等

<同時に使われやすい単語(結びつきが強い単語)>

- ・国、比較、P. 11、P. 15、P. 16、GDP、分からない
 …「P. 11、P. 15、P. 16 中国や韓国など身近な国と比較してはどうか」
 「P. 11 なぜGDPで比較するのか分からない。借金の金額で比較してはどうか」
- ・必要、思う、パンフレット、言葉、難しい
 …「このようなパンフレットが必要だと思う」
 「よりきめ細かな説明や簡単な言葉に置き換える等々の対応が必要だと思う」
- ・P. 10、富士山、表現、分かる、にくい(非自立語)、づらい(非自立語)、P. 14
 …「P. 10 富士山の何倍、エベレストの何倍の表現はよく分からなかった」
 「P. 14 文字ばかりで分かりづらい、大人でも分からないと思う」
- ・イラスト、多い、良い、全体、印象
 …「全体的にイラストがたくさんあるのはよかった」
- ・P. 7、記載、説明、ない(否定語)
 …「P. 7 国債自体の説明がない」
- ・P. 9、借金、分かりやすい
 …「P. 9、P. 10 借金の累積を絵で表現することは分かりやすい」

日本の財政に関する興味・関心(子ども・保護者)

- ・日本の財政に関する興味・関心は、子どもは平均点がパンフレット読前の2.61から読後3.74に向上(1.13ポイント増) ※すべての学年で1ポイント以上向上
- ・保護者は平均点がパンフレット読前の4.00から読後4.17に向上(0.17ポイント増)
- ・保護者(男性)は平均点がパンフレット読前の4.25から読後4.58に向上(0.33ポイント増)
- ・保護者(女性)では平均点はパンフレット確認前後で変わらないものの、「興味がない(1点)」「興味がない(2点)」という回答はなくなった

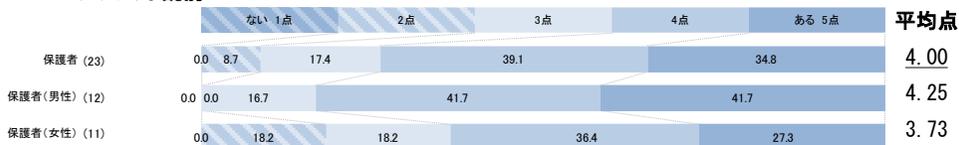
日本の財政に関する興味・関心(子ども)
パンフレット読前



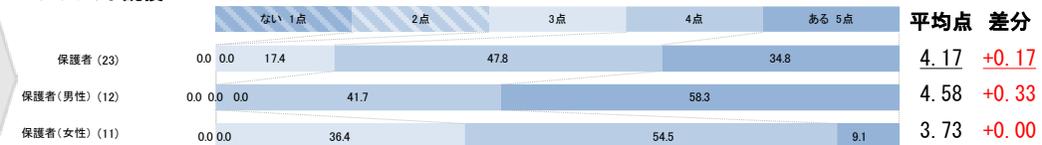
パンフレット読後



日本の財政に関する興味・関心(保護者)
パンフレット読前



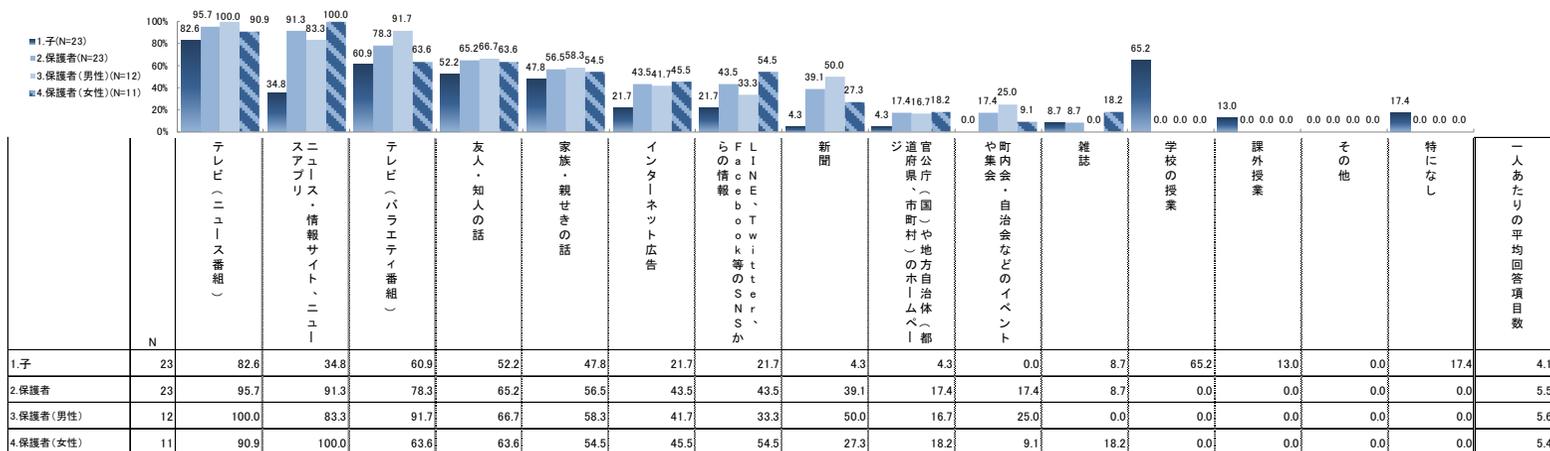
パンフレット読後



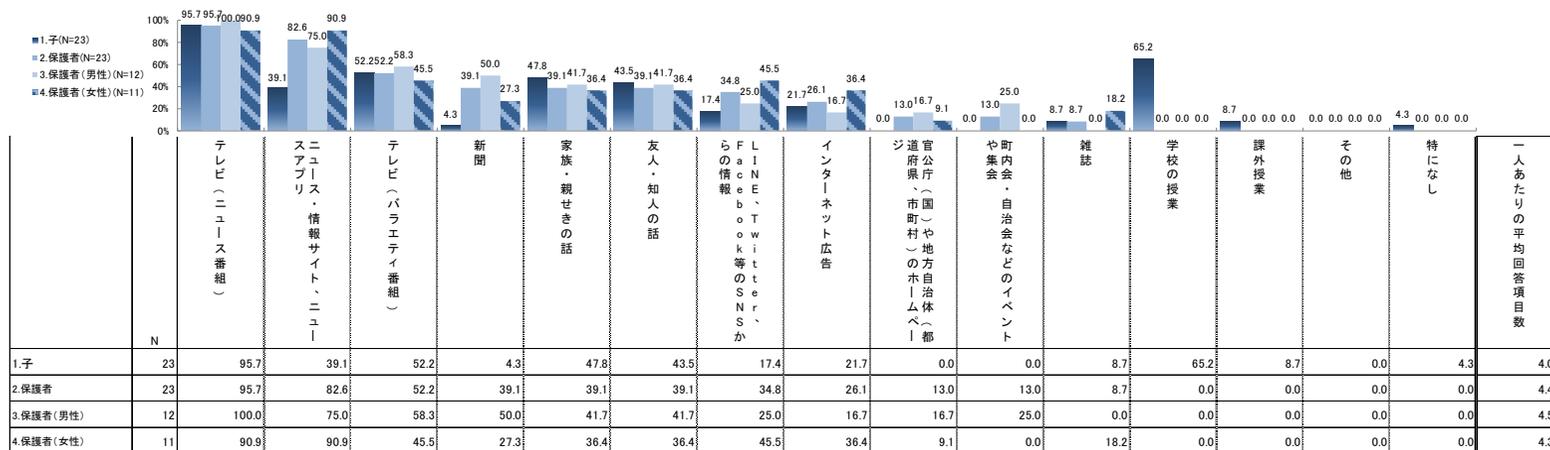
日頃の情報源および財政、政治等の情報源

- ・日頃の情報源は、子どもでは「テレビ(ニュース番組)」の8割に続き、「学校の授業(65%)」が情報源として割合が高く、ついで「テレビ(バラエティ番組)」「友人・知人の話」「家族・親戚の話」の5, 6割
- 一方、保護者は「テレビ(ニュース番組)」や「ニュース・情報サイト・ニュースアプリ」が9割以上、「テレビ(バラエティ番組)」が8割以上で情報源として活用
- ・財政、政治等の情報源は、子どもでは「テレビ(ニュース番組)」の96%に続き、「学校の授業(65%)」が高く、ついで、「テレビ(バラエティ番組)」「家族・親戚の話」「友人・知人の話」が4, 5割
- 一方、保護者は「テレビ(ニュース番組)」が9割以上、「ニュース・情報サイト・ニュースアプリ」が8割以上で情報源となっているが、つづ「テレビ(バラエティ番組)」では5割と割合にひらきがある

日頃の情報源



財政、政治等の情報源



会場調査結果のまとめ

【全体結果】

パンフレット確認前後の指標変化(子ども)

財政用語の認知および理解 ～パンフレットを読むことで知識レベルが向上～

財政 パンフレット読前：3.35 ⇒ 読後：4.78 平均点が1.43ポイント増

歳出 パンフレット読前：3.52 ⇒ 読後：4.96 平均点が1.44ポイント増

歳入 パンフレット読前：3.91 ⇒ 読後：5.00 平均点が1.09ポイント増

国の借金 パンフレット読前：3.13 ⇒ 読後：4.61 平均点が1.48ポイント増

※「全くわからない(1点)」「よくわからない(2点)」「まあわからない(3点)」「よくわかる(4点)」「まあわかる(5点)」「かなりわかる(6点)」

パンフレット確認前後の指標変化(保護者)

日本の財政についての理解 ～パンフレットを読むことで知識レベルが向上～

11項目の平均値 パンフレット読前：1.96(最低値)～2.43(最高値) ⇒ 読後：2.83(最低値)～3.13(最高値)

※「知らない(1点)」「聞いたことがある程度(2点)」「まあ知っている(3点)」「説明できるくらい詳しい(4点)」

平均点の増加度合いが大きい2項目は以下のとおり ※平均点が1ポイント以上増加

税金の種類やその割合 パンフレット読前：2.04 ⇒ 読後：3.13 平均点が1.09ポイント増

国の借金の問題点 パンフレット読前：2.04 ⇒ 読後：3.04 平均点が1.00ポイント増

日本の財政に関する興味・関心(子ども・保護者) ※パンフレット確認前後

日本の財政に関する興味・関心 ～パンフレットを読むことで興味・関心レベルが向上～

子ども パンフレット読前：2.61 ⇒ 読後：3.74 平均点が1.13ポイント増

保護者 パンフレット読前：4.00 ⇒ 読後：4.17 平均点が0.17ポイント増

※「興味がない(1点)」「(2点)」「(3点)」「(4点)」「興味がある(5点)」

【対象者からの意見】

パンフレット確認前後の理解度変化(子ども)

財政について

パンフレット読前：「学校では習っていない」「(財政に関して)ピンとくる言葉は無い」といった回答や、「国のお金のこと」といった回答が多かった

パンフレット読後：財政のことが「分かった」「理解した」という回答が多くみられ、対象者の口から「公共サービス」や「医療」「教育」等の単語も出てきた

歳出について

パンフレット読前：「歳出」という言葉は聞いたことはない一方、「予算」という言葉はニュースで聞いたことがあるといった回答が多かった

パンフレット読後：「社会保障」という言葉、また「社会保障費に多くのお金が使われていること」が分かったという回答が多かった

会場調査結果のまとめ

歳入について

パンフレット読前：「歳出」と同様に「歳入」という言葉は知らない」一方、「税金」という言葉は知っているといった回答が多かった

パンフレット読後：多くの税の種類が答えられるようになり、ひとによってはそれぞれの意味まで理解できるようになった

国の借金について

パンフレット読前：国が借金していることは「知らない(知らなかった)」という方、また「知っている(聞いたことがある)」といった方のどちらもいたが、その規模までは分からない方がほとんどだった

パンフレット読後：パンフレットの「ワコの口のイラスト」から、「借金が増えていることを理解した」という意見が多かった
また、借金の総額が回答できる子どももいた

パンフレット内容に対する意見(子ども)

「給付と負担のバランス」に関する内容の理解 ～「理解できない」「分からない」「難しい」といった否定的な意見が多い～

「負担」「給付」「受益」「GDP」「大きい政府」「小さい政府」等の言葉が難しい・分からないとの意見が多かった

関心をもった・気になった・覚えている言葉等 ～借金に関する意見が多い～

「日本の借金が増えていること」「P. 10(国の「借金」の状況)が見やすく内容としても記憶に残りやすい」といった借金に関する意見が多く挙げた

パンフレットの良かった点・悪かった点

良かった点：イラストや絵、グラフ等が分かりやすかった

悪かった点：難しい言葉が多い／漢字が多い

改善アイデア等：難しい言葉が多いので言葉の意味を説明してほしい／絵をもっと入れてほしい／フリガナを入れたほうがいい

パンフレット内容に対する意見(保護者)

パンフレットの良かった点・悪かった点

良かった点：このようなパンフレットが必要だと思う／全体的にイラストがたくさんあるのはよかった

悪かった点：分かりづらい／全体的に字が多い

改善アイデア等：漢字にはルビを振ってほしい／難しい言葉は、簡単な言葉に変えるか、説明を書くといいのでは／
もっと簡単に書いてほしい。※「受益」「償還費」

その他：最初に難しい言葉が出てきてしまうと、後に続かなくなってしまうのではないかと／最初ページに伝えたいことのサマリーを作ってはどうか／
もっとこの借金がどのくらい大変なことなのか分かるような比較があったほうが良い／

富士山の何倍、エベレストの何倍の表現はよく分からなかった。身近なものを例にしたほうがもっと分かりやすかった

財政情報の理解のために

よりきめ細かな説明や簡単な言葉への置き換え

「財政学習教材」として用いられているパンフレット(日本の「財政」を考えよう)について、今回の調査ではターゲットとなっている「子ども」、さらにはその「保護者」を問わず理解度の向上がみられた。

とくに絵やイラスト、グラフが多く挿入されていたことに対して、読みやすさや分かりやすさと共に多くの評価の意見が得られた。

一方、「言葉が難しい」「説明がほしい」といった意見は「子ども」だけでなく「保護者」からも多く挙がっており、さらなる言葉の説明や伝え方の改善が必要であることが明確になった。

分からない言葉が存在することで、そのページだけでなく、以降のページへの興味や関心が減少してしまう恐れがあることから、**よりきめ細かな説明や簡単な言葉に置き換える等の対応**が求められる。

指標項目結果(今回結果)

- ・財政関連の用語等の理解度について、依然として『非理解』層が『理解』層を上回っている状況
- ・現在および将来の日本の財政には不安感を抱いている割合が高い
- ・税や保険料に対して負担感を感じている割合が高い
- ・払う税に対して、公共サービスを受けていないと感じている割合が高く、そのことが「税や保険料を今より多く払いたくない」と回答する理由につながっていると推測される

No.	主要項目	評価内容 (選択肢)	回答割合	
Q10	財政に関する言葉の理解度 ※20項目平均	『理解』層 (「まあ知っている」+「詳しい」)	41.0%	言葉の理解度は4段階で聴取 非理解層が約6割
		『非理解』層 (「知らない」+「聞いたことがある程度」)	59.0%	
Q24	財政と社保に関する文章の理解度 ※10項目平均	『理解』層 (「よく知っている」)	19.1%	文章の理解度は3段階で聴取 非理解層が8割を超える
		『非理解』層 (「知らない」+「聞いたことがある」)	80.9%	
Q11	現在の日本の財政状況について	『安心』層(「とても」+「安心」+「やや」)	6.6%	いずれも7段階で聴取 『不安』層は8割弱
		『不安』層(「やや」+「不安」+「とても」)	77.3%	
Q13	10年後の日本の財政について	『今より良い』層(「とても」+「良い」+「やや」)	4.7%	『今より厳しい』層は約8割
		『今より厳しい』層(「やや」+「厳しい」+「とても」)	79.0%	
Q17	税と保険料の負担度 ※7項目平均(「8.相続税」「9.酒税」「10.たばこ税」を除く)	『(生活を)圧迫しない』層 (「あまり」+「圧迫しない」+「全く」)	21.7%	7段階で聴取 『圧迫』層が7割超
		『(生活を)圧迫』する層 (「とても」+「圧迫」+「まあ」)	71.3%	
Q26	社保に関わる税や保険料について	社会保障に使われるとはいえ、私は税や保険料を今より多く払いたくない	38.4%	
Q22	払う税と受ける公共サービスのバランス	『払う税に比べて、公共サービスを受けている』層 (「とても」+「受けている」+「まあ」)	22.3%	7段階で聴取 『払う税に反して、公共サービスを受けていない』層が6割超
		『払う税に比べて、公共サービスを受けていない』層 (「あまり」+「受けていない」+「全く」)	62.7%	

指標項目結果(時系列結果)

- ・財政関連の用語等の理解度は、依然として「言葉自体を知らない」層が2割を占めている
- ・現在および将来の日本の財政について、不安感を抱いている割合が高い
- ・税や保険料への負担感は、圧迫していると感じている割合は高いものの、社会保障に関わる税や保険料を今より多く払いたくないと感じている割合は年々減少している
- ・払う税に対して、公共サービスを受けていないと感じている割合は減少傾向にある

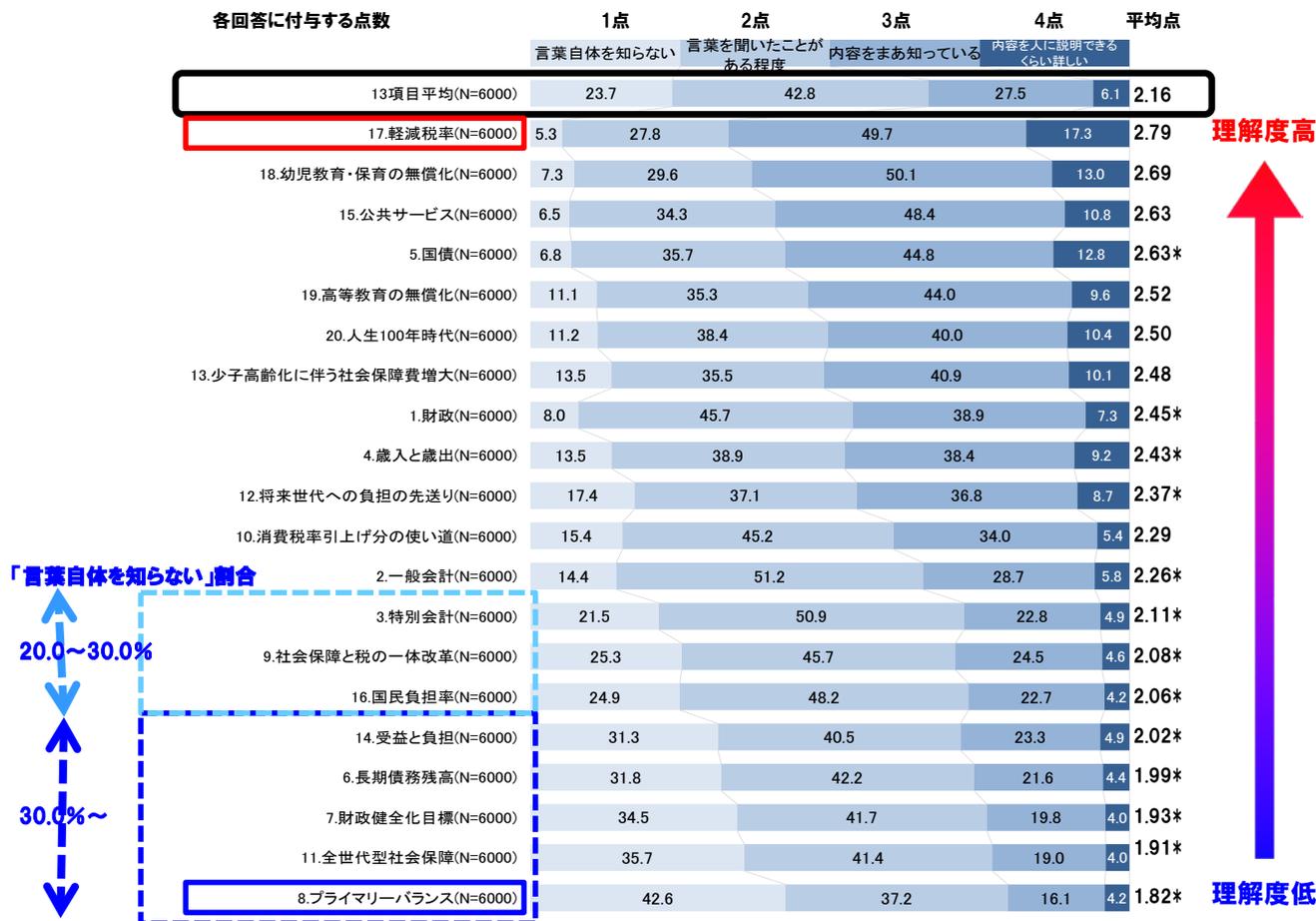
No.	主要項目	評価内容 (選択肢)	【H30年】	【H31年】	【R2年】
Q10	財政に関する言葉の理解度 ※13項目平均(H30年・H31年から差替えた用語は除く)	言葉自体を知らない	23.1%	24.8%	23.7%
Q24	財政と社保に関する文章の理解度 ※6項目平均(H30年・H31年から替えた用語は除く)	知らない／聞いたことが無い	29.9%	30.3%	29.7%
Q11	現在の日本の財政状況について	『安心』層	7.4%	6.4%	6.6%
		どちらともいえない	18.6%	17.6%	16.1%
		『不安』層	74.0%	76.0%	77.3%
Q13	10年後の日本の財政について	『今より良い』層	7.6%	6.7%	4.7%
		今と変わらない	21.4%	18.5%	16.4%
		『今より厳しい』層	71.0%	74.8%	78.9%
Q17	税と保険料の負担度 ※7項目平均(「8.相続税」「9.酒税」「10.たばこ税」を除く)	とても圧迫する	16.3%	16.8%	15.9%
		『圧迫』層	70.8%	71.7%	71.3%
Q26	社保に関わる税や保険料について	社会保障に使われるとはいえ、私は税や保険料を今より多く払いたくない	41.2%	40.9%	38.4%
Q22	払う税と受ける公共サービスのバランス	『払う税に反して、公共サービスを受けていない』層	67.0%	62.9%	62.7%

財政に関する用語の理解度(用語別・性年代別)

- ・財政関連の用語の理解度(平均)は「人に説明できるくらい詳しい」が6%、「内容をまあ知っている」が3割、「言葉を聞いたことがある程度(4割)」「言葉自体を知らない(2割)」
- ・最も理解度が高い用語は「軽減税率」で、「人に説明できるくらい詳しい」が17%、「内容をまあ知っている」が50%とその合計は約7割
- ・最も理解度が低い用語は「プライマリーバランス」で、「言葉自体を知らない(約4割)」と「言葉を聞いたことがある程度(約4割)」でその合計は約8割
- ・「言葉を知らない」割合が3割を超える用語は「受益と負担」「長期債務残高」「財政健全化目標」「全世代型社会保障」。4割を超えるのは「プライマリーバランス」

【用語別】財政に関する用語の理解度 ※13項目の平均点が高い順(平均点に*がある項目は継続実施の用語)

【性年代】財政に関する用語の理解度 ※20項目平均



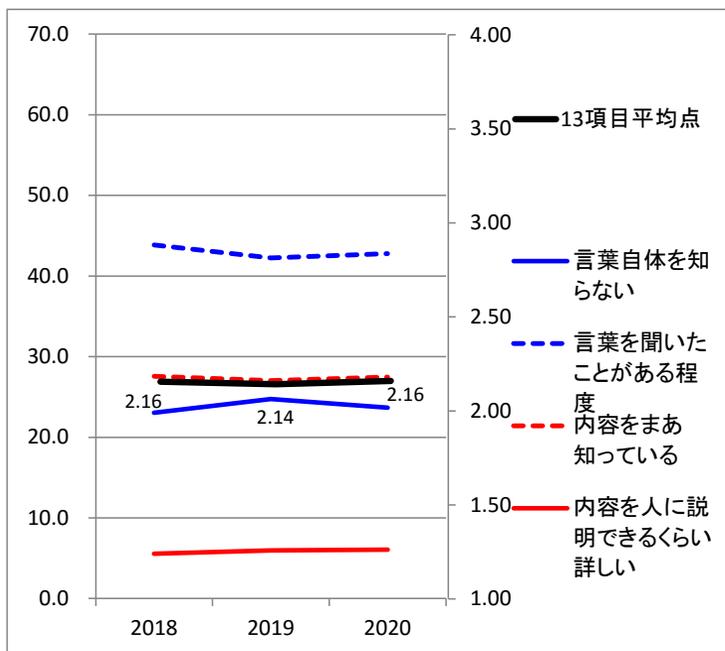
	男性	女性	
18-24歳	2.17	1.91	
25-34歳	2.20	1.84	理解度低
35-44歳	2.28	1.87	
45-54歳	2.38	2.04	
55-64歳	2.52	2.14	
65-74歳	2.61	2.25	理解度高

財政に関する用語の理解度(時系列結果)

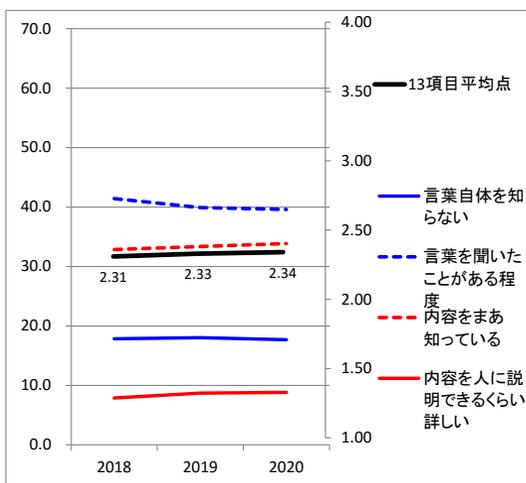
- ・財政関連の用語の理解度(平均)、「言葉自体を知らない」割合ともに、全体では変わらず
- ・性別で見ると、男性でわずかに増加
- ・「言葉自体を知らない」割合を年齢・性別で見ると、増加から減少に転じている層が多い

【時系列】財政に関する用語の理解度 ※13項目平均(継続実施項目)

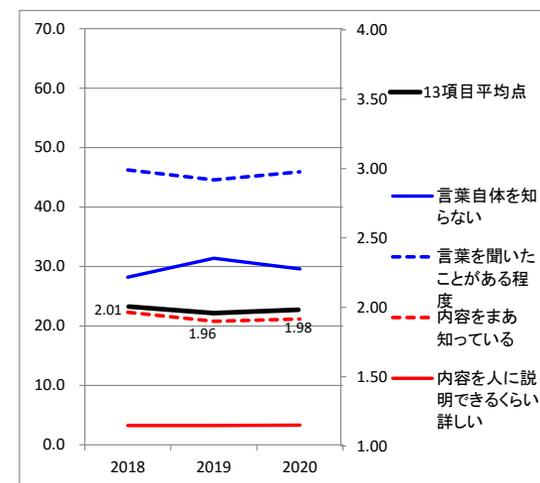
全体



男性



女性



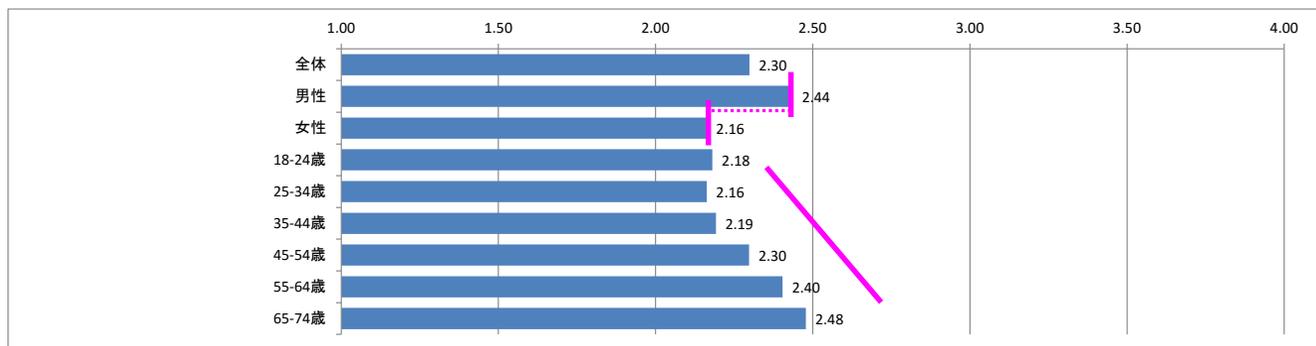
【時系列】財政に関する用語の理解度「言葉自体を知らない」※13項目平均(継続実施項目)

	男性				女性			
	2018年	2019年	2020年	言葉自体を知らない	2018年	2019年	2020年	言葉自体を知らない
18-24歳	27.7	28.4	31.0	増加傾向	45.2	45.5	38.4	増加から減少
25-34歳	25.1	26.9	25.1	増加から減少	42.5	44.6	42.3	増加から減少
35-44歳	21.7	21.7	20.4	昨年より減少	33.5	35.8	37.2	増加傾向
45-54歳	17.3	14.8	16.7	減少から増加	26.8	30.6	27.5	増加から減少
55-64歳	11.6	12.8	12.5	増加から減少	18.1	22.8	20.8	増加から減少
65-74歳	9.0	9.3	7.4	増加から減少	15.0	19.3	18.4	増加から減少

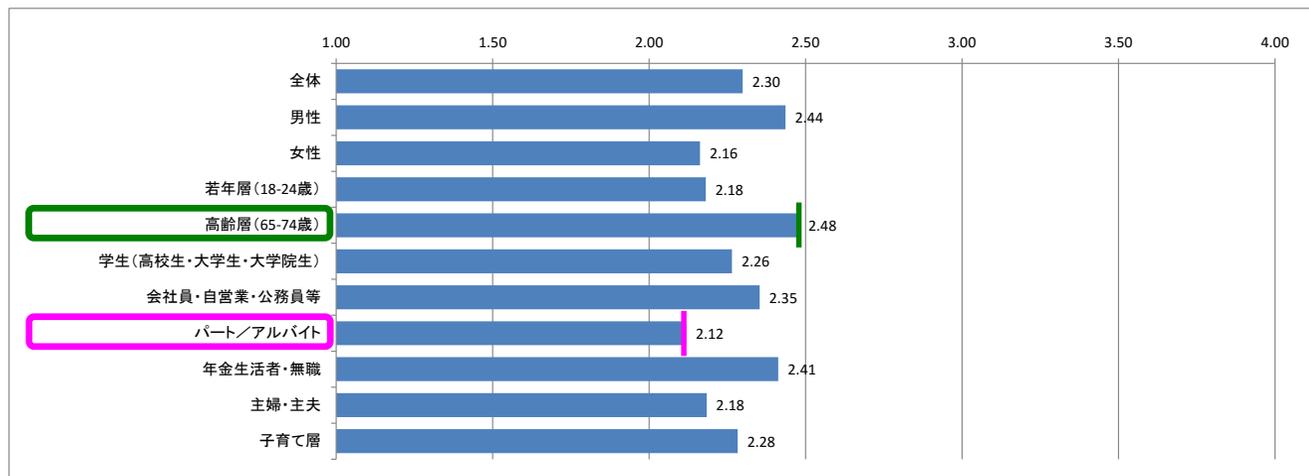
財政に関する用語の理解度(属性別結果)

- ・財政関連の用語の理解度(平均)は若年層ほど理解度が低く、さらには女性で低い
- ・ライフスタイル属性別では、「高齢層(65-74歳)」で他の属性に比べ理解度が高い
また、「高齢層(65-74歳)」より「年金生活者・無職」の方が理解度が低い「若年層(18-24歳)」より「学生(高校生・大学生・大学院生)」の方が理解度が高い
- ・「パート/アルバイト」の理解度は最も低い

【性別・年代】財政に関する用語の理解度 ※全20項目平均



【ライフスタイル属性】財政に関する用語の理解度 ※全20項目平均



財政に関する用語の理解度(属性別結果) ※ライフスタイル属性

- ・財政に関する用語の理解度は、「主婦・主夫」「子育て層」を除くすべての層で「軽減税率」が最も高い 「主婦・主夫」「子育て層」では2番目 「主婦・主夫」「子育て層」で、「幼児教育・保育の無償化」が最も高い 全ての層で、上位10項目は同じ。
- ・すべての層で「プライマリバランス」の「言葉を知らない」割合が最も高い 「若年層(18-24歳)」「学生(高校生・大学生・大学院生)」「子育て層」を除く全ての層で、上位10項目は同じ ※上位9項目の用語はすべての層で同じ

【ライフスタイル属性】財政に関する用語の理解度

上位10項目(平均点)

	全体	男性	女性	若年層 (18-24歳)	高齢層 (65-74歳)	学生	会社員・自営業・公務員等	パート/アルバイト	年金生活者・無職	主婦・主夫	子育て層
第1位	軽減税率 2.79	軽減税率 2.85	軽減税率 2.73	軽減税率 2.84	軽減税率 2.82	軽減税率 2.93	軽減税率 2.84	軽減税率 2.68	軽減税率 2.78	幼児教育無償化 2.78	幼児教育無償化 2.91
第2位	幼児教育無償化 2.69	国債 2.77	幼児教育無償化 2.72	公共サービス 2.61	国債 2.81	国債 2.72	幼児教育無償化 2.69	幼児教育無償化 2.66	国債 2.76	軽減税率 2.68	軽減税率 2.79
第3位	公共サービス 2.68	公共サービス 2.59	公共サービス 2.56	幼児教育無償化 2.56	幼児教育無償化 2.75	公共サービス 2.65	国債 2.68	公共サービス 2.56	公共サービス 2.67	公共サービス 2.60	公共サービス 2.65
第4位	国債 2.63	幼児教育無償化 2.66	国債 2.50	国債 2.53	公共サービス 2.71	幼児教育無償化 2.58	公共サービス 2.66	国債 2.45	幼児教育無償化 2.62	国債 2.51	国債 2.59
第5位	高等教育無償化 2.52	高齢化→社保増大 2.47	高等教育無償化 2.47	人生100年時代 2.46	歳入と歳出 2.70	高等教育無償化 2.51	高等教育無償化 2.55	高等教育無償化 2.43	歳入と歳出 2.62	高等教育無償化 2.48	人生100年時代 2.59
第6位	人生100年時代 2.50	高等教育無償化 2.60	財政 2.46	高齢化→社保増大 2.44	人生100年時代 2.65	財政 2.49	人生100年時代 2.54	財政 2.37	高等教育無償化 2.48	高齢化→社保増大 2.48	人生100年時代 2.48
第7位	高齢化→社保増大 2.48	高等教育無償化 2.58	高齢化→社保増大 2.35	財政 2.64	人生100年時代 2.63	高齢化→社保増大 2.47	人生100年時代 2.52	財政 2.30	財政 2.57	高齢化→社保増大 2.35	財政 2.43
第8位	財政 2.45	財政 2.56	歳入と歳出 2.37	歳入と歳出 2.29	歳入と歳出 2.29	歳入と歳出 2.45	歳入と歳出 2.49	歳入と歳出 2.19	人生100年時代 2.53	歳入と歳出 2.30	歳入と歳出 2.36
第9位	歳入と歳出 2.43	負担の先送り 2.27	歳入と歳出 2.27	歳入と歳出 2.29	歳入と歳出 2.29	歳入と歳出 2.45	歳入と歳出 2.49	歳入と歳出 2.19	人生100年時代 2.53	歳入と歳出 2.30	歳入と歳出 2.36
第10位	負担の先送り 2.37	負担の先送り 2.53	負担の先送り 2.21	負担の先送り 2.20	負担の先送り 2.58	負担の先送り 2.33	負担の先送り 2.44	負担の先送り 2.15	負担の先送り 2.50	負担の先送り 2.23	負担の先送り 2.35

【ライフスタイル属性】財政に関する用語の理解度

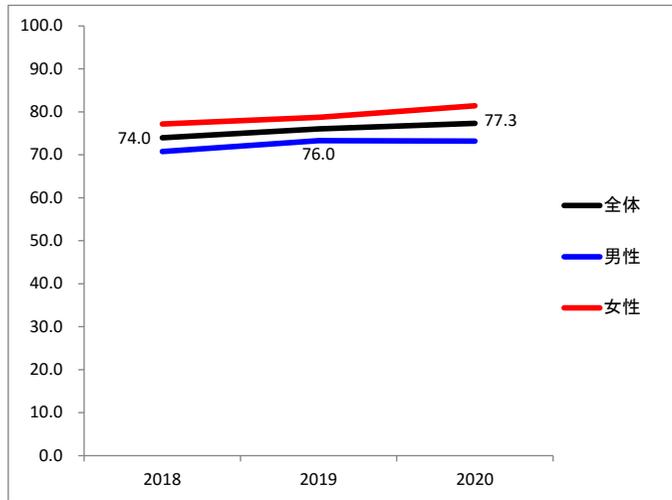
上位10項目(言葉自体を知らない)

	全体	男性	女性	若年層 (18-24歳)	高齢層 (65-74歳)	学生	会社員・自営業・公務員等	パート/アルバイト	年金生活者・無職	主婦・主夫	子育て層
第1位	プライマリバランス 42.6	プライマリバランス 29.7	プライマリバランス 55.3	プライマリバランス 50.2	プライマリバランス 30.6	プライマリバランス 46.1	プライマリバランス 38.4	プライマリバランス 53.7	プライマリバランス 30.9	プライマリバランス 55.6	プライマリバランス 48.0
第2位	全世代型社保 35.7	全世代型社保 27.6	財政健全化 45.3	財政健全化 47.0	全世代型社保 23.3	財政健全化 41.7	全世代型社保 32.7	財政健全化 46.4	全世代型社保 28.9	全世代型社保 43.6	財政健全化 39.8
第3位	財政健全化 34.5	長期債務残高 23.8	全世代型社保 43.8	長期債務残高 44.8	長期債務残高 19.4	財政健全化 38.7	全世代型社保 31.1	長期債務残高 45.0	財政健全化 24.8	財政健全化 42.1	全世代型社保 38.4
第4位	長期債務残高 31.8	財政健全化 23.5	長期債務残高 39.8	受益と負担 44.3	財政健全化 19.0	受益と負担 38.0	受益と負担 28.8	受益と負担 41.3	財政健全化 24.3	長期債務残高 38.8	長期債務残高 35.0
第5位	受益と負担 31.3	受益と負担 23.4	受益と負担 39.2	全世代型社保 42.7	受益と負担 16.9	全世代型社保 36.9	長期債務残高 28.6	長期債務残高 40.9	国民負担率 23.2	受益と負担 37.3	受益と負担 34.3
第6位	税の一体改革 25.3	国民負担率 21.7	税の一体改革 32.9	特別会計 41.6	国民負担率 16.8	特別会計 35.8	国民負担率 23.2	税の一体改革 35.0	受益と負担 21.7	税の一体改革 31.0	税の一体改革 26.1
第7位	国民負担率 24.9	税の一体改革 17.6	国民負担率 28.2	税の一体改革 39.4	税の一体改革 13.9	税の一体改革 33.9	国民負担率 22.1	国民負担率 29.2	税の一体改革 18.4	国民負担率 28.1	国民負担率 25.9
第8位	特別会計 21.5	特別会計 15.5	特別会計 27.3	国民負担率 31.7	負担の先送り 7.6	一般会計 27.7	特別会計 19.7	特別会計 28.7	負担の先送り 13.2	特別会計 24.9	特別会計 24.5
第9位	負担の先送り 17.4	負担の先送り 13.0	負担の先送り 21.8	一般会計 29.6	特別会計 7.5	国民負担率 26.6	負担の先送り 15.3	増税分の使途 23.9	増税分の使途 12.5	負担の先送り 20.3	負担の先送り 18.2
第10位	増税分の使途 15.4	増税分の使途 12.7	一般会計 18.0	負担の先送り 29.4	増税分の使途 6.8	負担の先送り 24.0	増税分の使途 13.8	増税分の使途 20.8	特別会計 11.9	増税分の使途 16.2	一般会計 15.8

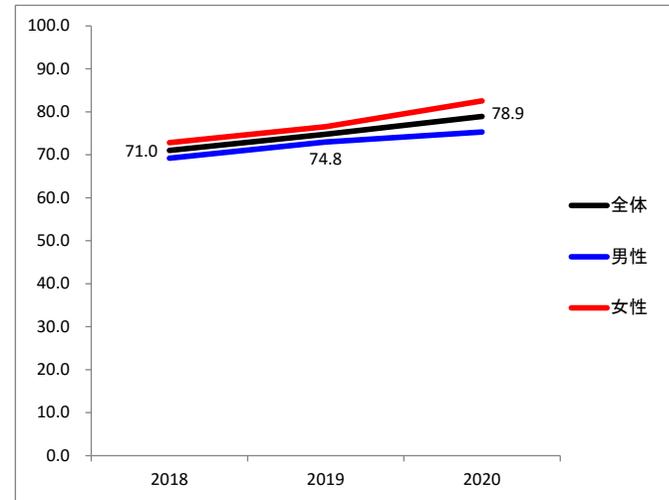
日本の財政への不安度(時系列結果)

- ・現在の財政状況は、「不安」層がやや増加傾向
男性では年代による「不安」層の幅が広く、年代が上がるにつれ「不安」層の割合が高い 女性では若年層ほど「不安」層の増加傾向が顕著
- ・10年後の財政状況は、「悪化予想」層が増加傾向
こちらも男性で年代が上がるにつれ割合も上がる 女性では「若年層(18-24歳)」の「悪化予想」層が昨年から急増

【時系列】現在の日本の財政状況 ※各項目「とても不安」+「不安」+「やや不安」の合計

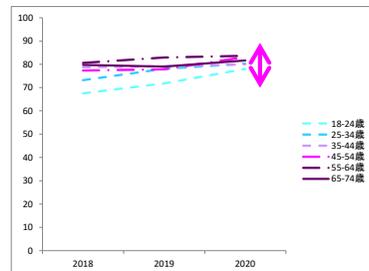
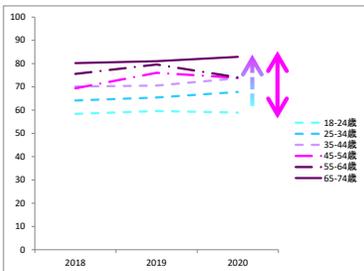


【時系列】10年後の日本の財政 ※各項目「とても厳しい状態」+「厳しい状態」+「やや厳しい状態」の合計



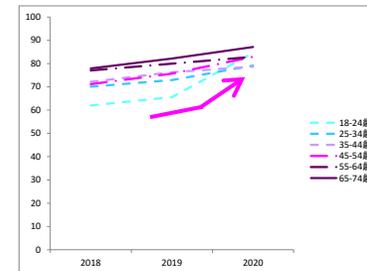
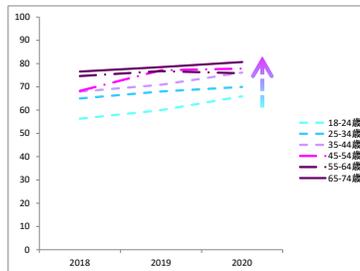
男性

女性



男性

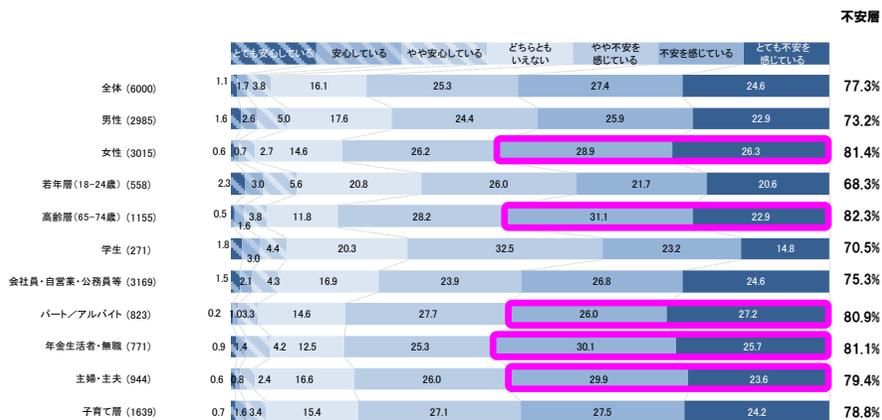
女性



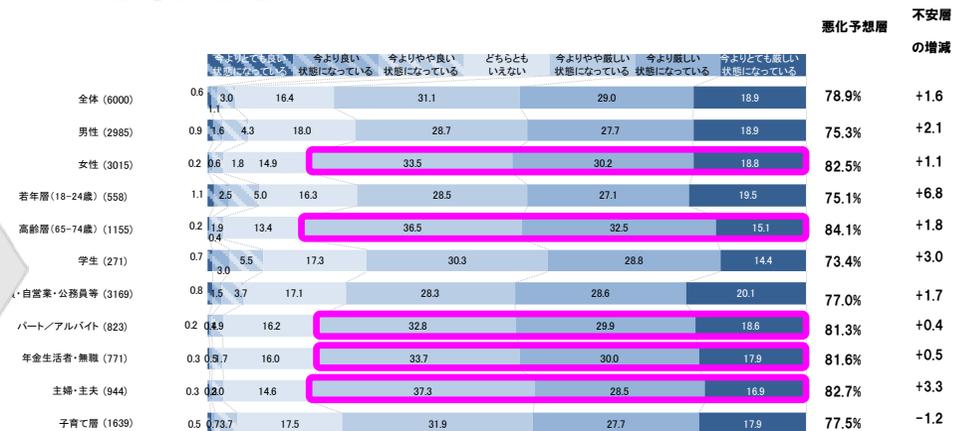
日本の財政への不安度(属性別結果)

- ・日本の財政への不安度および将来の悪化予想は「女性」「高齢層(65-74歳)」「パート/アルバイト」「年金生活者・無職」「主婦・主夫」で割合が高い
- ・「学生」「若年層(18-24歳)」では他の属性に比べ「不安」層および「悪化予想」層の割合が低い
- ・10年後の「悪化予想層」と現在の再生に対する「不安」層の差は大きい
- ・「子育て層」における将来の日本の財政に対する「悪化予想」層の割合は、現在の財政に対する「不安」層の割合より低い(現在の不安の方が大きい)

【ライフスタイル属性】現在の日本の財政状況



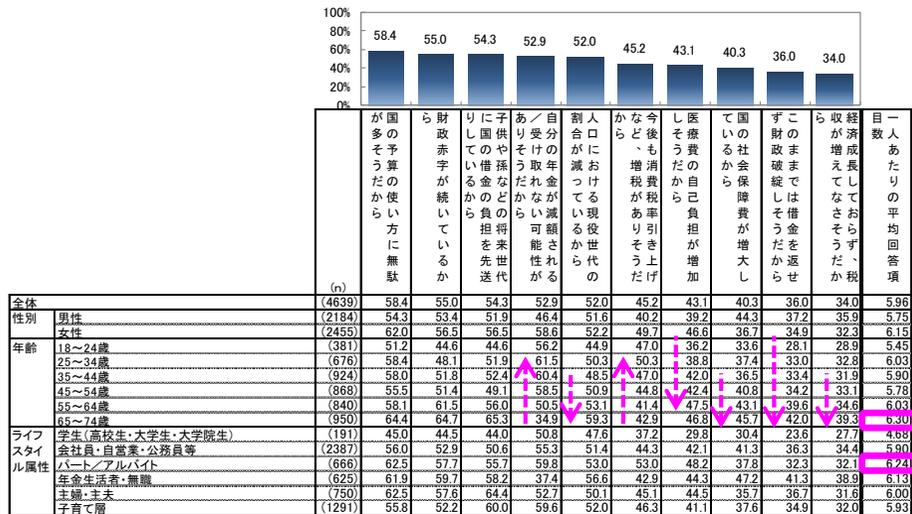
【ライフスタイル属性】10年後の日本の財政



日本の財政への不安度(理由)

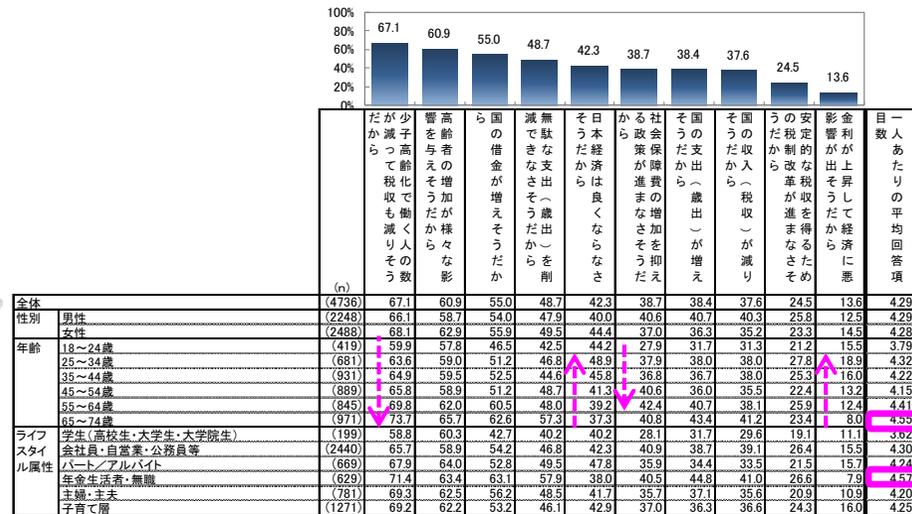
- ・現在の財政状況では、「高齢層(65-74歳)」「パート/アルバイト」で、他の属性より多くの不安要素を持っている
- ・10年後の財政状況では、「高齢層(65-74歳)」「年金生活者・無職」では、他の属性より多くの不安要素を持っている

【属性別】現在の日本の財政状況(不安の理由) ※上位10項目



※n=「やや不安を感じている」「不安を感じている」「とても不安を感じている」を選択の人

【属性別】10年後の日本の財政(悪化予想の理由) ※上位10項目

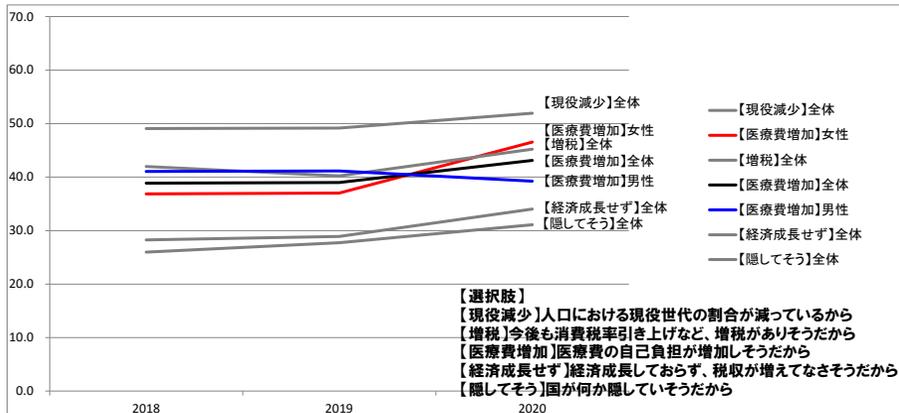


※n=「今よりやや厳しい状態になっている」「今より厳しい状態になっている」「今よりとても厳しい状態になっている」を選択の人

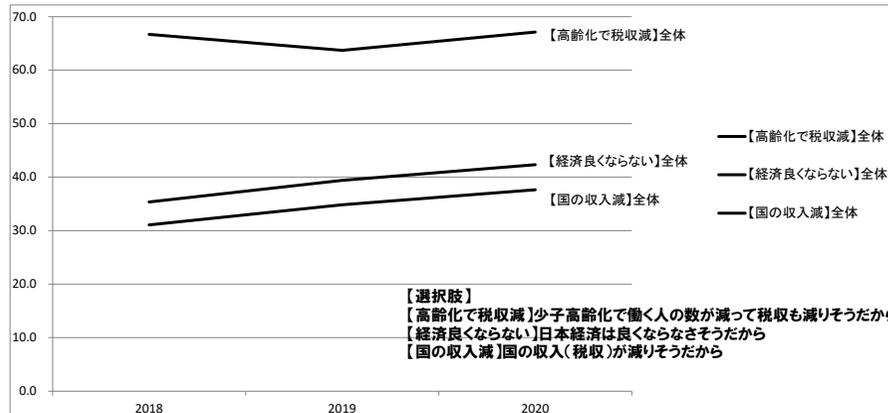
日本の財政への不安度(理由) ※時系列結果

- ・「不安の理由」で昨年と比べて増加しているのは、「現役減少」「増税」「医療費増加」「経済成長せず」「隠してそう」
「医療費増加」は性別で異なり、女性は昨年と比べて大きく増加しているが、男性は逆に減少している
減少しているのは、「財政赤字」「借金返せず」
- ・「悪化予想の理由」で昨年と比べて増加しているのは、「高齢化で収入減」「経済良くならない」「国の収入減」
減少しているのは、「借金増えそう」「無駄削減できず」「金利上昇」ただし、一昨年の割合よりはいずれも高い

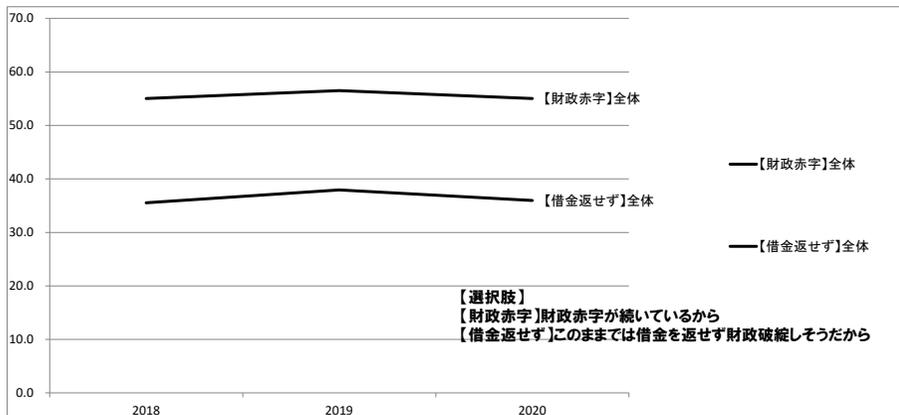
【時系列】現在の日本の財政状況(不安の理由) ※増加項目



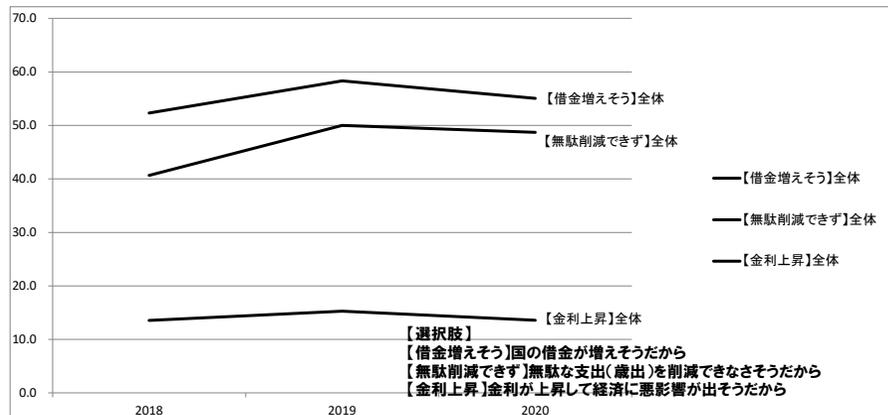
【時系列】10年後の日本の財政(悪化予想の理由) ※増加項目



【時系列】現在の日本の財政状況(不安の理由) ※減少項目



【時系列】10年後の日本の財政(悪化予想の理由) ※減少項目



税と保険料のイメージ

・税と保険料のイメージは、年代で下記の特徴がある

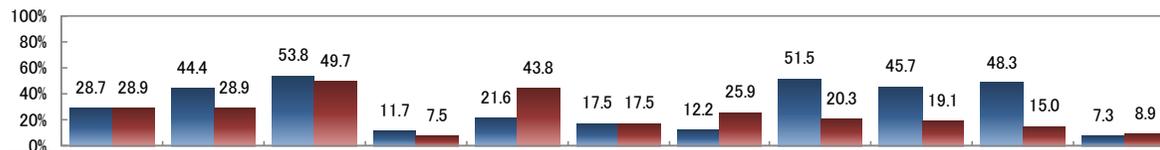
「なるべく払いたくない」：若年層ほど高い(税・保険料両方) — 「払えるなら払う」：高齢層ほど高い(税のみ)

「払う意義がわからない」：若年層ほど高い(保険料のみ) — 「払う意義はわかる」：高齢層ほど高い(税・保険料両方)

その一方で、税・保険料両方において若年層ほど「自分に利益が還元される」と考えている

・ライフスタイル属性では、「なるべく払いたくない」「弱者に利益が還元される」「国がとりたてる」で特徴がある

【属性別】税と保険料のイメージ



属性	(n)	払えるなら払う		なるべく払いたくない		払う意義はわかる		払う意義がわからない		相互に助け合う		弱者に利益が還元される		自分に利益が還元される		国や社会づくりのため		国がとりたてる		決める国が使い方を		一つの中には		平均回答項目数	
		税	保険料	税	保険料	税	保険料	税	保険料	税	保険料	税	保険料	税	保険料	税	保険料	税	保険料	税	保険料	税	保険料	税	保険料
全体	(6000)	28.7	28.9	44.4	28.9	53.8	49.7	11.7	7.5	21.6	43.8	17.5	17.5	12.2	25.9	51.5	20.3	45.7	19.1	48.3	15.0	7.3	8.9	3.35	2.56
性別 男性	(2985)	29.6	28.7	41.4	28.7	54.9	49.3	10.4	7.8	23.6	45.5	18.7	18.9	14.0	26.1	52.1	20.4	44.6	19.3	46.9	14.9	8.5	10.0	3.36	2.60
性別 女性	(3015)	27.8	29.1	47.3	29.1	52.7	50.0	12.9	7.2	19.7	42.2	16.4	16.1	10.4	25.6	51.0	20.1	46.9	18.9	49.6	15.1	6.1	7.7	3.35	2.53
年齢 18~24歳	(558)	23.8	28.0	43.5	29.9	46.1	43.5	17.6	10.4	19.7	31.7	18.6	19.0	14.7	28.7	45.0	19.0	37.8	15.9	44.1	13.8	10.2	12.9	3.11	2.40
年齢 25~34歳	(914)	25.8	29.6	50.9	35.0	50.4	46.3	13.3	9.3	22.2	36.7	16.6	20.1	12.8	25.2	48.7	21.9	45.6	20.4	45.7	14.6	6.7	7.9	3.32	2.59
年齢 35~44歳	(1203)	23.7	26.8	48.4	32.0	52.3	49.0	13.8	8.1	20.3	37.4	16.9	16.7	10.4	24.9	48.5	21.4	46.9	19.4	46.6	15.0	8.6	10.6	3.28	2.51
年齢 45~54歳	(1106)	28.8	28.4	43.1	29.4	54.0	49.9	11.3	8.0	20.0	40.0	17.6	15.8	10.0	21.5	48.7	19.3	45.2	21.0	46.5	15.6	8.9	9.9	3.25	2.49
年齢 55~64歳	(1064)	31.0	29.0	41.1	23.8	56.1	51.3	8.5	5.3	22.8	49.2	16.3	16.5	11.9	25.4	54.4	19.5	45.8	17.1	48.4	13.9	6.0	7.7	3.36	2.51
年齢 65~74歳	(1155)	36.4	31.3	39.6	24.6	59.5	54.4	8.5	5.5	23.8	60.6	19.5	17.9	14.8	30.6	60.1	20.0	48.9	19.3	55.5	16.5	4.8	5.9	3.66	2.81
ライフスタイル属性 男性	(2985)	29.6	28.7	41.4	28.7	54.9	49.3	10.4	7.8	23.6	45.5	18.7	18.9	14.0	26.1	52.1	20.4	44.6	19.3	46.9	14.9	8.5	10.0	3.36	2.60
ライフスタイル属性 女性	(3015)	27.8	29.1	47.3	29.1	52.7	50.0	12.9	7.2	19.7	42.2	16.4	16.1	10.4	25.6	51.0	20.1	46.9	18.9	49.6	15.1	6.1	7.7	3.35	2.53
ライフスタイル属性 若年層(18-24歳)	(558)	23.8	28.0	43.5	29.9	46.1	43.5	17.6	10.4	19.7	31.7	18.6	19.0	14.7	28.7	45.0	19.0	37.8	15.9	44.1	13.8	10.2	12.9	3.11	2.40
ライフスタイル属性 高齢層(65-74歳)	(1155)	36.4	31.3	39.6	24.6	59.5	54.4	8.5	5.5	23.8	60.6	19.5	17.9	14.8	30.6	60.1	20.0	48.9	19.3	55.5	16.5	4.8	5.9	3.66	2.81
ライフスタイル属性 学生(高校生・大学生・大学院生)	(271)	26.2	27.7	37.6	24.0	52.4	47.6	11.8	7.0	21.4	33.2	20.3	18.8	16.2	28.8	46.1	19.6	33.9	14.0	42.4	10.7	7.7	12.2	3.08	2.31
ライフスタイル属性 会社員・自営業・公務員等	(3169)	26.2	27.4	44.4	30.0	52.9	48.7	11.3	8.4	21.7	42.4	17.9	17.9	12.0	25.0	50.1	20.3	45.5	19.5	46.2	14.5	7.9	9.4	3.28	2.54
ライフスタイル属性 パート/アルバイト	(823)	32.1	32.2	49.9	30.9	51.2	47.8	15.6	8.0	20.2	40.2	14.6	14.9	10.0	26.9	51.2	19.9	47.8	20.7	51.0	16.3	5.8	7.0	3.43	2.58
ライフスタイル属性 年金生活者・無職	(771)	35.9	33.2	40.2	28.0	59.7	54.9	9.6	6.4	23.6	55.4	18.2	19.3	15.7	29.3	57.2	21.5	45.9	18.8	52.5	16.0	7.9	9.2	3.58	2.83
ライフスタイル属性 主婦・主夫	(944)	28.7	28.1	44.9	25.7	54.4	51.1	11.2	5.3	20.6	45.0	17.5	16.3	10.7	24.3	53.6	19.6	47.7	17.6	50.6	15.7	6.0	7.5	3.40	2.49
ライフスタイル属性 子育て層	(1639)	26.9	29.0	46.1	29.7	54.9	50.2	13.4	7.9	22.0	42.0	19.0	18.9	12.0	26.5	52.5	20.8	45.5	17.6	48.9	15.3	5.9	7.3	3.41	2.58

払う税と受ける公共サービスのバランス

- ・払う税と受ける公共サービスのバランスは、「公共サービスを受けていない」と考えている層（「非受益」層）が6割超 とくに女性で非受益感が高い
- ・ライフスタイル属性では、「パート/アルバイト」「女性」「会社員・自営業・公務員等」で非受益感が高く、「非受益」層は65%を超える

【性別・年代】払う税と受ける公共サービスのバランス



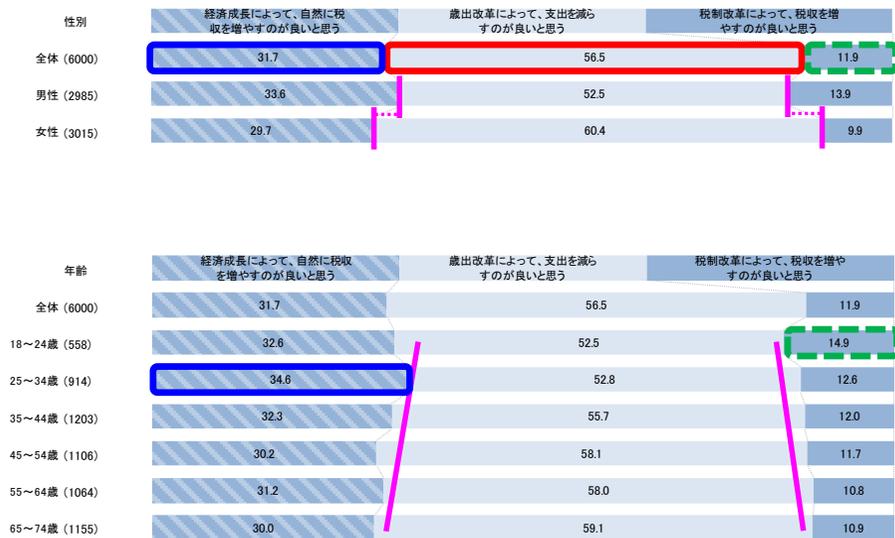
【ライフスタイル属性】払う税と受ける公共サービスのバランス



財政の改善策

- ・財政の改善策は、「歳出改革」が最も高く約6割 次いで「経済成長」が約3割、「税制改革」が約1割
- ・財政の改善策は年代が上がるにつれて「歳出改革」の割合が上がる傾向(年代別) ※高齢層ほど「歳出改革」
- ・財政の改善策は、それぞれで下記の特徴がある
 - 「歳出改革」:その他の属性と比較して「女性」「パート/アルバイト」「主婦・主夫」で割合が高い
 - 「経済成長」:その他の属性と比較して「男性」「会社員・自営業・公務員等」で割合が高い
 - 「税制改革」:その他の属性と比較して「学生」で割合が高い

【性別・年代】財政の改善策



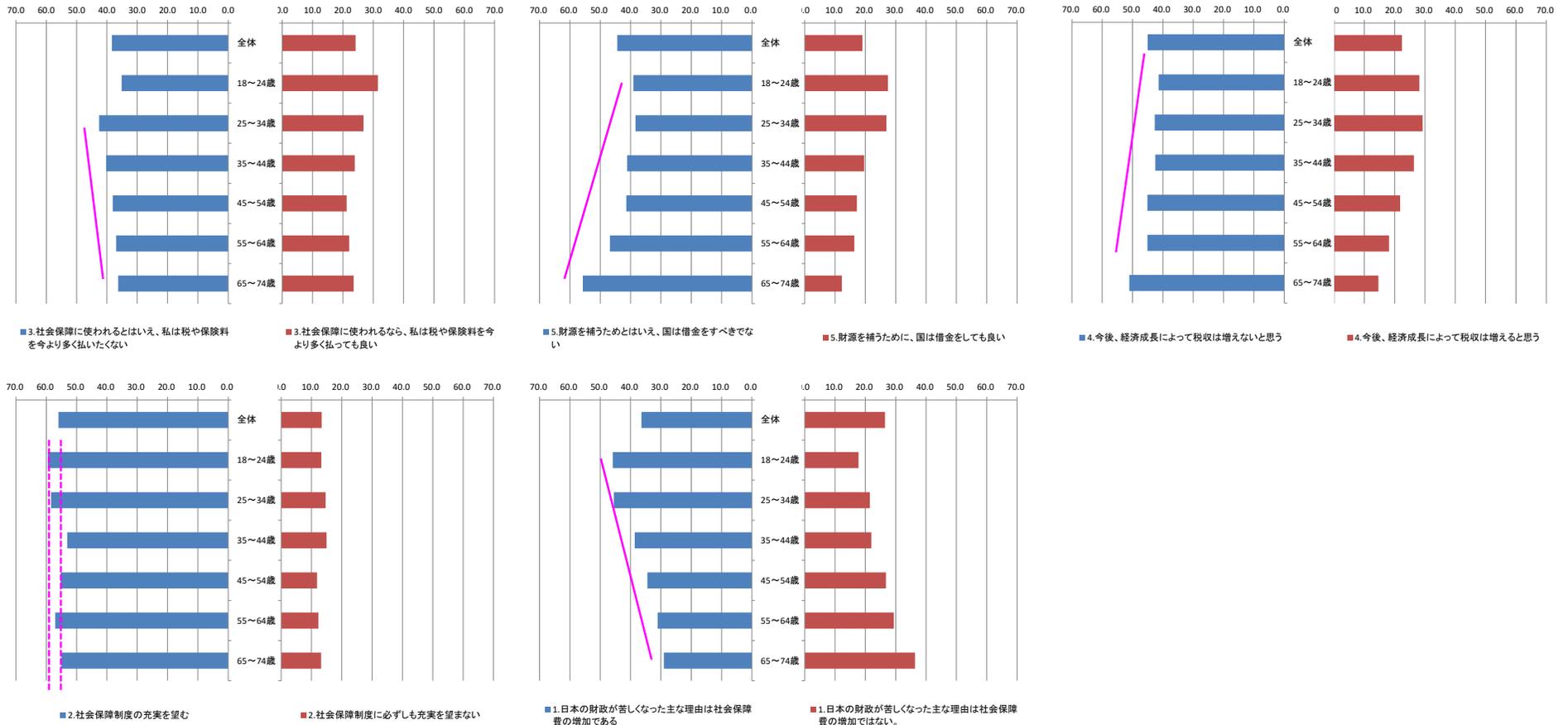
【ライフスタイル属性】財政の改善策



財政と社会保障に関する意見(属性別結果)

- ・財政と社会保障に関する意見は、年代別では下記の特徴がある
 - 「社会保障に使われるとはいえ、私は税や保険料を今より多く払いたくない」: 25~34歳で高い(年代が上がるにつれて減少傾向)
 - 「財源を補うためとはいえ、国は借金をすべきでない」: 高齢層で高い(年代が上がるにつれて増加傾向)
 - 「今後、経済成長によって税収は増えないと思う」: 高齢層で高い(年代が上がるにつれて増加傾向)
 - 「社会保障制度の充実を望む」: 若年層で高い(年代による差が小さい)
 - 「日本の財政が苦しくなった理由は社保の増加である」: 若年層で高い(年代が下がるにつれて増加傾向)

【性別・年代】財政と社会保障に関する意見

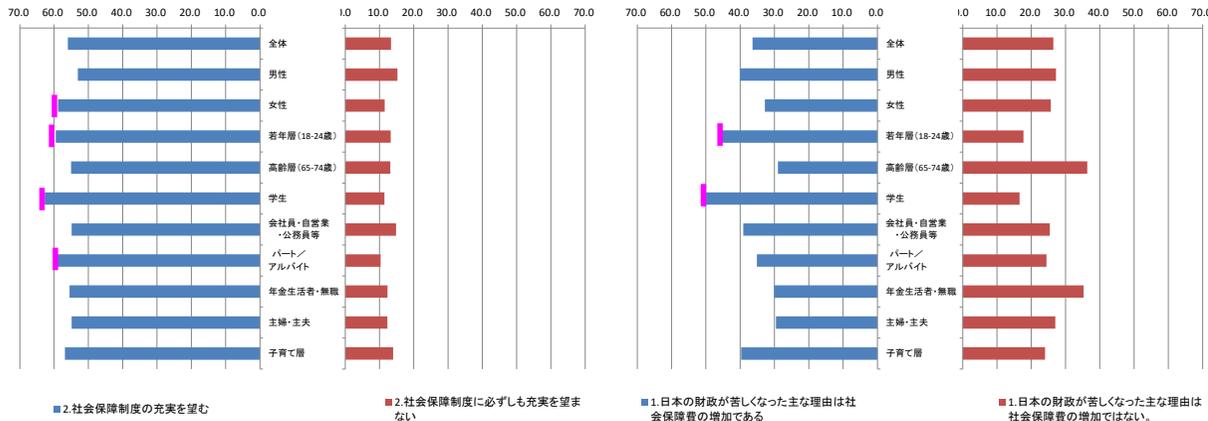
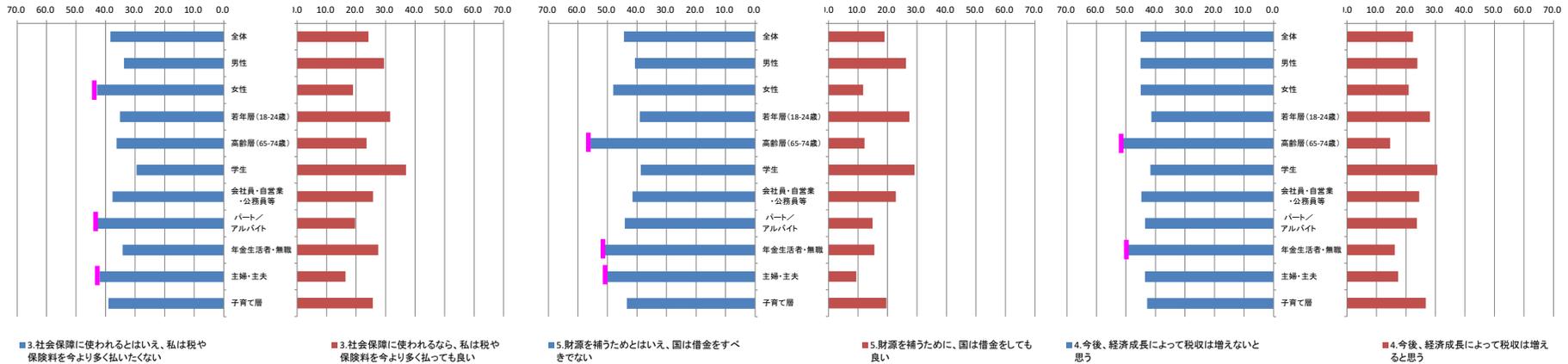


財政と社会保障に関する意見(属性別結果) ※ライフスタイル属性

・財政と社会保障に関する意見は、ライフスタイル属性別では下記の特徴がある

- 「社会保障に使われるとはいえ、税や保険料を多く払いたくない」：「女性」「パート／アルバイト」「主婦・主夫」で高い
- 「財源を補うためとはいえ、国は借金をすべきでない」：「高齢層」「年金生活者等」「主婦・主夫」で高い
- 「今後、経済成長によって税収は増えないと思う」：「高齢層」「年金生活者等」で高い
- 「社会保障制度の充実を望む」：「女性」「若年層」「学生」「パート／アルバイト」で高い
- 「日本の財政が苦しくなった理由は社保の増加である」：「若年層」「学生」で高い

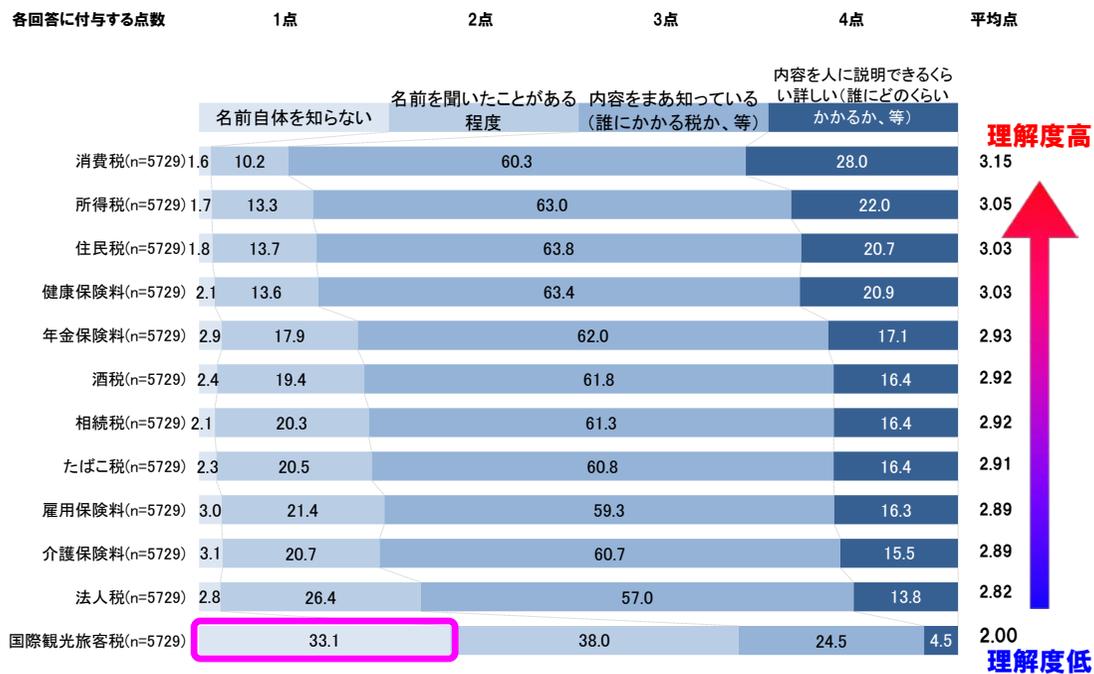
【ライフスタイル属性】財政と社会保障に関する意見



税および保険料の理解度(税・保険料別)

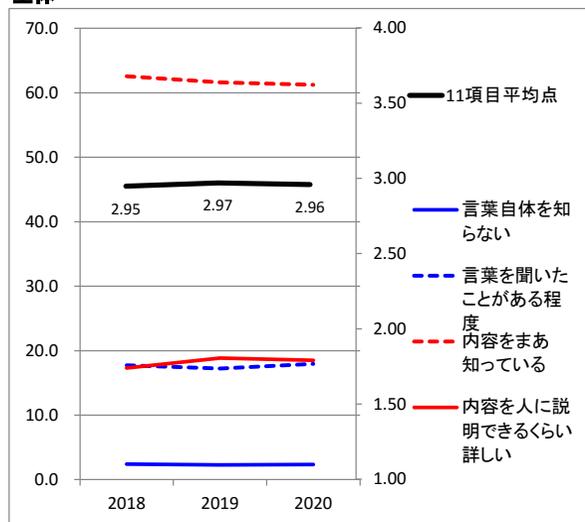
- ・税および保険料の理解度(平均)で、最も理解度が高い税・保険料は「消費税」で、次いで「所得税」「住民税」
- ・最も理解度が低い税・保険料は「国際観光旅客税」で名前自体を知らない割合は3割を超える
- ・税および保険料の理解度(平均)は、昨年と変わらない

【税・保険料別】税および保険料の理解度 ※12項目の平均点が高い順

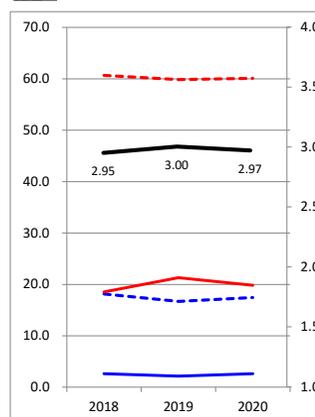


※n=(職業が「高校生」「大学生／大学院生」以外)

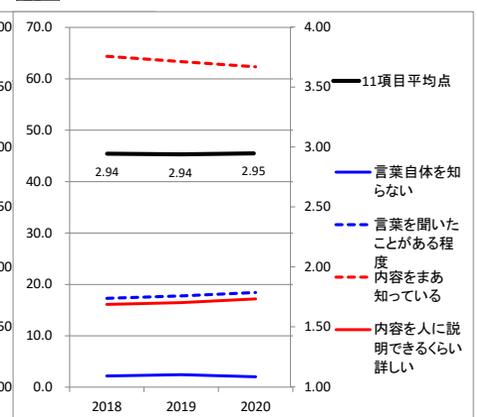
【時系列】税および保険料の理解度 ※11項目(割合・平均) 全体



男性



女性



税および保険料の負担度(税・保険料別)

- ・税および保険料に対し負担感を感じている層の割合は高い
- ・最も負担感が高いと感じている税・保険料は「消費税」、次いで「健康保険料」いずれも8割を超える

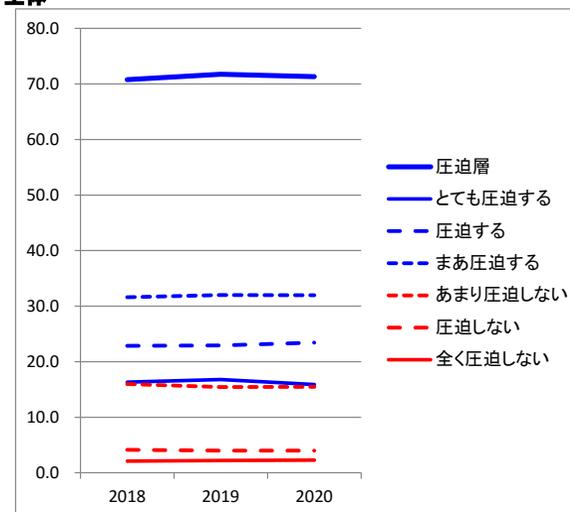
【税・保険料別】税および保険料の負担度 ※10項目の圧迫層(「とても圧迫」+「圧迫」+「まあ圧迫」の合計)の高い順



※n=(「名前自体を知らない」以外を選択の人)

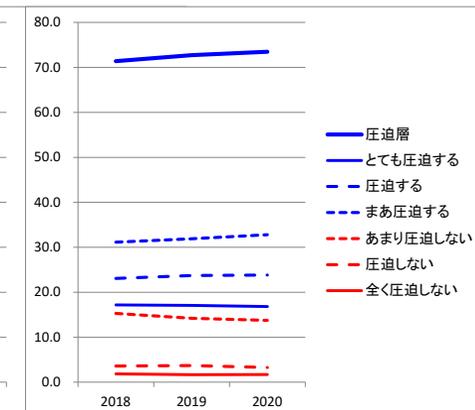
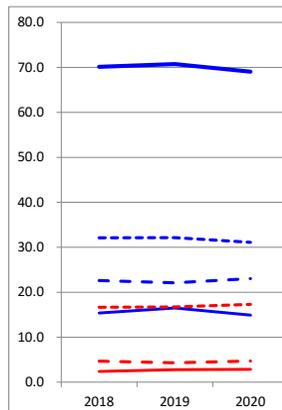
圧迫度低

【時系列】税および保険料の負担度 ※7項目平均(8.相続税、9.酒税、10.たばこ税は除く)全体



男性

女性



税および保険料の負担度(属性別結果) ※ライフスタイル属性

- ・ライフスタイル属性では、「消費税」について「男性」「高齢層(65-74歳)」「年金生活者・無職」を除く属性で最も負担感が高いと感じている
- ・また下記属性で割合が高い(75%を超える)項目に特徴がある 全体の「消費税」「健康保険料」「住民税」以外のもの
 - 「会社員・自営業・公務員等」 : 「所得税」
 - 「高齢層(65-74歳)」 : 「介護保険料」
 - 「女性」 : 「所得税」「年金保険料」
 - 「パート/アルバイト」 : 「年金保険料」「所得税」
 - 「子育て層」 : 「所得税」「年金保険料」

【ライフスタイル属性】税および保険料の負担度 ※各項目「とても圧迫」+「圧迫」+「まあ圧迫」の合計

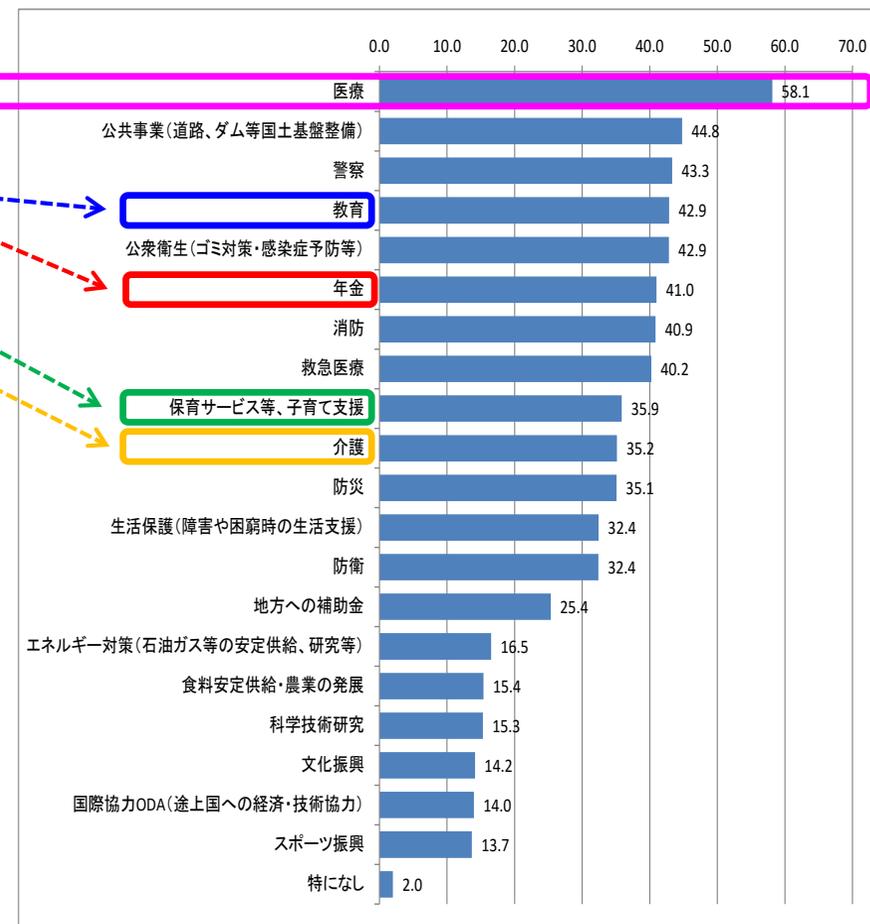
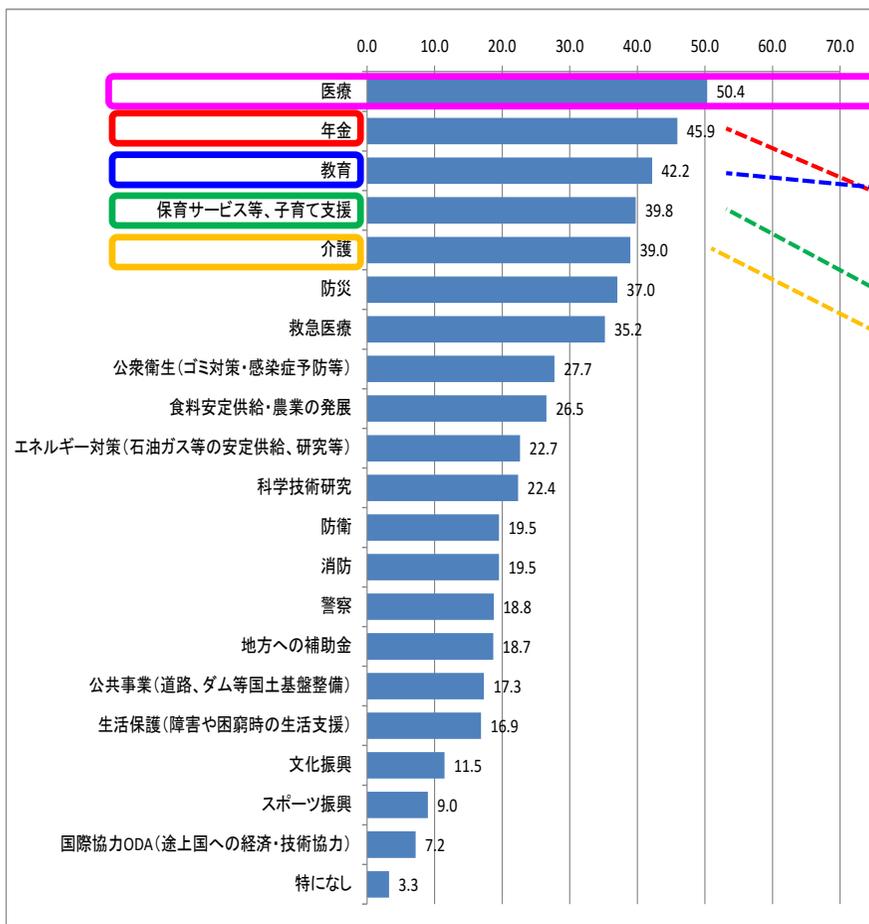
	全体	男性	女性	若年層 (18-24歳)	高齢層 (65-74歳)	学生	会社員・自営業 ・公務員等	パート /アルバイト	年金生活者 ・無職	主婦・主夫	子育て層
第1位	消費税 82.5	健康保険料 77.9	消費税 87.1	消費税 79.3	介護保険料 83.7	-	消費税 住民税	消費税 88.9	健康保険料 78.6	消費税 85.8	消費税 86.0
第2位	健康保険料 80.7	消費税 77.8	健康保険料 83.4	住民税 77.2	健康保険料 82.6	-	81.1	健康保険料 84.2	消費税 77.6	健康保険料 82.3	住民税 83.5
第3位	住民税 77.3	住民税 75.7	住民税 78.8	所得税 74.5	消費税 78.9	-	所得税 80.3	年金保険料 79.5	介護保険料 74.4	住民税 76.7	所得税 81.9
第4位	所得税 74.0	所得税 72.4	所得税 75.6	健康保険料 73.4	住民税 67.7	-	健康保険料 79.8	住民税 79.4	住民税 60.6	所得税 71.6	年金保険料 81.5
第5位	年金保険料 73.0	年金保険料 70.5	年金保険料 75.5	年金保険料 73.1	所得税 57.6	-	年金保険料 79.1	所得税 75.3	所得税 49.6	介護保険料 71.0	健康保険料 80.5
第6位	介護保険料 66.0	介護保険料 64.0	介護保険料 68.0	雇用保険料 59.1	年金保険料 50.0	-	介護保険料 61.9	介護保険料 68.3	年金保険料 47.1	年金保険料 68.4	介護保険料 59.8
第7位	雇用保険料 45.5	雇用保険料 45.0	雇用保険料 45.9	介護保険料 43.4	相続税 33.7	-	雇用保険料 53.4	雇用保険料 48.9	酒税 29.6	雇用保険料 39.4	雇用保険料 55.5
第8位	酒税 35.7	相続税 36.7	酒税 35.3	酒税 34.4	酒税 31.3	-	相続税 36.9	酒税 38.7	相続税 28.0	酒税 36.6	酒税 38.3
第9位	相続税 35.4	酒税 36.1	相続税 34.2	相続税 33.2	雇用保険料 20.1	-	酒税 36.1	相続税 38.1	たばこ税 17.8	相続税 34.3	相続税 36.6
第10位	たばこ税 25.2	たばこ税 26.5	たばこ税 24.0	たばこ税 24.8	たばこ税 16.5	-	たばこ税 27.0	たばこ税 29.9	雇用保険料 16.8	たばこ税 21.5	たばこ税 28.2

生活に還元されていると感じる公共サービス／強化して欲しい公共サービス

- ・「強化して欲しい公共サービス」は、「医療」の約5割が最も高く、ついで4, 5割で「年金」「教育」「子育て支援」「介護」続く
- ・対して、「税が自分の生活に還元されていると感じる公共サービス」は、「医療」の約6割が最も高く、ついで5割弱で「公共事業」「警察」「教育」「公衆衛生」などが続く

【公共サービス別】強化して欲しい

【公共サービス別】税が自分の生活に還元されている/ 活かされていると感じる



生活に還元されていると感じる公共サービス／強化して欲しい公共サービス(属性別結果) ※ライフスタイル属性

・上位3項目で「強化して欲しい公共サービス」「生活に還元されていると感じる公共サービス」でその一致度合いは以下のとおり

3つとも一致(順不同)：「子育て層」 ※教育／子育て支援／医療

2つ一致(順不同)：「18-24歳(教育／医療)」「学生(教育／医療)」「65-74歳(年金／医療)」「年金生活者・無職(年金／医療)」

1つ一致(順不同)：「全体」「男性」「会社員・自営業・公務員等」「女性」「パート／アルバイト」「主婦・主夫」 ※すべて医療で一致

一致なし(順不同)：なし

【ライフスタイル属性】強化して欲しい公共サービス / 生活に還元されていると感じる公共サービス ※上位10項目

	全体		男性		女性		若年層(18-24歳)		高齢層(65-74歳)		学生	
	強化して欲しい公共サービス	還元されていると感じる公共サービス										
第1位	医療 50.4	医療 58.1	医療 47.1	医療 57.0	医療 53.5	医療 59.3	教育 45.5	医療 51.6	年金 61.0	医療 68.5	教育 49.4	医療 53.1
第2位	年金 45.9	公共事業 44.8	年金 45.0	警察 48.0	年金 46.8	公衆衛生 42.5	子育て支援 45.3	公共事業 41.2	医療 58.2	年金 65.3	子育て支援 43.5	教育 44.6
第3位	教育 42.2	警察 43.3	教育 43.2	公共事業 47.9	介護 41.8	教育 41.8	医療 43.9	教育 40.9	介護 48.5	警察 54.5	医療 40.2	公共事業 44.3
第4位	子育て支援 39.8	教育 公衆衛生	子育て支援 39.2	消防 44.2	教育 41.2	公共事業 41.7	年金 31.7	警察 38.0	防災 46.8	公衆衛生 52.9	防災 34.3	警察 42.8
第5位	介護 39.0	42.9	防災 38.5	教育 43.9	子育て支援 40.4	子育て支援 39.6	防災 31.0	消防 35.3	教育 41.3	公共事業 52.8	介護 31.7	消防 38.7
第6位	防災 37.0	年金 32.8	介護 36.1	公衆衛生 43.2	救急医療 36.2	救急医療 39.0	救急医療 30.1	救急医療 33.2	救急医療 39.7	消防 52.6	年金 29.2	公衆衛生 34.7
第7位	救急医療 35.2	消防 40.9	救急医療 34.2	年金 43.1	防災 35.6	年金 38.9	介護 28.7	公衆衛生 32.6	子育て支援 37.6	救急医療 52.5	救急医療 28.0	年金 34.3
第8位	公衆衛生 27.7	年金 40.2	公衆衛生 27.6	救急医療 41.5	公衆衛生 27.8	警察 38.7	公衆衛生 25.6	年金 31.4	食料安定供給 30.8	介護 51.8	食料安定供給 25.1	救急医療 32.8
第9位	食料安定供給 26.5	子育て支援 35.9	科学技術研究 27.1	防衛 39.1	食料安定供給 26.3	消防 37.5	食料安定供給 24.7	子育て支援 29.2	公衆衛生 30.0	教育 49.3	科学技術研究 24.0	防災 31.0
第10位	エネルギー対策 22.7	介護 35.2	食料安定供給 26.8	防災 38.3	エネルギー対策 19.5	介護 36.0	科学技術研究 26.9	防災 27.1	科学技術研究 29.5	防災 46.8	公衆衛生 23.2	防衛 介護 26.2

会社員・自営業・公務員等

	強化して欲しい公共サービス	還元されていると感じる公共サービス
第1位	医療 47.4	医療 55.4
第2位	教育 42.9	公共事業 44.1
第3位	年金 42.7	警察 42.3
第4位	子育て支援 40.7	教育 公衆衛生
第5位	介護 36.1	41.5
第6位	防災 35.0	消防 39.5
第7位	救急医療 33.7	救急医療 37.9
第8位	公衆衛生 27.5	年金 35.9
第9位	食料安定供給 25.6	防災 子育て支援
第10位	エネルギー対策 22.6	介護 34.0

パート／アルバイト

	強化して欲しい公共サービス	還元されていると感じる公共サービス
第1位	医療 54.4	医療 58.4
第2位	年金 48.6	子育て支援 41.7
第3位	介護 42.2	教育 41.4
第4位	教育 40.9	公共事業 40.6
第5位	子育て支援 38.5	公衆衛生 40.1
第6位	救急医療 37.4	年金 39.7
第7位	防災 35.0	警察 39.5
第8位	公衆衛生 27.1	救急医療 38.5
第9位	食料安定供給 26.2	介護 37.5
第10位	エネルギー対策 21.1	生活保護 36.5

年金生活者・無職

	強化して欲しい公共サービス	還元されていると感じる公共サービス
第1位	年金 57.7	医療 67.8
第2位	医療 55.9	年金 61.3
第3位	防災 46.4	消防 53.8
第4位	介護 46.3	警察 53.6
第5位	教育 39.4	公共事業 51.8
第6位	救急医療 38.7	救急医療 51.5
第7位	子育て支援 36.4	公衆衛生 49.0
第8位	科学技術研究 32.4	教育 46.4
第9位	公衆衛生 30.2	防災 45.7
第10位	食料安定供給 29.1	防衛 44.6

主婦・主夫

	強化して欲しい公共サービス	還元されていると感じる公共サービス
第1位	医療 55.5	医療 60.3
第2位	年金 49.7	公衆衛生 46.8
第3位	介護 41.9	公共事業 45.4
第4位	教育 41.2	教育 45.2
第5位	子育て支援 39.3	年金 44.3
第6位	防災 38.3	子育て支援 42.9
第7位	救急医療 37.9	救急医療 41.9
第8位	食料安定供給 28.4	警察 41.5
第9位	公衆衛生 28.2	消防 39.8
第10位	エネルギー対策 20.2	介護 38.3

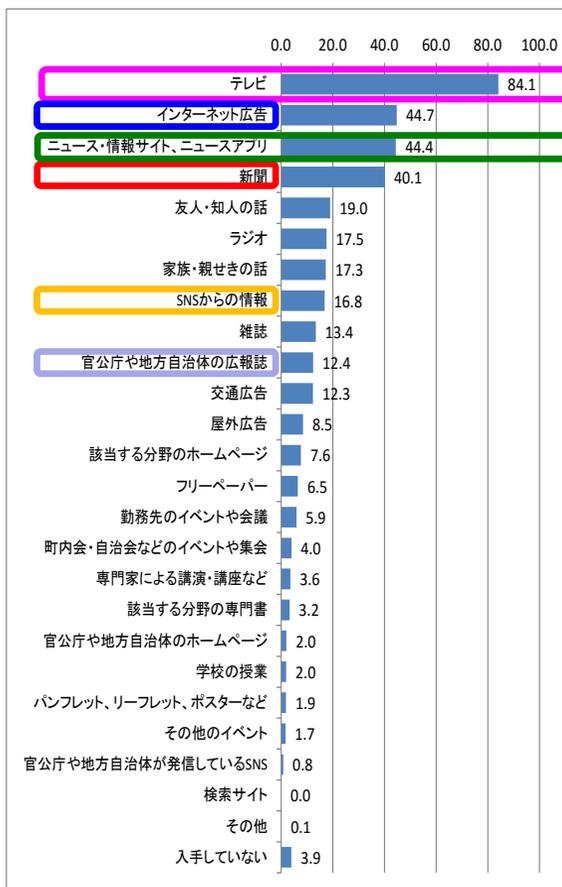
子育て層

	強化して欲しい公共サービス	還元されていると感じる公共サービス
第1位	教育 57.6	医療 58.2
第2位	子育て支援 54.7	教育 53.0
第3位	医療 49.6	子育て支援 52.6
第4位	年金 39.8	公共事業 43.7
第5位	介護 35.2	警察 41.1
第6位	救急医療 34.9	公衆衛生 40.6
第7位	防災 33.6	救急医療 消防
第8位	公衆衛生 27.2	38.3
第9位	食料安定供給 25.1	年金 33.8
第10位	エネルギー対策 20.4	防災 33.1

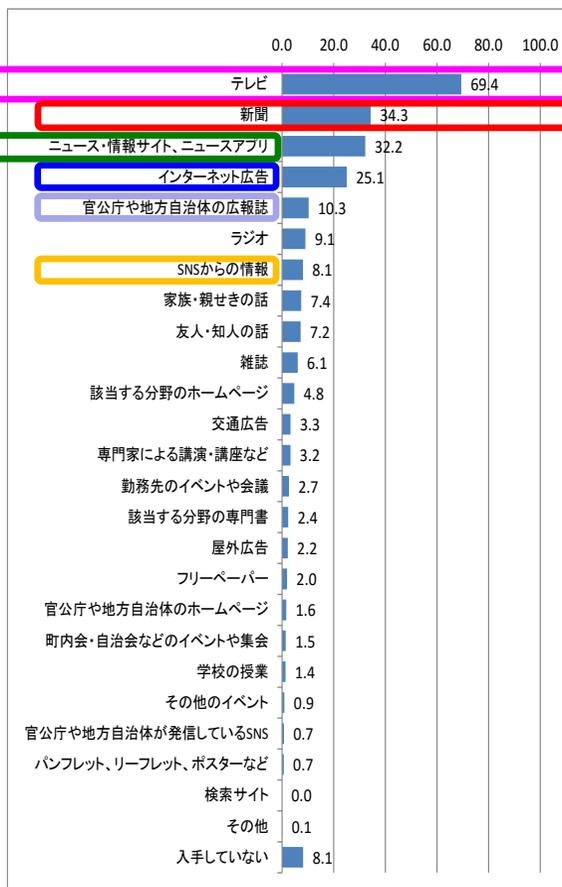
情報源と利用したいと思う広報活動(媒体別)

- ・最も割合が高い媒体はいずれも「テレビ」で、第2位の媒体の割合とは35～40%程度の開きがある
- ・いずれも2位3位4位は「新聞」もしくは「インターネット広告」もしくは「ニュース・情報サイト、ニュースアプリ」

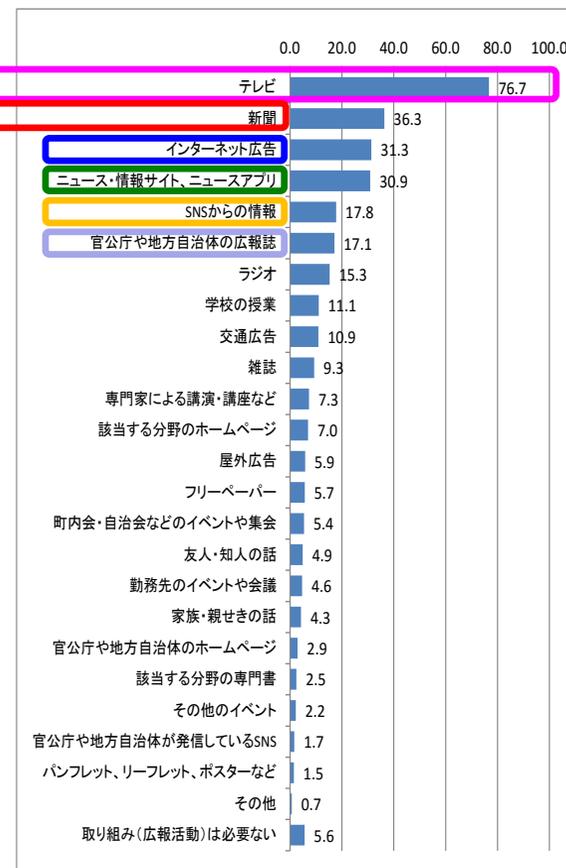
【媒体別】日頃の情報源



【媒体別】財政等の情報源



【媒体別】利用したいと思う広報活動



情報源と利用したいと思う広報活動(属性別結果) ※ライフスタイル属性

- ・「利用したいと思う広報活動」に対し、「財政等の情報源」「日頃の情報源」の実態から、最も適切なのは「テレビ」
- ・「テレビ」以外の媒体で適切と思われるのは以下のとおりで「新聞」「インターネット広告」「ニュースサイト」が多く挙がる
- ・ライフスタイル属性別で、見ると以下が目立つ

- 「若年層(18-24歳)」 : 「SNS情報」「交通広告」「屋外広告」
- 「学生」 : 「SNS情報」「交通広告」「学校の授業」「屋外広告」
- 「高齢層(65-74歳)」 : 「広報誌」「講演・講座」「該当分野のHP」「イベント・集会」
- 「年金生活者・無職」 : 「講演・講座」

【ライフスタイル属性】利用したいと思う広報活動／財政等の情報源／日頃の情報源

	全体			男性			女性			若年層(18-24歳)			高齢層(65-74歳)			学生		
	利用したいと思う広報活動	「財政や社会保障、政治・経済等」に関する情報源	日頃の情報源	利用したいと思う広報活動	「財政や社会保障、政治・経済等」に関する情報源	日頃の情報源	利用したいと思う広報活動	「財政や社会保障、政治・経済等」に関する情報源	日頃の情報源									
第1位	テレビ	76.7	84.1	テレビ	72.5	79.1	テレビ	80.9	75.6	89.0	76.2	テレビ	88.1	79.2	93.2	テレビ	61.6	70.8
第2位	新聞	36.3	44.7	新聞	38.0	45.5	新聞	34.7	30.9	45.9	47.3	新聞	61.0	60.7	67.5	SNS情報	39.9	47.2
第3位	インターネット広告	31.3	44.4	インターネット広告	32.5	43.6	インターネット広告	30.2	29.0	43.3	27.8	インターネット広告	31.9	33.6	46.1	インターネット広告	35.8	43.9
第4位	ニュースサイト	30.9	40.1	ニュースサイト	31.9	42.8	ニュースサイト	29.9	22.8	37.3	SNS情報	22.0	19.5	37.1	ニュースサイト	22.2	40.3	36.2
第5位	SNS情報	17.1	19.0	広報誌	17.0	20.5	ラジオ	19.7	10.4	23.5	新聞	20.8	18.1	26.2	インターネット広告	28.1	40.3	28.0
第6位	広報誌	17.8	17.5	ラジオ	15.8	10.1	広報誌	18.4	9.9	23.4	交通広告	19.5	12.5	9.1	ラジオ	20.1	24.0	21.4
第7位	ラジオ	15.3	17.3	SNS情報	15.7	8.4	ラジオ	13.6	8.3	19.8	学校の授業	15.4	9.1	22.6	学校の授業	10.5	21.9	23.2
第8位	学校の授業	11.1	16.8	雑誌	10.6	7.9	交通広告	12.7	7.9	14.6	屋外広告	10.8	8.2	11.4	講演・講座	9.5	8.9	18.8
第9位	交通広告	10.9	13.4	学校の授業	10.3	6.5	学校の授業	11.9	7.0	13.2	ラジオ	7.7	7.7	9.5	該当分野のHP	7.2	17.3	9.6
第10位	雑誌	9.3	12.4	交通広告	9.0	11.5	雑誌	8.1	3.7	12.9	雑誌	10.2	6.3	8.9	イベント・集会	8.9	8.5	15.5

会社員・自営業・公務員等

パート/アルバイト

年金生活者・無職

主婦・主夫

子育て層

	利用したいと思う広報活動	「財政や社会保障、政治・経済等」に関する情報源	日頃の情報源	利用したいと思う広報活動	「財政や社会保障、政治・経済等」に関する情報源	日頃の情報源												
第1位	テレビ	73.3	80.9	テレビ	81.5	88.3	テレビ	80.3	74.2	87.2	テレビ	85.4	80.9	92.2	テレビ	76.9	85.2	85.2
第2位	インターネット広告	32.2	46.4	新聞	35.1	47.0	新聞	52.8	50.6	55.1	新聞	43.3	37.9	46.2	インターネット広告	30.7	49.0	49.0
第3位	ニュースサイト	32.0	45.3	インターネット広告	32.0	41.9	ニュースサイト	32.0	35.9	46.7	ニュースサイト	30.1	27.4	41.6	ニュースサイト	31.9	43.6	43.6
第4位	新聞	31.9	45.3	ニュースサイト	28.9	25.3	インターネット広告	29.1	21.8	40.5	インターネット広告	28.0	19.9	39.7	新聞	30.3	32.2	32.2
第5位	SNS情報	17.9	36.2	SNS情報	20.5	9.4	ラジオ	26.1	16.6	18.4	広報誌	24.4	13.8	25.4	SNS情報	30.3	27.3	20.0
第6位	ラジオ	15.3	17.3	広報誌	17.6	9.2	ラジオ	17.5	8.7	17.8	ラジオ	16.0	9.6	22.8	ラジオ	16.0	18.7	18.7
第7位	広報誌	13.7	16.8	ラジオ	13.9	8.1	学校の授業	13.0	7.0	15.4	SNS情報	14.7	7.3	18.1	広報誌	13.5	18.5	18.5
第8位	交通広告	10.9	14.5	交通広告	10.7	7.8	講演・講座	10.8	6.7	15.0	学校の授業	13.1	6.9	15.0	学校の授業	11.6	17.3	17.3
第9位	雑誌	10.1	14.5	学校の授業	10.2	6.7	SNS情報	10.0	6.6	12.2	交通広告	11.5	5.3	13.7	交通広告	11.5	14.1	14.1
第10位	学校の授業	9.2	13.9	雑誌	8.0	3.0	雑誌	9.1	6.0	11.0	雑誌	8.5	3.9	12.6	雑誌	9.6	11.7	11.7

Web調査結果のまとめ

【全体結果】

財政に関する用語の理解度

～理解度は依然として『非理解』層が『理解』層を上回っている状況～ 若年層ほど理解度が低く、さらには女性で低い

日本の財政への不安度(現在・将来)

～ネガティブ層が微増～ 高齢層ほどネガティブ層の割合が高く、さらには女性で高い

財政への不安(理由)／将来の悪化予想(理由)

～高齢層ほど現在・将来に対する不安が大きく、不安理由の要素が多い～

財政への不安度(理由) : 「現役減少」「増税」「医療費増加」「経済成長せず」「隠してそう」で前回より増加

将来の財政への悪化予想(理由) : 「高齢化で税収減」「経済よくなる」「国の収入減」で前回より増加

税と保険料のイメージ

～若年層ほど税と保険料のイメージがネガティブ～

若年層ほど「なるべく払いたくない」※税・保険料両方 — 高齢層ほど「払えるなら払う」※税のみ

若年層ほど「払う意義がわからない」※保険料のみ — 高齢層ほど「払う意義はわかる」※税・保険料両方

払う税と受ける公共サービスのバランス

～『払う税に比べて、公共サービスを受けていない』と感じている層は依然6割超～ 女性でその割合が高い

財政の改善策

～「歳出改革」が最も高く5割超～ 高齢層ほどその割合が高く、さらには女性で高い

財政と社会保障に関する意見

～『税や保険料を今より多く払いたくない』と感じている層は4割前後～ ※上記「税と保険料のイメージ」と同様、若年層ほどその割合が高い

税および保険料の負担度

～税および保険料の負担度(圧迫すると感じている層)は依然として7割超え～ 女性やパート／アルバイトでその割合が高い

生活に還元されていると感じる公共サービス／強化して欲しい公共サービス

～生活に還元されていると感じる公共サービスは、「医療」「公共事業」「警察」「公衆衛生」～

～強化して欲しい公共サービスは「医療」「年金」「教育」「子育て支援」「介護」～

会社員・自営業・公務員等やパート／アルバイト、主婦・主夫は「強化して欲しい公共サービス」と「還元されていると感じる公共サービス」との一致が少ない(受益感低)

子育て層は「強化して欲しい公共サービス」と「還元されていると感じる公共サービス」との一致が多い(受益感高)

情報源と利用したいと思う広報活動

～利用したいと思う広報活動は、「テレビ(8割)」「新聞(4割)」、「インターネット広告」「ニュース・情報サイト、ニュースアプリ」等が3割超～

「財政等の情報源」「日頃の情報源」の実態からみた、広報活動に最も適切な媒体は「テレビ」以外では、「新聞」「インターネット広告」「ニュース・情報サイト、ニュースアプリ」

Web調査結果のまとめ

【赤字】ポジティブ項目／【青字】ネガティブ項目

【ライフスタイル属性別】特徴一覧

特徴	学生	若年層 (18-24歳)	会社員・自営業 ・公務員等	パート ／アルバイト	子育て層	高齢層 (65-74歳)
財政用語の理解度	【時系列結果】理解度は依然として『非理解』層が『理解』層を上回っている状況 ※一昨年とほぼ同じ 【年代別結果】若年層で理解度が低く、高齢層で高い ※ただし、学生は若年層(18~24歳)よりも理解度高					
日本の財政への不安度(現在・将来)					将来よりも現在が不安	年代別で割合高
税のイメージ	「自分に利益が還元される」	年代別で割合高 「払う意義がわからない」		「払えるなら払う」	「払う意義がわからない」	「国や社会づくりのためのもの」 「払う意義はわかる」 「国が使い方を決める」
保険料のイメージ		「払う意義がわからない」		「払えるなら払う」		「相互に助け合う仕組み」 「払う意義はわかる」 「自分に利益が還元される」
払う税と受ける公共サービスのバランス	受益感が高い 「公共サービスを受けている」	受益感が高い 「公共サービスを受けている」	非受益感が高い 「公共サービスを受けていない」	非受益感が高い 「公共サービスを受けていない」		受益感が高い 「公共サービスを受けている」
財政と社会保障に関する意見	「社会保障制度の充実を望む」	「社会保障制度の充実を望む」		「税や保険料を多く払いたくない」 「社会保障制度の充実を望む」		「国は借金をすべきでない」 「経済成長によって税収は増えないと思う」
財政と社会保障に関する意見(社保の充実)	「社保の充実を望む」割合は、「学生」「若年層」「パート／アルバイト」で高い					
税および保険料の負担度 ※75%以上のみ抜粋		「消費税(79.3%)」 「住民税(77.2%)」	「消費税(81.1%)」 「住民税(81.1%)」 「所得税(80.3%)」 「健康保険料(79.8%)」 「年金保険料(79.1%)」	「消費税(88.9%)」 「健康保険料(84.2%)」 「年金保険料(79.5%)」 「住民税(79.4%)」 「所得税(75.3%)」	「消費税(86.0%)」 「住民税(83.5%)」 「所得税(81.9%)」 「年金保険料(81.5%)」 「健康保険料(80.5%)」	「介護保険料(83.7%)」 「健康保険料(82.6%)」 「消費税(78.9%)」

Web調査結果のまとめ

【赤字】ポジティブ項目／【青字】ネガティブ項目

特徴	学生	若年層 (18-24歳)	会社員・自営業 ・公務員等	パート ／アルバイト	子育て層	高齢層 (65-74歳)
「強化して欲しい」 ×「還元されている」 公共サービス(医療)	<p>「医療」はほとんどすべての各属性で最も高い割合 ※「強化して欲しい公共サービス」であり「生活に還元されていると感じる公共サービス」でもある</p>					
「強化して欲しい」 ×「還元されている」 公共サービス (上位3項目の一致)	「教育」 「医療」	「教育」 「医療」	「医療」	「医療」	「教育」 「子育て支援」 「医療」	「年金」 「医療」
「利用したい広報活動」 ×「財政等の情報源」 ×「日頃の情報源」 (テレビ)	<p>「テレビ」はほとんどすべての各属性で最も高い割合 ※「利用したい広報活動」であり「財政等の情報源」さらには「日頃の情報源」でもある</p>					
「利用したい広報活動」	「SNS情報」 「交通広告」 「学校の授業」 「屋外広告」	「SNS情報」 「交通広告」 「屋外広告」				「広報誌」 「講演・講座」 「当該分野のHP」 「イベント・集会」

【ライフスタイル属性別結果】

ライフスタイル属性別では、その実態から考え方の違いは以下の様に推察される。

【高齢層】 ⇒ 受益感が高い

今まで払った税や保険料が「年金」や「医療」という形で、その恩恵を今まさに受けており、受益感が高いものと考えられる

【学生】 ⇒ 受益感が高い

「教育」と言った環境の恩恵をまさに受けており、また他の属性の様に課税する対象になる可能性が低いこともあることから、受益感が高いものと考えられる

Web調査結果のまとめ

【若年層】 ⇒受益感が高い

税や保険料のイメージはネガティブでありながら、学生自体の受益感をまだ引き継いでおり、比較的受益感が高いと考えられる

【子育て層】 ⇒やや受益感が高い

税および保険料の負担度は大きい。しかし「子育て支援」「教育」などの弱者としての恩恵を感じていることが、保険料のイメージ(弱者に利益が還元される)をややポジティブに捉えており、やや受益感が高いものになっているものと考えられる

【会社員・自営業・公務員等】 ⇒非受益感が高い

「強化して欲しいサービス」と「還元されているサービス」との間に「医療」以外に一致しているものがなく、恩恵を受けているという実感がないと推察される

そのような状況に加えて、多くの税および保険料を納めているため、非受益感が高いものと考えられる

【パート／アルバイト】 ⇒特に非受益感が高い

会社員・自営業・公務員等と同様に、非受益感が高い

加えて、内訳として女性の割合が高いため、税のイメージや財政と社会保障に関する意見で、会社員・自営業・公務員等よりもネガティブな結果がより強くなっている



高齢層、学生、子育て層は税や保険料の恩恵を受けていると感じている(受益感が高い)

会社員・自営業・公務員等、パート／アルバイトは、税と保険料を払っているにも関わらず、公共サービスが自分の生活に還元されている実感が薄いことから非受益感が高い

財政情報の理解促進のために

基礎用語説明機会の増大

財政に関する言葉の理解度は「言葉自体を知らない」と「聞いたことがある程度」を足した非理解層は約6割となっており、依然として『非理解層』が『理解層』を上回っている状況であり、さらに財政に関する用語として基礎的な「財政」、「歳入と歳出」については約半分が『非理解』の状況となっていた。

前述の会場調査パートで挙げた様に、分からない言葉の存在は以降の理解度向上の妨げになる可能性があることから、**基礎となる言葉についてとくに繰り返し丁寧に発信し続ける**必要があると考える。

財務省委託

広報資料の改善を目的とした各種調査
【Web 調査報告書】

令和2年3月

株式会社サーベイリサーチセンター

目次

1	調査概要	3
1-1	調査の目的	4
1-2	調査の設計	4
1-3	分析方法	5
1-4	アンケート調査票	6
2	全体の結果	13
2-1	結果の要約	14
2-2	回答者プロフィール	17
2-3	全体結果の詳細	24
3	性年齢別の結果	41
3-1	結果の要約	42
3-2	性年齢別のプロフィール	47
3-3	性年齢別結果の詳細	56
4	時系列の結果	142
4-1	結果の要約	143
4-2	時系列のプロフィール	144
4-3	時系列結果の詳細	148

1 調査概要

1-1 調査の目的

- 財務省が作成しているパンフレットには「これからの日本のために財政を考える」がある。これらで説明している内容がどの程度国民に理解されているかを調べ、今後の広報コンテンツの向上に活かす。

1-2 調査の設計

- 地域 全国 47 都道府県
- 調査方法 インターネットによるアンケート調査
- 調査内容
 - ・パンフレットや新聞で使われる財政関連用語の理解度
 - ・税や保険料についての意識
 - ・受益と負担についての認識や実感
 - ・税の投入を望む公的サービス、投入の必要性をあまり感じない公的サービス
 - ・社会保障費と財政の関係についての知識と意識
- 調査対象 18 歳～74 歳の男女個人、6000 サンプル。
性年齢別、地域別の割り付けと回収は以下の通り。

目標回収サンプル割り付け

地域	男性							女性							総計
	18～24歳	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳	計	18～24歳	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳	計	
1 北海道財務局 (北海道)	11	18	24	22	24	24	123	11	18	25	24	26	29	133	256
2 東北財務局 (青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県)	18	30	39	37	44	39	207	17	29	37	37	44	43	207	414
3 関東財務局 (茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県)	115	190	249	228	193	204	1,179	108	180	237	215	191	220	1,151	2,330
4 北陸財務局 (富山県、石川県、福井県)	6	10	14	12	13	14	69	6	9	13	12	14	15	69	138
5 東海財務局 (岐阜県、静岡県、愛知県、三重県)	34	57	74	68	60	65	358	32	53	70	64	61	70	350	708
6 近畿財務局 (滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)	48	72	97	89	79	92	477	47	74	100	93	85	104	503	980
7 中国財務局 (鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県)	16	25	33	29	31	34	168	15	24	33	30	32	38	172	340
8 四国財務局 (徳島県、香川県、愛媛県、高知県)	7	12	16	15	17	18	85	7	12	16	16	18	20	89	174
9 福岡財務支局 (福岡県、佐賀県、長崎県)	16	25	32	28	32	30	163	16	27	33	31	34	35	176	339
10 九州財務局+沖縄総合事務局 (熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県)	14	24	30	27	32	29	156	14	25	31	29	34	32	165	321
計	285	463	608	555	525	549	2,885	279	451	595	551	539	608	3,015	6,000

回収サンプル数

地域	男性								女性								総計
	18~24歳	25~34歳	35~44歳	45~54歳	55~64歳	65~74歳	計	18~24歳	25~34歳	35~44歳	45~54歳	55~64歳	65~74歳	計			
1 北海道庁事務局 (北海道)	11	18	24	22	24	24	123	11	18	25	24	26	29	133	256		
2 東北庁事務局 (青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県)	18	30	39	37	44	39	207	17	29	37	37	44	43	207	414		
3 関東庁事務局 (茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県)	115	190	249	228	193	204	1,179	108	180	237	215	191	220	1,151	2,330		
4 北陸庁事務局 (富山県、石川県、福井県)	6	10	14	12	13	14	69	6	9	13	12	14	15	69	138		
5 東海庁事務局 (岐阜県、静岡県、愛知県、三重県)	34	57	74	68	60	65	358	32	53	70	64	61	70	350	708		
6 近畿庁事務局 (滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)	48	72	97	89	79	92	477	47	74	100	93	85	104	503	980		
7 中国庁事務局 (鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県)	16	25	33	29	31	34	168	15	24	33	30	32	38	172	340		
8 四国庁事務局 (徳島県、香川県、愛媛県、高知県)	7	12	16	15	17	18	85	7	12	16	16	18	20	89	174		
9 福岡庁支局 (福岡県、佐賀県、長崎県)	16	25	32	28	32	30	163	16	27	33	31	34	35	176	339		
10 九州庁事務局+沖縄総合事務局 (熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県)	14	24	30	27	32	29	156	14	25	31	29	34	32	165	321		
計	285	463	608	555	525	540	2,985	273	451	595	551	539	606	3,015	6,000		

※登録数全国 220 万人の WEB アンケートモニターにアンケートを配信、調査条件に適合する対象者から回答を収集。

- 実施期間 2019 年 12 月 26 日～2020 年 1 月 8 日
- 実施機関 株式会社サーベイリサーチセンター

1-3 分析方法

- 全調査質問に対する回答を集計した。
- 性別・年齢別を基本ブレイクダウンとし、所得、学歴、世帯の子どもの有無、社会保障費の知識水準、地域別の分析視点（ブレイクダウン）を加えてクロス集計と有意差検定を行った。
- 報告書は全質問における総サンプルの結果（G T）と、各種のブレイクダウンから有意差が明らかで分析視点として有効、且つ今後の広報コンテンツ制作の参考になるブレイクダウンとして性・年齢別のクロス集計結果を採用した。また、過去 3 年分の時系列結果を示すチャートとコメントを加え、冒頭に要約を入れている。

Q2 で 1-5-8-11 選択の方のみ	
Q4.あなたの最終学歴をお答えください。(シングル回答)	
1	大学院
2	大学
3	専修学校専門課程・短期大学、高等専門学校
4	高等学校
5	小中学校
6	その他(具体的に) () (自由記入必須)

Q5.あなたの婚姻状況をお答えください。(シングル回答)	
1	未婚
2	既婚(配偶者あり)
3	既婚(配偶者死別・離婚)

Q6.あなたと同居しているご家族をすべてお答えください。(複数選択可)(マルチ回答)	
1	同居の家族はいない(一人暮らし)
2	配偶者
3	子ども
4	父親(配偶者の父親を含む)
5	母親(配偶者の母親を含む)
6	祖父母
7	孫
8	兄弟姉妹
9	その他(具体的に) () (自由記入必須)

Q6 で 3 選択の方のみ	
Q7.あなたが同居している子どもの年齢をすべてお答えください。(複数選択可)(マルチ回答)	
1	0~2歳
2	3~5歳
3	小学校低学年(1~3年)
4	小学校高学年(4~6年)
5	中学生
6	高校生
7	大学生
8	社会人年齢以上(18歳以上)

Q8.あなたご自身の個人年収をお答えください。(シングル回答)	
1	所得無し
2	100万円未満
3	100~200万円未満
4	200~300万円未満
5	300~400万円未満
6	400~500万円未満
7	500~600万円未満
8	600~800万円未満
9	800~1,000万円未満
10	1,000~1,500万円未満
11	1,500~2,000万円未満
12	2,000万円以上

Q9.あなたの世帯の年収をお答えください。(シングル回答)	
1	所得無し
2	100万円未満
3	100~200万円未満
4	200~300万円未満
5	300~400万円未満
6	400~500万円未満
7	500~600万円未満
8	600~800万円未満
9	800~1,000万円未満
10	1,000~1,500万円未満
11	1,500~2,000万円未満
12	2,000万円以上
13	世帯年収はわからない

日本の財政について質問します。	
Q10.日本の財政に関する以下の言葉について、それぞれ「言葉自体を知らない」から「内容を人に説明できるくらい詳しい」まで、どの程度ご存知ですか。あてはまるものをお選びください。(シングル回答マトリックス)	
	(質問アイテム)
1	財政
2	一般会計
3	特別会計
4	歳入と歳出
5	国債
6	長期債務残高
7	財政健全化目標
8	プライマリーバランス
9	社会保障と税の一体改革
10	消費税率引上げ分の使い道
11	全世代型社会保障
12	将来世代への負担の先送り
13	少子高齢化に伴う社会保障費増大
14	受益と負担
15	公共サービス
16	国民負担率
17	軽減税率
18	幼児教育・保育の無償化
19	高等教育の無償化
20	人生100年時代
	(選択肢)
1	言葉自体を知らない
2	言葉を聞いたことがある程度
3	内容をまあ知っている
4	内容を人に説明できるくらい詳しい

Q11.国の収入と支出のバランスを「財政」と言います。あなたは現在の日本の財政状況について、どう感じていますか。あてはまるものをお選びください。(シングル回答)	
1	とても安心している
2	安心している
3	やや安心している
4	どちらともいえない
5	やや不安を感じている
6	不安を感じている
7	とても不安を感じている

Q11 で 5-7 選択の方のみ	
Q12.現在の財政状況に不安を感じている理由をお選びください。(複数選択可)(マルチ回答)	
1	財政赤字が続いているから
2	このままでは借金を返せず財政破綻しそうだから
3	国の社会保障費が増大しているから
4	国の予算の使い方に無駄が多そうだから
5	子供や孫などの将来世代に国の借金の負担を先送りしているから
6	経済成長しておらず、税収が増えてなさそうだから
7	政策による税収の増加が見込めなさそうだから
8	人口における現役世代の割合が減っているから
9	わかりやすい情報が不足しているから
10	国が何か隠しているから
11	社会のセーフティネット(最低限の保障)を維持できなさそうだから
12	教育や治安対策等、生活に直接影響する予算が減りそうだから
13	医療費の自己負担が増加しそうだから
14	自分の年金が減額される／受け取れない可能性がありそうだから
15	今後も消費税率引き上げなど、増税がありそうだから
16	その他(具体的に) (自由記入必須)

Q13.あなたは10年後の日本の財政はどうなっていると思いますか。あてはまるものをお選びください。(シングル回答)	
1	今よりとても良い状態になっている
2	今より良い状態になっている
3	今よりやや良い状態になっている
4	今と変わらない
5	今よりやや厳しい状態になっている
6	今より厳しい状態になっている
7	今よりとても厳しい状態になっている

Q13 で 5-7 選択の方のみ	
Q14.厳しい状態になると思う理由をお選びください。(複数選択可)(マルチ回答)	
1	国の収入(税収)が減りそうだから
2	国の支出(歳出)が増えそうだから
3	日本経済は良くななさそうだから
4	少子高齢化で働く人の数が減って税収も減りそうだから
5	安定的な税収を得るための税制改革が進まなさそうだから
6	無駄な支出(歳出)を削減できなさそうだから
7	高齢者の増加が様々な影響を与えそうだから
8	社会保障費の増加を抑える政策が進まなさそうだから
9	国の借金が増えそうだから
10	金利が上昇して経済に悪影響が出そうだから
11	その他(具体的に) (自由記入必須)

Q13 で 1-4 選択の方のみ

Q15. 今と変わらない／良い状態になると思う理由をお選びください。(複数選択可)(マルチ回答)

1	国の収入(税収)が増えそうだから
2	国の支出(歳出)が減りそうだから
3	日本経済が良くなりそうだから
4	働き方改革や技術革新などで生産性が向上しそうだから
5	安定的な税収を得る税制改革が進みそうだから
6	無駄な支出(歳出)の削減が進みそうだから
7	社会保障費の増加を抑えたり、減らしたりする政策が進みそうだから
8	金利が低く維持され、経済に好影響を与えそうだから
9	借金(国債)は日本国内で消化されていて、財政破綻の懸念は少なそうだから
10	国には有価証券や国有財産等の資産があって、そもそも借金は小さそうだから
11	日銀が買い取る国債には利息も返済義務もなく、そもそも借金は小さそうだから
12	日本は世界有数の経済大国であり続けそうだから
13	その他(具体的に) () (自由記入必須)

Q2 で 1-5.8-11 選択の方のみ

税の負担と受益について質問します。

Q16. あなたは次の税と保険料の名称や納税の対象者、税率などの制度の内容をどの程度ご存知ですか。それぞれの税および保険料についてあてはまるものをお選びください。(シングル回答マトリックス)

	(質問アイテム)
1	所得税
2	住民税
3	健康保険料
4	年金保険料
5	介護保険料
6	雇用保険料
7	消費税
8	相続税
9	酒税
10	たばこ税
11	法人税
12	国際観光旅客税
	(選択肢)
1	名前自体を知らない
2	名前を聞いたことがある程度
3	内容をまあ知っている(誰にかかるとか、等)
4	内容を人に説明できるくらい詳しい(誰にどのくらいかかるか、等)

Q2 で 1-5.8-11 選択の方のみ

Q17. あなたは、あなたご自身または世帯にかかる税と保険料についてどの程度、負担に感じていますか。それぞれの税と保険料について、生活費を「とても圧迫する」から「全く圧迫しない」までの中であてはまるものをお選びください。※未成年の方は酒税、たばこ税について「7.自分と関係ない／わからない」をお選びください。(シングル回答マトリックス)

	(質問アイテム)
1	所得税
2	住民税
3	健康保険料
4	年金保険料
5	介護保険料
6	雇用保険料
7	消費税
8	相続税
9	酒税
10	たばこ税
	(選択肢)
1	とても圧迫する
2	圧迫する
3	まあ圧迫する
4	あまり圧迫しない
5	圧迫しない
6	全く圧迫しない
7	自分と関係ない／わからない

Q2 で 1-4.8-11 選択の方のみ

Q18. あなたは毎月の給与明細について、次の金額項目を見えていますか。それぞれについて確認しているかどうかをお選びください。※「4.個別の税や保険料の金額」は、何か一つも見えていたら「1.見えている」を選択してください。(シングル回答マトリックス)

	(質問アイテム)
1	総支給額
2	差引支給額(銀行振り込み金額、手取り金額)
3	控除合計額
4	個別の税や保険料の金額
	(選択肢)
1	見えている
2	見えていない

Q18.4 で 1 選択 または Q2 で 5 選択の方のみ

Q19. 毎月の税と保険料について、どの程度金額をご存知ですか。それぞれの税および保険料についてあてはまるものをお選びください。(シングル回答マトリックス)

(質問アイテム)	
1	所得税
2	住民税
3	健康保険料
4	年金保険料
5	介護保険料
6	雇用保険料
(選択肢)	
1	確認していない(金額を答えることができない)
2	ある程度把握している(金額を答えることができる)
3	詳細に把握している(具体的に金額を答えることができる)

Q20. あなたは国に納める税と保険料について、どんなイメージを持っていますか。あてはまるものをすべてお答えください。(複数回答可)(マルチ回答マトリックス)

(質問アイテム)	
1	税
2	保険料
(選択肢)	
1	国や社会づくりのためのもの
2	相互に助け合う仕組み
3	国がとりたてる
4	国が使い方を決める
5	払う意義はわかる
6	払う意義がわからない
7	自分に利益が還元される
8	弱者に利益が還元される
9	払えるなら払う
10	なるべく払いたくない
11	この中には一つもない

Q21. 次の1～20の中から、税が自分の生活に還元されていると感じる公共サービスをすべてお選びください。また、そのなかからあなたが強く実感するものを3つまでお選びください。(マルチ回答マトリックス)

(質問アイテム)	
1	税が生活に活かされていると実感するもの(いくつでも)
2	強く実感するもの(3つまで)
(選択肢)	
1	年金
2	医療
3	救急医療
4	介護
5	保育サービス等、子育て支援
6	生活保護(障害や困窮時の生活支援)
7	地方への補助金
8	公共事業(道路、ダム等国土基盤整備)
9	防衛
10	警察
11	消防
12	防災
13	文化振興
14	スポーツ振興
15	教育
16	科学技術研究
17	公衆衛生(ゴミ対策・感染症予防等)
18	食料安定供給・農業の発展
19	エネルギー対策(石油ガス等の安定供給、研究等)
20	国際協力ODA(途上国への経済・技術協力)

Q22. 支払われた税により、Q21の公共サービスは賄われています。あなたの感覚に近いものをお選びください。(シングル回答)

1	払う税に比べて、公共サービスをとても受けている
2	払う税に比べて、公共サービスを受けている
3	払う税に比べて、公共サービスをまあ受けている
4	払う税と受ける公共サービスのバランスは同じ
5	払う税に比べて、公共サービスをあまり受けていない
6	払う税に比べて、公共サービスを受けていない
7	払う税に比べて、公共サービスを全く受けていない

Q23. 次の1～20のリストを見て、あなたがもっと国に税を投入して強化して欲しい公共サービス、逆に減らしても良いと思う公共サービスをそれぞれいくつか選んでください。(マルチ回答マトリックス)

	(質問アイテム)
1	国にもっと税を使って欲しい(いくつでも)
2	税を使うのは減らして欲しい(いくつでも)
	(選択肢)
1	年金
2	医療
3	救急医療
4	介護
5	保育サービス等、子育て支援
6	生活保護(障害や困窮時の生活支援)
7	地方への補助金
8	公共事業(道路、ダム等国土基盤整備)
9	防衛
10	警察
11	消防
12	防災
13	文化振興
14	スポーツ振興
15	教育
16	科学技術研究
17	公衆衛生(ゴミ対策・感染症予防等)
18	食料安定供給・農業の発展
19	エネルギー対策(石油ガス等の安定供給、研究等)
20	国際協力ODA(途上国への経済・技術協力)

Q24. 次の文章は、日本の財政と社会保障制度に関するものです。それぞれ、どの程度ご存知かお聞かせください。社会保障制度とは、国民からの税や保険料による収入を使って、国が医療費や介護費の大半を負担する制度です。退職後の年金の支給や、子どもの出産・保育の支援なども行います。(シングル回答マトリックス)

	(質問アイテム)
1	日本は国の運営に必要なお金(予算)に対して収入(税収)が不足しています。そこで国債を発行して、主に日本国内から資金を調達し補填しています。
2	地方政府等を含めた借金の総額は約1,300兆円で、日本のGDPの約2.4倍に相当します。日本以外の主要先進7カ国(G7)の地方政府等を含めた借金はGDPの約1.4倍未満です。日本の借金のGDP比率は先進国中最大です。
3	国民一人当たりの借金は約710万円と計算されます。
4	借金が最大の理由は社会保障費の増加です。寿命が延び高齢者人口が増えた結果、年金・医療・介護の支出が急速に増えています。
5	現在の社会保障費のための借金は長期間かけて返していきます。子や孫の世代の税収も返済に充てられるので、将来世代に借金の付け回しをすることになります。
6	近年、日本は年間予算の30%を社会保障に、25%を過去の借金返済に充てています。その結果、教育や防衛等、他の予算をほとんど増やせない状況です。
7	2025年、人口が多い団塊世代が後期高齢者(75才以上)になります。社会保障に必要なお金が更に増える見込みです。
8	2040年頃、人口が多い団塊ジュニア世代が65才以上になり、全人口の35%超が65才以上の高齢者になる見込みです。
9	65～74才を前期高齢者、75才以上を後期高齢者と呼びます。政府データによれば後期高齢者の医療費は前期高齢者の5倍、介護費は10倍になります。
10	現在、社会保障の充実・安定化と、そのための安定財源確保と財政健全化の同時達成を目指す「社会保障と税の一体改革」を行っています。
	(選択肢)
1	知らない／聞いたことが無い
2	聞いたことがある
3	よく知っている／よく聞く

Q25. 前述の日本の財政と社会保障費に関する記述について、これらの記述を読んだときのインパクトが高かった情報(「へえ」「なるほど」「そうなんだ」と言うような驚き、発見、関心の度合いが高かった情報)をいくつでも選んでください。また、インパクトが弱く感じた情報(驚き、発見、関心の度合いが低かった情報)があれば、いくつでも選んでください。(マルチ回答マトリックス)

	(質問アイテム)
1	インパクトが強い情報(いくつでも)
2	インパクトが弱い情報(いくつでも)
	(選択肢)
1	日本は国の運営に必要なお金(予算)に対して収入(税収)が不足しています。そこで国債を発行して、主に日本国内から資金を調達し補填しています。
2	地方政府等を含めた借金の総額は約1,300兆円で、日本のGDPの約2.4倍に相当します。日本以外の主要先進7カ国(G7)の地方政府等を含めた借金はGDPの約1.4倍未満です。日本の借金のGDP比率は先進国中最大です。
3	国民一人当たりの借金は約710万円と計算されます。
4	借金が最大の理由は社会保障費の増加です。寿命が延び高齢者人口が増えた結果、年金・医療・介護の支出が急速に増えています。
5	現在の社会保障費のための借金は長期間かけて返していきます。子や孫の世代の税収も返済に充てられるので、将来世代に借金の付け回しをすることになります。
6	近年、日本は年間予算の30%を社会保障に、25%を過去の借金返済に充てています。その結果、教育や防衛等、他の予算をほとんど増やせない状況です。
7	2025年、人口が多い団塊世代が後期高齢者(75才以上)になります。社会保障に必要なお金が更に増える見込みです。
8	2040年頃、人口が多い団塊ジュニア世代が65才以上になり、全人口の35%超が65才以上の高齢者になる見込みです。
9	65～74才を前期高齢者、75才以上を後期高齢者と呼びます。政府データによれば後期高齢者の医療費は前期高齢者の5倍、介護費は10倍になります。
10	現在、社会保障の充実・安定化と、そのための安定財源確保と財政健全化の同時達成を目指す「社会保障と税の一体改革」を行っています。

Q26. 以下の5つの記述について、あなたの意見に近いものを選んでください。(2極選択マトリックス)

	(質問アイテム)
1	日本の財政が苦しくなった主な理由は社会保障費の増加である - 日本の財政が苦しくなった主な理由は社会保障費の増加ではない。
2	社会保障制度の充実を望む - 社会保障制度に必ずしも充実を望まない
3	社会保障に使われるなら、私は税や保険料を今より多く払っても良い - 社会保障に使われるとはいえ、私は税や保険料を今より多く払いたくない
4	今後、経済成長によって税収は増えると思う - 今後、経済成長によって税収は増えないと思う
5	財源を補うために、国は借金をしても良い - 財源を補うためとはいえ、国は借金をすべきでない
	(選択肢)
1	とても左に賛成
2	左に賛成
3	やや左に賛成
4	どちらともいえない
5	やや右に賛成
6	右に賛成
7	とても右に賛成

Q27.財政状況を改善するには、「経済成長によって税収を増やしなが、支出の無駄の削減や効率化を行い(歳出改革)、必要な増税を実施する(税制改革)」この3つを同時に行っていく必要があります。その中で、もし一つ選ぶとしたら、あなたはどれが現実的な策だと思いますか。(シングル回答)
1 経済成長によって、自然に税収を増やすのが良いと思う
2 歳出改革によって、支出を減らすのが良いと思う
3 税制改革によって、税収を増やすのが良いと思う

Q28.あなたは、Q24にあった10個の日本の財政と社会保障費に関する記述のような情報を、今後も知っておきたいと思いませんか。(シングル回答)
1 大いに知っておきたい
2 知っておきたい
3 まあ知っておきたい
4 どちらともいえない
5 あまり知りたくないと思う
6 知りたくないと思う
7 全く知りたくないと思う

Q29.あなたの日ごろの情報源をすべてお選びください。また、「財政や社会保障、政治・経済等」に関する情報源も同様にすべてお選びください。(マルチ回答マトリックス)
(質問アイテム)
1 日ごろの情報源
2 「財政や社会保障、政治・経済等」に関する情報源
(選択肢)
1 テレビ
2 ラジオ
3 新聞
4 雑誌
5 交通広告(電車やバス、タクシーなどのスペースを利用した広告)
6 屋外広告(電柱広告、広告塔、ネオン、電気看板など)
7 インターネット広告(Yahoo! JAPANのような検索サイトのトップページに掲載されたり、キーワード検索に連動して配信される広告、また動画広告など)
8 フリーペーパー
9 パンフレット、リーフレット、ポスターなど() (自由記入任意)
10 官公庁(国)や地方自治体(都道府県、市町村)の広報誌
11 ニュース・情報サイト、ニュースアプリ(東洋経済オンライン、Yahoo!ニュース、LINE NEWSなどのパソコンやスマートフォンから閲覧可能なニュース)
12 該当する分野のホームページ
13 官公庁(国)や地方自治体(都道府県、市町村)のホームページ() (自由記入任意)
14 LINE、Twitter、Facebook等のSNSからの情報
15 官公庁(国)や地方自治体(都道府県、市町村)が発信しているSNS() (自由記入任意)
16 該当する分野の専門書
17 専門家による講演・講座など
18 家族・親せきの話
19 友人・知人の話
20 町内会・自治会などのイベントや集会
21 勤務先のイベントや会議
22 その他のイベント
23 学校の授業
24 その他() (自由記入必須)
25 入手していない

Q30.あなたは、日本の財政、予算、税のしくみ、税の使い道等を理解してもらうために、どのような機会を利用しての取り組み(広報活動)が必要だと思いますか。(複数選択可)(マルチ回答)
1 テレビ
2 ラジオ
3 新聞
4 雑誌
5 交通広告(電車やバス、タクシーなどのスペースを利用した広告)
6 屋外広告(電柱広告、広告塔、ネオン、電気看板など)
7 インターネット広告(Yahoo! JAPANのような検索サイトのトップページに掲載されたり、キーワード検索に連動して配信される広告、また動画広告など)
8 フリーペーパー
9 パンフレット、リーフレット、ポスターなど(機関または名称)() (自由記入任意)
10 官公庁(国)や地方自治体(都道府県、市町村)の広報誌
11 ニュース・情報サイト、ニュースアプリ(東洋経済オンライン、Yahoo!ニュース、LINE NEWSなどのパソコンやスマートフォンから閲覧可能なニュース)
12 該当する分野のホームページ
13 官公庁(国)や地方自治体(都道府県、市町村)のホームページ(機関またはホームページの名称)() (自由記入任意)
14 LINE、Twitter、Facebook等のSNSからの情報
15 官公庁(国)や地方自治体(都道府県、市町村)が発信しているSNS(機関またはSNSの名称)() (自由記入任意)
16 該当する分野の専門書
17 専門家による講演・講座など
18 家族・親せきの話
19 友人・知人の話
20 町内会・自治会などのイベントや集会
21 勤務先のイベントや会議
22 その他のイベント
23 学校の授業
24 その他(具体的に)() (自由記入必須)
25 取り組み(広報活動)は必要ない

ご協力ありがとうございました

2 全体の結果

2-1 結果の要約

6000 サンプルの回答結果は以下の通り。(小数点以下、割愛している)

■ 財政関連用語の理解度

- ・ 「公共サービス」「財政」等、20の財政関連用語について「内容を人に説明できるくらい詳しい」との回答は各用語とも4~17%程度。「内容をまあ知っている」が16~50%程度。「言葉を聞いたことがある程度」か「言葉自体を知らない」が30~80%と回答範囲が広い。
- ・ 最も理解度が高い用語は「軽減税率」で、「人に説明できるくらい詳しい」が17%、「内容をまあ知っている」が50%、「言葉を聞いたことがある程度」が28%、「言葉自体を知らない」が5%だった。
- ・ 最も理解度が低い用語は「プライマリーバランス」で、「人に説明できるくらい詳しい」が4%、「内容をまあ知っている」が16%、「言葉を聞いたことがある程度」37%、「言葉自体を知らない」が43%。

■ 日本の財政に対する認識

- ・ 現在の日本の財政状況について「とても安心している」~「とても不安を感じている」の7段階で意識を聞いたところ、「安心している」という肯定的回答は総合で7%、「不安を感じている」の否定的回答は総合で77%、「どちらとも言えない」は16%と、4人に3人が否定的な回答をしている。
最も否定的な回答である「とても不安を感じている」は25%と、4人に1人が最も否定的な回答をしている。
- ・ 「不安を感じている理由」としては、「国の予算の使い方に無駄が多そうだから」が58%で最多、次いで「財政赤字が続いているから」が55%、「子供や孫などの将来世代に国の借金の負担を先送りしているから」が54%、「自分の年金が減額される／受け取れない可能性がありそうだから」が53%、「人口における現役世代の割合が減っているから」が52%。
- ・ 10年後の日本の財政について、「今よりとても良い状態になっている」~「今よりとても厳しい状態になっている」の7段階で意識を聞いたところ、「今より良い状態になっている」の肯定的回答は総合で5%、「今より厳しい状態になっている」の否定的回答は総合で79%、「今と変わらない」が16%。現状を不安視する者が多いが、将来については5人に4人が厳しいとみている。
- ・ 「今より厳しい状態になっている」と感じる理由は、「少子高齢化で働く人の数が減って税収も減りそうだから」が67%で最多。次いで、「高齢者の増加が様々な影響を与えそうだから」が61%。現役で働ける人口が減少していくことが、前回に引き続き不安の大きな理由となっている。
- ・ 10年後の日本の財政は「今と変わらない、あるいは良い状態になる」と感じる理由としては、「借金(国債)は日本国内で消化されていて、財政破綻の懸念は少なそうだから」が19%で最多。次いで「働き方改革や技術革新などで生産性が向上しそうだから」「社会保障費の増加を抑えたり、減らしたりする政策が進みそうだから」が17%。全体に回答率が低く分散しており、こちらも引き続き強い理由は見られない。

■ 税と保険料についての理解度と認識

- ・ 「所得税」「住民税」等の12の税と保険料の名称に関する認知理解度は、全体的に財政関連用語の認知理解度より高かった。
- ・ 「消費税」が最も理解度が高く、「内容を人に説明できるくらい詳しい」が28%、「内容をまあ知っている」が60%、「名前を聞いたことがある程度」10%、「名前自体を知らない」2%であった。
- ・ 「国際観光旅客税」が最も理解度が低く、「内容を人に説明できるくらい詳しい」が5%、「内容をまあ知っている」が25%、「名前を聞いたことがある程度」38%、「名前自体を知らない」33%と、3人に1人はまだ名前自体を知らない。
これらの税や保険料の内、生活圧迫感が最も強く感じられていたのは「消費税」で、「生活を圧迫する」が83%あった。

- ・ 給与明細項目の「個別の税や保険料の金額」について、「1つ以上を見る」と答えた人は70%。約30%はこれらを見ていない。
- ・ 毎月の税や保険料の支払い金額の把握に関して、どの税や保険料についても「詳細に金額を把握している」は20%かそれ以下で、「確認していない」が20~30%あった。「ある程度把握している」が50~60%。
- ・ 「税と保険料の各々のイメージ」については、「保険料」は「払う意義はわかる」50%、「相互に助け合う仕組み」44%、「なるべく払いたくない」「払えるなら払う」29%。対して「税」は「払う意義はわかる」54%、「国や社会づくりのためのもの」52%、「国が使い方を決める」48%、「国がとりたてる」46%と続き、「なるべく払いたくない」44%、「払えるなら払う」29%。
「保険料」は個人レベルの負担と受益の関係が認識されているのに対して、「税」は「国が中心的に扱っているもの」というイメージで、「払う意義はわかる」としながらも、払う意欲は低め。

■ 税の負担と受益の認識

- ・ 「受益を感じる公共サービス」は「医療」が他より高い。
- ・ 税の負担と公共サービスの受益に関して、「払う税以上に公共サービスを受けていると感じる」は22%。
「払う税に反して公共サービスを受けていないと感じる」は63%。「受益と負担はバランスがとれている」は15%。
- ・ 「今後も税の投入で強化してほしい公共サービス」は「医療」「年金」「教育」「保育サービス」「介護」「防災」「救急医療」等。
- ・ 「減らしても良い公共サービスは」は「国際協力ODA」「生活保護」「防衛」「スポーツ振興」等。

■ 社会保障費と財政の関係の理解度

- ・ 社会保障と財政に関する10のセンテンスを提示して「よく知っている/よく聞く」「聞いたことがある」「知らない」の3段階で聞いたところ、認知が高かったセンテンスは、「2025年、人口が多い団塊世代が後期高齢者になり、社会保障に必要なお金が更に増える見込み」「借金が最大の原因は社会保障費の増加。寿命が延び高齢者人口が増えた結果、年金・医療・介護の支出が急速に増えている」「国の運営に必要なお金に対して収入が不足しているため、国債を発行し、主に日本国内から資金を調達し補填している」で、「よく知っている/よく聞く」が各25%超。
 - ・ 「知らない」が最も多かったのは、「年間予算の30%を社会保障に、25%を過去の借金返済に充てているため、教育や防衛等、他の予算をほとんど増やせない状況」で45%。次いで「借金の総額は約1,300兆円で、GDPの2.4倍。日本の借金のGDP比率は先進国中最大」で43%。
 - ・ 「発見や驚きなどのインパクトを感じたセンテンス」は、高い順に「後期高齢者になると医療費、介護費が前期高齢者の5~10倍に増加」が49%、「一人あたりの借金は約710万円」が46%。これらは、まだ良く知られていないセンテンスでもある。
 - ・ 日本の財政に対する回答者の意見は、

「社会保障費の増加が原因」に対して	「理解できる」	37%	⇔	「理解できない」	27%
「社会保障の充実」に対して	「望む」	56%	⇔	「必ずしも望まない」	14%
「社会保障の為に税や保険料を今より多く」	「払っても良い」	24%	⇔	「払いたくない」	38%
「今後、経済成長によって税収は」	「増えると思う」	23%	⇔	「増えないと思う」	45%
「国は借金をしても良い」に対して	「そう思う」	19%	⇔	「すべきでない」	44%
- 引き続き「社会保障は望むが負担はしたくない、借金も良くない」という傾向は変わっていない。
- ・ 財政健全化の為に、経済成長による自然の税収増、歳出改革、税制改革の中で敢えて一つ選ぶとしたら、歳出改革による歳出削減が57%、経済成長による自然税収増が32%、税制改革による税収増は12%だった。
 - ・ 日本の財政状況を知る必要性については、72%が「知っておく必要を感じる」と回答。

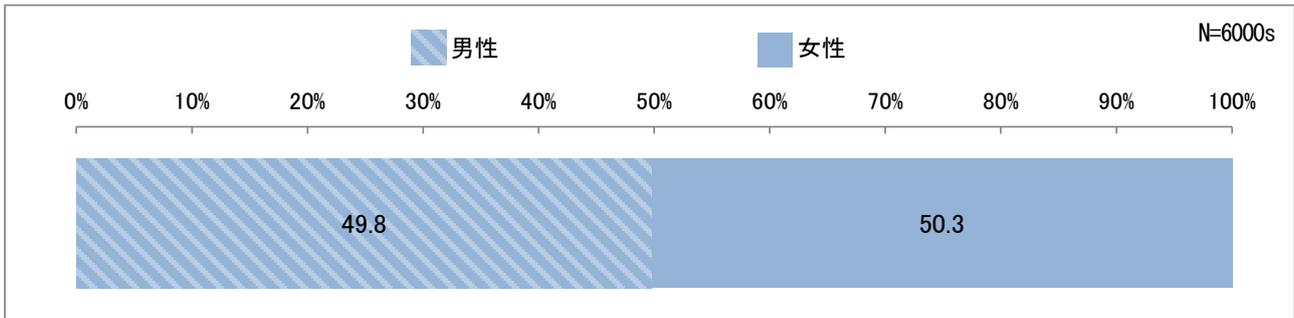
■ 情報源（日頃・財政関係）／広報活動への取り組みについて

- ・ 日頃の情報源は、「テレビ」が最も高く 84%。次いで「インターネット広告」が 45%、「ニュース・情報サイト、ニュースアプリ」が 44%、「新聞」が 40%。
- ・ 対して、「財政や社会保障、政治・経済等」に関する情報源は、「テレビ」が最も高く 69%。次いで「新聞」が 34%、「ニュース・情報サイト、ニュースアプリ」が 32%、「インターネット広告」が 25%。
- ・ 必要な広報活動への取り組み方は、「テレビ」が最も高く 77%。次いで「新聞」が 36%、「インターネット広告」「ニュース・情報サイト、ニュースアプリ」が 31%で、ここまですべて3割超。

2-2 回答者のプロフィール

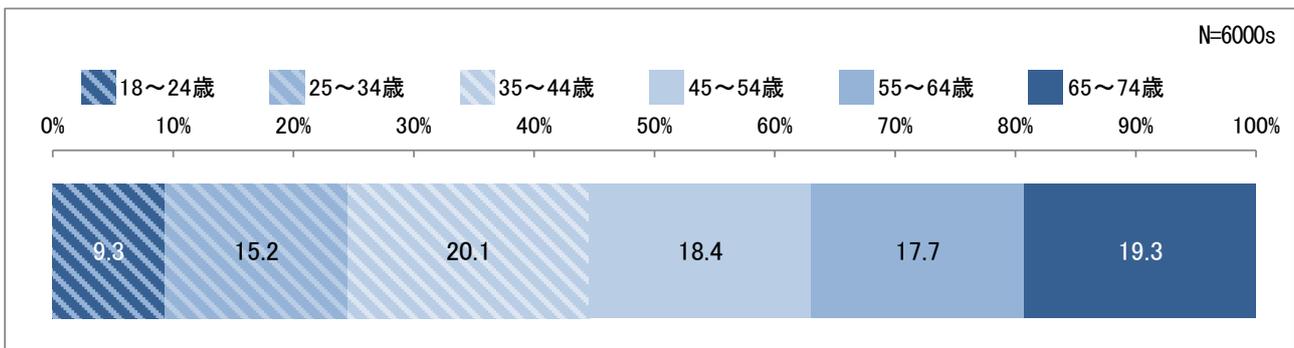
・有効回答総数は 6000 サンプル、回答者のデモグラフィックプロフィールは以下の通り。

■ 性別



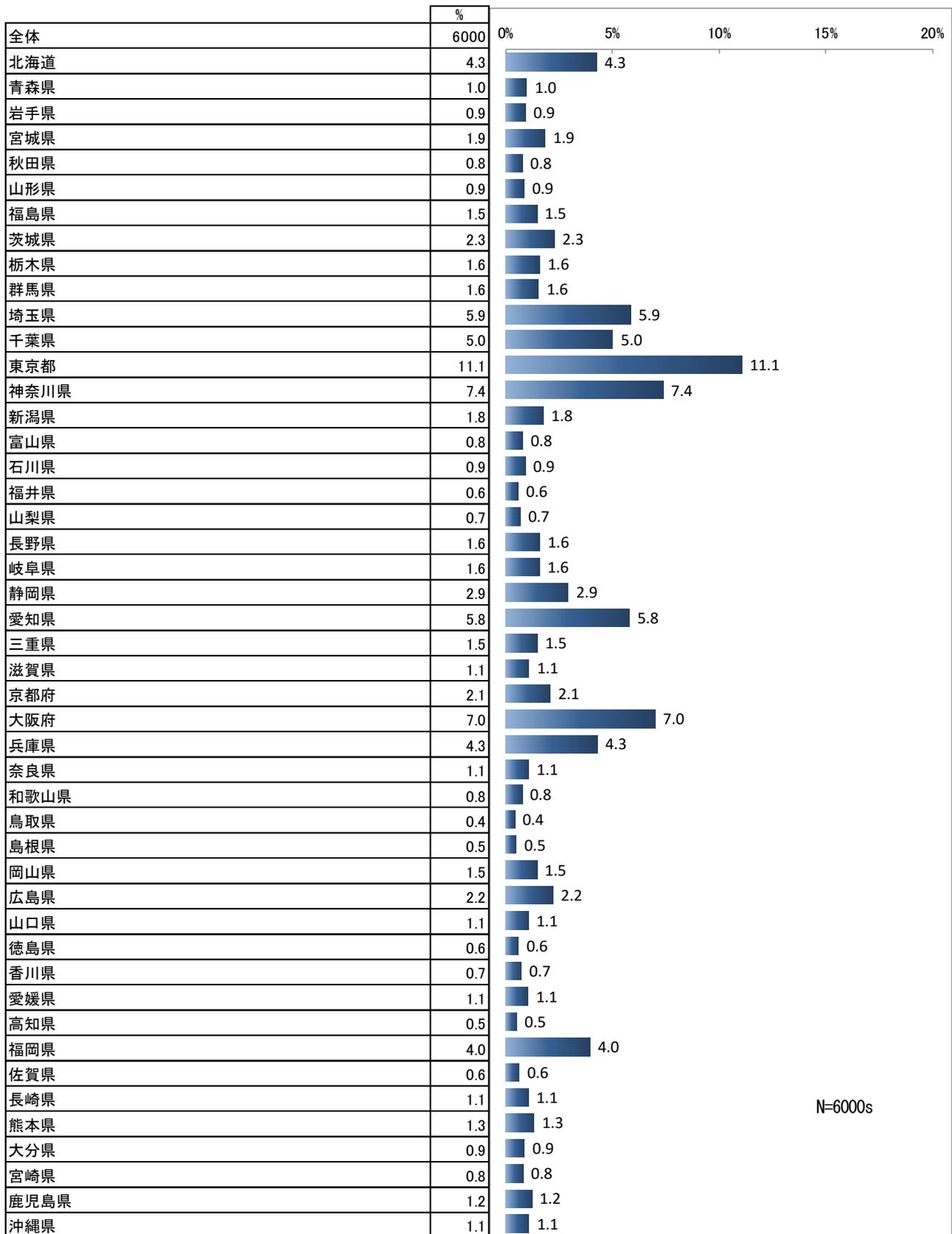
・回収総数 6000 サンプルの内、「男性」が 49.8% で「女性」は 50.3%。(小数点第 2 位は四捨五入している)

■ 年齢

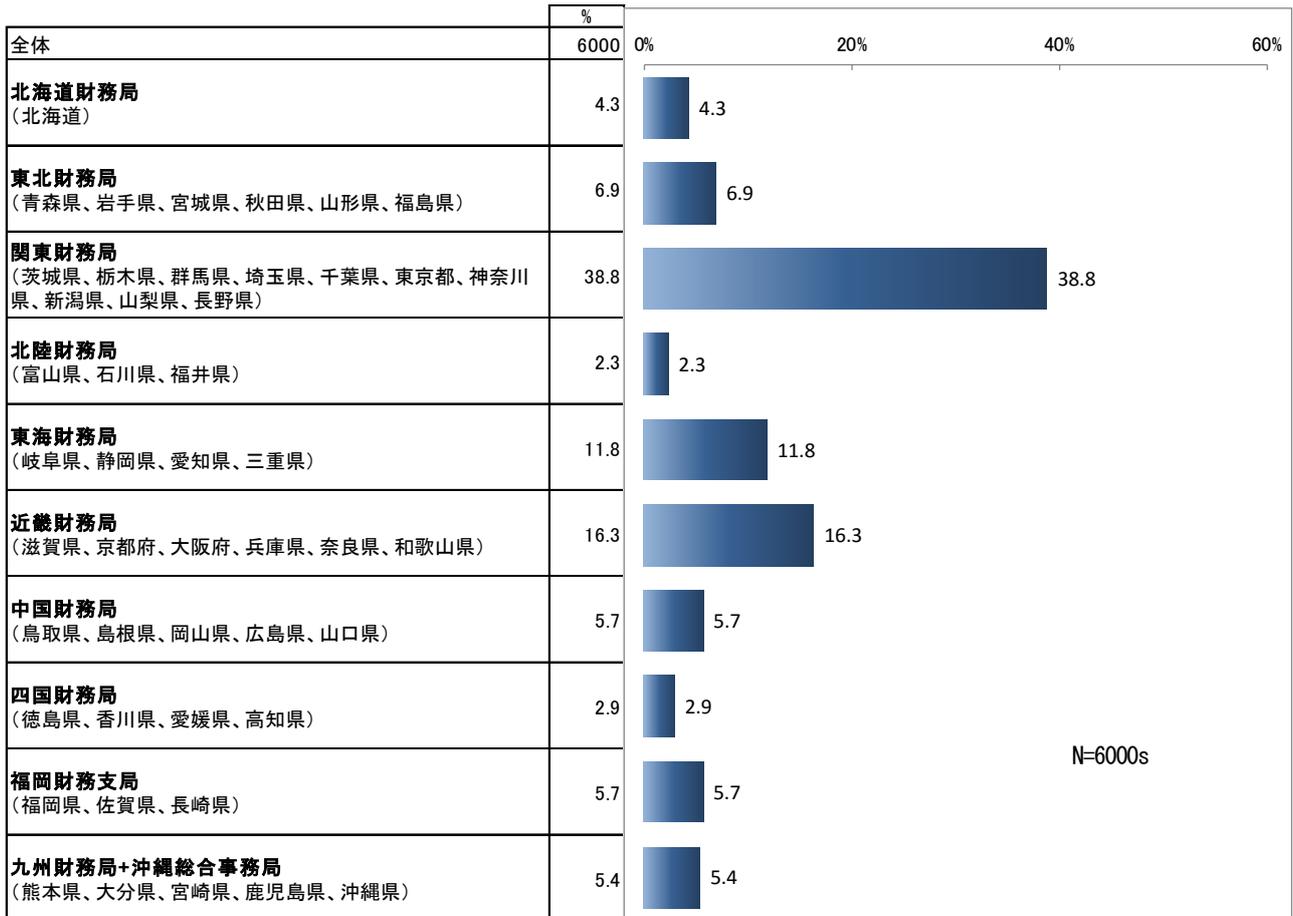


・当初の割り付けは：
「18~24歳」9.3%、「25~34歳」15.2%、「35~44歳」20.1%、
「45~54歳」18.4%、「55~64歳」17.7%、「65~74歳」19.3%であった。
・回収結果はこの割り付けと同じ比率になっており、日本の年齢別構成比を反映している。

■ 都道府県 (Q1. あなたのお住まいの都道府県をお答えください。(回答はひとつ))

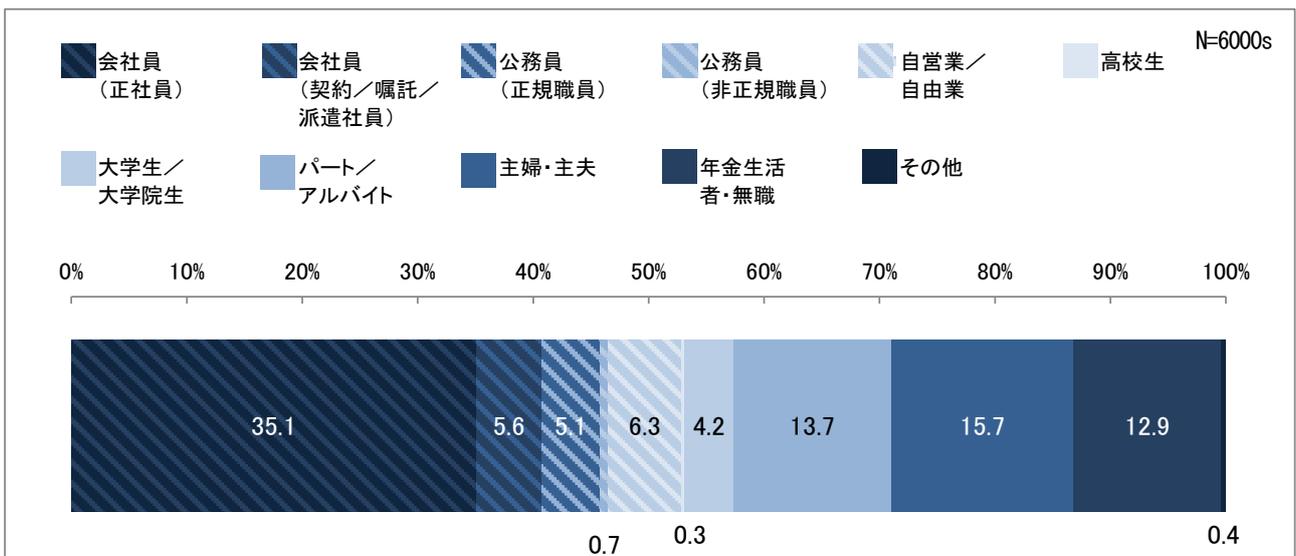


■ 地域（財務局・財務支局の管轄区分による割り付け地域）



- ・当初の割り付けは：
 - 「北海道財務局」4.3%、「東北財務局」6.9%、「関東財務局」38.8%、
 - 「北陸財務局」2.3%、「東海財務局」11.8%、「近畿財務局」16.3%、
 - 「中国財務局」5.7%、「四国財務局」2.9%、「福岡財務支局」5.7%、
 - 「九州財務局+沖縄総合事務局」5.4%であった。
- ・回収結果もこの割り付けと同様になっており、日本の地域別構成比を反映している。

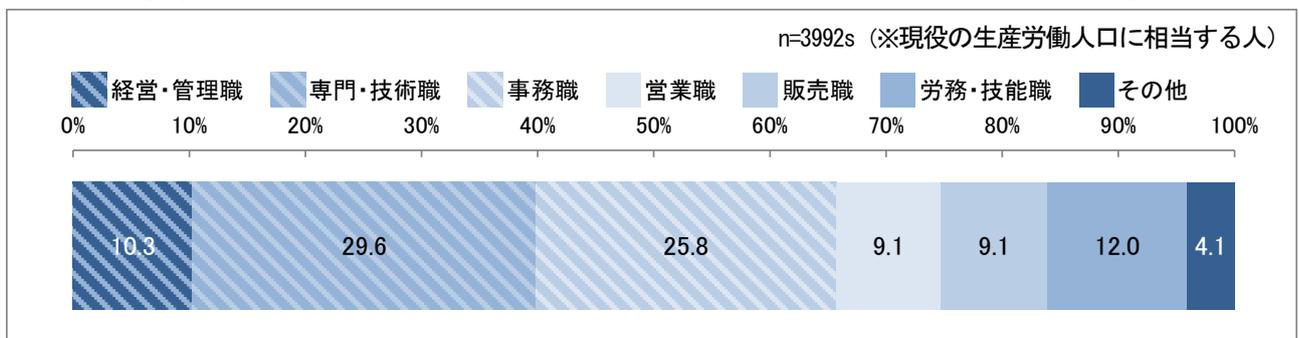
■ 職業 (Q2. あなたの現在のご職業をお答えください。(回答はひとつ))



・「会社員 (正社員)」が35.1%で最も高い。「会社員 (契約/嘱託/派遣社員)」5.6%、「公務員 (正規職員)」5.1%、「公務員 (非正規職員)」0.7%、「自営業/自由業」6.3%、「パート/アルバイト」13.7%。現役の生産労働人口に相当する人々は66.5%。
 ・「主婦・主夫(15.7%)」「年金生活者・無職(12.9%)」。これに「現役の高校生・大学生/大学院生」(4.5%)を加えて合計33.1%がいわゆる非生産労働人口となっている。

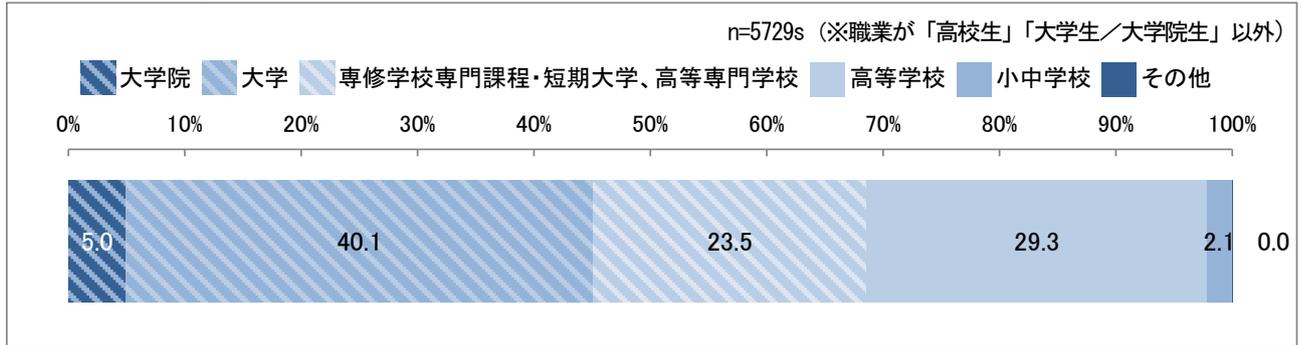
■ 職種 (Q3. あなたの現在の職種をお答えください。(回答はひとつ))

※職種が多岐にわたる場合は、あなたが従事する役割が最も大きいものをお選びください。



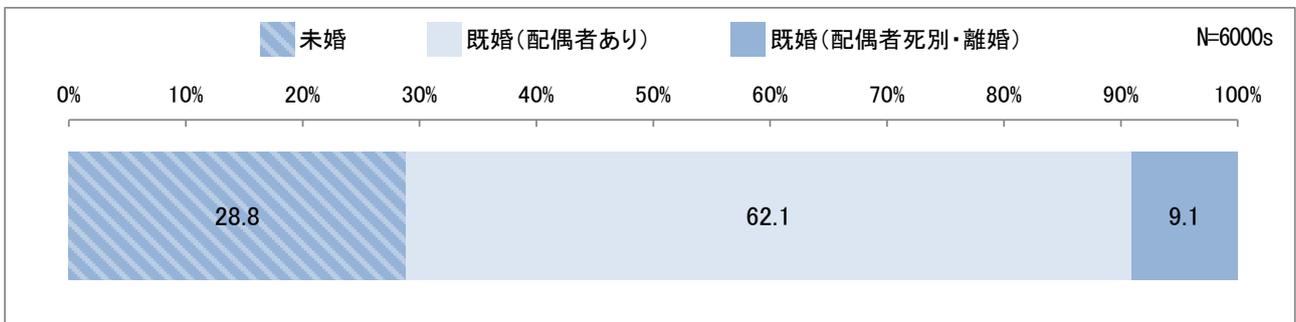
・有職者が従事する職種は「専門・技術職」が29.6%で最も多く、次いで「事務職」が25.8%。

■ 最終学歴 (Q4. あなたの最終学歴をお答えください。(回答はひとつ))



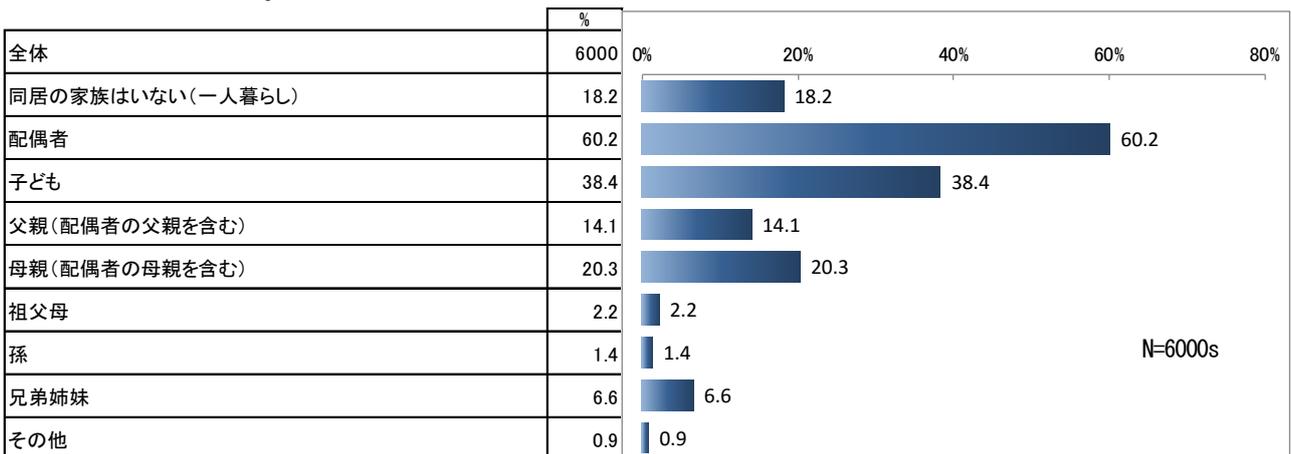
・「大学卒」が 40.1%で最も多く、次いで「高等学校卒」が 29.3%、「専修学校専門課程・短期大学卒、高等専門学校卒」が 23.5%。

■ 未既婚 (Q5. あなたの婚姻状況をお答えください。(回答はひとつ))



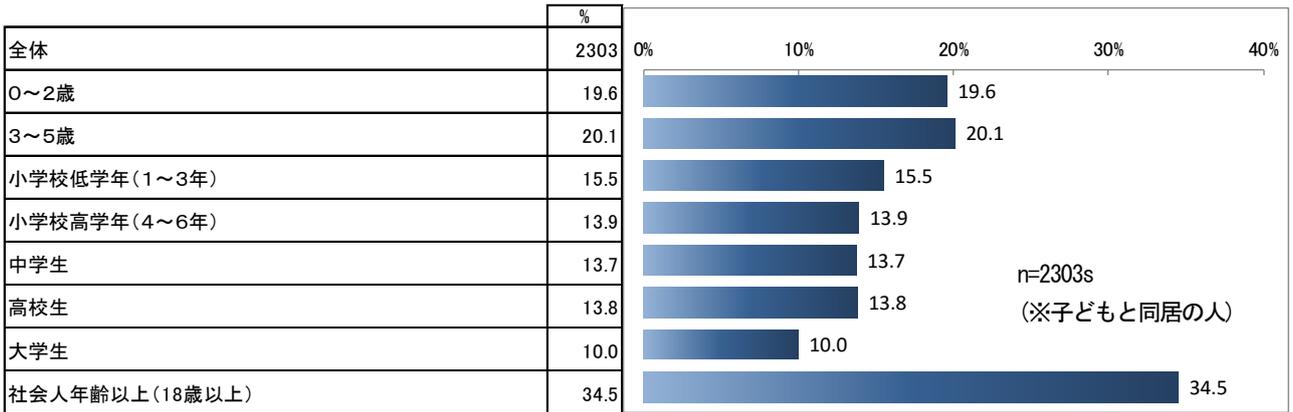
・「既婚(配偶者あり)」が 62.1%で最も高い。
 ・「未婚」が 28.8%、「既婚(配偶者死別・離婚)」が 9.1%。

■ 同居の家族 (Q6. あなたと同居しているご家族をすべてお答えください。(複数選択可))



・「配偶者」が 60.2%で最も高い。次いで「子ども(38.4%)」。
 ・「父親(配偶者の父親を含む)(14.1%)」に対して「母親(配偶者の母親を含む)(20.3%)」の方が高い。

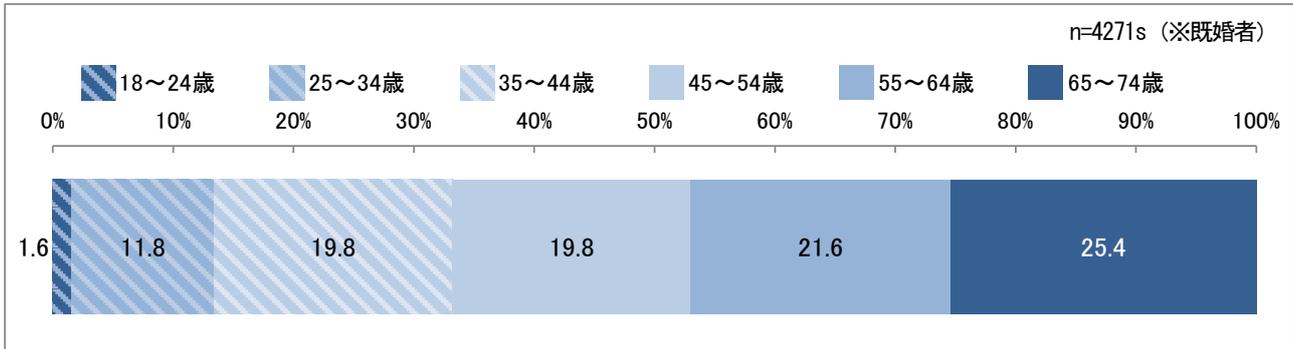
■ 同居の子供の年齢 (Q7. あなたが同居している子どもの年齢をすべてお答えください。(複数選択可))



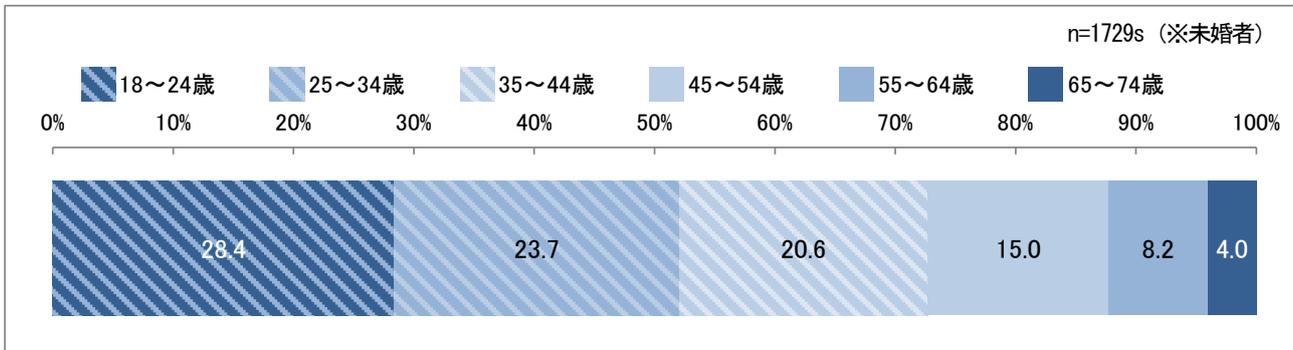
・「社会人年齢以上 (18 歳以上)」が 34.5%で最も多く、次いで「3～5歳(20.1%)」「0～2歳(19.6%)」。
 ・「社会人年齢以上 (18 歳以上)」の子どもとの同居が多い事から既婚者の年齢分布を見てみた。
 下のように、55 歳以上が 47.0%となっている。(未婚者の 55 歳以上は 12.2%)

参考として、以下に未既婚別の年齢内訳を示す。

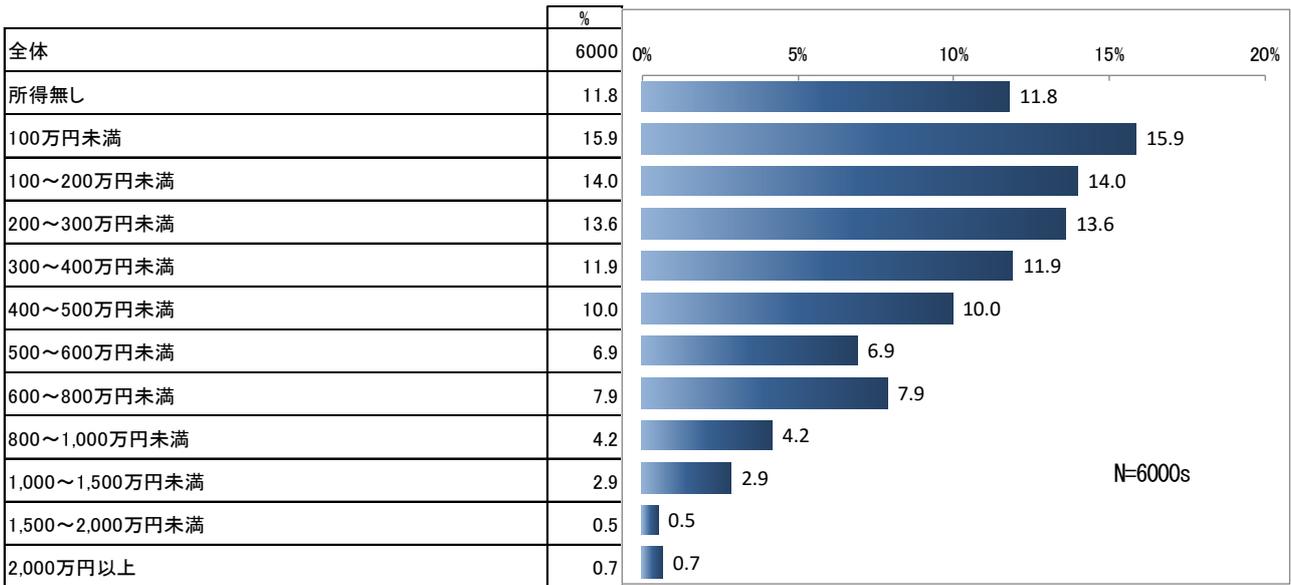
※既婚者年齢 (配偶者死別・離婚を含む)



※未婚者年齢

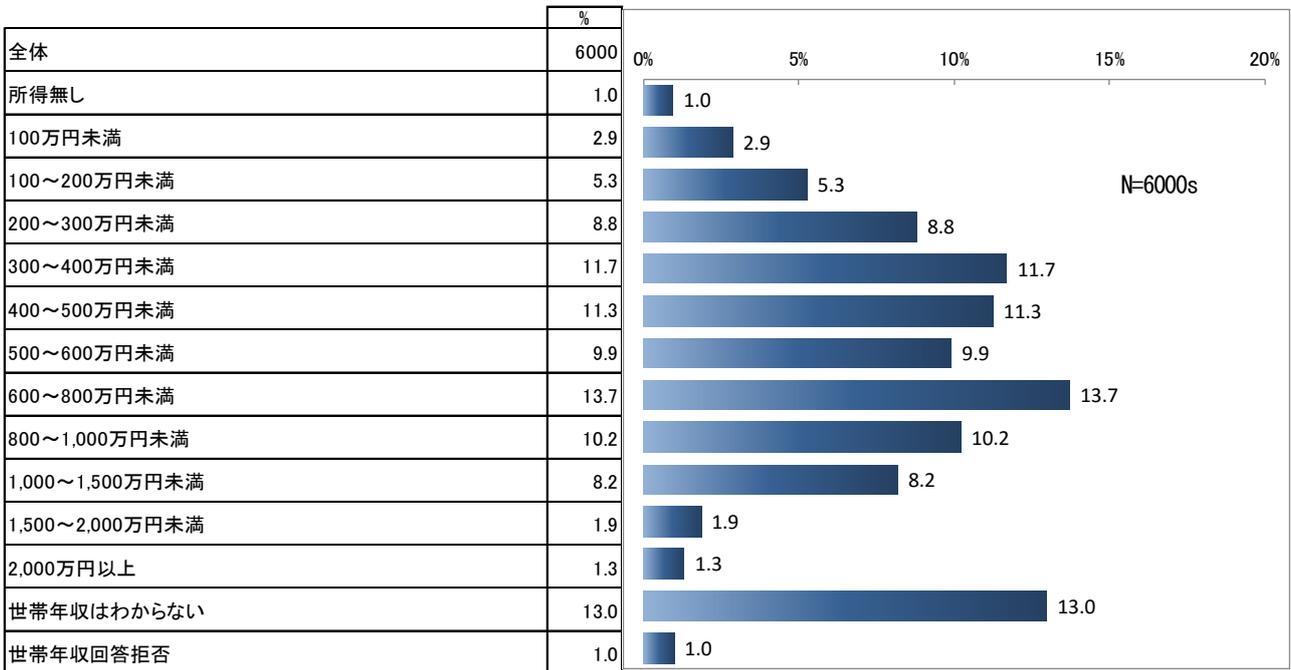


■ 個人年収 (Q8. あなたご自身の個人年収をお答えください。(回答はひとつ))



・「所得無し」が11.8%。この中には学生も含む。
 ・「100万円未満 (15.9%)」「100～200万円未満 (14.0%)」「200～300万円未満(13.6%)」。
 「所得無し」と「有所得者で個人年収300万円未満まで」で55.3%を占めている。

■ 世帯年収 (Q9. あなたの世帯の年収をお答えください。(回答はひとつ))



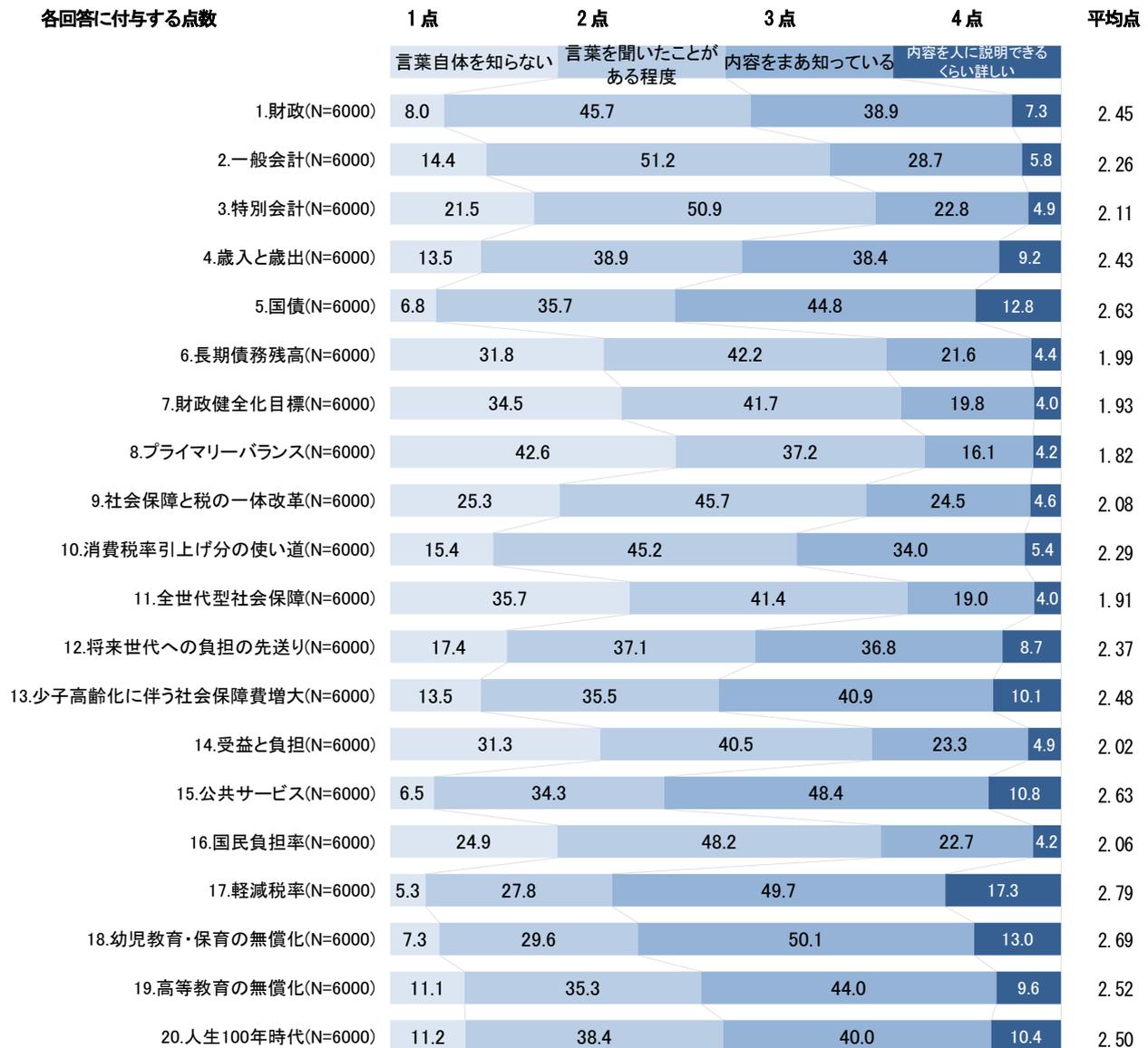
※「所得無し」は「学生×一人暮らし」の様な勤労所得を得ていない方や「無職×一人暮らし」を含む

・「600～800万円未満」が13.7%で最も多く、次いで「300～400万円未満(11.7%)」「400～500万円未満(11.3%)」が高い。
 ※「世帯年収はわからない(13.0%)」は学生などその場で答えられなかった者で、調査ではやむを得ず一定の割合で発生する。

2-3 全体結果の詳細

■ 財政関連用語の理解度

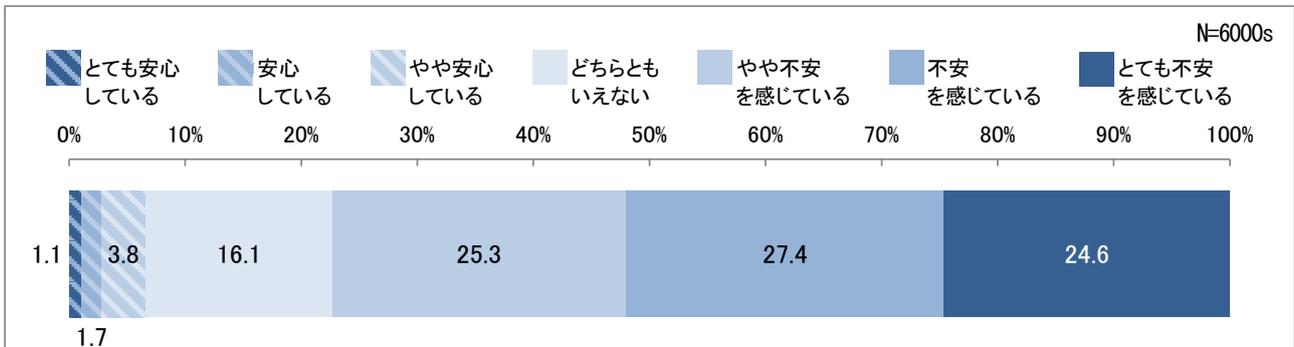
Q10. 日本の財政に関する以下の言葉について、それぞれ「言葉自体を知らない」から「内容を人に説明できるくらい詳しい」まで、どの程度ご存知ですか。あてはまるものをお選びください。(回答は各ひとつ)



- ・全体的に「内容を人に説明できるくらい詳しい」と答えた人は低い。
- ・「言葉を聞いたことがある程度」が最も高い。この部類に入るのは「1. 財政」「2. 一般会計」「3. 特別会計」「4. 歳入と歳出」「6. 長期債務残高」「7. 財政健全化目標」「9. 社会保障と税の一体改革」「10. 消費税率引上げ分の使い道」「11. 全世代型社会保障」「12. 将来世代への負担の先送り」「14. 受益と負担」「16. 国民負担率」。
- ・平均ポイントでは「17. 軽減税率 (2.79ポイント)」が最も高く、この言葉の認知・理解度は相対的に高いといえる。平均ポイントが2.00以下と低かったのは「8. プライマリーバランス (1.82ポイント)」、「11. 全世代型社会保障 (1.91ポイント)」、「7. 財政健全化目標 (1.93ポイント)」、「6. 長期債務残高 (1.99ポイント)」である。

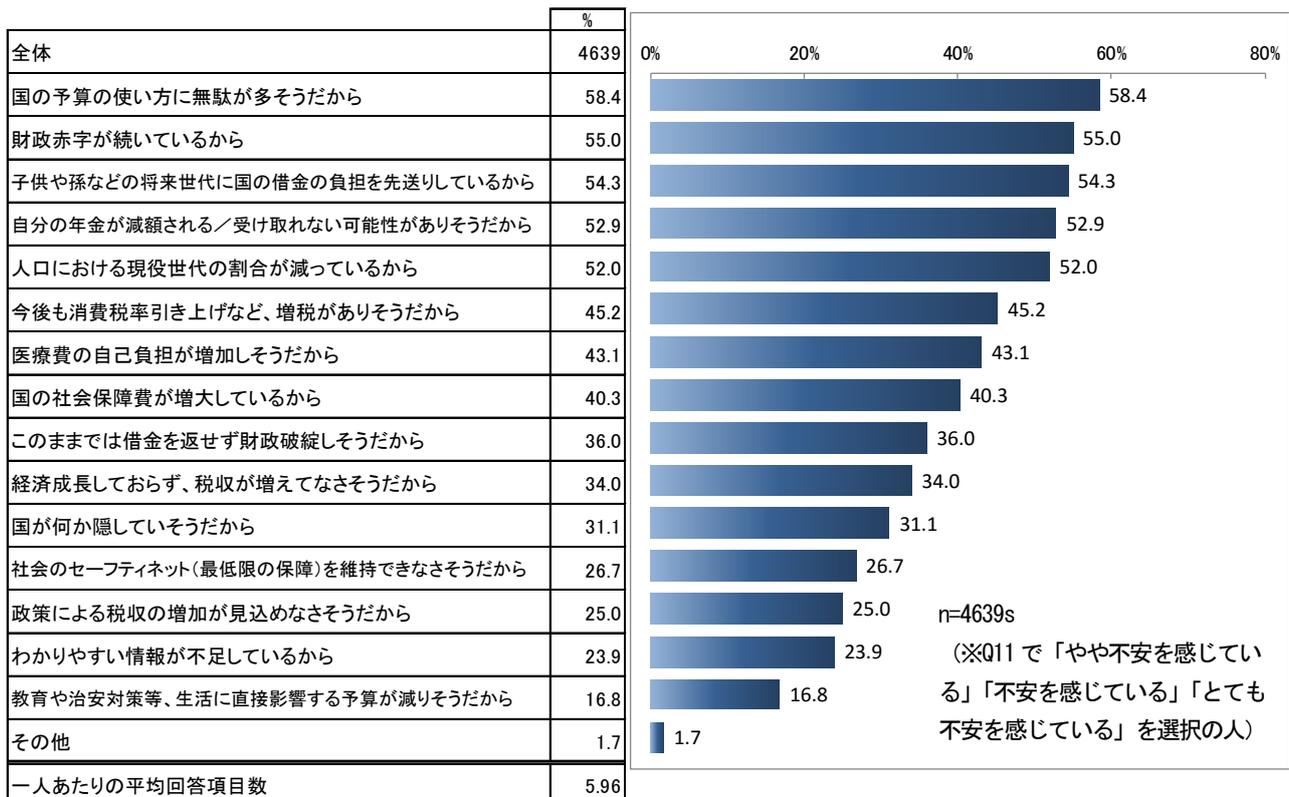
■日本の財政の現状認識

Q11. 国の収入と支出のバランスを「財政」と言います。あなたは現在の日本の財政状況について、どう感じていますか。あてはまるものをお選びください。(回答はひとつ)



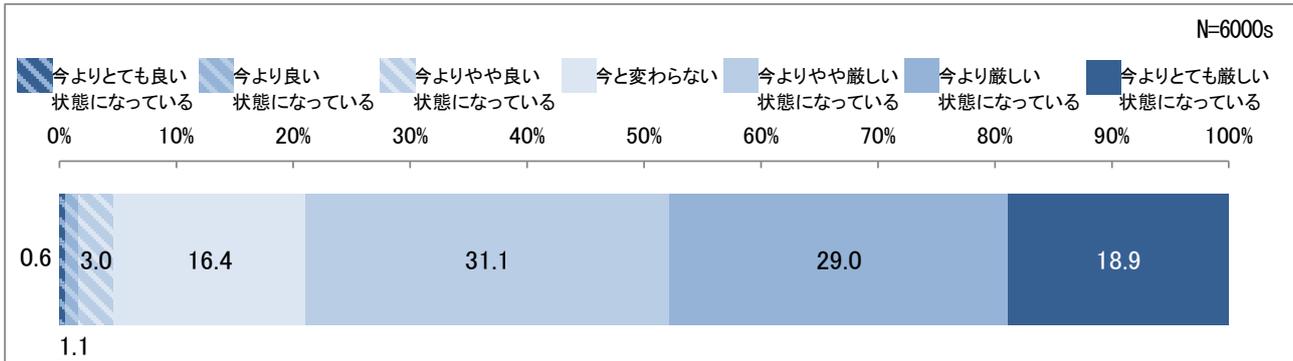
- ・全体に「安心している」という肯定的意見は総合で 6.6%。「不安を感じている」が総合で 77.3%、「どちらともいえない」が 16.1%。
- ・7段階評価で最も高いのは「不安を感じている (27.4%)」、次に高いのは「やや不安を感じている (25.3%)」。

Q12. 現在の財政状況に不安を感じている理由をお選びください。(複数選択可)



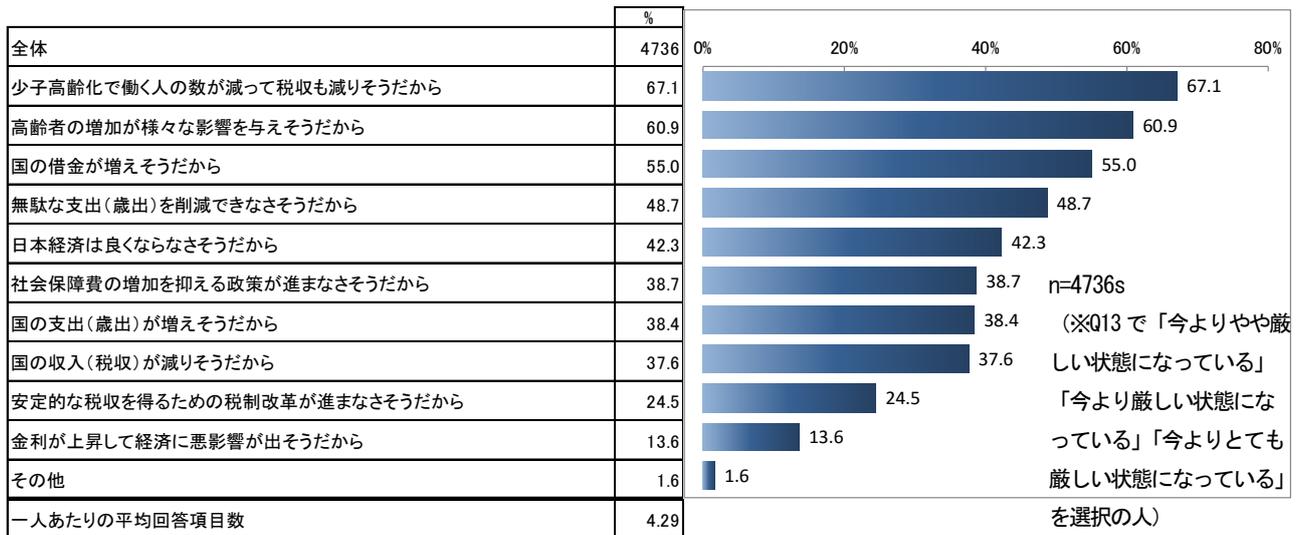
- ・「不安を感じている人(全体で 77.3%)」の理由は、「国の予算の使い方に無駄が多そうだから」が 58.4%で最も高く、次いで「財政赤字が続いているから (55.0%)」「子供や孫などの将来世代に国の借金の負担を先送りしているから (54.3%)」「自分の年金が減額される／受け取れない可能性がありそうだから (52.9%)」。

Q13. あなたは 10 年後の日本の財政はどうなっていると思いますか。あてはまるものをお選びください。
(回答はひとつ)



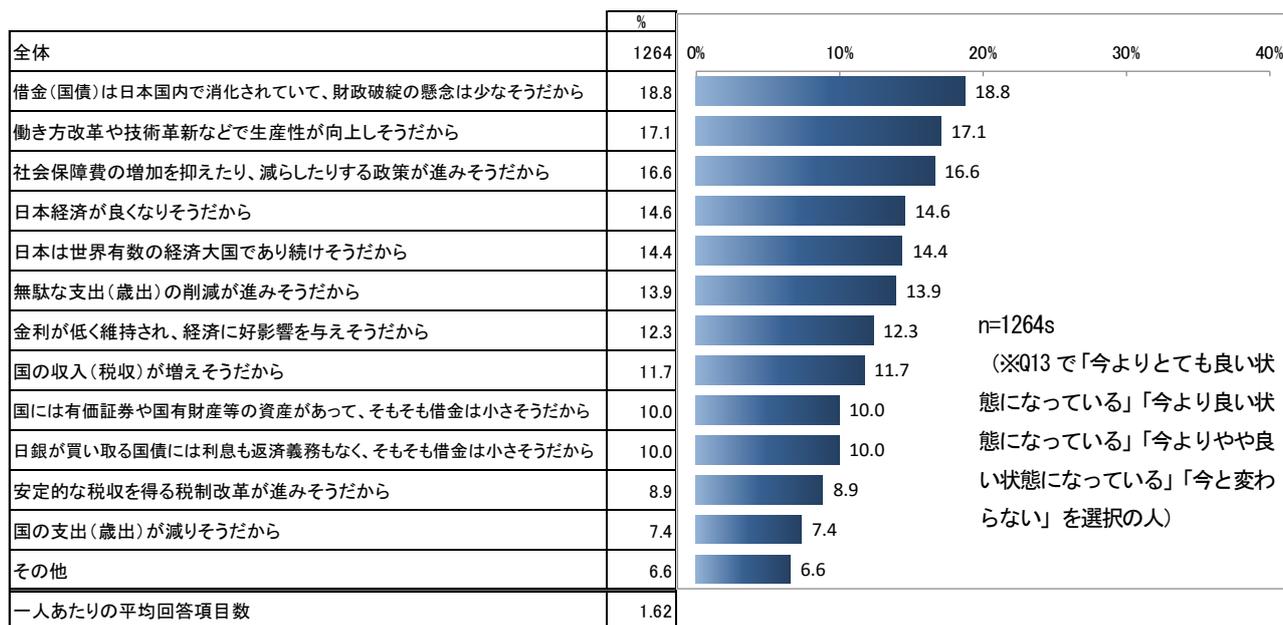
・7段階で「今より良い状態になっている」の肯定的な回答の総合は 4.7%、「今より厳しい状態になっている」の否定的な回答の総合は 79.0%。「今と変わらない」が 16.4%。
 ・最も高いのは「今よりやや厳しい状態になっている (31.1%)」。次いで「今より厳しい状態になっている (29.0%)」が続く。

Q14. 厳しい状態になると思う理由をお選びください。(複数選択可)



・「今より厳しい状態になっている(全体で 79.0%)」の理由は、「少子高齢化で働く人の数が減って税収も減りそうだから」が 67.1%で最も高い。次いで「高齢者の増加が様々な影響を与えそうだから (60.9%)」「国の借金が増えそうだから (55.0%)」。

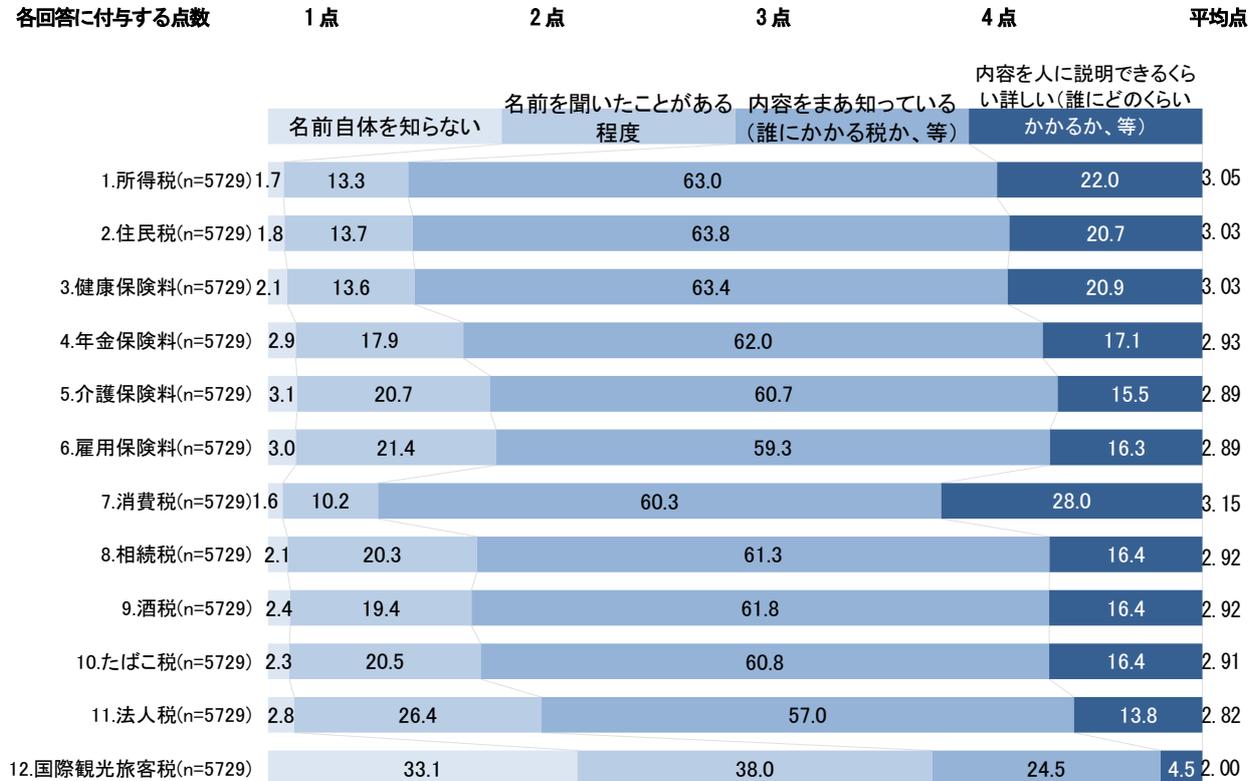
Q15. 今と変わらない／良い状態になると思う理由をお選びください。(複数選択可)



・「今より良い状態になっている」「今と変わらない」(併せて全体で21.1%)の理由は、「借金(国債)は日本国内で消化されていて、財政破綻の懸念は少なそうだから」が18.8%で最も高く、次いで「働き方改革や技術革新などで生産性が向上しそうだから(17.1%)」「社会保障費の増加を抑えたり、減らしたりする政策が進みそうだから(16.6%)」「日本経済が良くなりそうだから(14.6%)」「日本は世界有数の経済大国であり続けそうだから(14.4%)」「無駄な支出(歳出)の削減が進みそうだから(13.9%)」。

■税の負担と受益

Q16. あなたは次の税と保険料の名称や納税の対象者、税率などの制度の内容をどの程度ご存知ですか。それぞれの税および保険料についてあてはまるものをお選びください。(回答は各ひとつ)

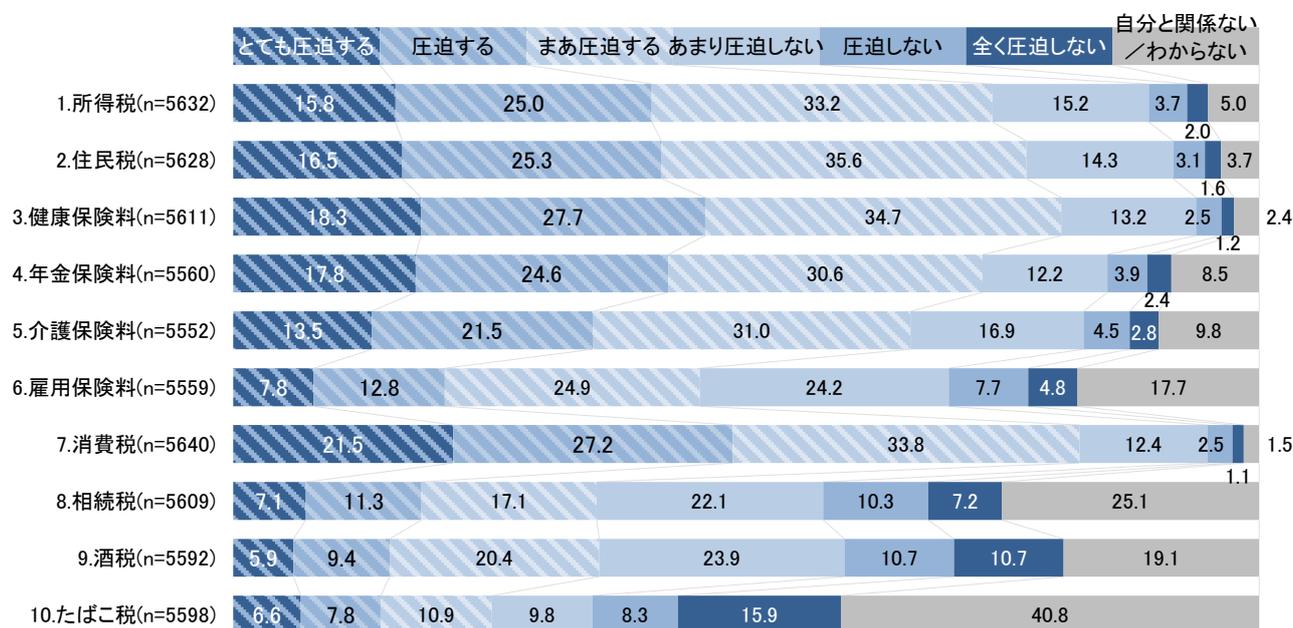


※n=(職業が「高校生」「大学生/大学院生」以外)

- ・税の名称と内容の認知理解度として平均点が最も高いのは、「7.消費税(3.15ポイント)」。28.0%の人が「内容を人に説明できるくらい詳しい」と回答。
- ・次に高いのは「1.所得税」「2.住民税」「3.健康保険料」でいずれも3.00ポイント超。
- ・認知理解度が低いのは「12.国際観光旅客税(2.00ポイント)」「11.法人税(2.82ポイント)」「5.介護保険料(2.89ポイント)」「6.雇用保険料(2.89ポイント)」。

Q17. あなたは、あなたご自身または世帯にかかる税と保険料についてどの程度、負担に感じていますか。それぞれの税と保険料について、生活費を「とても圧迫する」から「全く圧迫しない」までの中であてはまるものをお選びください。(回答は各ひとつ)

※未成年の方は酒税、たばこ税について「7.自分と関係ない／わからない」をお選びください。



※n= (Q16で「名前自体を知らない」以外を選択の人)

- ・税の生活圧迫感が最も強いのは「7. 消費税」。
- ・これに次いで「3. 健康保険料」「2. 住民税」「1. 所得税」「4. 年金保険料」が続く。
- ・「10. たばこ税」「8. 相続税」「9. 酒税」「6. 雇用保険料」は「自分と関係無い／わからない」が高い。

Q18. あなたは毎月の給与明細について、次の金額項目を見ていますか。それぞれについて確認しているかどうかをお選びください。(回答は各ひとつ)

※「4.個別の税や保険料の金額」は、何か一つでも見ていたら「1.見ている」を選択してください。

	見ている	見ていない
1.総支給額(n=5353)	76.5	23.5
2.差引支給額(銀行振り込み金額、手取り金額)(n=5353)	77.1	22.9
3.控除合計額(n=5353)	70.8	29.2
4.個別の税や保険料の金額(n=5353)	69.9	30.1

※n=(職業が「自営業/自由業」「高校生」「大学生/大学院生」以外)

- ・明細項目で「見ている」が最も高いのは「2. 差引支給額 (77.1%)」、次いで「1. 総支給額 (76.5%)」。
- ・「4. 個別の税や保険料の金額」を見ている人は約70%。約3割はこれらを見ていない。

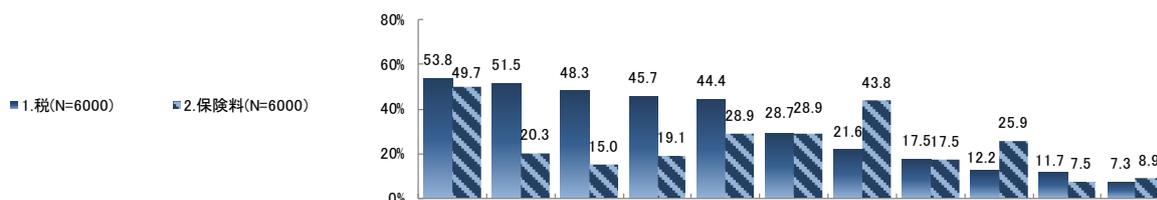
Q19. 毎月の税と保険料について、どの程度金額をご存知ですか。それぞれの税および保険料についてあてはまるものをお選びください。(回答は各ひとつ)

	確認していない (金額を答えることができない)	ある程度把握している (金額を答えることができる)	詳細に把握している (具体的に金額を答えることができる)
1.所得税(n=4089)	20.2	59.8	19.9
2.住民税(n=4088)	19.3	59.6	21.1
3.健康保険料(n=4077)	18.9	60.4	20.6
4.年金保険料(n=4057)	23.6	57.5	18.9
5.介護保険料(n=4056)	29.6	52.8	17.6
6.雇用保険料(n=4058)	31.4	53.1	15.5

※n=(職業が「自営業/自由業」でQ16で「名前自体を知らない」以外を選択の人 または Q18「個別の税や保険料の金額」を「見ている」選択でQ16で「名前自体を知らない」以外を選択の人)

- ・どの税や保険料についても「詳細に把握している」人は20%程度かそれ以下。「詳細に把握している」が最も多かったのは「2. 住民税」で21.1%、次いで「3. 健康保険料 (20.6%)」。
- ・それぞれの税や保険料について最も高いのが「ある程度金額を把握している (50~60%)」。
- ・「確認していない/金額を答えることができない」がどの税においても20~35%ある。「6. 雇用保険料」「5. 介護保険料」については約30%が支払っている金額を把握していない。

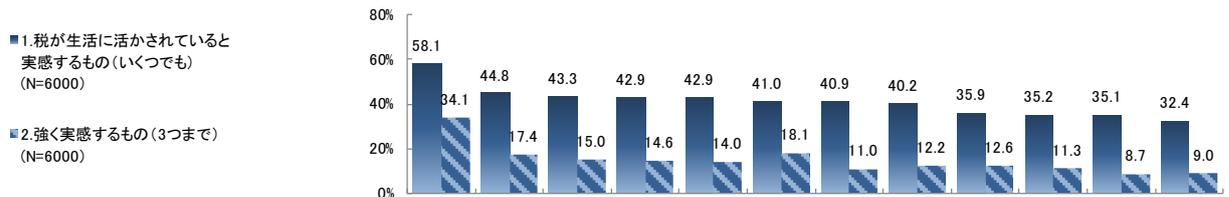
Q20. あなたは国に納める税と保険料について、どんなイメージを持っていますか。あてはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)



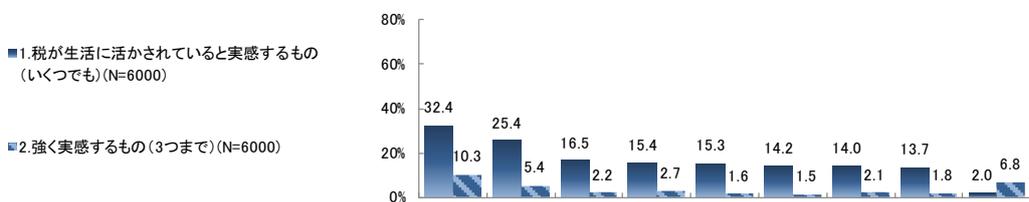
	N	払う意義はわかる	国や社会づくりのためのもの	国が使い方を決める	国がとりたてる	なるべく払いたくない	払えるなら払う	相互に助け合う仕組み	弱者に利益が還元される	自分に利益が還元される	払う意義がわからぬ	この中には一つもない	一人あたりの平均
1. 税	6000	53.8	51.5	48.3	45.7	44.4	28.7	21.6	17.5	12.2	11.7	7.3	3.35
2. 保険料	6000	49.7	20.3	15.0	19.1	28.9	28.9	43.8	17.5	25.9	7.5	8.9	2.56

- ・「1. 税」については、「払う意義はわかる」が 53.8%で最も高く、次いで「国や社会づくりのためのもの (51.5%)」。
- ・「2. 保険料」では、「払う意義はわかる」が 49.7%で最も高く、次いで「相互に助け合う仕組み (43.8%)」。
- ・「2. 保険料」は「払う意義はわかる」「相互に助け合う仕組み」「自分に利益が還元される」と個人レベルでの負担と受給が認識されているのに対して、「1. 税」は「国が使い方を決める」「国がとりたてる」「なるべく払いたくない」が高く個人の自発性や受益の実感が弱い傾向。

Q21. 次の1~20の中から、税が自分の生活に還元されていると感じる公共サービスをすべてお選びください。また、そのなかからあなたが強く実感するものを3つまでお選びください。(複数選択可)



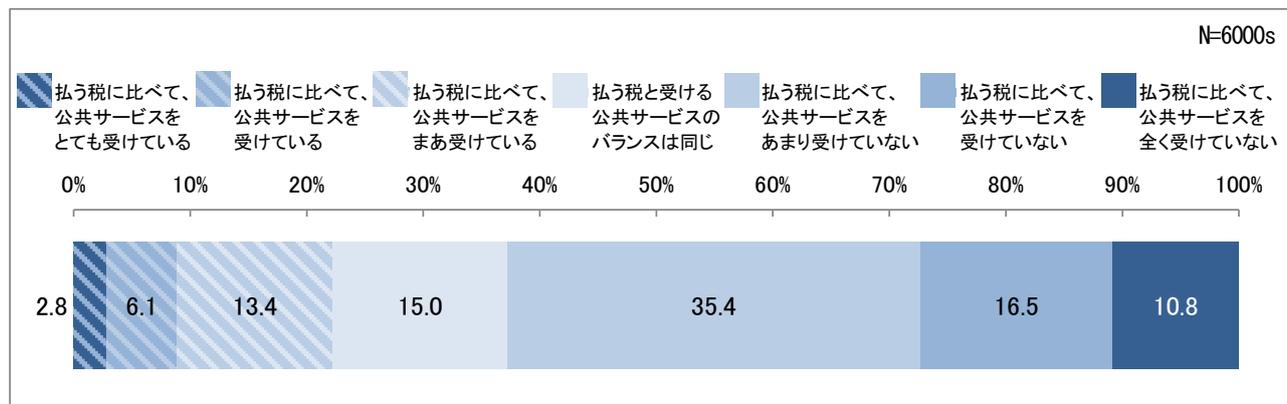
	N	医療	備(ダム等国土基盤整備)	公共事業(道路、)	警察	教育	等策・感染症予防(公衆衛生)	年金	消防	救急医療	子育て支援	保育サービス等、	介護	防災	援(生活保護)
1. 税が生活に活かされていると実感するもの(いくつでも)	6000	58.1	44.8	43.3	42.9	42.9	41.0	40.9	40.2	35.9	35.2	35.1	32.4		
2. 強く実感するもの(3つまで)	6000	34.1	17.4	15.0	14.6	14.0	18.1	11.0	12.2	12.6	11.3	8.7	9.0		



	N	防衛	地方への補助金	定(石油ガス等の安)	エネルギー対策	業の発展	食料安定供給・農	科学技術研究	文化振興	済(途上国への経	国際協力(O D A	スポーツ振興	特になし	回答項目数の平均
1. 税が生活に活かされていると実感するもの(いくつでも)	6000	32.4	25.4	16.5	15.4	15.3	14.2	14.0	13.7	2.0	6.52			
2. 強く実感するもの(3つまで)	6000	10.3	5.4	2.2	2.7	1.6	1.5	2.1	1.8	6.8	2.20			

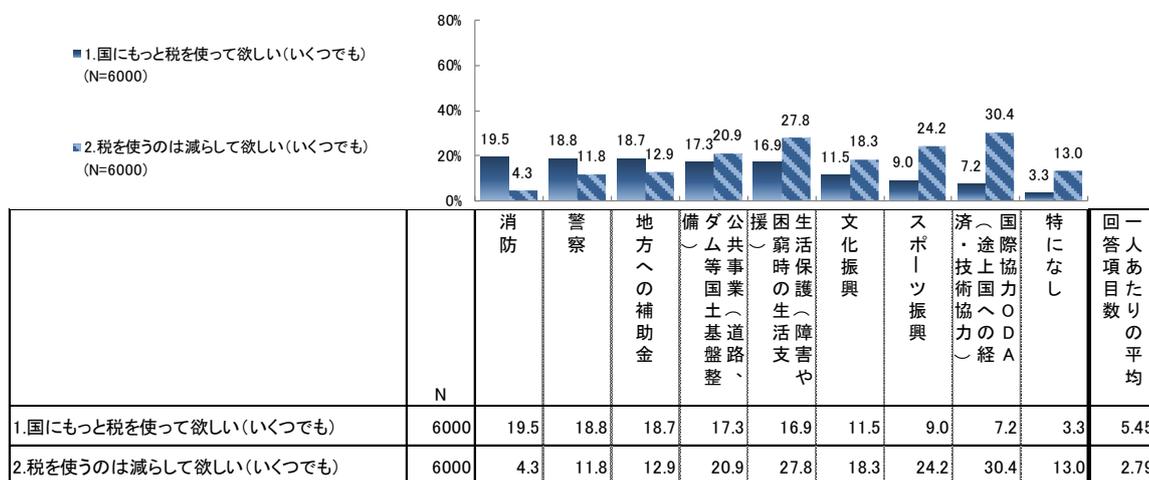
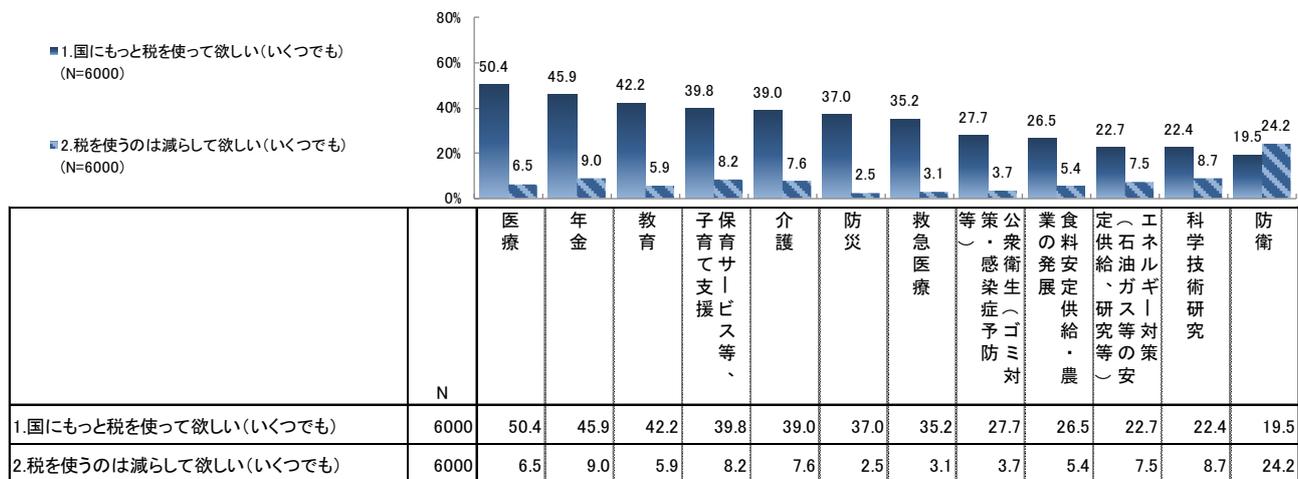
- ・「1. 税が生活に活かされていると実感するもの」では、「医療」が58.1%で最も高く、次いで「公共事業(道路、ダム等国土基盤整備)(44.8%)」。
- ・「2. 強く実感するもの」では「医療」が34.1%で最も高く、次いで「年金(18.1%)」。

Q22. 支払われた税により、Q21の公共サービスは賄われています。あなたの感覚に近いものをお選びください。(回答はひとつ)



- ・「払う税に比べて、公共サービスをあまり受けていない」が 35.4%で最も高く、「受けていない (16.5%)」と「全く受けていない (10.8%)」を合わせると、「受けていない」の総合は 62.7%ある。
- ・「払う税に比べて、公共サービスを受けている」と感じている人は、総合で 22.3%。

Q23. 次の1~20のリストを見て、あなたがもっと国に税を投入して強化して欲しい公共サービス、逆に減らしても良いと思う公共サービスをそれぞれいくつでもお選びください。(複数選択可)



- ・「1. 国にもっと税を使って欲しい」と思う公共サービスは、「医療」が 50.4%で最も高く、次いで「年金 (45.9%)」「教育 (42.2%)」「保育サービス等、子育て支援 (39.8%)」「介護 (39.0%)」と続く。
- ・「2. 税を使うのは減らして欲しい」と思う公共サービスは、「国際協力 ODA (30.4%)」「生活保護 (27.8%)」「防衛(24.2%)」「スポーツ振興 (24.2%)」「公共事業 (20.9%)」の順。

Q24. 次の文章は、日本の財政と社会保障制度に関するものです。それぞれ、どの程度ご存知かお聞かせください。社会保障制度とは、国民からの税や保険料による収入を使って、国が医療費や介護費の大半を負担する制度です。退職後の年金の支給や、子どもの出産・保育の支援なども行います。(回答は各ひとつ)

N=6000

- 1.日本は国の運営に必要なお金(予算)に対して収入(税収)が不足しています。そこで国債を発行して、主に日本国内から資金を調達し補填しています。
- 2.地方政府等を含めた借金の総額は約1,300兆円で、日本のGDPの約2.4倍に相当します。日本以外の主要先進7カ国(G7)の地方政府等を含めた借金はGDPの約1.4倍未満です。日本の借金のGDP比率は先進国中最大です。
- 3.国民一人当たりの借金は約710万円と計算されます。
- 4.借金が増える最大の理由は社会保障費の増加です。寿命が延び高齢者人口が増えた結果、年金・医療・介護の支出が急速に増えています。
- 5.現在の社会保障費のための借金は長期間かけて返していきます。子や孫の世代の税収も返済に充てられるので、将来世代に借金の付け回しをすることになります。
- 6.近年、日本は年間予算の30%を社会保障に、25%を過去の借金返済に充てています。その結果、教育や防衛等、他の予算をほとんど増やせない状況です。
- 7.2025年、人口が多い団塊世代が後期高齢者(75才以上)になります。社会保障に必要なお金が更に増える見込みです。
- 8.2040年頃、人口が多い団塊ジュニア世代が65才以上になり、全人口の35%超が65才以上の高齢者になる見込みです。
- 9.65~74才を前期高齢者、75才以上を後期高齢者と呼びます。政府データによれば後期高齢者の医療費は前期高齢者の5倍、介護費は10倍になります。
- 10.現在、社会保障の充実・安定化と、そのための安定財源確保と財政健全化の同時達成を目指す「社会保障と税の一体改革」を行っています。

	知らない/ 聞いたこと が無い	聞いたこと がある	よく知って いる/よく 聞く
1.	26.5	48.5	25.0
2.	43.3	42.0	14.7
3.	41.6	43.4	15.0
4.	23.9	50.3	25.8
5.	25.7	51.2	23.1
6.	45.1	43.4	11.5
7.	22.6	50.4	27.1
8.	27.2	50.4	22.4
9.	34.3	49.6	16.1
10.	39.0	50.2	10.8

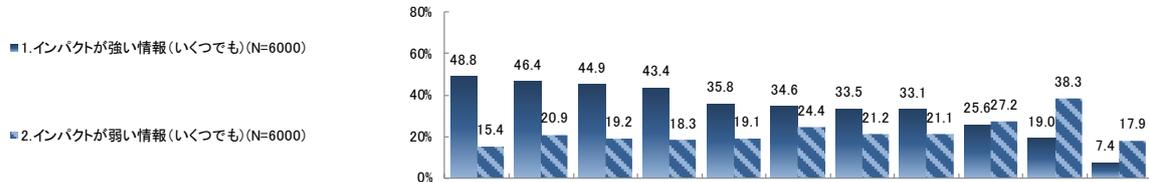
・「よく知っている/よく聞く」が高いのは、順に、

- 1位「7. 2025年、人口が多い団塊世代が後期高齢者(75才以上)になります。社会保障に必要なお金が更に増える見込みです」の27.1%。
 - 2位「4. 借金が増える最大の理由は社会保障費の増加です。寿命が延び高齢者人口が増えた結果、年金・医療・介護の支出が急速に増えています」の25.8%。
 - 3位「1. 日本は国の運営に必要なお金(予算)に対して収入(税収)が不足しています。そこで国債を発行して、主に日本国内から資金を調達し補填しています」の25.0%。
 - 4位「5. 現在の社会保障費のための借金は長期間かけて返していきます。子や孫の世代の税収も返済に充てられるので、将来世代に借金の付け回しをすることになります」の23.1%。
- 高齢者の増加と社会保障費の増加に関するセンテンスは認知者が多い。

・「知らない/聞いたことが無い」が高いのは、順に

- 1位「6. 近年、日本は年間予算の30%を社会保障に、25%を過去の借金返済に充てています。その結果、教育や防衛等、他の予算をほとんど増やせない状況です」の45.1%。
- 2位「2. 地方政府等を含めた借金の総額は約1,300兆円で、日本のGDPの約2.4倍に相当します。日本以外の主要先進7カ国(G7)の地方政府等を含めた借金はGDPの約1.4倍未満です。日本の借金のGDP比率は先進国中最大です」の43.3%。

Q25. 前述の日本の財政と社会保障費に関する記述について、これらの記述を読んだときのインパクト感が高かった情報（「へえ」「なるほど」「そうなんだ」と言うような驚き、発見、関心の度合いが高かった情報）をいくつか選んでください。また、インパクトが弱いと感じた情報（驚き、発見、関心の度合いが低かった情報）があれば、いくつか選んでください。（複数選択可）

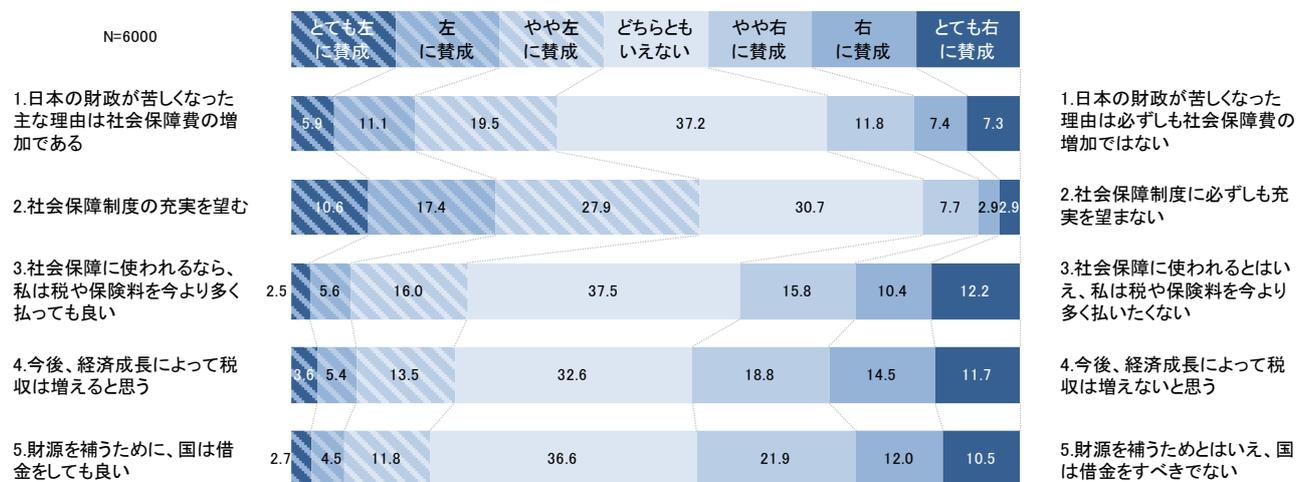


	N	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	一人あたりの平均回答項目数
1.インパクトが強い情報(いくつかも)	6000	48.8	46.4	44.9	43.4	35.8	34.6	33.5	33.1	25.6	19.0	7.4	3.94
2.インパクトが弱い情報(いくつかも)	6000	15.4	20.9	19.2	18.3	19.1	24.4	21.2	21.1	27.2	38.3	17.9	2.74

・インパクトが最も強いのは、「65～74才を前期高齢者、75才以上を後期高齢者と呼びます。政府データによれば後期高齢者の医療費は前期高齢者の5倍、介護費は10倍になります」で48.8%。10のセンテンスの内、高齢化の影響や日本の借金が先進国中最大であることを示す5つのセンテンスについては、35%以上の人インパクトが強いと回答。

・インパクトが弱いのは、「現在、社会保障の充実・安定化と、そのための安定財源確保と財政健全化の同時達成を目指す「社会保障と税の一体改革」を行っています」で38.8%。

Q26. 以下の5つの記述について、あなたの意見に近いものを選んでください。(回答は各ひとつ)



・「1. 日本の財政が苦しくなった主な理由は社会保障費の増加である」は、「どちらともいえない」が最も多く37.2%。「社会保障費の増加である」の総合は36.5%、「社会保障費の増加ではない」の総合は26.5%。

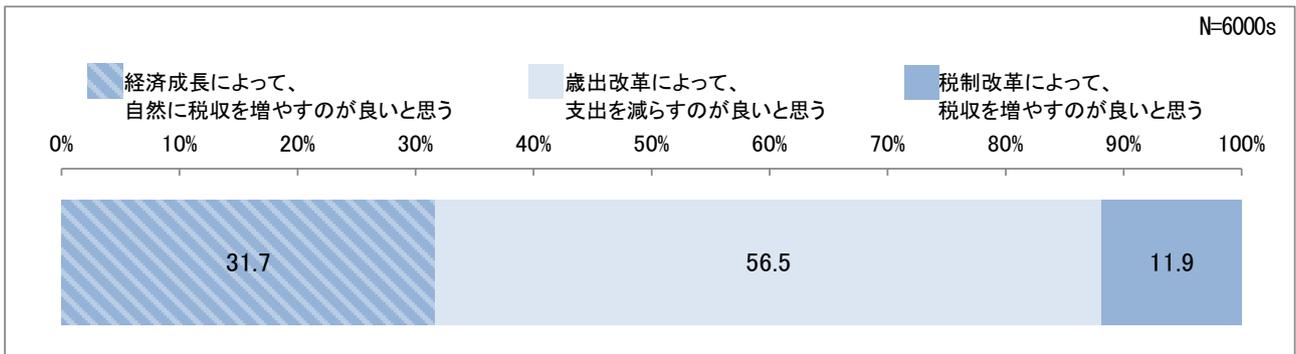
・「2. 社会保障制度の充実を望む」は、「どちらともいえない」が最も多く30.7%。「充実を望む」の総合は55.9%、「必ずしも充実を望まない」の総合は13.5%。

・「3. 社会保障の為なら保険料を多く払っても良い」は、「どちらともいえない」が最も多く37.5%。「今より多く払っても良い」の総合は24.1%、「今より多く払いたくない」の総合は38.4%。

・「4. 今後、経済成長によって税収は増えると思う」は、「どちらともいえない」が最も多く32.6%。「経済成長によって税収は増えると思う」の総合は22.5%、「経済成長によって税収は増えないと思う」の総合は45.0%。

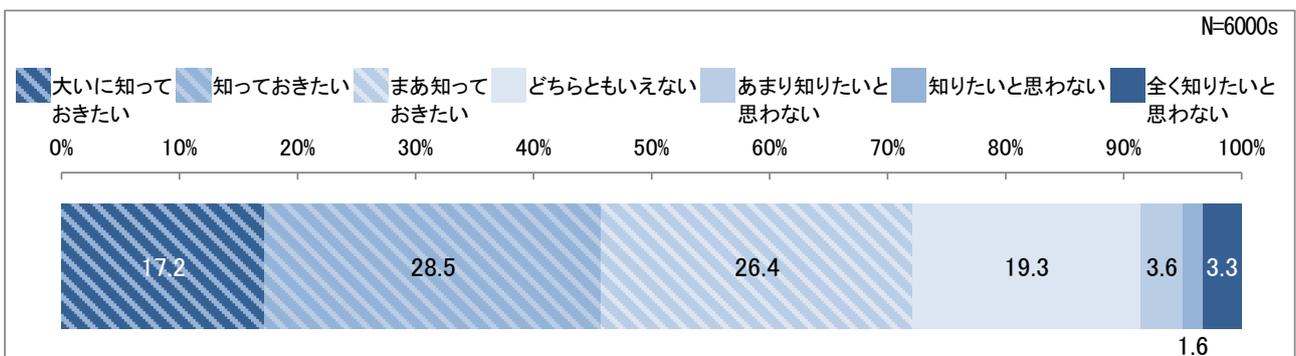
・「5. 財源を補うために、国は借金をしても良い」は、「どちらともいえない」が最も多く36.6%。「国は借金をしても良い」の総合は19.0%、「国は借金をすべきでない」の総合は44.4%。

Q27. 財政状況を改善するには、「経済成長によって税収を増やしながら、支出の無駄の削減や効率化を行い（歳出改革）、必要な増税を実施する（税制改革）」この3つを同時に行っていく必要があります。その中で、もし一つ選ぶとしたら、あなたはどれが現実的な策だと思いますか。（回答はひとつ）



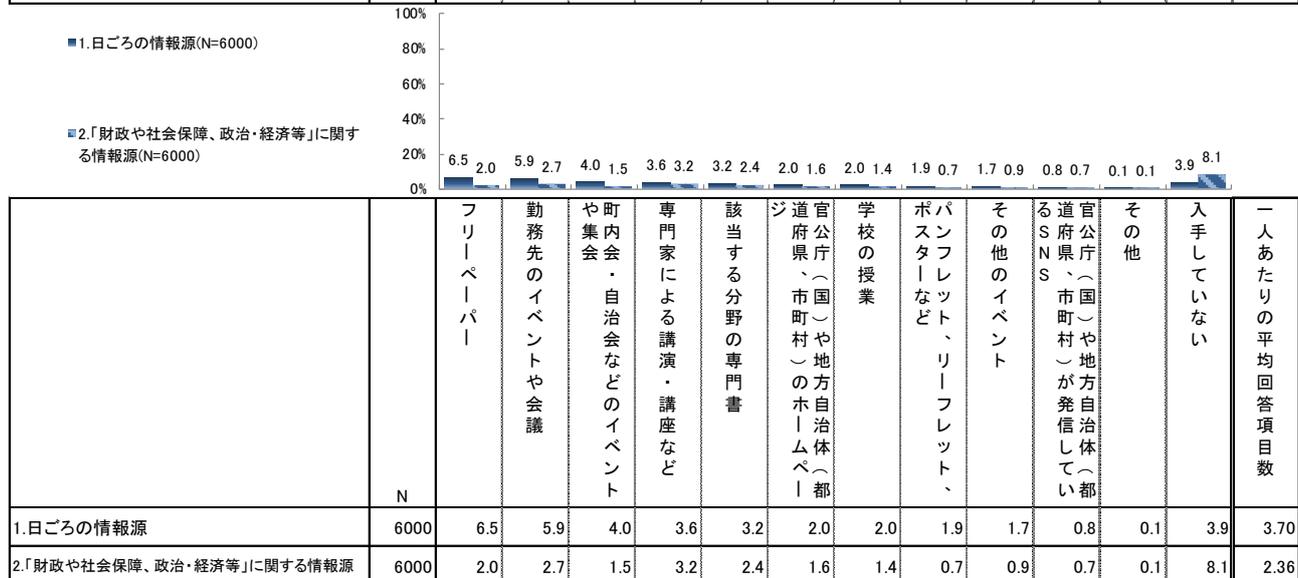
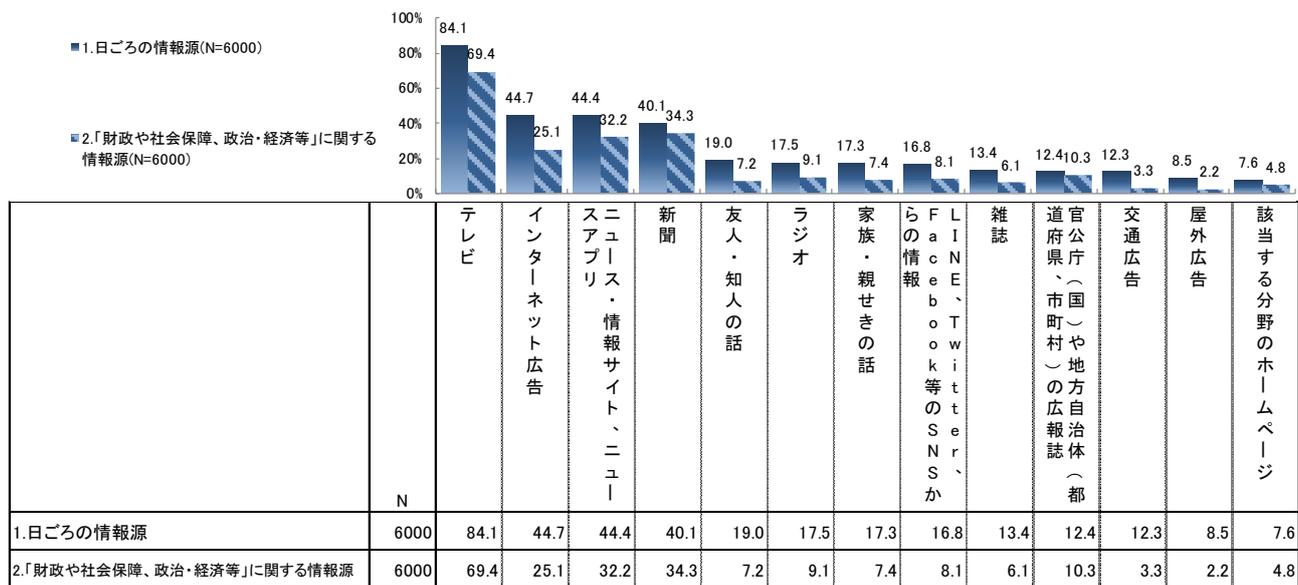
- ・「歳出改革によって、支出を減らすのが良いと思う」が56.5%で全体の5割超。
- ・「税制改革によって、税収を増やすのが良いと思う」は11.9%。
- ・「経済成長によって、自然に税収を増やすのが良いと思う」は31.7%。

Q28. あなたは、Q24にあった10個の日本の財政と社会保障費に関する記述のような情報を、今後も知っておきたいと思いますか。（回答はひとつ）



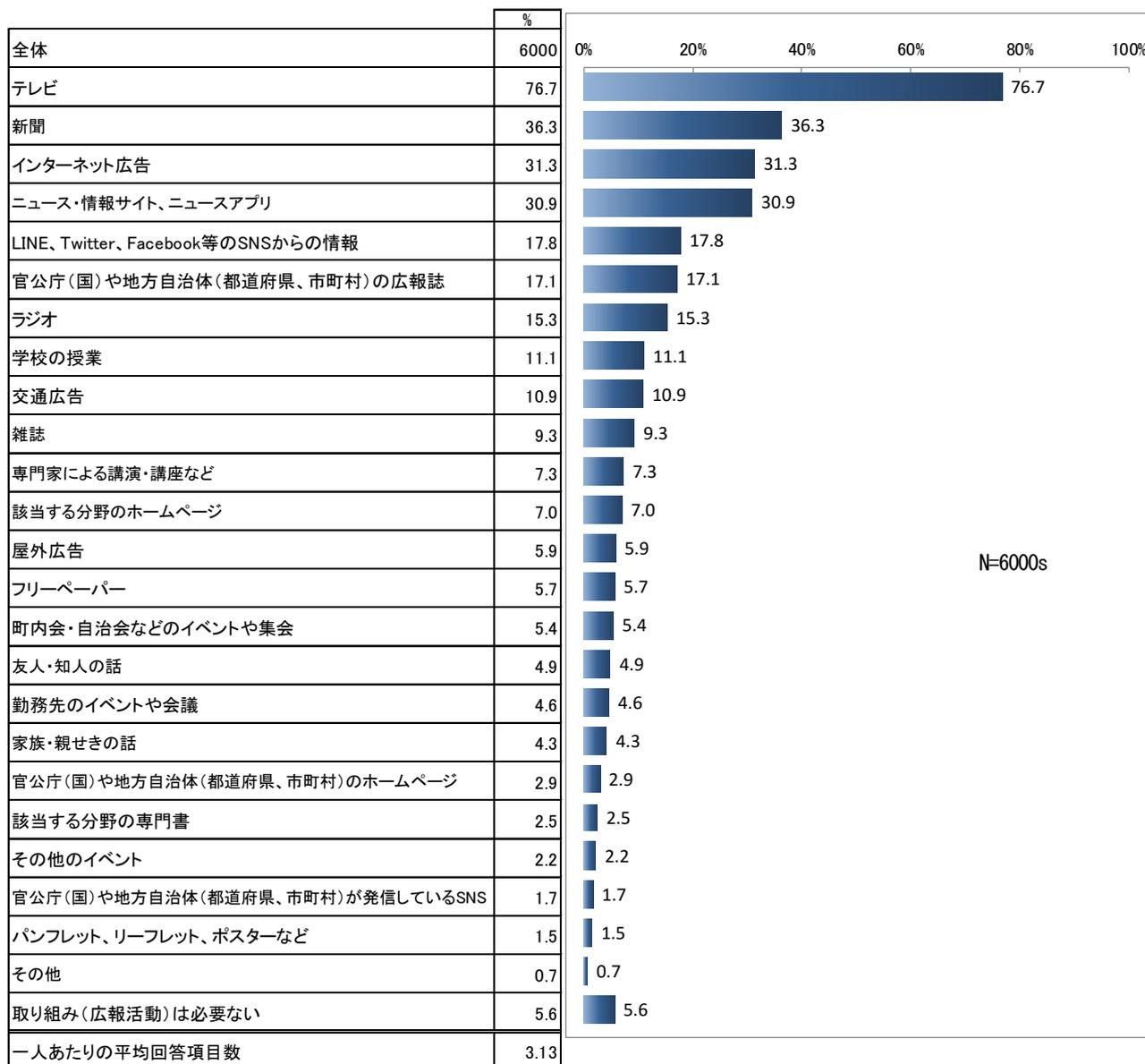
- ・「大いに知っておきたい」が17.2%、「知っておきたい」が28.5%、「まあ知っておきたい(26.4%)」を合わせて72.1%の人は、記述されていたような内容を知っておく必要を感じている。

Q29. あなたの日ごろの情報源をすべてお選びください。また、「財政や社会保障、政治・経済等」に関する情報源も同様にすべてお選びください。(複数選択可)



- ・「1. 日ごろの情報源」では、「テレビ」が84.1%で最も高い。
- ・「2. 「財政や社会保障、政治・経済等」に関する情報源」では、「テレビ」が69.4%と最も高い。
- ・「2. 「財政や社会保障、政治・経済等」に関する情報源」では、「入手していない」が8.1%。

Q30. あなたは、日本の財政、予算、税のしくみ、税の使い道等を理解してもらうために、どのような機会を利用しての取り組み（広報活動）が必要だと思いますか。（複数選択可）



- ・「テレビ」が76.7%で最も高い。次いで「新聞(36.3%)」。
- ・「取り組み（広報活動）は必要ない」が5.6%。

3 性年齢別の結果

3-1 結果の要約

- ・ 年齢別のブレークダウンは10歳刻みで分析している。
- ・ 「財政関連用語」や「財政と社会保障制度に関するセンテンス」などの知識は若年層で低く、年齢が上がるにつれて増加している。
- ・ 中高年の「45～54歳」は税の受益感が薄く、負担感も強い。
- ・ 知識が多く、現状を憂え、社会保障の充実を望むと同時に負担も必要と考えているのは「55～64歳」と「65～74歳」。
「65～74歳」の高齢層では「税と保険料のイメージ」において「自分に利益が還元される」と感じていたり、「公共サービスに対する受益感」を感じている割合が他の年代より高い。
- ・ 「社会保障に対するイメージ」や「税と保険料のイメージ」は25～44歳の年代で「なるべく払いたくない」「払う意義がわからない」の割合が高く他の年代より否定的である。

■ 18～24歳

□ プロフィール

職業は、大学生／大学院生が44%、会社員や公務員、自営業者は38%。
未婚が88%。 ※親との同居が50%以上、同居の家族はいない（一人暮らし）が32%。
世帯年収は、所得無し～500万円未満で49%（「世帯年収はわからない」が21%）。

□ このグループに特徴的な傾向

- ・ 「財政関連用語」の認知理解度は、以下の数多くのワードで他の年代より「言葉自体を知らない」割合が高い。
※「一般会計」「特別会計」「国債」「長期債務残高」「社会保障と税の一体改革」「消費税率引上げ分の使い道」「将来世代への負担の先送り」「少子高齢化に伴う社会保障費増大」「受益と負担」「軽減税率」「幼児教育・保育の無償化」「高等教育の無償化」「人生100年時代」
※加えて、「財政」「歳入と歳出」「財政健全化目標」「公共サービス」も、最も高い25～34歳と同程度（-1.0ポイント以内）
- ・ 20項目の認知理解度として、最も低い「プライマリーバランス」は、「聞いたことがある」+「内容をまあ知っている」+「人に説明できるくらい詳しい」の合計が50%。対して最も高い「軽減税率」は91%。
- ・ 「日本の財政状況」については、中間の「どちらともいえない」が他の年代より高く21%。また「不安」は68%で、こちらは他の年代より低い。対して「安心」は11%。
- ・ 「現在の日本の財政状況に不安を感じる理由」は、「自分の年金が減額される／受け取れない可能性がありそう」が最も高く55%を超える。なお、この傾向は45～54歳まで続く。
- ・ 「10年後の日本の財政」については「良い状態になっている」が他の年代より高く9%。
- ・ 「毎月の税と保険料の金額の把握度」は「所得税」「住民税」「健康保険料」「介護保険料」で他の年代よりも「確認していない（金額を答えることができない）」の割合が高い。
- ・ 「国に治める税と保険料のイメージ」では、税と保険料のいずれにおいても「払う意義はわかる」「国や社会づくりのためのもの」「国が使い方を決める」「国がとりたてる」「相互に助け合う仕組み」と感じている割合が他の年代より低く、「払う意義がわからない」が他の年代より高い。
- ・ 「払う税と受ける公共サービスのバランス」は、「払っているより受益が多い」と感じている割合が、「65～74歳（31%）」に次いで24%と他の年代と比べて高い。また「受益は同程度」という中間層は19%とこちらも他の年代より高い。
- ・ 「日本の財政と社会保障制度に関するセンテンス」は、ほぼすべての言葉で他の年代よりも認知度が低い。10項目について「聞いたことがある」+「よく知っている/聞いている」の範囲は46%～68%。
- ・ 「財政についての改善策」としては、「歳出改革」「経済成長」「税制改革」の順だが、「税制改革によって、税収を増やすのが良いと思う」が他の年代より高く15%。

- ・ 「日ごろの情報源」は、「家族・親せきの話」「SNSからの情報」「交通広告」「屋外広告」「該当する分野の専門書」「学校の授業」「その他のイベント」が他の年代よりも高い。「財政や社会保障、政治・経済等に関する情報源」は、上記に加え「友人・知人の話」「勤務先のイベントや会議」「フリーペーパー」「町内会・自治会などのイベントや集会」が高い。
- ・ 「必要な広報活動への取り組み方」は、「SNSからの情報」「学校の授業」「交通広告」「雑誌」「屋外広告」「友人・知人の話」「勤務先のイベントや会議」「家族・親せきの話」「該当する分野の専門書」「その他のイベント」が他の年代と比べて高い。

■ 25～34 歳

□ プロフィール

職業は、会社員や公務員、自営業者は 71%。

学歴は、大学/大学院卒業者が 55%。

既婚者は 54%。

※子どもとの同居は 37%、同居の家族はいない（一人暮らし）が 23%。

世帯年収は、300 万円～800 万円未満で 57%を占める。

□ このグループに特徴的な傾向

- ・ 「財政関連用語」の認知理解度は、以下のワードで他の年代より「言葉自体を知らない」割合が高い。
※「財政」「歳入と歳出」「財政健全化目標」「プライマリーバランス」「全世代型社会保障」「公共サービス」「国民負担率」
※加えて、「長期債務残高」「軽減税率」「高等教育の無償化」も、最も高い 18～24 歳と同程度（-1.0 ポイント以内）
- ・ 20 項目の認知理解度として、最も低い「プライマリーバランス」は、「聞いたことがある」＋「まあ内容を知っている」＋「人に説明できるくらい詳しい」の合計が 47%。対して最も高い「軽減税率」は 91%。
- ・ 「日本の財政状況」では、「安心」が 8%。「不安」は 74%。
- ・ 「現在の日本の財政状況に不安を感じる理由」は、「今後も消費税率引き上げなど、増税がありそうだから」「わかりやすい情報が不足しているから」が他の年代より高い。
- ・ 「10 年後の日本の財政」については、「厳しい状態になっている」が他の年代より低く 75%。
- ・ 「10 年後の日本の財政が厳しい状態になると思う理由」は、「日本経済は良くならなさそうだから」「安定的な税収を得るための税制改革が進まなそうだから」が他の年代より高い。
- ・ 「税と保険料の負担感の度合い」は、「住民税」で「圧迫」が 82%と、他の年代と比べて高い。
- ・ 「税と保険料のイメージ」は、税と保険料の両方で「なるべく払いたくない」と感じている割合が他の年代と比べて高い。
- ・ 「税が生活に活かされていると実感するもの」は、「保育・子育て支援」が他の年代と比べて高い。
- ・ 「国にもっと税を使ってほしいサービス」は、「教育」「保育・子育て支援」の割合が他の年代と比べて高く 50%を超える。
- ・ 「日本の財政と社会保障制度に関するセンテンス」は、「聞いたことがある」＋「よく知っている/聞いている」の範囲が 49%～71%。
- ・ 社会保障に税や保険料が使われることに対して、「今より多く払っても良い」と「今より多く払いたくない」の両極の回答選択肢の間で、「今より多く払いたくない」の割合が他の年代と比べて高く 43%。
- ・ 「財政についての改善策」としては、「歳出改革」「経済成長」「税制改革」の順だが、「経済成長によって、自然に税収を増やすのが良いと思う」が他の年代より高く 35%。
- ・ 「日ごろの情報源」は、「インターネット広告」「ニュース・情報サイト、ニュースアプリ」「友人・知人の話」「フリーペーパー」「勤務先のイベントや会議」が他の年代と比べて高い。「財政や社会保障、政治・経済等に関する情報源」は、「インターネット広告」が他の年代と比べて高い。
- ・ 「必要な広報活動への取り組み方」は、「インターネット広告」「ニュース・情報サイト、ニュースアプリ」「雑誌」が他の年代と比べて高い。

■ 35～44 歳

□ プロフィール

職業は、会社員や公務員、自営業者は 70%、主婦・主夫やパート／アルバイトは 27%。

学歴は、大学/大学院卒業者が 47%。

既婚者は 63%。未婚者が 30%。

※子どもとの同居は 52%（「45～54 歳」とともに、最も子供がいる率が高い世代）。

同居の家族がいない/一人暮らしが 16%。

世帯年収は、400 万円～1,000 万円未満で 53%。

□ このグループに特徴的な傾向

- ・ 「財政関連用語」の認知理解度は、最も低い「プライマリーバランス」で「聞いたことがある」＋「まあ内容を知っている」＋「人に説明できるぐらい詳しい」の合計が 50%。
「言葉自体を知らない」＋「言葉を聞いたことがある程度」でみると、「財政」「国債」「消費税率引き上げ分の使い道」「全世代型社会保障」「公共サービス」「国民負担率」「軽減税率」「人生 100 年時代」で他の年代と比べて割合が高く、全体的に認知度が低い。
- ・ 「現在の日本の財政状況に不安を感じる理由」については、「自分の年金が減額される／受け取れない可能性がありそう」が最も高く 62%。これは年代別でも最も高い値。
- ・ 「10 年後の日本の財政」については、「今よりとても厳しい状態になっている」割合が他の年代と比べて高く 22%。
- ・ 「税と保険料の負担感の度合い」は、「所得税」「住民税」「年金保険料」「雇用保険料」「消費税」「相続税」「酒税」「たばこ税」で「とても圧迫する」割合が他の年代と比べて高く、大きな負担となっている。
- ・ 「日本の財政と社会保障制度に関するセンテンス」は、すべての言葉で「よく知っている／よく聞く」の割合が他の年代と比べて低い。
- ・ 社会保障の充実、「充実を望む」と「必ずしも充実を望まない」の両極の回答選択肢の間で、「必ずしも充実を望まない」の割合が他の年代よりも高く 15%。

■ 45～54 歳

□ プロフィール

職業は、会社員や公務員、自営業者は 67%、主婦・主夫やパート／アルバイトは 28%。

学歴は、大学/大学院卒業者が 40%。

既婚者は 77%（死別・離婚含む）。

※子どもとの同居は 51%（「35～44 歳」とともに、最も子供がいる率が高い世代）。

同居の家族がいない（一人暮らし）が 16%。

世帯年収は、600 万円～1,500 万円未満で 44%。

□ このグループに特徴的な傾向

- ・ 「財政関連用語」の認知理解度は、最も低い「プライマリーバランス」で「聞いたことがある」＋「内容をまあ知っている」＋「人に説明できるぐらい詳しい」の合計が 59%。
- ・ 「財政についての改善策」としては、「歳出改革」「経済成長」「税制改革」の順で、「経済成長」が 25～34 歳と同様、他の年代と比べてやや高い。
- ・ 「税と保険料の負担感の度合い」は、「所得税」「年金保険料」「たばこ税」で「圧迫」の割合が他の年代と比べて高い。
- ・ 「税と保険料のイメージ」は、保険料で「国がとりたてる」と感じている割合が他の年代と比べて高い。
- ・ 「毎月の税と保険料の金額の把握度」は、「年金保険料」「雇用保険料」で「詳細に把握している（具体的に金額を答えることができる）」＋「ある程度把握している（金額を答えることができる）」の割合が他の年代と比べて高い。
- ・ 「払う税と受ける公共サービスのバランス」は、「払う税に比べて受益が少ない」と感じている割合が、他の年代と比べて高い。

- ・ 「税を使うのを減らして欲しいサービス」は、「教育」「保育・子育て支援」の割合が他の年代と比べて高い。

■ 55～64 歳

□ プロフィール

職業は、会社員や公務員、自営業者は 51%、主婦・主夫は 20%、年金生活者・無職が 12%。

学歴は、大学/大学院卒業者が 43%。

既婚者は 87%（死別・離婚含む）。 ※子どもとの同居は 36%に低下。

世帯年収は、200 万円～1,500 万円未満で 70%と金額範囲は広い。

□ このグループに特徴的な傾向

- ・ 「財政関連用語」の認知理解度は、最も低い「プライマリーバランス」で「聞いたことがある」+「内容をまあ知っている」+「人に説明できるぐらい詳しい」の合計が 64%。
- ・ 「現在の日本の財政状況に不安を感じる理由」は、「医療費の自己負担が増加しそうだから」の割合が他の年代と比べて高い。
- ・ 「10 年後の日本の財政が厳しい状態になると思う理由」は、「社会保障費の増加を抑える政策が進まなさそうだから」が他の年代と比べて高い。
- ・ 「10 年後の日本の財政が良い状態になる／変わらないと思う理由」は、「無駄な支出（歳出）の削減が進みそうだから」「国の収入（税収）が増えそうだから」が他の年代と比べて高い。
- ・ 「税と保険料の負担感の度合い」は、「健康保険料」「相続税」「酒税」で「圧迫」の割合が他の年代と比べて高い。
- ・ 「社会保障制度の充実を望む」割合が 57%で、他の年代と比べて高い。

■ 65～74 歳

□ プロフィール

職業は、年金生活者・無職、主婦・主夫が 72%。

学歴は、大学/大学院卒業者が 41%、高等学校卒業者が 37%。

既婚者は 94%（死別・離婚含む）。 ※子どもとの同居は 30%に低下。

世帯年収は、100 万円～800 万円未満で 72%と金額範囲は広い。

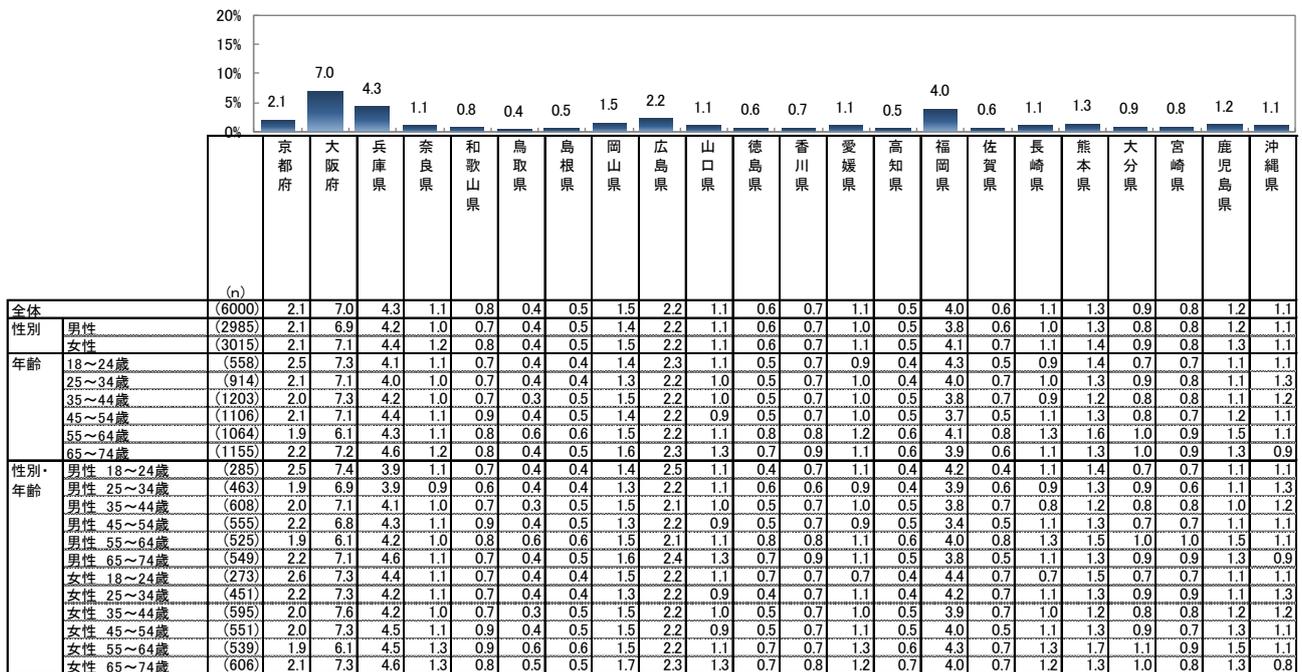
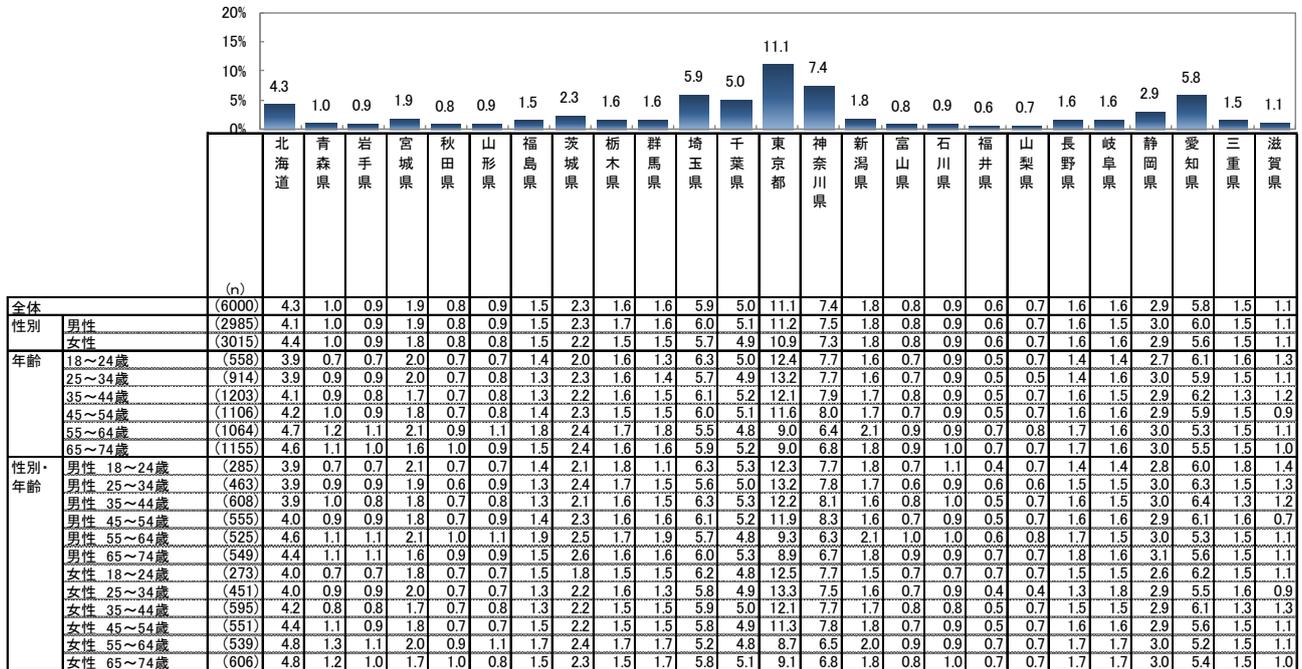
□ このグループに特徴的な傾向

- ・ 「財政関連用語」の認知理解度は、すべての言葉で他の年代よりも高い。最も認知理解度が低い「プライマリーバランス」で「聞いたことがある」+「内容をまあ知っている」+「人に説明できるぐらい詳しい」が 69%。対して、「国債」「公共サービス」「軽減税率」はこの数字が 97%。
- ・ 「現在の日本の財政状況」については、「とても不安を感じている」+「不安を感じている」+「やや不安を感じている」が他の年代と比べて高く 80%超。
- ・ 「現在の日本の財政状況に不安を感じる理由」は、「国の予算の使い方に無駄が多そうだから」「財政赤字が続いているから」「子供や孫などの将来世代に国の借金の負担を先送りしているから」「人口における現役世代の割合が減っているから」「国の社会保障費が増大しているから」「このままでは借金を返せず財政破綻しそうだから」「経済成長しておらず、税収が増えてなさそうだから」「社会のセーフティネットを維持できなさそうだから」が他の年代と比べて高い。
- ・ 「10 年後の日本の財政」は、「今よりとても厳しい状態になっている」+「今より厳しい状態になっている」+「今よりやや厳しい状態になっている」と悪化の予想層が他の年代と比べて高く 80%を超える。
- ・ 「10 年後の日本の財政が厳しい状態になると思う理由」は、「少子高齢化で働く人の数が減って税収も減りそうだから」「高齢者の増加が様々な影響を与えそうだから」「国の借金が増えそうだから」「無駄な支出（歳出）を削減できなさそうだから」「国の支出（歳出）が増えそうだから」「国の収入（歳入）が減りそうだから」の割合が他の年代と比べて高い。

- ・ 「10年後の日本の財政が良い状態になる／変わらないと思う理由」は、「借金（国債）は日本国内で消化されていて、財政破綻の懸念は少なそうだから」「働き方改革や技術革新などで生産性が向上しそうだから」「社会保障の増加を抑えたり、減らしたりする政策が進みそうだから」「金利が低く維持され、経済に好影響を与えそうだから」「国には有価証券や国有財産等の資産があって、そもそも借金は小さそうだから」の割合が他の年代と比べて高い。
- ・ 「税を使うのを減らして欲しいサービス」は、「教育」「保育・子育て支援」の割合が他の年代と比べて高い。
- ・ 「税と保険料の負担感の度合い」は、「介護保険料」を負担と感じる割合が他の年代と比べて高い。
- ・ 「払う税と受ける公共サービスのバランス」は、「払っているより受益が多い」と感じている割合が他の年代と比べて高い。
- ・ 「日本の財政と社会保障制度に関するセンテンス」は、すべてのセンテンスでどの年代よりも認知度が高い。10項目について「聞いたことがある」＋「よく知っている/聞いている」の範囲は62%～89%。
- ・ 「日本の財政が苦しくなった理由は必ずしも社会保障費の増加ではない」と感じている割合が36%、「今後、経済成長によって税収は増えない」と感じている割合が51%、「財源を補うためとはいえ、国は借金をすべきでない」と感じている割合が56%で、どれも他の年代と比べて高い。
- ・ 「財政についての改善策」は、「歳出改革」「経済成長」「税制改革」の順だが、「歳出改革」が他の年代と比べて高い。
- ・ 「日ごろの情報源」は、「テレビ」「新聞」「友人・知人の話」「ラジオ」「雑誌」「官公庁や地方自治体の広報誌」「町内会・自治会などのイベントや集会」「専門家による講演・講座など」「官公庁や地方自治体のホームページ」「パンフレット・リーフレット・ポスターなど」が他の年代と比べて高い。「財政や社会保障、政治・経済等に関する情報源」は、「テレビ」「新聞」「ニュース・情報サイト・ニュースアプリ」「官公庁や地方自治体の広報誌」「ラジオ」「雑誌」「該当する分野のホームページ」「専門家による講演・講座など」「官公庁や地方自治体のホームページ」「官公庁や地方自治体が発信している SNS」「パンフレット・リーフレット・ポスターなど」が他の年代と比べて高い。
- ・ 「必要な広報活動への取り組み方」は、「テレビ」「新聞」「官公庁や地方自治体の広報誌」「ラジオ」「専門家による講演・講座など」「該当する分野のホームページ」「町内会・自治会などのイベントや集会」「官公庁や地方自治体のホームページ」「パンフレット・リーフレット・ポスターなど」が他の年代よりも高い。

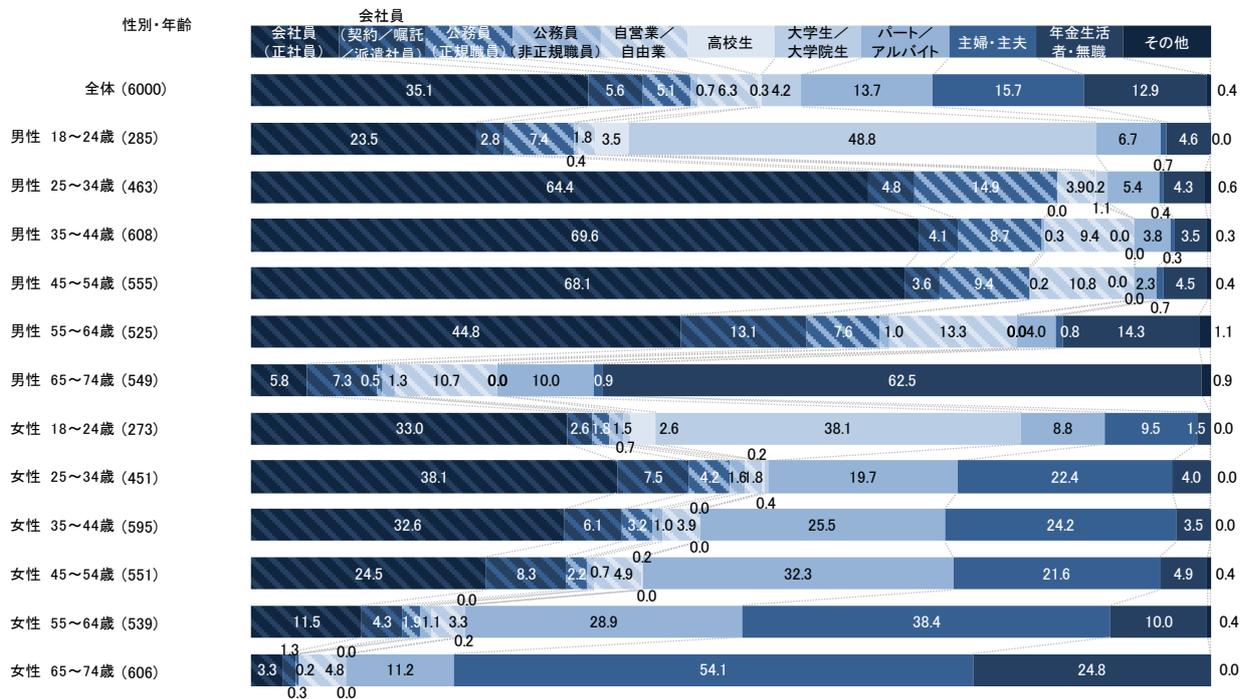
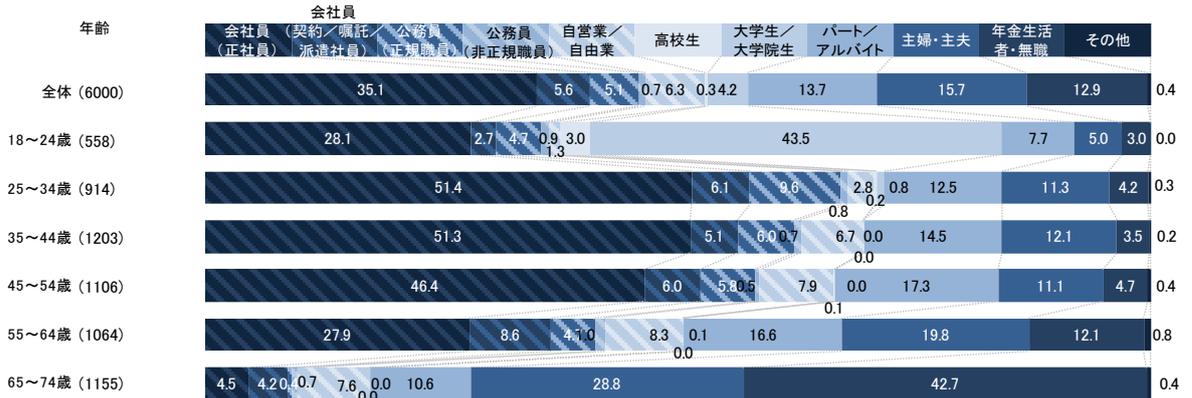
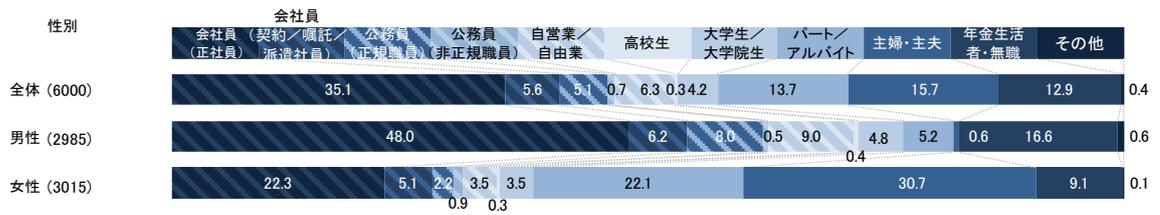
3-2 性年齢別のプロフィール

■ 都道府県 (Q1. あなたのお住まいの都道府県をお答えください。(回答はひとつ))



・「性別」での大きな差は見られない。
 ・「年齢」での大きな差は見られない。

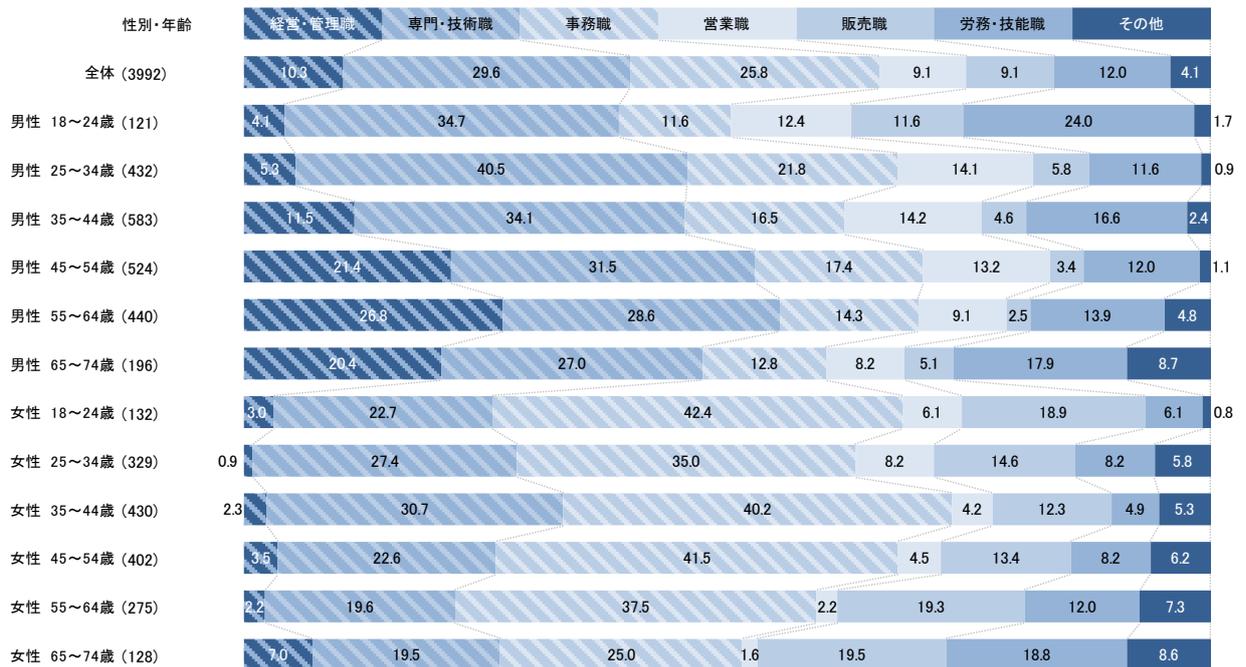
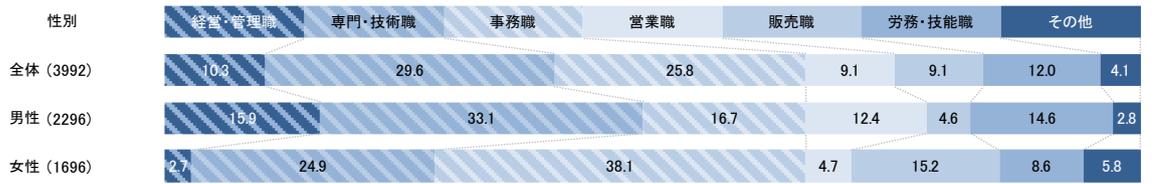
■ 職業 (Q2. あなたの現在のご職業をお答えください。(回答はひとつ))



・「性別」では、「男性」で「会社員（正社員）」、「女性」で「主婦・主夫」「パート／アルバイト」が全体と比較して高い。
 ・「年齢」では、「18-24歳」で「大学生／大学院生」、「25-34歳」「35-44歳」「45-54歳」で「会社員（正社員）」、「65-74歳」で「年金生活者・無職」「主婦・主夫」が全体と比較して高い。

■ 職種 (Q3. あなたの現在の職種をお答えください。(回答はひとつ))

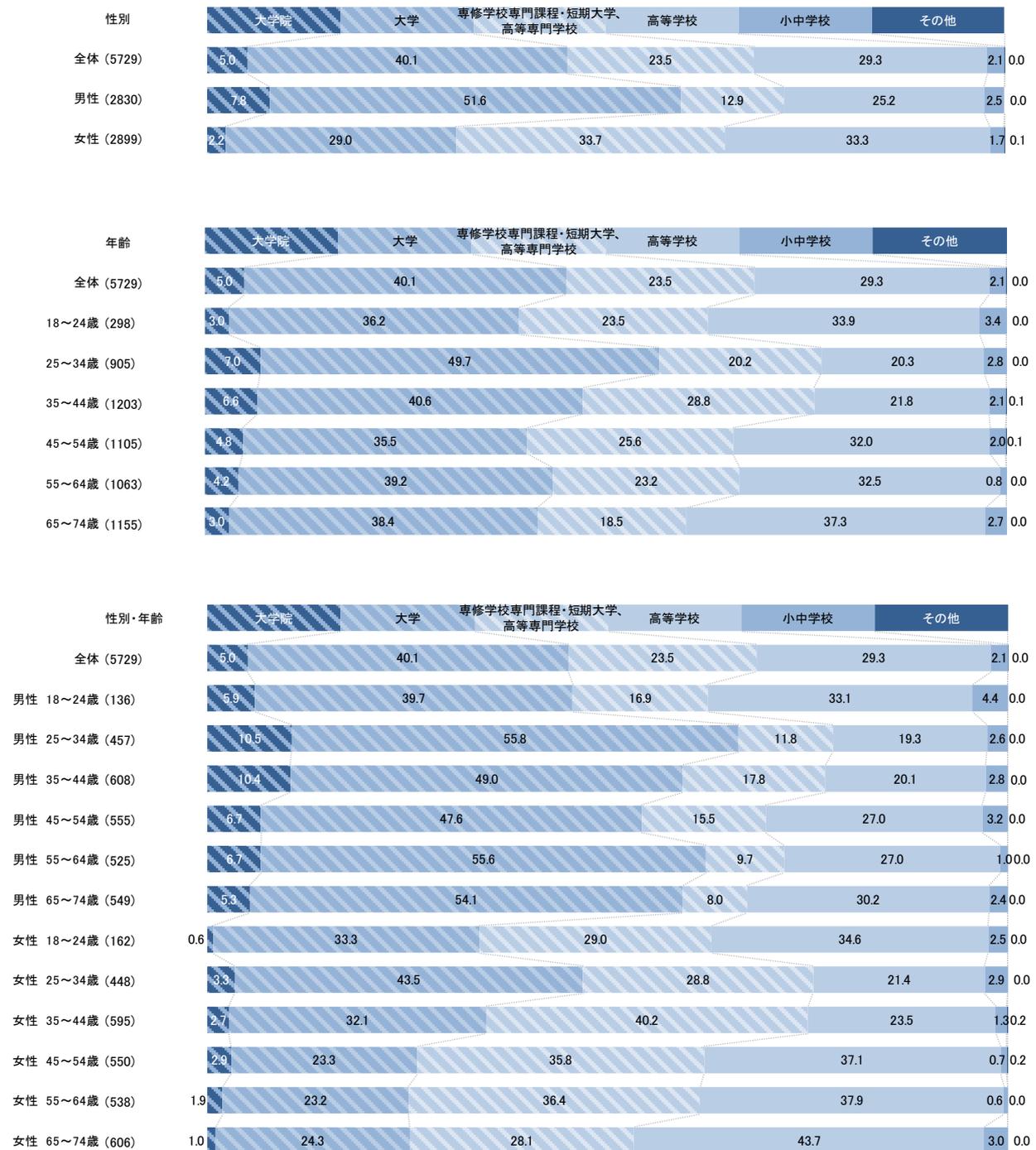
※職種が多岐にわたる場合は、あなたが従事する役割が最も大きいものをお選びください。



※n= (現役の生産労働人口に相当する人)

- ・「性別」では、「男性」で「経営・管理職」、「女性」で「事務職」「販売職」が全体と比較して高い。
- ・「年齢」では、「18-24歳」で「販売職」、「25-34歳」で「専門・技術職」、「55-64歳」で「経営・管理職」、「65-74歳」で「労務・技能職」が全体と比較して高い。

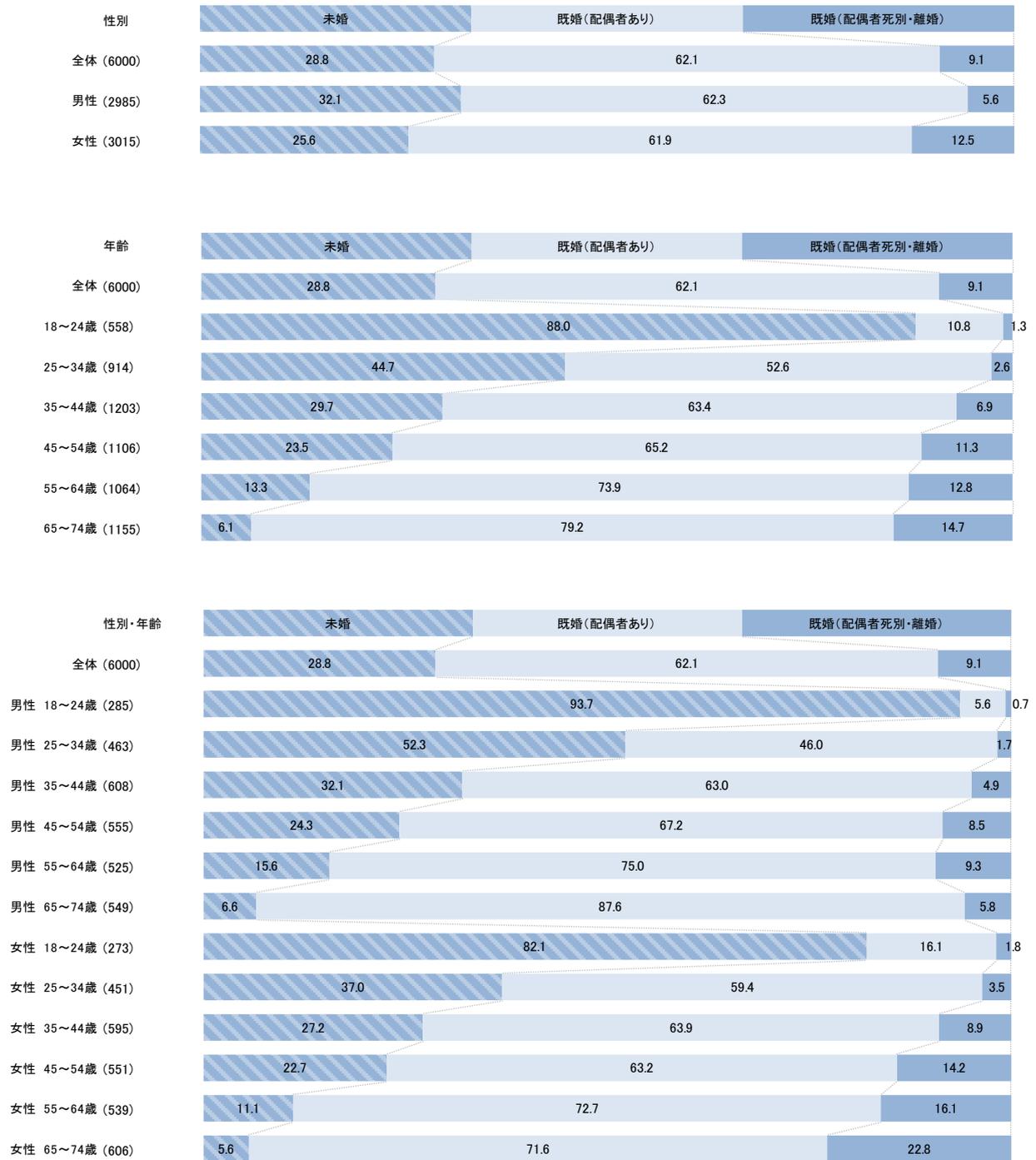
■ 最終学歴 (Q4. あなたの最終学歴をお答えください。(回答はひとつ))



※n= (職業が「高校生」「大学生／大学院生」以外)

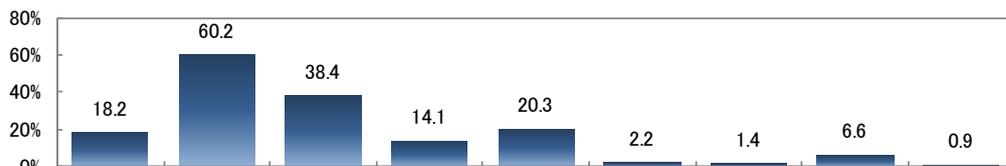
- ・「性別」では、「男性」で「大学」、「女性」で「専修学校専門課程・短期大学、高等専門学校」が全体と比較して高い。
- ・「年齢」では、「25-34歳」で「大学」、「35-44歳」で「専修学校専門課程・短期大学、高等専門学校」、「65-74歳」で「高等学校」が全体と比較して高い。

■ 未既婚 (Q5. あなたの婚姻状況をお答えください。(回答はひとつ))



・「性別」では、男性で「未婚」が全体と比較して高い。
 ・「年齢」では、年齢が低くなるにつれ「未婚」が高い。年齢が高くなるにつれ「既婚(配偶者あり)」「既婚(配偶者死別・離別)」が高い。

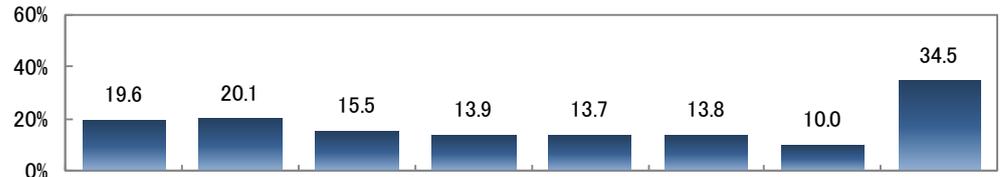
■ 同居の家族 (Q6. あなたと同居しているご家族をすべてお答えください。(複数選択可))



		(n)	同居の家族 はいない (一人暮らし)	配偶者	子ども	父親(配偶 者の父親を 含む)	母親(配偶 者の母親を 含む)	祖父母	孫	兄弟姉妹	その他
全体		(6000)	18.2	60.2	38.4	14.1	20.3	2.2	1.4	6.6	0.9
性別	男性	(2985)	19.9	60.3	37.8	15.2	21.4	2.3	1.1	6.4	0.7
	女性	(3015)	16.5	60.0	39.0	12.9	19.3	2.1	1.7	6.8	1.0
年齢	18~24歳	(558)	32.3	10.0	7.9	45.9	51.1	10.6	0.2	31.5	1.4
	25~34歳	(914)	22.5	51.2	37.3	20.2	23.3	4.5	0.3	9.0	1.0
	35~44歳	(1203)	15.6	61.8	52.0	17.0	20.9	1.9	0.0	5.0	0.9
	45~54歳	(1106)	15.8	63.0	50.9	11.4	20.3	0.5	0.3	3.3	1.1
	55~64歳	(1064)	15.7	71.1	35.8	5.1	16.9	0.2	1.9	2.4	0.4
	65~74歳	(1155)	15.2	76.9	30.2	1.6	5.6	0.1	4.9	1.3	0.7
性別・ 年齢	男性 18~24歳	(285)	39.3	4.9	3.5	43.5	46.3	9.5	0.4	30.2	0.7
	男性 25~34歳	(463)	27.4	44.9	32.2	22.0	25.5	5.0	0.4	8.9	0.4
	男性 35~44歳	(608)	17.3	61.3	49.8	18.8	22.5	2.1	0.0	5.3	1.3
	男性 45~54歳	(555)	18.6	65.8	50.5	11.4	19.3	0.5	0.2	2.5	0.9
	男性 55~64歳	(525)	15.8	71.4	39.8	7.2	20.2	0.4	0.6	2.3	0.4
	男性 65~74歳	(549)	11.8	84.9	32.1	2.4	6.9	0.0	4.6	0.9	0.5
	女性 18~24歳	(273)	24.9	15.4	12.5	48.4	56.0	11.7	0.0	33.0	2.2
	女性 25~34歳	(451)	17.5	57.6	42.6	18.4	21.1	4.0	0.2	9.1	1.6
	女性 35~44歳	(595)	13.9	62.4	54.1	15.3	19.2	1.7	0.0	4.7	0.5
	女性 45~54歳	(551)	13.1	60.3	51.4	11.4	21.4	0.5	0.4	4.2	1.3
	女性 55~64歳	(539)	15.6	70.9	31.9	3.0	13.7	0.0	3.2	2.6	0.4
	女性 65~74歳	(606)	18.3	69.6	28.5	0.8	4.5	0.2	5.3	1.7	0.8

- ・年齢が低くなるにつれ、「同居の家族はいない」「父親」「母親」「祖父母」「兄弟姉妹」が高い。
- ・年齢が高くなるにつれ、「配偶者」が高い。
- ・「子ども」は、「35~44歳」「45~54歳」で全体と比較して高い。
- ・「兄弟姉妹」は、「18~24歳」で全体と比較して高い。

■ 同居の子供の年齢 (Q7. あなたが同居している子どもの年齢をすべてお答えください。(複数選択可))

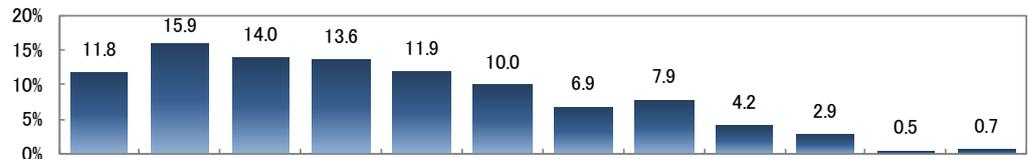


	(n)	0～2歳	3～5歳	小学校低学年(1～3年)	小学校高学年(4～6年)	中学生	高校生	大学生	社会人年齢以上(18歳以上)
全体	(2303)	19.6	20.1	15.5	13.9	13.7	13.8	10.0	34.5
性別									
男性	(1127)	17.5	20.1	16.9	15.1	13.9	16.4	11.1	34.2
女性	(1176)	21.6	20.2	14.1	12.8	13.5	11.3	8.9	34.9
年齢									
18～24歳	(44)	72.7	25.0	2.3	6.8	13.6	0.0	2.3	0.0
25～34歳	(341)	71.3	45.7	14.4	5.0	1.5	0.6	0.0	1.2
35～44歳	(625)	25.4	40.5	35.8	28.5	22.2	11.4	1.4	3.0
45～54歳	(563)	1.6	5.2	12.8	18.8	25.4	35.5	22.7	27.9
55～64歳	(381)	1.0	2.1	1.0	2.9	4.5	10.5	21.8	75.6
65～74歳	(349)	1.1	1.7	2.0	1.4	1.7	1.4	2.6	93.7
性別・年齢									
男性 18～24歳	(10)	20.0	20.0	0.0	20.0	30.0	0.0	10.0	0.0
男性 25～34歳	(149)	71.8	44.3	16.8	4.7	2.0	0.7	0.0	2.0
男性 35～44歳	(303)	26.7	44.6	39.9	29.7	18.2	10.9	1.7	3.6
男性 45～54歳	(280)	1.8	6.8	14.3	21.8	28.2	41.4	21.4	23.9
男性 55～64歳	(209)	0.5	1.0	1.0	3.8	7.2	14.8	24.4	67.9
男性 65～74歳	(176)	0.6	1.1	1.7	1.1	1.1	2.3	4.5	92.0
女性 18～24歳	(34)	88.2	26.5	2.9	2.9	8.8	0.0	0.0	0.0
女性 25～34歳	(192)	70.8	46.9	12.5	5.2	1.0	0.5	0.0	0.5
女性 35～44歳	(322)	24.2	36.6	32.0	27.3	26.1	11.8	1.2	2.5
女性 45～54歳	(283)	1.4	3.5	11.3	15.9	22.6	29.7	24.0	31.8
女性 55～64歳	(172)	1.7	3.5	1.2	1.7	1.2	5.2	18.6	84.9
女性 65～74歳	(173)	1.7	2.3	2.3	1.7	2.3	0.6	0.6	95.4

※n= (子どもと同居の人)

- ・年齢が低くなるにつれ、「0～2歳」が高い。
- ・年齢が高くなるにつれ、「社会人年齢以上」が高い。

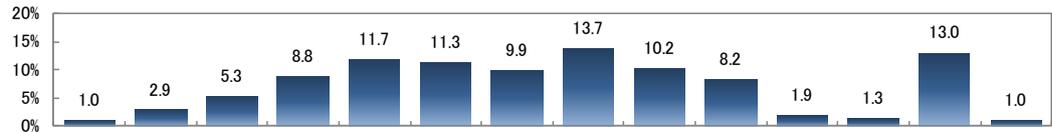
■ 個人年収 (Q8. あなたご自身の個人年収をお答えください。(回答はひとつ))



		(n)	所得無し	100万円未満	100万円～199万円未満	200万円～299万円未満	300万円～399万円未満	400万円～499万円未満	500万円～599万円未満	600万円～699万円未満	700万円～799万円未満	800万円～899万円未満	900万円～999万円未満	1000万円以上
全体		(6000)	11.8	15.9	14.0	13.6	11.9	10.0	6.9	7.9	4.2	2.9	0.5	0.7
性別	男性	(2985)	4.2	7.8	8.2	12.9	14.4	14.2	10.7	13.5	7.3	5.1	0.8	1.0
	女性	(3015)	19.3	23.8	19.7	14.3	9.4	5.8	3.2	2.3	1.0	0.6	0.2	0.3
年齢	18～24歳	(558)	16.3	34.9	12.7	15.6	12.0	4.7	0.7	1.1	0.5	0.5	0.4	0.5
	25～34歳	(914)	11.3	9.1	9.3	14.1	18.1	16.0	11.1	6.8	2.3	1.2	0.3	0.5
	35～44歳	(1203)	11.8	11.4	11.0	10.2	11.4	12.8	11.0	11.9	4.2	3.5	0.5	0.4
	45～54歳	(1106)	10.9	10.5	12.5	9.8	10.6	10.3	8.6	12.5	7.5	5.0	0.6	1.3
	55～64歳	(1064)	17.3	14.3	15.4	10.5	8.2	7.3	5.0	8.4	7.2	4.5	1.0	0.8
	65～74歳	(1155)	5.7	23.2	21.6	22.3	12.2	6.8	2.5	2.9	1.4	1.0	0.1	0.3
性別・年齢	男性 18～24歳	(285)	16.1	35.8	12.3	11.2	13.7	6.0	0.7	1.1	0.7	0.7	0.7	1.1
	男性 25～34歳	(463)	3.5	4.5	6.0	10.2	19.9	19.7	17.7	11.7	3.5	2.4	0.4	0.6
	男性 35～44歳	(608)	2.8	5.3	3.3	8.2	12.3	18.4	15.3	19.7	6.7	6.6	0.8	0.5
	男性 45～54歳	(555)	2.3	3.1	5.2	4.3	11.0	13.9	13.0	21.8	13.9	8.6	0.9	2.0
	男性 55～64歳	(525)	3.4	6.1	10.9	10.5	10.1	11.0	8.8	14.7	13.3	8.2	1.7	1.3
	男性 65～74歳	(549)	2.6	5.1	13.7	32.2	20.2	12.4	4.4	4.9	2.4	1.6	0.2	0.4
	女性 18～24歳	(273)	16.5	34.1	13.2	20.1	10.3	3.3	0.7	1.1	0.4	0.4	0.0	0.0
	女性 25～34歳	(451)	19.3	13.7	12.6	18.2	16.2	12.2	4.2	1.8	1.1	0.0	0.2	0.4
	女性 35～44歳	(595)	21.0	17.6	18.8	12.3	10.4	7.1	6.6	3.9	1.5	0.3	0.2	0.3
	女性 45～54歳	(551)	19.6	18.0	19.8	15.2	10.2	6.7	4.2	3.1	1.1	1.3	0.4	0.5
	女性 55～64歳	(539)	30.8	22.3	19.9	10.6	6.3	3.7	1.3	2.2	1.3	0.9	0.4	0.4
	女性 65～74歳	(606)	8.6	39.6	28.7	13.2	5.0	1.8	0.8	1.2	0.5	0.5	0.0	0.2

- ・「性別」では、「男性」で「600～800万円未満」、「女性」で「100万円未満」「所得無し」「100～200万円未満」が全体と比較して高い。
- ・「年齢」では、「18-24歳」で「100万円未満」、「25-34歳」で「300～400万円未満」「400～500万円未満」、「55-64歳」で「所得無し」、「65-74歳」で「200～300万円未満」「100～200万円未満」「100万円未満」が全体と比較して高い。

■ 世帯年収 (Q9. あなたの世帯の年収をお答えください。(回答はひとつ))



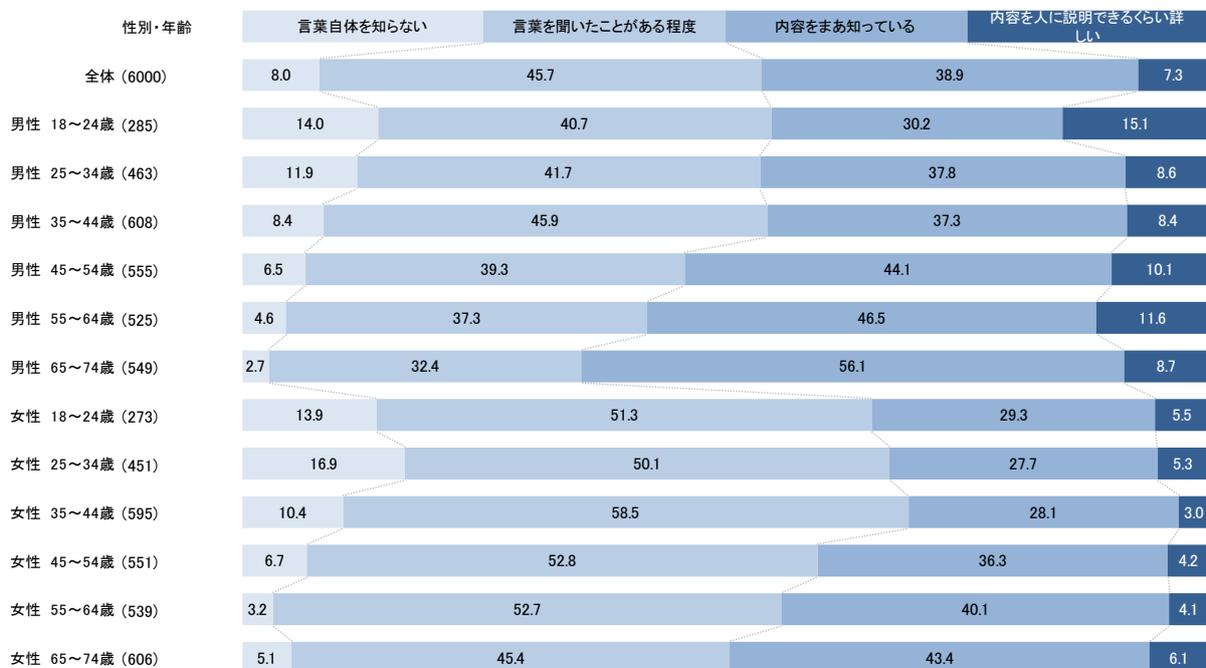
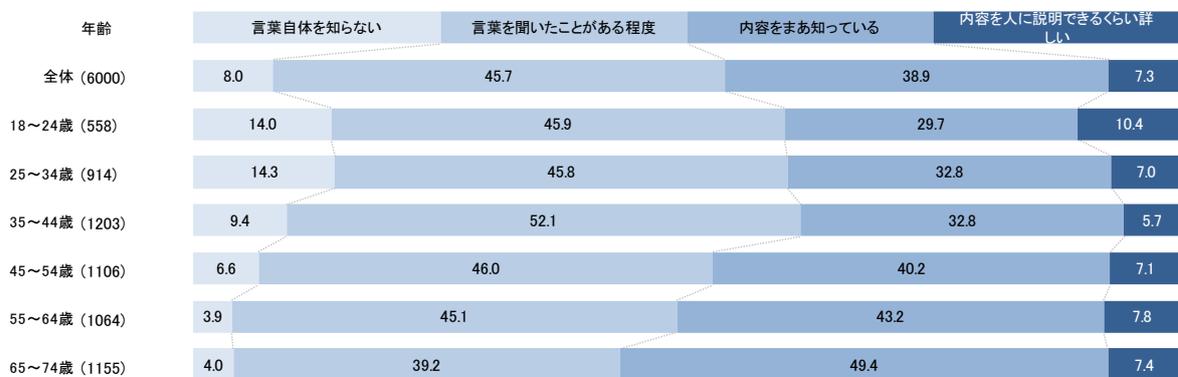
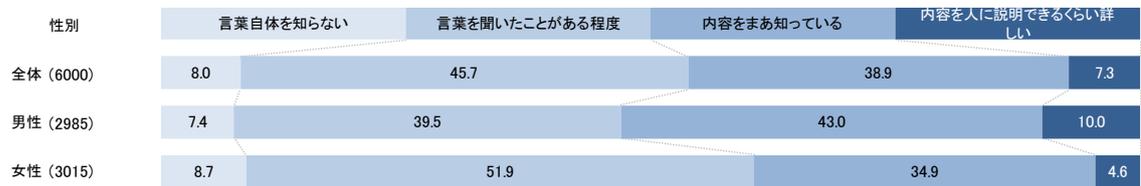
	(n)	所得無し	100万円未満	100万円～199万円未満	200万円～299万円未満	300万円～399万円未満	400万円～499万円未満	500万円～599万円未満	600万円～699万円未満	700万円～799万円未満	800万円～899万円未満	900万円～999万円未満	100万円以上	世帯年収はわからない	世帯年収回答拒否
全体	(6000)	1.0	2.9	5.3	8.8	11.7	11.3	9.9	13.7	10.2	8.2	1.9	1.3	13.0	1.0
性別															
男性	(2985)	1.1	3.0	3.9	8.2	10.2	12.4	11.0	15.9	12.0	10.0	2.5	1.7	7.6	0.6
女性	(3015)	0.8	2.7	6.7	9.4	13.2	10.1	8.9	11.6	8.5	6.4	1.2	0.9	18.3	1.3
年齢															
18～24歳	(558)	3.6	10.4	5.0	10.8	12.4	7.2	4.8	7.2	6.1	7.5	1.6	1.8	20.6	1.1
25～34歳	(914)	0.7	1.6	2.6	7.4	11.5	15.3	14.4	15.9	10.7	7.1	1.8	1.2	9.1	0.7
35～44歳	(1203)	0.6	1.4	3.3	6.0	10.8	13.3	11.2	17.6	11.0	9.2	1.8	1.3	11.6	0.7
45～54歳	(1106)	1.1	1.4	4.0	5.2	9.0	8.7	8.5	17.5	15.2	11.3	2.5	1.8	12.7	1.1
55～64歳	(1064)	1.1	2.5	7.3	9.0	8.9	9.4	8.3	12.8	11.4	10.5	2.3	1.2	13.7	1.4
65～74歳	(1155)	0.0	3.4	8.8	15.2	17.6	12.0	10.3	8.3	5.2	3.1	1.0	0.8	13.4	1.0
性別・年齢															
男性 18～24歳	(285)	4.9	12.6	6.0	9.8	9.5	9.5	5.3	6.7	5.3	7.7	2.5	2.1	16.8	1.4
男性 25～34歳	(463)	1.1	1.1	2.6	6.9	10.2	16.2	15.3	16.6	11.7	8.2	2.4	1.3	6.0	0.4
男性 35～44歳	(608)	0.7	1.6	1.6	4.1	9.2	14.8	10.0	21.9	12.8	11.7	1.8	1.8	7.2	0.7
男性 45～54歳	(555)	0.9	1.8	2.9	2.5	7.2	9.9	11.4	20.7	18.2	12.4	3.4	2.2	6.1	0.4
男性 55～64歳	(525)	0.8	3.0	5.9	8.0	6.7	8.6	9.5	14.5	14.9	14.7	3.2	2.1	7.4	0.8
男性 65～74歳	(549)	0.0	2.4	5.3	19.1	18.0	14.0	12.2	9.8	5.8	3.8	1.6	0.9	6.4	0.5
女性 18～24歳	(273)	2.2	8.1	4.0	11.7	15.4	4.8	4.4	7.7	7.0	7.3	0.7	1.5	24.5	0.7
女性 25～34歳	(451)	0.2	2.2	2.7	8.0	12.9	14.4	13.5	15.1	9.8	6.0	1.1	1.1	12.2	0.9
女性 35～44歳	(595)	0.5	1.2	5.0	7.9	12.4	11.8	12.4	13.3	9.1	6.7	1.8	0.8	16.1	0.8
女性 45～54歳	(551)	1.3	1.1	5.1	7.8	10.9	7.4	5.6	14.3	12.2	10.2	1.6	1.5	19.2	1.8
女性 55～64歳	(539)	1.5	2.0	8.7	10.0	11.1	10.2	7.1	11.1	8.0	6.5	1.5	0.4	19.9	2.0
女性 65～74歳	(606)	0.0	4.3	12.0	11.6	17.2	10.2	8.6	6.9	4.6	2.5	0.3	0.7	19.8	1.3

・「性別」では、「女性」で「世帯年収はわからない」が全体と比較して高い。
 ・「年齢」では、「18-24歳」で「世帯年収はわからない」「100万円未満」、「65-74歳」で「200～300万円未満」「300～400万円未満」が全体と比較して高い。

3-3 性年齢別結果の詳細

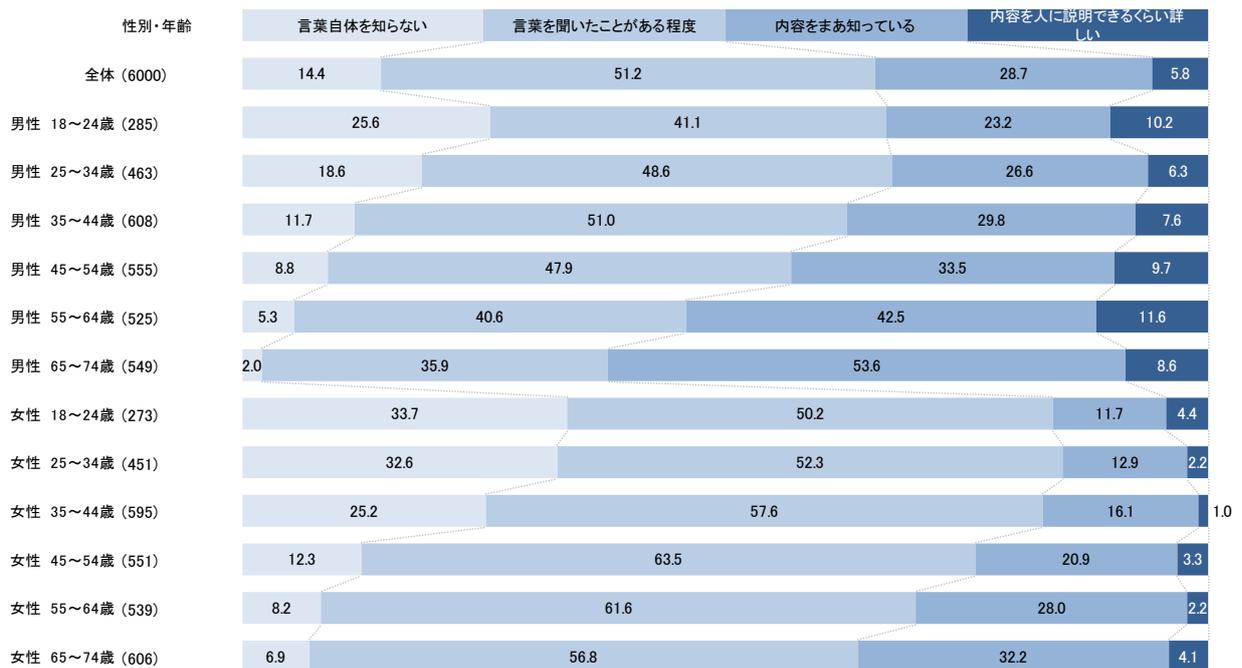
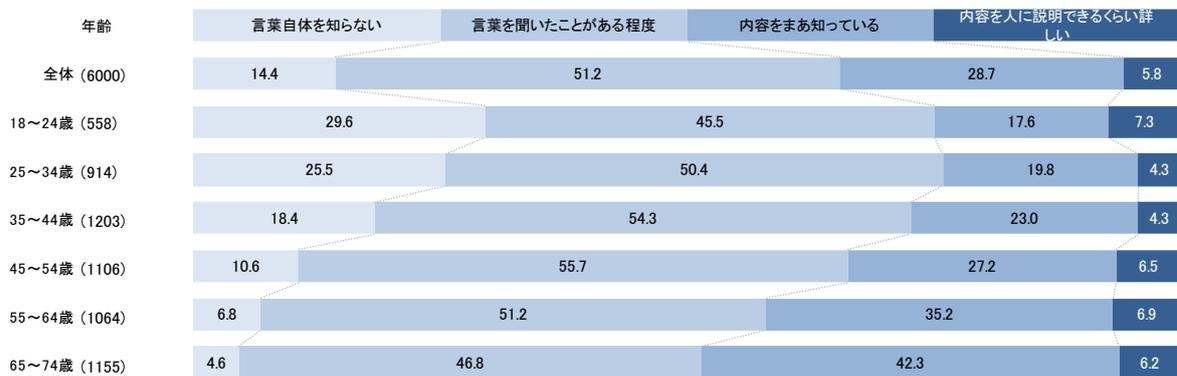
Q10. 日本の財政に関する以下の言葉について、それぞれ「言葉自体を知らない」から「内容を人に説明できるくらい詳しい」まで、どの程度ご存知ですか。あてはまるものをお選びください。(回答は各ひとつ)

1.財政



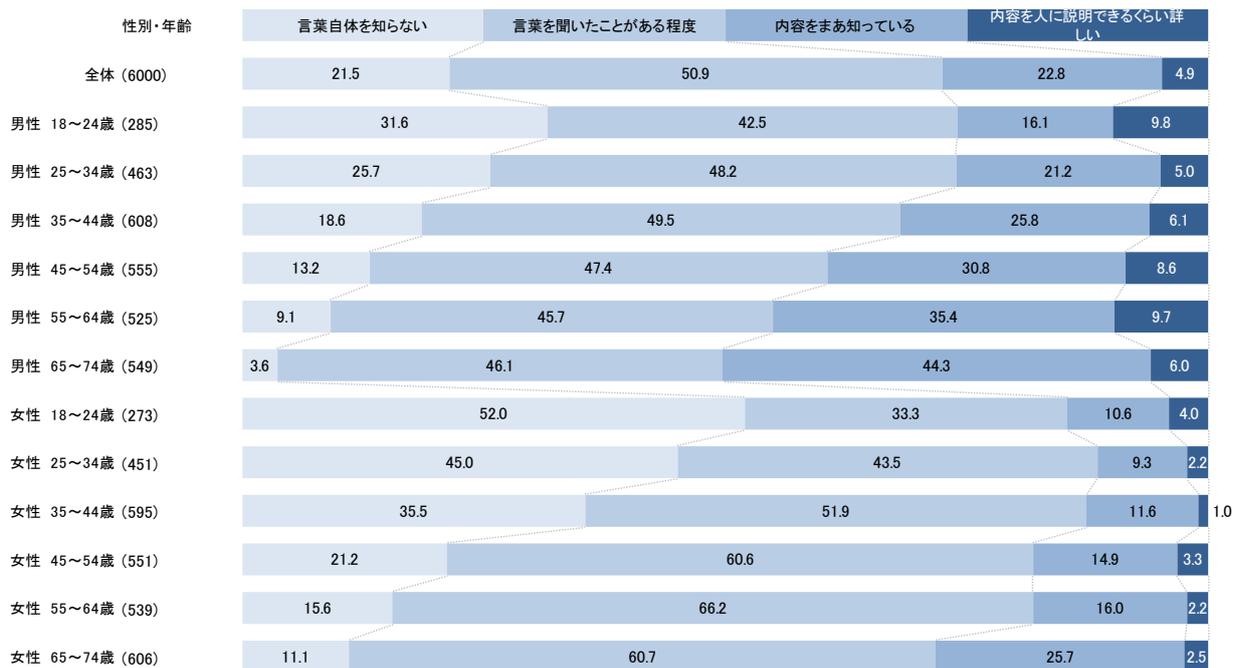
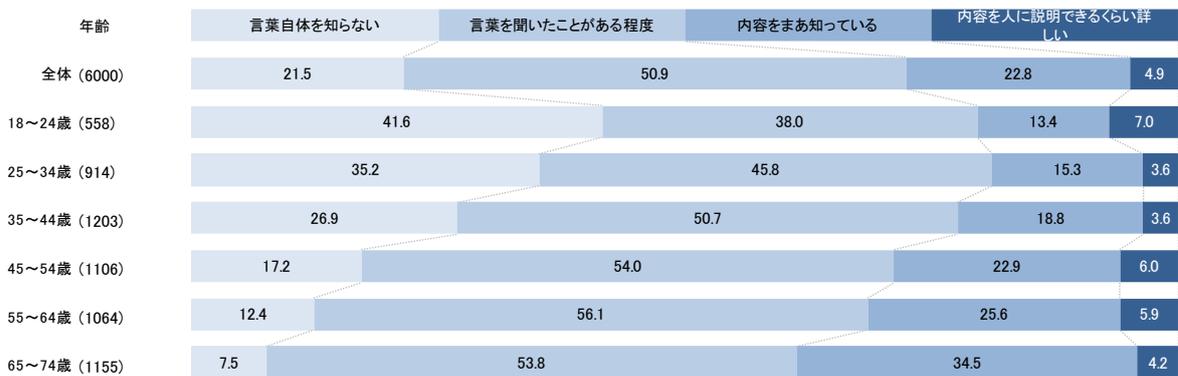
- ・「性別」では、「女性」で「言葉を聞いたことがある程度」が全体と比較して高い。
- ・「年齢」では、「18-24歳」「25-34歳」で「言葉自体を知らない」、「35-44歳」で「言葉を聞いたことがある程度」、「65-74歳」で「内容をまあ知っている」が全体と比較して高い。

2.一般会計



- ・「性別」では、「男性」で「内容をまあ知っている」、「女性」で「言葉を聞いたことがある程度」が全体と比較して高い。
- ・「年齢」では、「18-24歳」「25-34歳」で「言葉自体を知らない」、「55-64歳」「65-74歳」で「内容をまあ知っている」が全体と比較して高い。

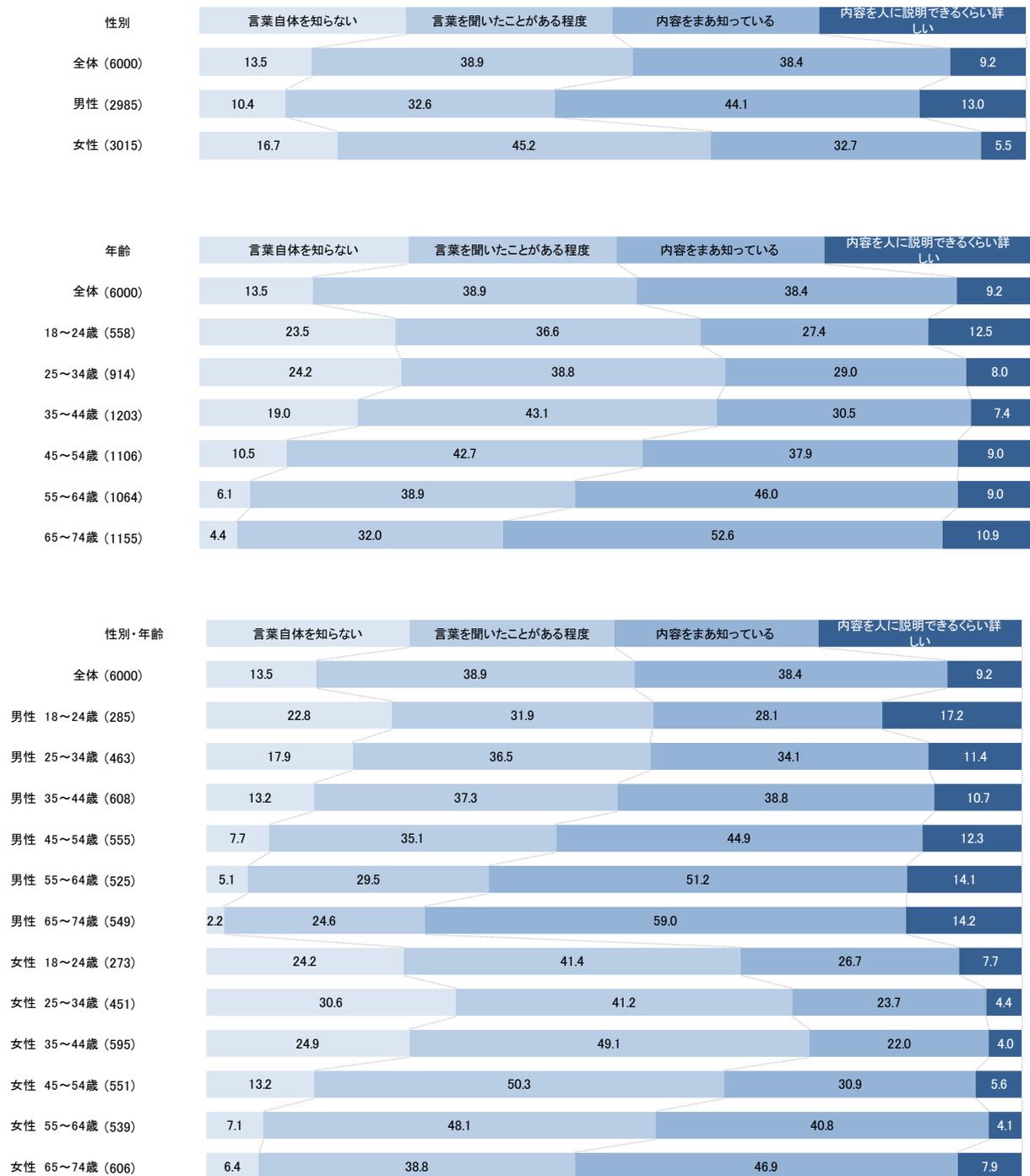
3.特別会計



・「性別」では、「男性」で「内容をまあ知っている」、「女性」で「言葉自体を知らない」が全体と比較して高い。

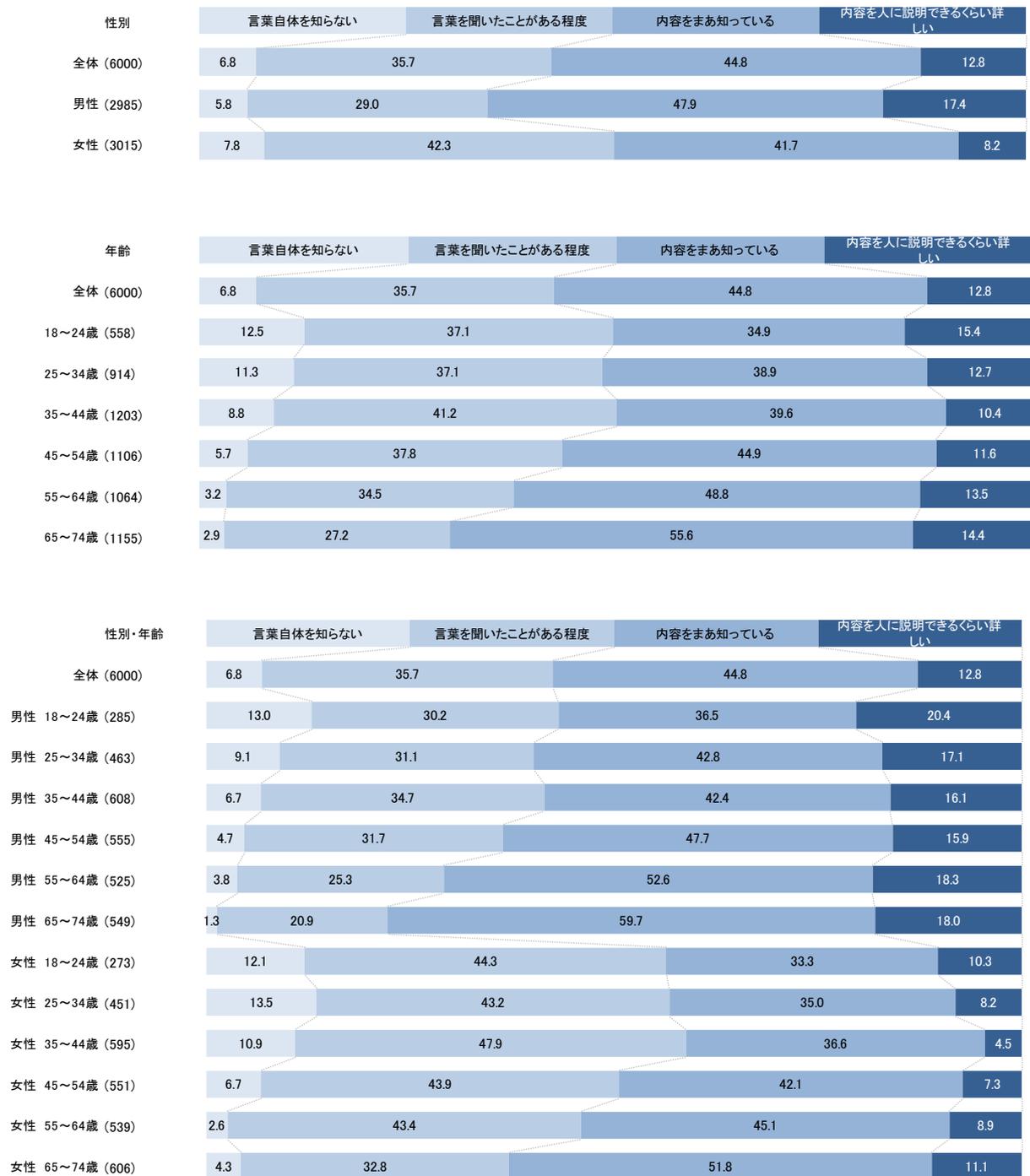
・「年齢」では、「18-24歳」「25-34歳」「35-44歳」で「言葉自体を知らない」、「55-64歳」で「言葉を聞いたことがある程度」、「65-74歳」で「内容をまあ知っている」が全体と比較して高い。

4.歳入と歳出



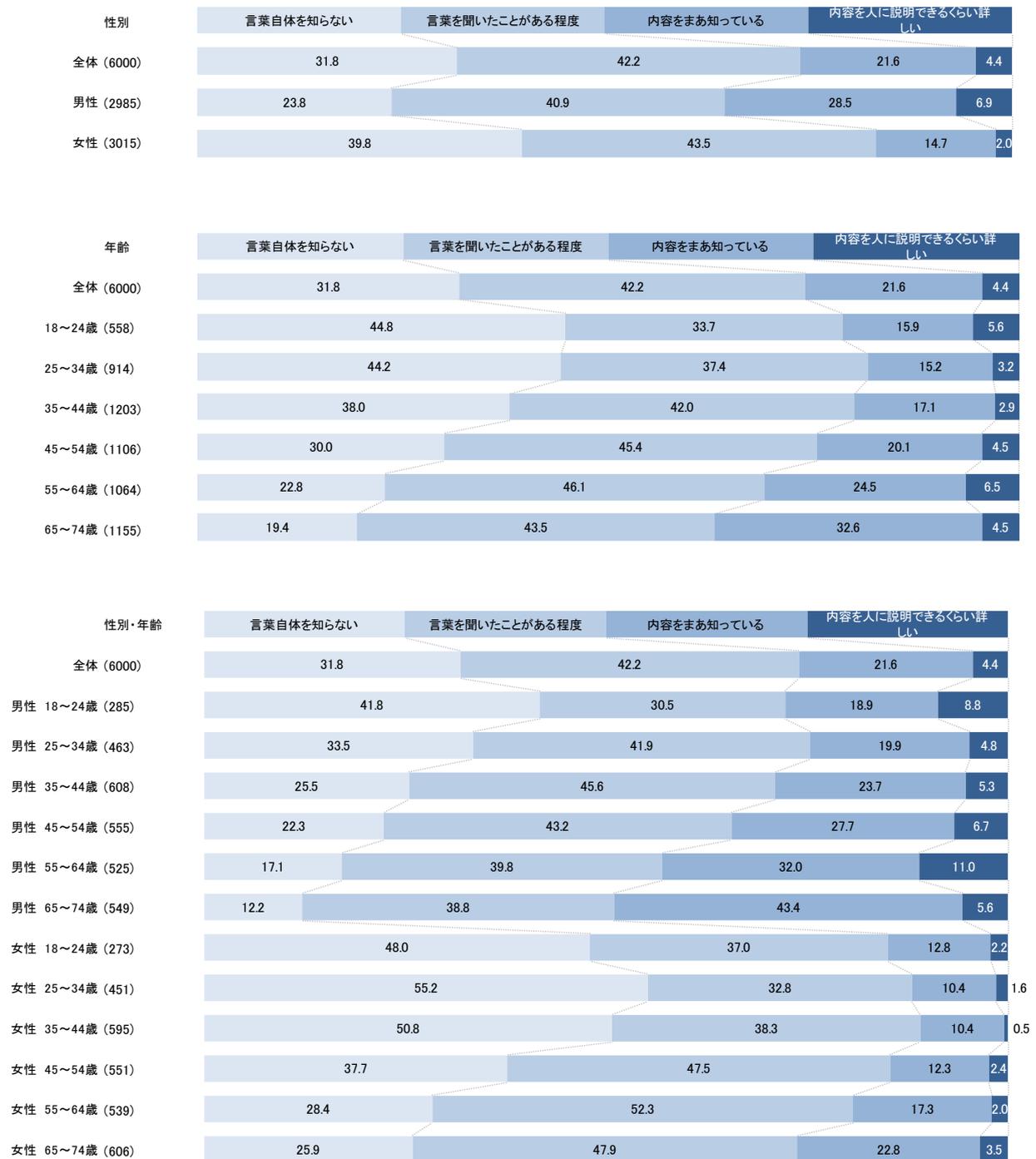
- ・「性別」では、「男性」で「内容をまあ知っている」、「女性」で「言葉を聞いたことがある程度」が全体と比較して高い。
- ・「年齢」では、「18-24歳」「25-34歳」「35-44歳」で「言葉自体を知らない」、「55-64歳」「65-74歳」で「内容をまあ知っている」が全体と比較して高い。

5.国債



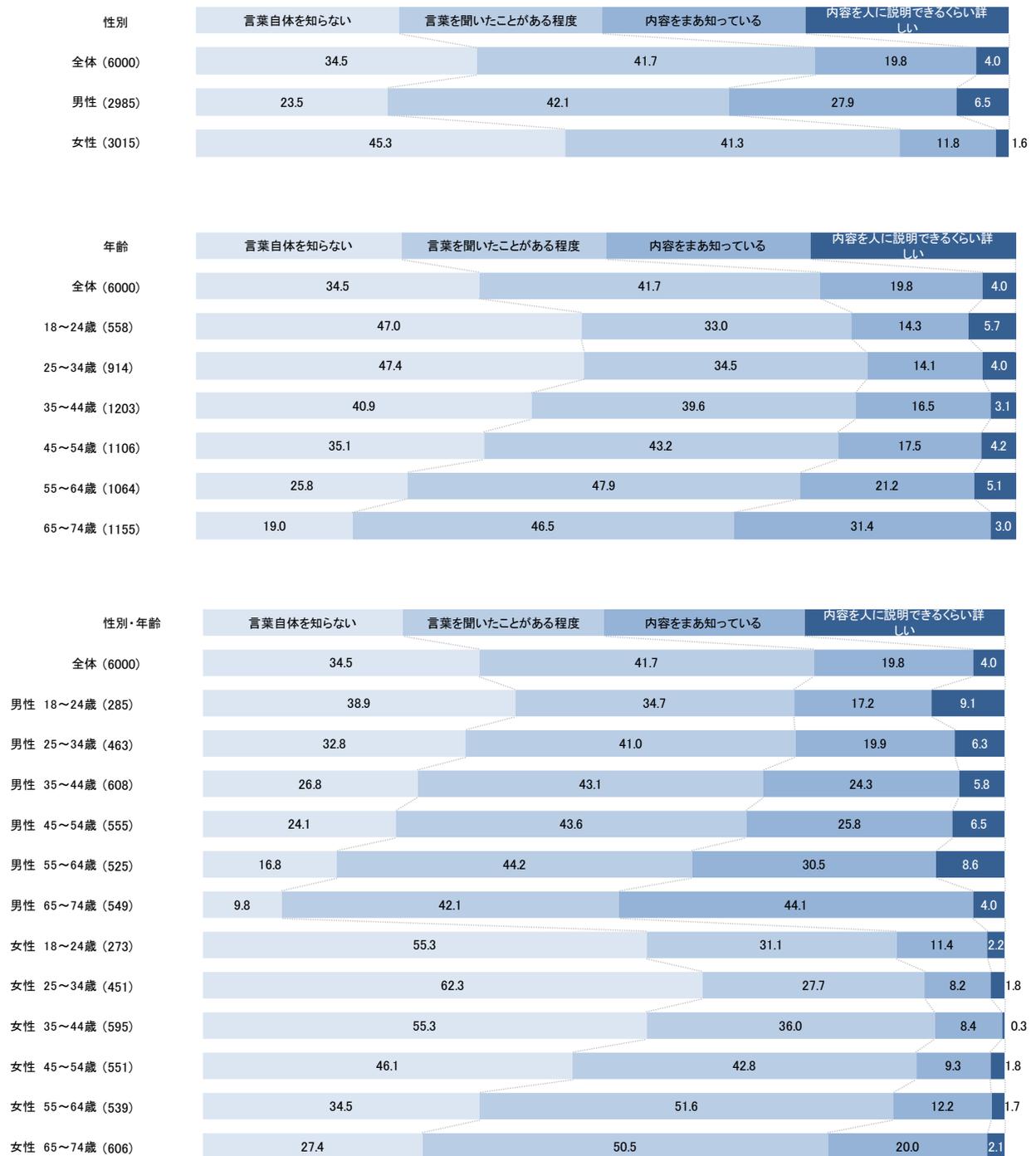
- ・「性別」では、「女性」で「言葉を聞いたことがある程度」が全体と比較して高い。
- ・「年齢」では、「18-24歳」で「言葉自体を知らない」、「35-44歳」で「言葉を聞いたことがある程度」、「65-74歳」で「内容をまあ知っている」が全体と比較して高い。

6.長期債務残高



- ・「性別」では、「男性」で「内容をまあ知っている」、「女性」で「言葉自体を知らない」が全体と比較して高い。
- ・「年齢」では、「18-24歳」「25-34歳」「35-44歳」で「言葉自体を知らない」、「65-74歳」で「内容をまあ知っている」が全体と比較して高い。

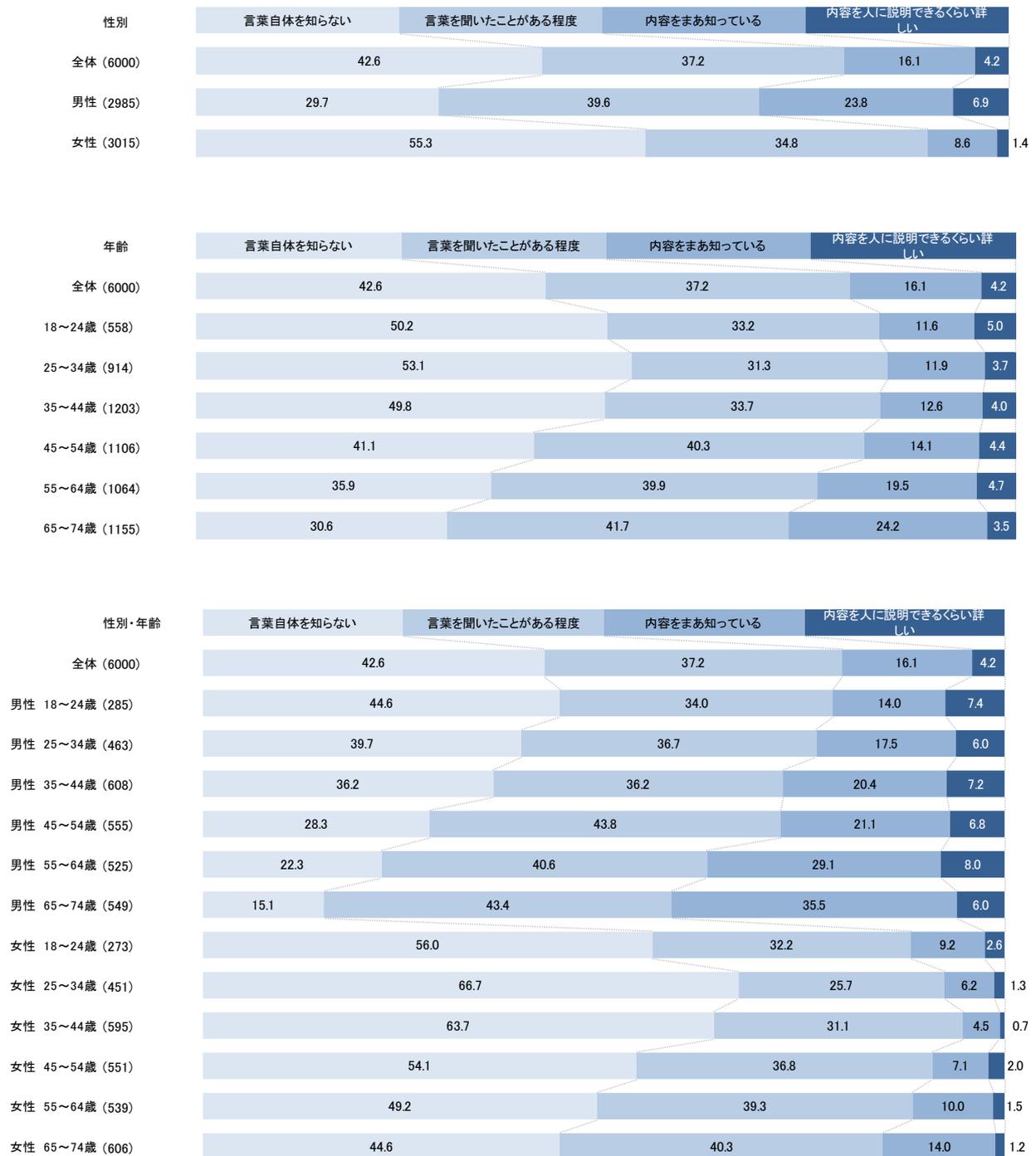
7.財政健全化目標



・「性別」では、「男性」で「内容をまあ知っている」、「女性」で「言葉自体を知らない」が全体と比較して高い。

・「年齢」では、「18-24歳」「25-34歳」「35-44歳」で「言葉自体を知らない」、「55-64歳」で「言葉を聞いたことがある程度」、「65-74歳」で「内容をまあ知っている」が全体と比較して高い。

8.プライマリーバランス



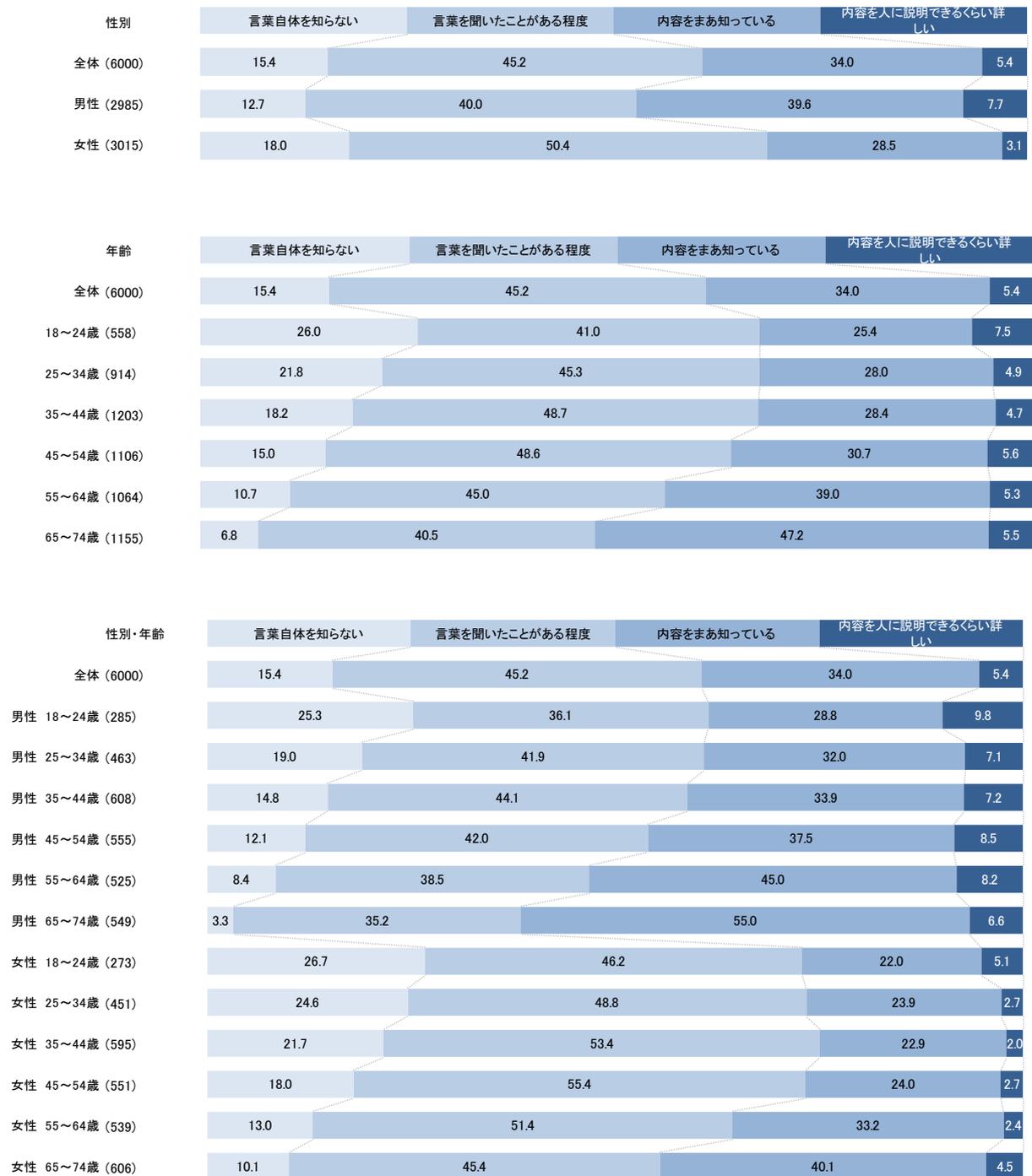
- ・「性別」では、「男性」で「内容をまあ知っている」、「女性」で「言葉自体を知らない」が全体と比較して高い。
- ・「年齢」では、「18-24歳」「25-34歳」「35-44歳」で「言葉自体を知らない」、「65-74歳」で「内容をまあ知っている」が全体と比較して高い。

9. 社会保障と税の一体改革



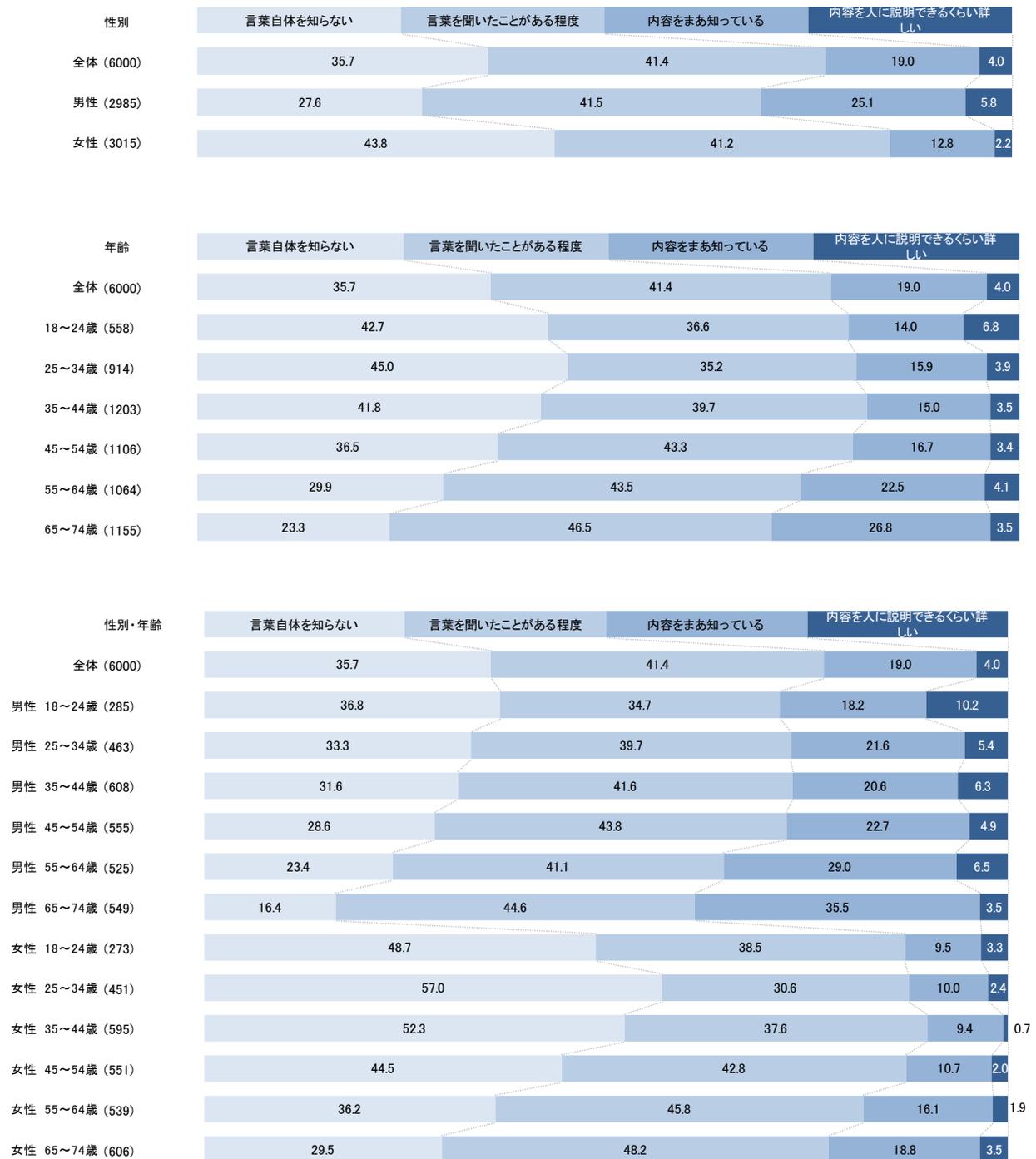
- ・「性別」では、「男性」で「内容をまあ知っている」、「女性」で「言葉自体を知らない」が全体と比較して高い。
- ・「年齢」では、「18-24歳」「25-34歳」「35-44歳」で「言葉自体を知らない」、「65-74歳」で「内容をまあ知っている」が全体と比較して高い。

10.消費税率引上げ分の使い道



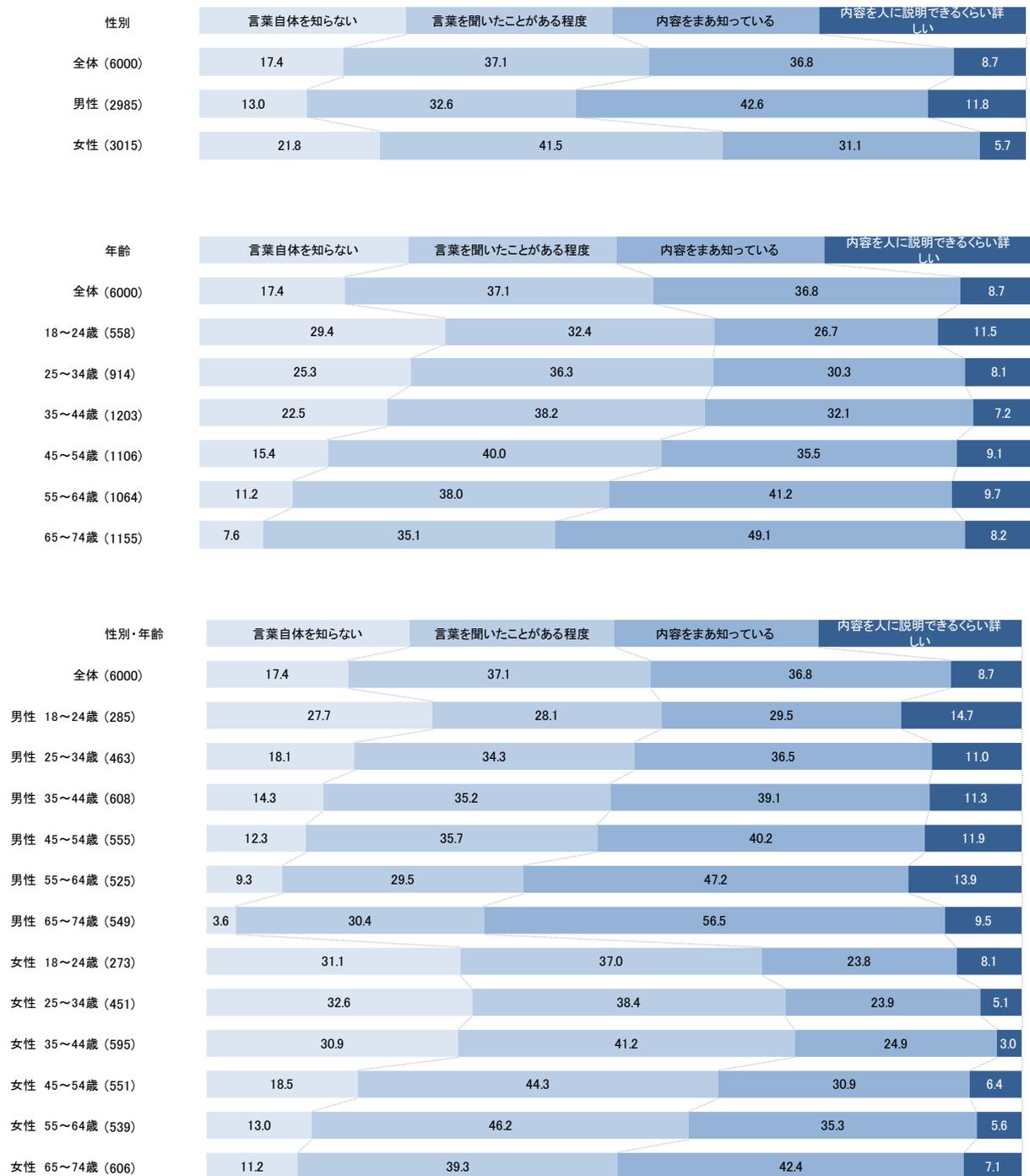
・「性別」では、「男性」で「内容をまあ知っている」、「女性」で「言葉を聞いたことがある程度」が全体と比較して高い。
 ・「年齢」では、「18-24歳」「25-34歳」で「言葉自体を知らない」、「55-64歳」「65-74歳」で「内容をまあ知っている」が全体と比較して高い。

11.全世代型社会保障



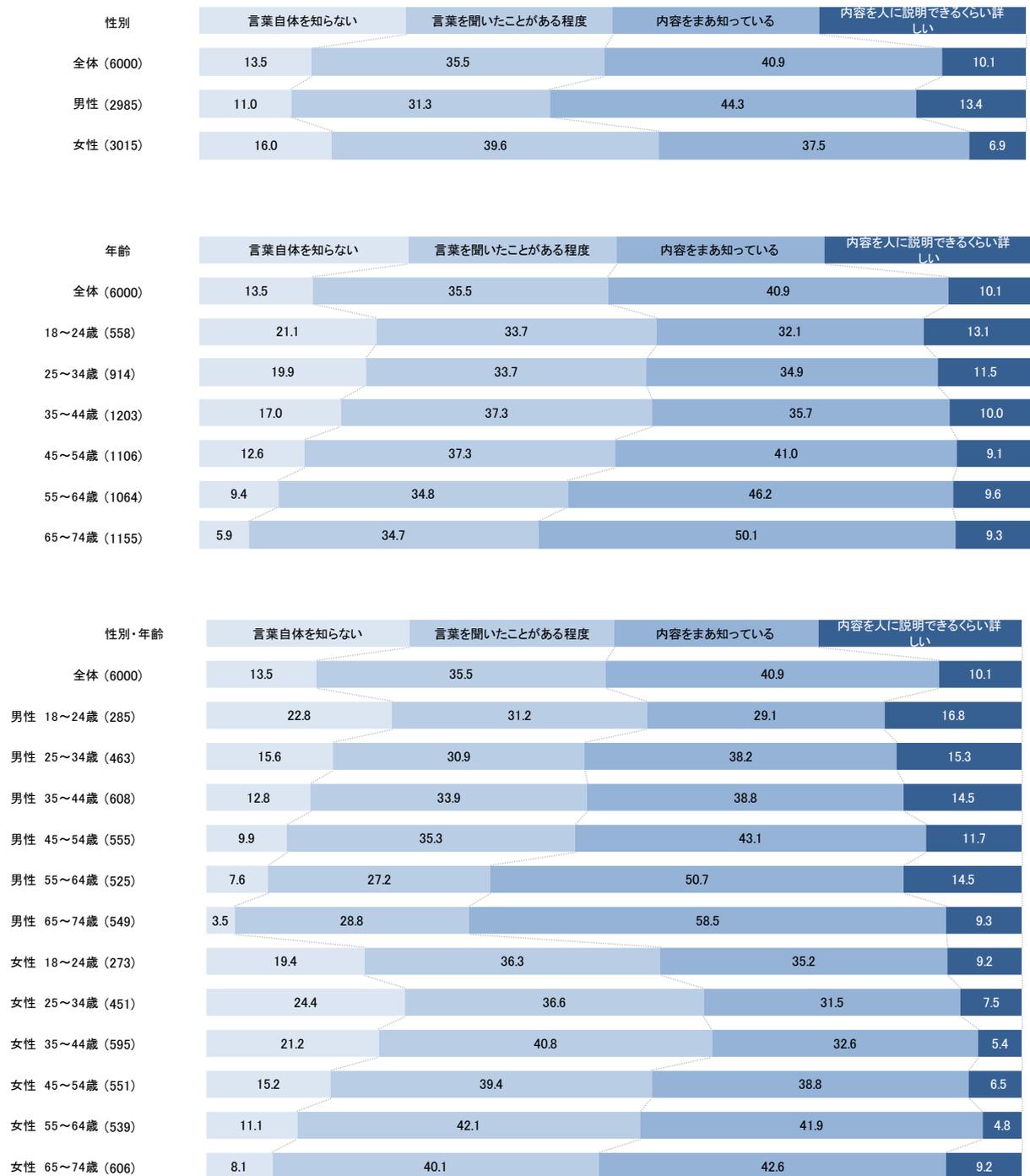
- ・「性別」では、「男性」で「内容をまあ知っている」、「女性」で「言葉自体を知らない」が全体と比較して高い。
- ・「年齢」では、「18-24歳」「25-34歳」「35-44歳」で「言葉自体を知らない」、「65-74歳」で「内容をまあ知っている」「言葉を聞いたことがある程度」が全体と比較して高い。

12. 将来世代への負担の先送り



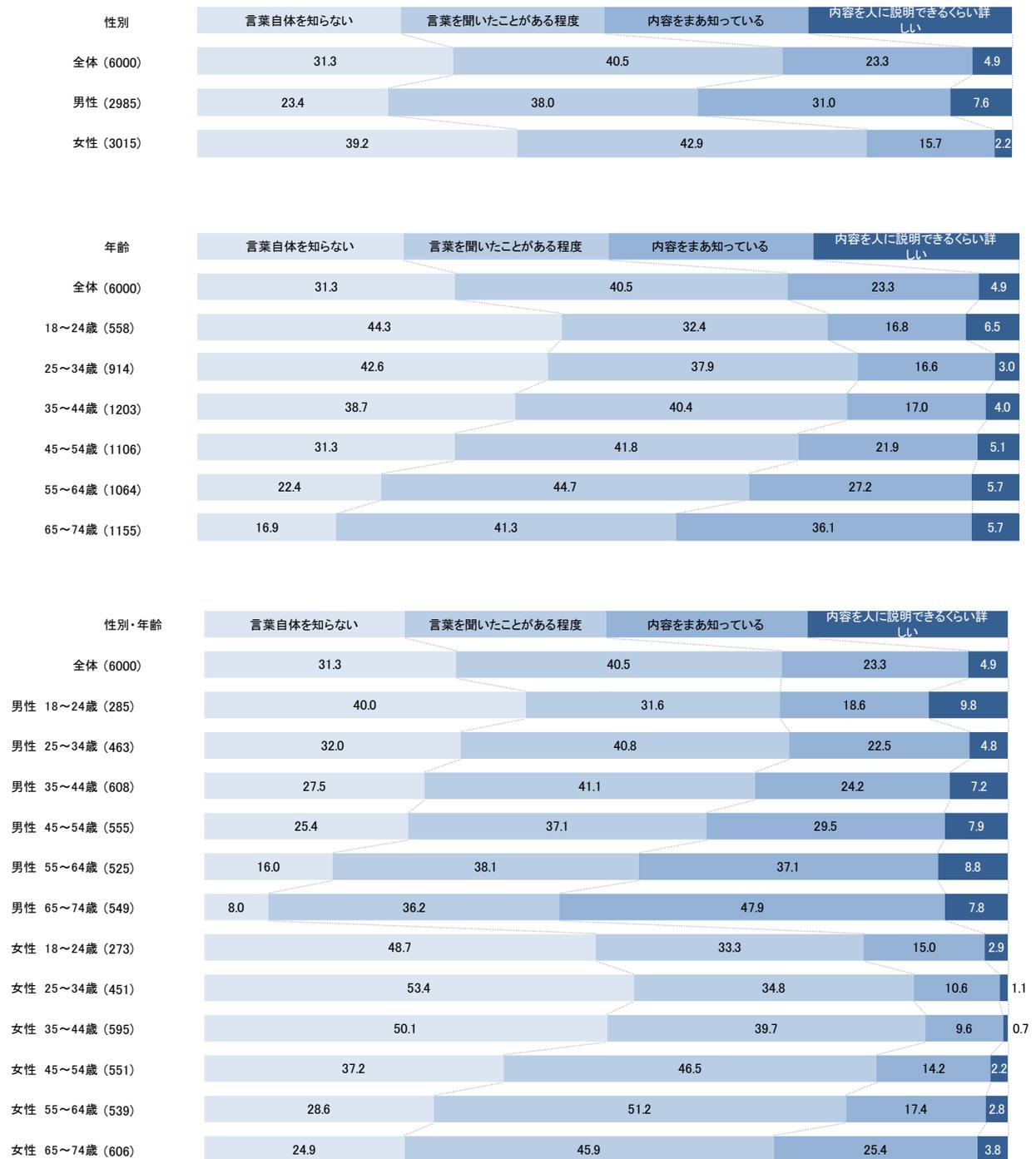
- ・「性別」では、「男性」で「内容をまあ知っている」が全体と比較して高い。
- ・「年齢」では、「18-24歳」「25-34歳」「35-44歳」で「言葉自体を知らない」、「65-74歳」で「内容をまあ知っている」が全体と比較して高い。

13. 少子高齢化に伴う社会保障費増大



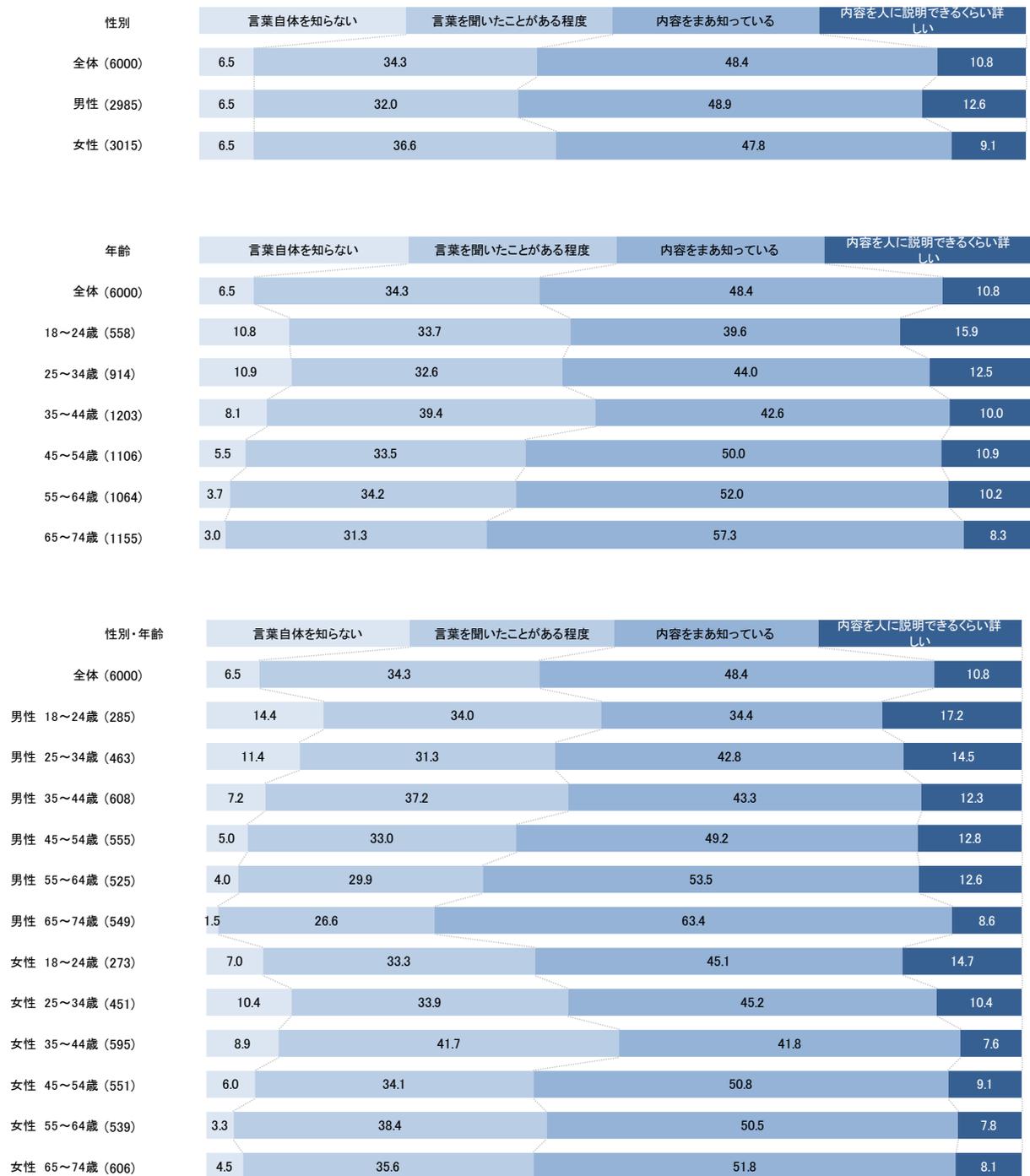
・「年齢」では、「18-24歳」「25-34歳」で「言葉自体を知らない」、「55-64歳」「65-74歳」で「内容をまあ知っている」が全体と比較して高い。

14. 受益と負担



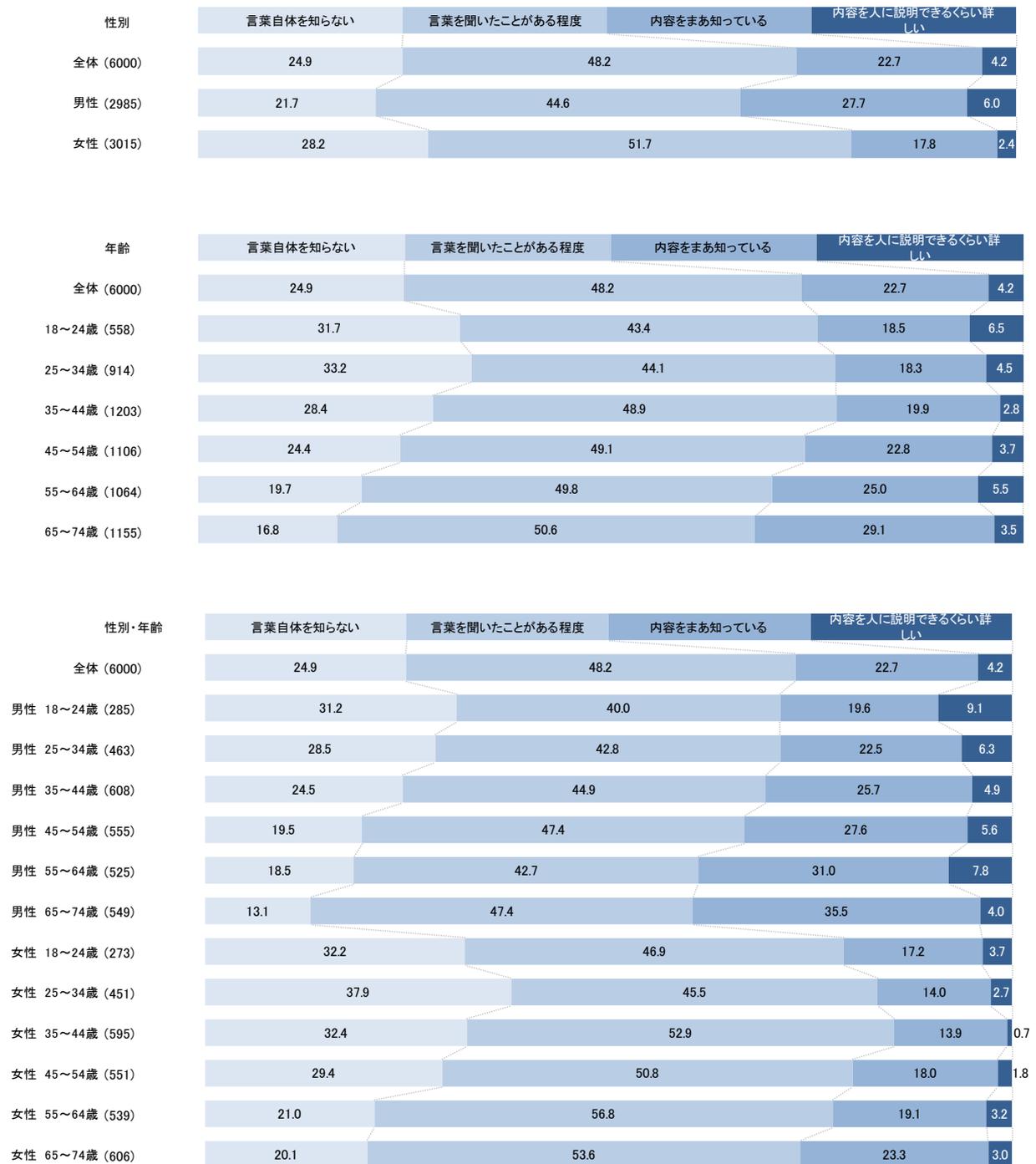
・「性別」では、「男性」で「内容をまあ知っている」、「女性」で「言葉自体を知らない」が全体と比較して高い。
「年齢」では、「18-24歳」「25-34歳」「35-44歳」で「言葉自体を知らない」、「65-74歳」で「内容をまあ知っている」が全体と比較して高い。

15.公共サービス



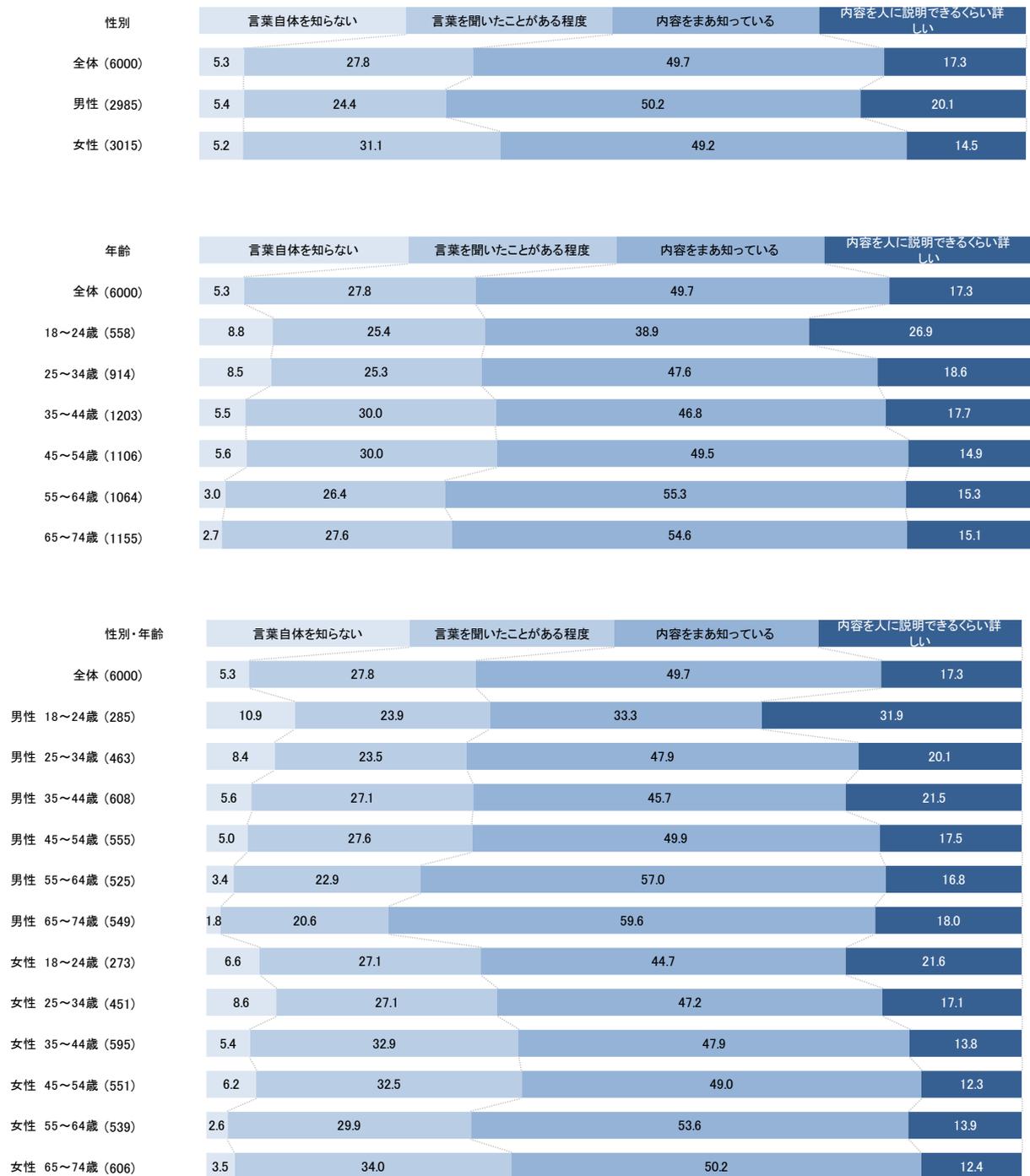
・「年齢」では、「18-24 歳」で「内容を人に説明できるくらい詳しい」、「35-44 歳」で「言葉を聞いたことがある程度」、「65-74 歳」で「内容をまあ知っている」が全体と比較して高い。

16.国民負担率



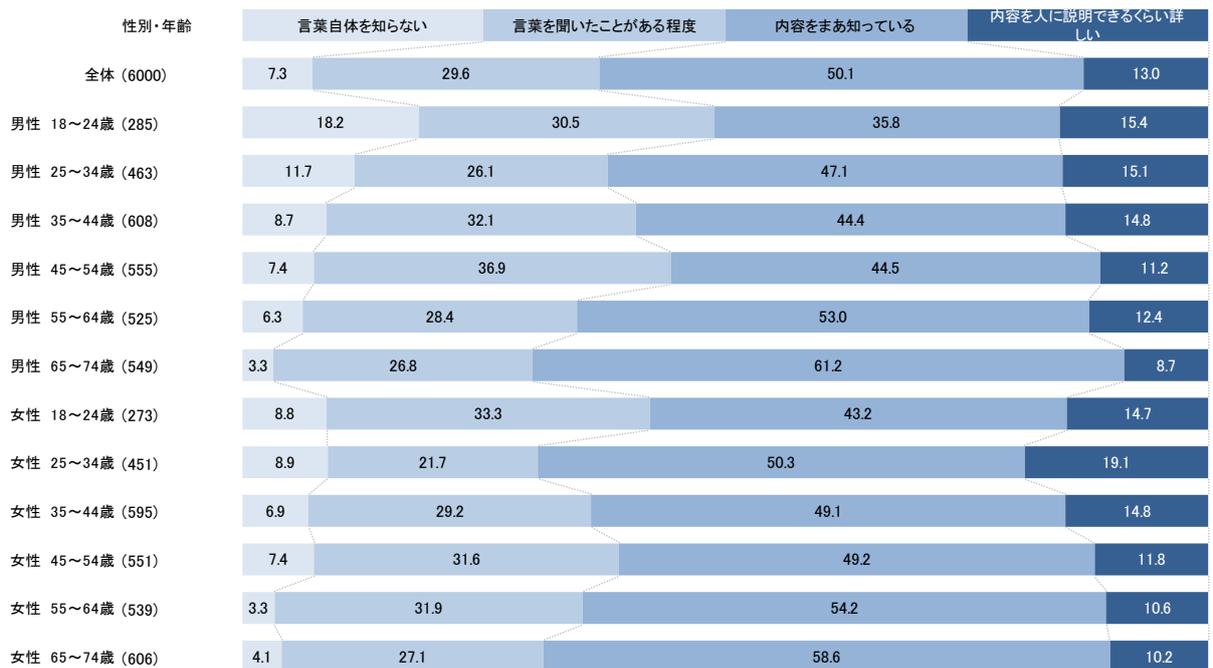
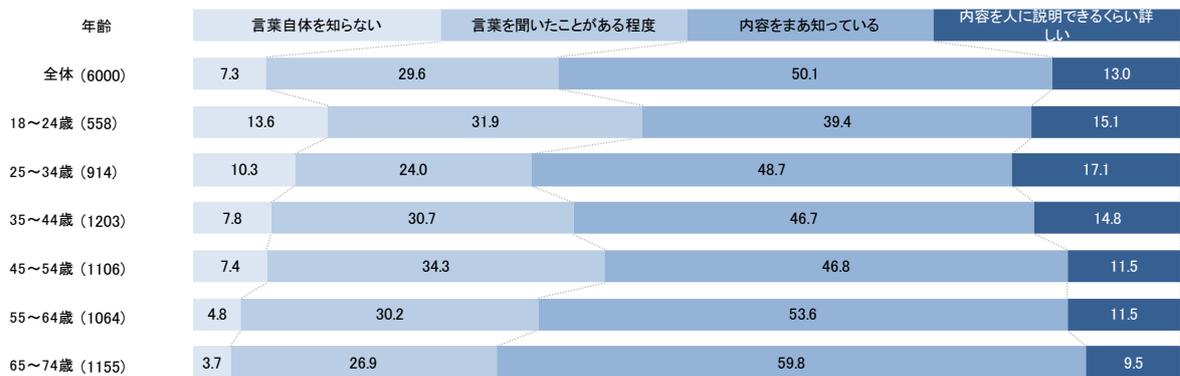
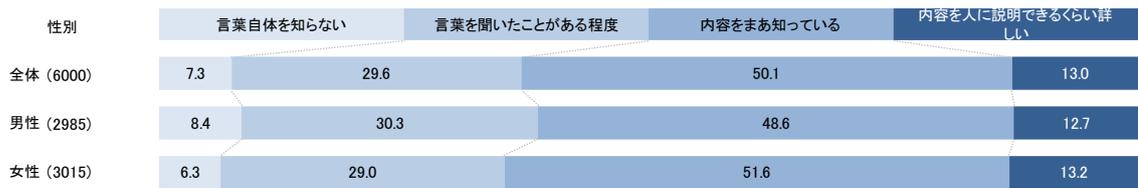
・「年齢」では、「18-24歳」「25-34歳」で「言葉自体を知らない」、「65-74歳」で「内容をまあ知っている」が全体と比較して高い。

17. 軽減税率



・「年齢」では、「18-24 歳」で「内容を人に説明できるくらい詳しい」、「55-64 歳」で「内容をまあ知っている」が全体と比較して高い。

18. 幼児教育・保育の無償化



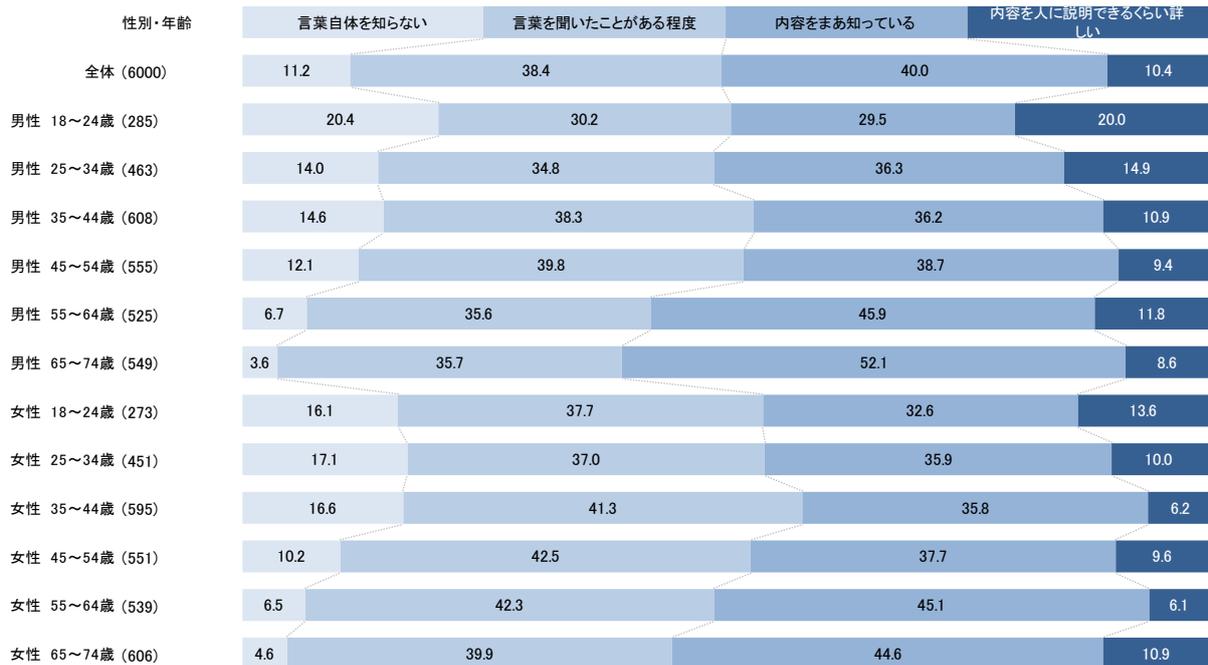
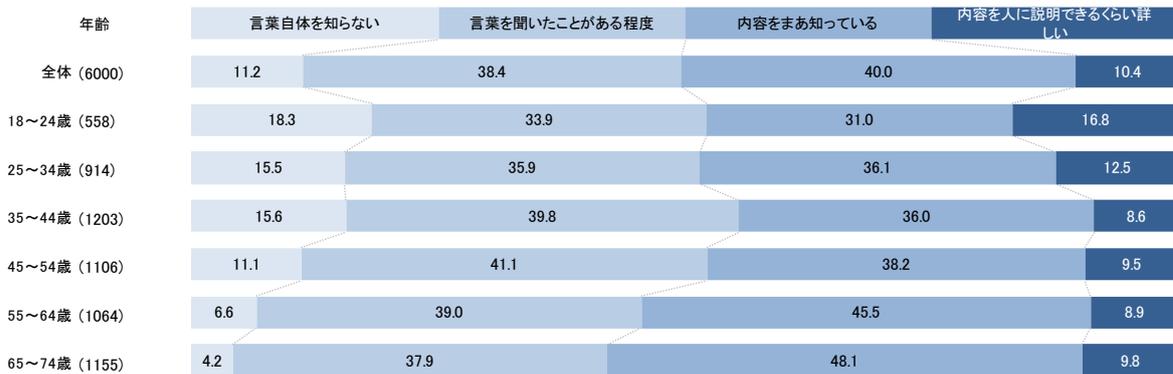
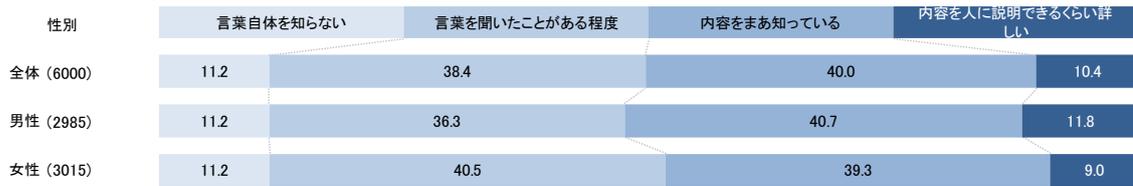
・「年齢」では、「18-24歳」で「言葉自体を知らない」、「65-74歳」で「内容をまあ知っている」が全体と比較して高い。

19.高等教育の無償化



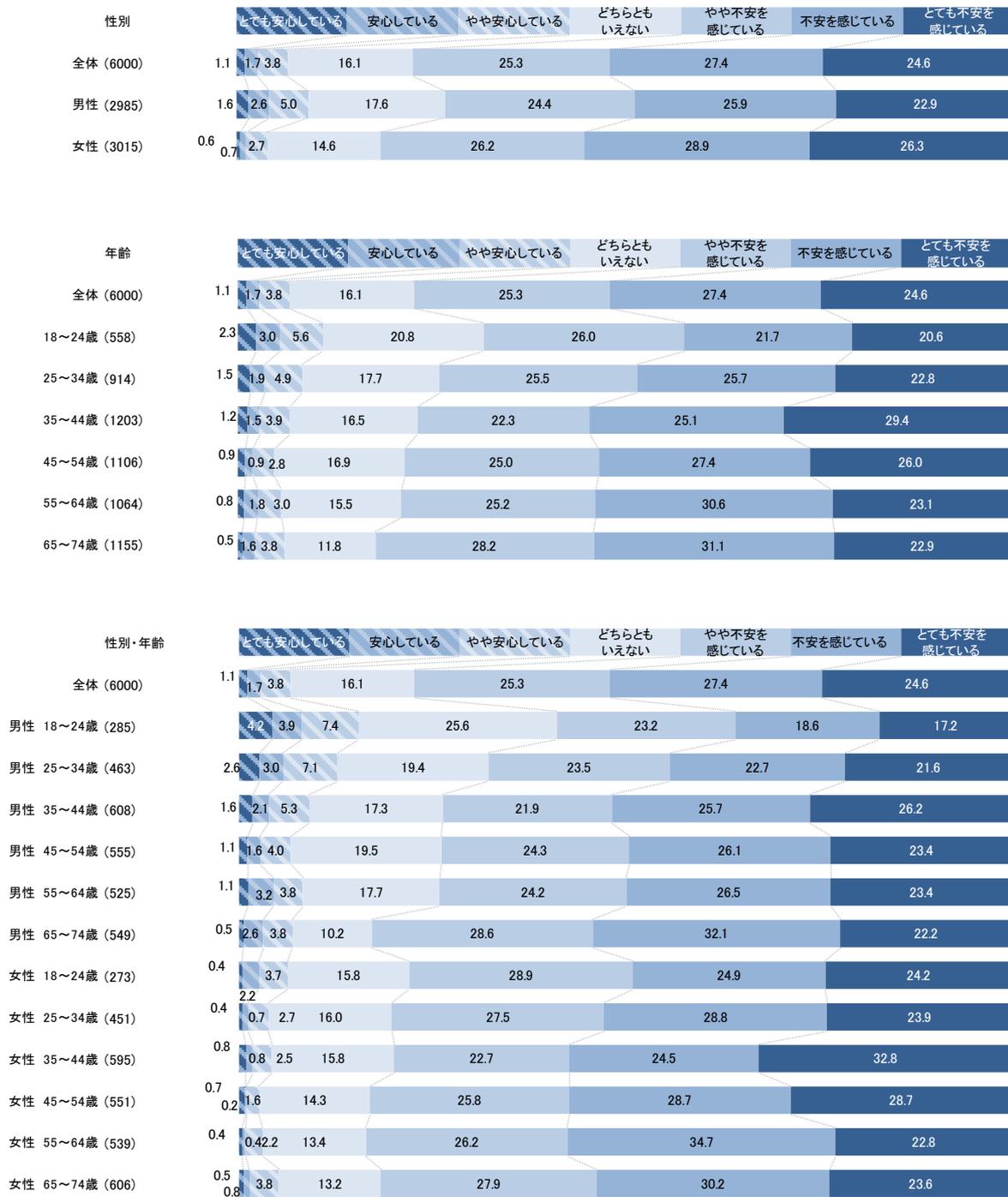
・「年齢」では、「18-24歳」「25-34歳」で「言葉自体を知らない」、「55-64歳」「65-74歳」で「内容をまあ知っている」が全体と比較して高い。

20.人生100年時代



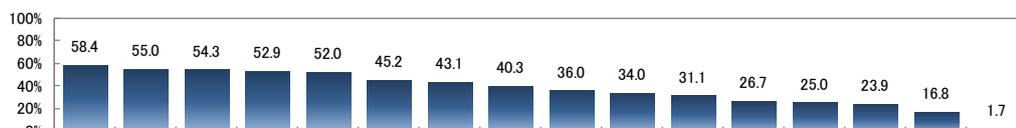
・「年齢」では、「18-24歳」で「言葉自体を知らない」「内容を人に説明できるくらい詳しい」、
「55-64歳」「65-74歳」で「内容をまあ知っている」が全体と比較して高い。

Q11. 国の収入と支出のバランスを「財政」と言います。あなたは現在の日本の財政状況について、どう感じていますか。あてはまるものをお選びください。(回答はひとつ)



・「性別・年齢」では、「男性 18~24歳」で「どちらともいえない」、「女性 35~44歳」で「とても不安を感じている」、「女性 55~64歳」で「不安を感じている」が全体と比較して高い。

Q12. 現在の財政状況に不安を感じている理由をお選びください。(複数選択可)

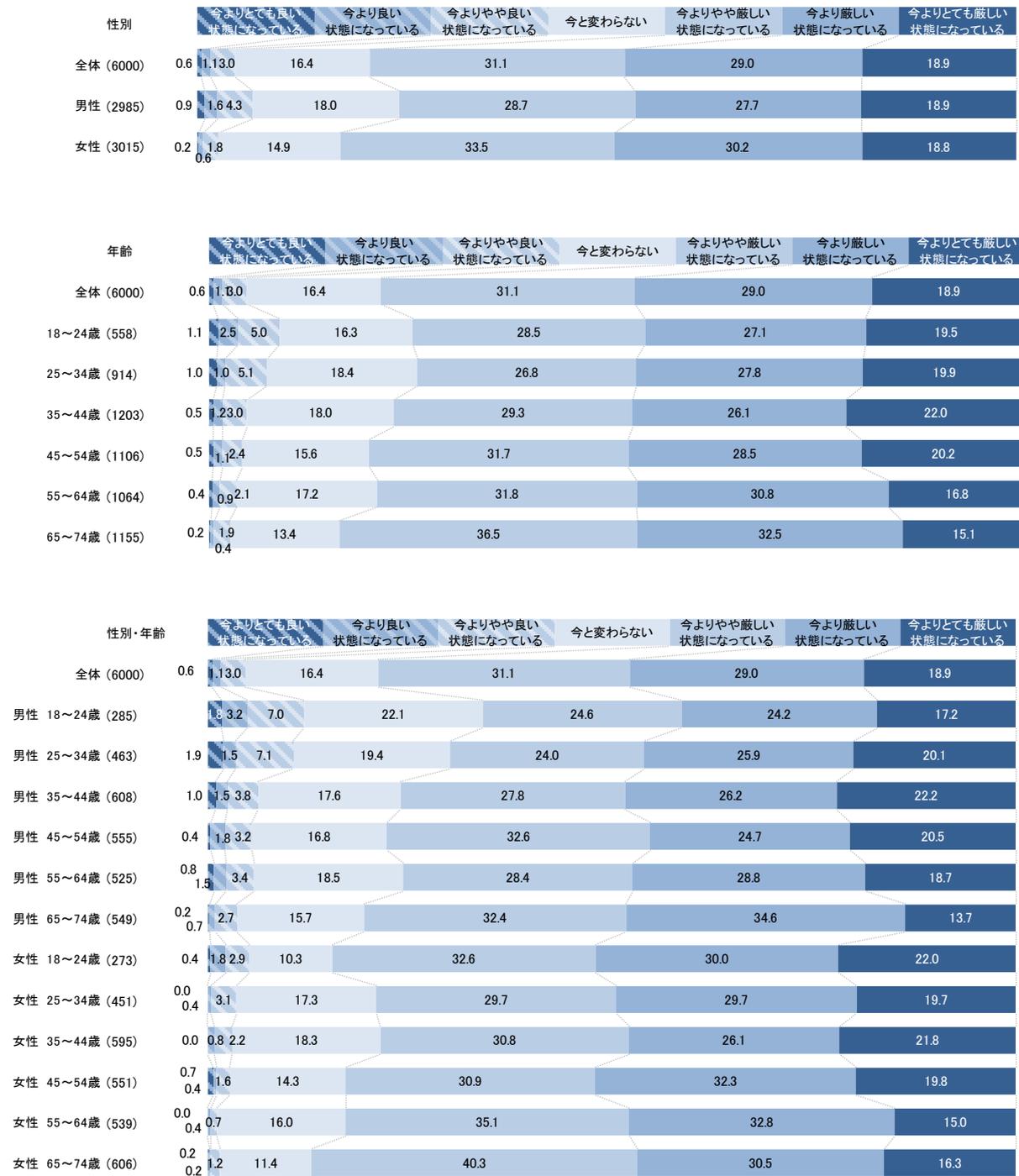


	(n)	国の予算の使い方に無駄が多そうだから	財政赤字が続いているから	子供や孫などの将来世代に国の借金の負担を先送りしているから	ありそうだから	自分の年金が減額される	人口における現役世代の割合が減っているから	今後、増税や消費税率引き上げなど、増税があるから	医療費の自己負担が増加しているから	国の社会保障費が増大しているから	このままでは借金を返せなくなるから	経済成長が鈍っているから	国が何か隠しているから	社会のセーフティネット(最低限の保障)を維持できないから	見込めなされるから	わかりやすい情報が不足しているから	教育や治安対策等、生活に直接影響する予算が減りそうだから	その他	一人あたりの平均回答項目
全体	(4639)	58.4	55.0	54.3	52.9	52.0	45.2	43.1	40.3	36.0	34.0	31.1	26.7	25.0	23.9	16.8	1.7	5.96	
性別																			
男性	(2184)	54.3	53.4	51.9	46.4	51.6	40.2	39.2	44.3	37.2	35.9	29.4	26.6	25.1	22.2	15.6	1.9	5.75	
女性	(2455)	62.0	56.5	56.5	58.6	52.2	49.7	46.6	36.7	34.9	32.3	32.6	26.9	24.9	25.4	17.9	1.5	6.15	
年齢																			
18~24歳	(381)	51.2	44.6	44.6	56.2	44.9	47.0	36.2	33.6	28.1	28.9	37.5	20.5	23.1	26.8	21.0	0.8	5.45	
25~34歳	(676)	58.4	48.1	51.9	61.5	50.3	38.8	37.4	33.0	32.8	35.2	26.3	24.3	30.0	22.9	1.8	6.03		
35~44歳	(924)	58.0	51.8	52.4	60.4	48.5	47.0	42.0	36.5	33.4	31.9	32.1	27.6	23.6	25.1	16.9	2.3	5.90	
45~54歳	(868)	55.5	51.4	49.1	58.5	50.9	44.8	42.4	40.8	34.2	33.1	29.3	26.7	22.6	22.1	15.2	1.2	5.78	
55~64歳	(840)	58.1	61.5	56.0	50.5	53.1	41.4	47.5	43.1	39.6	34.6	28.3	25.8	25.6	22.1	13.9	2.0	6.03	
65~74歳	(950)	64.4	64.7	65.3	34.9	59.3	42.9	46.8	45.7	42.0	39.3	28.7	29.5	29.3	20.4	14.7	1.8	6.30	
性別・年齢																			
男性 18~24歳	(168)	41.7	41.7	41.1	46.4	44.0	39.9	32.7	38.1	25.0	31.0	35.1	20.2	25.6	23.2	19.6	0.6	5.06	
男性 25~34歳	(314)	53.2	43.0	48.4	54.1	52.2	44.6	36.6	43.0	31.8	36.0	31.5	28.0	24.8	26.8	19.4	1.3	5.75	
男性 35~44歳	(448)	54.2	48.9	50.0	52.2	46.4	38.6	39.1	39.3	32.1	31.5	29.2	26.8	21.4	21.9	15.2	2.7	5.50	
男性 45~54歳	(410)	50.5	51.2	47.1	49.8	50.7	38.3	36.8	42.9	37.6	34.1	28.3	25.1	22.4	22.9	15.1	0.5	5.53	
男性 55~64歳	(389)	54.5	62.5	55.5	46.0	54.8	37.5	44.2	50.4	46.3	37.8	26.7	27.8	26.7	20.8	14.7	3.3	6.10	
男性 65~74歳	(455)	63.1	63.5	61.5	32.7	57.4	42.6	41.5	48.4	42.2	42.0	29.2	27.9	29.7	19.6	13.2	2.2	6.17	
女性 18~24歳	(213)	58.7	46.9	47.4	63.8	45.5	52.6	39.0	30.0	30.5	27.2	39.4	20.7	21.1	29.6	22.1	0.9	5.76	
女性 25~34歳	(362)	63.0	52.5	55.0	68.0	48.6	55.2	40.6	32.6	34.0	30.1	38.4	24.9	23.8	32.9	26.0	2.2	6.28	
女性 35~44歳	(476)	61.6	54.6	54.6	68.1	50.4	54.8	44.7	33.8	34.7	32.4	34.9	28.4	25.6	28.2	18.5	1.9	6.27	
女性 45~54歳	(458)	60.0	51.5	50.9	66.4	51.1	50.7	47.4	38.9	31.2	32.1	30.1	28.2	22.7	21.4	15.3	1.7	6.00	
女性 55~64歳	(451)	61.2	60.8	56.3	54.3	51.7	44.8	50.3	36.8	33.9	31.9	29.7	24.2	24.6	23.3	13.3	0.9	5.98	
女性 65~74歳	(495)	65.7	65.9	68.7	37.0	61.0	43.2	51.7	43.2	41.8	36.8	28.3	30.9	28.9	21.2	16.2	1.4	6.42	

※n= (Q11で「やや不安を感じている」「不安を感じている」「とても不安を感じている」を選択の人)

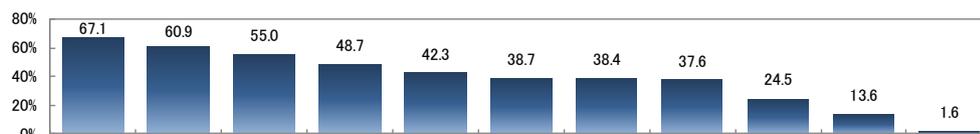
- ・「性別」では、「女性」で「自分の年金が減額される／受け取れない可能性がありそうだから」が全体と比較して高い。
- ・「年齢」では、「18-24歳」で「国が何か隠しているから」、「25-34歳」で「自分の年金が減額される／受け取れない可能性がありそうだから」「わかりやすい情報が不足しているから」「教育や治安対策等、生活に直接影響する予算が減りそうだから」「今後も消費税率引き上げなど、増税がありそうだから」、「35-44歳」「45-54歳」で「自分の年金が減額される／受け取れない可能性がありそうだから」、「55-64歳」で「財政赤字が続いているから」、「65-74歳」で「子供や孫などの将来世代に国の借金の負担を先送りしているから」「財政赤字が続いているから」「人口における現役世代の割合が減っているから」が全体と比較して高い。

Q13. あなたは 10 年後の日本の財政はどうなっていると思いますか。あてはまるものをお選びください。
(回答はひとつ)



・「年齢」では、「65-74歳」で「今よりやや厳しい状態になっている」が全体と比較して高い。

Q14.厳しい状態になると思う理由をお選びください。(複数選択可)

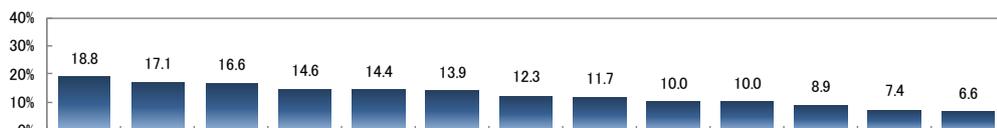


	(n)	減少して高齢化で働く人の数が減りそうだから	高齢者の増加が様々な影響を与えそうだから	国の借金が増えそうだから	無駄な支出(歳出)を削減できなさそうだから	日本経済は良くなさそうだから	社会保障費の増加を抑える政策が進まなさそうだから	国の支出(歳出)が増えそうだから	国の収入(税収)が減りそうだから	安定的な税収を得るための税制改革が進まなさそうだから	金利が上昇して経済に悪影響が出そうだから	その他	一人あたりの平均回答項目数
全体	(4736)	67.1	60.9	55.0	48.7	42.3	38.7	38.4	37.6	24.5	13.6	1.6	4.29
性別													
男性	(2248)	66.1	58.7	54.0	47.9	40.0	40.6	40.7	40.3	25.8	12.5	1.9	4.29
女性	(2488)	68.1	62.9	55.9	49.5	44.4	37.0	36.3	35.2	23.3	14.5	1.4	4.28
年齢													
18~24歳	(419)	59.9	57.8	46.5	42.5	44.2	27.9	31.7	31.3	21.2	15.5	0.5	3.79
25~34歳	(681)	63.6	59.0	51.2	46.8	48.9	37.9	38.0	38.0	27.8	18.9	1.5	4.32
35~44歳	(931)	64.9	59.5	52.5	44.6	45.8	36.8	36.7	38.0	25.3	16.0	1.7	4.22
45~54歳	(889)	65.8	58.9	51.2	48.7	41.3	40.6	36.0	35.5	22.4	13.2	1.6	4.15
55~64歳	(845)	69.8	62.0	60.5	48.0	39.2	42.4	40.7	38.1	25.9	12.4	2.0	4.41
65~74歳	(971)	73.7	65.7	62.6	57.3	37.3	40.8	43.4	41.2	23.4	8.0	2.0	4.55
性別・年齢													
男性 18~24歳	(188)	58.5	54.8	38.3	38.8	38.8	27.7	29.8	31.4	18.6	14.9	0.5	3.52
男性 25~34歳	(324)	64.5	59.6	46.0	45.1	45.7	40.4	40.7	40.1	29.9	16.7	1.2	4.30
男性 35~44歳	(463)	60.9	55.5	52.7	43.4	42.5	39.3	39.5	41.7	25.7	14.0	2.2	4.17
男性 45~54歳	(432)	64.4	56.3	51.9	47.5	38.9	40.5	37.5	40.3	23.4	11.8	1.4	4.14
男性 55~64歳	(398)	71.4	61.6	64.8	49.5	37.4	45.7	45.0	41.5	28.1	13.1	2.8	4.61
男性 65~74歳	(443)	72.7	63.0	60.5	57.3	37.2	43.1	46.0	41.8	26.2	7.2	2.5	4.58
女性 18~24歳	(231)	61.0	60.2	53.2	45.5	48.5	28.1	33.3	31.2	23.4	16.0	0.4	4.01
女性 25~34歳	(357)	62.7	58.5	56.0	48.5	51.8	35.6	35.6	36.1	25.8	21.0	1.7	4.33
女性 35~44歳	(468)	68.8	63.5	52.4	45.7	48.9	34.4	34.0	34.4	25.0	17.9	1.3	4.26
女性 45~54歳	(457)	67.2	61.5	50.5	49.9	43.5	40.7	34.6	31.1	21.4	14.4	1.8	4.17
女性 55~64歳	(447)	68.5	62.4	56.6	46.8	40.7	39.4	36.9	35.1	23.9	11.9	1.3	4.23
女性 65~74歳	(528)	74.6	68.0	64.4	57.2	37.3	38.8	41.1	40.7	21.0	8.7	1.5	4.53

※n=(Q13で「今よりやや厳しい状態になっている」「今より厳しい状態になっている」「今よりとても厳しい状態になっている」を選択の人)

・「年齢」では、「25-34歳」で「日本経済は良くなさそうだから」「金利が上昇して経済に悪影響が出そうだから」、「55-64歳」で「国の借金が増えそうだから」、「65-74歳」で「無駄な支出(歳出)を削減できなさそうだから」「国の借金が増えそうだから」「少子高齢化で働く人の数が減って税収も減りそうだから」が全体と比較して高い。

Q15. 今と変わらない／良い状態になると思う理由をお選びください。(複数選択可)



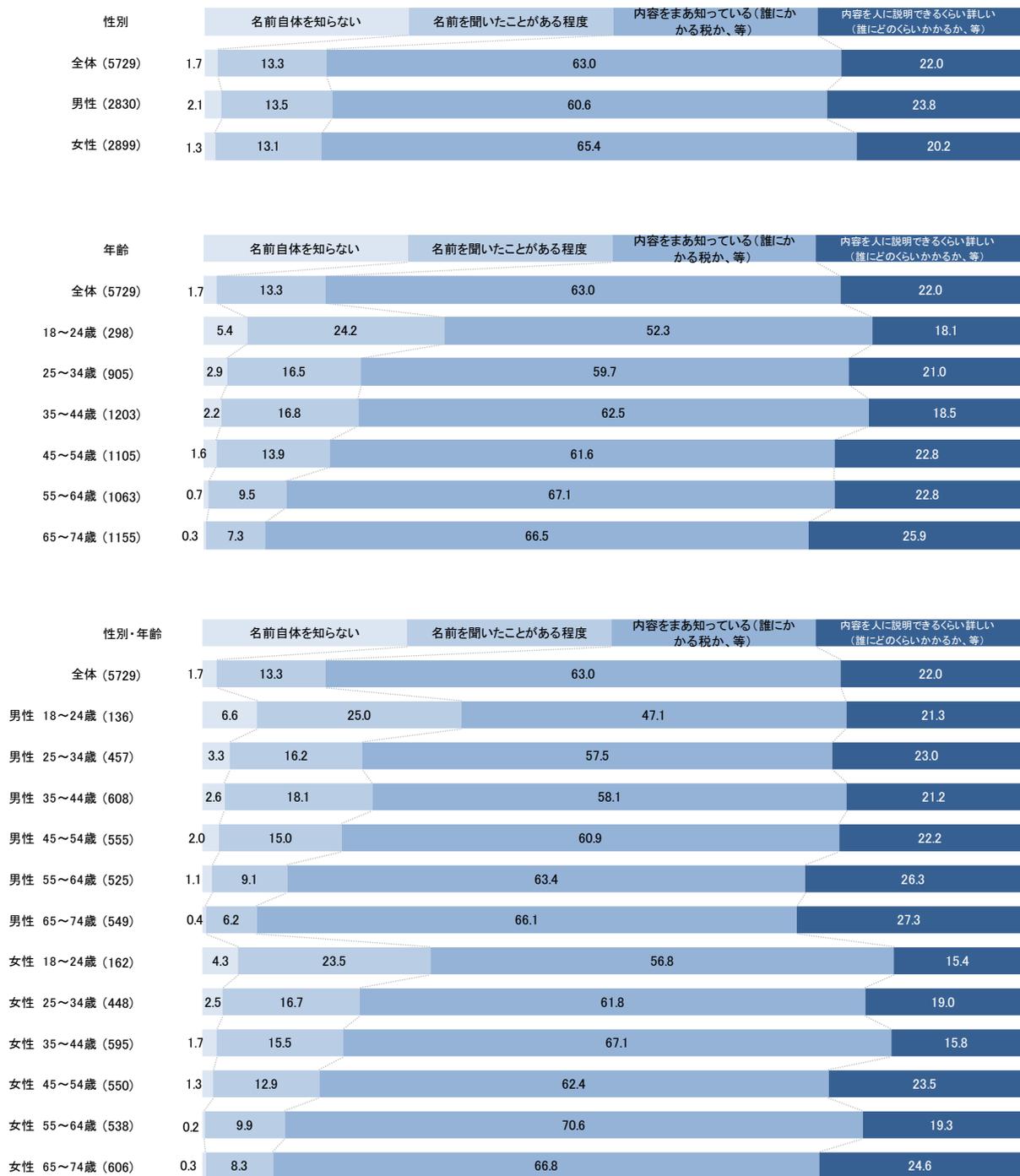
	(n)	念は少なそうだから	借金(国債)は日本国内で消化されていて、財政破綻の懸念は少なそうだから	働き方改革や技術革新などで生産性が向上しそうだから	みそ、減らしたりする政策が進むから	社会保障費の増加を抑えたから	日本経済が良くなりそうだから	あり続けそうだから	日本は世界有数の経済大国で進みそうだから	無駄な支出(歳出)の削減が好影響を与えそうだから	金利が低く維持され、経済に好影響を与えそうだから	国の収入(税収)が増えそうだから	金の資産が小さそうだから	国の資産が小さそうだから	借金は返済義務もなく、そもそも日銀が買取る国債には利息も返さず、そもそも	安定的な税収を得る税制改革が進みそうだから	国の支出(歳出)が減りそうだから	その他	一人あたりの平均回答項目数
全体	(1264)	18.8	17.1	16.6	14.6	14.4	13.9	12.3	11.7	10.0	10.0	8.9	7.4	6.6	1.62				
性別																			
男性	(737)	25.5	15.9	14.7	15.6	14.5	11.9	13.7	12.3	13.3	11.8	8.0	7.7	5.3	1.70				
女性	(527)	9.3	18.8	19.4	13.1	14.2	16.7	10.4	10.8	5.3	7.4	10.1	6.8	8.3	1.51				
年齢																			
18~24歳	(139)	18.0	17.3	16.5	17.3	12.2	12.2	10.1	13.7	7.9	11.5	10.1	12.2	2.2	1.61				
25~34歳	(233)	18.9	18.9	14.6	15.5	16.7	13.3	10.7	12.4	12.9	12.4	12.0	9.9	7.3	1.76				
35~44歳	(272)	14.7	15.1	14.3	12.1	16.5	9.9	8.8	10.7	7.0	7.4	7.4	7.0	12.1	1.43				
45~54歳	(217)	13.8	12.9	17.5	14.3	12.0	16.6	13.4	9.7	9.2	10.1	5.1	4.6	5.1	1.44				
55~64歳	(219)	23.3	16.9	18.3	15.5	14.2	16.9	13.7	14.6	8.7	9.1	8.7	5.9	5.5	1.71				
65~74歳	(184)	25.5	22.8	19.6	14.1	13.0	15.2	18.5	9.8	14.7	10.3	10.9	6.0	3.8	1.84				
性別・年齢																			
男性 18~24歳	(97)	20.6	17.5	15.5	16.5	14.4	15.5	11.3	13.4	6.2	9.3	10.3	9.3	1.0	1.61				
男性 25~34歳	(139)	26.6	21.6	12.9	18.0	16.5	12.9	12.2	12.9	17.3	13.7	11.5	12.2	2.9	1.91				
男性 35~44歳	(145)	21.4	11.7	11.7	13.8	17.2	8.3	10.3	11.7	11.0	9.0	9.0	6.2	11.0	1.52				
男性 45~54歳	(123)	17.9	10.6	10.6	14.6	11.4	11.4	15.4	10.6	13.0	13.8	3.3	4.9	6.5	1.44				
男性 55~64歳	(127)	33.9	13.4	19.7	13.4	13.4	13.4	12.6	15.0	10.2	11.0	5.5	7.1	4.7	1.73				
男性 65~74歳	(106)	33.0	21.7	18.9	17.9	13.2	11.3	21.7	10.4	21.7	14.2	8.5	6.6	3.8	2.03				
女性 18~24歳	(42)	11.9	16.7	19.0	19.0	7.1	4.8	7.1	14.3	11.9	16.7	9.5	19.0	4.8	1.62				
女性 25~34歳	(94)	7.4	14.9	17.0	11.7	17.0	13.8	8.5	11.7	6.4	10.6	12.8	6.4	13.8	1.52				
女性 35~44歳	(127)	7.1	18.9	17.3	10.2	15.7	11.8	7.1	9.4	2.4	5.5	5.5	7.9	13.4	1.32				
女性 45~54歳	(94)	8.5	16.0	26.6	13.8	12.8	23.4	10.6	8.5	4.3	5.3	7.4	4.3	3.2	1.45				
女性 55~64歳	(92)	8.7	21.7	16.3	18.5	15.2	21.7	15.2	14.1	6.5	6.5	13.0	4.3	6.5	1.68				
女性 65~74歳	(78)	15.4	24.4	20.5	9.0	12.8	20.5	14.1	9.0	5.1	5.1	14.1	5.1	3.8	1.59				

※n= (Q13で「今よりとても良い状態になっている」「今より良い状態になっている」「今よりやや良い状態になっている」「今と変わらない」を選択の人)

- ・「性別」では、「男性」で「借金(国債)は日本国内で消化されていて、財政破綻の懸念は少なそうだから」が全体と比較して高い。
- ・「年齢」では、「65-74歳」で「借金(国債)は日本国内で消化されていて、財政破綻の懸念は少なそうだから」「金利が低く維持され、経済に好影響を与えそうだから」「働き方改革や技術革新などで生産性が向上しそうだから」が全体と比較して高い。

Q16. あなたは次の税と保険料の名称や納税の対象者、税率などの制度の内容をどの程度ご存知ですか。それぞれの税および保険料についてあてはまるものをお選びください。(回答は各ひとつ)

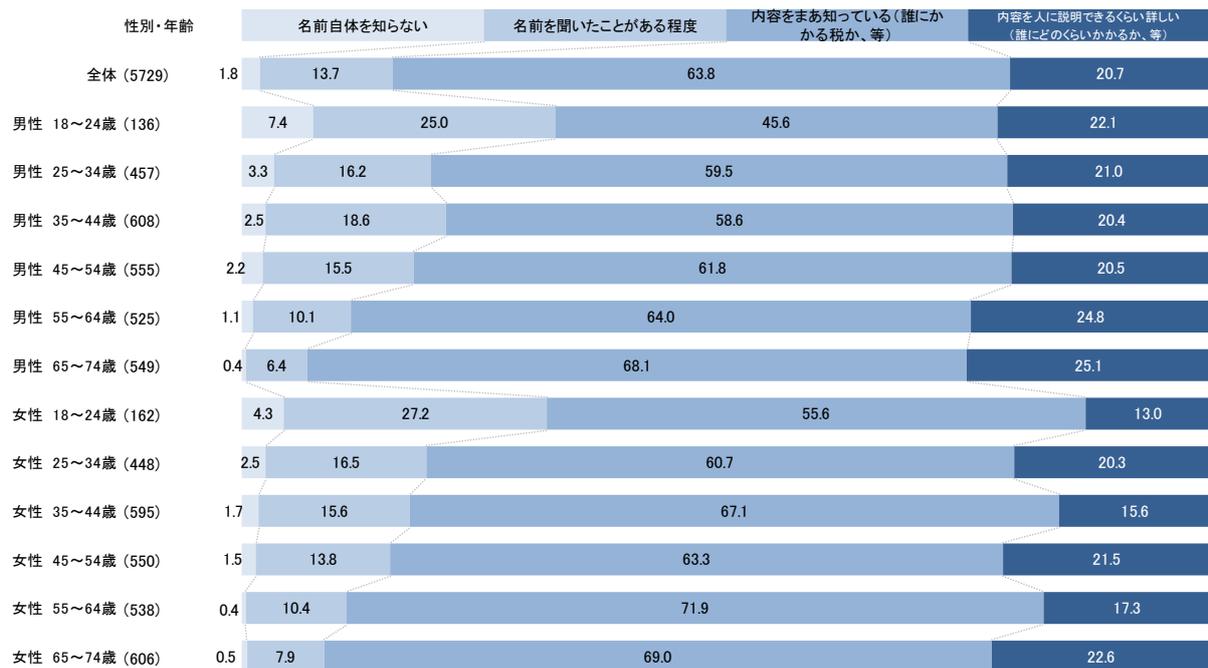
1.所得税



※n=(職業が「高校生」「大学生/大学院生」以外)

・「年齢」では、「18-24歳」で「名前を聞いたことがある程度」が全体と比較して高い。

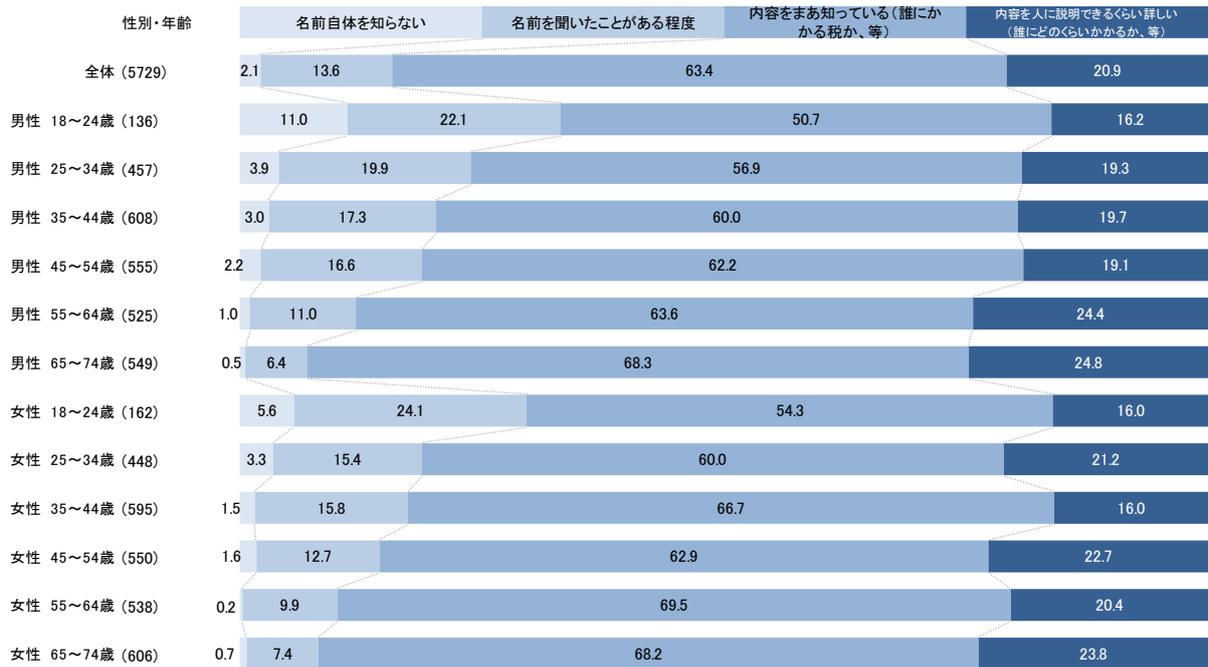
2.住民税



※n=(職業が「高校生」「大学生/大学院生」以外)

・「年齢」では、「18-24歳」で「名前を聞いたことがある程度」が全体と比較して高い。

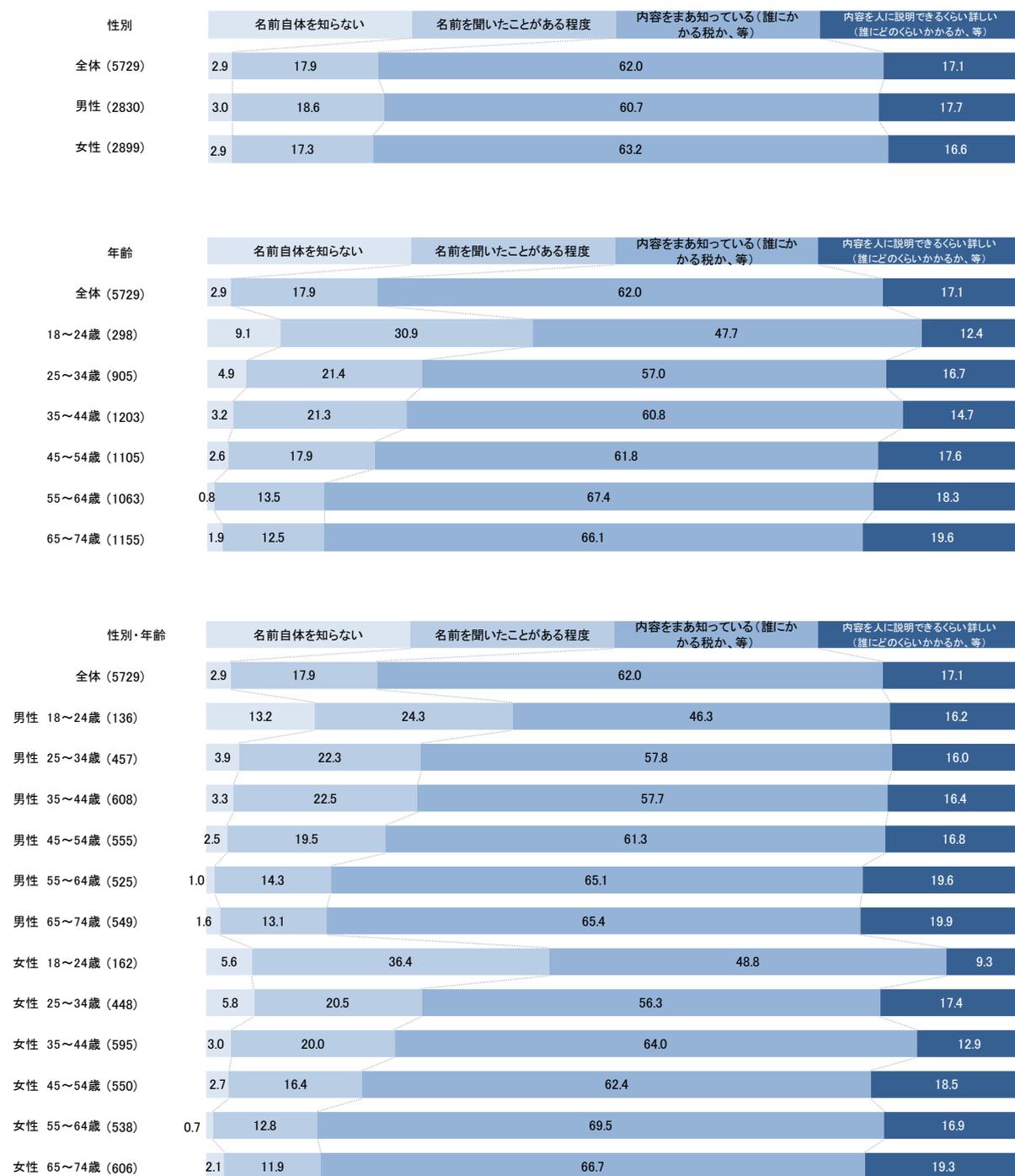
3.健康保険料



※n= (職業が「高校生」「大学生/大学院生」以外)

・「年齢」では、「18-24歳」で「名前を聞いたことがある程度」「名前自体を知らない」が全体と比較して高い。

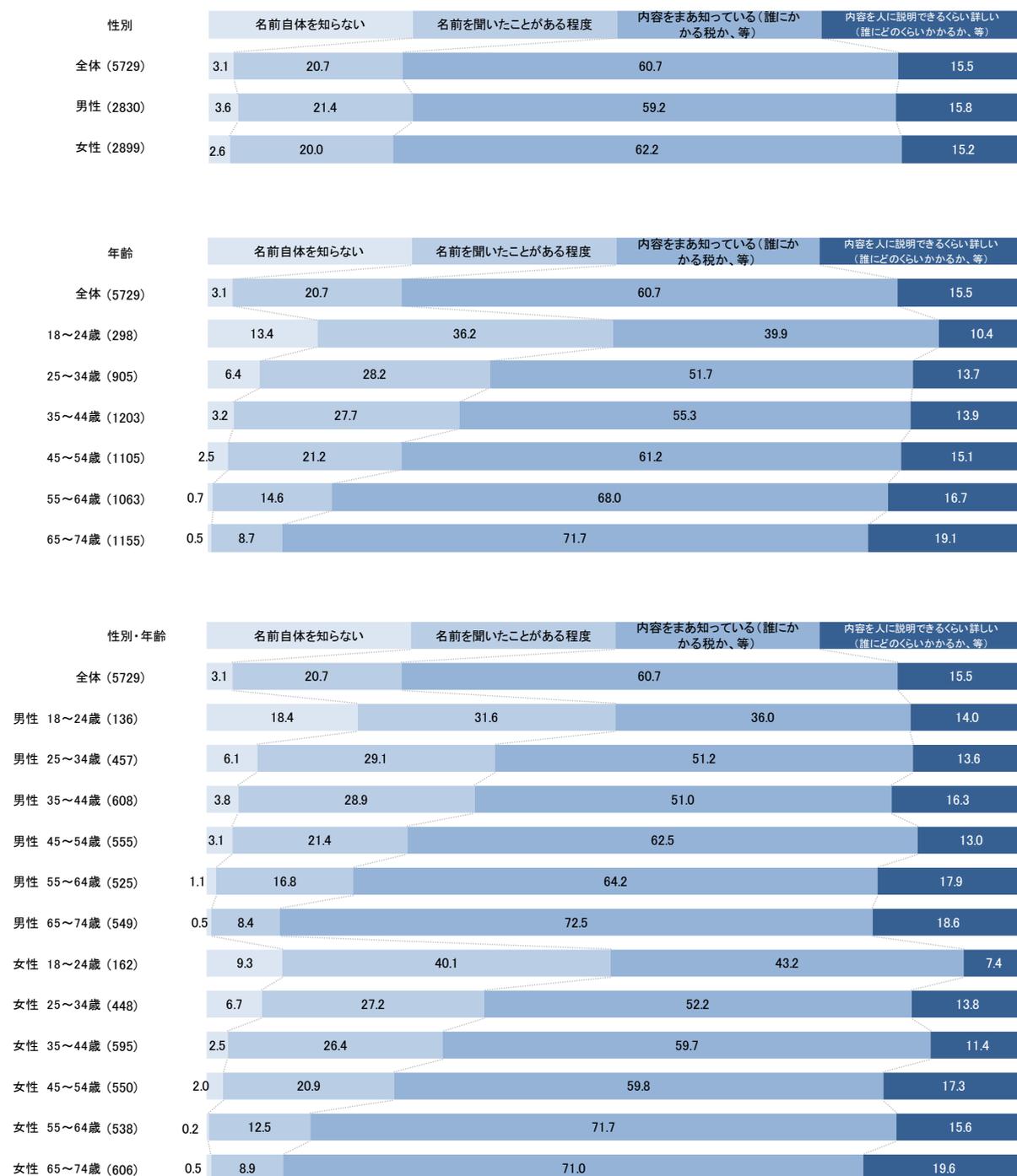
4.年金保険料



※n=（職業が「高校生」「大学生／大学院生」以外）

・「年齢」では、「18-24歳」で「名前を聞いたことがある程度」「名前自体を知らない」、「55-64歳」で「内容をまあ知っている（誰にかかる税か、等）」が全体と比較して高い。

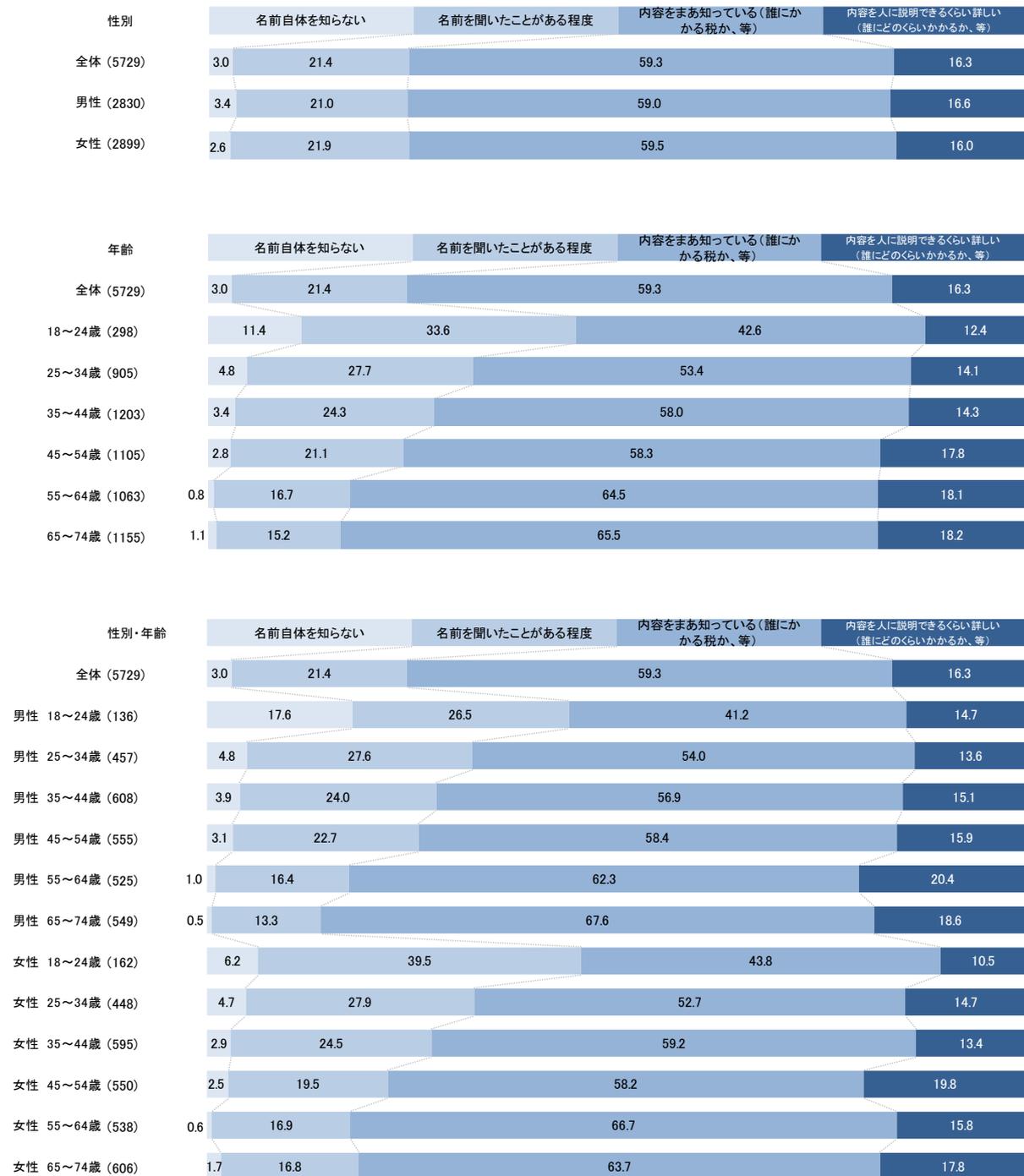
5.介護保険料



※n=（職業が「高校生」「大学生／大学院生」以外）

・「年齢」では、「18-24歳」で「名前を聞いたことがある程度」「名前自体を知らない」、「25-34歳」で「名前を聞いたことがある程度」、「35-44歳」で「名前を聞いたことがある程度」、「55-64歳」「65-74歳」で「内容をまあ知っている（誰にかかる税か、等）」が全体と比較して高い。

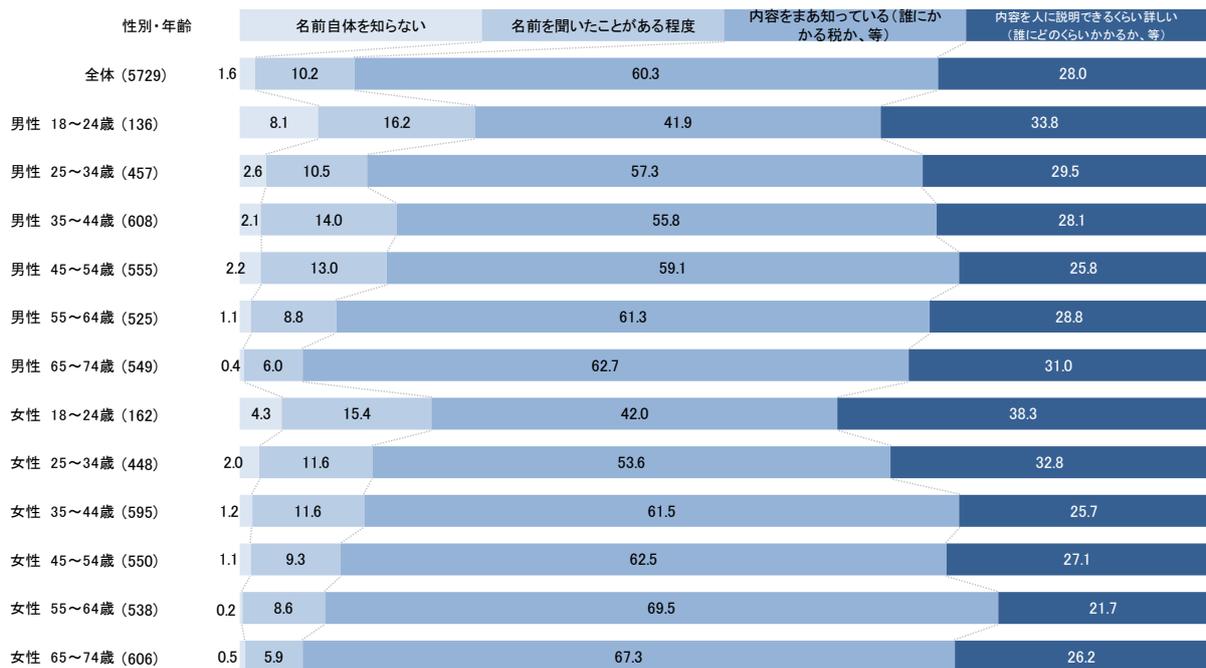
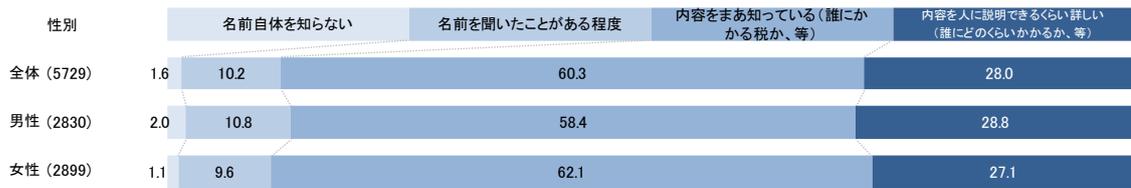
6.雇用保険料



※n= (職業が「高校生」「大学生/大学院生」以外)

・「年齢」では、「18-24歳」で「名前を聞いたことがある程度」「名前自体を知らない」、「25-34歳」で「名前を聞いたことがある程度」、「55-64歳」「65-74歳」で「内容をまあ知っている(誰にかかる税か、等)」が全体と比較して高い。

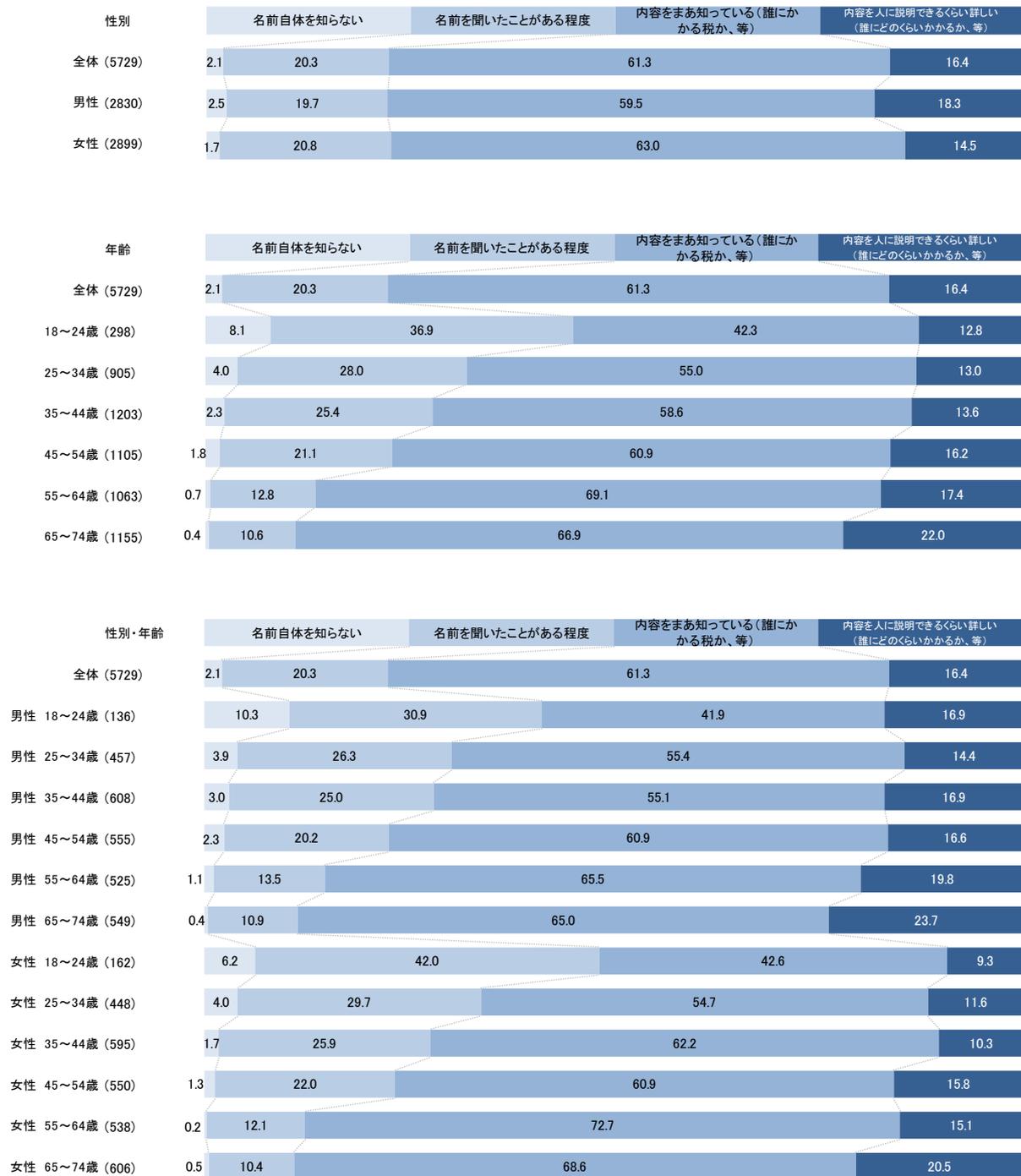
7.消費税



※n= (職業が「高校生」「大学生/大学院生」以外)

・「年齢」では、「18-24歳」で「内容を人に説明できるくらい詳しい(誰にどのくらいかかるか、等)」「名前を聞いたことがある程度」、「55-64歳」で「内容をまあ知っている(誰にかかる税か、等)」が全体と比較して高い。

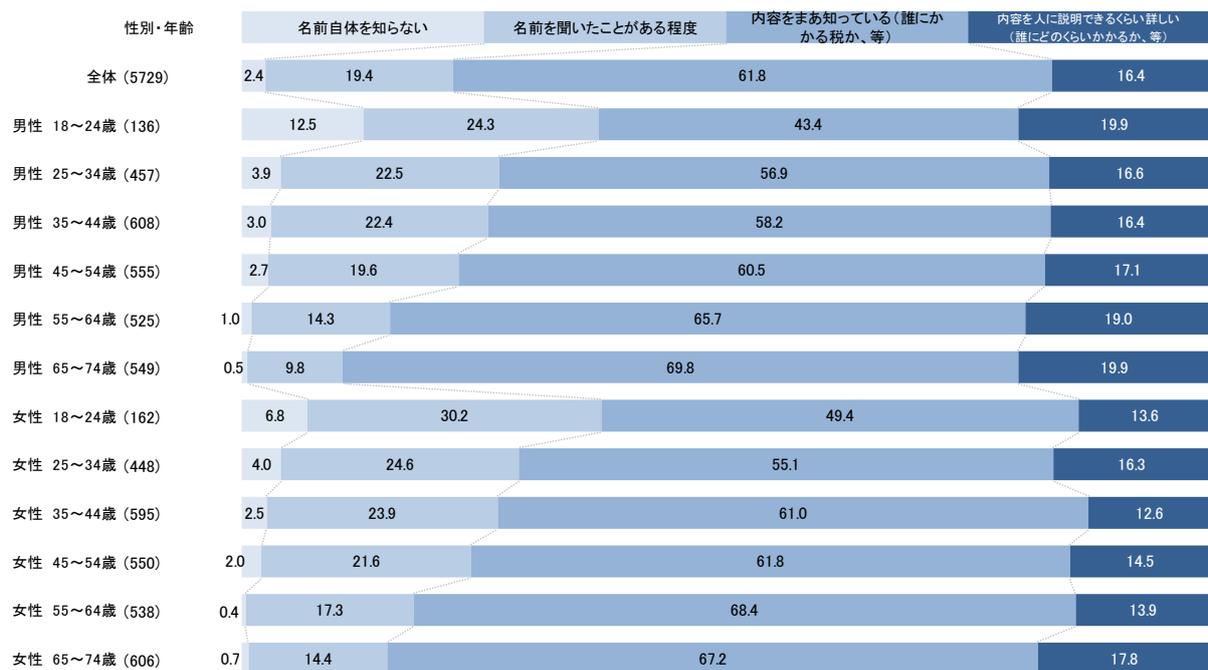
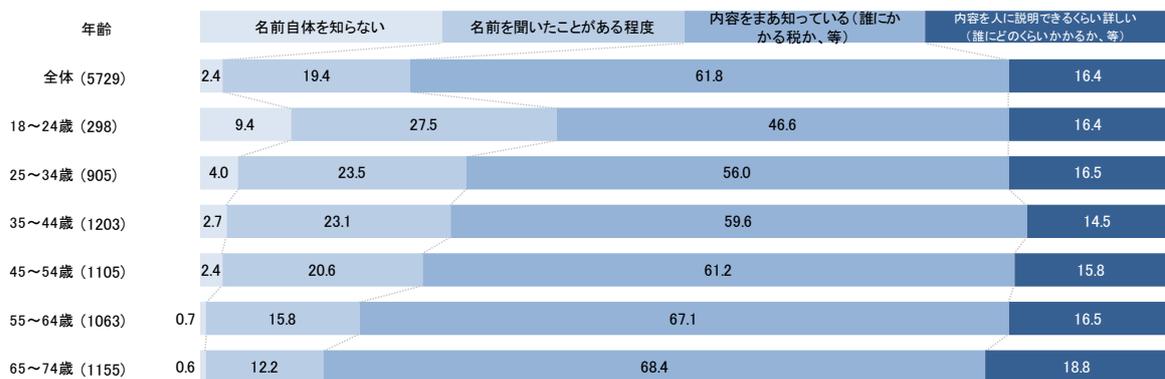
8.相続税



※n=（職業が「高校生」「大学生／大学院生」以外）

・「年齢」では、「18-24歳」で「名前を聞いたことがある程度」「名前自体を知らない」、「25-34歳」「35-44歳」で「名前を聞いたことがある程度」、「55-64歳」「65-74歳」で「内容をまあ知っている（誰にかかる税か、等）」「内容を人に説明できるくらい詳しい（誰にどのくらいかかるか、等）」が全体と比較して高い。

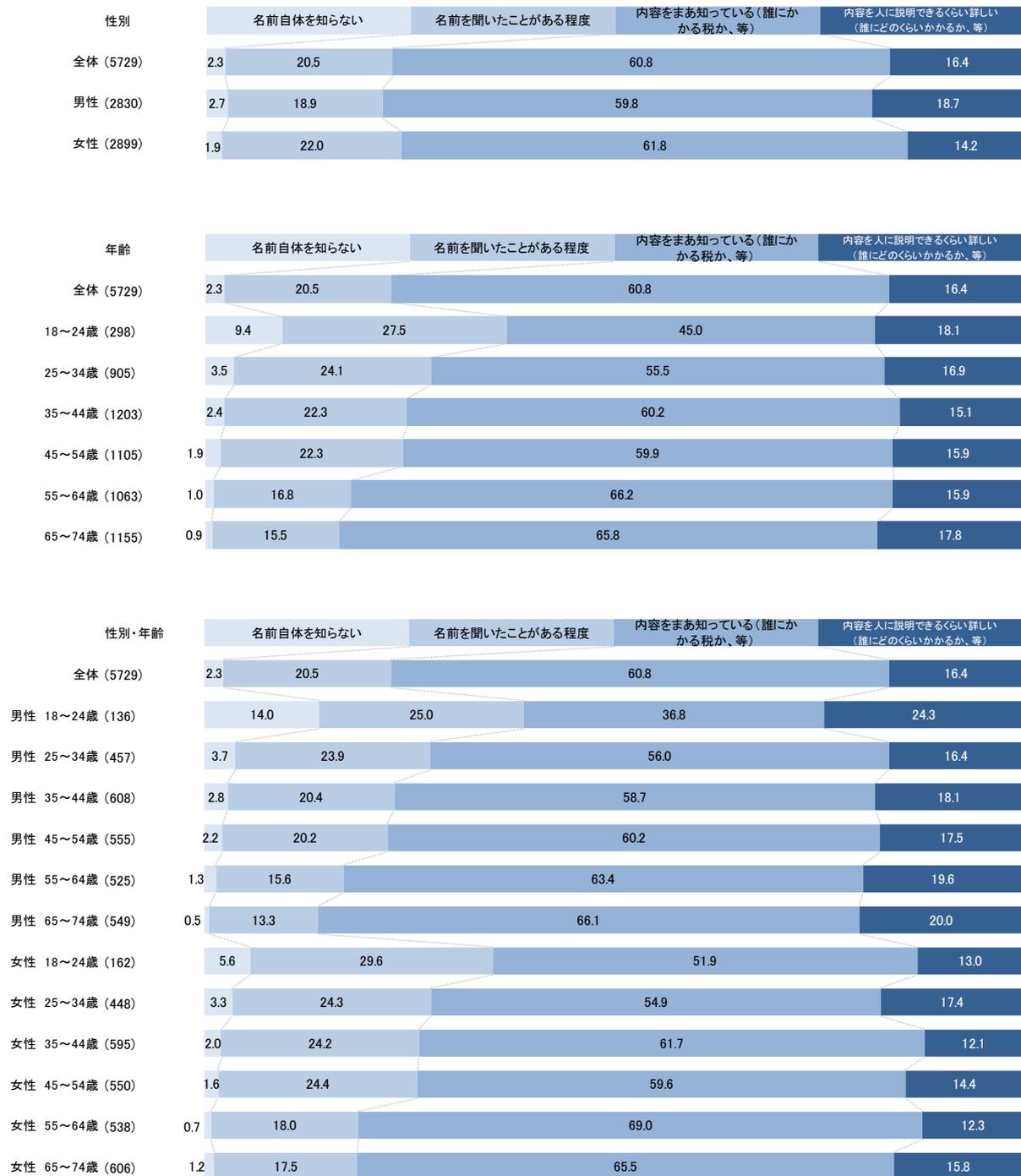
9.酒税



※n=（職業が「高校生」「大学生／大学院生」以外）

・「年齢」では、「18-24歳」で「名前を聞いたことがある程度」「名前自体を知らない」、「55-64歳」「65-74歳」で「内容をまあ知っている（誰にかかる税か、等）」が全体と比較して高い。

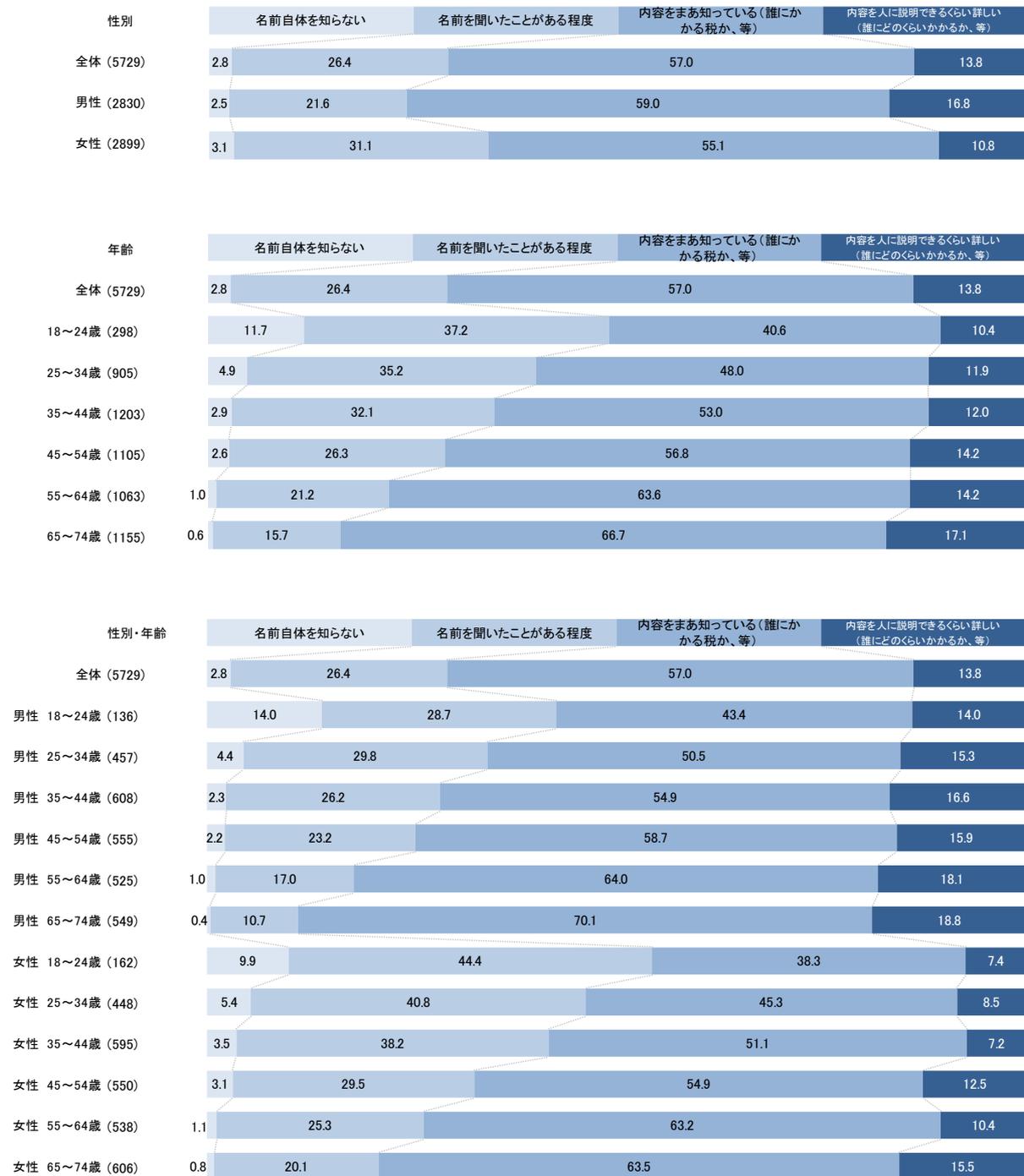
10.たばこ税



※n= (職業が「高校生」「大学生/大学院生」以外)

・「年齢」では、「18-24歳」で「名前自体を知らない」「名前を聞いたことがある程度」、「55-64歳」で「内容をまあ知っている(誰にかかる税か、等)」が全体と比較して高い。

11.法人税



※n=（職業が「高校生」「大学生／大学院生」以外）

・「年齢」では、「18-24歳」で「名前を聞いたことがある程度」「名前自体を知らない」、「25-34歳」「35-44歳」で「名前を聞いたことがある程度」、「55-64歳」「65-74歳」で「内容をまあ知っている（誰にかかる税か、等）」が全体と比較して高い。

12.国際観光旅客税



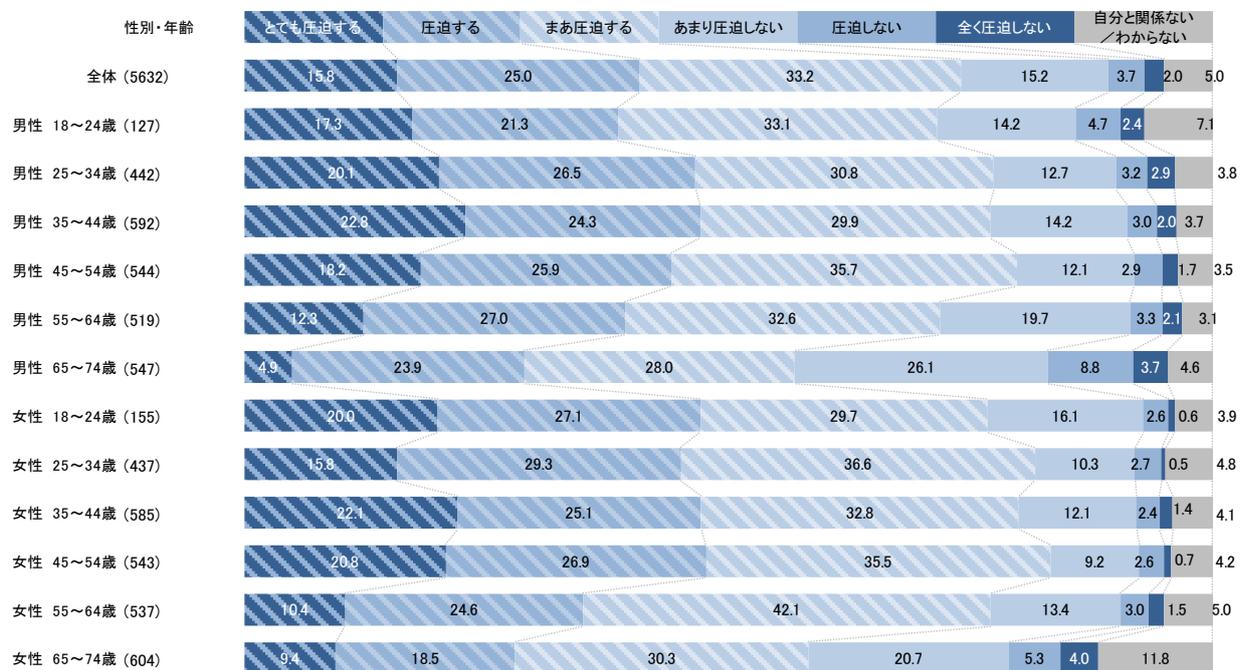
※n=（職業が「高校生」「大学生／大学院生」以外）

- ・「性別」では、「女性」で「名前自体を知らない」が全体と比較して高い。
- ・「年齢」では、「18-24歳」「25-34歳」「35-44歳」で「名前自体を知らない」、「65-74歳」で「内容をまあ知っている（誰にかかる税か、等）」が全体と比較して高い。

Q17. あなたは、あなたご自身または世帯にかかる税と保険料についてどの程度、負担に感じていますか。それぞれの税と保険料について、生活費を「とても圧迫する」から「全く圧迫しない」までの中であてはまるものをお選びください。(回答は各ひとつ)

※未成年の方は酒税、たばこ税について「7.自分と関係ない/わからない」をお選びください。

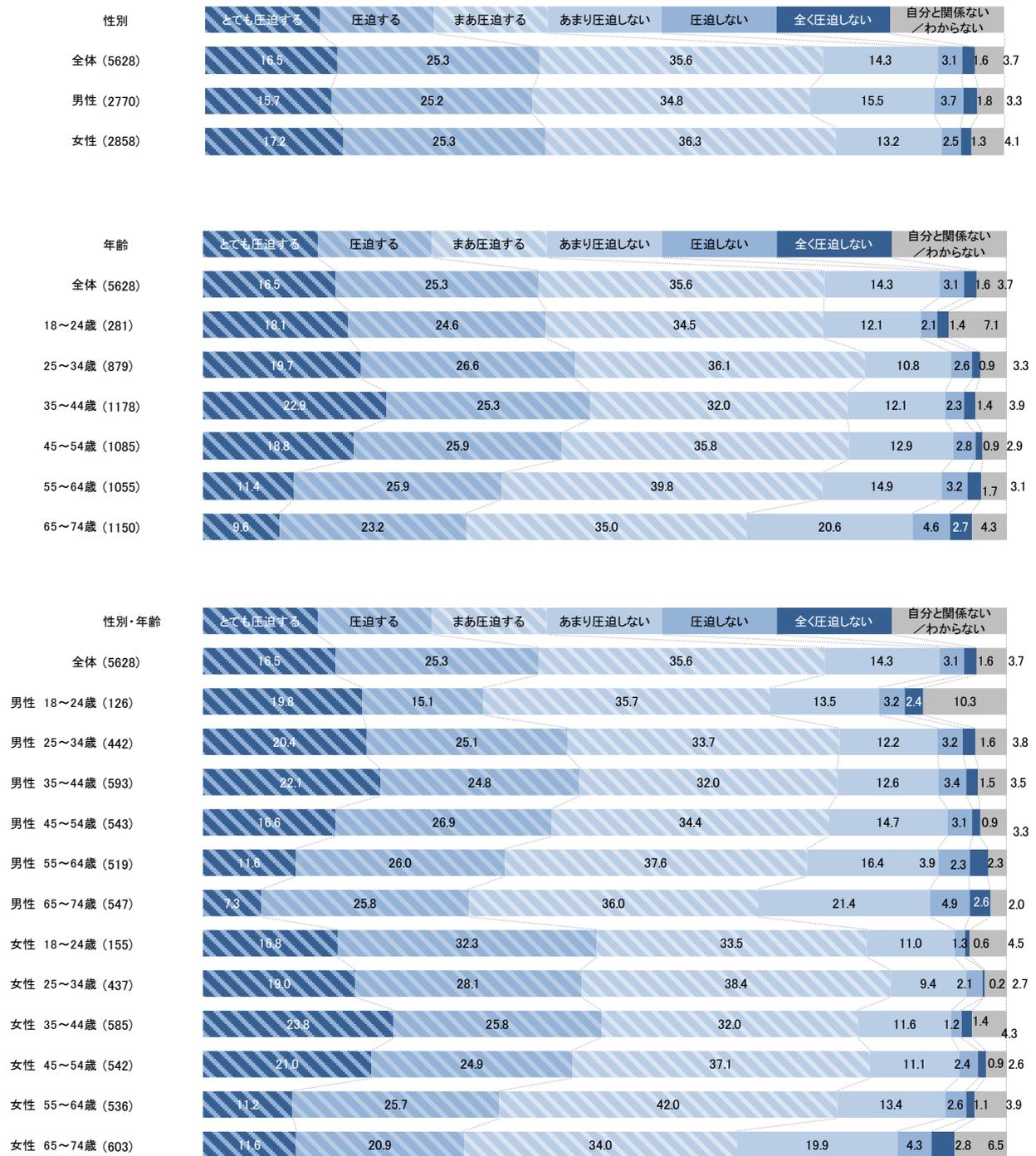
1.所得税



※n= (Q16で「名前自体を知らない」以外を選択の人)

・「年齢」では、「35-44歳」で「とても圧迫する」、「65-74歳」で「あまり圧迫しない」が全体と比較して高い。

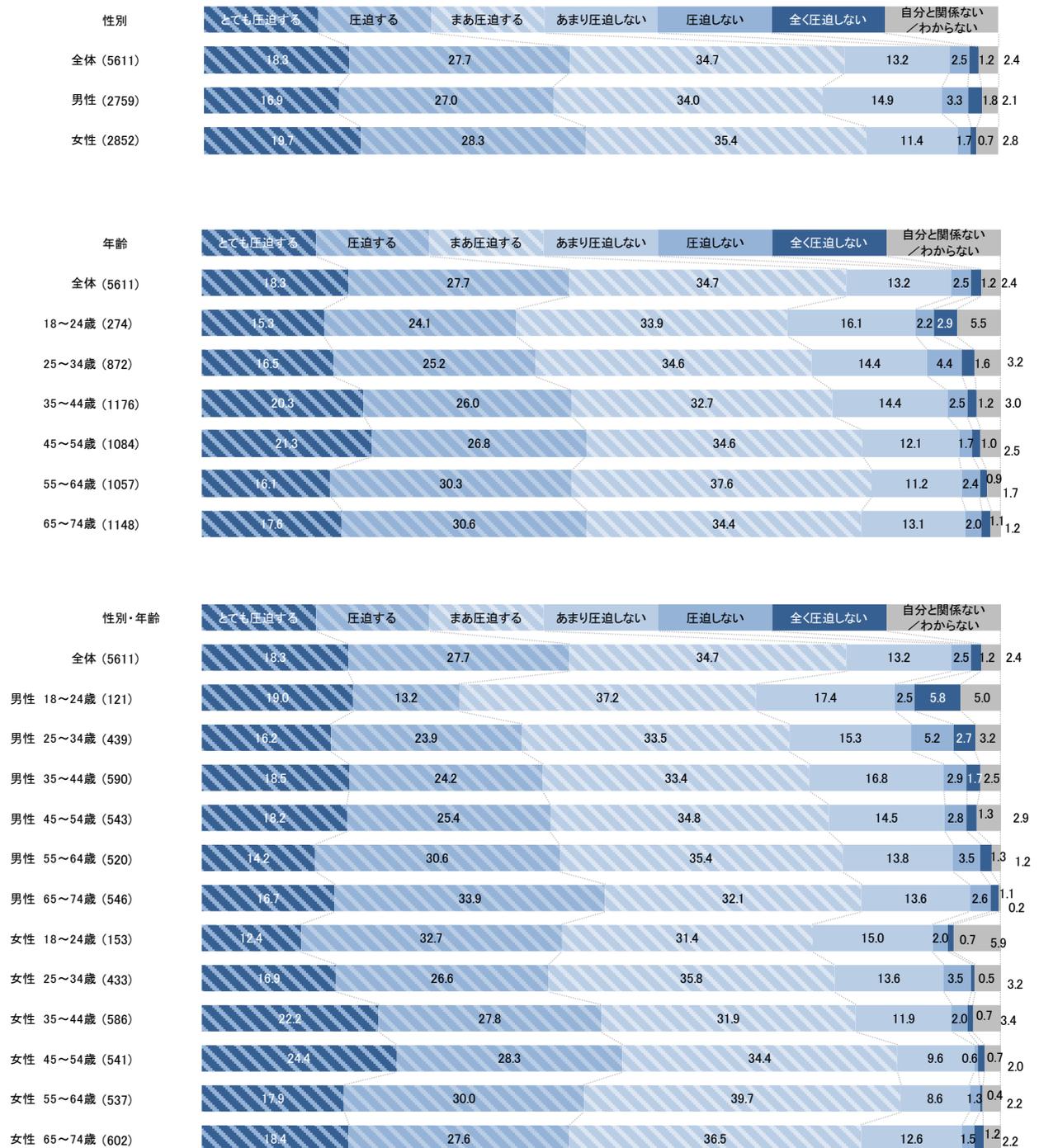
2.住民税



※n= (Q16で「名前自体を知らない」以外を選択の人)

・「年齢」では、「35-44歳」で「とても圧迫する」、「65-74歳」で「あまり圧迫しない」が全体と比較して高い。

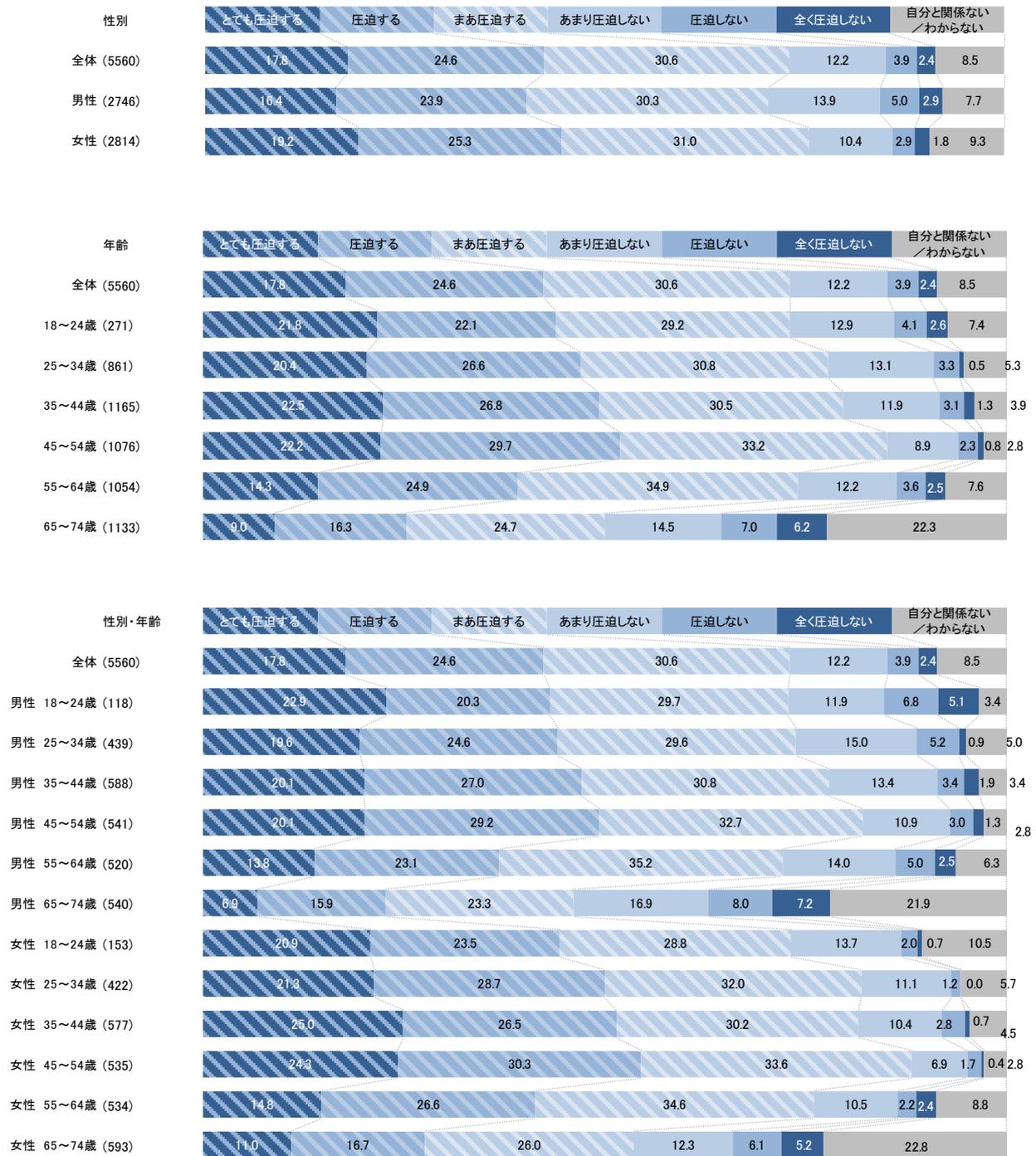
3.健康保険料



※n= (Q16で「名前自体を知らない」以外を選択の人)

・「性別・年齢」では、「男性 65~74歳」で「圧迫する」、「女性 45~54歳」で「とても圧迫する」が全体と比較して高い。

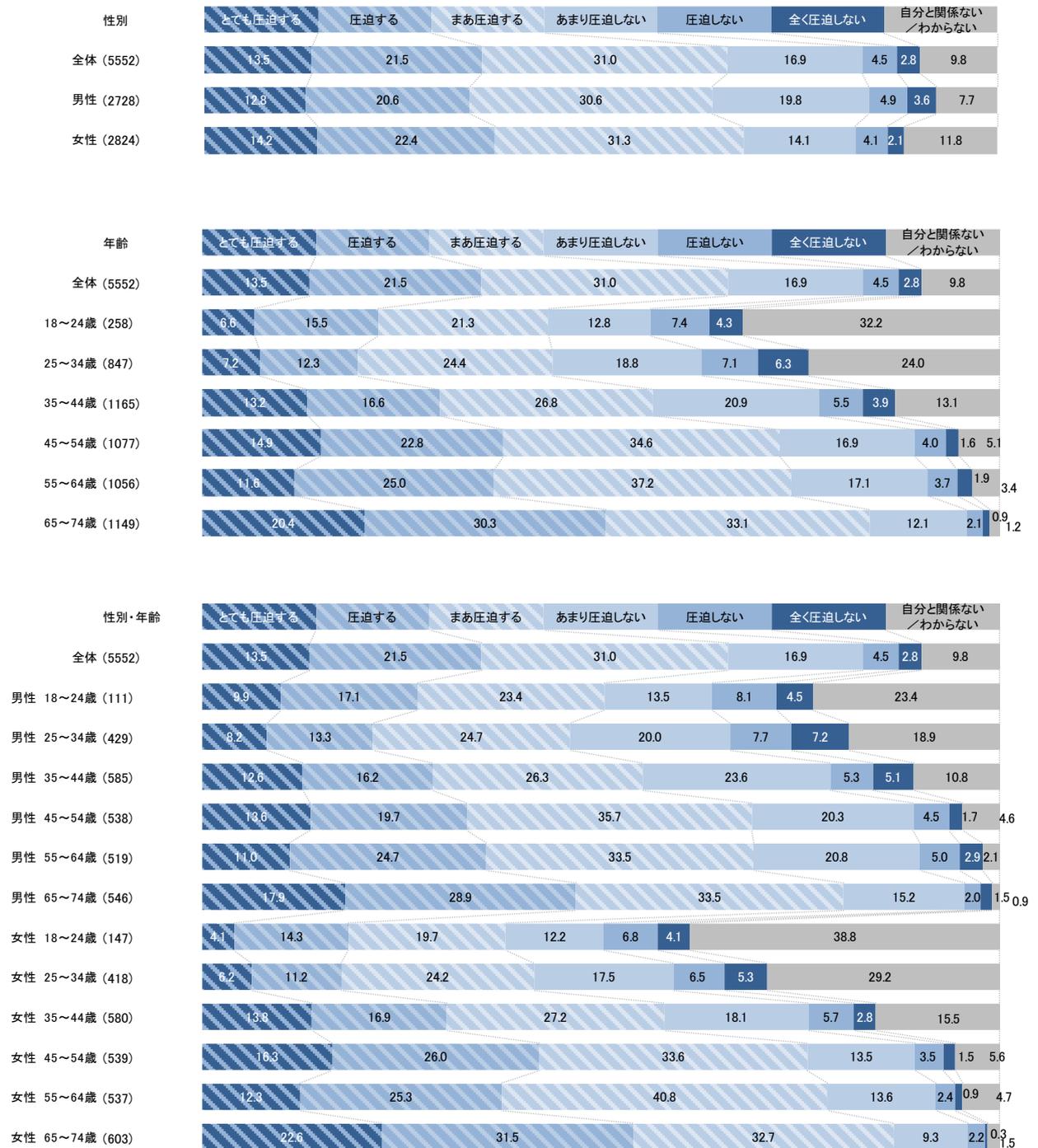
4.年金保険料



※n= (Q16で「名前自体を知らない」以外を選択の人)

・「年齢」では、「45-54歳」で「圧迫する」、「65-74歳」で「自分と関係ない／わからない」が全体と比較して高い。

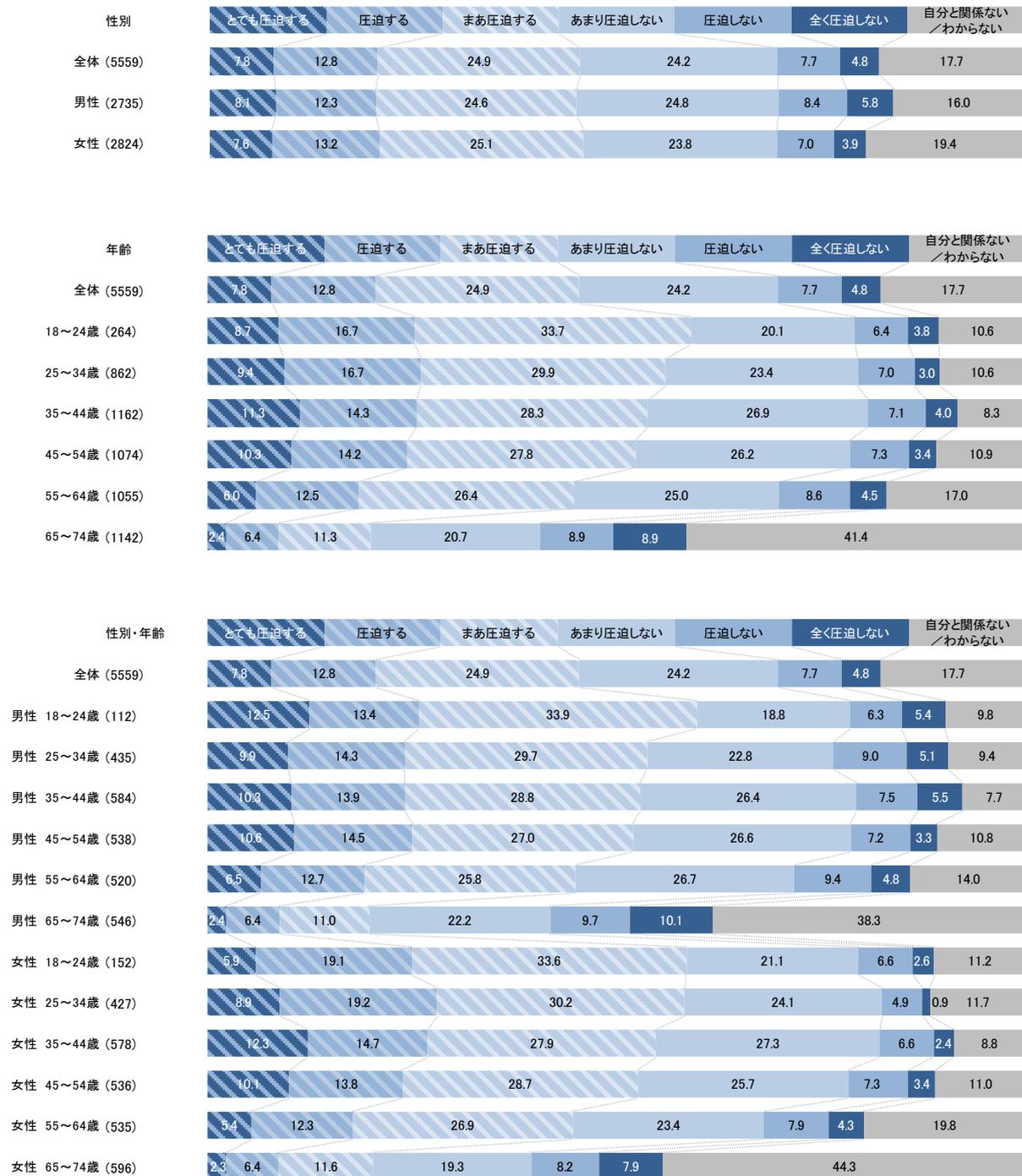
5.介護保険料



※n= (Q16で「名前自体を知らない」以外を選択の人)

・「年齢」では、「18-24歳」「25-34歳」で「自分と関係ない／わからない」、「55-64歳」で「まあ圧迫する」、「65-74歳」で「圧迫する」「とても圧迫する」が全体と比較して高い。

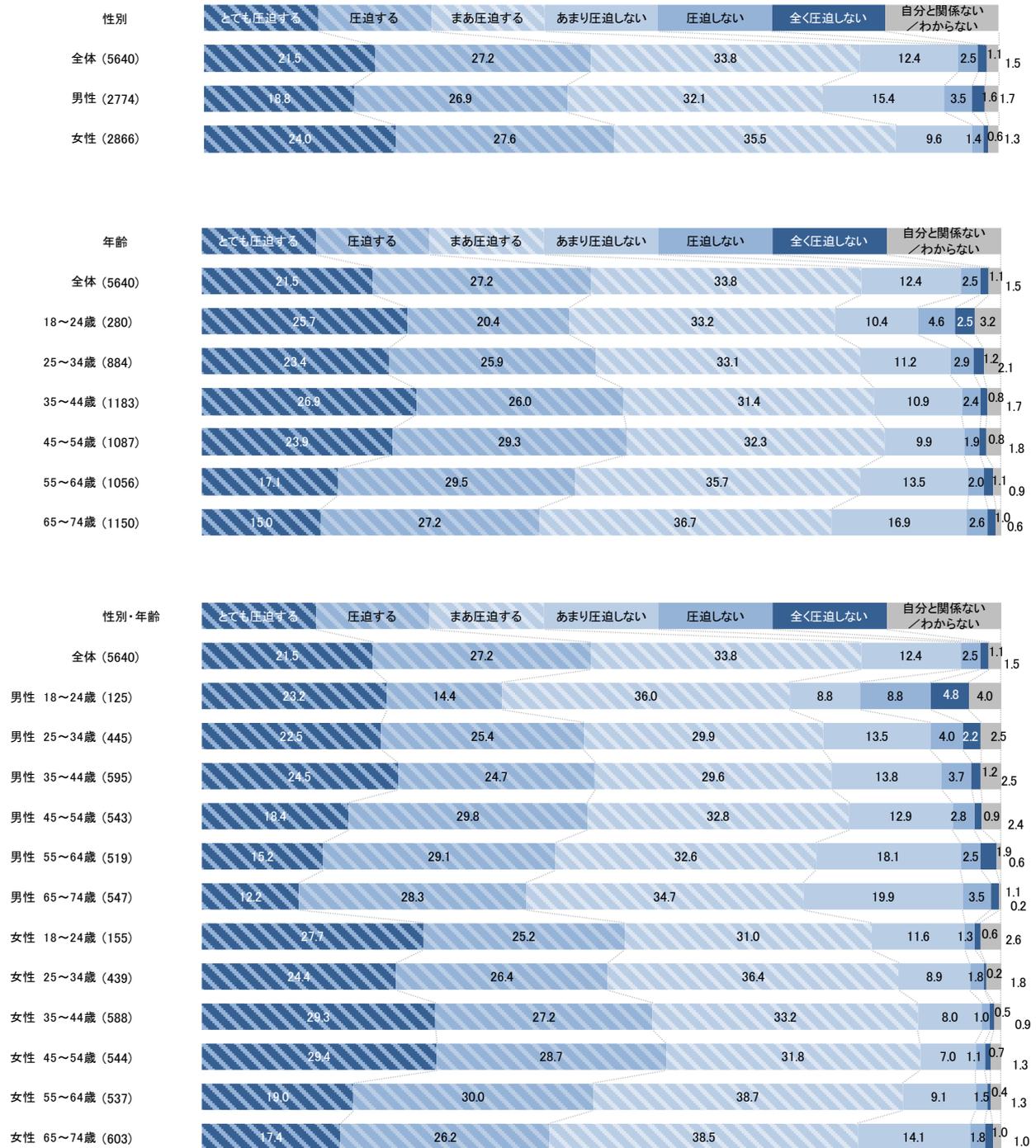
6.雇用保険料



※n= (Q16で「名前自体を知らない」以外を選択の人)

・「年齢」では、「18-24歳」「25-34歳」で「まあ圧迫する」、「65-74歳」で「自分と関係ない／わからない」が全体と比較して高い。

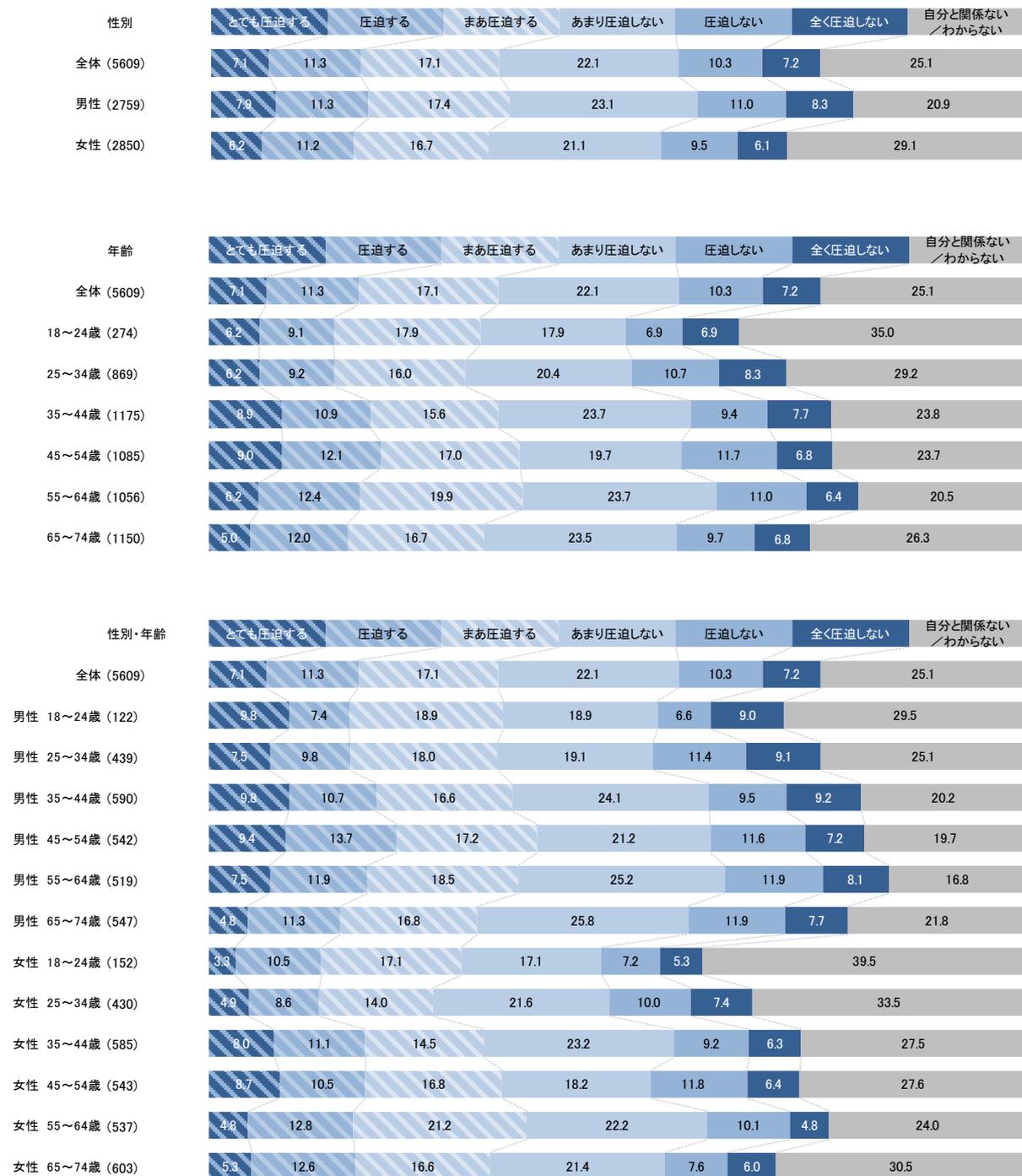
7.消費税



※n= (Q16で「名前自体を知らない」以外を選択の人)

・「年齢」では、「35-44歳」で「とても圧迫する」が全体と比較して高い。

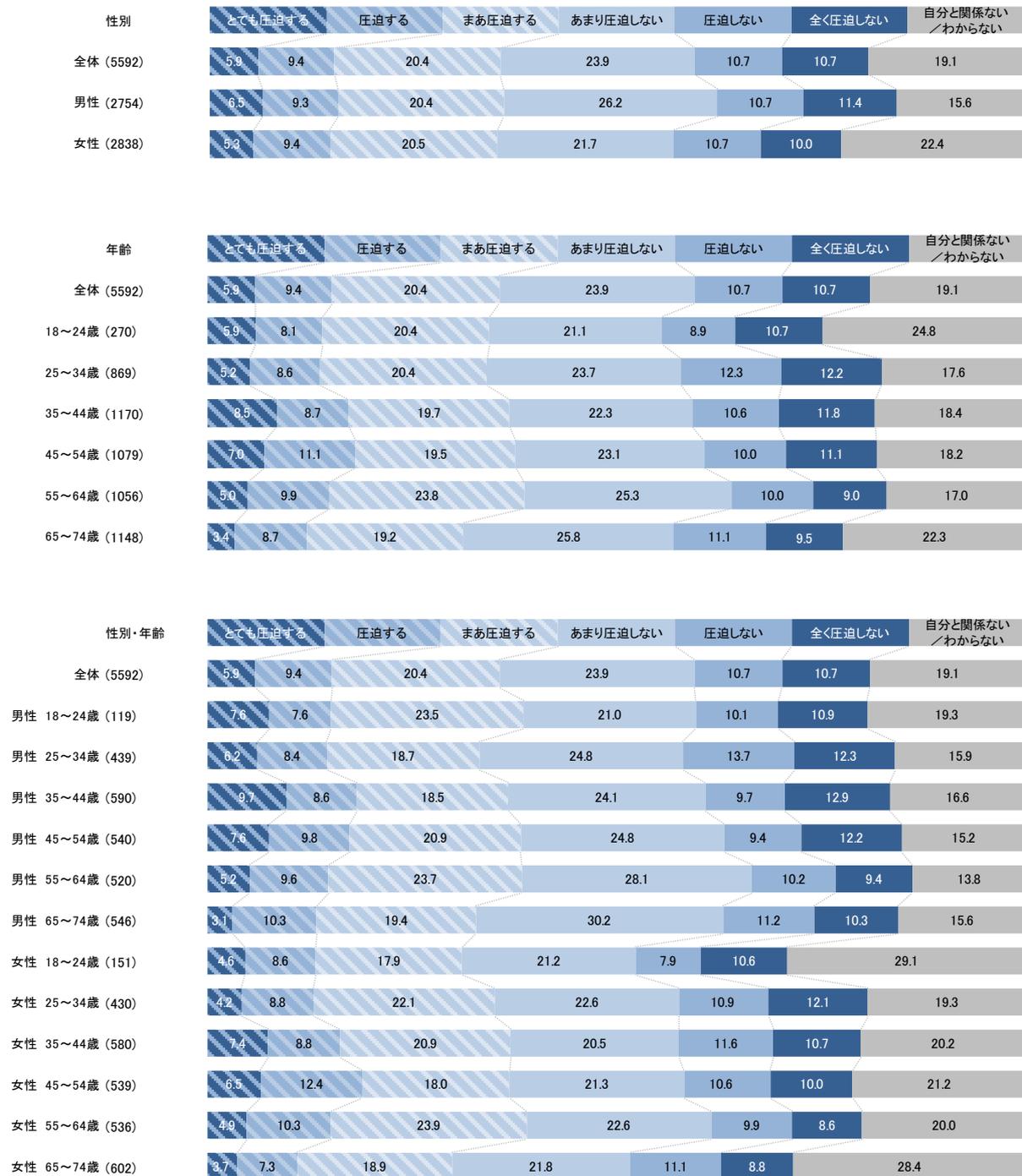
8.相続税



※n= (Q16で「名前自体を知らない」以外を選択の人)

・「年齢」では、「18-24歳」で「自分と関係ない／わからない」が全体と比較して高い。

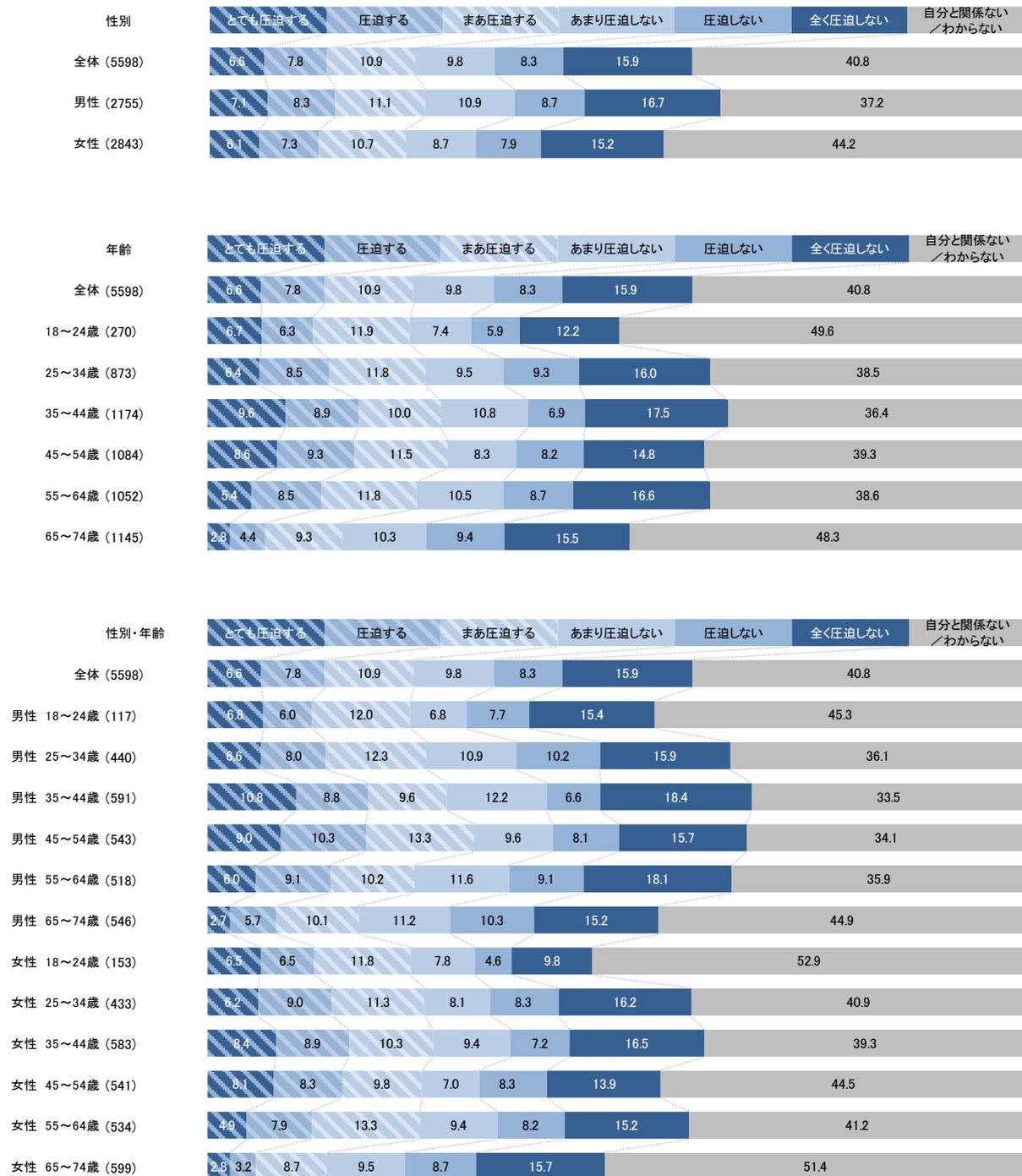
9.酒税



※n= (Q16で「名前自体を知らない」以外を選択の人)

・「年齢」では、「18-24歳」で「自分と関係ない／わからない」が全体と比較して高い。

10.たばこ税

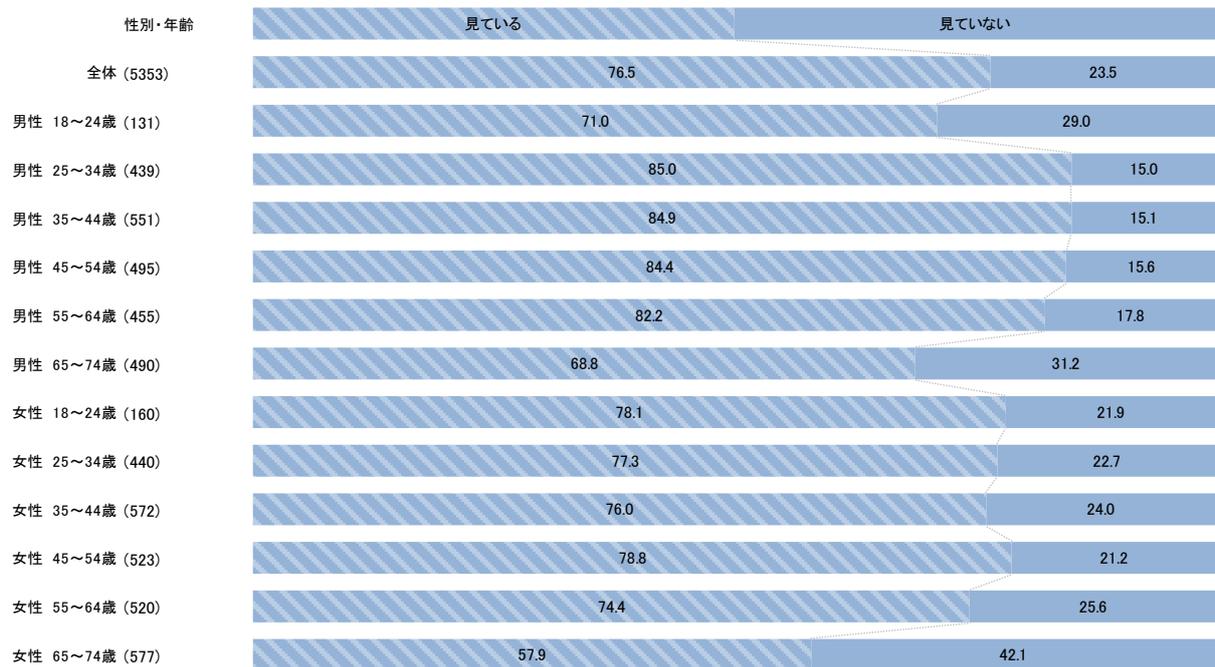
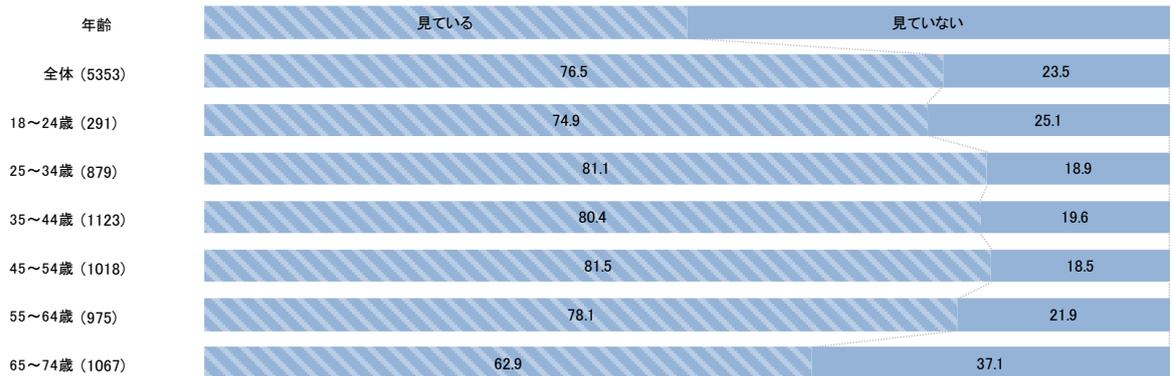
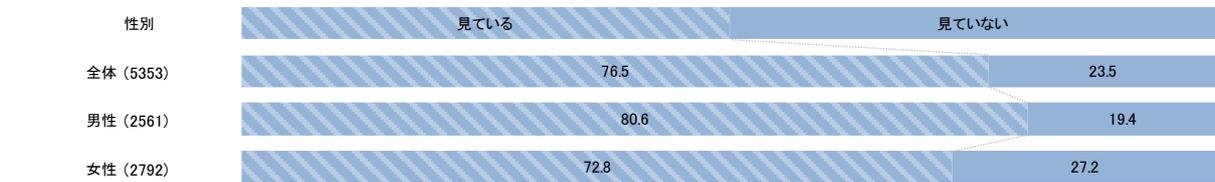


※n= (Q16で「名前自体を知らない」以外を選択の人)

・「年齢」では、「18-24歳」「65-74歳」で「自分と関係ない／わからない」が全体と比較して高い。

Q18. あなたは毎月の給与明細について、次の金額項目を見ていますか。それぞれについて確認しているかどうかをお選びください。(回答は各ひとつ)

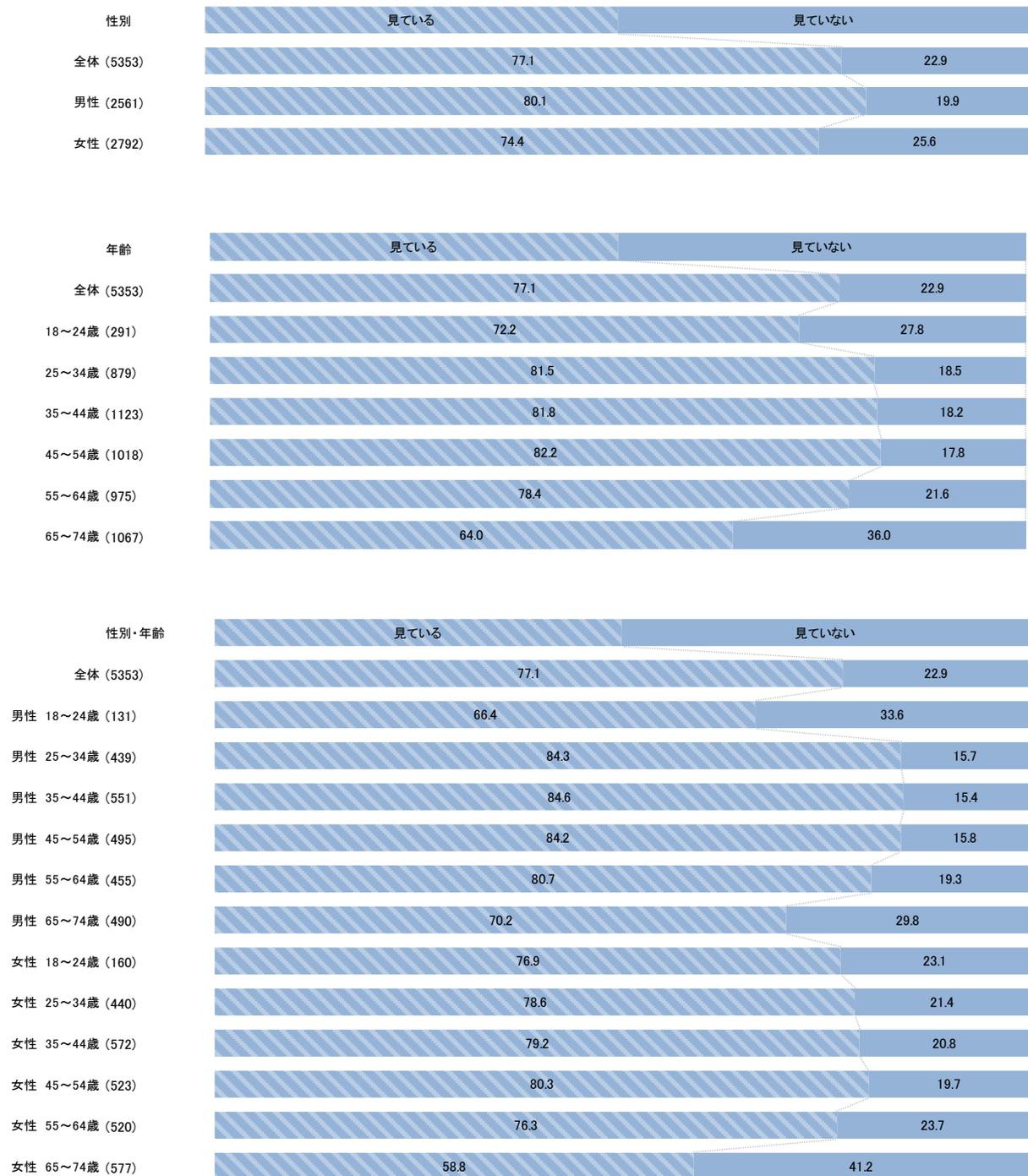
1.総支給額



※n= (職業が「自営業／自由業」「高校生」「大学生／大学院生」以外)

・「選択肢」ごとに見ると、「見ている」は「45-54歳」「男性 25~34歳」「男性 35~44歳」「男性 45~54歳」「男性 55~64歳」で、「見ていない」は「65-74歳」「男性 18~24歳」「男性 65~74歳」「女性 65~74歳」で全体と比較して高い。

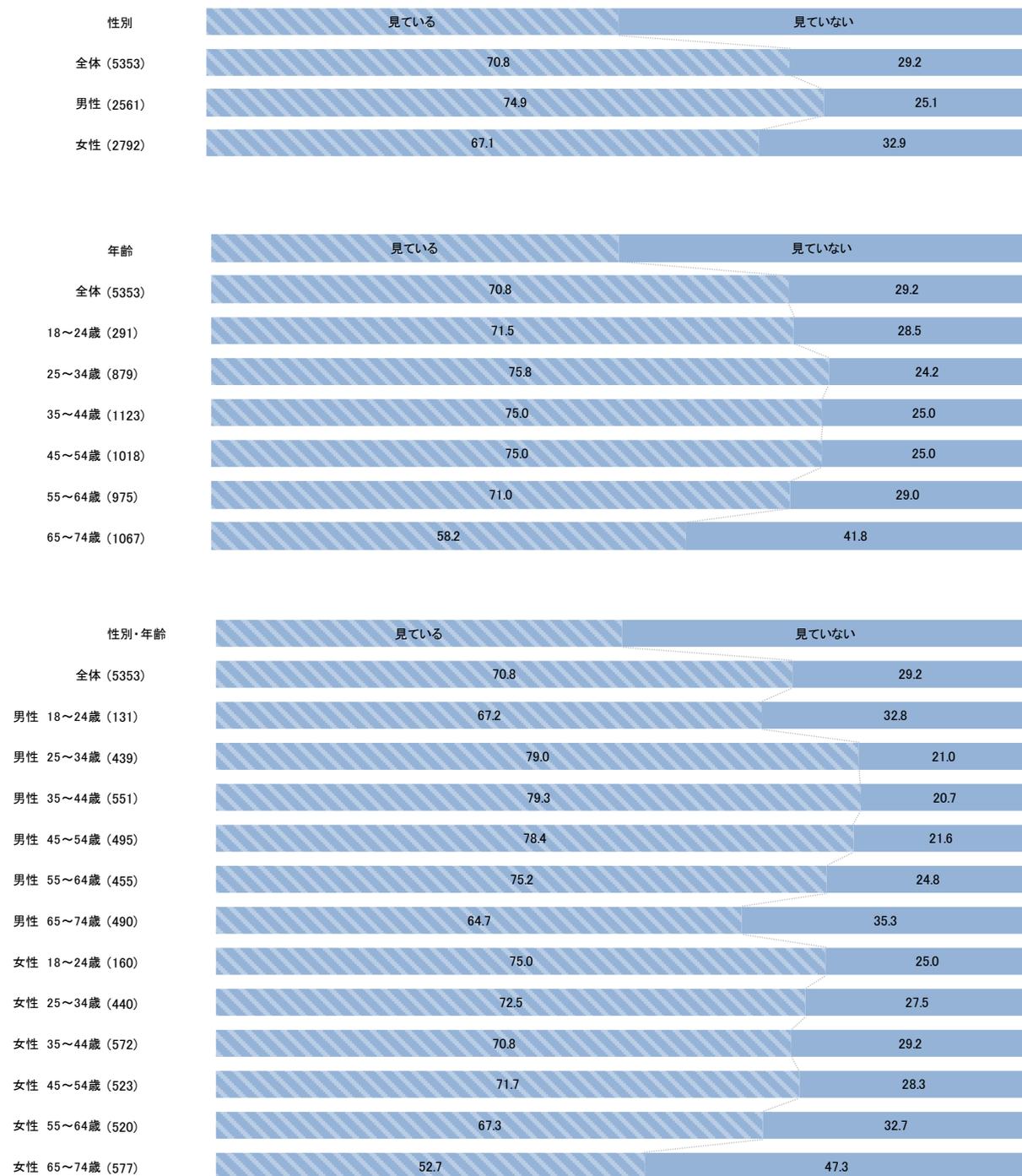
2.差引支給額（銀行振り込み金額、手取り金額）



※n=（職業が「自営業／自由業」「高校生」「大学生／大学院生」以外）

・「選択肢」ごとに見ると、「見ている」は「45-54歳」「男性 25~34歳」「男性 35~44歳」「男性 45~54歳」で、「見ていない」は「65-74歳」「男性 18~24歳」「男性 65~74歳」「女性 65~74歳」で全体と比較して高い。

3.控除合計額

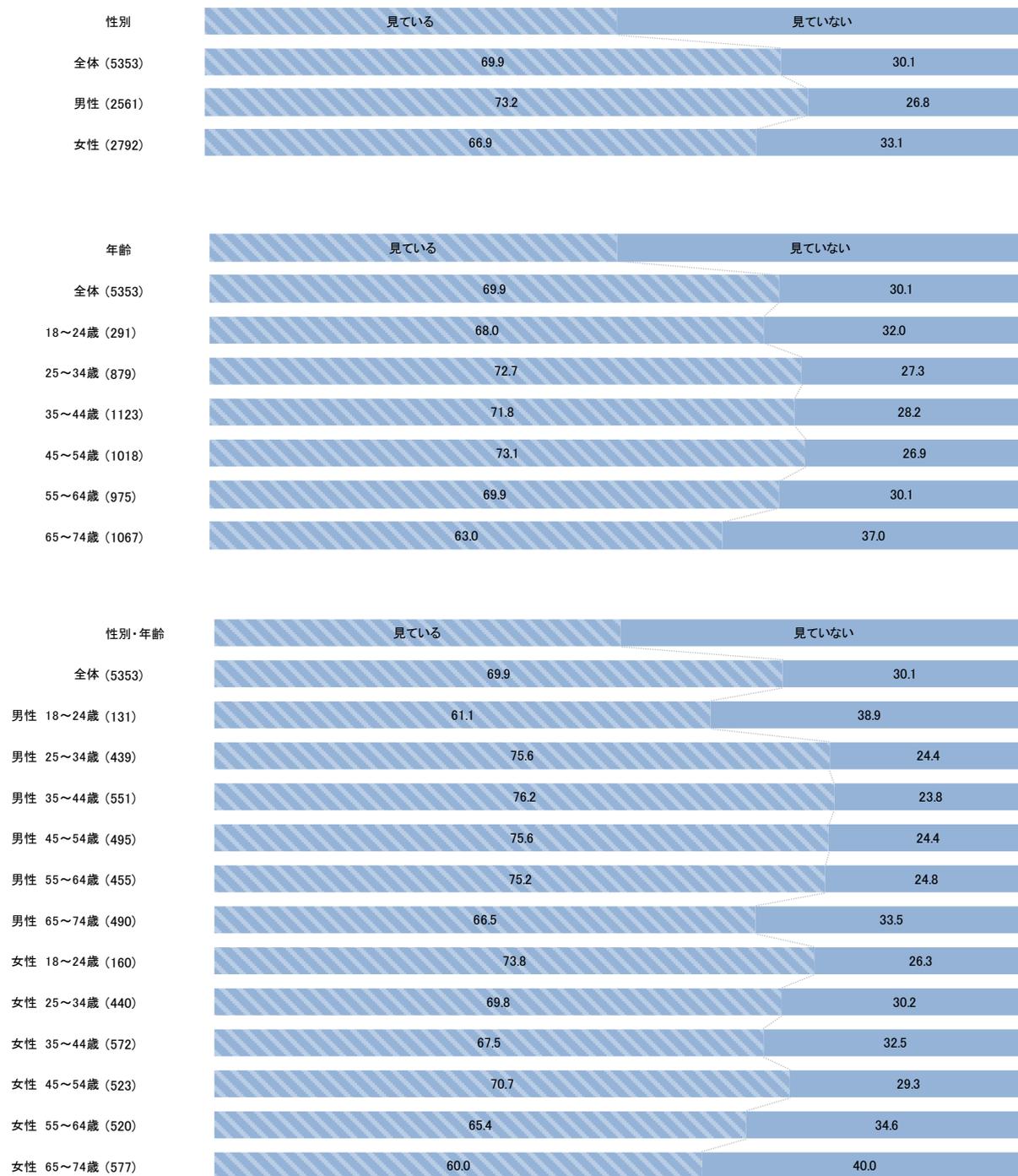


※n= (職業が「自営業/自由業」「高校生」「大学生/大学院生」以外)

・「選択肢」ごとに見ると、「見ている」は「男性 25~34歳」「男性 35~44歳」「男性 45~54歳」で、「見ていない」は「65~74歳」「男性 65~74歳」「女性 65~74歳」で全体と比較して高い。

4.個別の税や保険料の金額

※何か一つでも見ていたら「1.見ている」を選択してください。

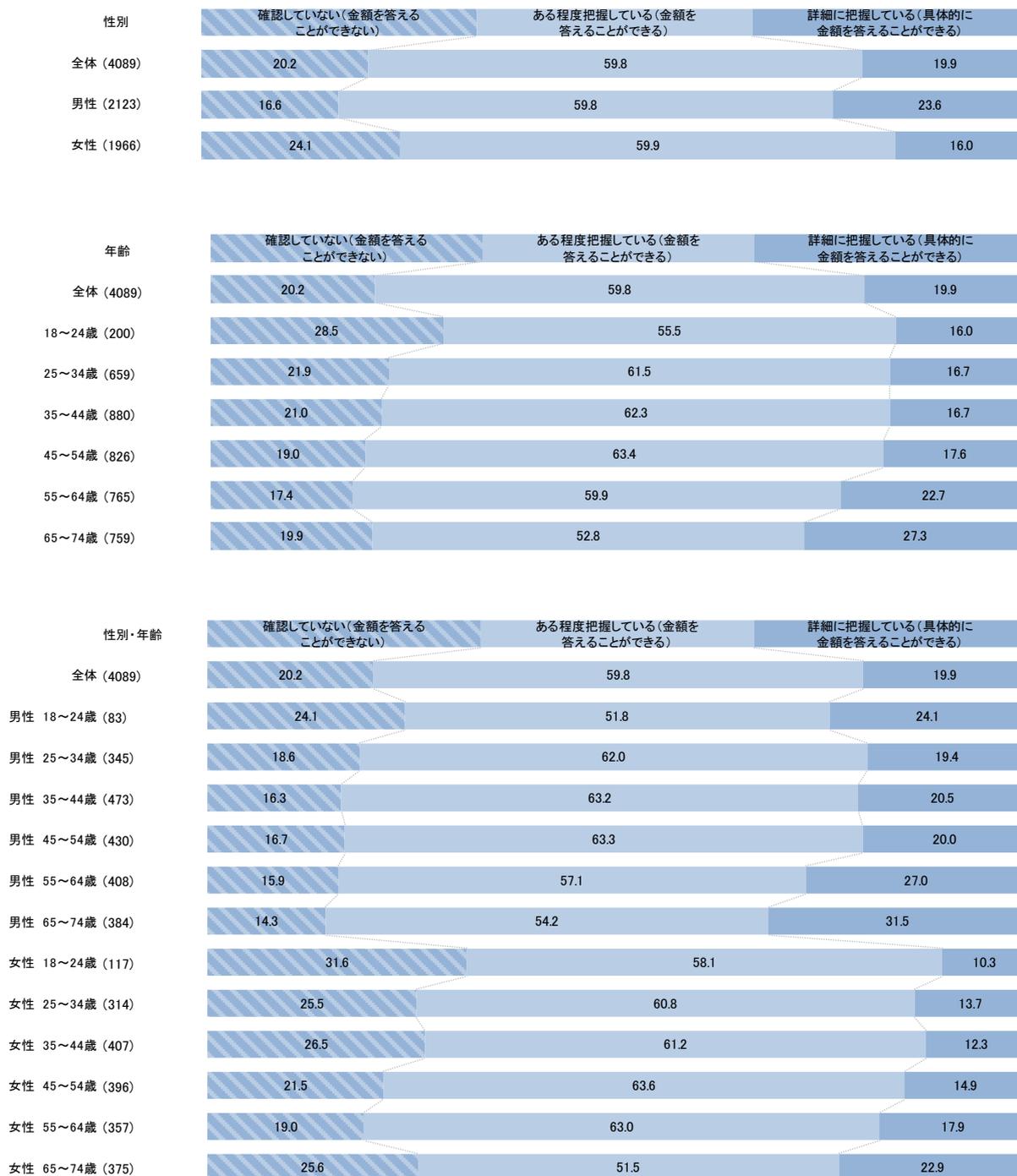


※n= (職業が「自営業/自由業」「高校生」「大学生/大学院生」以外)

・「選択肢」ごとに見ると、「見ている」は「男性 25~34 歳」「男性 35~44 歳」「男性 45~54 歳」「男性 55~64 歳」で、「見ていない」は「65-74 歳」「男性 18~24 歳」「女性 65~74 歳」で全体と比較して高い。

Q19. 毎月の税と保険料について、どの程度金額をご存知ですか。それぞれの税および保険料についてあてはまるものをお選びください。(回答は各ひとつ)

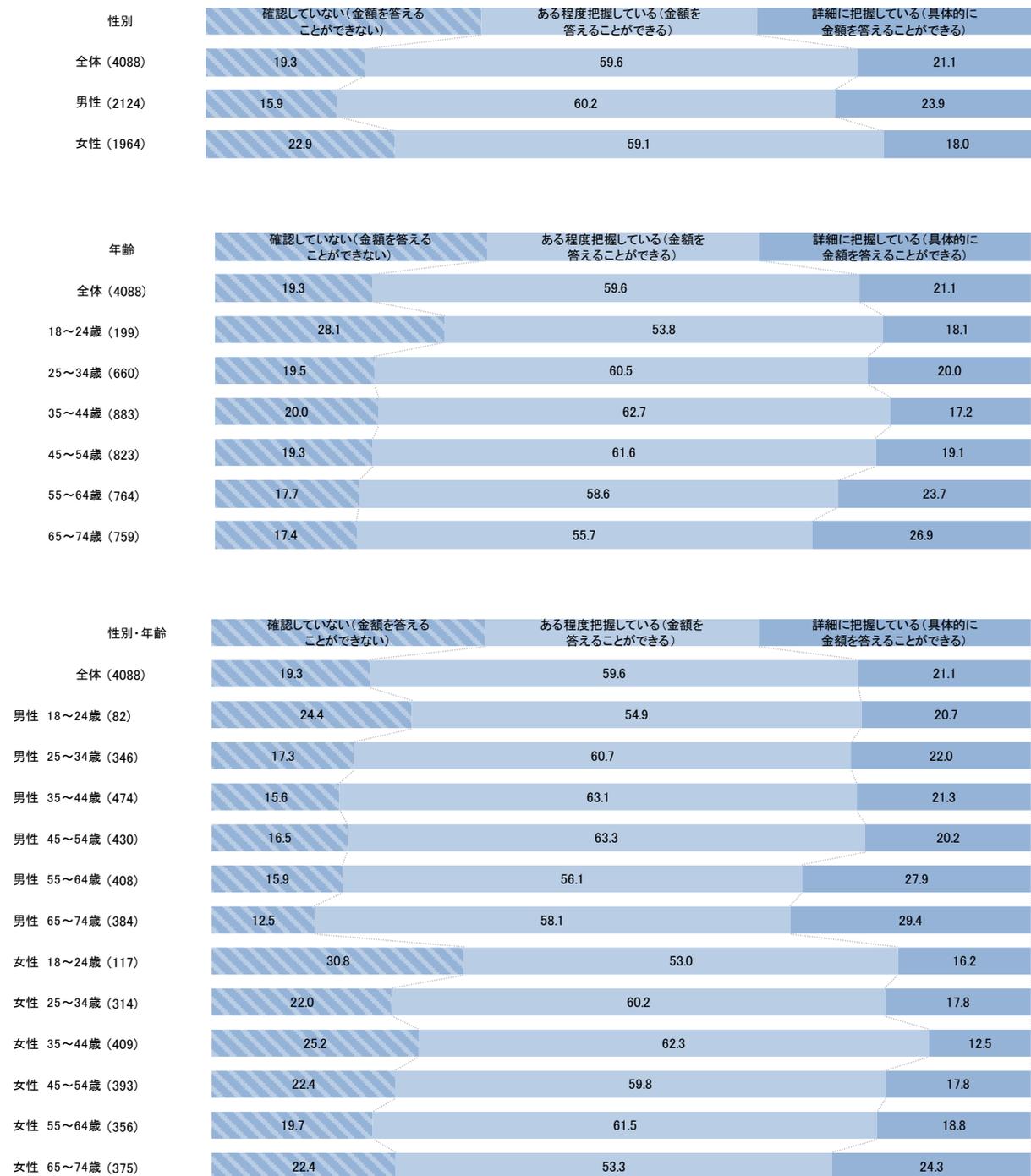
1.所得税



※n=(職業が「自営業/自由業」でQ16で「名前自体を知らない」以外を選択の人 または Q18「個別の税や保険料の金額」を「知っている」選択でQ16で「名前自体を知らない」以外を選択の人)

・「選択肢」ごとに見ると、「確認していない(金額を答えることができない)」は「18-24歳」「女性 18~24歳」「女性 25~34歳」「女性 35~44歳」「女性 65~74歳」で、「詳細に把握している(具体的に金額を答えることができる)」は「65-74歳」「男性 55~64歳」「男性 65~74歳」で全体と比較して高い。

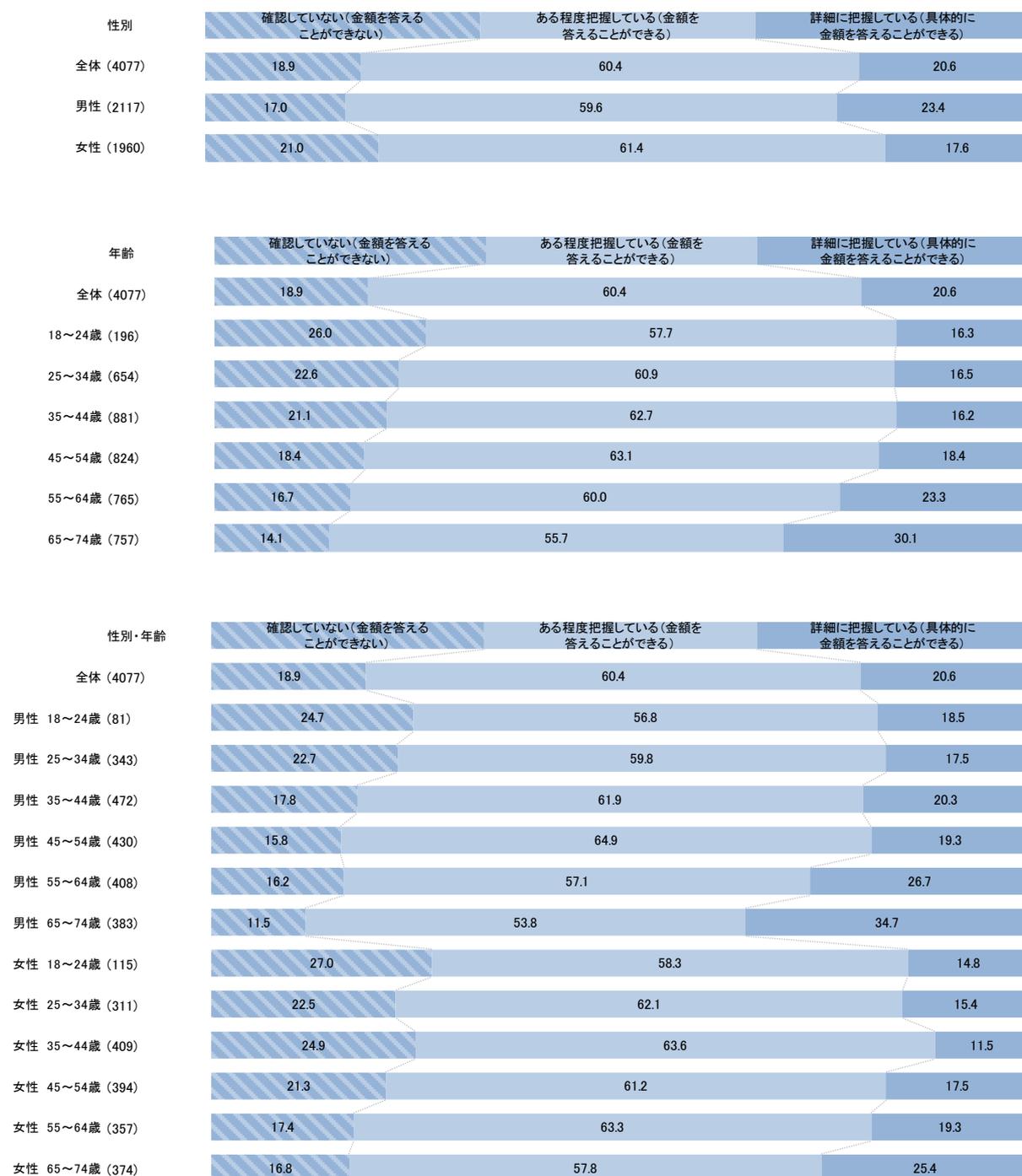
2.住民税



※n=(職業が「自営業/自由業」でQ16で「名前自体を知らない」以外を選択の人 または Q18「個別の税や保険料の金額」を「見ている」選択でQ16で「名前自体を知らない」以外を選択の人)

・「選択肢」ごとに見ると、「確認していない(金額を答えることができない)」は「18-24歳」「男性 18~24歳」「女性 18~24歳」「女性 35~44歳」で、「詳細に把握している(具体的に金額を答えることができる)」は「65-74歳」「男性 55~64歳」「男性 65~74歳」で全体と比較して高い。

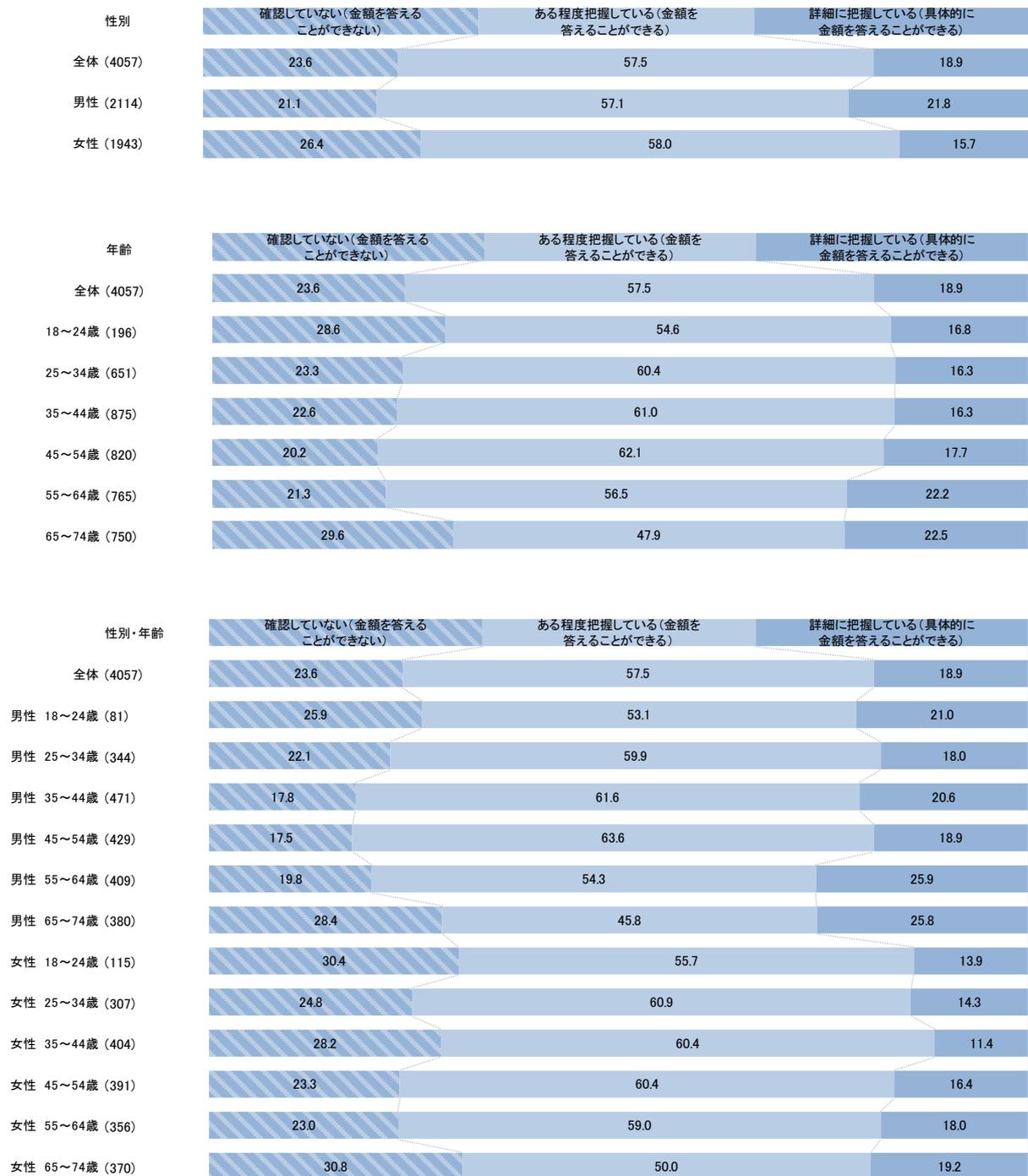
3.健康保険料



※n=(職業が「自営業/自由業」でQ16で「名前自体を知らない」以外を選択の人 または Q18「個別の税や保険料の金額」を「見ている」選択でQ16で「名前自体を知らない」以外を選択の人)

・「選択肢」ごとに見ると、「確認していない(金額を答えることができない)」は「18-24歳」「男性 18~24歳」「女性 18~24歳」「女性 35~44歳」で、「詳細に把握している(具体的に金額を答えることができる)」は「65-74歳」「男性 55~64歳」「男性 65~74歳」で全体と比較して高い。

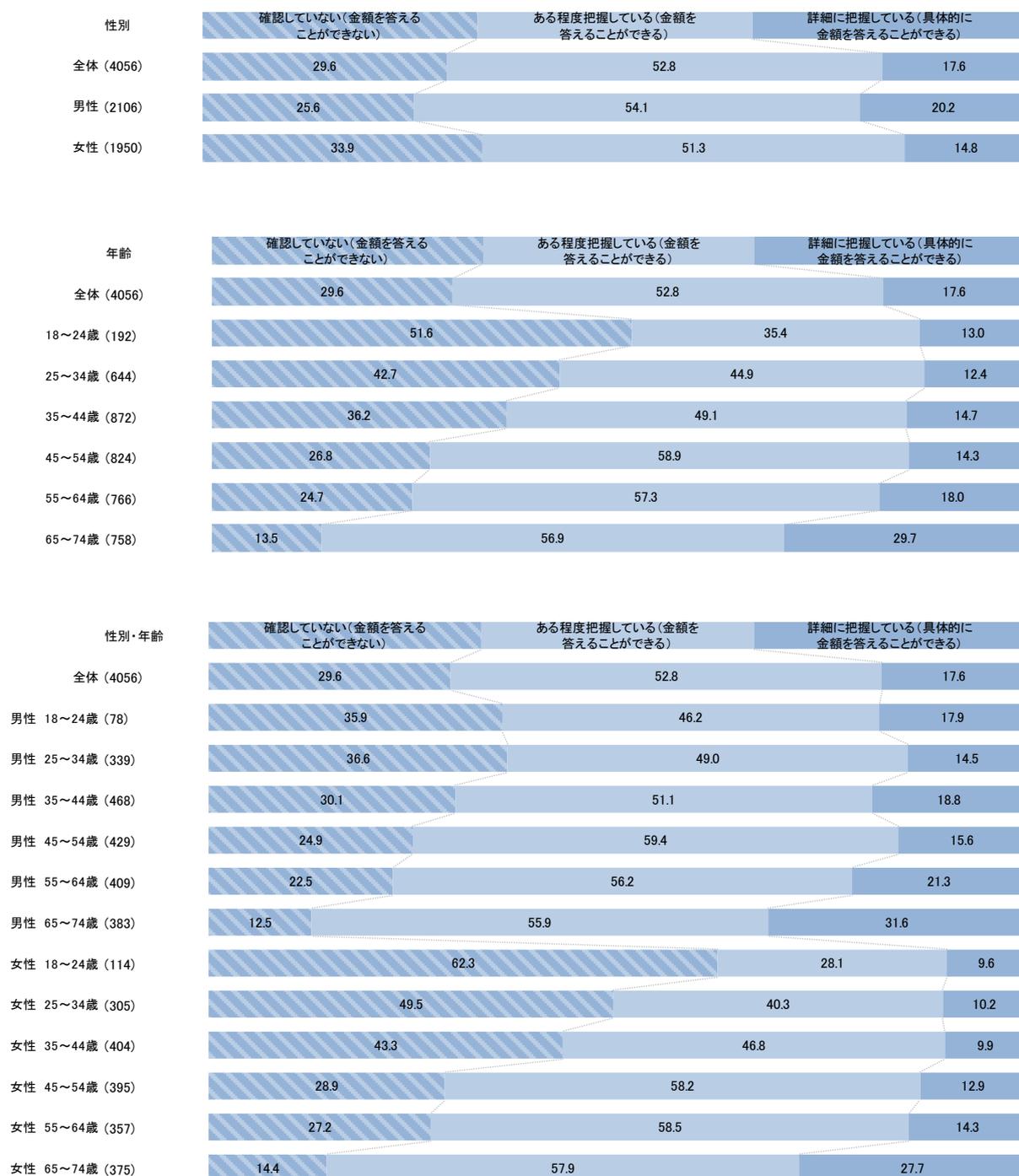
4.年金保険料



※n= (職業が「自営業/自由業」でQ16で「名前自体を知らない」以外を選択の人 または Q18「個別の税や保険料の金額」を「見ている」選択でQ16で「名前自体を知らない」以外を選択の人)

・「選択肢」ごとに見ると、「確認していない(金額を答えることができない)」は「65~74歳」「女性 18~24歳」「女性 65~74歳」で、「ある程度把握している(金額を答えることができる)」は「男性 45~54歳」で、「詳細に把握している(具体的に金額を答えることができる)」は「男性 55~64歳」「男性 65~74歳」で全体と比較して高い。

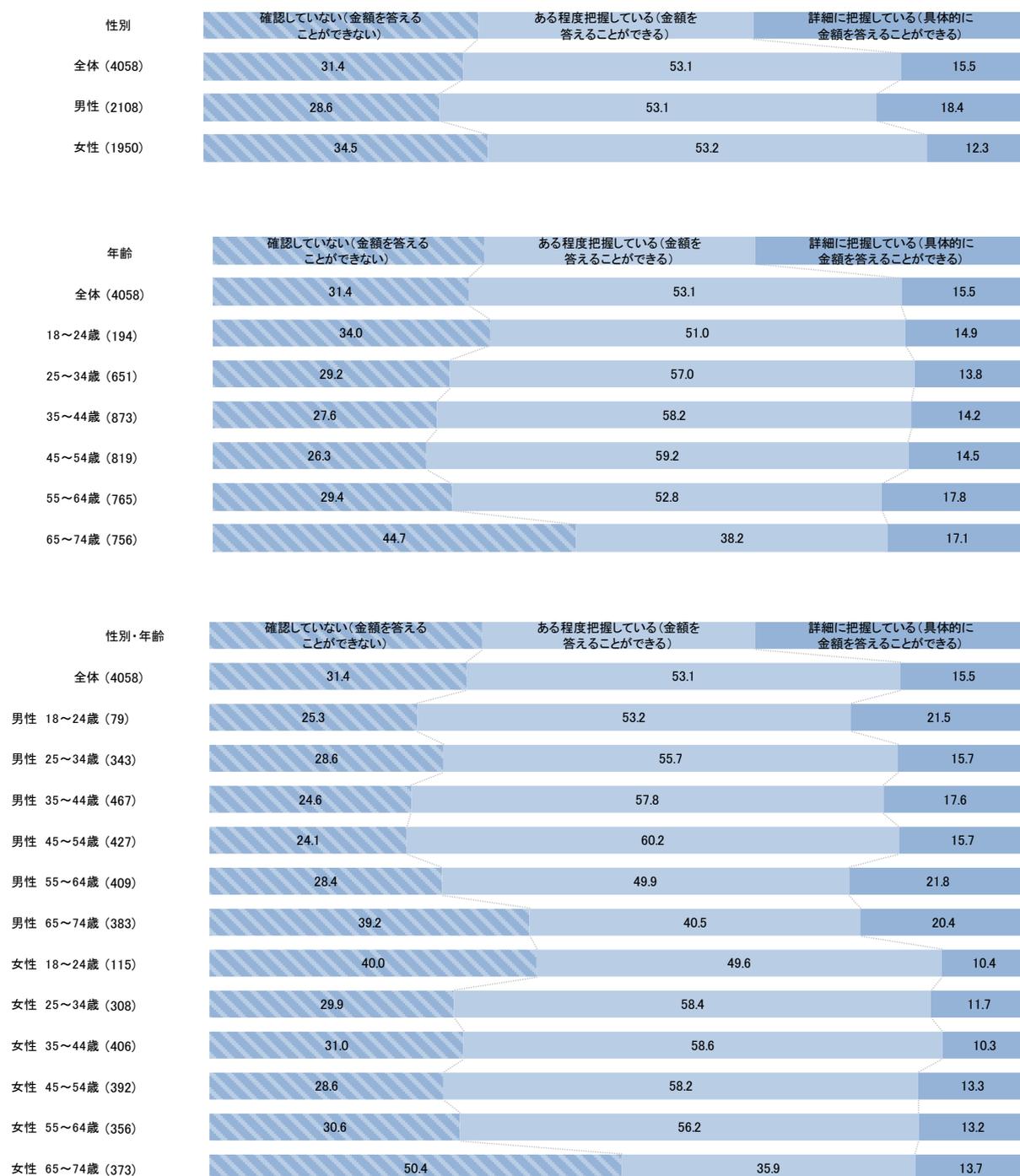
5.介護保険料



※n=(職業が「自営業/自由業」でQ16で「名前自体を知らない」以外を選択の人 または Q18「個別の税や保険料の金額」を「見ている」選択でQ16で「名前自体を知らない」以外を選択の人)

・「選択肢」ごとに見ると、「確認していない(金額を答えることができない)」は「18-24歳」「25-34歳」「35-44歳」「男性 18~24歳」「男性 25~34歳」「女性 18~24歳」「女性 25~34歳」「女性 35~44歳」で、「ある程度把握している(金額を答えることができる)」は「45-54歳」「男性 45~54歳」「女性 45~54歳」「女性 55~64歳」「女性 65~74歳」で、「詳細に把握している(具体的に金額を答えることができる)」は「65-74歳」「男性 65~74歳」「女性 65~74歳」で全体と比較して高い。

6.雇用保険料

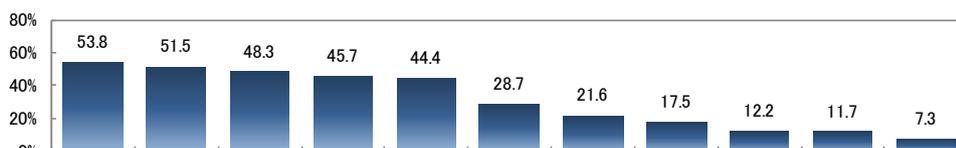


※n=(職業が「自営業/自由業」でQ16で「名前自体を知らない」以外を選択の人 または Q18「個別の税や保険料の金額」を「見ている」選択でQ16で「名前自体を知らない」以外を選択の人)

・「選択肢」ごとに見ると、「確認していない(金額を答えることができない)」は「65-74歳」「男性 65~74歳」「女性 18~24歳」「女性 65~74歳」で、「ある程度把握している(金額を答えることができる)」は「35-44歳」「45-54歳」「男性 45~54歳」「女性 25~34歳」「女性 35~44歳」「女性 45~54歳」で、「詳細に把握している(具体的に金額を答えることができる)」は「男性 18~24歳」「男性 55~64歳」で全体と比較して高い。

Q20. あなたは国に納める税と保険料について、どんなイメージを持っていますか。あてはまるものをすべてお答えください。(複数回選択可)

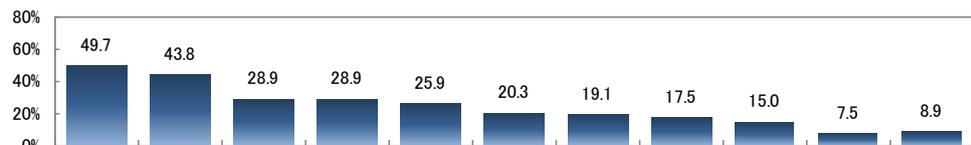
1.税



	(n)	払う意義はわかる	国や社会づくりのためのもの	国が使い方を決める	国がとりたてる	なるべく払いたくない	払えるなら払う	相互に助け合う仕組み	弱者に利益が還元される	自分に利益が還元される	払う意義がわからない	一つの中にはない	平均あたりの回答項目数
全体	(6000)	53.8	51.5	48.3	45.7	44.4	28.7	21.6	17.5	12.2	11.7	7.3	3.35
性別													
男性	(2985)	54.9	52.1	46.9	44.6	41.4	29.6	23.6	18.7	14.0	10.4	8.5	3.36
女性	(3015)	52.7	51.0	49.6	46.9	47.3	27.8	19.7	16.4	10.4	12.9	6.1	3.35
年齢													
18～24歳	(558)	46.1	45.0	44.1	37.8	43.5	23.8	19.7	18.6	14.7	17.6	10.2	3.11
25～34歳	(914)	50.4	48.7	45.7	45.6	50.9	25.8	22.2	16.6	12.8	13.3	6.7	3.32
35～44歳	(1203)	52.3	48.5	46.6	46.9	48.4	23.7	20.3	16.9	10.4	13.8	8.6	3.28
45～54歳	(1106)	54.0	48.7	46.5	45.2	43.1	28.8	20.0	17.6	10.0	11.3	8.9	3.25
55～64歳	(1064)	56.1	54.4	48.4	45.8	41.1	31.0	22.8	16.3	11.9	8.5	6.0	3.36
65～74歳	(1155)	59.5	60.1	55.5	48.9	39.6	36.4	23.8	19.5	14.8	8.5	4.8	3.66
性別・年齢													
男性 18～24歳	(285)	43.5	43.5	41.8	34.7	37.2	25.6	20.0	20.0	18.2	15.4	13.0	3.00
男性 25～34歳	(463)	51.2	47.9	41.9	42.5	46.4	28.5	25.7	17.3	15.6	12.1	7.1	3.29
男性 35～44歳	(608)	53.9	50.2	45.1	44.1	42.6	25.5	22.9	18.6	12.2	11.2	10.4	3.26
男性 45～54歳	(555)	53.0	48.5	44.5	42.9	42.9	28.5	22.0	18.2	10.8	10.8	11.5	3.22
男性 55～64歳	(525)	59.6	57.3	48.2	46.1	37.3	30.5	26.7	17.0	13.0	7.4	5.7	3.43
男性 65～74歳	(549)	62.5	60.7	57.0	52.3	40.3	37.3	23.0	21.7	16.8	8.0	4.9	3.79
女性 18～24歳	(273)	48.7	46.5	46.5	41.0	50.2	22.0	19.4	17.2	11.0	19.8	7.3	3.22
女性 25～34歳	(451)	49.7	49.4	49.7	48.8	55.4	23.1	18.6	16.0	10.0	14.6	6.2	3.35
女性 35～44歳	(595)	50.6	46.9	48.2	49.7	54.3	21.8	17.6	15.1	8.6	16.5	6.7	3.29
女性 45～54歳	(551)	55.0	49.0	48.5	47.5	43.4	29.0	18.0	17.1	9.3	11.8	6.2	3.28
女性 55～64歳	(539)	52.7	51.6	48.6	45.5	44.7	31.5	19.1	15.6	10.9	9.5	6.3	3.30
女性 65～74歳	(606)	56.8	59.6	54.1	45.9	38.9	35.5	24.6	17.5	13.0	8.9	4.6	3.55

・「年齢」では、「18-24歳」で「払う意義がわからない」、「25-34歳」で「なるべく払いたくない」、「65-74歳」で「国や社会づくりのためのもの」「払えるなら払う」「国が使い方を決める」が全体と比較して高い。

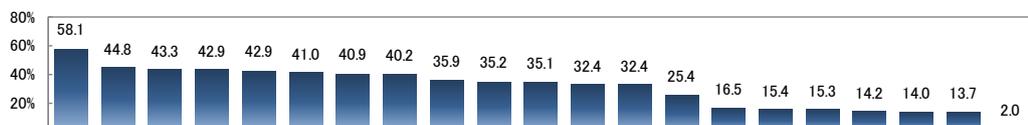
2.保険料



		(n)	払う意義はわかる	相互に助け合う仕組み	払えるなら払う	なるべく払いたくない	自分に利益が還元される	国や社会づくりのため	国がとりたてる	弱者に利益が還元される	国が使い方を決める	払う意義がわからない	この中には一つもない	一人あたりの平均回答項目数
全体		(6000)	49.7	43.8	28.9	28.9	25.9	20.3	19.1	17.5	15.0	7.5	8.9	2.56
性別	男性	(2985)	49.3	45.5	28.7	26.1	20.4	19.3	18.9	14.9	7.8	10.0	2.60	
	女性	(3015)	50.0	42.2	29.1	29.1	25.6	20.1	18.9	16.1	15.1	7.2	7.7	2.53
年齢	18～24歳	(558)	43.5	31.7	28.0	29.9	28.7	19.0	15.9	19.0	13.8	10.4	12.9	2.40
	25～34歳	(914)	46.3	36.7	29.6	35.0	25.2	21.9	20.4	20.1	14.6	9.3	7.9	2.59
	35～44歳	(1203)	49.0	37.4	26.8	32.0	24.9	21.4	19.4	16.7	15.0	8.1	10.6	2.51
	45～54歳	(1106)	49.9	40.0	28.4	29.4	21.5	19.3	21.0	15.8	15.6	8.0	9.9	2.49
	55～64歳	(1064)	51.3	49.2	29.0	23.8	25.4	19.5	17.1	16.5	13.9	5.3	7.7	2.51
	65～74歳	(1155)	54.4	60.6	31.3	24.6	30.6	20.0	19.3	17.9	16.5	5.5	5.9	2.81
性別・年齢	男性 18～24歳	(285)	37.2	29.8	26.0	29.1	28.1	17.2	15.8	18.2	13.7	12.6	14.4	2.28
	男性 25～34歳	(463)	44.5	38.9	29.6	35.9	21.8	24.0	22.0	19.7	15.8	9.3	8.0	2.61
	男性 35～44歳	(608)	49.3	39.3	27.1	29.8	23.0	21.1	18.4	17.1	14.3	7.9	12.8	2.47
	男性 45～54歳	(555)	47.4	41.4	27.7	29.2	22.9	19.1	20.7	16.6	14.6	7.9	12.3	2.48
	男性 55～64歳	(525)	54.3	52.2	29.0	23.0	26.5	19.8	17.5	19.0	15.0	5.7	7.8	2.62
	男性 65～74歳	(549)	56.8	63.6	31.9	26.4	35.0	20.4	19.9	22.8	15.7	5.8	6.0	2.98
	女性 18～24歳	(273)	50.2	33.7	30.0	30.8	29.3	20.9	16.1	19.8	13.9	8.1	11.4	2.53
	女性 25～34歳	(451)	48.1	34.4	29.7	34.1	28.6	19.7	18.6	20.6	13.3	9.3	7.8	2.57
	女性 35～44歳	(595)	48.6	35.5	26.4	34.3	26.7	21.8	20.3	16.3	15.6	8.2	8.2	2.54
	女性 45～54歳	(551)	52.5	38.5	29.0	29.6	20.1	19.6	21.2	15.1	16.5	8.2	7.6	2.50
	女性 55～64歳	(539)	48.4	46.4	29.1	24.5	24.3	19.1	16.7	14.1	12.8	4.8	7.6	2.40
	女性 65～74歳	(606)	52.1	57.9	30.9	22.9	26.7	19.6	18.8	13.5	17.3	5.3	5.8	2.65

・「年齢」では、「25～34歳」で「なるべく払いたくない」、「55～64歳」「65～74歳」で「相互に助け合う仕組み」が全体と比較して高い。

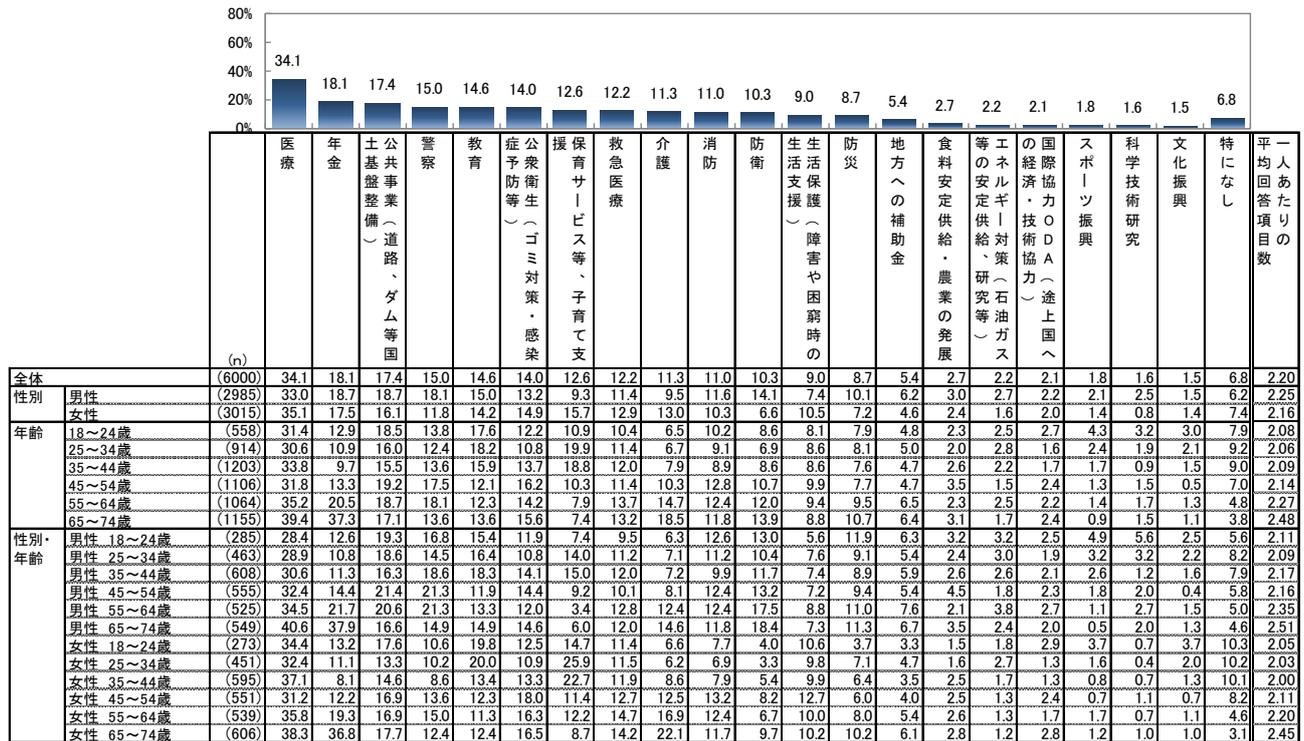
Q21. 次の1～20の中から、税が自分の生活に還元されていると感じる公共サービスをすべてお選びください。また、そのなかからあなたが強く実感するものを3つまでお選びください。(複数回選択可)
 1.税が生活に活かされていると実感するもの(いくつでも)



(n)	医療	土基盤整備	公共事業(道路、ダム等)	警察	教育	公衆衛生(ゴミ対策・感染症予防等)	年金	消防	救急医療	保育サービス等、子育て支援	介護	防災	生活保護(障害や困窮時の生活支援)	防衛	地方への補助金	エネルギー対策(石油ガス等の安定供給、研究等)	食料安定供給・農業の発展	科学技術研究	文化振興	国際協力ODA(途上国への経済・技術協力)	スポーツ振興	特になし	平均回答項目数	
全体 (6000)	58.1	44.8	43.3	42.9	42.9	41.0	40.9	40.2	35.9	35.2	35.1	32.4	32.4	25.4	16.5	15.4	15.3	14.2	14.0	13.7	2.0	6.52		
性別																								
男性 (2985)	57.0	47.9	48.0	43.9	43.2	43.1	44.2	41.5	32.1	34.3	38.3	32.2	39.1	28.0	19.4	17.0	18.5	15.0	15.3	15.0	1.8	6.85		
女性 (3015)	59.3	41.7	38.7	41.8	42.5	38.9	37.5	39.0	39.6	36.0	31.9	32.7	25.8	22.8	13.7	13.8	12.2	13.3	12.7	12.3	2.2	6.19		
年齢																								
18～24歳 (558)	51.6	41.2	38.0	40.9	32.6	31.4	35.3	33.2	29.2	24.2	27.1	24.6	24.4	20.3	15.1	12.2	12.5	13.8	11.6	15.1	3.4	5.53		
25～34歳 (914)	53.2	41.4	33.9	42.2	34.6	30.4	31.5	30.5	40.6	24.0	28.9	26.5	24.4	20.9	13.8	13.2	10.5	12.0	9.7	11.6	3.6	5.54		
35～44歳 (1203)	57.4	39.7	39.2	41.8	38.7	31.8	36.2	36.0	40.1	28.8	30.6	29.3	29.4	20.8	12.8	14.0	12.9	12.1	10.1	11.8	2.5	5.88		
45～54歳 (1106)	54.1	43.2	42.8	38.7	43.4	35.1	40.2	39.1	31.6	32.7	33.3	31.7	31.8	23.1	15.0	14.2	13.4	10.6	12.6	11.8	1.4	6.06		
55～64歳 (1064)	59.6	48.3	47.3	43.0	48.6	45.4	44.8	45.0	32.1	42.1	38.8	36.1	36.7	29.2	16.4	13.6	16.3	15.7	16.1	14.7	1.4	7.00		
65～74歳 (1155)	68.5	52.8	54.5	49.3	52.9	65.3	52.6	52.5	38.4	51.8	46.8	41.5	42.3	34.7	24.8	22.9	23.9	20.1	21.9	17.5	0.6	8.40		
性別・年齢																								
男性 18～24歳 (285)	48.1	44.9	41.4	38.9	32.3	32.6	36.5	32.3	26.3	24.9	31.6	25.3	31.2	24.6	19.3	14.4	17.9	16.1	14.7	17.9	3.2	5.90		
男性 25～34歳 (463)	49.9	44.7	37.6	39.3	37.4	31.3	34.3	30.5	32.8	22.5	31.5	23.8	31.3	21.8	16.2	14.0	13.6	12.5	11.4	13.6	3.7	5.71		
男性 35～44歳 (608)	54.6	42.3	45.4	44.4	41.0	32.7	40.8	37.7	35.2	28.0	32.4	28.3	36.0	24.2	15.3	16.1	17.1	14.0	12.7	14.6	2.1	6.26		
男性 45～54歳 (555)	53.7	44.9	46.3	38.7	41.4	38.7	41.4	40.2	29.5	31.7	35.9	29.4	35.9	25.0	16.2	15.3	14.1	10.3	13.0	12.4	1.1	6.21		
男性 55～64歳 (525)	59.6	54.3	53.0	45.5	48.4	49.0	49.9	47.2	27.6	40.2	43.8	37.3	45.1	33.0	20.0	15.2	21.9	18.3	18.5	15.0	1.0	7.50		
男性 65～74歳 (549)	71.0	55.2	59.9	53.6	53.0	69.0	57.7	55.7	37.7	53.0	51.0	45.2	50.5	37.3	29.3	25.3	25.5	19.5	20.9	17.9	0.7	8.95		
女性 18～24歳 (273)	55.3	37.4	34.4	42.9	33.0	30.0	34.1	34.1	32.2	23.4	22.3	23.8	17.2	15.8	10.6	9.9	7.0	11.4	8.4	12.1	3.7	5.14		
女性 25～34歳 (451)	56.5	37.9	30.2	45.2	31.7	29.5	28.6	30.6	48.6	25.5	26.2	29.3	17.3	20.0	11.3	12.4	7.3	11.5	8.0	9.5	3.5	5.36		
女性 35～44歳 (595)	60.3	37.0	32.8	39.2	36.3	30.8	31.6	34.3	45.0	29.7	28.7	30.4	22.7	17.3	10.3	11.8	8.6	10.3	7.6	8.9	2.9	5.49		
女性 45～54歳 (551)	54.4	41.6	39.2	38.7	45.4	31.4	39.0	37.9	33.6	33.8	30.7	34.1	27.8	21.1	13.8	13.1	12.7	10.9	12.2	11.1	1.6	5.92		
女性 55～64歳 (539)	59.6	42.5	41.7	40.6	48.8	41.9	39.9	42.9	36.5	44.0	34.0	34.9	28.6	25.6	12.8	12.1	10.8	13.2	13.7	14.3	1.9	6.50		
女性 65～74歳 (606)	66.2	50.7	49.7	45.4	52.8	61.9	48.0	49.5	39.1	50.7	43.1	38.1	34.8	32.3	20.8	20.8	22.4	20.6	22.8	17.2	0.5	7.91		

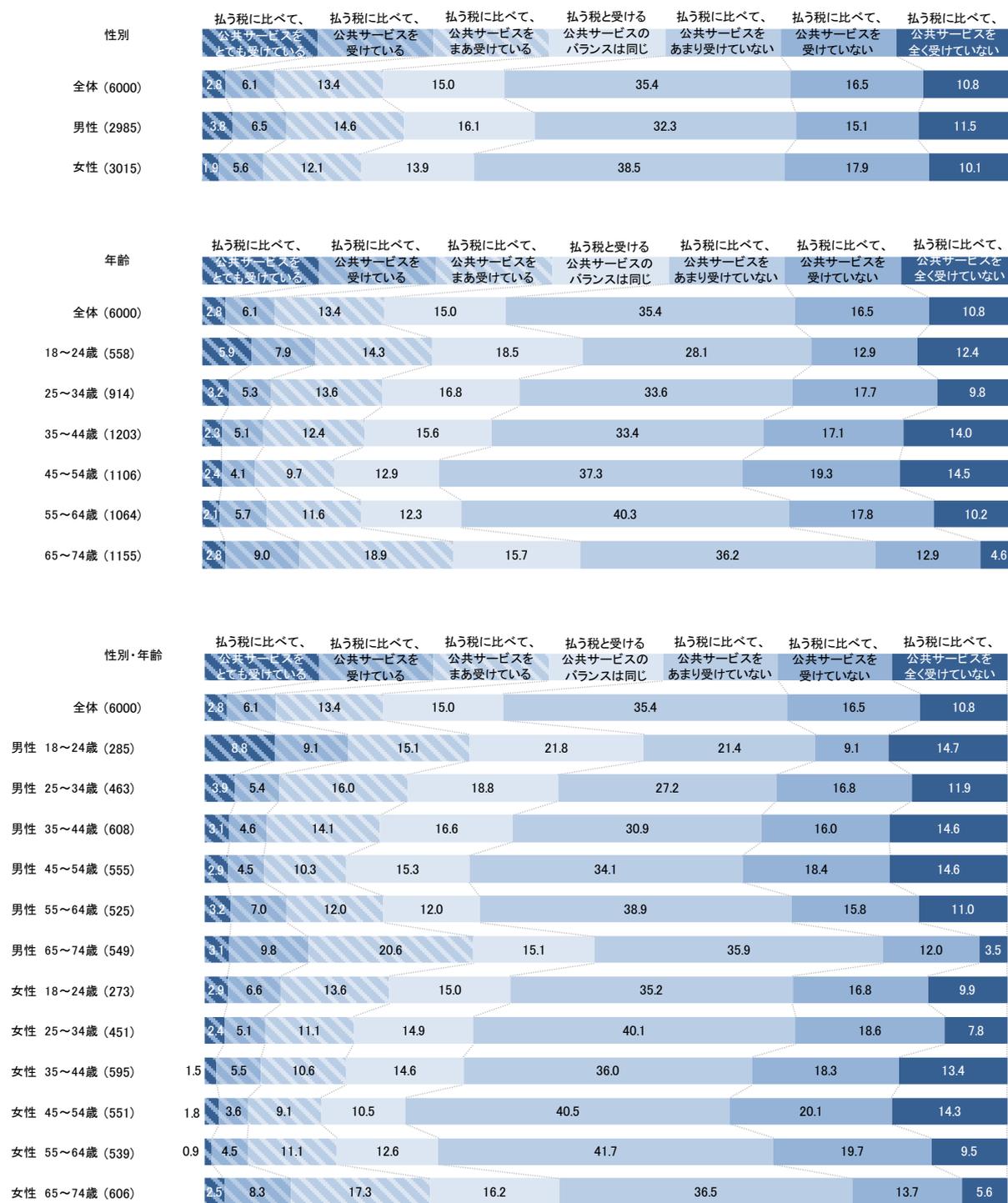
- ・「性別」では、「男性」で「防衛」が全体と比較して高い。
- ・「年齢」では、「25～34歳」で「保育サービス等、子育て支援」、「55～64歳」で「介護」「公衆衛生(ゴミ対策・感染症予防等)」、「65～74歳」で「年金」「介護」「救急医療」が全体と比較して高い。

2.強く実感するもの (3つまで)



・「年齢」では、「25-34歳」で「保育サービス等、子育て支援」、「35-44歳」で「保育サービス等、子育て支援」、「65-74歳」で「年金」「介護」が全体と比較して高い。

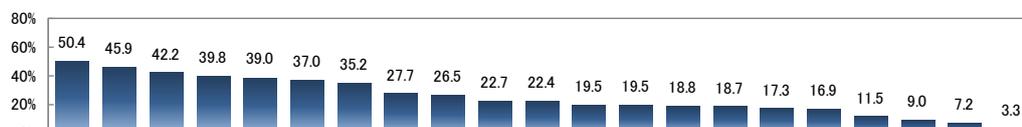
Q22. 支払われた税により、Q21の公共サービスは賄われています。あなたの感覚に近いものをお選びください。(回答はひとつ)



・「年齢」では、「65-74歳」で「払う税に比べて、公共サービスをまあ受けている」が全体と比較して高い。

Q23. 次の1~20のリストを見て、あなたがもっと国に税を投入して強化して欲しい公共サービス、逆に減らしても良いと思う公共サービスをそれぞれいくつでもお選びください。(複数選択可)

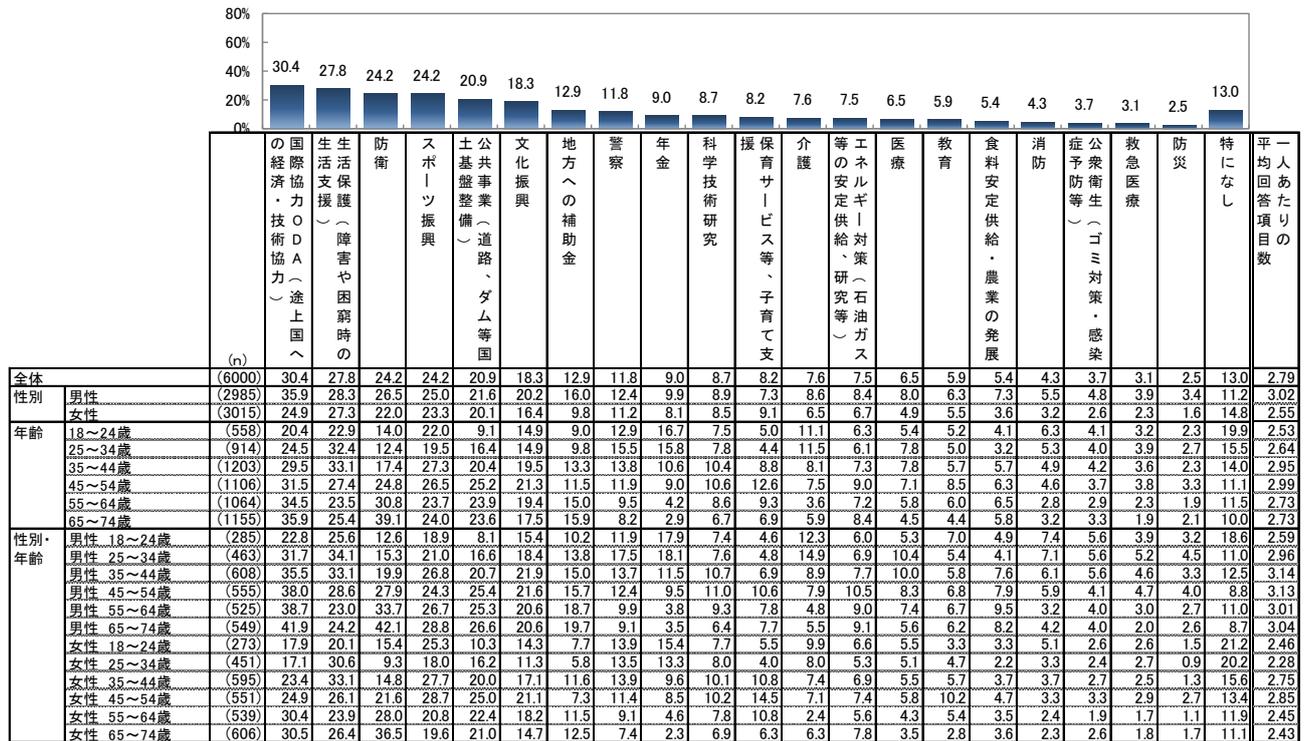
1.国にもっと税を使って欲しい(いくつでも)



(n)	医療	年金	教育	保育サービス等、子育て支援	介護	防災	救急医療	症予防等	公衆衛生(ゴミ対策・感染)	食料安定供給・農業の発展	エネルギー対策(石油ガス等の安定供給・研究等)	科学技術研究	防衛	消防	警察	地方への補助金	公共事業(道路、ダム等国土基盤整備)	生活保護(障害や困窮時の生活支援)	文化振興	スポーツ振興	の経済・技術協力	国際協力ODA(途上国へ)	特になし	平均回答項目数
全体 (6000)	50.4	45.9	42.2	39.8	39.0	37.0	35.2	27.7	26.5	22.7	22.4	19.5	19.5	18.8	18.7	17.3	16.9	11.5	9.0	7.2	3.3		5.45	
性別																								
男性 (2985)	47.1	45.0	43.2	39.2	36.1	38.5	34.2	27.6	26.8	25.9	27.1	24.8	21.3	22.1	20.4	20.8	16.7	12.8	10.8	7.9	3.2		5.66	
女性 (3015)	53.5	46.8	41.2	40.4	41.8	35.6	36.2	27.8	26.3	19.5	17.7	14.3	17.8	15.5	16.9	13.9	17.0	10.1	7.2	6.5	3.3		5.24	
年齢																								
18~24歳 (558)	43.9	31.7	45.5	45.3	28.7	31.0	30.1	25.6	24.7	21.9	22.4	18.8	18.3	16.3	21.1	22.2	16.8	14.7	12.5	10.0	3.8		5.21	
25~34歳 (914)	45.8	32.6	50.3	55.1	29.1	31.8	34.0	26.4	27.1	21.0	21.8	19.5	17.6	15.6	21.3	20.0	13.7	11.6	10.3	8.6	5.1		5.41	
35~44歳 (1203)	49.9	39.0	46.2	43.7	35.5	34.2	35.2	27.7	26.4	20.6	19.9	21.3	18.7	17.4	17.5	15.8	15.3	10.5	9.0	8.0	3.9		5.32	
45~54歳 (1106)	47.9	46.4	37.2	31.0	40.5	35.2	32.9	26.6	23.5	19.0	17.9	17.5	18.9	19.1	15.5	15.1	16.6	9.9	9.0	5.0	3.9		5.04	
55~64歳 (1064)	52.2	55.9	35.2	30.6	44.8	39.3	36.5	28.9	25.7	25.3	22.5	19.3	19.4	19.6	18.3	15.0	18.8	10.2	7.0	4.6	2.3		5.42	
65~74歳 (1155)	58.2	61.0	41.3	37.6	48.5	46.8	39.7	30.0	30.8	27.5	29.5	20.3	23.2	22.7	20.0	18.5	19.5	13.4	8.1	8.3	1.1		6.12	
性別・年齢																								
男性 18~24歳 (285)	40.4	30.5	43.9	35.1	23.9	31.6	28.4	22.8	28.4	26.0	27.7	25.3	20.4	18.9	22.1	27.0	14.7	14.4	14.7	11.2	4.9		5.34	
男性 25~34歳 (463)	41.5	29.6	47.7	49.9	27.0	32.2	32.6	27.4	31.5	26.1	28.1	25.9	20.3	18.4	22.9	26.6	13.8	14.5	13.8	10.2	5.6		5.72	
男性 35~44歳 (608)	45.2	37.7	46.2	43.1	34.0	36.0	33.1	27.0	26.0	23.5	24.0	27.1	20.4	20.7	19.9	19.2	14.6	12.3	11.8	8.4	3.1		5.48	
男性 45~54歳 (555)	43.8	45.2	37.1	31.9	35.1	34.8	29.9	25.2	21.1	20.0	21.1	20.4	18.0	21.4	15.5	15.1	14.6	10.1	10.8	4.9	3.4		4.93	
男性 55~64歳 (525)	49.3	55.2	42.1	34.1	41.9	41.9	38.1	30.9	26.7	30.1	27.4	26.7	23.8	23.6	21.1	18.9	21.1	12.6	8.4	5.9	1.9		5.91	
男性 65~74歳 (549)	58.8	63.8	43.0	40.1	47.7	50.5	40.3	30.4	28.8	30.1	35.0	23.9	24.4	27.5	22.4	21.9	20.4	14.2	7.3	8.6	1.3		6.47	
女性 18~24歳 (273)	47.6	33.0	47.3	56.0	33.7	30.4	31.9	28.6	20.9	17.6	16.8	12.1	16.1	13.6	20.1	17.2	19.0	15.0	10.3	8.8	2.6		5.09	
女性 25~34歳 (451)	50.3	35.7	53.0	60.5	31.3	31.5	35.5	25.3	22.6	15.7	15.3	12.9	14.9	12.9	19.7	13.3	13.5	8.6	6.7	7.1	4.7		5.10	
女性 35~44歳 (595)	54.6	40.3	46.2	44.4	37.0	32.3	37.3	28.4	26.7	17.6	15.6	15.3	17.0	13.9	15.0	12.3	16.0	8.6	6.1	7.6	4.7		5.16	
女性 45~54歳 (551)	52.1	47.5	37.2	30.1	45.9	35.6	35.9	27.9	26.0	18.0	14.7	14.7	19.8	16.7	15.4	15.1	18.7	9.8	7.1	5.1	4.4		5.16	
女性 55~64歳 (539)	54.9	56.6	28.4	27.3	47.7	36.7	34.9	26.9	24.7	20.6	17.6	12.1	15.0	15.8	15.6	11.3	16.5	7.8	5.8	3.3	2.8		4.93	
女性 65~74歳 (606)	57.6	58.4	39.8	35.3	49.2	43.4	39.1	29.5	32.7	25.2	24.6	17.0	22.1	18.3	17.8	15.5	18.6	12.7	8.9	8.1	1.0		5.80	

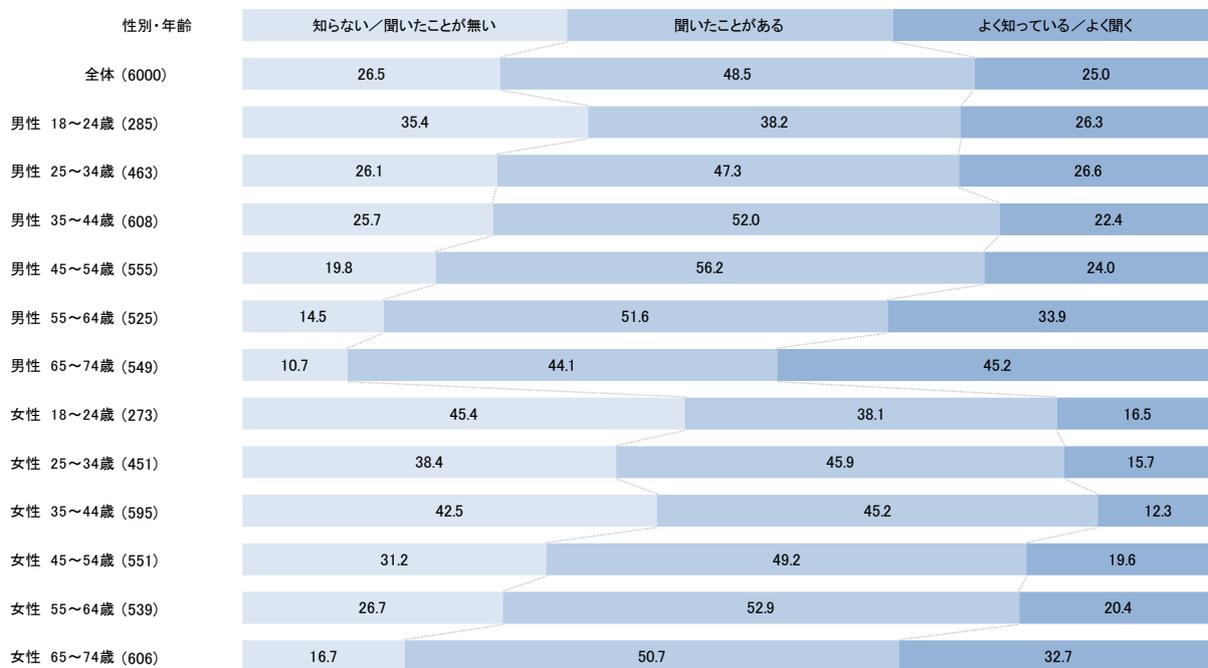
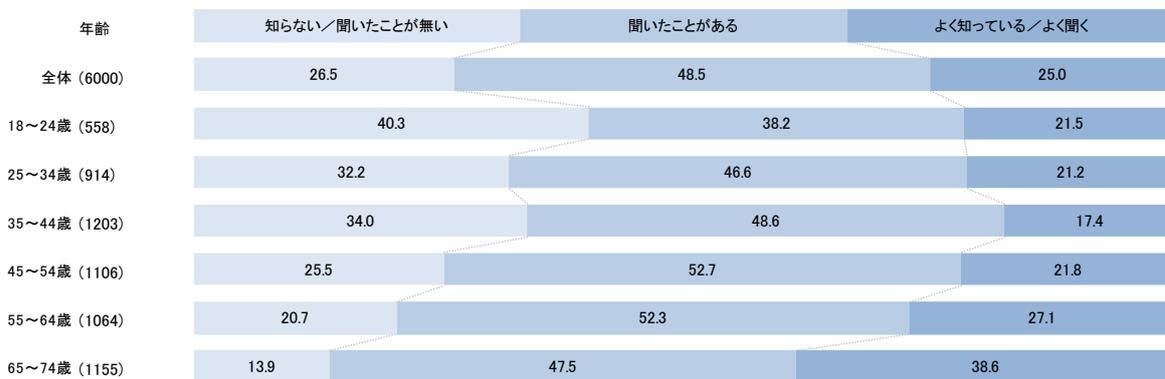
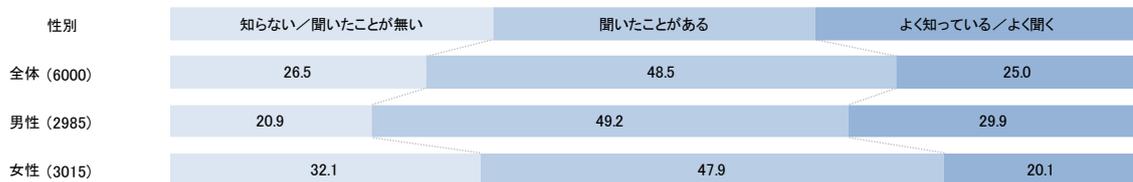
- ・「性別」では、「男性」で「防衛」が全体と比較して高い。
- ・「年齢」では、「18-24歳」で「保育サービス等、子育て支援」「公共事業(道路、ダム等国土基盤整備)」、「25-34歳」で「保育サービス等、子育て支援」「教育」、「55-64歳」で「年金」「介護」、「65-74歳」で「年金」「防災」「介護」が全体と比較して高い。

2.税を使うのは減らして欲しい (いくつでも)



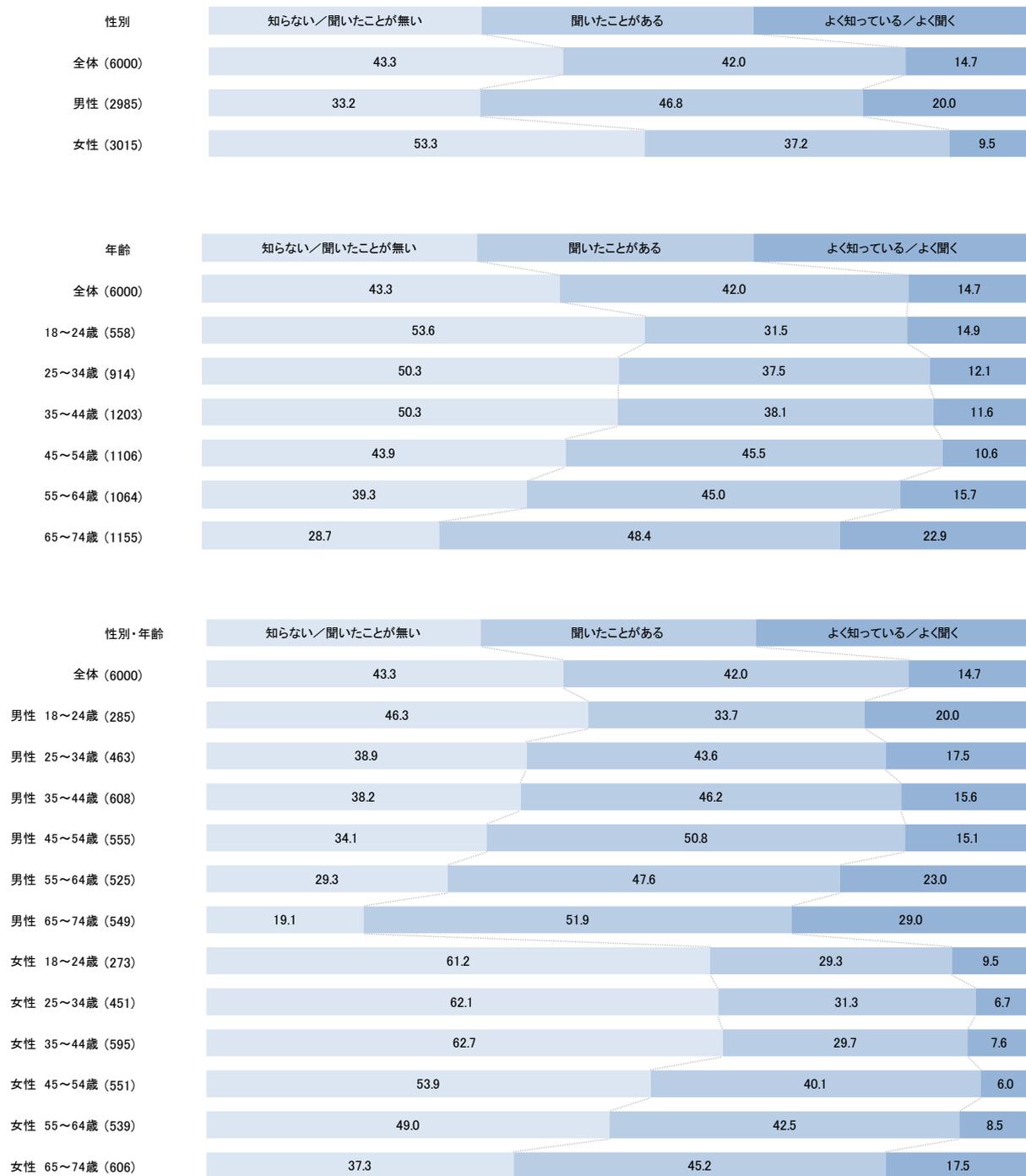
・「性別」では、「男性」で「国際協力ODA (途上国への経済・技術協力)」が全体と比較して高い。
 ・「年齢」では、「18-24歳」で「年金」「介護」、「25-34歳」で「年金」「生活保護 (障害や困窮時の生活支援)」、「35-44歳」で「生活保護 (障害や困窮時の生活支援)」、「55-64歳」で「防衛」、「65-74歳」で「防衛」が全体と比較して高い。

Q24. 次の文章は、日本の財政と社会保障制度に関するものです。それぞれ、どの程度ご存知かお聞かせください。社会保障制度とは、国民からの税や保険料による収入を使って、国が医療費や介護費の大半を負担する制度です。退職後の年金の支給や、子どもの出産・保育の支援なども行います。(回答は各ひとつ)
1.日本は国の運営に必要なお金(予算)に対して収入(税金)が不足しています。そこで国債を発行して、主に日本国内から資金を調達し補填しています。



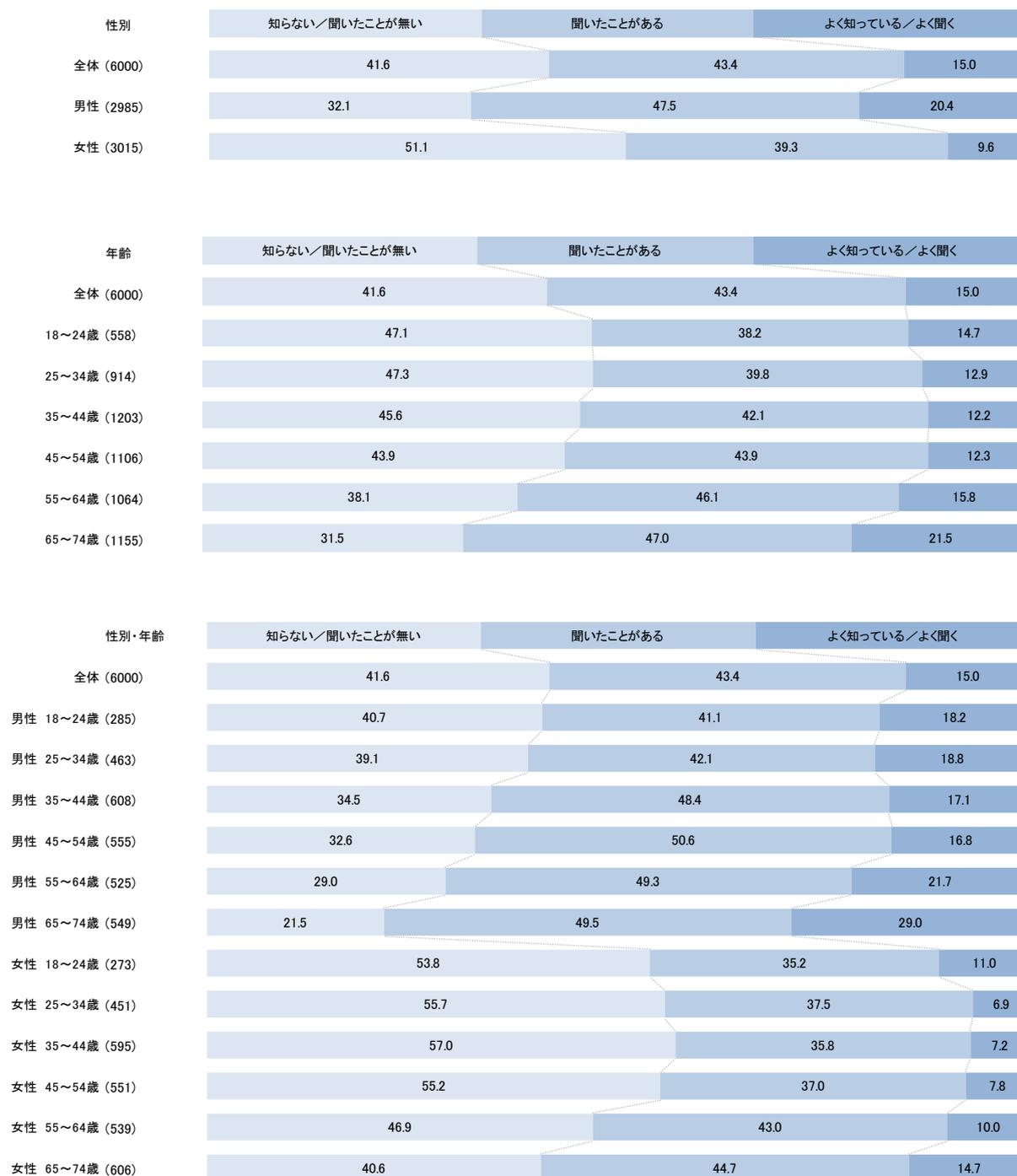
・「選択肢」ごとに見ると、「知らない／聞いたことが無い」は「女性」「18-24歳」「25-34歳」「35-44歳」「男性 18～24歳」「女性 18～24歳」「女性 25～34歳」「女性 35～44歳」で、「聞いたことがある」は「男性 45～54歳」で、「よく知っている／よく聞く」は「65-74歳」「男性 55～64歳」「男性 65～74歳」「女性 65～74歳」で全体と比較して高い。

2. 地方政府等を含めた借金の総額は約 1,300 兆円で、日本の GDP の約 2.4 倍に相当します。日本以外の主要先進 7 カ国 (G 7) の地方政府等を含めた借金は GDP の約 1.4 倍未満です。日本の借金の GDP 比率は先進国中最大です。



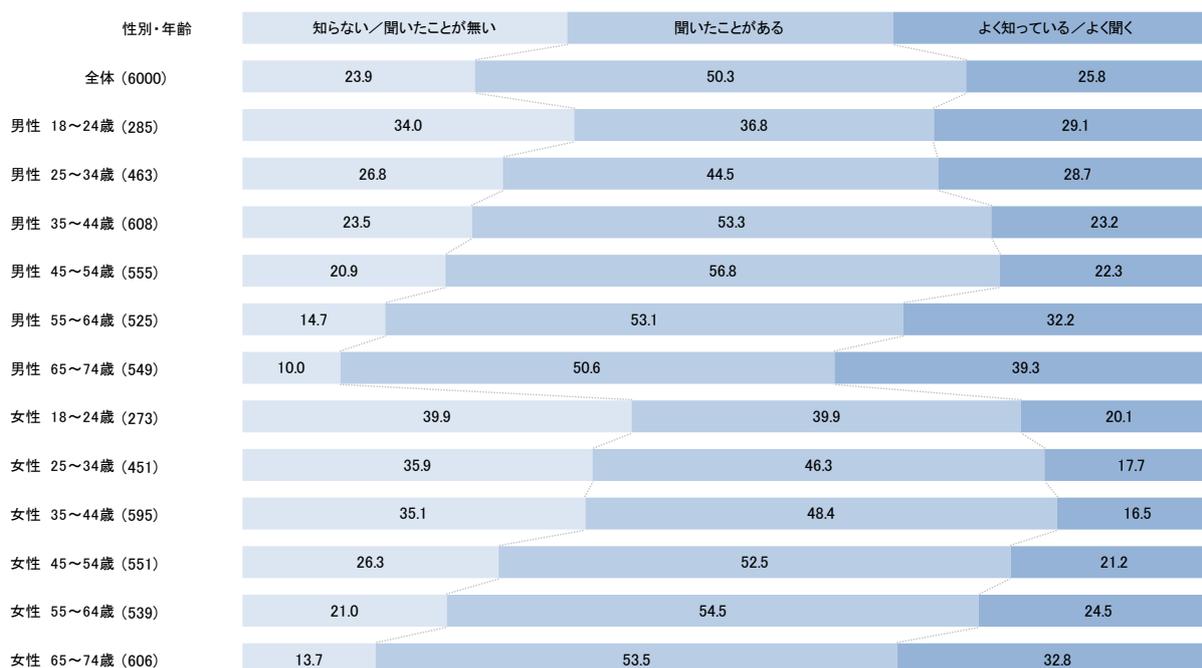
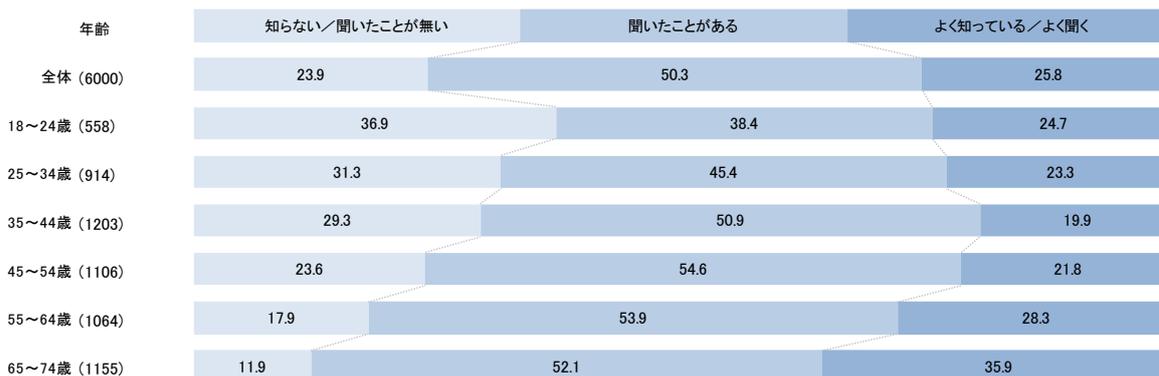
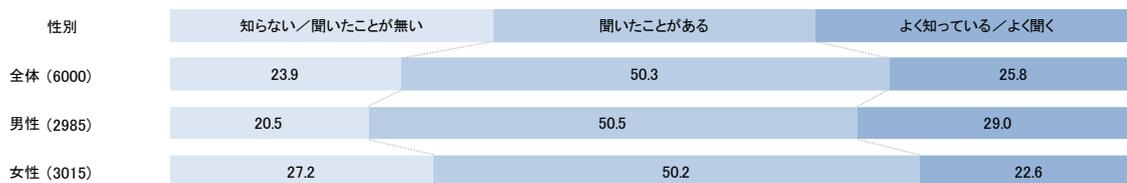
・「選択肢」ごとに見ると、「知らない／聞いたことが無い」は「女性」「18-24歳」「25-34歳」「35-44歳」「女性 18～24歳」「女性 25～34歳」「女性 35～44歳」「女性 45～54歳」「女性 55～64歳」で、「聞いたことがある」は「65-74歳」「男性 45～54歳」「男性 55～64歳」「男性 65～74歳」で、「よく知っている／よく聞く」は「男性」「65-74歳」「男性 18～24歳」「男性 55～64歳」「男性 65～74歳」で全体と比較して高い。

3.国民一人当たりの借金は約 710 万円と計算されます。



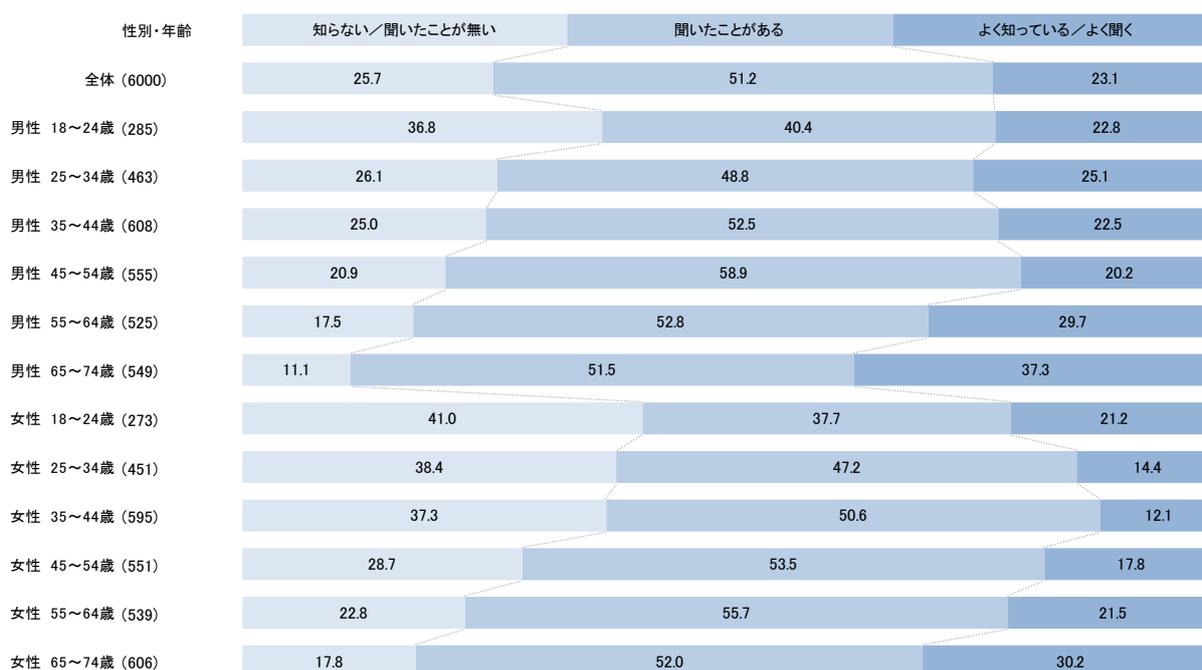
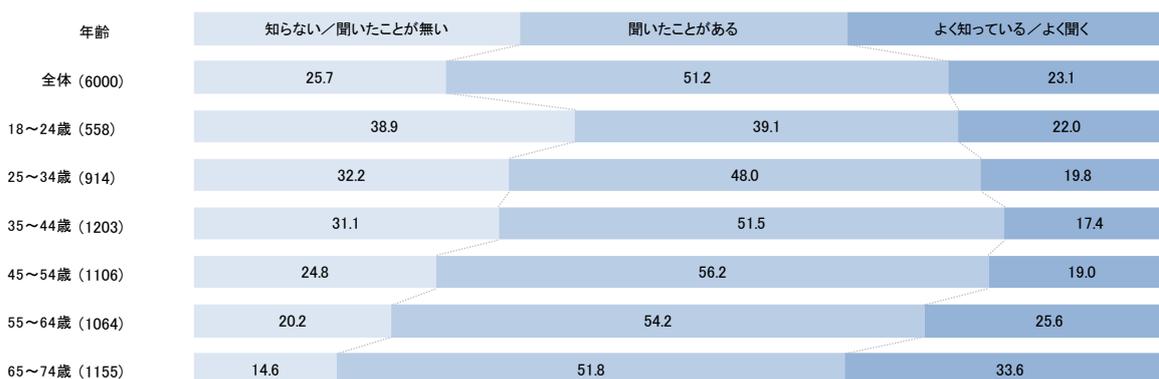
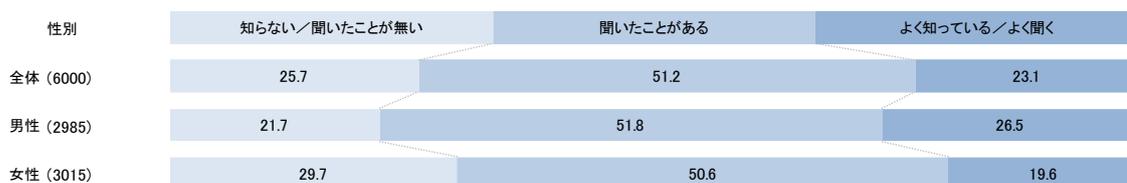
・「選択肢」ごとに見ると、「知らない／聞いたことが無い」は「女性」「18-24歳」「25-34歳」「女性 18～24歳」「女性 25～34歳」「女性 35～44歳」「女性 45～54歳」「女性 55～64歳」で、「聞いたことがある」は「男性 45～54歳」「男性 55～64歳」「男性 65～74歳」で、「よく知っている／よく聞く」は「男性」「65-74歳」「男性 55～64歳」「男性 65～74歳」で全体と比較して高い。

4.借金が増える最大の理由は社会保障費の増加です。寿命が延び高齢者人口が増えた結果、年金・医療・介護の支出が急速に増えています。



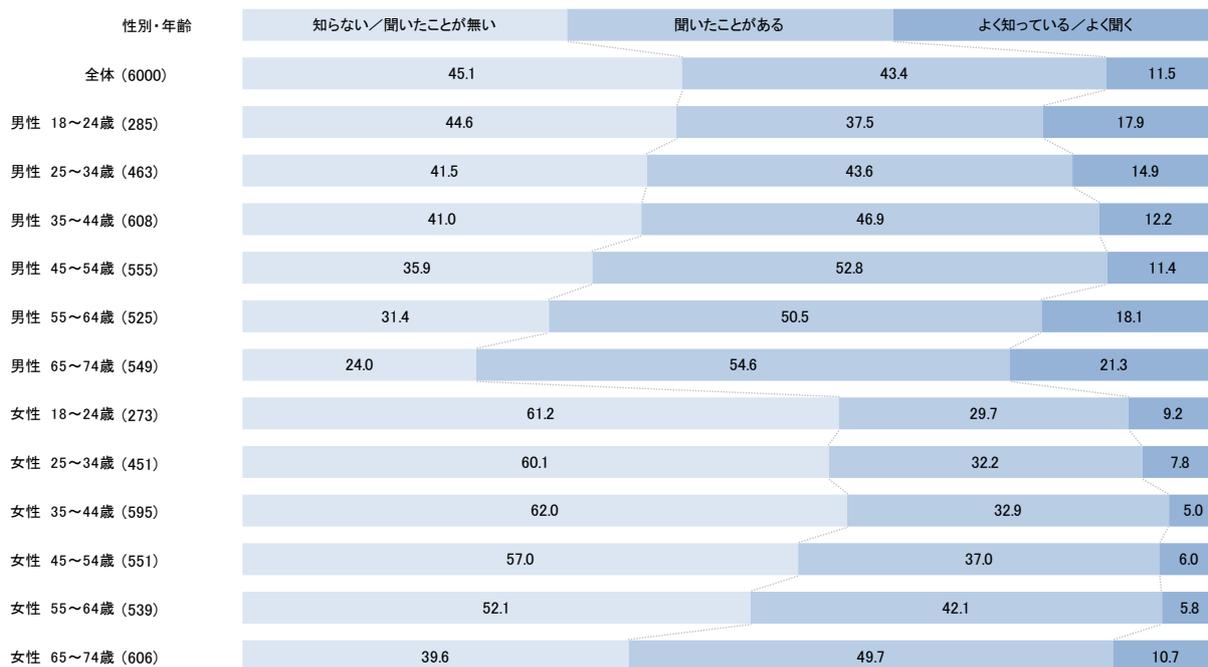
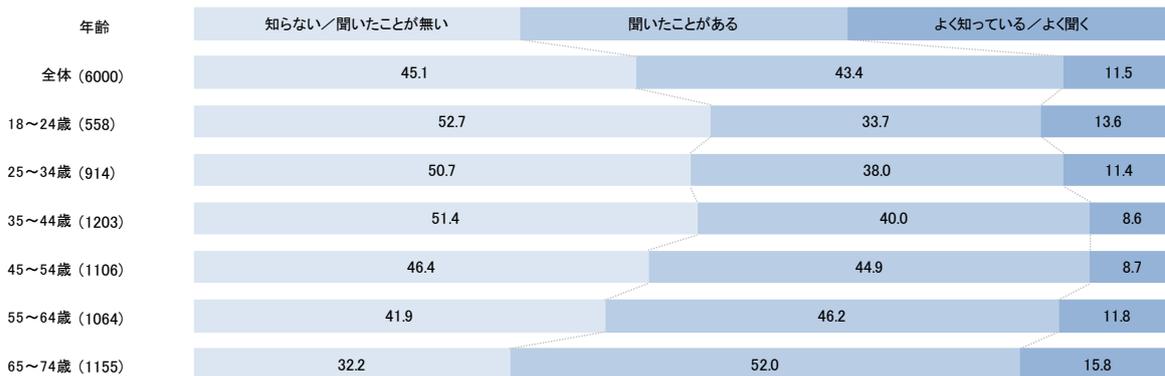
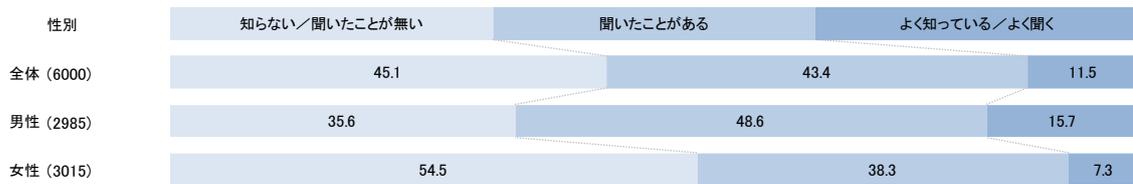
・「選択肢」ごとに見ると、「知らない／聞いたことが無い」は「18-24歳」「25-34歳」「35-44歳」「男性 18～24歳」「女性 18～24歳」「女性 25～34歳」「女性 35～44歳」で、「聞いたことがある」は「男性 45～54歳」で、「よく知っている／よく聞く」は「65-74歳」「男性 55～64歳」「男性 65～74歳」「女性 65～74歳」で全体と比較して高い。

5.現在の社会保障費のための借金は長期間かけて返していきます。子や孫の世代の税金も返済に充てられるので、将来世代に借金の付け回しをすることになります。



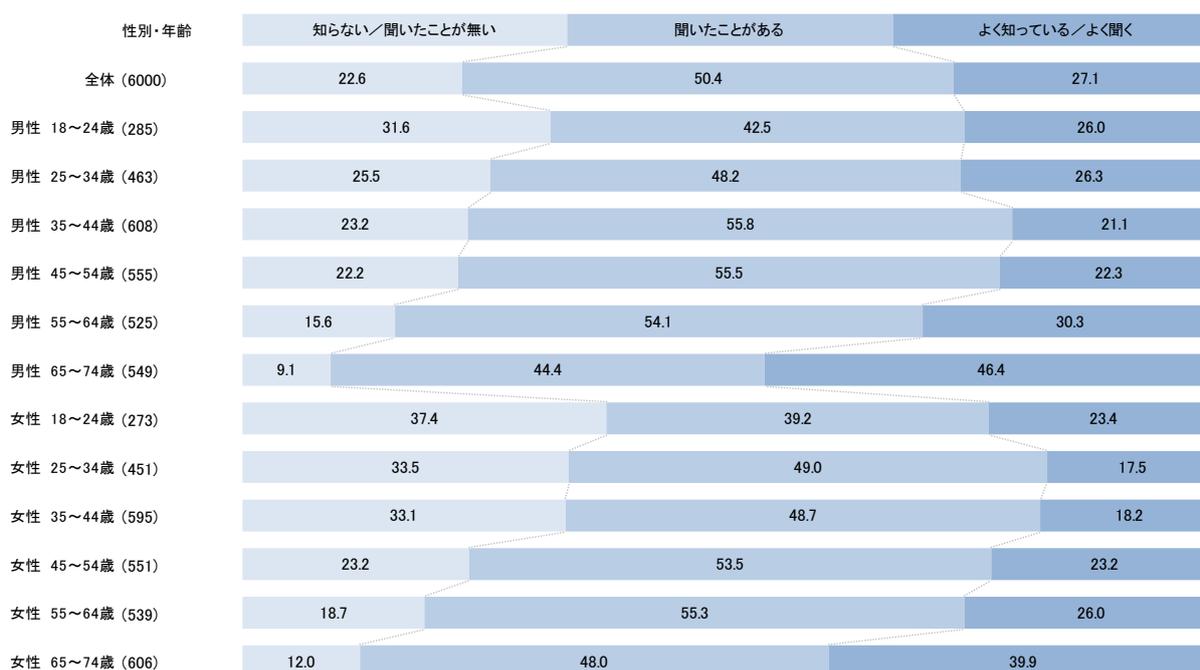
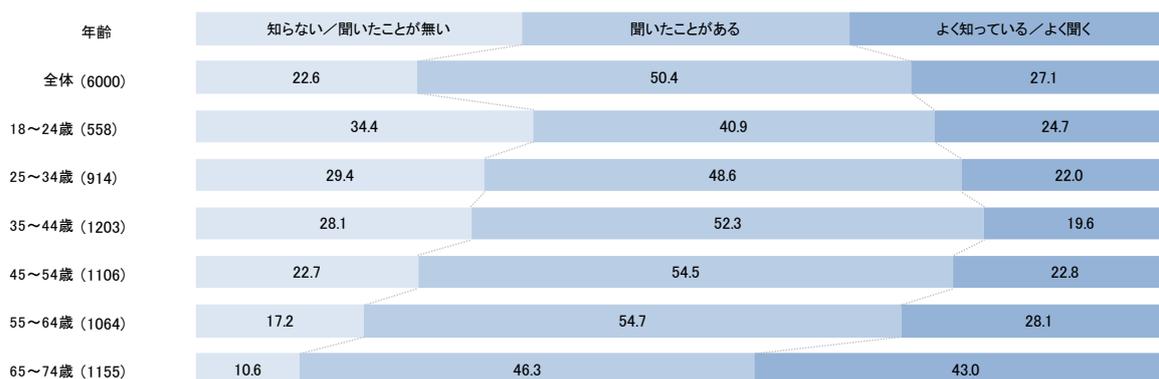
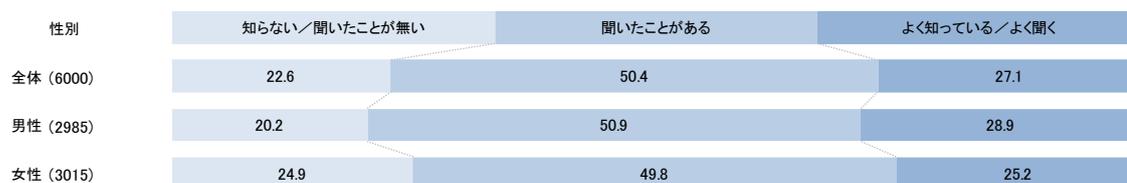
・「選択肢」ごとに見ると、「知らない／聞いたことが無い」は「18-24歳」「25-34歳」「35-44歳」「男性 18～24歳」「女性 18～24歳」「女性 25～34歳」「女性 35～44歳」で、「聞いたことがある」は「45-54歳」「男性 45～54歳」で、「よく知っている／よく聞く」は「65-74歳」「男性 55～64歳」「男性 65～74歳」「女性 65～74歳」で全体と比較して高い。

6.近年、日本は年間予算の30%を社会保障に、25%を過去の借金返済に充てています。その結果、教育や防衛等、他の予算をほとんど増やせない状況です。



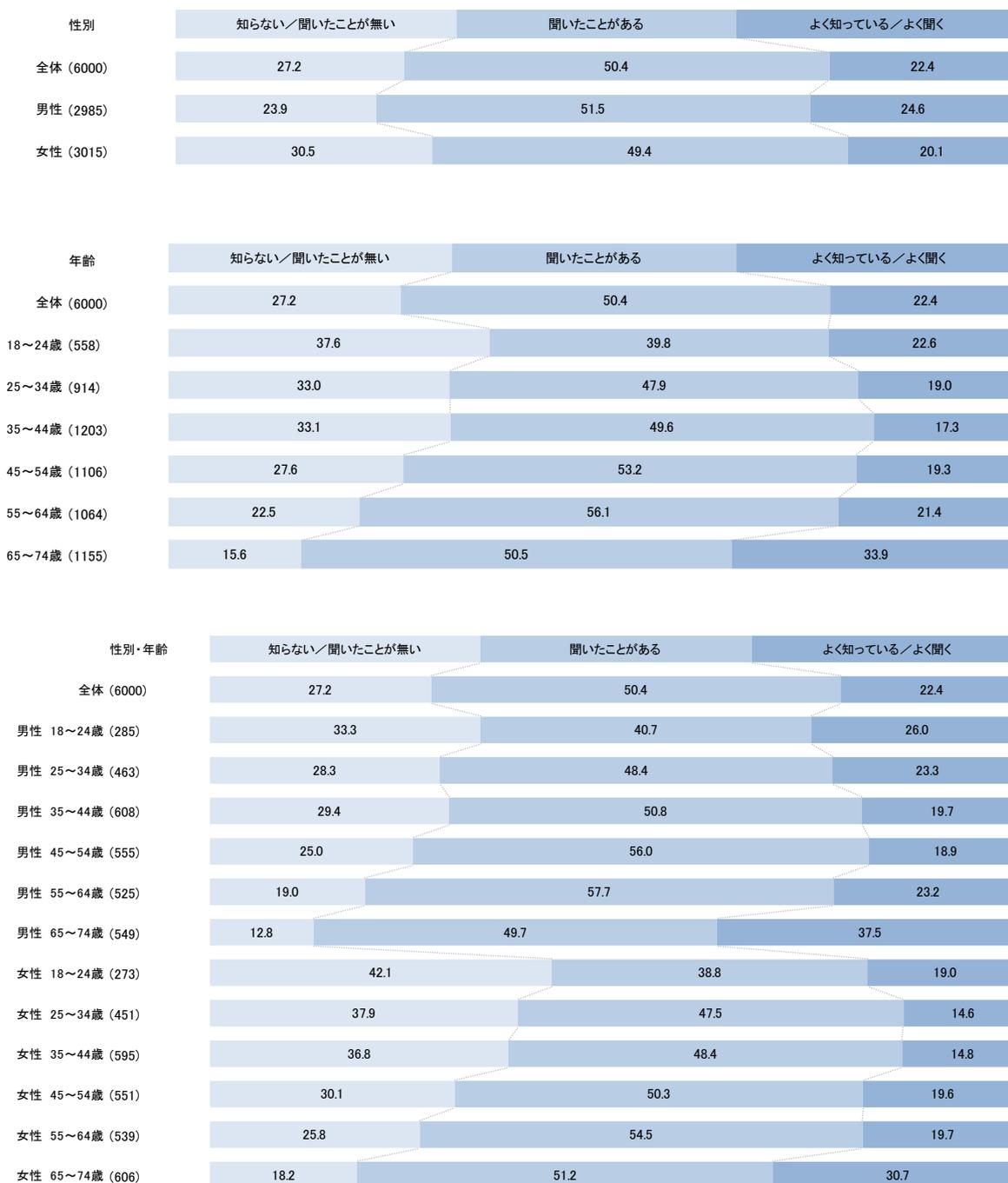
・「選択肢」ごとに見ると、「知らない／聞いたことが無い」は「女性」「18-24歳」「25-34歳」「35-44歳」「女性 18~24歳」「女性 25~34歳」「女性 35~44歳」「女性 45~54歳」「女性 55~64歳」で、「聞いたことがある」は「男性」「65-74歳」「男性 45~54歳」「男性 55~64歳」「男性 65~74歳」「女性 65~74歳」で、「よく知っている／よく聞く」は「男性 18~24歳」「男性 55~64歳」「男性 65~74歳」で全体と比較して高い。

7.2025年、人口が多い団塊世代が後期高齢者（75才以上）になります。社会保障に必要なお金が更に増える見込みです。



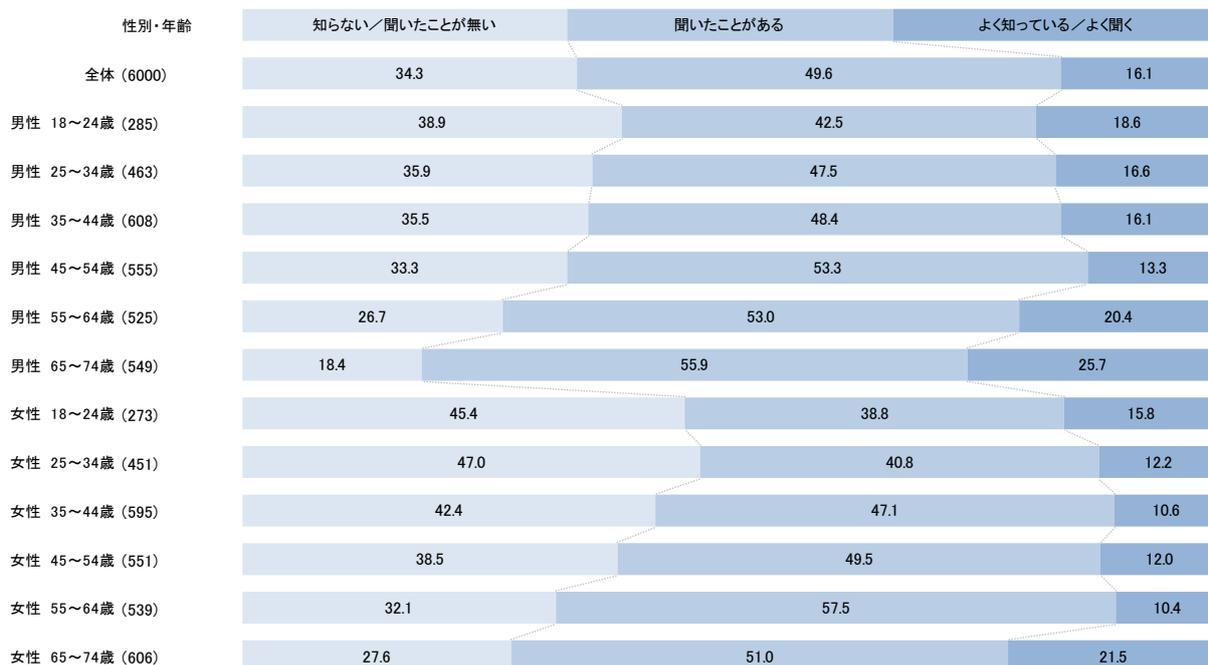
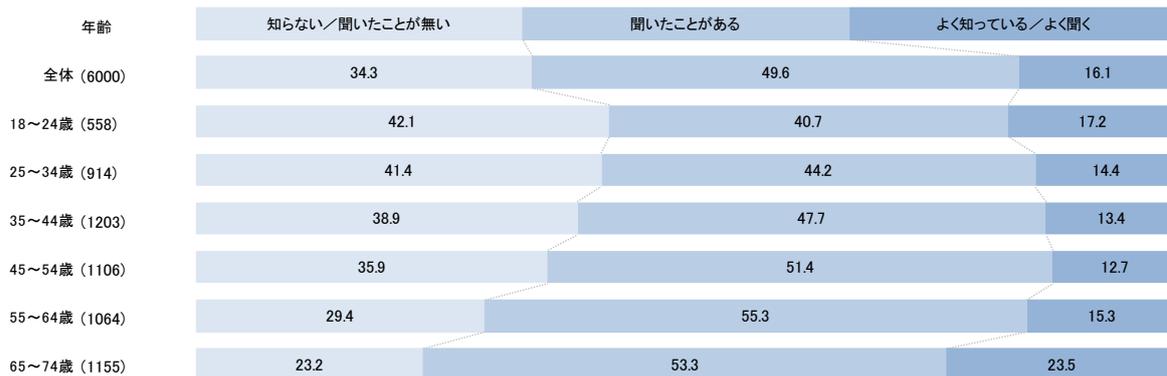
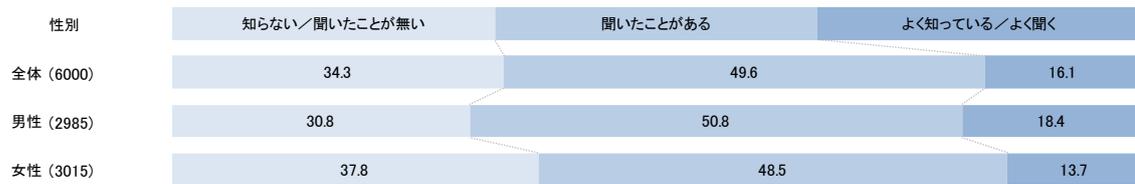
・「選択肢」ごとに見ると、「知らない／聞いたことが無い」は「18-24歳」「25-34歳」「35-44歳」「男性 18～24歳」「女性 18～24歳」「女性 25～34歳」「女性 35～44歳」で、「聞いたことがある」は「男性 35～44歳」「男性 45～54歳」で、「よく知っている／よく聞く」は「65-74歳」「男性 65～74歳」「女性 65～74歳」で全体と比較して高い。

8.2040年頃、人口が多い団塊ジュニア世代が65才以上になり、全人口の35%超が65才以上の高齢者になる見込みです。



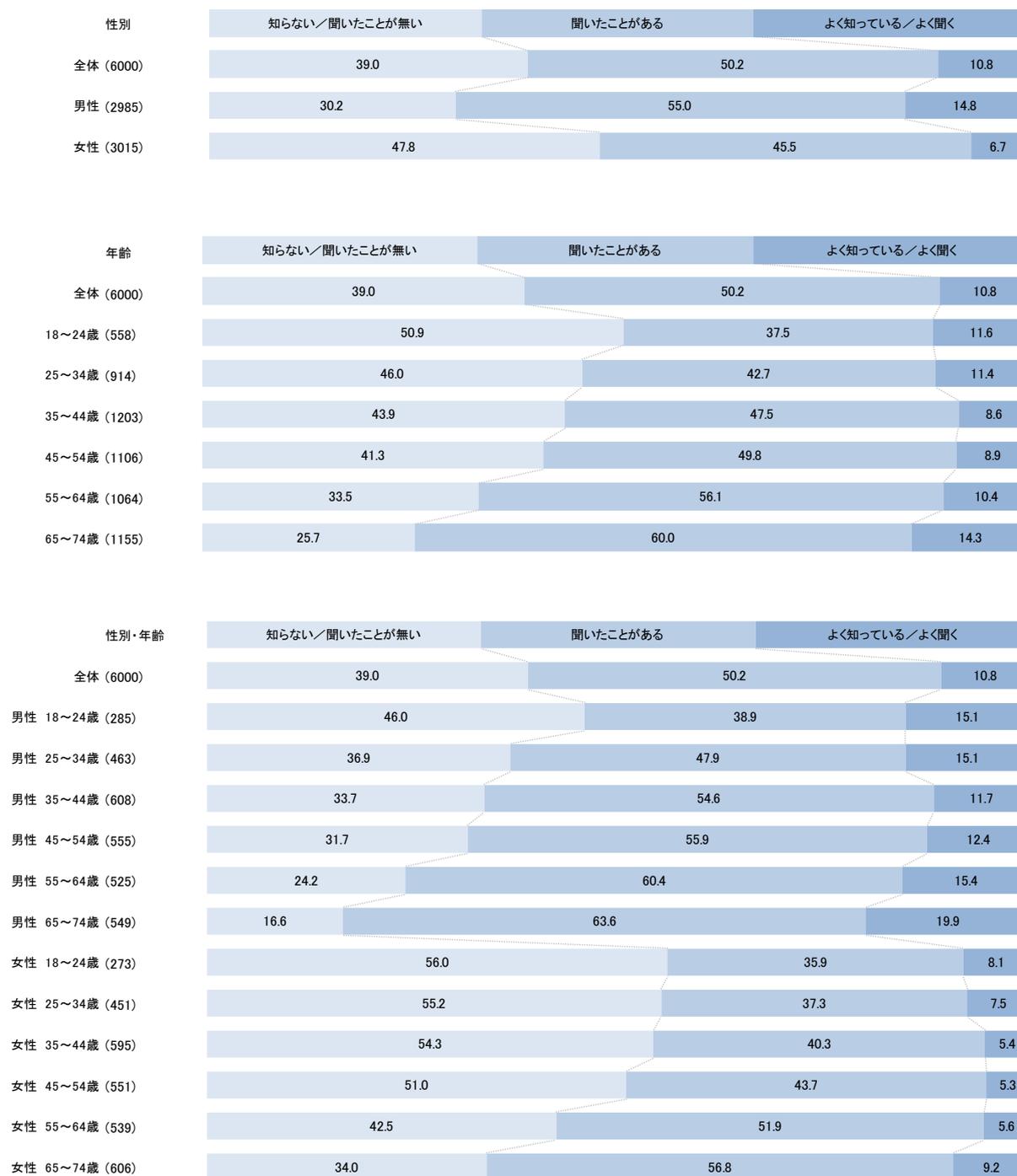
・「選択肢」ごとに見ると、「知らない／聞いたことが無い」は「18-24歳」「25-34歳」「35-44歳」「男性 18～24歳」「女性 18～24歳」「女性 25～34歳」「女性 35～44歳」で、「聞いたことがある」は「55-64歳」「男性 45～54歳」「男性 55～64歳」で、「よく知っている／よく聞く」は「65-74歳」「男性 65～74歳」「女性 65～74歳」で全体と比較して高い。

9.65～74 才を前期高齢者、75 才以上を後期高齢者と呼びます。政府データによれば後期高齢者の医療費は前期高齢者の 5 倍、介護費は 10 倍になります。



・「選択肢」ごとに見ると、「知らない／聞いたことが無い」は「18-24 歳」「25-34 歳」「女性 18～24 歳」「女性 25～34 歳」「女性 35～44 歳」で、「聞いたことがある」は「55-64 歳」「男性 65～74 歳」「女性 55～64 歳」で、「よく知っている／よく聞く」は「65-74 歳」「男性 65～74 歳」「女性 65～74 歳」で全体と比較して高い。

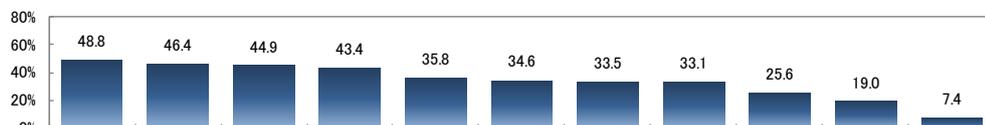
10.現在、社会保障の充実・安定化と、そのための安定財源確保と財政健全化の同時達成を目指す「社会保障と税の一体改革」を行っています。



・「選択肢」ごとに見ると、「知らない／聞いたことが無い」は「女性」「18-24歳」「25-34歳」「男性 18～24歳」「女性 18～24歳」「女性 25～34歳」「女性 35～44歳」「女性 45～54歳」で、「聞いたことがある」は「55-64歳」「65-74歳」「男性 45～54歳」「男性 55～64歳」「男性 65～74歳」「女性 65～74歳」で、「よく知っている／よく聞く」は「男性 65～74歳」で全体と比較して高い。

Q25. 前述の日本の財政と社会保障費に関する記述について、これらの記述を読んだときのインパクト感が高かった情報（「へえ」「なるほど」「そうなんだ」と言うような驚き、発見、関心の度合いが高かった情報）をいくつか選んでください。また、インパクトが弱いと感じた情報（驚き、発見、関心の度合いが低かった情報）があれば、いくつか選んでください。（複数選択可）

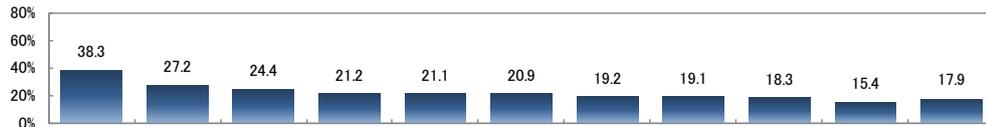
1.インパクトが強い情報（いくつか）



	(n)	48.8	46.4	44.9	43.4	35.8	34.6	33.5	33.1	25.6	19.0	7.4	一人あたりの平均回答項目数
全体	(6000)	48.8	46.4	44.9	43.4	35.8	34.6	33.5	33.1	25.6	19.0	7.4	3.94
性別													
男性	(2985)	46.1	41.9	43.0	42.9	34.6	36.6	35.2	32.1	27.6	20.7	8.7	3.95
女性	(3015)	51.5	50.8	46.6	44.0	37.0	32.6	31.8	34.1	23.6	17.3	6.1	3.93
年齢													
18~24歳	(558)	44.1	42.7	41.0	36.2	30.6	28.9	30.1	29.9	22.4	21.3	8.4	3.57
25~34歳	(914)	46.4	47.0	42.5	42.0	33.7	33.4	36.5	34.4	24.2	21.0	9.4	3.99
35~44歳	(1203)	45.0	44.6	43.6	39.9	34.5	32.3	33.1	30.4	24.4	17.9	8.9	3.79
45~54歳	(1106)	46.8	46.9	43.1	42.8	33.3	32.8	32.1	30.4	24.2	17.7	7.0	3.76
55~64歳	(1064)	49.1	46.0	44.8	43.0	36.9	33.4	30.7	33.3	23.7	18.1	7.0	3.86
65~74歳	(1155)	58.6	49.5	51.5	52.7	42.8	43.7	37.0	39.0	32.7	19.6	4.4	4.47
性別・年齢													
男性 18~24歳	(285)	42.5	39.3	41.4	34.0	30.9	32.3	31.2	28.8	23.9	21.8	8.8	3.57
男性 25~34歳	(463)	44.7	39.7	41.7	41.5	34.6	33.7	36.9	31.5	26.8	24.6	10.4	3.97
男性 35~44歳	(608)	40.5	39.6	42.1	39.5	34.2	34.7	33.6	29.4	27.1	19.4	10.4	3.79
男性 45~54歳	(555)	45.4	44.1	41.1	42.2	30.8	35.5	34.1	30.3	25.2	20.4	7.4	3.77
男性 55~64歳	(525)	45.3	42.7	42.5	42.7	34.7	36.6	35.4	31.0	26.7	20.0	9.0	3.93
男性 65~74歳	(549)	56.8	44.8	48.6	53.4	40.8	44.8	38.4	40.3	34.1	19.3	6.4	4.50
女性 18~24歳	(273)	45.8	46.2	40.7	38.5	30.4	25.3	28.9	31.1	20.9	20.9	8.1	3.57
女性 25~34歳	(451)	48.1	54.5	43.2	42.6	32.8	33.0	36.1	37.3	21.5	17.3	8.4	4.00
女性 35~44歳	(595)	49.6	49.7	45.2	40.3	34.8	29.9	32.6	31.4	21.5	16.3	7.4	3.79
女性 45~54歳	(551)	48.3	49.7	45.2	43.4	35.8	30.1	30.1	30.5	23.2	15.1	6.5	3.76
女性 55~64歳	(539)	52.7	49.2	47.1	43.4	39.1	30.2	26.2	35.4	20.8	16.3	5.0	3.79
女性 65~74歳	(606)	60.2	53.8	54.1	52.1	44.6	42.7	35.6	38.0	31.5	19.8	2.6	4.44

・「年齢」では、「65-74歳」で「65~74才を前期高齢者、75才以上を後期高齢者と呼びます。政府データによれば後期高齢者の医療費は前期高齢者の5倍、介護費は10倍になります。」「地方政府等を含めた借金の総額は約1,300兆円、日本のGDPの約2.4倍に相当します。日本以外の主要先進7カ国（G7）の地方政府等を含めた借金はGDPの約1.4倍未満です。日本の借金のGDP比率は先進国中最大です。」「2025年、人口が多い団塊世代が後期高齢者（75才以上）になります。社会保障に必要なお金が更に増える見込みです。」が全体と比較して高い。

2.インパクトが弱い情報 (いくつでも)



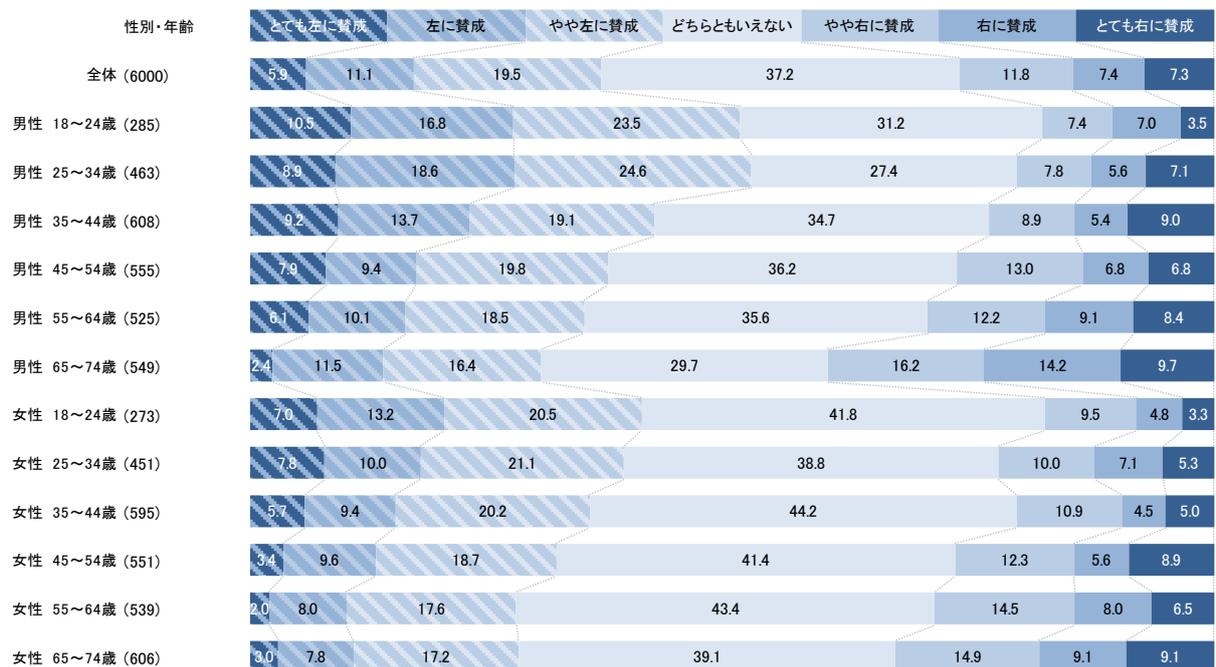
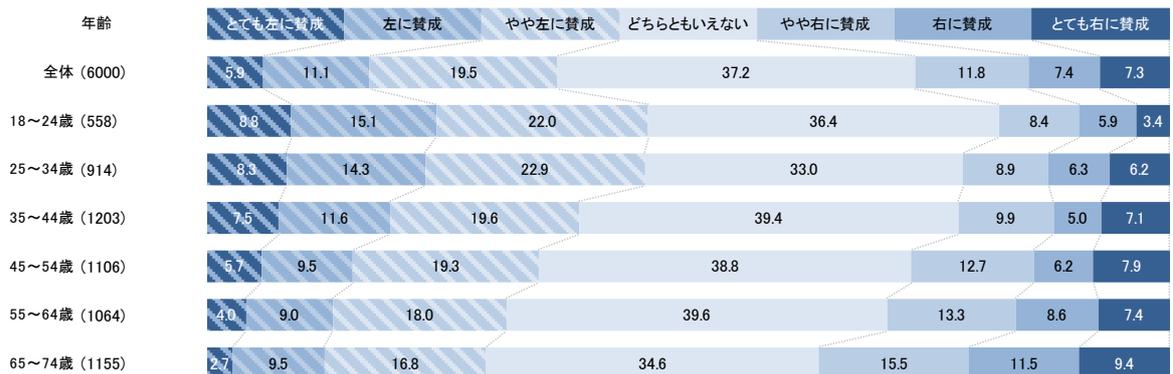
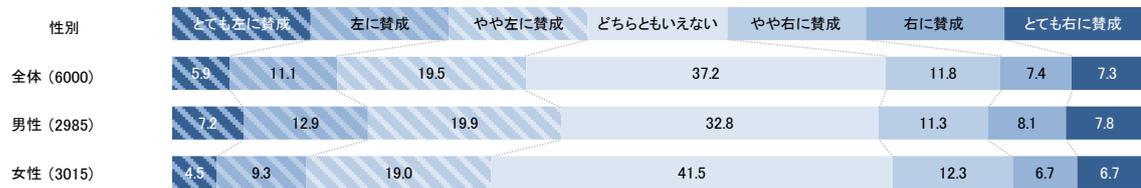
	(n)	38.3	27.2	24.4	21.2	21.1	20.9	19.2	19.1	18.3	15.4	17.9	2.74
全体	(6000)	38.3	27.2	24.4	21.2	21.1	20.9	19.2	19.1	18.3	15.4	17.9	2.74
性別													
男性	(2985)	38.6	29.1	24.4	22.6	23.9	24.8	22.0	22.2	20.4	17.5	17.8	2.98
女性	(3015)	38.0	25.4	24.5	19.7	18.3	17.0	16.4	16.1	16.1	13.2	18.0	2.50
年齢													
18~24歳	(558)	31.5	26.7	24.7	18.6	21.5	18.1	19.4	19.0	19.5	15.2	20.3	2.69
25~34歳	(914)	34.4	27.5	23.4	20.2	20.2	16.8	19.4	19.6	17.5	15.2	22.6	2.77
35~44歳	(1203)	37.6	25.7	24.4	18.9	20.4	20.2	18.4	18.5	19.0	14.5	21.3	2.76
45~54歳	(1106)	39.4	26.9	24.1	19.8	22.5	21.0	18.2	19.7	18.6	15.9	15.9	2.69
55~64歳	(1064)	38.3	26.7	25.8	23.3	20.3	21.8	19.0	18.5	18.8	17.5	14.1	2.68
65~74歳	(1155)	44.5	29.8	24.1	24.9	21.6	25.4	21.0	19.4	16.6	13.9	14.8	2.83
性別・年齢													
男性 18~24歳	(285)	29.8	25.6	21.8	20.4	21.4	18.9	18.2	20.4	20.4	16.1	21.8	2.72
男性 25~34歳	(463)	34.1	29.6	24.4	22.2	24.8	23.1	21.8	21.8	21.8	18.4	21.6	3.09
男性 35~44歳	(608)	38.5	26.0	22.9	20.4	20.9	24.2	21.2	20.2	20.4	16.9	21.1	2.93
男性 45~54歳	(555)	37.7	27.7	22.3	20.0	23.8	23.2	19.6	22.9	20.7	16.0	15.7	2.78
男性 55~64歳	(525)	38.3	29.3	26.3	24.2	24.2	25.3	24.0	21.7	20.6	21.1	14.7	2.99
男性 65~74歳	(549)	48.3	35.0	27.5	27.9	27.5	31.1	25.5	25.3	18.8	16.2	13.8	3.29
女性 18~24歳	(273)	33.3	27.8	27.8	16.8	21.6	17.2	20.5	17.6	18.7	14.3	18.7	2.65
女性 25~34歳	(451)	34.6	25.3	22.4	18.2	15.5	10.4	16.9	17.3	13.1	12.0	23.7	2.43
女性 35~44歳	(595)	36.6	25.4	26.1	17.3	20.0	16.1	15.5	16.8	17.5	12.1	21.5	2.59
女性 45~54歳	(551)	41.2	26.0	26.0	19.6	21.2	18.7	16.7	16.5	16.5	15.8	16.2	2.60
女性 55~64歳	(539)	38.2	24.1	25.4	22.4	16.5	18.4	14.1	15.4	17.1	13.9	13.5	2.38
女性 65~74歳	(606)	41.1	25.1	21.0	22.3	16.2	20.1	16.8	14.0	14.7	11.9	15.7	2.41

- ・「性別」での大きな差は見られない。
- ・「年齢」での大きな差は見られない。

Q26. 以下の5つの記述について、あなたの意見に近いものを選んでください。(回答は各ひとつ)

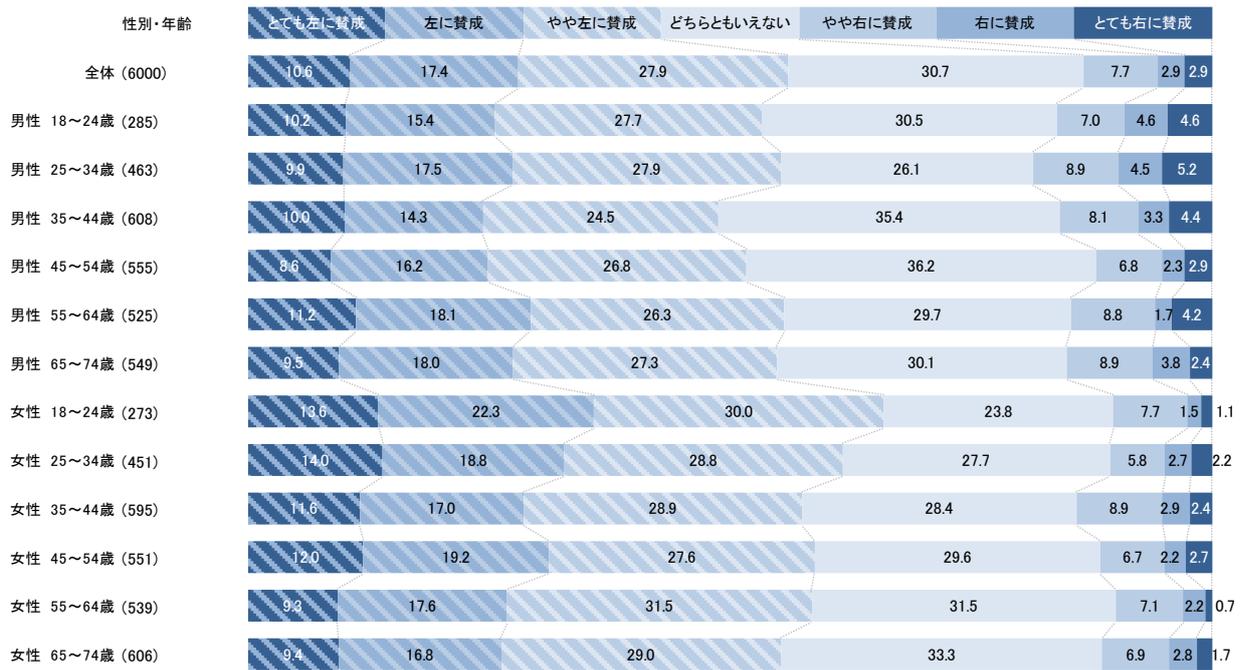
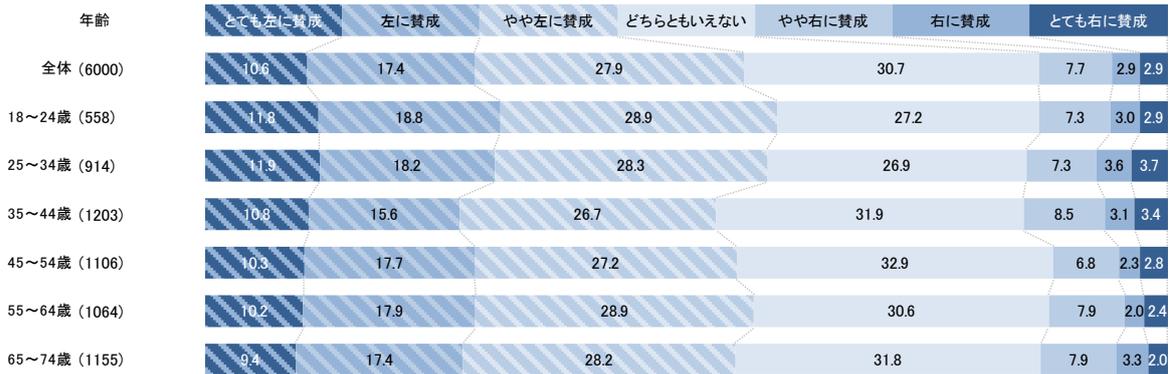
1.左-日本の財政が苦しくなった主な理由は社会保障費の増加である

右-日本の財政が苦しくなった主な理由は社会保障費の増加ではない



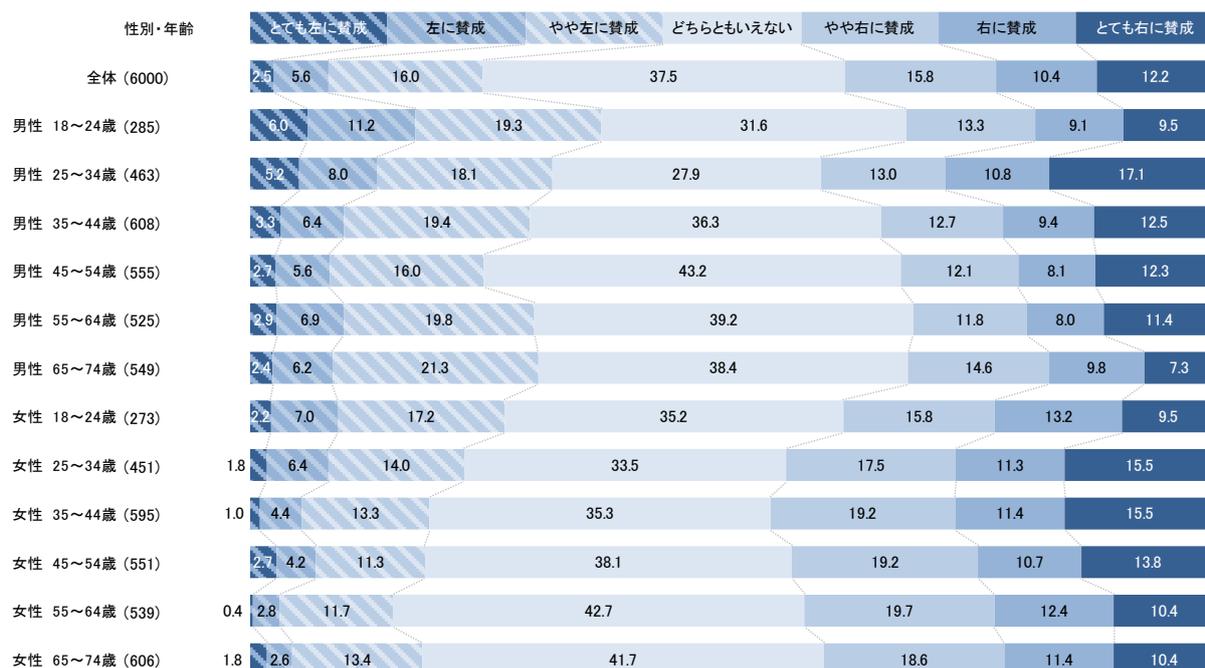
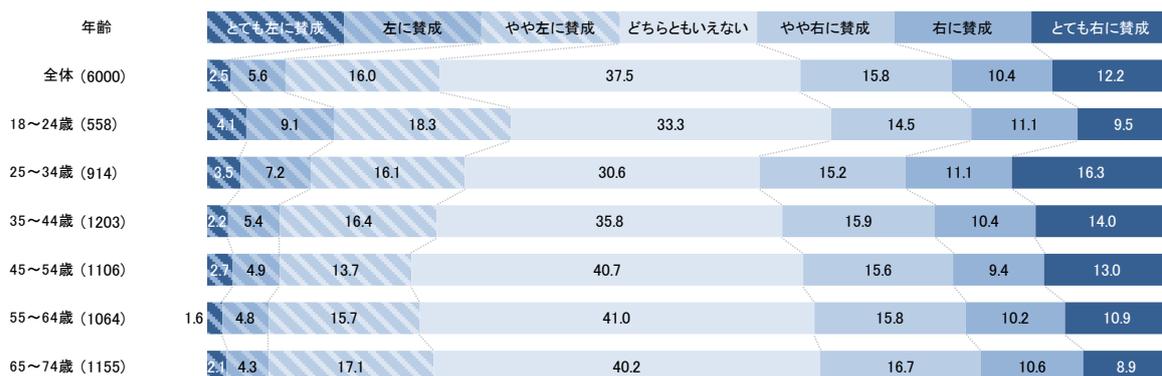
・「性別・年齢」では、「男性 18~24歳」で「左に賛成」、「男性 25~34歳」で「左に賛成」「やや左に賛成」、「男性 65~74歳」で「右に賛成」、「女性 35~44歳」で「どちらともいえない」、「女性 55~64歳」で「どちらともいえない」が全体と比較して高い。

2.左-社会保障制度の充実を望む
右-社会保障制度に必ずしも充実を望まない



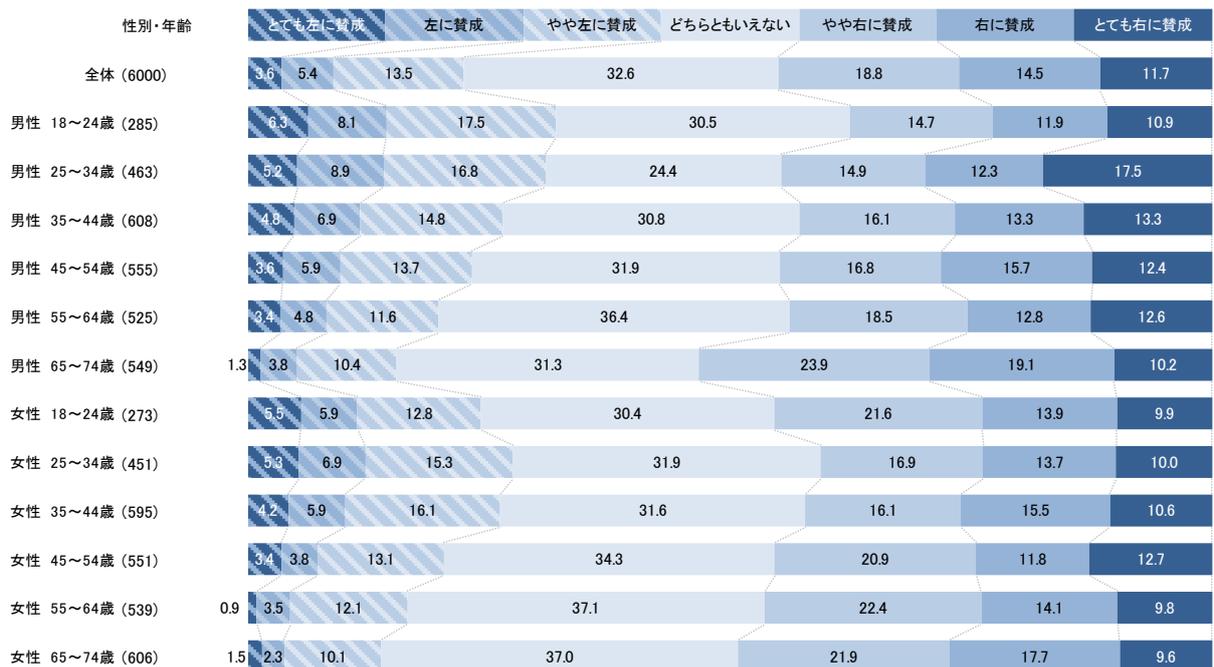
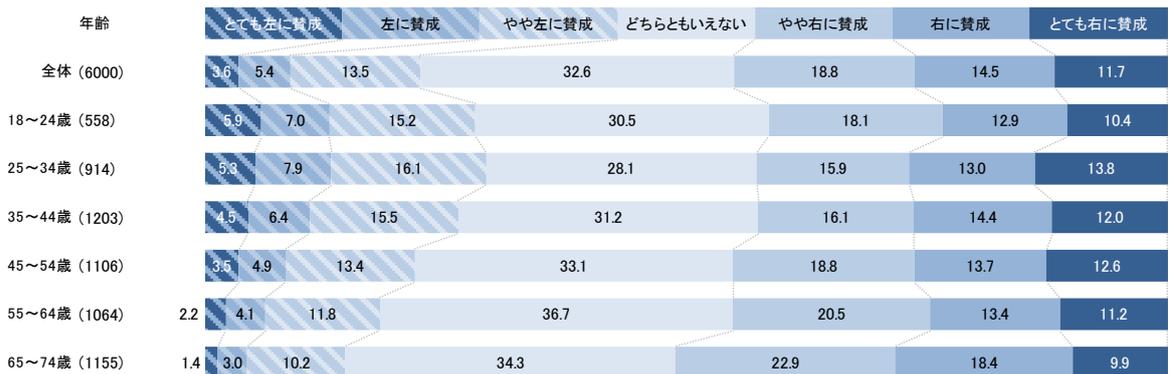
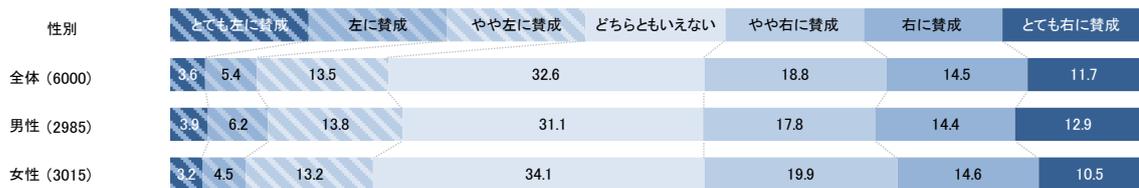
・「性別・年齢」では、「男性 45~54歳」で「どちらともいえない」が全体と比較して高い。

3.左-社会保障に使われるなら、私は税や保険料を今より多く払っても良い
 右-社会保障に使われるとはいえ、私は税や保険料を今より多く払いたくない



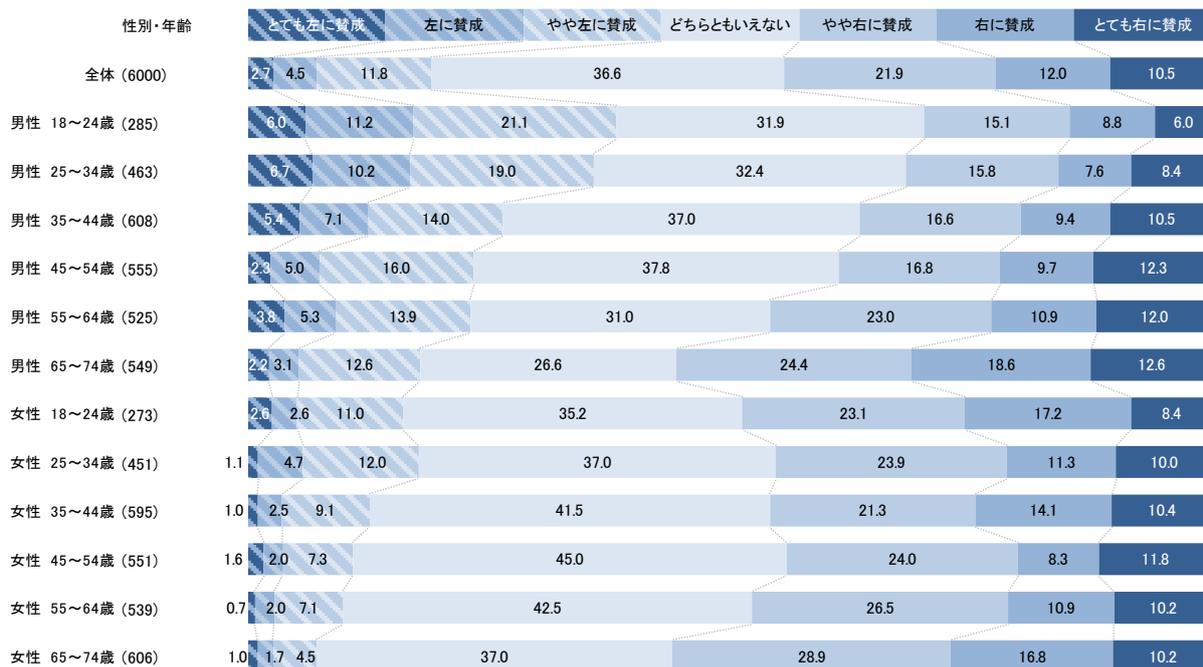
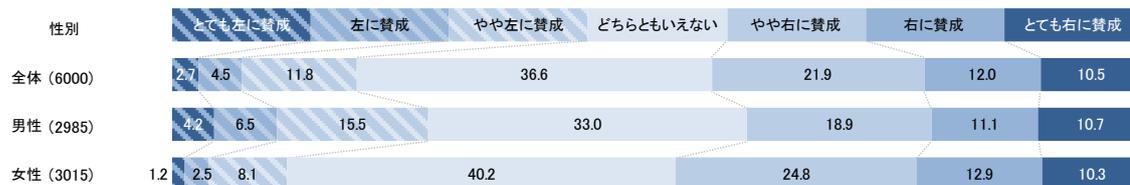
・「性別・年齢」では、「男性 18~24 歳」で「左に賛成」、「男性 45~54 歳」で「どちらともいえない」、「男性 65~74 歳」で「やや左に賛成」、「女性 55~64 歳」で「どちらともいえない」が全体と比較して高い。

4.左-今後、経済成長によって税収は増えると思う
右-今後、経済成長によって税収は増えないと思う



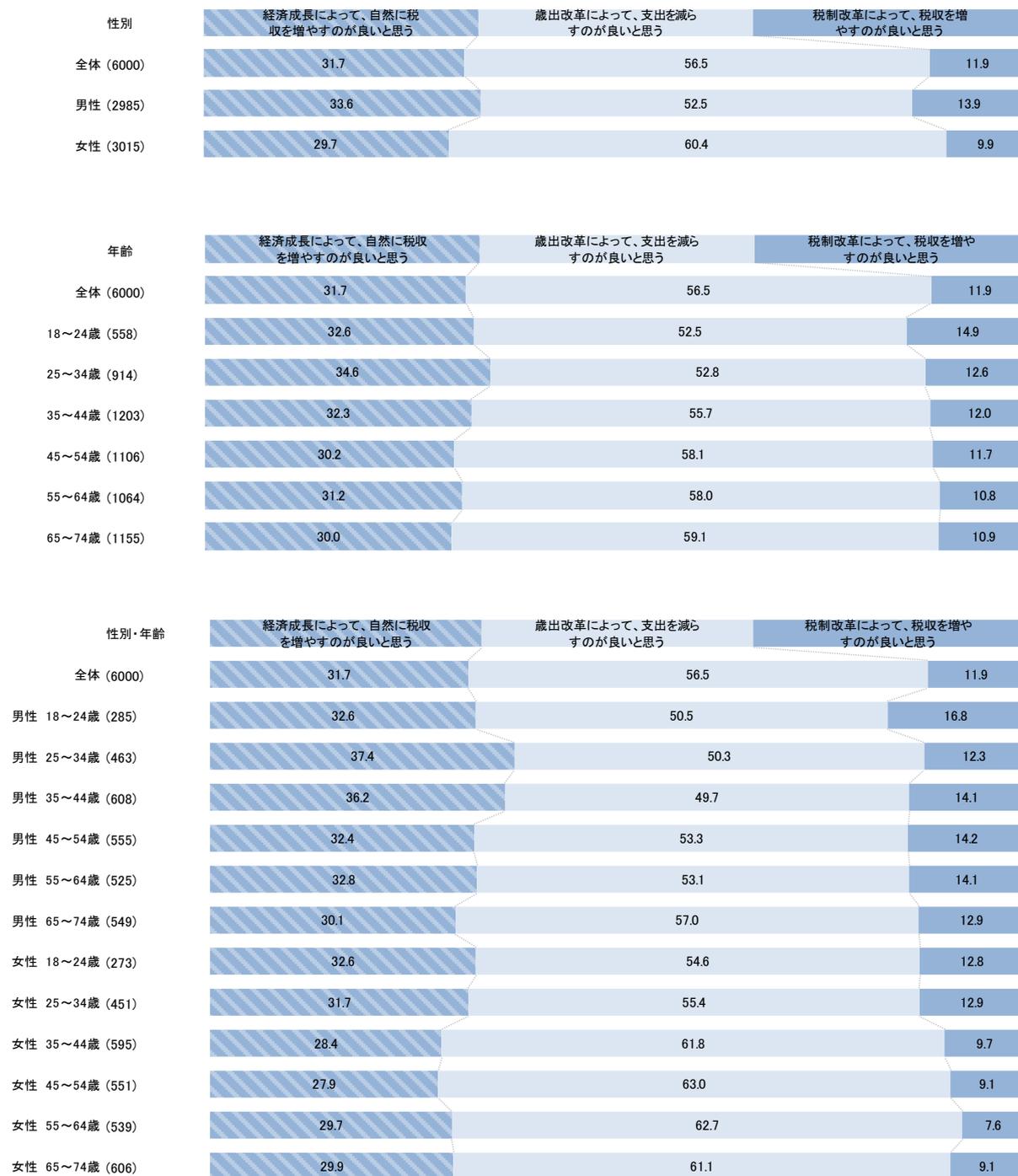
・「性別・年齢」では、「男性 25~34 歳」で「とても右に賛成」、「男性 65~74 歳」で「やや右に賛成」が全体と比較して高い。

5.左-財源を補うために、国は借金をしても良い
右-財源を補うためとはいえ、国は借金をすべきでない



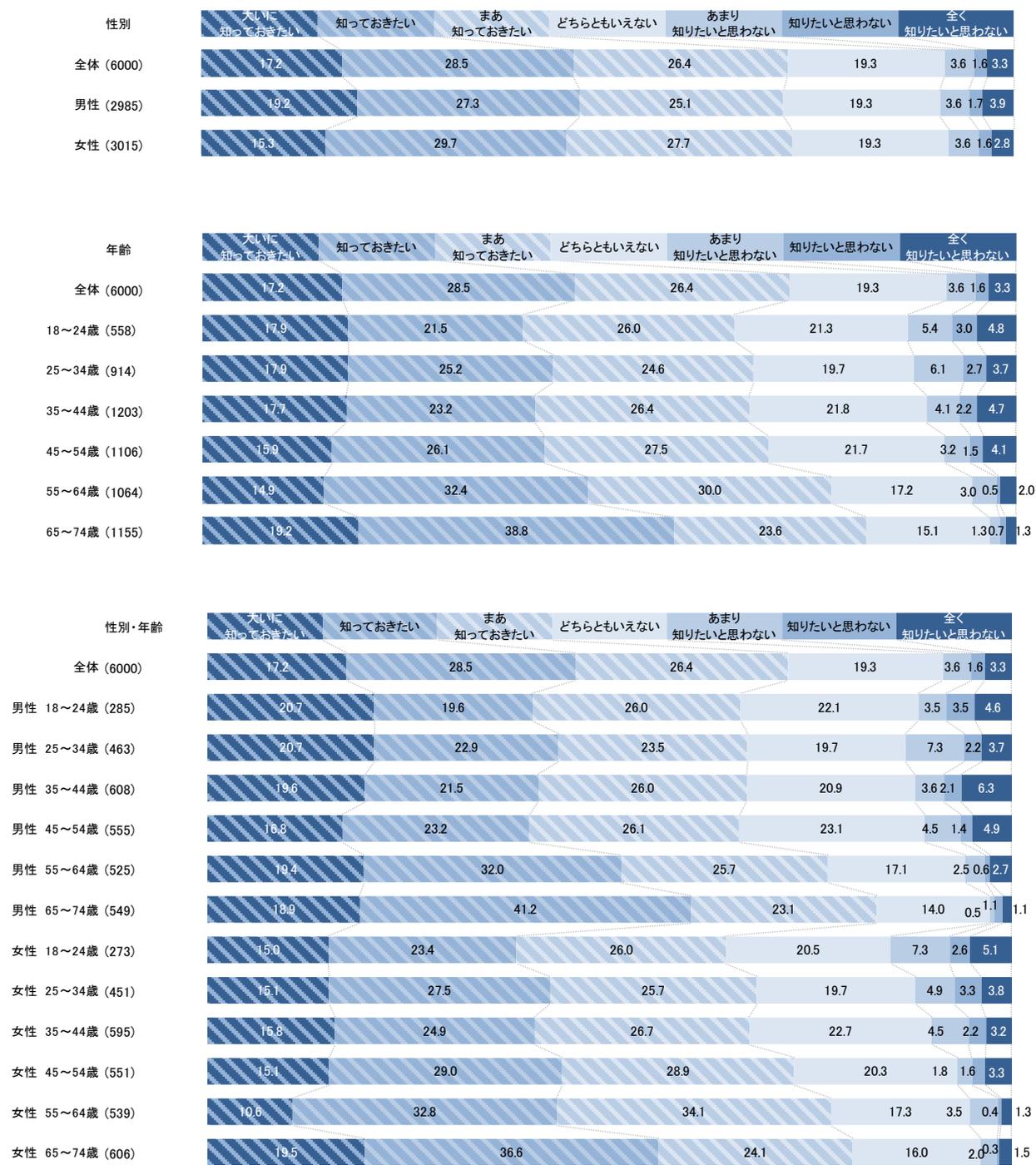
・「年齢」では、「65-74歳」で「右に賛成」が全体と比較して高い。

Q27. 財政状況を改善するには、「経済成長によって税収を増やしながらか、支出の無駄の削減や効率化を行い（歳出改革）、必要な増税を実施する（税制改革）」この3つを同時に行っていく必要があります。その中で、もし一つ選ぶとしたら、あなたはどれが現実的な策だと思いますか。（回答はひとつ）



・「選択肢」ごとに見ると、「経済成長によって、自然に税収を増やすのが良いと思う」は「男性 25～34 歳」で、「歳出改革によって、支出を減らすのが良いと思う」は「女性 35～44 歳」「女性 45～54 歳」「女性 55～64 歳」で全体と比較して高い。

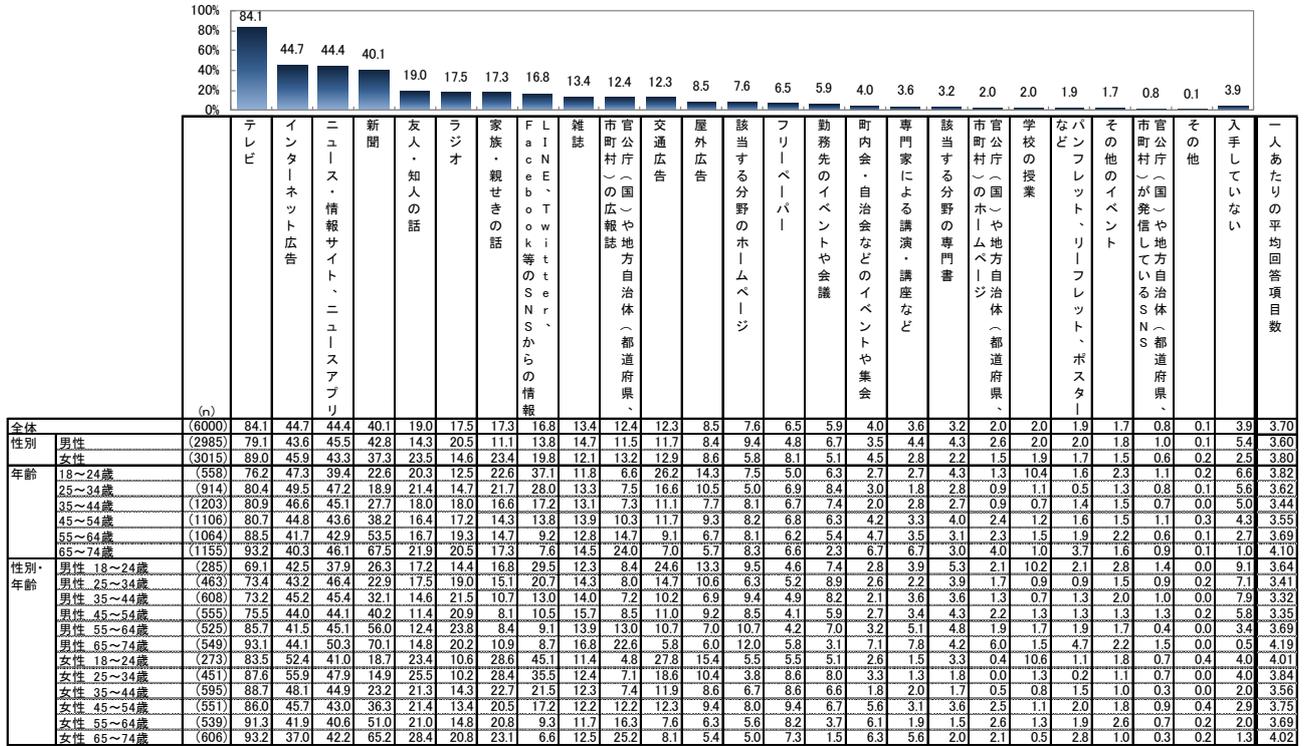
Q28. あなたは、Q24にあった10個の日本の財政と社会保障費に関する記述のような情報を、今後も知っておきたいと思いますか。(回答はひとつ)



・「年齢」では、「65-74歳」で「知っておきたい」が全体と比較して高い。

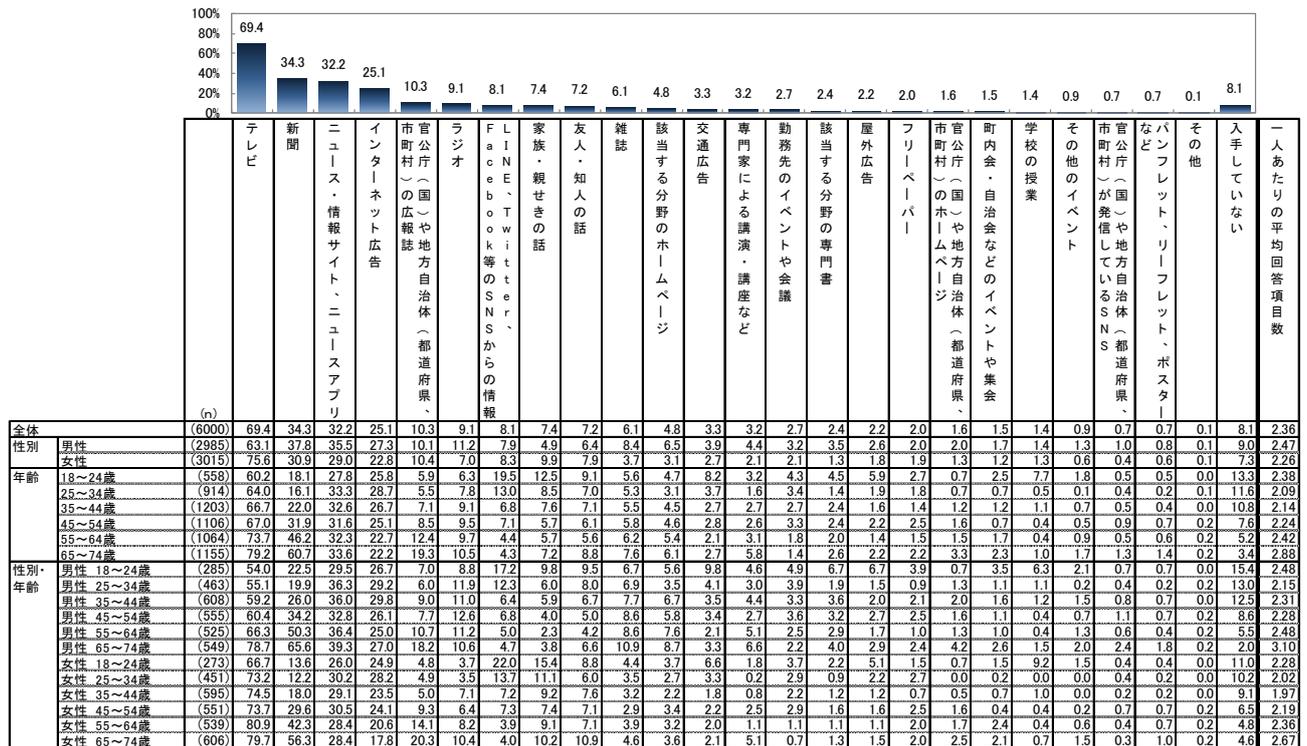
Q29. あなたの日ごろの情報源をすべてお選びください。また、「財政や社会保障、政治・経済等」に関する情報源も同様にすべてお選びください。(複数選択可)

1.日ごろの情報源



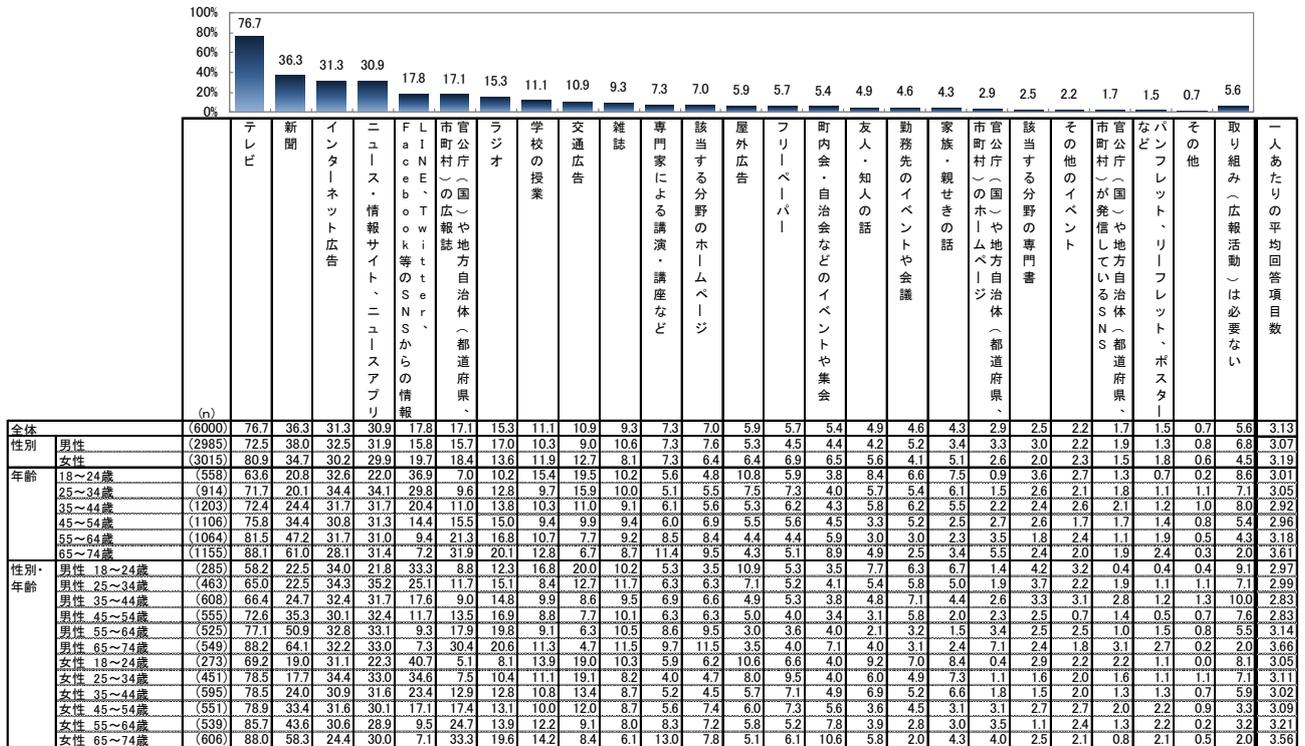
- ・「性別」では、「女性」で「家族・親せきの話」が全体と比較して高い。
- ・「年齢」では、「18~24歳」で「LINE、Twitter、Facebook等のSNSからの情報」「交通広告」「学校の授業」、「25~34歳」で「LINE、Twitter、Facebook等のSNSからの情報」、「55~64歳」で「新聞」、「65~74歳」で「新聞」「官公庁(国)や地方自治体(都道府県、市町村)の広報誌」「テレビ」が全体と比較して高い。

2. 「財政や社会保障、政治・経済等」に関する情報源



- ・「性別」では、「女性」で「テレビ」が全体と比較して高い。
- ・「年齢」では、「18-24歳」で「LINE、Twitter、Facebook等のSNSからの情報」「学校の授業」「家族・親せきの話」「入手していない」、 「55-64歳」で「新聞」、 「65-74歳」で「新聞」「テレビ」「官公庁(国)や地方自治体(都道府県、市町村)の広報誌」が全体と比較して高い。

Q30. あなたは、日本の財政、予算、税のしくみ、税の使い道等を理解してもらうために、どのような機会を利用しての取り組み（広報活動）が必要だと思いますか。（複数選択可）



・「年齢」では、「18-24歳」で「LINE、Twitter、Facebook等のSNSからの情報」「交通広告」、「25-34歳」で「LINE、Twitter、Facebook等のSNSからの情報」、「55-64歳」で「新聞」、「65-74歳」で「新聞」「官公庁（国）や地方自治体（都道府県、市町村）の広報誌」「テレビ」が全体と比較して高い。

4 時系列の結果

4-1 結果の要約

- ・ 過去3年分の時系列結果を比較、増加・減少の傾向や有意な差がみられた項目には印を付与した。
- ・ 「財政関連用語の理解度」は、「軽減税率」と「人生100年時代」で前回からの割合増のほか、僅かながら「国債」と「全世代型社会保障」に増加傾向がみられた。
- ・ 「現在の日本の財政状況」「10年後の日本の財政」について、前回よりもネガティブ層（不安層、悪化層）が微増および増加となり、いずれも今までで最も高い結果となった。
- ・ 「税と保険料の生活への負担度」では、「雇用保険料」で「圧迫層」が増加傾向となっていたが、他は大きな変化はなかった。
- 比較結果
 - 「財政関連用語」の認知理解度
 - 理解度増・増加傾向
 - 5. 国債 「内容を人に説明でいるくらい詳しい」が増加傾向。
 - 11. 全世代型社会保障 「内容を人に説明できるくらい詳しい」が増加傾向。
 - 17. 軽減税率 今年度の理解度が、前回と比べて高い。
 - 20. 人生100年時代 今年度の理解度が、前回と比べて高い。
 - 理解度減・減少傾向
 - 2. 一般会計 「言葉自体を知らない」が増加傾向。
 - 3. 特別会計 「言葉自体を知らない」が増加傾向。
 - 「現在の日本の財政状況について」
 - 『不安』層が前回（H31）より微増 ※過去3年の『不安』層は74～77%
 - 不安の理由ではさまざまな項目で割合が増加、さらに1人あたりの回答項目数も増加傾向
 - ※「医療費自己負担」「社保の増大」「経済成長していない」「税金の増加が見込めない」が増加傾向
 - 「10年後の日本の財政」
 - 『悪化』層が前回（H31）より増加、「今よりとても厳しい状態」は約2割に達する
 - ※過去3年の『悪化』層は71～79%
 - 悪化の理由ではさまざまな項目で割合が増加、さらに1人あたりの回答項目数も増加傾向
 - ※「経済が良くなりから」「政策が進まないから」が増加傾向
 - 「不変・良化層」の理由においても、「経済が良くなりそう」「税金改革が進みそう」では割合が減少傾向
 - 「税と保険料の生活への負担度」
 - 「雇用保険料」は「圧迫層」が増加傾向
 - 「国に治める税と保険料のイメージ」
 - 税・保険料ともに1人あたりの回答項目数も減少しており、「払う意義はわかる」が減少傾向
 - 「税で受益を強く実感するもの」
 - 過去3年で増加傾向となっている公共サービスは【保育・子育て支援】のみ
 - 「払う税と受ける公共サービスのバランス」
 - 『払う税に比べて、公共サービスを受けている（とても+受けている+まあ）』の割合が過去3年で増加傾向
 - 「もっと国に税を投入して強化して欲しい公共サービス」
 - 【公共事業】は過去3年で増加傾向、対して【防衛】は減少傾向
 - 5つの記述
 - 「日本の財政が苦しくなった主な理由は社会保障費の増加」と回答した割合は過去3年で増加傾向
 - 同様に「今後、経済成長によって税金は増えないと思う」割合が増加傾向なのに対し、「税や保険料を今より多く払いたくない」「社保制度の充実を望む」割合は増加傾向、また「国は借金をすべきでない」が減少傾向
 - 「財政についての改善策」
 - 【経済成長】の割合が過去3年で増加傾向、対して【歳出改革】の割合も増転
 - 「日本の財政と社会保障費に関する情報の認知意向」
 - 大きな変化はなかった。

4-2 時系列のプロフィール

■ 都道府県 (Q1.あなたのお住まいの都道府県をお答えください。(回答はひとつ))

		北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
	(n)																								
R2年	(6000)	4.3	1.0	0.9	1.9	0.8	0.9	1.5	2.3	1.6	1.6	5.9	5.0	11.1	7.4	1.8	0.8	0.9	0.6	0.7	1.6	1.6	2.9	5.8	1.5
H31年	(6000)	4.3	1.0	0.9	1.9	0.9	0.8	1.5	2.3	1.7	1.6	5.9	5.0	11.3	7.3	1.7	0.8	0.9	0.6	0.7	1.6	1.6	2.9	5.9	1.4
H30年	(6000)	4.3	1.0	0.9	1.8	0.8	0.8	1.5	2.3	1.6	1.6	5.9	5.0	11.1	7.4	1.8	0.8	0.9	0.6	0.7	1.6	1.6	2.9	5.9	1.4

		滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
	(n)																							
R2年	(6000)	1.1	2.1	7.0	4.3	1.1	0.8	0.4	0.5	1.5	2.2	1.1	0.6	0.7	1.1	0.5	4.0	0.6	1.1	1.3	0.9	0.8	1.2	1.1
H31年	(6000)	1.1	2.1	7.0	4.3	1.1	0.8	0.4	0.6	1.4	2.3	1.0	0.6	0.7	1.0	0.6	3.9	0.7	1.1	1.3	0.9	0.9	1.2	1.1
H30年	(6000)	1.1	2.1	7.0	4.4	1.1	0.7	0.4	0.5	1.5	2.2	1.1	0.6	0.7	1.0	0.5	4.0	0.6	1.1	1.3	0.9	0.8	1.2	1.1

■ 職業 (Q2.あなたの現在のご職業をお答えください。(回答はひとつ))

		会社員 (正社員)	公務員 (正規職員)	会社員 (契約／嘱託／派遣社員)	公務員 (非正規職員)	自営業 ／自由業	高校生	大学生 ／大学院生	パート ／アルバイト	主婦 ・主夫	年金生活者 ・無職	その他
	(n)											
R2年	(6000)	35.1	5.1	5.6	0.7	6.3	0.3	4.2	13.7	15.7	12.9	0.4
H31年	(6000)	38.9		7.4		7.0	0.3	4.1	13.2	16.2	12.3	0.6
H30年	(6000)	36.9		6.4		7.7	0.3	4.3	12.5	17.8	13.6	0.6

※R2年の選択肢は、「会社員(正社員)」「会社員(契約／嘱託／派遣社員)」「公務員(正規職員)」「公務員(非正規職員)」「自営業／自由業」「高校生」「大学生／大学院生」「パート／アルバイト」「主婦・主夫」「年金生活者・無職」「その他」

H31年・H30年の選択肢は、「会社員／公務員(正社員)」「会社員／公務員(契約／嘱託／派遣社員)」「自営業／自由業」「高校生」「大学生／大学院生」「パート／アルバイト」「主婦・主夫」「年金生活者・無職」「その他」

- ・「パート／アルバイト」が増加傾向。
- ・「主婦・主夫」「自営業・自由業」が減少傾向。

■ 職種 (Q3.あなたの現在の職種をお答えください。(回答はひとつ))

※職種が多岐にわたる場合は、あなたが従事する役割が最も大きいものをお選びください。

	(n)	経営・管理職	専門・技術職	事務職	営業職	販売職	労務・技能職	その他
R2年	(3992)	10.3	29.6	25.8	9.1	9.1	12.0	4.1
H31年	(3991)	11.3	26.8	24.6	9.4	8.3	13.2	6.3
H30年	(3792)	11.5	26.3	25.4	9.1	9.0	12.8	5.9

※n= (現役の生産労働人口に相当する人)

・「専門・技術職」の「R2年 (29.6%)」が高い。

■ 最終学歴 (Q4.あなたの最終学歴をお答えください。(回答はひとつ))

	(n)	大学院	大学	専修学校 期大学、高等 専門学校・ 課程・ 校短	高等学校	小中学校	その他
R2年	(5729)	5.0	40.1	23.5	29.3	2.1	0.0
H31年	(5736)	4.8	39.1	24.0	29.8	2.3	0.0
H30年	(5722)	4.5	39.8	22.4	30.8	2.5	0.0

・特筆すべき傾向なし。

■ 未既婚 (Q5.あなたの婚姻状況をお答えください。(回答はひとつ))

	(n)	未婚	(既婚 配偶者あり)	死別 既婚(配偶者 離婚者)
R2年	(6000)	28.8	62.1	9.1
H31年	(6000)	29.9	61.1	9.1
H30年	(6000)	30.1	60.3	9.6

・特筆すべき傾向なし。

■ 世帯年収 (Q9.あなたの世帯の年収をお答えください。(回答はひとつ))

	(n)	所得無し	100万円未満	100万円～199万円	200万円～299万円	300万円～399万円	400万円～499万円	500万円～599万円	600万円～699万円	700万円～799万円	800万円～899万円	900万円～999万円	1000万円未満	1000万円～1499万円	1500万円～1999万円	2000万円以上	ない	世帯年収はわからず	世帯年収回答拒否
R2年	(6000)	1.0	2.9	5.3	8.8	11.7	11.3	9.9	13.7	10.2	8.2	1.9	1.3	13.0	1.0				
H31年	(6000)	0.9	2.9	4.6	9.0	11.6	11.4	10.2	14.2	10.3	8.2	1.9	1.6	12.5	0.8				
H30年	(6000)	1.2	3.0	5.1	8.8	13.0	11.5	10.0	13.7	9.8	7.6	1.5	1.3	12.6	1.1				

・「300～400万円未満」の「H30年（13.0%）」が高い。

4-3 時系列結果の詳細

Q10.日本の財政に関する以下の言葉について、それぞれ「言葉自体を知らない」から「内容を人に説明できるくらい詳しい」まで、どの程度ご存知ですか。あてはまるものをお選びください。(回答は各ひとつ)

1.財政

	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(6000)	8.0	45.7	38.9	7.3
H31年(6000)	8.3	44.4	39.9	7.4
H30年(6000)	7.7	47.3	38.8	6.3

・「内容を人に説明できるくらい詳しい」の「H30年(6.3%)」が低い。

2.一般会計

	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(6000)	14.4	51.2	28.7	5.8
H31年(6000)	13.9	51.0	28.9	6.2
H30年(6000)	11.8	52.9	29.8	5.5

・「言葉自体を知らない」が増加傾向。

3.特別会計

	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(6000)	21.5	50.9	22.8	4.9
H31年(6000)	20.1	52.1	22.6	5.2
H30年(6000)	18.2	53.6	23.5	4.7

・「言葉自体を知らない」が増加傾向。
・「言葉を聞いたことがある程度」が減少傾向。

4.歳入と歳出

	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(6000)	13.5	38.9	38.4	9.2
H31年(6000)	13.4	38.8	38.2	9.6
H30年(6000)	12.2	40.2	38.5	9.1

・特筆すべき傾向なし。

5.国債

	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(6000)	6.8	35.7	44.8	12.8
H31年(6000)	5.9	35.3	46.4	12.4
H30年(6000)	5.9	37.0	45.8	11.3

・「内容を人に説明できるくらい詳しい」が増加傾向。
・「言葉自体を知らない」の「R2年(6.8%)」が高い。

6.長期債務残高

	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(6000)	31.8	42.2	21.6	4.4
H31年(6000)	32.2	41.8	21.6	4.5
H30年(6000)	30.7	43.3	22.0	4.0

・特筆すべき傾向なし。

7.財政健全化目標

	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(6000)	34.5	41.7	19.8	4.0
H31年(6000)	36.3	40.2	19.5	4.0
H30年(6000)	33.6	41.9	20.6	4.0

・「言葉自体を知らない」の「H31年(36.3%)」が高い。

8.プライマリーバランス

	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(6000)	42.6	37.2	16.1	4.2
H31年(6000)	43.1	37.0	16.0	4.0
H30年(6000)	40.4	39.2	16.5	4.0

・「言葉を聞いたことがある程度」の「H30年(39.2%)」が高い。
・「言葉自体を知らない」の「H30年(40.4%)」が低い。

9. 社会保障と税の一体改革

	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(6000)	25.3	45.7	24.5	4.6
H31年(6000)	26.8	46.0	22.5	4.7
H30年(6000)	23.6	48.2	23.8	4.4

※項目「消費税率引上げ分の使い道」は、H31年では「消費税引上げ分の使い道」

- ・「言葉を聞いたことがある程度」の「H30年(48.2%)」が高い。
- ・「内容をまあ知っている」の「H31年(22.5%)」が低い。

10. 消費税率引上げ分の使い道

	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(6000)	15.4	45.2	34.0	5.4
H31年(6000)	16.1	47.0	31.6	5.4

- ・R2年の理解度が、H31年と比べて高い。
- ・「内容をまあ知っている」が増加。
- ※H31年では「消費税引上げ分の使い道」

11. 全世代型社会保障

	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(6000)	35.7	41.4	19.0	4.0
H31年(6000)	43.8	38.2	15.0	3.0
H30年(6000)	43.1	38.9	15.6	2.5

- ・「内容を人に説明できるくらい詳しい」が増加傾向。
- ・「内容をまあ知っている」の「R2年(19.0%)」が高い。
- ・「言葉自体を知らない」の「R2年(35.7%)」が低い。

12. 将来世代への負担の先送り

	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(6000)	17.4	37.1	36.8	8.7
H31年(6000)	20.3	36.0	35.4	8.3
H30年(6000)	18.5	36.6	36.6	8.2

- ・特筆すべき傾向なし。

13. 少子高齢化に伴う社会保障費増大

	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(6000)	13.5	35.5	40.9	10.1
H31年(6000)	15.1	36.5	39.0	9.4
H30年(6000)	4.2	20.6	53.1	22.1

※項目「少子高齢化に伴う社会保障費増大」は、H30年では「少子高齢化」

- ・H31年と比べると、R2年の理解度は高くなっている。
- ※H30年では「少子高齢化」

14. 受益と負担

	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(6000)	31.3	40.5	23.3	4.9
H31年(6000)	32.9	39.8	22.7	4.6
H30年(6000)	30.3	41.6	23.2	4.9

- ・特筆すべき傾向なし。

15. 公共サービス

	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(6000)	6.5	34.3	48.4	10.8
H31年(6000)	10.4	43.4	38.6	7.7
H30年(6000)	10.4	43.8	38.9	6.9

※項目「公共サービス」は、H31年・H30年では「公的サービス」

- ・R2年の理解度が、H31年・H30年と比べて高い。
- ※H31年・H30年では「公的サービス」

16. 国民負担率

	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(6000)	24.9	48.2	22.7	4.2
H31年(6000)	24.8	48.6	22.9	3.7
H30年(6000)	23.8	49.2	23.5	3.5

- ・特筆すべき傾向なし。

17.軽減税率

	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(6000)	5.3	27.8	49.7	17.3
H31年(6000)	9.7	43.4	38.3	8.6

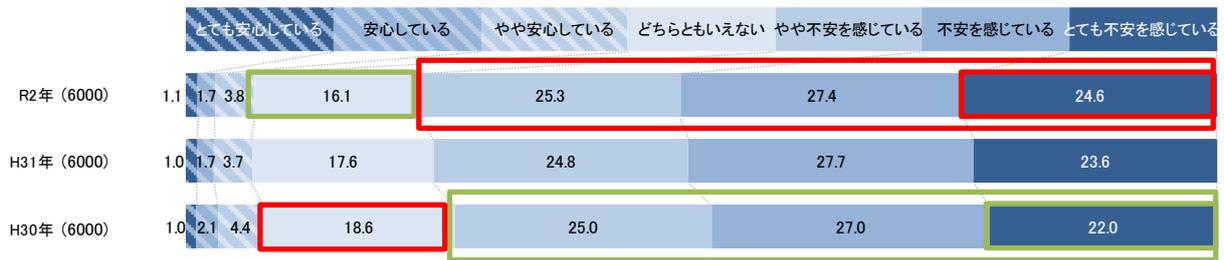
・R2年の理解度が、H31年と比べて高い。

20.人生100年時代

	言葉自体を知らない	言葉を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(6000)	11.2	38.4	40.0	10.4
H31年(6000)	19.0	40.2	32.8	8.0

・R2年の理解度が、H31年と比べて高い。

Q11.国の収入と支出のバランスを「財政」と言います。あなたは現在の日本の財政状況について、どう感じていますか。あてはまるものをお選びください。(回答はひとつ)



- ・「とても不安を感じている」が増加傾向。
- ・「不安を感じている（やや+不安+とても）」が増加傾向。
- ・「どちらともいえない」が減少傾向。

Q12.現在の財政状況に不安を感じている理由をお選びください。(複数選択可)

	(n)	国の予算の使い方が多そうだから	財政赤字が続いているから	国の借金の残高が膨らんでいるから	子供や孫などの将来世代に負担を先送りで受け取れない可能性があるから	自分の年金が減額されるから	割合が減っている現役世代の人口における現役世代の割合が減少しているから	人口が増えているから	今後、消費税率引き上げなど、増税がありそうだから	医療費の自己負担が増加しそうだから	国の社会保障費が増大しているから	このままでは借金を返さず財政破綻しそうだから	収入が増えなさそうだから	経済成長しなさそうだから	国が何か隠しているから	社会のセーフティネットが最低限の保障を維持できなさそうだから	見込めなすぎそうだから	政策による税収の増加が見込めなさそうだから	わかりやすい情報が不足しているから	教育や治安対策等、生活に直接影響する予算が削減されそうだから	その他	一人あたりの平均回答項目数
R2年	(4639)	58.4	55.0	54.3	52.9	52.0	45.2	43.1	40.3	36.0	34.0	31.1	26.7	25.0	23.9	16.8	1.7	5.96				
H31年	(4561)	58.3	56.5	53.9	53.3	49.2	40.2	38.0	38.7	39.0	27.7	28.9	26.0	24.3	23.5	17.5	2.5	5.78				
H30年	(4439)	60.1	54.9	55.0	54.1	49.1	42.0	36.8	35.5	38.9	23.8	28.3	26.0	21.4	22.4	16.9	2.2	5.67				

※n= (Q11で「やや不安を感じている」「不安を感じている」「とても不安を感じている」を選択の人)

※項目「今後も消費税率引き上げなど、増税がありそうだから」は、H31年・H30年では「消費税率引き上げなど、増税がありそうだから」

- ・「医療費の自己負担が増加しそうだから」「国の社会保障費が増大しているから」「経済成長しなさそうだから、税収が増えなさそうだから」「政策による税収の増加が見込めなさそうだから」が増加傾向。
- ・「人口における現役世代の割合が減っているから」の「R2年 (52.0%)」が高い。
- ・「このままでは借金を返さず財政破綻しそうだから」の「R2年 (36.0%)」が高い。
- ・「国が何か隠しているから」の「R2年 (31.1%)」が高い。

Q13.あなたは10年後の日本の財政はどうなっていると思いますか。あてはまるものをお選びください。(回答はひとつ)



- ・「今より厳しい状態になっている」「今よりとても厳しい状態になっている」が増加傾向。
- ・「今より厳しい状態になっている（やや+厳しい+とても）」が増加傾向。
- ・「今と変わらない」が減少傾向。
- ・「今よりやや良い状態になっている」が減少傾向。
- ・「今より良い状態になっている（とても+良い+やや）」が減少傾向。

Q14.厳しい状態になると思う理由をお選びください。(複数選択可)

	平均あたりの項目数	その他	悪影響が上りそうだから	安定な税制改革を進めたいから	国の収入(税収)が減りそうだから	国の支出(歳出)が増えそうだから	社会保障費の増加を抑える政策が進まなさそうだから	うさだから	日本経済は良くなるから	無駄な支出(歳出)を削減できなさそうだから	国の借金が増えそうだから	高齢者の増加が様々だから	少子高齢化で働く人の数が減りそうだから	少数が高齢化で収入も減りそうだから	(n)
R2年	4.29	1.6	13.6	24.5	37.6	38.4	38.7	38.7	42.3	48.7	55.0	60.9	67.1	(4736)	
H31年	4.27	2.3	15.3	25.4	34.8	39.2	37.4	39.4	39.4	50.0	58.3	60.8	63.7	(4487)	
H30年	3.99	1.8	13.6	24.4	35.2	40.6	35.4	35.4	34.9	52.3	31.1	62.7	66.7	(4261)	

※n= (Q13で「今よりやや厳しい状態になっている」「今より厳しい状態になっている」「今よりとても厳しい状態になっている」を選択の人)

※選択肢「国の借金が増えそうだから」は、H30年では「借金総額が家計の金融資産総額を上回り、日本の財政への信頼が落ちそうだから」

- ・「日本経済は良くなるから」「社会保障費の増加を抑える政策が進まなさそうだから」が増加傾向。
- ・「無駄な支出(歳出)を削減できなさそうだから」が減少傾向。
- ・「国の収入(税収)が減りそうだから」の「R2年(37.6%)」が高い。
- ・「少子高齢化で働く人の数が減って収入も減りそうだから」の「H31年(63.7%)」が低い。

Q15.今と変わらない／良い状態になると思う理由をお選びください。(複数選択可)

	(n)	の懸念は少ないので、財政破綻で	らで働き方改革や技術革新など	進み、減らしたから	社会保障費の増加を抑え	から日本経済が良くなりそう	日本は世界有数の経済大国	が無駄な支出(歳出)の削減	金利が低く維持され、経済	国の収入(税収)が増えそ	も借金は小さそうだから	国には有価証券や国有財産	日銀が買い取る国債には利	息も返済義務もなく、そも	も借金は小さそうだから	革が進みそうだから	安定的な税収を得る税制改	うだから(歳出)が減りそ	その他	平均回答項目数
R2年	(1264)	18.8	17.1	16.6	14.6	14.4	13.9	12.3	11.7	10.0	10.0	8.9	7.4	6.6	1.62					
H31年	(1513)	14.7	16.5	15.3	17.0	14.7	15.6	10.6	14.5	10.2	8.1	10.8	7.5	9.1	1.65					
H30年	(1739)	15.4	12.5	15.4	19.8	11.8	15.2	12.9	12.8	9.2	7.2	13.7	6.8	9.0	1.62					

※選択肢「働き方改革や技術革新などで生産性が向上しそうだから」は、H30年では「働き方改革等で生産性が向上しそうだから」。

※n= (Q13で「今よりとても良い状態になっている」「今より良い状態になっている」「今よりやや良い状態になっている」「今と変わらない」を選択の人)

- ・「日本経済が良くなりそうだから」「安定的な税収を得る税制改革が進みそうだから」が減少傾向。
- ・「借金(国債)は日本国内で消化されていて、財政破綻の懸念は少なそうだから」の「R2年(18.8%)」が高い。
- ・「日銀が買い取る国債には利息も返済義務もなく、そもそも借金は小さそうだから」の「R2年(10.0%)」が高い。
- ・「日本は世界有数の経済大国であり続けそうだから」の「H30年(11.8%)」が低い。

Q16.あなたは次の税と保険料の名称や納税の対象者、税率などの制度の内容をどの程度ご存知ですか。それぞれの税および保険料についてあてはまるものをお選びください。(回答は各ひとつ)

1.所得税

	名前自体を知らない	名前を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている(誰にかかる税か、等)	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(5729)	1.7	13.3	63.0	22.0
H31年(5736)	1.4	12.6	63.3	22.6
H30年(5722)	1.7	13.7	64.3	20.3

・「内容を人に説明できるくらい詳しい」の「H30年(20.3%)」が低い。

2.住民税

	名前自体を知らない	名前を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている(誰にかかる税か、等)	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(5729)	1.8	13.7	63.8	20.7
H31年(5736)	1.5	13.1	64.1	21.3
H30年(5722)	1.7	14.0	65.1	19.1

・「内容を人に説明できるくらい詳しい」の「H30年(19.1%)」が低い。

3.健康保険料

	名前自体を知らない	名前を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている(誰にかかる税か、等)	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(5729)	2.1	13.6	63.4	20.9
H31年(5736)	2.0	13.2	63.3	21.5
H30年(5722)	2.1	14.6	63.7	19.6

・特筆すべき傾向なし。

4.年金保険料

	名前自体を知らない	名前を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている(誰にかかる税か、等)	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(5729)	2.9	17.9	62.0	17.1
H31年(5736)	3.0	18.2	60.7	18.1
H30年(5722)	3.1	18.7	61.7	16.4

・特筆すべき傾向なし。

5.介護保険料

	名前自体を知らない	名前を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている(誰にかかる税か、等)	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(5729)	3.1	20.7	60.7	15.5
H31年(5736)	3.1	20.5	60.2	16.2
H30年(5722)	3.1	21.8	60.5	14.6

・特筆すべき傾向なし。

6.雇用保険料

	名前自体を知らない	名前を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている(誰にかかる税か、等)	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(5729)	3.0	21.4	59.3	16.3
H31年(5736)	3.3	20.5	59.3	17.0
H30年(5722)	3.7	21.5	59.6	15.2

・「内容を人に説明できるくらい詳しい」の「H30年(15.2%)」が低い。

7.消費税

	名前自体を知らない	名前を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている(誰にかかる税か、等)	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(5729)	1.6	10.2	60.3	28.0
H31年(5736)	1.4	9.4	61.1	28.1
H30年(5722)	1.8	10.6	61.1	26.5

・特筆すべき傾向なし。

8.相続税

	名前自体を知らない	名前を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている(誰にかかる税か、等)	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年(5729)	2.1	20.3	61.3	16.4
H31年(5736)	2.0	19.5	61.7	16.8
H30年(5722)	2.4	19.0	63.3	15.3

・特筆すべき傾向なし。

※n=(職業が「高校生」「大学生/大学院生」以外)

9.酒税

	名前自体を知らない	名前を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている(誰にかかる税か、等)	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年 (5729)	2.4	19.4	61.8	16.4
H31年 (5736)	2.4	17.9	64.3	15.4
H30年 (5722)	2.4	18.1	64.8	14.8

・「内容をまあ知っている」の「R2年 (61.8%)」が低い。

10.たばこ税

	名前自体を知らない	名前を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている(誰にかかる税か、等)	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年 (5729)	2.3	20.5	60.8	16.4
H31年 (5736)	2.1	18.6	62.7	16.7
H30年 (5722)	2.1	17.3	64.6	16.1

・「名前を聞いたことがある程度」が増加傾向。
・「内容をまあ知っている」が減少傾向。

11.法人税

	名前自体を知らない	名前を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている(誰にかかる税か、等)	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年 (5729)	2.8	26.4	57.0	13.8
H31年 (5736)	3.1	26.2	57.1	13.6
H30年 (5722)	2.6	25.5	59.4	12.5

・「内容をまあ知っている」の「H30年 (59.4%)」が高い。

12.国際観光旅客税

	名前自体を知らない	名前を聞いたことがある程度	内容をまあ知っている(誰にかかる税か、等)	内容を人に説明できるくらい詳しい
R2年 (5729)	33.1	38.0	24.5	4.5
H31年 (5736)	35.5	36.6	23.6	4.3

・H31年と比べて、R2年の理解度が高い。

※n= (職業が「高校生」「大学生／大学院生」以外)

Q17.あなたは、あなたご自身または世帯にかかる税と保険料についてどの程度、負担に感じていますか。それぞれの税と保険料について、生活費を「とても圧迫する」から「全く圧迫しない」までの中であてはまるものをお選びください。(回答は各ひとつ)

※未成年の方は酒税、たばこ税について「7.自分と関係ない／わからない」をお選びください。

1.所得税

	とても圧迫する	圧迫する	まあ圧迫する	あまり圧迫しない	圧迫しない	全く圧迫しない	自分と関係ない／わからない	
R2年 (5632)	15.8	25.0		33.2		15.2	3.7	2.0 5.0
H31年 (5653)	16.6	24.9		33.3		15.5	3.7	1.7 4.3
H30年 (5627)	16.0	24.0		32.8		16.8	3.9	1.7 4.7

・「あまり圧迫しない」の「H30年 (16.8%)」が高い。

2.住民税

	とても圧迫する	圧迫する	まあ圧迫する	あまり圧迫しない	圧迫しない	全く圧迫しない	自分と関係ない／わからない	
R2年 (5628)	16.5	25.3		35.6		14.3	3.1	1.6 3.7
H31年 (5648)	17.6	24.5		35.2		14.7	3.2	1.3 3.5
H30年 (5622)	16.5	24.9		34.4		16.1	3.3	1.4 3.4

・「あまり圧迫しない」の「H30年 (16.1%)」が高い。
 ・「圧迫しない (あまり+圧迫しない+全く)」の「H30年 (20.8%)」が高い。

3.健康保険料

	とても圧迫する	圧迫する	まあ圧迫する	あまり圧迫しない	圧迫しない	全く圧迫しない	自分と関係ない／わからない	
R2年 (5611)	18.3		27.7		34.7		13.2	2.5 2.4
H31年 (5622)	19.0		26.8		35.5		12.4	2.5 2.4
H30年 (5603)	19.0		27.3		34.9		12.7	2.7 2.4

・特筆すべき傾向なし。

4.年金保険料

	とても圧迫する	圧迫する	まあ圧迫する	あまり圧迫しない	圧迫しない	全く圧迫しない	自分と関係ない／わからない	
R2年 (5560)	17.8		24.6		30.6		12.2	3.9 2.4 8.5
H31年 (5564)	17.9		24.3		32.0		12.3	3.2 2.4 7.8
H30年 (5542)	17.6		23.8		31.5		12.4	3.9 2.3 8.5

・特筆すべき傾向なし。

※n= (Q16で「名前自体を知らない」以外を選択の人)

5.介護保険料

	とても圧迫する	圧迫する	まあ圧迫する	あまり圧迫しない	圧迫しない	全く圧迫しない	自分と関係ない／わからない
R2年 (5552)	13.5	21.5		31.0		16.9	4.5 2.8 9.8
H31年 (5561)	13.7	20.9		31.5		16.3	5.1 2.8 9.6
H30年 (5545)	13.2	21.3		31.2		17.3	4.8 2.5 9.7

・特筆すべき傾向なし。

6.雇用保険料

	とても圧迫する	圧迫する	まあ圧迫する	あまり圧迫しない	圧迫しない	全く圧迫しない	自分と関係ない／わからない
R2年 (5559)	7.8	12.8	24.9	24.2	7.7	4.8	17.7
H31年 (5549)	7.6	12.2	24.1	25.6	8.4	5.0	17.1
H30年 (5512)	7.6	12.0	23.3	25.2	8.0	5.0	19.0

・「圧迫する（とても+圧迫+まあ）」の「R2年（45.5%）」が高い。
 ・「自分と関係ない／わからない」の「H30年（19.0%）」が高い

7.消費税

	とても圧迫する	圧迫する	まあ圧迫する	あまり圧迫しない	圧迫しない	全く圧迫しない	自分と関係ない／わからない
R2年 (5640)	21.5		27.2		33.8		12.4 2.5 1.1 1.5
H31年 (5656)	25.2		26.8		32.4		11.4 2.0 0.9 1.4
H30年 (5621)	24.2		26.5		33.2		11.4 2.4 0.8 1.5

・「圧迫しない（あまり+圧迫しない+全く）」の「R2年（16.0%）」が高い。
 ・「圧迫する（とても+圧迫+まあ）」の「R2年（82.5%）」が低い。

8.相続税

	とても圧迫する	圧迫する	まあ圧迫する	あまり圧迫しない	圧迫しない	全く圧迫しない	自分と関係ない／わからない
R2年 (5609)	7.1	11.3	17.1	22.1	10.3	7.2	25.1
H31年 (5619)	7.4	11.6	17.0	22.1	10.5	7.7	23.7
H30年 (5587)	7.6	11.9	17.6	21.7	9.5	7.0	24.7

・特筆すべき傾向なし。

※n= (Q16で「名前自体を知らない」以外を選択の人)

9.酒税

	とても圧迫する	圧迫する	まあ圧迫する	あまり圧迫しない	圧迫しない	全く圧迫しない	自分と関係ない／わからない
R2年 (5592)	5.9	9.4	20.4	23.9	10.7	10.7	19.1
H31年 (5597)	6.2	10.0	20.0	24.3	10.5	10.8	18.3
H30年 (5583)	6.8	9.7	21.0	22.5	10.5	8.8	20.8

・「全く圧迫しない」の「H30年 (8.8%)」が低い

10.たばこ税

	とても圧迫する	圧迫する	まあ圧迫する	あまり圧迫しない	圧迫しない	全く圧迫しない	自分と関係ない／わからない
R2年 (5598)	6.6	7.8	10.9	9.8	8.3	15.9	40.8
H31年 (5618)	7.9	7.9	10.0	9.3	7.1	17.2	40.7
H30年 (5604)	7.9	8.6	10.8	8.8	6.3	13.2	44.3

・「圧迫しない」が増加傾向。
 ・「圧迫しない (あまり+圧迫しない+全く)」の「H30年 (27.3%)」が高い。

※n= (Q16で「名前自体を知らない」以外を選択の人)

※注釈「※未成年の方は酒税、たばこ税について「7.自分と関係ない／わからない」をお選びください。」は、H30年では「※お酒を飲まない方は酒税、たばこを吸わない方はたばこ税について「7.自分と関係ない／わからない」をお選びください。」

Q18.あなたは毎月の給与明細について、次の金額項目を見ていますか。それぞれについて確認しているかどうかをお選びください。※「4.個別の税や保険料の金額」は、何か一つでも見ていたら「1.見ている」を選択してください。(回答は各ひとつ)

	見ている			見ていない		
	R2年	H31年	H30年	R2年	H31年	H30年
(n)	(5353)	(5314)	(5267)	(5353)	(5314)	(5267)
1.総支給額	76.5	78.9	75.9	23.5	21.1	24.1
2.差引支給額(銀行振り込み金額、手取り金額)	77.1	79.5	77.0	22.9	20.5	23.0
3.控除合計額	70.8	72.8	69.9	29.2	27.2	30.1
4.個別の税や保険料の金額	69.9	72.1	69.7	30.1	27.9	30.3

※n=(職業が「高校生」「大学生/大学院生」以外)

・全体的に「H31年」の「見ている」が高い。

Q19.毎月の税と保険料について、どの程度金額をご存知ですか。それぞれの税および保険料についてあてはまるものをお選びください。(回答は各ひとつ)

	確認していない (金額を答えることができない)			ある程度把握している (金額を答えることができる)			詳細に把握している (具体的に金額を答えることができる)		
	R2年	H31年	H30年	R2年	H31年	H30年	R2年	H31年	H30年
1.所得税	20.2	21.3	21.5	59.8	59.8	58.7	19.9	18.9	19.8
(n)	(4089)	(4235)	(4099)	(4089)	(4235)	(4099)	(4089)	(4235)	(4099)
2.住民税	19.3	20.0	20.2	59.6	59.5	58.4	21.1	20.5	21.4
(n)	(4088)	(4233)	(4097)	(4088)	(4233)	(4097)	(4088)	(4233)	(4097)
3.健康保険料	18.9	19.4	19.3	60.4	60.3	59.4	20.6	20.3	21.3
(n)	(4077)	(4219)	(4092)	(4077)	(4219)	(4092)	(4077)	(4219)	(4092)
4.年金保険料	23.6	23.5	24.9	57.5	57.1	55.5	18.9	19.4	19.6
(n)	(4057)	(4185)	(4062)	(4057)	(4185)	(4062)	(4057)	(4185)	(4062)
5.介護保険料	29.6	31.4	33.3	52.8	52.0	49.3	17.6	16.6	17.4
(n)	(4056)	(4189)	(4073)	(4056)	(4189)	(4073)	(4056)	(4189)	(4073)
6.雇用保険料	31.4	32.4	34.1	53.1	52.0	50.4	15.5	15.7	15.5
(n)	(4058)	(4188)	(4051)	(4058)	(4188)	(4051)	(4058)	(4188)	(4051)

※n=(職業が「自営業/自由業」でQ16で「名前自体を知らない」以外を選択の人 または Q18「個別の税や保険料の金額」を「見ている」選択でQ16で「名前自体を知らない」以外を選択の人)

・「5.介護保険」の「確認していない」が減少傾向。「ある程度把握している」の「H30年(49.3%)」が低い。
 ・「6.雇用保険」の「確認していない」の「H30年(34.1%)」が低い。

Q20.あなたは国に納める税と保険料について、どんなイメージを持っていますか。あてはまるものをすべてお答えください。(複数回答可)

1.税

	(n)	払う意義はわかる	国や社会づくりのためのもの	国が使い方を決める	国がとりたてる	なるべく払いたくない	払えるなら払う	相互に助け合う仕組み	弱者に利益が還元される	自分に利益が還元される	払う意義がわからない	この中には一つもない	回答項目あたりの平均
R2年	(6000)	53.8	51.5	48.3	45.7	44.4	28.7	21.6	17.5	12.2	11.7	7.3	3.35
H31年	(6000)	55.5	55.0	51.3	49.7	45.9	31.0	23.5	18.4	13.0	12.4	6.1	3.56
H30年	(6000)	56.1	53.4	51.1	48.7	44.3	31.2	23.1	18.3	13.3	11.4	6.7	3.51

・全体的にR2年が低い。

2.保険料

	(n)	払う意義はわかる	相互に助け合う仕組み	払えるなら払う	なるべく払いたくない	自分に利益が還元される	国や社会づくりのためのもの	国がとりたてる	弱者に利益が還元される	国が使い方を決める	払う意義がわからない	この中には一つもない	回答項目あたりの平均
R2年	(6000)	49.7	43.8	28.9	28.9	25.9	20.3	19.1	17.5	15.0	7.5	8.9	2.56
H31年	(6000)	53.5	46.8	32.4	30.2	28.5	23.3	19.7	18.2	15.2	7.7	7.5	2.75
H30年	(6000)	52.3	47.3	31.8	29.5	28.1	22.0	20.5	18.6	16.5	7.4	8.2	2.74

・「相互に助け合う仕組み」が減少傾向。
 ・「自分に利益が還元される」の「R2年(25.9%)」が低い。

Q21. 次の1～20の中から、税が自分の生活に還元されていると感じる公共サービスをすべてお選びください。また、そのなかからあなたが強く実感するものを3つまでお選びください。(複数選択可)

1. 税が生活に活かされていると実感するもの (いくつでも)

(n)	医療	公共事業 (道路、ダム等国土基盤整備)	警察	教育	公衆衛生 (ゴミ対策・感染症予防等)	年金	消防	救急医療	子育て支援 (保育サービス等、子育て)	介護	防災
R2年 (6000)	58.1	44.8	43.3	42.9	42.9	41.0	40.9	40.2	35.9	35.2	35.1
H31年 (6000)	60.5	47.9	46.9	45.0	47.0	41.8	44.3	43.4	33.4	37.3	38.7
H30年 (6000)	59.2	45.9	47.2	44.1	46.3	41.2	45.3	44.1	31.2	35.5	36.4

(n)	生活の保護 (障害や困窮)	防衛	地方への補助金	エネルギー (ガス等)の安定供給	食料の安定供給・農業の発展	科学技術研究	文化振興	国際協力 (ODA等)	スポーツ振興	特になし	平均回答項目数
R2年 (6000)	32.4	32.4	25.4	16.5	15.4	15.3	14.2	14.0	13.7	2.0	6.52
H31年 (6000)	35.9	33.9	27.8	17.7	16.4	17.3	14.9	14.7	14.4	2.2	6.94
H30年 (6000)	34.6	35.0	27.1	17.2	16.7	17.6	15.7	15.8	13.7	2.1	6.84

- ・「保育サービス等、子育て支援」が増加傾向。
- ・「警察」「消防」「救急医療」「防衛」が減少傾向。
- ・「医療」の「H31年 (60.5%)」が高い。
- ・「介護」の「H31年 (37.3%)」が高い。
- ・「地方への補助金」の「R2年 (25.4%)」が低い。
- ・「科学技術研究」の「R2年 (15.3%)」が低い。

2. 強く実感するもの (3つまで)

(n)	医療	年金	公共事業 (道路、ダム等国土基盤整備)	警察	教育	公衆衛生 (ゴミ対策・感染症予防等)	子育て支援 (保育サービス等、子育て)	救急医療	介護	消防	防衛
R2年 (6000)	34.1	18.1	17.4	15.0	14.6	14.0	12.6	12.2	11.3	11.0	10.3
H31年 (6000)	34.7	18.0	17.5	15.8	14.3	14.6	10.3	12.5	11.3	11.9	10.3
H30年 (6000)	33.2	17.5	17.4	16.6	14.7	15.3	8.6	13.7	10.4	12.5	11.0

(n)	生活の保護 (障害や困窮)	防衛	地方への補助金	食料の安定供給・農業の発展	エネルギー (ガス等)の安定供給	国際協力 (ODA等)	スポーツ振興	科学技術研究	文化振興	特になし	平均回答項目数
R2年 (6000)	9.0	8.7	5.4	2.7	2.2	2.1	1.8	1.6	1.5	6.8	2.20
H31年 (6000)	10.0	9.1	5.1	2.1	2.4	2.3	1.6	1.7	1.2	8.6	2.26
H30年 (6000)	9.5	8.0	4.7	2.6	2.5	2.5	1.5	1.7	1.4	7.7	2.22

- ・「保育サービス等、子育て支援」が増加傾向。
- ・「救急医療」の「H30年 (13.7%)」が高い。
- ・「消防」の「R2年 (11.0%)」が低い。
- ・「食料の安定供給、農業の発展」の「H31年 (2.1%)」が低い。

Q22.支払われた税により、下記の公共サービスは賄われています。あなたの感覚に近いものをお選びください。(回答はひとつ)



※選択肢「払う税に比べて、公共サービスをとても受けている」は、H30年では「払う税以上に、公共サービスをとても受けている」

- ・「払う税に比べて、公共サービスを受けている」が増加傾向。
- ・「払う税と受ける公共サービスのバランスは同じ」「払う税に比べて、公共サービスをあまり受けていない」が減少傾向。
- ・「払う税に比べて、公共サービスを受けていない（あまり+受けていない+全く）」の「H30年（67.0%）」が高い。
- ・「払う税に比べて、公共サービスを全く受けていない」の「H31年（9.1%）」が低い。
- ・「払う税に比べて、公共サービスを受けている（とても+受けている+まあ）」の「H30年（14.8%）」が低い。

Q23.次の1～20リストを見て、あなたがもっと国に税を投入して強化して欲しい公共サービス、逆に減らしても良いと思う公共サービスをそれぞれいくつでもお選びください。(複数選択可)

1.国にもっと税を使って欲しい(いくつでも)

(n)	医療	年金	教育	保育サービス等、子育て支援	介護	防災	救急医療	公衆衛生(ゴミ対策・感染症予防等)	食料安定供給・農業の発展	エネルギー対策(石油・ガス等の安定供給、研究等)	科学技術研究
R2年(6000)	50.4	45.9	42.2	39.8	39.0	37.0	35.2	27.7	26.5	22.7	22.4
H31年(6000)	52.8	46.3	45.5	43.9	43.8	39.9	39.1	31.0	30.3	24.1	25.8
H30年(6000)	48.8	44.2	42.8	41.2	41.9	34.6	36.3	26.9	28.0	23.8	21.4

(n)	防衛	消防	警察	地方への補助金	公共事業(道路、ダム等国土基盤整備)	生活保護(障害や困窮時の生活支援)	文化振興	スポーツ振興	国際協力(ODA・技術)	特になし	平均回答項目数
R2年(6000)	19.5	19.5	18.8	18.7	17.3	16.9	11.5	9.0	7.2	3.3	5.45
H31年(6000)	21.1	23.4	20.9	21.6	16.6	17.8	12.7	11.0	6.9	3.4	5.94
H30年(6000)	22.8	21.2	19.6	18.6	14.5	16.1	11.6	9.7	6.6	3.5	5.50

- ・「公共事業」が増加傾向。
- ・「防衛」が減少傾向。
- ・全体的に、H31年が高い。

2.税を使うのは減らして欲しい(いくつでも)

(n)	国際協力(ODA・技術)	生活保護(障害や困窮時の生活支援)	防衛	スポーツ振興	公共事業(道路、ダム等国土基盤整備)	文化振興	地方への補助金	警察	年金	科学技術研究	保育サービス等、子育て支援
R2年(6000)	30.4	27.8	24.2	24.2	20.9	18.3	12.9	11.8	9.0	8.7	8.2
H31年(6000)	38.3	30.9	27.4	25.5	27.1	18.7	14.0	13.9	10.3	9.4	8.0
H30年(6000)	37.0	32.0	23.3	25.6	28.1	19.6	15.2	12.9	10.1	11.0	8.0

(n)	介護	エネルギー(石油・ガス等の安定供給、研究等)	医療	教育	食料安定供給・農業の発展	消防	公衆衛生(ゴミ対策・感染症予防等)	救急医療	防災	特になし	平均回答項目数
R2年(6000)	7.6	7.5	6.5	5.9	5.4	4.3	3.7	3.1	2.5	13.0	2.79
H31年(6000)	8.0	9.3	6.9	5.4	6.9	5.5	4.5	3.8	4.0	10.9	3.11
H30年(6000)	7.7	8.4	8.0	6.6	7.4	4.8	4.7	4.0	4.2	10.1	3.09

- ・「生活保護」「公共事業」「地方への補助金」「科学技術研究」「医療」「食料安定供給・農業の発展」「防災」が減少傾向。
- ・全体的に、R2年が低い。

Q24.次の文章は、日本の財政と社会保障制度に関するものです。それぞれ、どの程度ご存知かお聞かせください。社会保障制度とは、国民からの税や保険料による収入を使って、国が医療費や介護費の大半を負担する制度です。退職後の年金の支給や、子どもの出産・保育の支援なども行います。(回答は各ひとつ)

	(n)	知らない／聞いたことが			よく知っている／よく聞く		
		無い	ある				
1.日本は国の運営に必要なお金(予算)に対して収入(税収)が不足しています。そこで国債を発行して、主に日本国内から資金を調達し補填しています。	R2年(6000)	26.5	48.5	25.0			
	H31年(6000)	26.1	46.6	27.3			
	H30年(6000)	25.2	47.6	27.2			
2.地方政府等を含めた借金の総額は約1,300兆円で、日本のGDPの約2.4倍に相当します。日本以外の主要先進7カ国(G7)の地方政府等を含めた借金はGDPの約1.4倍未満です。日本の借金のGDP比率は先進国中最大です。	R2年(6000)	43.3	42.0	14.7			
	H31年(6000)	37.7	42.0	20.3			
	H30年(6000)	35.9	43.5	20.7			
3.国民一人当たりの借金は約710万円と計算されます。	R2年(6000)	41.6	43.4	15.0			
	H31年(6000)	38.4	43.5	18.1			
	H30年(6000)	36.7	45.7	17.7			
4.借金が増える最大の理由は社会保障費の増加です。寿命が延び高齢者人口が増えた結果、年金・医療・介護の支出が急速に増えています。	R2年(6000)	23.9	50.3	25.8			
	H31年(6000)	24.2	48.5	27.3			
	H30年(6000)	24.5	49.5	26.1			
5.現在の社会保障費のための借金は長期間かけて返していきます。子や孫の世代の税収も返済に充てられるので、将来世代に借金の付け回しをすることになります。	R2年(6000)	25.7	51.2	23.1			
	H31年(6000)	25.3	48.7	26.1			
	H30年(6000)	25.7	48.4	25.9			
6.近年、日本は年間予算の30%を社会保障に、25%を過去の借金返済に充てています。その結果、教育や防衛等、他の予算をほとんど増やせない状況です。	R2年(6000)	45.1	43.4	11.5			
	H31年(6000)	46.0	42.0	12.0			
	H30年(6000)	44.9	43.2	11.9			
7.2025年、人口が多い団塊世代が後期高齢者(75才以上)になります。社会保障に必要なお金が更に増える見込みです。	R2年(6000)	22.6	50.4	27.1			
	H31年(6000)	23.8	49.5	26.7			
	H30年(6000)	23.6	49.3	27.1			
8.2040年頃、人口が多い団塊ジュニア世代が65才以上になり、全人口の35%超が65才以上の高齢者になる見込みです。	R2年(6000)	27.2	50.4	22.4			
	H31年(6000)	30.2	48.6	21.2			
	H30年(6000)	28.8	49.8	21.4			
9.65~74才を前期高齢者、75才以上を後期高齢者と呼びます。政府データによれば後期高齢者の医療費は前期高齢者の5倍、介護費は10倍になります。	R2年(6000)	34.3	49.6	16.1			
	H31年(6000)	36.5	47.3	16.1			
	H30年(6000)	35.5	49.2	15.4			
10.現在、社会保障の充実・安定化と、そのための安定財源確保と財政健全化の同時達成を目指す「社会保障と税の一体改革」を行っています。	R2年(6000)	39.0	50.2	10.8			
	H31年(6000)	51.0	40.0	9.0			
	H30年(6000)	50.1	41.7	8.2			

※選択肢「2.地方政府等を含めた借金の総額は1,300兆円で、日本のGDPの約2.4倍に相当します。日本以外の主要先進7カ国(G7)の地方政府等を含めた借金はGDPの約1.4倍未満です。日本の借金は先進国中最大です。」は、H31年では「2.借金の総額は883兆円で、日本のGDPの約2.4倍に相当します。米国、英国等の借金はGDPの約1.2倍です。日本の借金は先進国中最大です。」、H30年では「2.借金の総額は865兆円で、日本のGDPの約2.3倍に相当します。米国、英国等の借金はGDPの約1.2倍です。日本の借金は先進国中最大です」

※選択肢「3.国民一人当たりの借金は約710万円と計算されます。」は、H31年では「3.国民一人当たりの借金は約700万円と計算されます。4.人家族の世帯では約2,798万円の借金となります。」、H30年では「3.国民一人当たりの借金は約668万円と計算されます。3.人家族の世帯では約2000万円の借金となります」

※選択肢「8.2040年頃、人口が多い団塊ジュニア世代が65才以上になり、全人口の35%超が65才以上の高齢者になる見込みです。」は、H31年H30年では「8.2060年頃、人口が多い団塊ジュニア世代が65才以上になり、全人口の40%が65才以上の高齢者になる見込みです。」

※選択肢「10.現在、社会保障の充実・安定化と、そのための安定財源確保と財政健全化の同時達成を目指す「社会保障と税の一体改革」を行っています」は、H31年では「10.消費税による税収はすべて社会保障に使われています。平成29年度の税収58兆円のうち、消費税収は17兆円です。」、H30年では「10.消費税による税収はすべて社会保障に使われています。平成28年度の税収58兆円のうち、消費税収は17兆円です」

・「2」「3」で「知らない／聞いたことが無い」が増加傾向。
 ・「10」で「よく知っている／よく聞く」が増加傾向。

2.インパクトが弱い情報 (いくつでも)

	(n)	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年	2075年	2080年	2085年	2090年	2095年	2100年
現在、社会保障の充実・安定化と、そのための安定財源確保と財政健全化の同時達成を目指す「社会保障と税の一体改革」を行っています。	(6000)	38.3	27.2	24.4	21.2	21.1	20.9	19.2	19.1	18.3	15.4	17.9	2.74					
日本は国の運営に必要なお金(予算)に対して収入(税収)が不足しています。そこで国債を発行して、主に日本国内から資金を調達して補填しています。	(6000)	29.0	29.7	20.3	23.2	21.5	18.2	20.4	20.4	19.9	16.2	21.7	2.79					
近年、日本は年間予算の30%を社会保障費に、25%を過去の借金返済に充てています。その結果、教育や防衛等、他の予算をほとんど増やせない状況です。	(6000)	28.2	29.4	20.6	22.8	21.0	18.1	18.6	20.4	19.5	15.8	20.1	2.68					

※選択肢「地方政府等を含めた借金の総額は1,300兆円で、日本のGDPの約2.4倍に相当します。日本以外の主要先進7カ国(G7)の地方政府等を含めた借金はGDPの約1.4倍未満です。日本の借金は先進国中最大です。」は、H31年では「借金の総額は883兆円で、日本のGDPの約2.4倍に相当します。米国、英国等の借金はGDPの約1.2倍です。日本の借金は先進国中最大です。」、H30年では「借金の総額は865兆円で、日本のGDPの約2.3倍に相当します。米国、英国等の借金はGDPの約1.2倍です。日本の借金は先進国中最大です」

※選択肢「国民一人当たりの借金は約710万円と計算されます。」は、H31年では「国民一人当たりの借金は約700万円と計算されます。4人家族の世帯では約2,798万円の借金となります。」、H30年では「国民一人当たりの借金は約668万円と計算されます。3人家族の世帯では約2000万円の借金となります」

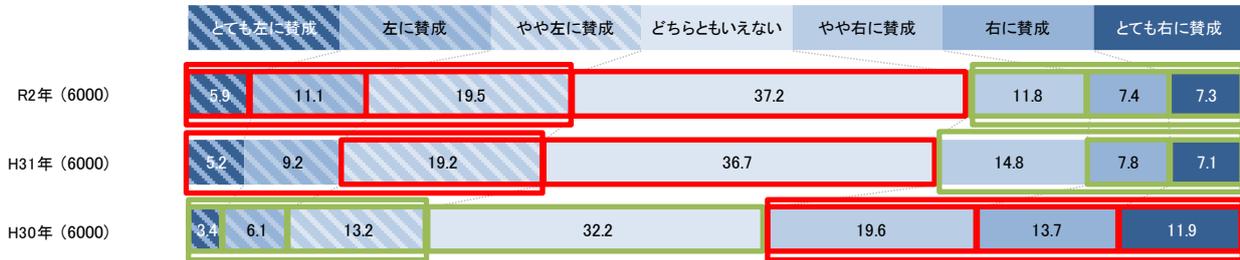
※選択肢「2040年頃、人口が多い団塊ジュニア世代が65才以上になり、全人口の35%超が65才以上の高齢者になる見込みです。」は、H31年 H30年では「2060年頃、人口が多い団塊ジュニア世代が65才以上になり、全人口の40%が65才以上の高齢者になる見込みです。」

※選択肢「現在、社会保障の充実・安定化と、そのための安定財源確保と財政健全化の同時達成を目指す「社会保障と税の一体改革」を行っています」は、H31年では「消費税による税収はすべて社会保障に使われています。平成29年度の税収58兆円のうち、消費税収は17兆円です。」、H30年では「消費税による税収はすべて社会保障に使われています。平成28年度の税収58兆円のうち、消費税収は17兆円です」

- ・「地方政府等を含めた借金の総額は1,300兆円で、日本のGDPの約2.4倍に相当します。日本以外の主要先進7カ国(G7)の地方政府等を含めた借金はGDPの約1.4倍未満です。日本の借金のGDP比率は先進国中最大です。」の「R2年(24.4%)」が高い。
- ・「国民一人当たりの借金は約710万円と計算されます。」の「R2年(20.9%)」が高い。
- ・「2040年頃、人口が多い団塊ジュニア世代が65才以上になり、全人口の35%超が65才以上の高齢者になる見込みです。」の「H31年(20.4%)」が高い。
- ・「日本は国の運営に必要なお金(予算)に対して収入(税収)が不足しています。そこで国債を発行して、主に日本国内から資金を調達して補填しています。」の「R2年(27.2%)」が低い。
- ・「近年、日本は年間予算の30%を社会保障費に、25%を過去の借金返済に充てています。その結果、教育や防衛等、他の予算をほとんど増やせない状況です。」の「R2年(21.2%)」が低い。

Q26.以下の5つの記述について、あなたの意見に近いものを選んでください。(回答は各ひとつ)

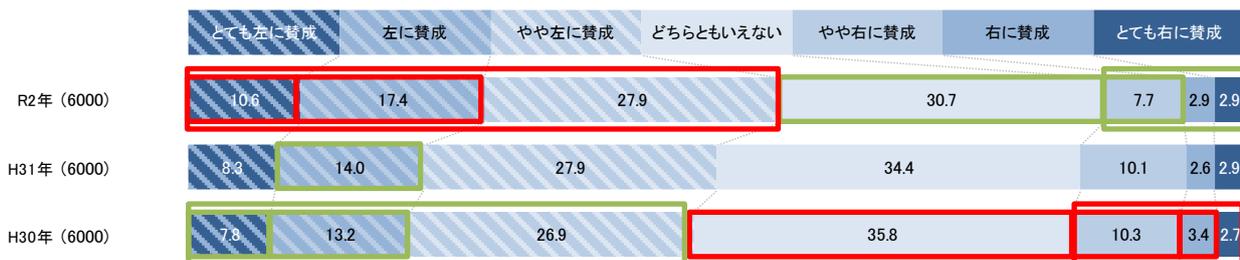
- 1.左-日本の財政が苦しくなった主な理由は社会保障費の増加である
 右-日本の財政が苦しくなった主な理由は社会保障費の増加ではない



※選択項目「1.左-日本の財政が苦しくなった主な理由は社会保障費の増加である-右-日本の財政が苦しくなった 主な理由は社会保障費の増加ではない」は、H30年では「1.左-日本の財政が苦しくなった主な理由は社会保障費の増加である-右-日本の財政が苦しくなった 理由は必ずしも社会保障費の増加だけではない」

- ・「とても左に賛成」「左に賛成」が増加傾向。
- ・「左に賛成(とても+左+やや)」が増加傾向。
- ・「やや右に賛成」が減少傾向。
- ・「右に賛成(やや+右+とても)」が減少傾向。
- ・「右に賛成」の「H30年(13.7%)」が高い。
- ・「とても右に賛成」の「H30年(11.9%)」が高い。
- ・「どちらともいえない」の「H30年(32.2%)」が低い。

- 2.左-社会保障制度の充実を望む
 右-社会保障制度に必ずしも充実を望まない



- ・「とても左に賛成」「左に賛成」が増加傾向。
- ・「左に賛成(とても+左+やや)」が増加傾向。
- ・「どちらともいえない」が減少傾向。
- ・「やや右に賛成」が減少傾向。
- ・「右に賛成(やや+右+とても)」が減少傾向。
- ・「右に賛成」の「H30年(3.4%)」が高い。

3.左-社会保障に使われるなら、私は税や保険料を今より多く払っても良い
 右-社会保障に使われるとはいえ、私は税や保険料を今より多く払いたくない



- ・「とても左に賛成」「左に賛成」が増加傾向
- ・「左に賛成（とても+左+やや）」が増加傾向。
- ・「やや左に賛成」の「R2年（16.0%）」が高い。
- ・「どちらともいえない」の「R2年（37.5%）」が低い。
- ・「右に賛成（やや+右+とても）」の「R2年（38.4%）」が低い。

4.左-今後、経済成長によって税収は増えると思う
 右-今後、経済成長によって税収は増えないと思う



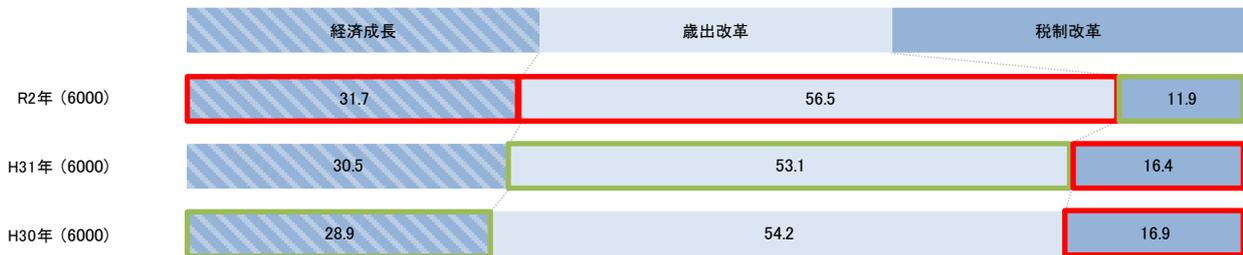
- ・「とても左に賛成」が増加傾向。
- ・「右に賛成」「とても右に賛成」が増加傾向。
- ・「右に賛成（とても+右+やや）」が増加傾向。
- ・「どちらともいえない」が減少傾向。

5.左財源を補うために、国は借金をしても良い
右財源を補うためとはいえ、国は借金をすべきでない



- ・「とても左に賛成」「やや左に賛成」が増加傾向。
- ・「左に賛成（とても+左+やや）」が増加傾向。
- ・「右に賛成（とても+右+やや）」が減少傾向。
- ・「左に賛成」の「R2年（4.5%）」が高い。
- ・「右に賛成」の「H30年（13.4%）」が高い。
- ・「やや右に賛成」の「R2年（21.9%）」が低い。

Q27.財政状況を改善するには、「経済成長によって税収を増やしながら、支出の無駄の削減や効率化を行い（歳出改革）、必要な増税を実施する（税制改革）」この3つを同時に行っていく必要があります。その中で、もし一つ選ぶとしたら、あなたはどれが現実的な策だと思いますか。（回答は各ひとつ）



- ・「経済成長」が増加傾向。
- ・「税制改革」の「R2年（11.9%）」が低い。

Q28.あなたは、Q24にあった10個の日本の財政と社会保障費に関する記述のような情報を、今後も知っておきたいと思いませんか。（回答はひとつ）



- ・「大いに知っておきたい」の「R2年（17.2%）」が低い。

Q29.あなたの日ごろの情報源をすべてお選びください。また、「財政や社会保障、政治・経済等」に関する情報源も同様にすべてお選びください。(複数選択可)

1. 日ごろの情報源

	(n)	テレビ	インターネット広告	ニュース・情報サイト、ニュースアプリ	新聞	友人・知人の話	ラジオ	家族・親せきの話	SNSからの情報	雑誌	官公庁や地方自治体の広報誌	交通広告	屋外広告	該当する分野のホームページ	フリーペーパー
R2年	(6000)	84.1	44.7	44.4	40.1	19.0	17.5	17.3	16.8	13.4	12.4	12.3	8.5	7.6	6.5
H31年	(6000)	86.1	31.6	48.9	44.4	21.0	19.5	19.0	18.5	15.1	19.4	9.2	7.3	12.4	8.6

	(n)	会議・労働先イベントや集会	町内会・自治会など	専門家による講演・講座	該当する分野の専門書	官公庁や地方自治体のホームページ	学校の授業	パンフレット、ポスターなど	その他のイベント	SNS発信している官公庁や地方自治体	検索サイト	その他	入手していない	平均あたりの回答項目数
R2年	(6000)	5.9	4.0	3.6	3.2	2.0	2.0	1.9	1.7	0.8	-	0.1	3.9	3.70
H31年	(6000)	6.9	5.1	6.1	5.4	-	3.4	8.7	3.7	-	27.6	0.2	3.4	4.28

- ※選択肢「官公庁(国)や地方自治体(都道府県、市町村)の広報誌」は、H31年では「都道府県や市町村の広報誌」
- ※選択肢「インターネット広告」は、R2年では「インターネット広告 (Yahoo! JAPANのような検索サイトのトップページに掲載されたり、キーワード検索に連動して配信される広告、また動画広告など)」とした。
- ※選択肢「ニュース・情報サイト、ニュースアプリ」は、R2年では「ニュース・情報サイト、ニュースアプリ (東洋経済オンライン、Yahoo!ニュース、LINE NEWSなどのパソコンやスマートフォンから閲覧可能なニュース)」とした。
- ※選択肢「交通広告」は、R2年では「交通広告 (電車やバス、タクシーなどのスペースを利用した広告)」とした。
- ※選択肢「屋外広告」は、R2年では「屋外広告 (電柱広告、広告塔、ネオン、電気看板など)」とした。
- ※選択肢「官公庁(国)や地方自治体(都道府県、市町村)のホームページ」は、R2年より追加。
- ※選択肢「官公庁(国)や地方自治体(都道府県、市町村)が発信しているSNS」は、R2年より追加。
- ※選択肢「検索サイト」は、R2年では削除。

・全体的に「R2年」が低い。

2. 「財政や社会保障、政治・経済等」に関する情報源

	(n)	テレビ	新聞	ト、ニュース・情報サイト	インターネット広告	の官公庁や地方自治体の広報誌	ラジオ	SNSからの情報	家族・親せきの話	友人・知人の話	雑誌	該当する分野のホームページ	交通広告	専門家による講演・講座など	勤務先のイベントや会議
R2年	(6000)	69.4	34.3	32.2	25.1	10.3	9.1	8.1	7.4	7.2	6.1	4.8	3.3	3.2	2.7
H31年	(6000)	71.0	37.3	35.6	12.3	12.0	9.2	7.9	7.8	7.2	6.7	6.8	2.1	4.2	3.2

	(n)	書該当する分野の専門	屋外広告	フリーペーパー	の官公庁や地方自治体のホームページ	の町内会・自治会など	学校の授業	その他のイベント	SNSが発信している自治体	官公庁や地方自治体	パンフレット、ポスター、リーフレット	検索サイト	その他	入手していない	平均回答項目数
R2年	(6000)	2.4	2.2	2.0	1.6	1.5	1.4	0.9	0.7	0.7	-	0.1	8.1	2.36	
H31年	(6000)	3.6	1.7	2.0	-	1.7	2.0	1.6	-	2.3	13.1	0.2	7.7	2.51	

※選択肢「官公庁(国)や地方自治体(都道府県、市町村)の広報誌」は、H31年では「都道府県や市町村の広報誌」

※選択肢「インターネット広告」は、R2年では「インターネット広告 (Yahoo! JAPANのような検索サイトのトップページに掲載されたり、キーワード検索に連動して配信される広告、また動画広告など)」とした。

※選択肢「ニュース・情報サイト、ニュースアプリ」は、R2年では「ニュース・情報サイト、ニュースアプリ (東洋経済オンライン、Yahoo!ニュース、LINE NEWSなどのパソコンやスマートフォンから閲覧可能なニュース)」とした。

※選択肢「交通広告」は、R2年では「交通広告 (電車やバス、タクシーなどのスペースを利用した広告)」とした。

※選択肢「屋外広告」は、R2年では「屋外広告 (電柱広告、広告塔、ネオン、電気看板など)」とした。

※選択肢「官公庁(国)や地方自治体(都道府県、市町村)のホームページ」は、R2年より追加。

※選択肢「官公庁(国)や地方自治体(都道府県、市町村)が発信しているSNS」は、R2年より追加。

※選択肢「検索サイト」は、R2年では削除

- ・「新聞」「ニュース・情報サイト、ニュースアプリ」「官公庁や地方自治体の広報誌」「該当分野のホームページ」「専門家による講演・講座など」「該当分野の専門書」「その他のイベント」「パンフレット、リーフレット、ポスターなど」の「R2年」が低い。
- ・「入手していない」は、「H31年(7.7%)」から「R2年(8.1%)」に増加。

Q30.あなたは、日本の財政、予算、税のしくみ、税の使い道等を理解してもらうために、どのような機会を利用しての取り組み（広報活動）が必要だと思いますか。（複数選択可）

	(n)	テレビ	新聞	インターネット広告	ニュース・情報サイト、ニュースアプリ	SNSからの情報	官公庁や地方自治体の広報誌	ラジオ	学校の授業	交通広告	雑誌	専門家による講演・講座など	該当する分野のホームページ	屋外広告	
R2年	(6000)	76.7	36.3	31.3	30.9	17.8	17.1	15.3	11.1	10.9	9.3	7.3	7.0	5.9	
H31年	(6000)	80.5	42.5	-	-	20.3	26.4	16.8	24.6	14.8	9.8	10.3	8.9	14.3	5.4

	(n)	フリーペーパー	町内会・自治会などのイベントや集会	友人・知人の話	勤務先のイベントや会議	家族・親せきの話	官公庁や地方自治体のホームページ	該当する分野の専門書	その他のイベント	SNSが発信している官公庁や地方自治体	パンフレット、ポスターなど	その他	取り組み（広報活動）は必要ない	平均回答項目数
R2年	(6000)	5.7	5.4	4.9	4.6	4.3	2.9	2.5	2.2	1.7	1.5	0.7	5.6	3.13
H31年	(6000)	-	-	-	-	-	0.5	15.9	2.7	-	0.3	0.9	6.0	2.95

- ※選択肢「LINE、Twitter、Facebook等のSNSからの情報」は、H31年では「LINE、Twitter、Facebook等のSNS」
- ※選択肢「官公庁（国）や地方自治体（都道府県、市町村）の広報誌」は、H31年では「都道府県や市町村の広報誌」
- ※選択肢「パンフレット、リーフレット、ポスターなど」は、H31年では「ポスターやリーフレットなど」
- ※選択肢「学校の授業」は、H31年では「小・中・高等学校の授業」と「大学の講義」
- ※選択肢「官公庁（国）や地方自治体（都道府県、市町村）のホームページ」は、H31年では「その他の国の公的機関のホームページ」と「地方自治体のホームページ」
- ※選択肢「インターネット広告（Yahoo! JAPANのような検索サイトのトップページに掲載されたり、キーワード検索に連動して配信される広告、また動画広告など）」は、R2年より追加。
- ※選択肢「ニュース・情報サイト、ニュースアプリ（東洋経済オンライン、Yahoo!ニュース、LINE NEWSなどのパソコンやスマートフォンから閲覧可能なニュース）」は、R2年より追加。
- ※選択肢「フリーペーパー」は、R2年より追加。
- ※選択肢「町内会・自治会などのイベントや集会」は、R2年より追加。
- ※選択肢「友人・知人の話」は、R2年より追加。
- ※選択肢「勤務先のイベントや会議」は、R2年より追加。
- ※選択肢「家族・親せきの話」は、R2年より追加。
- ※選択肢「その他のイベント」は、R2年より追加。
- ※選択肢「官公庁（国）や地方自治体（都道府県、市町村）が発信しているSNS」は、R2年より追加。

・全体的に「R2年」が低い。

財務省委託

広報資料の改善を目的とした各種調査
【会場調査報告書】

令和2年3月

株式会社サーベイリサーチセンター

目 次

1 調査概要	3
1-1 調査の目的	4
1-2 調査の設計	4
1-3 分析方法	5
1-4 調査物件	6
2 調査結果	12
2-1 回答者のプロフィール	13
2-2-1 結果の詳細 ※子ども（調査対象者）	21
2-2-2 結果の詳細 ※保護者（調査対象者）	28
2-2-3 結果の詳細 ※その他	31

1 調査概要

1-1 調査の目的

- 広報資料を呈示して情報量の適切性、読み易さ、わかりやすさ、内容の理解度について評価を得て、今後の資料の改善に資する。

1-2 調査の設計

- 地 域 東京首都圏
- 調査方法 会場集合調査
広報資料を呈示し、調査員が記入用紙およびヒアリングシートを用いて対象者（子どもおよび保護者）から意見を聴取する。
- 調査内容 『「財政学習教材」日本の財政を考えよう』令和元年 12 月版を呈示して「読み易さ」「難易度」「情報の量の適切性」「新たな発見の有無」「興味喚起度」「ページやチャートごとの評価」他、内容の伝わり具合や改善への意見を採取する。
- 調査対象 首都圏に住む小中学生の男女 23 名（小学生は高学年）
※調査には親も同席
WEB アンケートモニターに対しリクルート調査を実施。条件に合致する対象者に依頼。下記学年別の割付・回収を行った。

目標回収サンプル割り付け

地域		小学生	中学生			総計
		高学年	1年生	2年生	3年生	
1	首都圏	6	6	6	6	24
計		6	6	6	6	24

回収サンプル数

地域		小学生	中学生			総計
		高学年	1年生	2年生	3年生	
1	首都圏	8	6	4	5	23
計		8	6	4	5	23

- 実施期間 2020年2月29日、3月1日
- 実施場所 東京都荒川区内の調査会場
- 実施機関 株式会社サーベイリサーチセンター

1-3 分析方法

- 集計は、全質問についての全サンプルの回答結果と、学年別のブレイクダウンを採用。
- 報告書は、全質問についての全サンプルの回答結果、必要に応じて学年別の結果、および保護者の結果を示すチャートとコメントを加え、冒頭に要約を入れている。

1-4 調査物件

提示資料（パンフレット）

財政学習教材

日本の財政を考えよう

国のお財布事情を知っていますか？

- ① 私たち一人ひとりの将来にかかわる日本の「おカネ」の問題について、一緒に考えてみませんか。



令和元年12月

目次

1. 「財政」とは	2
2. 国の「歳出」	3
3. 「社会保障」の支出	4
4. 「社会保障」以外の主な支出	5
5. 国の「歳入」	7
6. 「税」の種類	8
7. 国の「歳入」と「税収」の推移	9
8. 国の「借金」の状況	10
9. 「借金」の国際比較	11
10. 「借金」が積み上がった原因	13
11. 「借金」の問題点	14
12. 高齢化と社会保障給付の見通し	15
13. 社会保障の給付と負担の関係	16

1

1. 「財政」とは

- 私たちが健康で豊かな生活を送るためには、国や都道府県、市区町村などから、様々な「公共サービス」を提供してもらう必要があります。
- しかし、国などが公共サービスを提供するにはお金が必要です。そのためのお金を国民みんなが出し合って（税金）、みんなの生活に役立つことに使っていく活動を「財政」といいます。

(公共サービスの例)

<p>① 学校で勉強するために</p> <p>公立学校に通う児童生徒 1人当たりの教育費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校：約93万円 ・ 中学校：約108万円 ・ 高等学校：約120万円 	<p>② 少ない負担で治療を受けられるようにするために</p> <p>医療費（国民1人当たり）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 64歳以下：約3万円 ・ 65～74歳：約8万円 ・ 75歳以上：約35万円
<p>③ 生活に必要な道路、洪水を防ぐ堤防などを整備するために</p> <p>・ 17.6兆円 ⇒ 国民1人当たり約14.0万円</p>	<p>④ 町をきれいにするために</p> <p>・ 2.3兆円 ⇒ 国民1人当たり約1.8万円</p>
<p>⑤ 犯罪から守るために</p> <p>・ 3.3兆円 ⇒ 国民1人当たり約2.6万円</p>	<p>⑥ 火事から守るために</p> <p>・ 2.0兆円 ⇒ 国民1人当たり約1.6万円</p>

(注) ①～②は平成28年度、③～⑥は平成29年度の金額。

国の1年間の「支出」はどうなっているの？



2

2. 国の「歳出」

- 国の1年間の支出を「歳出」といいます。
- 内訳を見ると、医療、年金、介護などの費用である「社会保障」が約3割、「借金の返済と利息」が約2割となっています。



「社会保障」の中身はどうなっているの？



3

3. 「社会保障」の支出

- 国が使うお金（歳出）のうち、最も大きい割合を占める支出は、社会保障の34兆円で、医療、年金、介護、生活保護、子ども・子育てのための費用などに使われています。

12兆円 医療	<p>怪我や入院をしても、少ない自己負担（現役世代が3割、高齢者が1割～2割）で、治療を受けられるよう支援しています。</p>	
12兆円 年金	<p>高齢者に支払われる年金の一部を国が負担し、老後の生活を支援しています。</p>	
3兆円 介護	<p>介護認定を受ければ、原則1割の自己負担で、介護サービスを受けられるよう支援しています。</p>	
3兆円 生活保護	<p>病気や障害で働けず、生活に困っている人などが最低限度の生活を送れるよう支援しています。</p>	
2兆円 子ども・子育て	<p>保育所を整備したり、子育て世代に給付金を交付することで、子どもを安心して生み、育てることができるよう支援しています。</p>	

(注) 内訳の金額は一部重複している場合があります。

「社会保障」以外の支出はどうなっているの？



4

4. 「社会保障」以外の主な支出

- 「社会保障」の次に大きな支出として、どこでも一定のサービス水準が維持されるように、国が調整して都道府県と市区町村に配分する「地方への交付金」に16兆円が使われています。
- また、道路整備などの公共事業に7兆円、国を守ってくれる自衛隊の運営に5兆円、学校教育などに必要な費用に4兆円が使われています。

16兆円
地方への交付金

地方団体が提供する警察や消防、ごみ収集などの公共サービスについて、全国どこでも一定のサービス水準が維持されるよう、国が調整して必要な費用を配分しています。

7兆円
公共事業

道路や河川の堤防、ダムなどの建設・整備に使われています。

5兆円
防衛

戦争や災害が起きたときに日本の国民や領土を守る役目がある自衛隊の運営に使われています。

4兆円
教育

小中学校の児童生徒が使用する教科書の無料配布や、教職員の給料の一部負担など、教育に関する様々な支出をしています。

5

- このほか、科学技術の研究や食料・エネルギーの安定的な供給、開発途上国への支援など様々なものに多くのお金が使われています。

1.4兆円
科学技術振興

人工衛星を飛ばすためのロケット開発や、新しいエネルギーや防災技術の開発など、科学技術の発展のために使われています。

1.0兆円
食料安定供給

おいしい農産物を食卓に安定的に届けたり、農業の生産性を高めるために使われています。

1.0兆円
エネルギー対策

省エネルギーや再生可能エネルギーの技術開発や、石油・天然ガスなどを安定的に送るための調査研究などに使われています。

0.5兆円
国際協力 (ODA)

開発途上国に資金援助をして、橋や道路を整備したり、子供たちが医療や教育を受けられるようにしています。

国の1年間の「収入」はどうなっているの？

6

5. 国の「歳入」

- 国の1年間の収入を「歳入」といいます。
- 国の歳入のうち、税収は約3分の2にとどまり、残りの約3分の1は「新たな借金」で構成されています。



「税」の種類はどうなっているの？

7

6. 「税」の種類

- 代表的な「税」は、所得税、消費税、法人税であり、これらの合計で税収の大半を占めています。
- このほかにも、揮発油税、相続税、酒税、たばこ税などの様々な税があります。

① 雇人の給料などから払う
所得税 (20兆円)

② 買い物をするときに払う
消費税 (19兆円)

③ 会社が利益から払う
法人税 (13兆円)

④ ガソリンなどを買うときに払う
揮発油税 (2.3兆円)

⑤ 財産を相続するときに払う
相続税 (2.2兆円)

⑥ お酒やたばこを買うときに払う
酒税 (1.3兆円)
たばこ税 (0.9兆円)

国の「歳出」と「税収」の推移を見てみよう！

8

10. 「借金」が積み上がった原因

- 1990年度と現在の歳出・歳入を比べてみると、「社会保障」の費用が約3倍に伸びている一方で、税収などの収入は伸び悩んでいます。
- こうした中、伸び続ける「社会保障」の費用などをまかなうために、国は毎年、新たな借金を積み重ねてしまいました。



(注) それぞれの年度の当初予算で比較しています。

「借金」にはどんな問題があるの？

13

11. 「借金」の問題点

- 今の世代が借金をして、自分たちのために支出を行うと、子どもや孫、ひ孫など、将来の世代に重いツケを回すことになります。

受益と負担のアンバランス

- 緩い財政規律のもとでは、財政支出の中身が中長期的な経済成長や将来世代の受益に資するかのチェックが甘くなりやすいです。



将来の世代における望ましくない再分配

- 将来世代のうち国債保有層は償還費などを受け取る一方、それ以外の国民は社会保障関係費などの抑制や増税による税負担を被ることになりかねません。
- また、将来世代は自ら決定に関与できなかったことに税負担などを求められ、望ましくない再分配が生じます。



財政の硬直化による政策の自由度の減少

- 経済危機時や大規模な自然災害時の機動的な財政上の対応余地が狭められてしまいます。



「社会保障」の費用はこれからどうなっていくの？

14

12. 高齢化と社会保障給付の見通し

- 日本は他国よりも早く高齢化が進んでおり、将来の社会保障の給付に必要な費用は、税収を生み出す元となる経済活動の規模 (GDP) を大きく上回って、急速に増えていくと見込まれています。



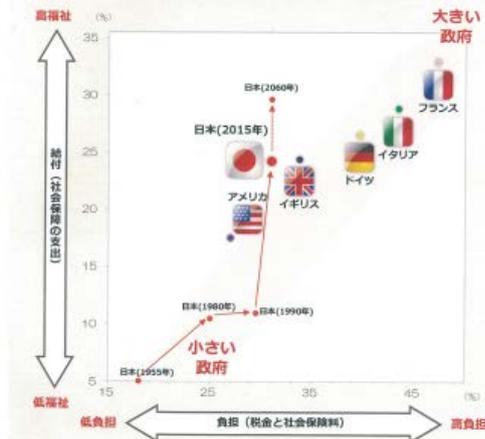
社会保障制度はどうすれば維持できるの？

15

13. 社会保障の給付と負担の関係

- 主要先進国に比べて、日本の社会保障は「給付」(社会保障の支出)と「負担」(税金と社会保険料)のバランスが取れておらず、その状況は今後もさらに進んでいくと見込まれています。
- 高齢化が進行する中での給付と負担のバランスについては、引き続き、国民全体で話し合っていくことが必要です。皆さんも社会保障の給付と負担を今後どうしていくか、考えてみましょう。

社会保障の給付と負担の関係 (÷ GDP)



16

記入用紙

「日本の財政を考えよう」 パンフレットの読解に関するアンケート 記入用紙 (保護者さま向け)

入力欄にはご記入を、選択肢のあるものにはあてはまるものに○をおつけください
まずはじめにご回答者さま(保護者さま)とお子さまのお名前やご年齢等をおうかがい
します。

ご回答者さま(保護者さま)とお子さまのお名前をご記入いただき、下の項目にそれぞれ
お答えください

	ご回答者さま (保護者さま)	お子さま
お名前 (カタカナ)	様	様
性別	1.男性 2.女性	1.男性 2.女性
ご年齢	20代 30代 40代 50代 60代以上	____歳
学校 学年	—	学校：1.公立 2.私立 学年：1.小学__年生 2.中学__年生
同居家族 (複数回答)	1.配偶者 2.子ども ※本日ご同棲しないお子さま以外の人数と年齢をご記入ください。 2-1.兄 ()名 2-2.弟 ()名 2-3.姉 ()名 2-4.妹 ()名 2-5.その他 ()名 ()歳 ()歳 ()歳 ()歳 ()歳 ()歳 ()歳 ()歳 ()歳 ()歳 ()歳 ()歳 ()歳 ()歳 ()歳 3.父親 (配偶者の父親を含む) ※お子さまからみておじいさま 4.母親 (配偶者の母親を含む) ※お子さまからみておばあさま 5.祖父母 6.孫 7.その他 ()	

1

おふたりの「日ごろの情報源」や「財政、政治等の情報源」についてお答えください

	ご回答者さま (保護者さま)	お子さま
日ごろの 情報源	1.テレビ (ニュース番組) 2.テレビ (バラエティ番組) 3.インターネット広告 4.ニュース・情報サイト、ニュースアプリ 5.新聞 6.雑誌 7.ラジオ (国) や地方自治体 (事務職員、市町村) のホームページ 8.家族・親戚の話し 9.友人・知人の話し 10.市内会・自治会などのイベントや集会 11.LINE、Twitter、Facebook等のSNSからの情報 12.学校の授業 13.課外授業 14.その他 ()	1.テレビ (ニュース番組) 2.テレビ (バラエティ番組) 3.インターネット広告 4.ニュース・情報サイト、ニュースアプリ 5.新聞 6.雑誌 7.ラジオ (国) や地方自治体 (事務職員、市町村) のホームページ 8.家族・親戚の話し 9.友人・知人の話し 10.市内会・自治会などのイベントや集会 11.LINE、Twitter、Facebook等のSNSからの情報 12.学校の授業 13.課外授業 14.その他 ()
財政、政治等 の情報源	上記の選択肢番号をご記入ください。	上記の選択肢番号をご記入ください。

ご回答者さま(保護者さま)と配偶者さまの就労状況や家庭環境等についておうかがい
します。

ご回答者さま(保護者さま)と配偶者さまについて、下の項目にそれぞれお答えください

	ご回答者さま (保護者さま)	配偶者さま ※別紙で「就業票」に○を付けた方のみ回答
就労状況等	1.フルタイムで就労 2.パート/7割 [※] で就労 3.専業主婦 (主夫) 4.その他 ()	1.フルタイムで就労 2.パート/7割 [※] で就労 3.専業主婦 (主夫) 4.その他 ()
お子さまと 接する時間	学校のある日 約__時間 学校のない日 約__時間	学校のある日 約__時間 学校のない日 約__時間

2

つづいて、財政に関する興味や関心、また現在の知識等について質問します。

	ご回答者さま					配偶者さま					お子さま				
日本の財政に関する興味・関心	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	
	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

日本の財政に関する以下の内容について、それぞれ「内容自体を知らない」から「内容を人に説明できるくらい詳しい」まで、どの程度ご存知ですか。
あてはまるものをそれぞれお選びください。(○はそれひとつ)

ご回答者さま (保護者さま)	内容自体を知らない	内容を聞いたことがある程度	内容を要知知っている	内容を人に説明できる
1. 国の財政	1	2	3	4
2. 国の予算の使われ方 (歳出)	1	2	3	4
3. 国の社会保障の内訳や割合	1	2	3	4
4. 国の社会保障以外の主な歳出	1	2	3	4
5. 国の歳入 (税収や借金)	1	2	3	4
6. 税金の種類やその割合	1	2	3	4
7. 国の借金の状況	1	2	3	4
8. 国の借金が積み上がった原因	1	2	3	4
9. 国の借金の問題点	1	2	3	4
10. 高齢化による日本の財政への影響	1	2	3	4
11. 社会保障の給付と負担の関係	1	2	3	4

次ページ以降はパンフレットをご確認いただいた後にご回答頂きます。

3

それでは、再度財政に関するご質問をさせていただきます。(パンフレット確認後)

	ご回答者さま					配偶者さま					お子さま				
日本の財政に関する興味・関心	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	
	5	4	3	2	1	—	—	—	5	4	3	2	1	—	

日本の財政に関する以下の内容について、それぞれ「内容自体を知らない」から「内容を人に説明できるくらい詳しい」まで、どの程度ご存知ですか。
あてはまるものをそれぞれお選びください。(○はそれひとつ)

ご回答者さま (保護者さま)	内容自体を知らない	内容を聞いたことがある程度	内容を要知知っている	内容を人に説明できる
1. 国の財政	1	2	3	4
2. 国の予算の使われ方 (歳出)	1	2	3	4
3. 国の社会保障の内訳や割合	1	2	3	4
4. 国の社会保障以外の主な歳出	1	2	3	4
5. 国の歳入 (税収や借金)	1	2	3	4
6. 税金の種類やその割合	1	2	3	4
7. 国の借金の状況	1	2	3	4
8. 国の借金が積み上がった原因	1	2	3	4
9. 国の借金の問題点	1	2	3	4
10. 高齢化による日本の財政への影響	1	2	3	4
11. 社会保障の給付と負担の関係	1	2	3	4

最後に本日お子さまがパンフレットをお読みになって、財政に関する知識が身に付いたと
思いますか。

	お子さま				
日本の財政に関する知識	とても身に付いた	少し身に付いた	あまり身に付いた	まったく身に付かなかった	まったく身に付かなかった
	5	4	3	2	1

4

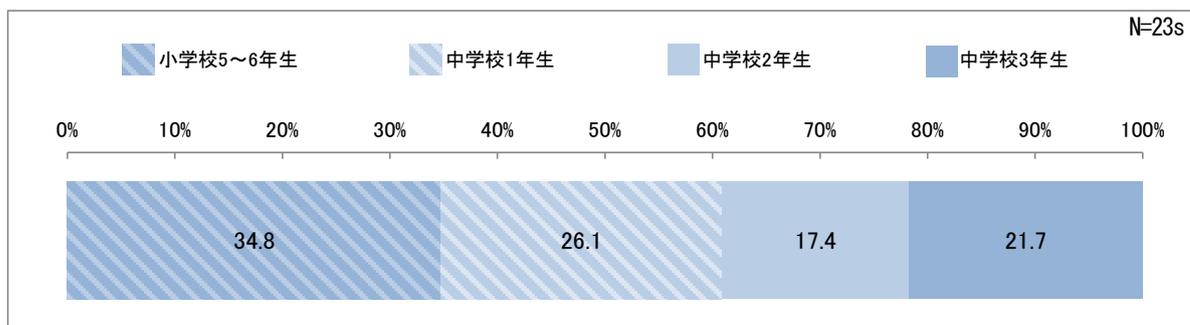
2 調査結果

2-1 回答者のプロフィール

・有効回答総数は23サンプル、回答者のプロフィールは以下の通り。

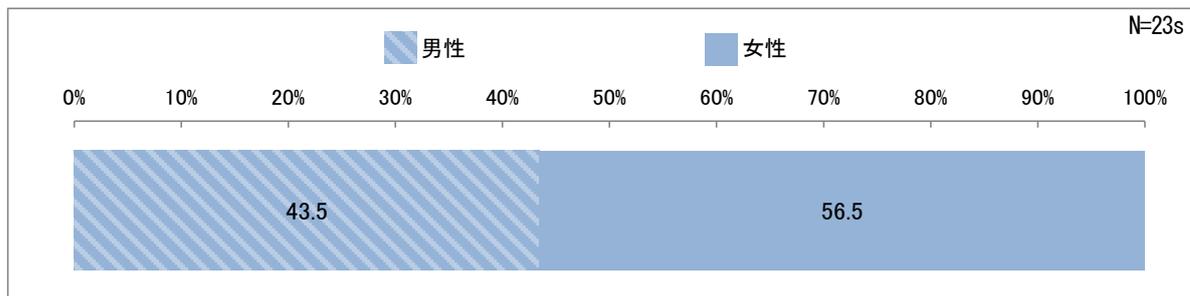
子ども（調査対象者）

■ 学年



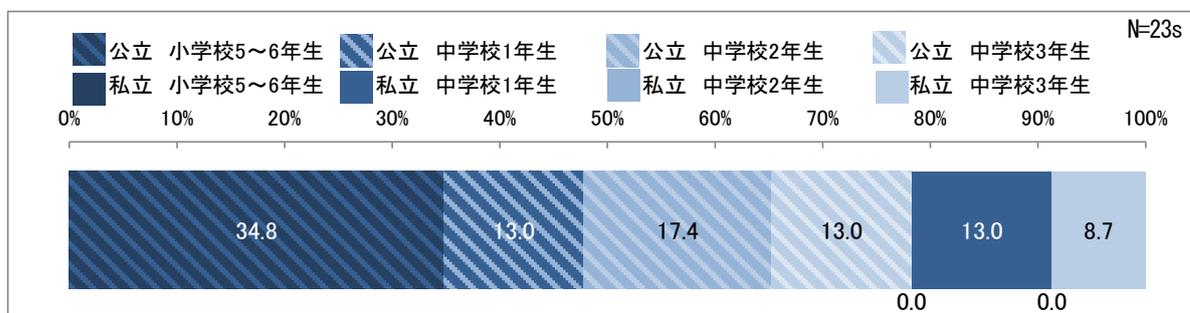
・「小学校5~6年生」が34.8%、「中学1年生」が26.1%、「中学2年生」が17.4%、「中学3年生」が21.7%。

■ 性別



・「男性」が43.5%で「女性」が56.5%。

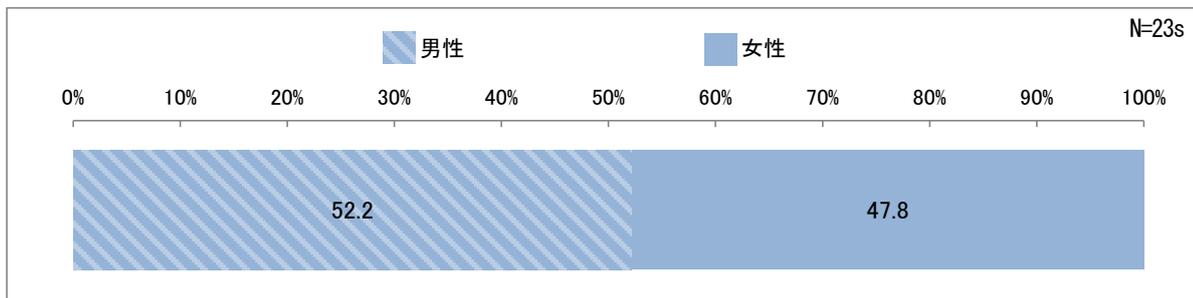
■ 学校種別（公立・私立別）



・「公立」が78.3%で「私立」が21.7%。

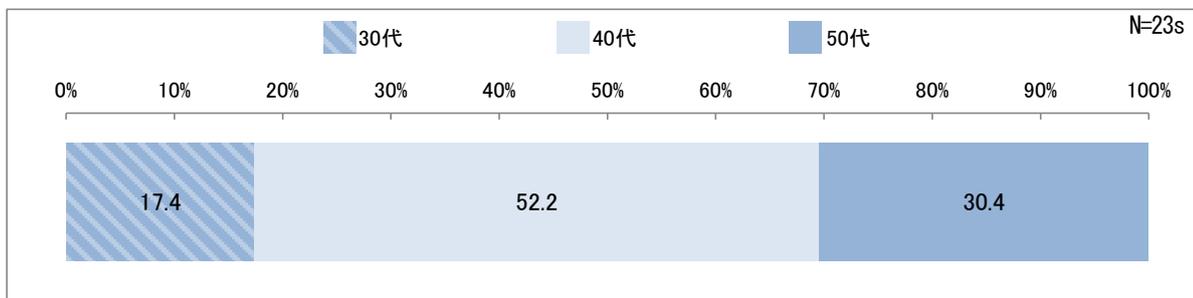
保護者（調査対象者）

■ 性別



・「男性」が52.2%で「女性」が47.8%。

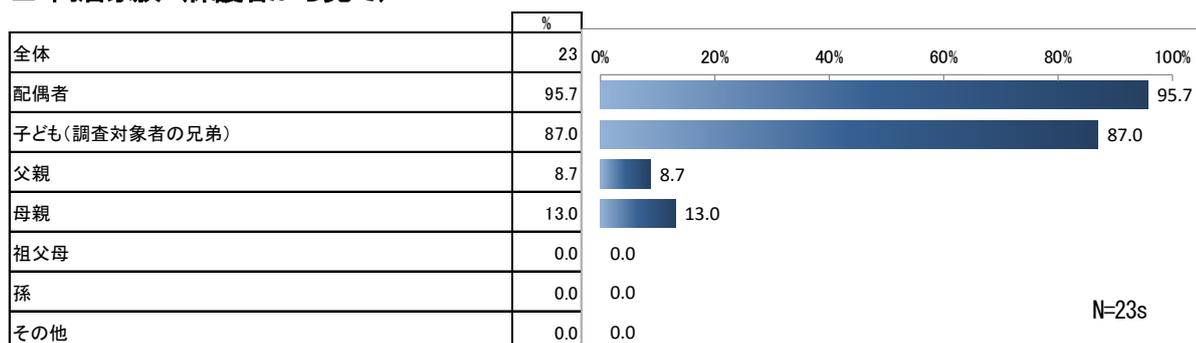
■ 年代別



・「30代」が17.4%、「40代」が52.2%、「50代」が30.4%。

家庭環境

■ 同居家族（保護者から見て）



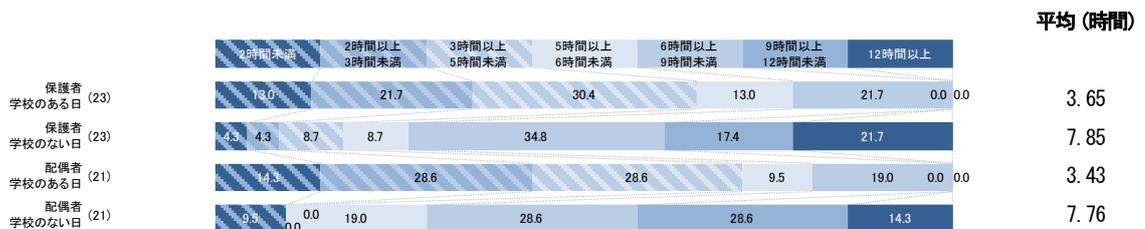
・「配偶者」が95.7%、「子ども（調査対象者の兄弟）」が87.0%。

■ 就労状況等 ※保護者（調査対象者）および配偶者

		(人)				
保護者	配偶者	全体	フルタイム で就労	パート・アルバイト で就労	専業主婦(主夫)	その他
	全体		21	16	4	1
	フルタイム で就労	12	7	4	1	0
	パート・アルバイト で就労	4	4	0	0	0
	専業主婦(主夫)	5	5	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0

- ・両者「フルタイム」が7人。
- ・「フルタイム」と「パート・アルバイト」の組み合わせが8人。
- ・「フルタイム」と「専業主婦(主夫)」の組み合わせが6人。

■ 子ども（調査対象者）と接する時間 ※保護者（調査対象者）および配偶者



- ・学校のある日は、平均して3~4時間子どもと接している。
- ・学校のない日は、平均して7~8時間子どもと接している。

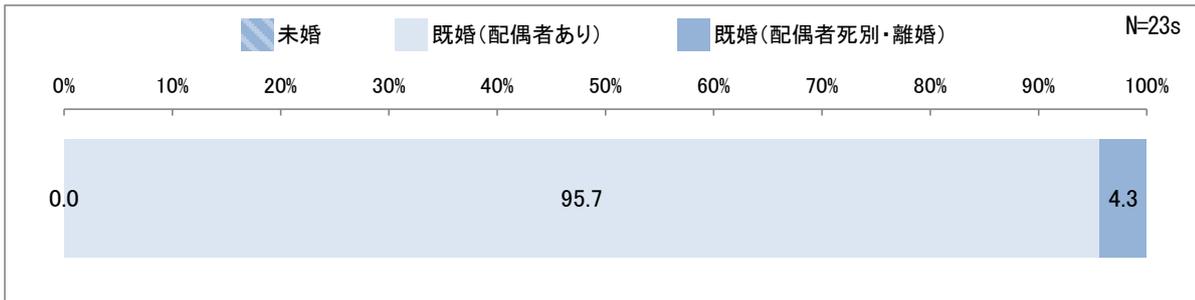
【参考】保護者（調査対象者）のその他情報

■ 最終学歴



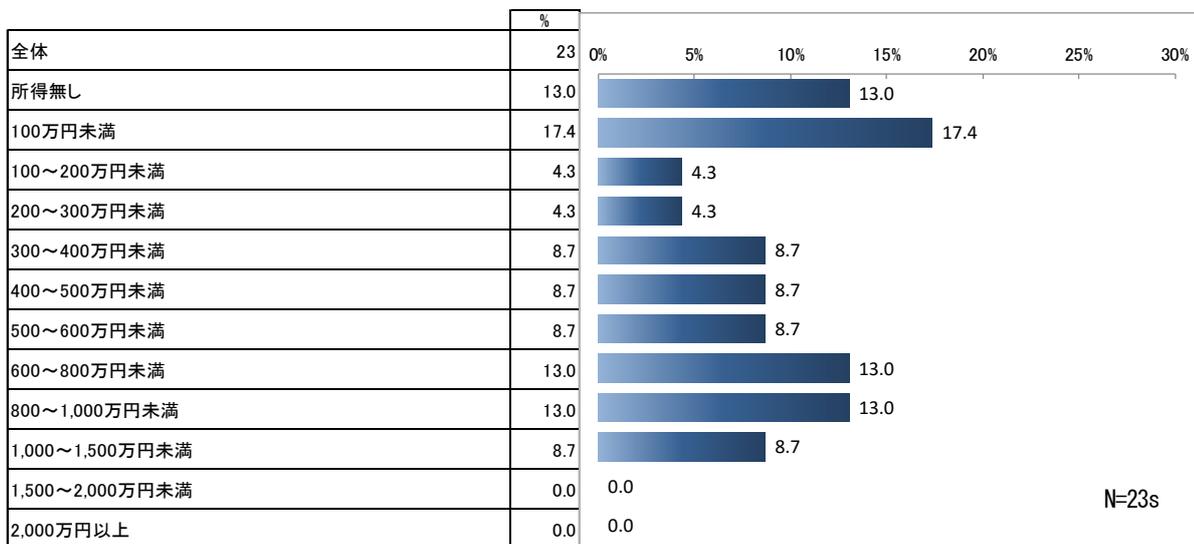
- ・「大学」が47.8%で最も多く、次いで「高等学校」の26.1%。

■ 婚姻状況

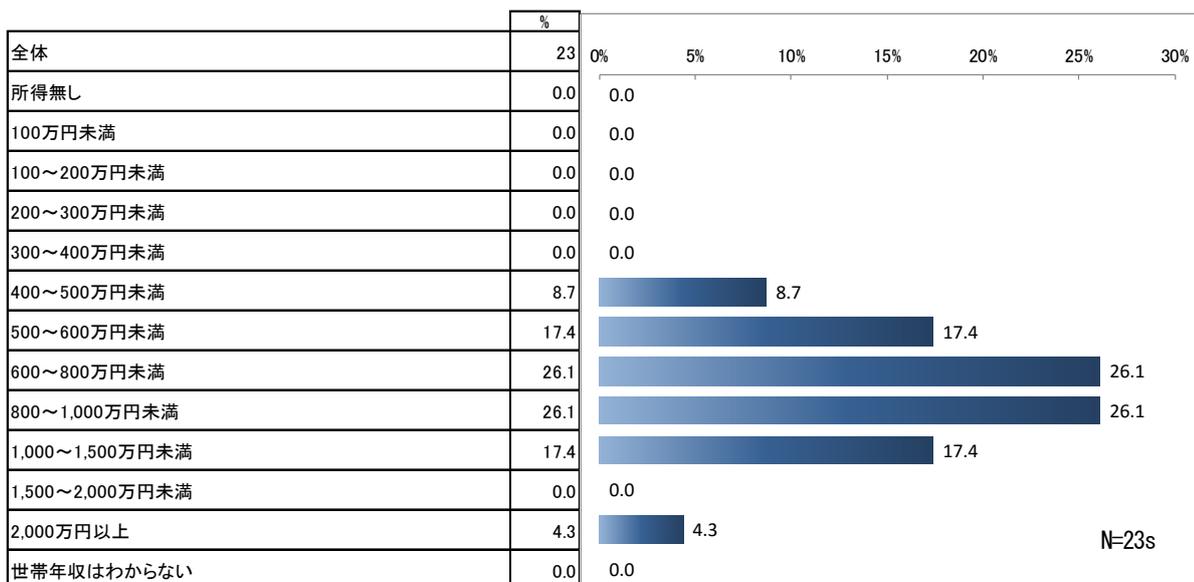


・「既婚(配偶者あり)」が95.7%、「既婚(配偶者死別・離婚)」が4.3%。

■ 個人年収 ※保護者(調査対象者)



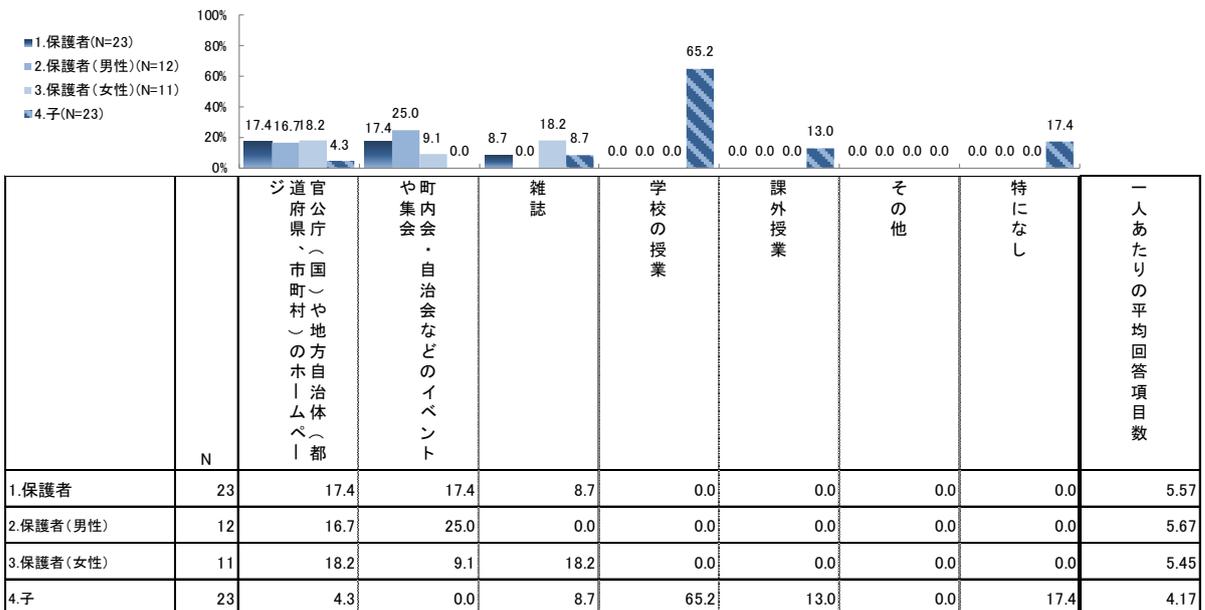
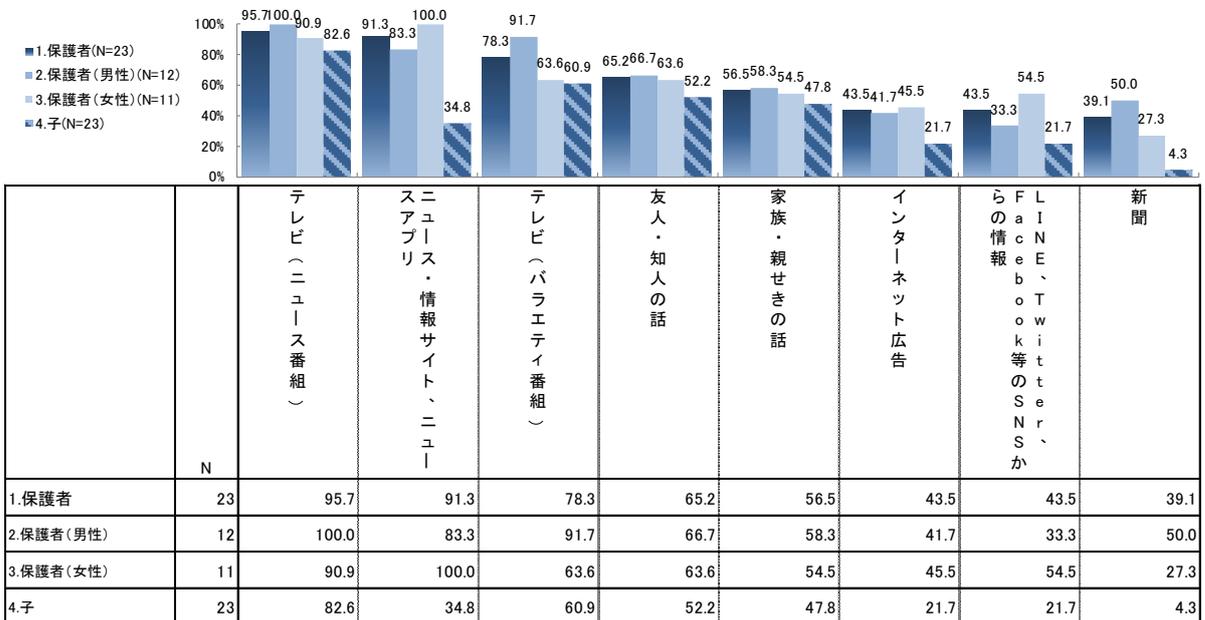
■ 世帯年収



・世帯年収は、400万円未満はいない。
 ・「600～800万円未満」「800～1,000万円未満」がともに26.1%で最も高い。

日頃の情報源や財政に関して

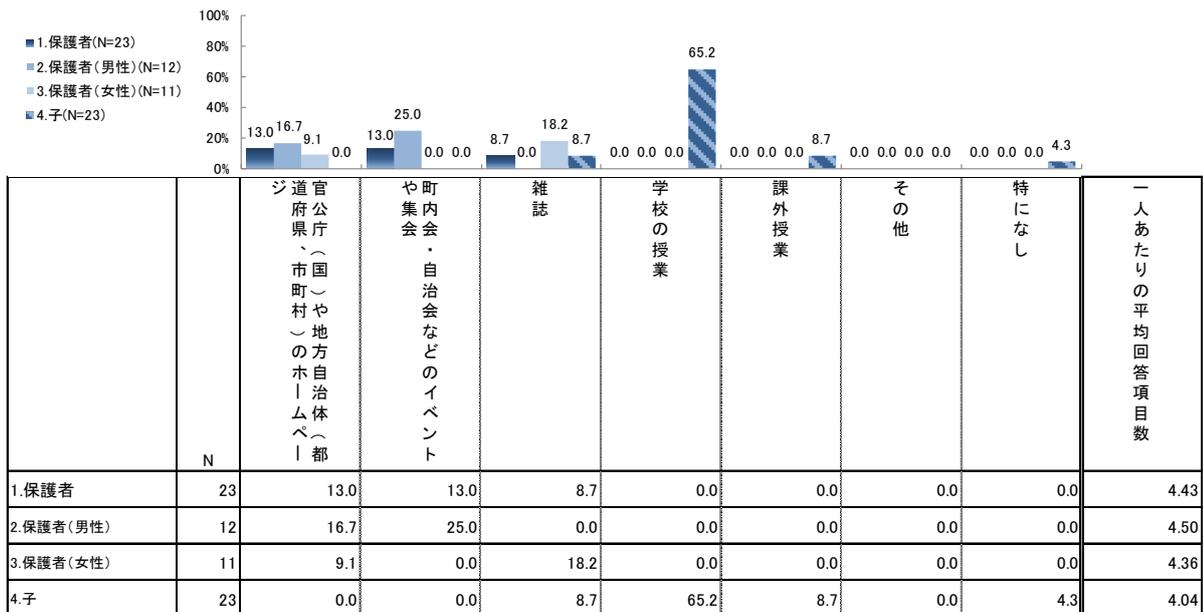
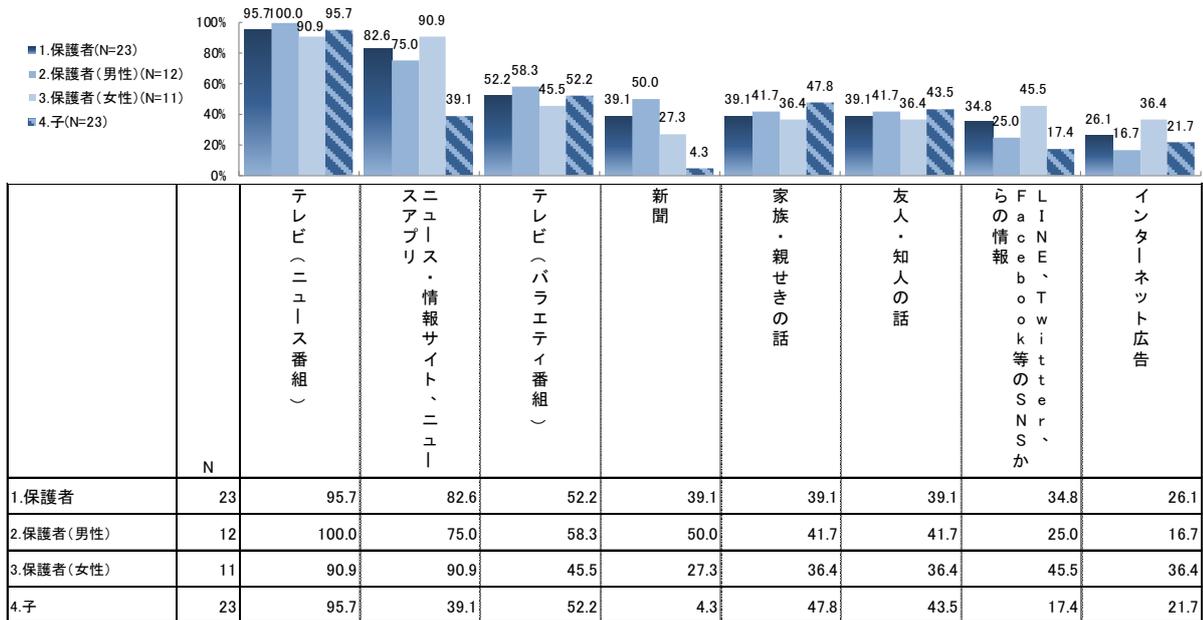
■ 日頃の情報源



日頃の情報源は

- ・「保護者」では、「テレビ（ニュース番組）」が最も高く 95.7%。次いで「ニュース・情報サイト、ニュースアプリ」の 91.3%。
- ・保護者を性別で見ると、男性はテレビや新聞が高く、女性はアプリや SNS が高い。
- ・「子ども」では、「テレビ（ニュース番組）」が最も高く 82.6%。次いで「学校の授業」の 65.2%。

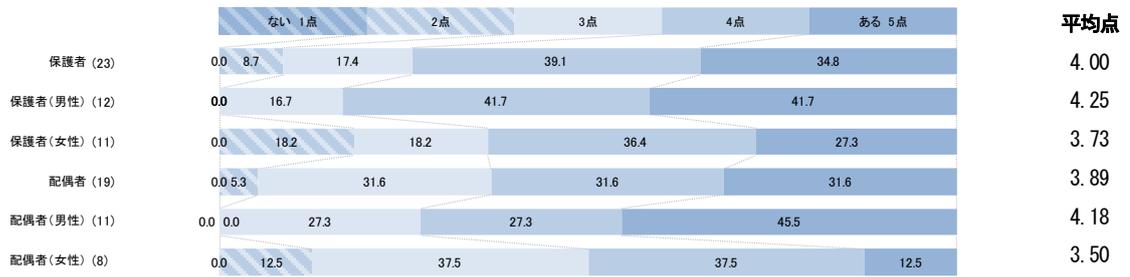
■ 財政、政治等の情報源



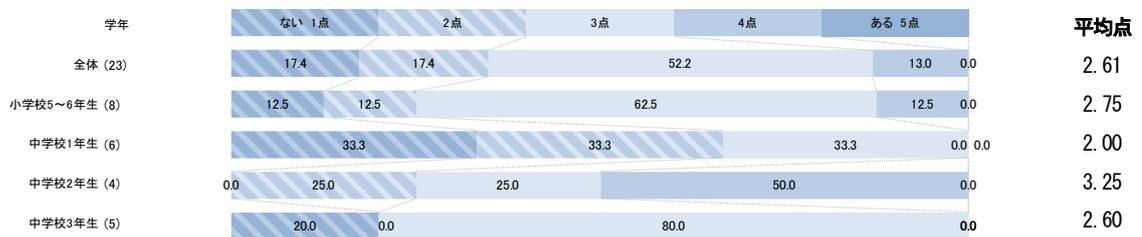
財政、政治等の情報源も、日頃の情報源と傾向は同じ。

- ・「保護者」では、「テレビ（ニュース番組）」が最も高く 95.7%。次いで「ニュース・情報サイト、ニュースアプリ」の 82.3%。
- ・「子ども」では、「テレビ（ニュース番組）」が最も高く 95.7%。次いで「学校の授業」の 65.2%。

■ 日本の財政に関する興味・関心 ※パンフレット読前
 保護者（調査対象者）・配偶者



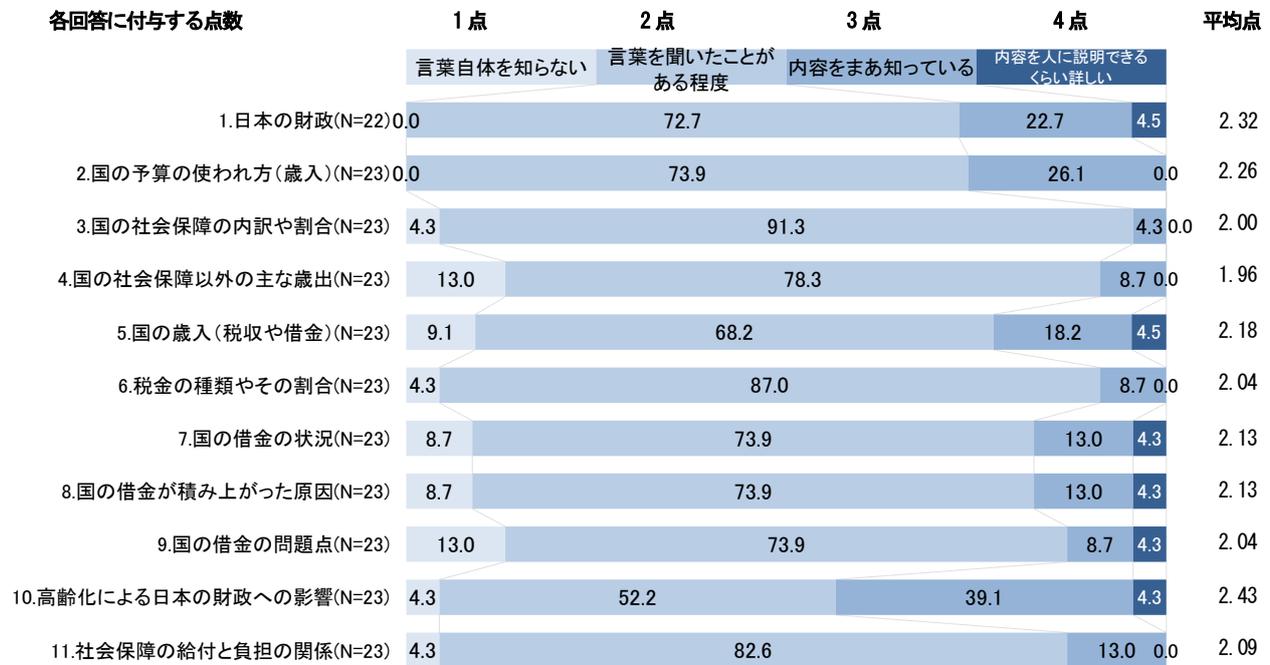
子ども



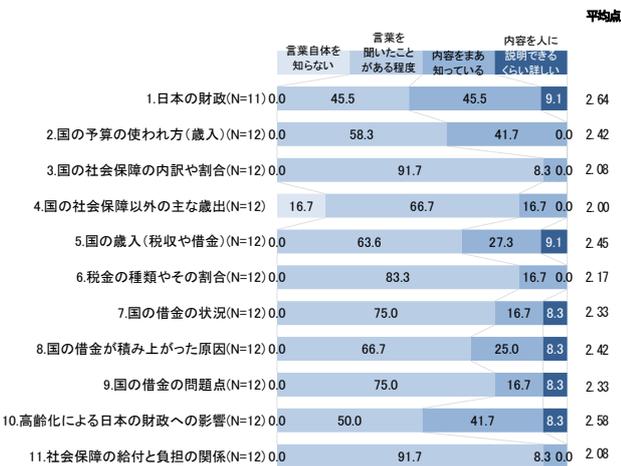
・「保護者」「配偶者」の興味・関心は高く、平均点は約4点。
 ・「保護者」「配偶者」を性別で見ると、男性のほうが興味・関心を持っている。
 ・「子ども」の興味・関心は低く、平均点は2.61点。「ある 5点」はいない。

■ 日本の財政についての理解 ※パンフレット読前
保護者（調査対象者）

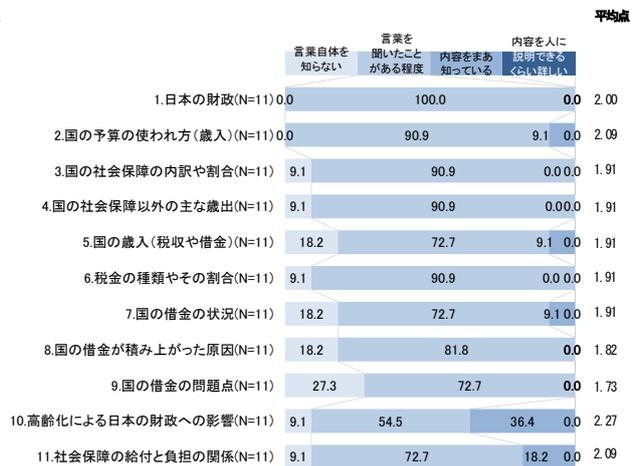
日本の財政に関する以下の内容について、それぞれ「内容を知らない」から「内容を人に説明できるくらい詳しい」まで、どの程度ご存知ですか。
あてはまるものをそれぞれお選びください。



保護者（男性）



保護者（女性）



- ・「言葉を聞いたことがある程度」が多い。
- ・最も理解があるのが「10. 高齢化による日本の財政への影響」で平均点は 2.43。次いで「1. 日本の財政 (2.32)」、「2. 国の予算の使われ方(歳入) (2.26)」。
- ・性別で見ると、全体的に男性のほうが理解が高い。「11. 社会保障の給付と負担の関係」のみ女性の理解のほうが高い。

2-2-1 結果の詳細 ※子ども（調査対象者）

パンフレットの読んだページ

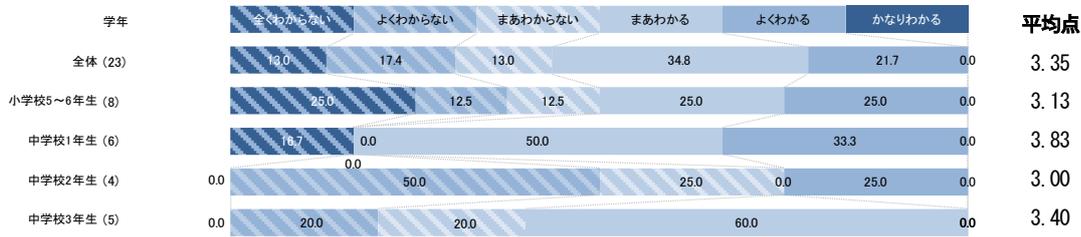
■ 読んだページ ※パンフレットの確認時間は約15分



- ・「9.「借金」の国債比較」までは全員が読んでいる。
- ・中学生は、全て全員が読んでいる。
- ・小学生は、「10」～「13」を読んだのが75.0%。

「財政」という言葉の認知および理解

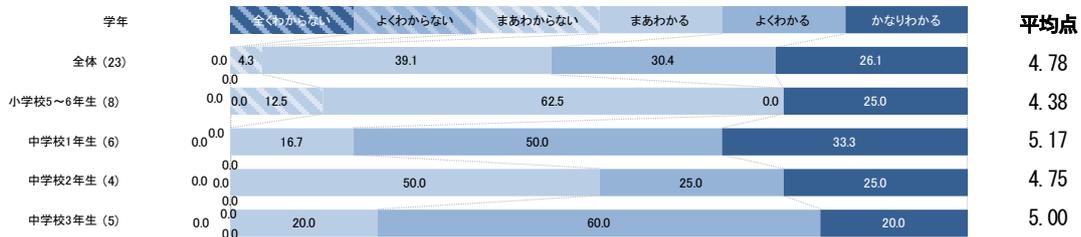
■ パンフレット読前



※「全くわからない」を1点、「よくわからない」を2点、「まあわからない」を3点、「まあわかる」を4点、「よくわかる」を5点、「かなりわかる」を6点として平均点を算出。

- ヒアリング内容（理解度等）
- ・「国のお金のこと」と回答。（多数）
 - ・ニュースで聞いたことがある。（多数）
 - ・池上彰の番組やニュースで聞いたことがある。（小6）
 - ・塾（私立中学受験）の社会の授業でやった。（小6）
 - ・学校の授業で聞いたことあるぐらい。内容はよくわからない。（多数）
 - ・学校では習っておらず、ピンとくる言葉はない。（小5、中2他）

■ パンフレット読後



※「全くわからない」を1点、「よくわからない」を2点、「まあわからない」を3点、「まあわかる」を4点、「よくわかる」を5点、「かなりわかる」を6点として平均点を算出。

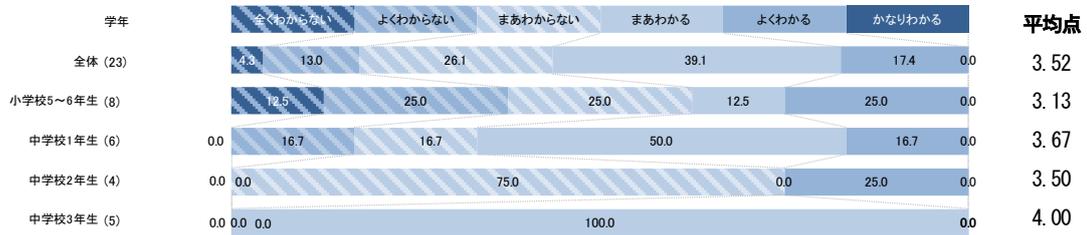
- ヒアリング内容（理解度等）
- ・「公共サービス」はみんなのためのものということがわかった。（多数）
 - ・「公共サービス」について「教育」「医療」等の言葉が出てきた。（多数）
 - ・財政とは、国が必要なお金をつけることだと理解した。（中2）
 - ・財政について分かった。ただ説明するのは難しい。（中2）
 - ・少し分かったが、全般を通じてわかりにくい。（小6）
 - ・一人あたりのサービスの金額は分かりやすい。また絵も分かりやすかった。（中1）
 - ・「②医療費」と「③道路整備等」はイラストだけでは分かりづらかった。（小6）

「財政」という言葉について、

- ・パンフレットを読む前と読んだ後とでは、平均点が3.35から4.78と高くなった。
- ・「かなりわかる」は、パンフレットを読む前ではいなかったが、読んだ後では26.1%になった。
- ・「全くわからない」「よくわからない」は、パンフレットを読む前ではそれぞれ13.0%、17.4%だったが、読んだ後ではいなくなった。

「歳出」という言葉の認知および内容の理解

■ パンフレット読前

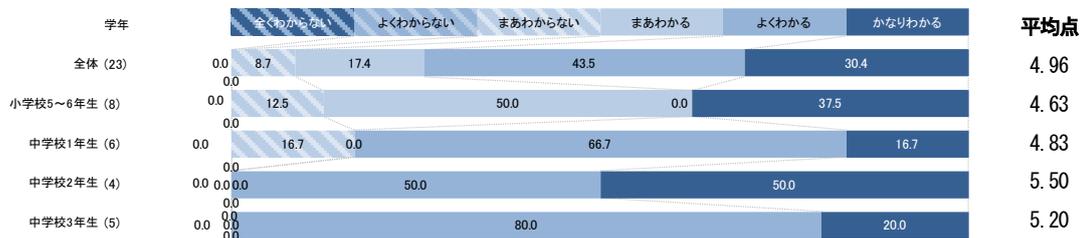


※「全くわからない」を1点、「よくわからない」を2点、「まあわからない」を3点、「まあわかる」を4点、「よくわかる」を5点、「かなりわかる」を6点として平均点を算出。

ヒアリング内容（理解度等）

- ・「歳出」は聞いたことない、「予算」はニュースで聞いたことがあると回答。（多数）
ただし、予算の規模については、わからない。（多数）
- ・「予算」は、令和2年の予算についてのニュースを見て知っていた。（中2）
- ・社会の授業や池上さんの番組を通じて知っている。（小6）
- ・「（歳出の）円グラフ」を見たことがあると回答。（小6）

■ パンフレット読後



※「全くわからない」を1点、「よくわからない」を2点、「まあわからない」を3点、「まあわかる」を4点、「よくわかる」を5点、「かなりわかる」を6点として平均点を算出。

ヒアリング内容（理解度等）

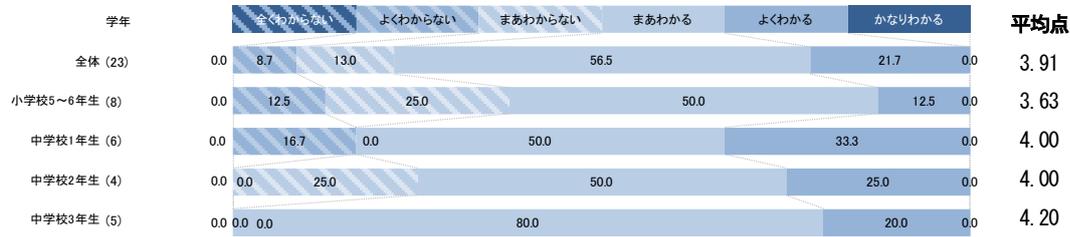
- ・社会保障が一番使われていると回答。（多数）
- ・「社会保障」は「医療」や「年金」等であることが分かった。（小6）
- ・国のお金の使い道として、多い順から「社会保障」「地方への交付金」「公共事業」「農業」「防衛」「教育」といった言葉が出てき、それぞれ意味も理解できていた。（中2）
- ・「地方交付金」は読む前は言葉すら知らなかったが、理解できた。（小5）
- ・「子ども・子育て」のイラストは分かりやすかったが、他の絵は分かる様な分からない様な感じ。（小6）

「歳出」という言葉について、

- ・パンフレットを読む前と読んだ後とでは、平均点が3.52から4.96と高くなった。
- ・「かなりわかる」は、パンフレットを読む前ではいなかったが、読んだ後では30.4%になった。
- ・「全くわからない」「よくわからない」は、パンフレットを読む前ではそれぞれ4.3%、13.0%だったが、読んだ後ではいなくなった。

「歳入」という言葉の認知および内容の理解

■ パンフレット読前

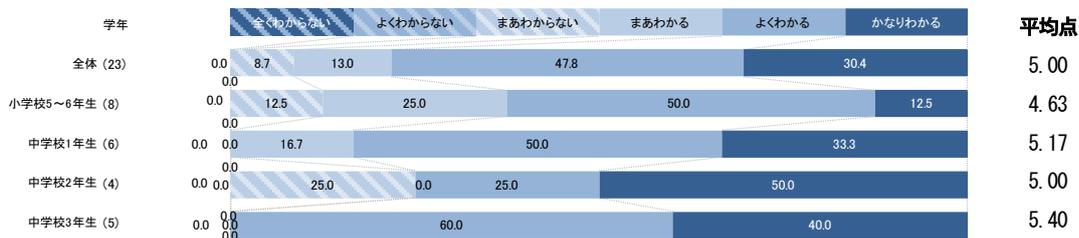


※「全くわからない」を1点、「よくわからない」を2点、「まあわからない」を3点、「まあわかる」を4点、「よくわかる」を5点、「かなりわかる」を6点として平均点を算出。

ヒアリング内容（理解度等）

- ・「歳入」という言葉は知らなかったが、税金という言葉は知っていた。（多数）
- ・「消費税」「所得税」という言葉が出てきたが、「所得税」の意味は理解できておらず。（多数）
- ・「消費税」「所得税」「固定資産税」という言葉が出てきた。租税教室で習ったため、「固定資産税」を覚えていた。（中2）
- ・塾の社会の時間に教わった。（小5）

■ パンフレット読後



※「全くわからない」を1点、「よくわからない」を2点、「まあわからない」を3点、「まあわかる」を4点、「よくわかる」を5点、「かなりわかる」を6点として平均点を算出。

ヒアリング内容（理解度等）

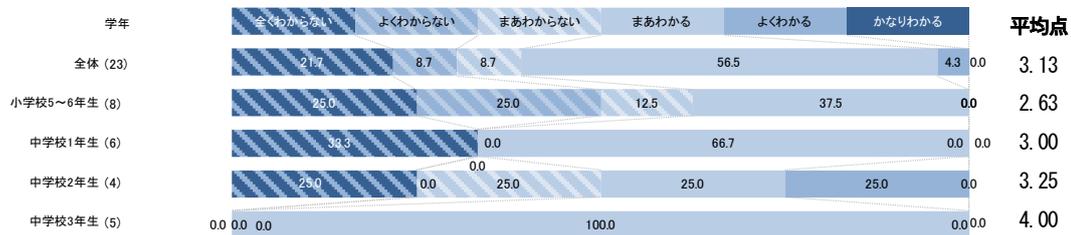
- ・多数理解できた税の種類も増えた。（多数）
- ・税の種類として「消費税」「所得税」という言葉が出てきた（それぞれある程度意味も理解できていた）。（中2）
- ・読前は知らなかった「法人税」「揮発油税」について理解できた。（中2）
- ・「揮発油税」は初めて知った、その他の税は授業や普段の生活のなかで見たり聞いたりしていた。（中3）
- ・消費税率上げについて税率、軽減税率は知っていた。引上げ時期は知らなかった。（中1）

「歳入」という言葉について、

- ・パンフレットを読む前と読んだ後とでは、平均点が3.91から5.00と高くなった。
- ・「かなりわかる」は、パンフレットを読む前ではいなかったが、読んだ後では30.4%になった。
- ・「よくわからない」は、パンフレットを読む前では8.7%だったが、読んだ後ではなくなった。

「国の借金」に関する内容の理解

■ パンフレット読前



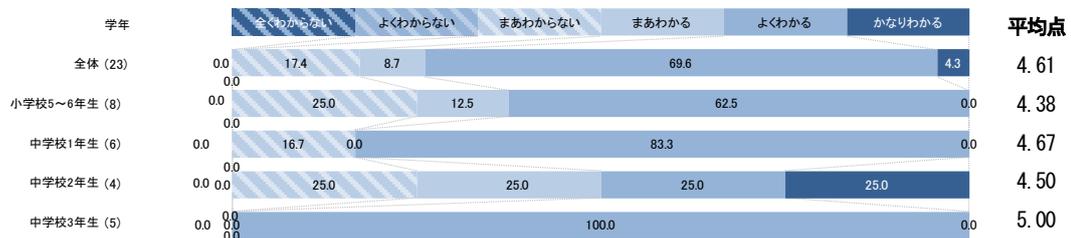
※「全くわからない」を1点、「よくわからない」を2点、「まあわからない」を3点、「まあわかる」を4点、

「よくわかる」を5点、「かなりわかる」を6点として平均点を算出。

ヒアリング内容（理解度等）

- ・「国が借金している」ことは知らなかった（多数）
- ・国が借金していることは聞いたことがある。その規模についてはわからない。（中3他）
- ・日本が借金しているということは社会の授業で習っており知っていた。その金額についてはわからないが、たくさんあることは知っていた。（小5）
- ・国の借金総額が1000兆円近くあることは知っていた。ネットで調べた。（小5）

■ パンフレット読後



※「全くわからない」を1点、「よくわからない」を2点、「まあわからない」を3点、「まあわかる」を4点、

「よくわかる」を5点、「かなりわかる」を6点として平均点を算出。

ヒアリング内容（理解度等）

- ・ワニ口という言葉覚えていて差が年々開いていることを理解していた。（多数）
- ・金額は覚えていないが、エベレスト、富士山のページは覚えており、借金が大変という認識。（多数）
- ・原因が社会保障費の伸びであることを理解。背景に高齢化があることまで理解。（多数）
- ・借金が伸びているということが分かった。矢印やエベレストが分かりやすい。（小5）
- ・社会保障が要因だと分からなかった。グラフや絵があると分かりやすい。（中1）
- ・P14は難しい言葉が多いので、なんとなくしか理解できていない。（中3）
- ・「GDP」「受益」など、意味が分からない言葉があった。（小6）

国が「借金」していることについて、

- ・他の内容と比べて理解が低い。
- ・パンフレットを読む前と読んだ後とでは、平均点が3.13から4.61と高くなった。
- ・「かなりわかる」は、パンフレットを読む前ではいなかったが、読んだ後では4.3%になった。
- ・「全くわからない」「よくわからない」は、パンフレットを読む前ではそれぞれ21.7%、8.7%だったが、読んだ後ではいなくなった。

「給付と負担のバランス」に関する内容の理解 ※パンフレット読後のみに確認

■ パンフレット読後

ヒアリング内容（理解度等）

理解できなかった等の意見

全体的な印象について

- ・理解していない様子だった。（小5）
- ・説明しても、理解度はあまり上がらなかった。（小5）
- ・分かったが理解が難しかった。パンフレットで一番難しい。（小5）
- ・グラフが難しい、見づらい。（小5）
- ・図は見方が分からず、意味が理解できていなかった（中3）
- ・アンバランスであること自体は理解できたが、図の示す意味までは理解できなかった。（中3）

レイアウトや表現について

- ・「給付」など、意味が分からない言葉があった。（小6）
- ・負担と給付が分かりにくく、相当難しい印象。（小6）
- ・給付と負担という概念がそもそも分からない。（中1）
- ・「給付」と「負担」という言葉が良く判らないし、このページも良く判らない。（中2）
- ・負担と給付が分かりにくく、相当難しい印象。（中3）
- ・「大きい政府」「小さい政府」がよくわからなかった。（中1）
- ・大きい政府、小さい政府が理解できなかった。（中2）
- ・大きい政府、小さい政府が理解できなかった。（中3）
- ・図の示す意味が理解できていなかった。※「GDP」を理解していないからで、グラフ自体が分からないわけではない。（小6）
- ・GDPがよくわからなかった。注意書きがあるといい。（中2）

理解できた等の意見

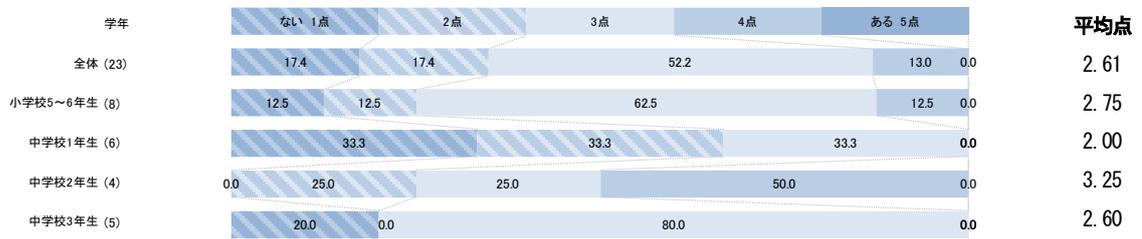
- ・説明で少し理解した様子。（小5）
- ・受益と負担についてある程度理解していた。（小6）
- ・やばい状況というのがわかった。（中1）
- ・他の国を比較して日本がどの位置にあるのか理解。（中1）
- ・大きい政府、小さい政府を知っていた。（中1）
- ・ある程度理解できた。（中2）
- ・図の示す意味を理解できた。（中3）
- ・言っていることはわかった。小さな政府・大きな政府の意味合いもわかる。（中3）

給付と負担のバランスがわかったか

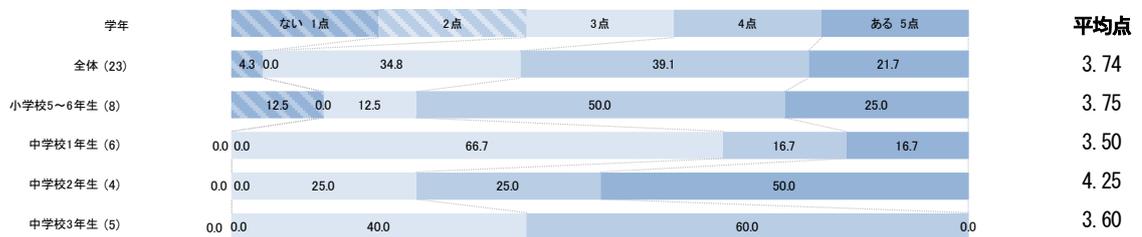
- ・パンフレットのなかで「理解できなかった」「難しい」との意見が最も多かった。
- ・理解できない理由として、「言葉や単語のむずかしさ」と「図（見方）」が挙げられる。
- ・分かりにくい言葉や単語は「負担」「給付」「GDP」「大きい政府」「小さい政府」。

日本の財政に関する興味・関心

■ パンフレット読前



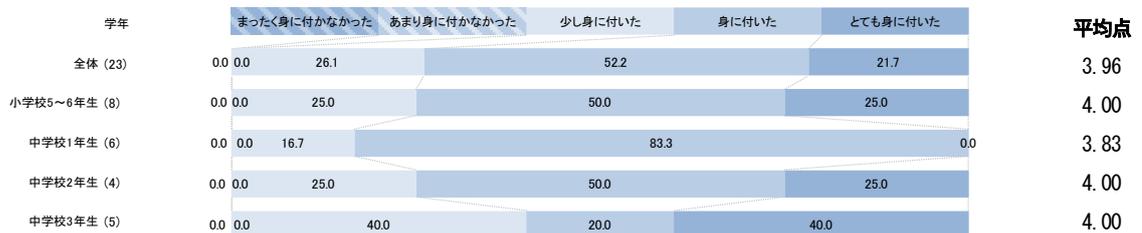
■ パンフレット読後



・パンフレットを読む前の平均点は 2.61 で、読んだ後の平均点は 3.74。保護者よりも差が大きい。 ※保護者は、4.00 から 4.17。

政に関する知識が身に付いたか ※保護者（調査対象者）が回答

■ 最後に本日お子さまがパンフレットをお読みになって、財政に関する知識が身に付いたと思いますか。



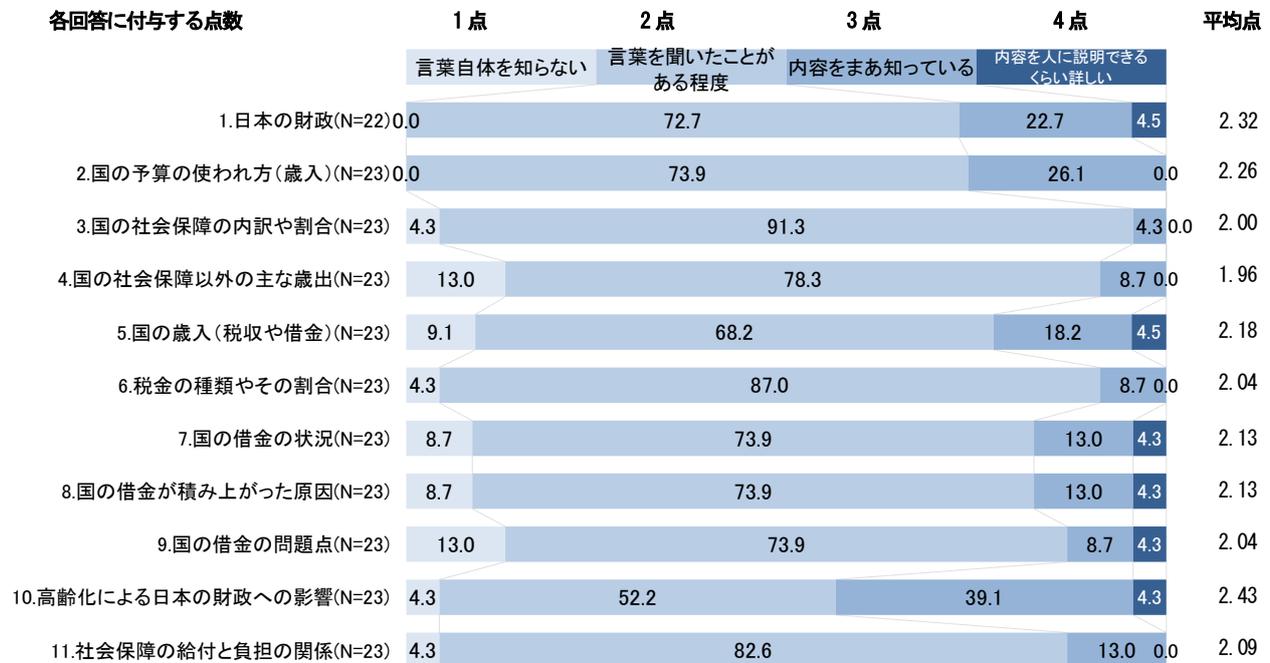
※「まったく身に付かなかった」を1点、「あまり身に付かなかった」を2点、「少し身に付いた」を3点、「身に付いた」を4点、「とても身に付いた」を5点として平均点を算出。

・「身に付いた」が最も多く 52.2%。次いで「少し身に付いた(26.1%)」「とても身に付いた(21.7%)」。
・「まったく身に付かなかった」はいない。

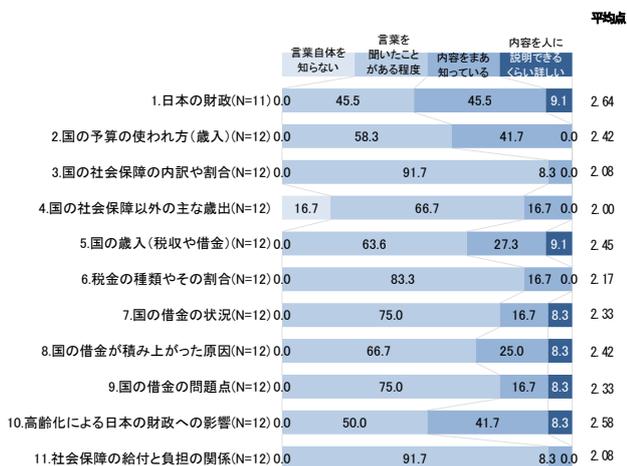
2-2-2 結果の詳細 ※保護者（調査対象者）

日本の財政についての理解

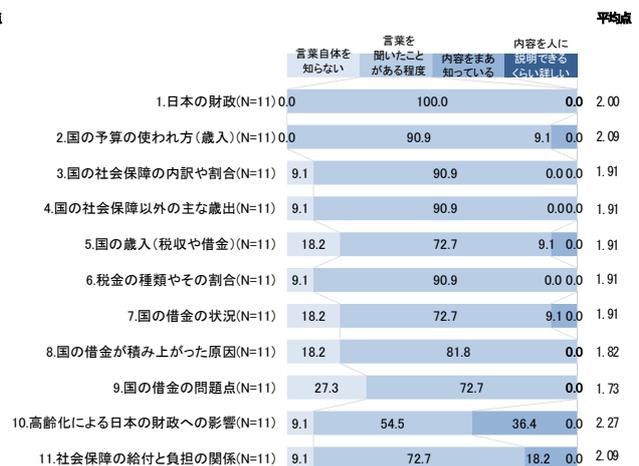
■ パンフレット読前



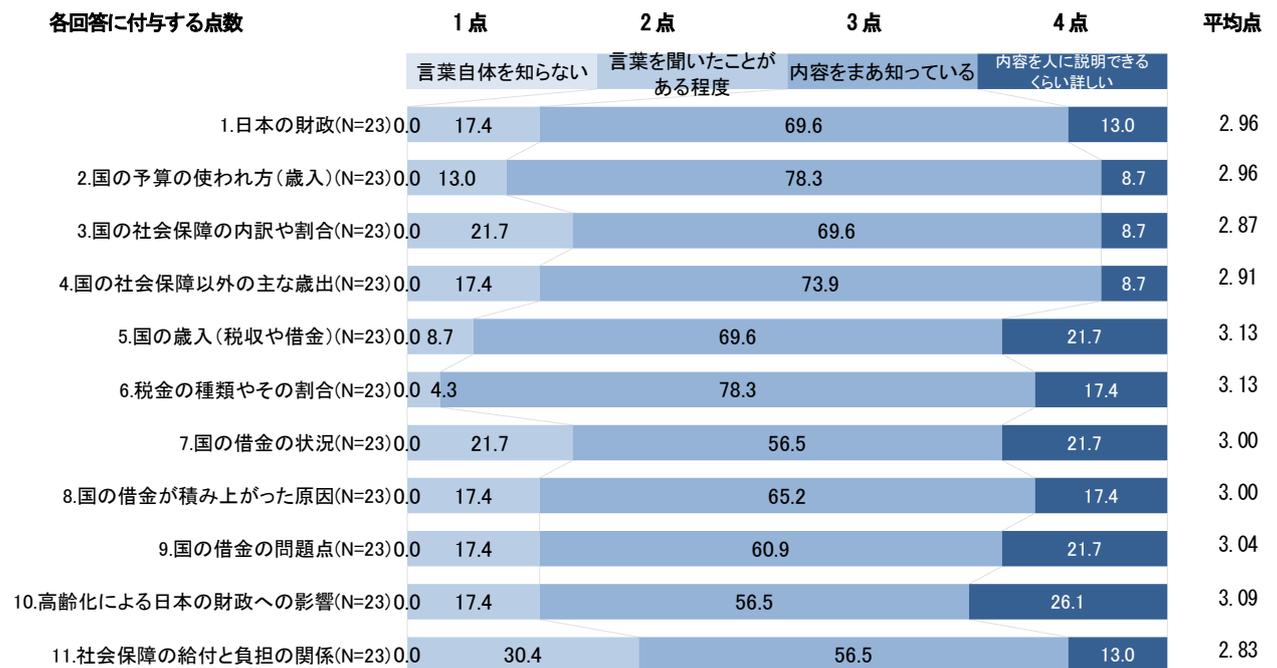
保護者（男性）



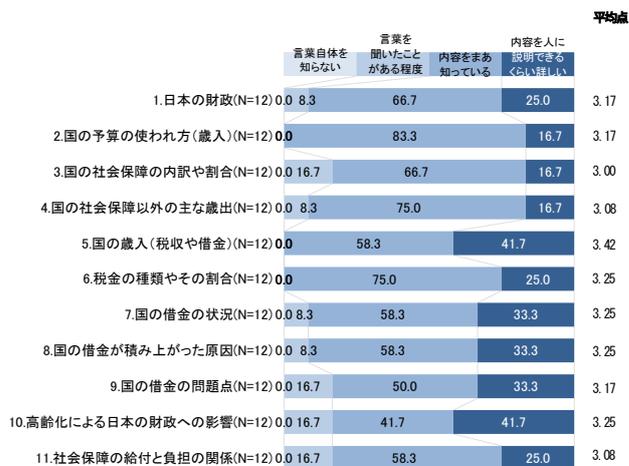
保護者（女性）



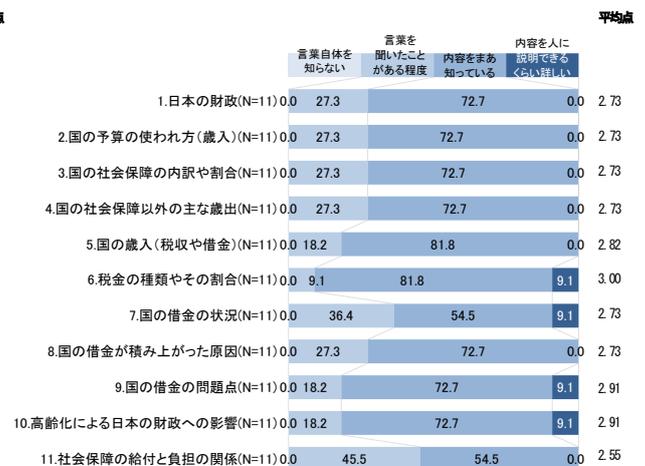
■ パンフレット読後



保護者（男性）



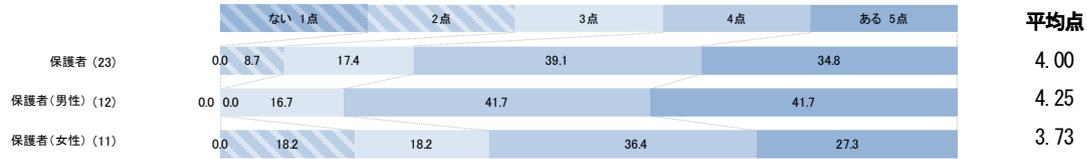
保護者（女性）



- ・パンフレットを読む前の平均点は、1.96～2.43。パンフレットを読んだ後の平均点は、2.83～3.13。
- ・最も平均点の差が大きかったのは「6.税金の種類やその割合」で、2.04から3.13になった。
- ・男性のパンフレットを読む前の平均点は、2.00～2.64。パンフレットを読んだ後の平均点は、3.00～3.42。
- ・女性のパンフレットを読む前の平均点は、1.73～2.27。パンフレットを読んだ後の平均点は、2.55～3.00。

日本の財政に関する興味・関心

■ パンフレット読前

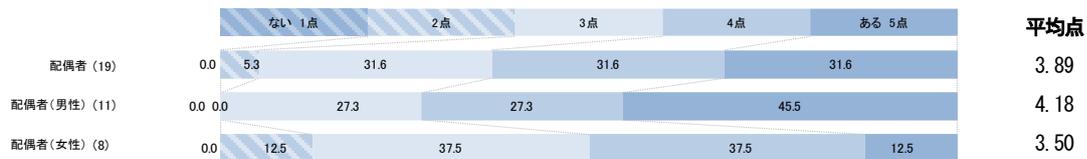


■ パンフレット読後



- ・パンフレットを読む前の平均点は4.00で、読んだ後の平均点は4.17。
- ・性別で見ると、女性の平均点は3.73で同じ。女性は、パンフレットを読む前後で「ある 5点」が27.3%から9.1%に減っている。

【参考】日本の財政に関する興味・関心 ※配偶者



2-2-3 結果の詳細 ※その他

関心を持った言葉や内容、覚えている言葉等

ポジティブ意見

分かりやすかった点について

- ・イラストが多く描いてあり、円グラフが大きくてわかりやすかった。(小6)
- ・「社会保障費」が色々なことに使われていることが良く判った。(中1)
- ・P4 年金に12兆円と多くのお金が使われているが分かった。(中3)
- ・税の所は“絵”が描いてあるからわかりやすいとのこと。(小6)
- ・税金の種類が色々あることが分かった。(中1)
- ・「揮発油税」がガソリンの税金だということが分かった。(中2)
- ・P9 歳出と歳入の差が借金だと分かった。(中1)
- ・P10 日本の借金が増え続けていることがよくわかった。(中2)
- ・借金が多いことが分かった。(小6)
- ・エベレストの絵はわかりやすい。(中1)
- ・他の国より日本の借金が多いことがよくわかった。(中2)

印象に残った点について

- ・社会保障が多いということを知覚えている。(中1)
- ・P9, P10 見やすく、内容としても記憶に残りやすい。(中1)
- ・P9, P10 ワニ口は印象に残った。(中3)
- ・P10 借金が増えていくグラフとイラストが面白かった。(小5)
- ・日本の借金が増え続けていることに驚いた。(中2)
- ・日本の借金が非常に多いことに驚いた。(中3)
- ・借金を重ねると将来使えるお金が減ることに不安を感じた。(中3)
- ・借金と社会保障が多いことが印象的だった。(中1)
- ・借金が多い、なぜ増えたのか。(小5)

興味・関心を持った点について

- ・たばこ税や揮発油税を初めて知った。(中3)
- ・P13 社会保障費が過去から3倍となっていることに関心を持った。(中2)
- ・P10, P4 の順で興味を持った。(中3)
- ・高齢化の進展が進んでいること、医療支出が多いことに関心を持った。(中3)

ネガティブ意見

分かりづらかった点について

- ・意味が分からない用語が多かった。(中1)
- ・P11 「GDP」が何かわからなかった。(小5)
- ・用語が難しい、「GDP」が分からない、P11 の意味が分からない。(小6)
- ・「GDP」「受益」「硬直化」など、意味が分からない言葉があった。(中1)
- ・P10 の箇条書き部分と和暦表示がわかりにくかった。(中1)
- ・P15 「将来の社会保障給付の見通し」のグラフがよくわからなかった。(中1)
- ・グラフが分かりづらい、借金の返済の意味が分からない。(中1)
- ・全体的に内容が難しかった。(中3)

パンフレットの良かった点・悪かった点

■ 子ども

ポジティブ意見

- 全体的な印象について
 - ・全体的には分かりやすかった。(多数)
 - ・グラフはわかった。説明が短くよかった。(中1)
 - ・授業の補助教材として使えばわかりやすい。(中3)
 - ・総じて授業の補助教材に適している印象。(中3)
- レイアウトや表現について
 - ・前半のページはイラストが多くてよかった。(小5)
 - ・「歳出」「歳入」など普段使わない難しい用語などが出てきたが、詳しく解説されておりわかりやすかった。(中2)
 - ・絵や図が数多く描いてあるからわかりやすいし面白かった。(中3)
- 具体的に良かった点について
 - ・P9 借金のグラフは印象にのこった。(中1)
 - ・P10 富士山の何倍、エベレストの何倍の表現はすごく多いというのは伝わった。(中3)
 - ・P11 日本は他国と比べ差が大きいので印象に残った。他国と比較するのはいいと思う。(中1)

ネガティブ意見

- 全体的な印象について
 - ・一部細かい部分で分かりづらかった。(小5)
 - ・最後まで集中して読める内容ではなかった。(小5)
 - ・全体的に漢字が多い。(中2)
 - ・もともと持っている知識による。(中3)
 - ・国債は知っていたのでわかるが、小学生にはわからないのでは。(中3)
 - ・国債を持つということの意味は中学3年生で習うので、小学生は知らず、まず単語を読めないかもしれない。自分も習うまで個人で買えるということも知らなかった。(中3)
- レイアウトや表現について
 - ・難しい漢字が多かった。(介護・医療・返済)(小5)
 - ・難しい言葉が結構あった。(硬直化・GDP)(小6)
 - ・一部難しい単語があった。(中2)
 - ・難しい用語も出てきており、親に教えてもらってようやく意味がわかった。(中3)
- 具体的に悪かった点について
 - ・P3, P7 返す額以上に借りる額が多いため積みあがるというのがわかりにくい。(中1)
 - ・P11 GDPがよくわからなかった。(中2)
 - ・P11 GDPは小学校高学年ではわからないのでは。(中3)
 - ・P12 突然メモが入るため、後のページを見ていない。(小6)
 - ・P13 ここからはあまり読みたいと思わなかった。(小6)
 - ・P13, P14 良く判らない。意味が分からない。(小6)
 - ・P13, P14, P16 判り難い。難しい言葉が多かった(中1)
 - ・P15 折れ線グラフが分かりづらい。(小5)
 - ・P15 グラフが難しかった。(中2)
 - ・P16 右上のフランスと日本で何が違うのかわかりにくい。(中1)

その他意見・要望等

全体的な印象について

- ・難しい言葉が多いので言葉の意味を説明してほしい。(小6)
- ・難しい言葉でもその意味がわかれば理解できると思う。(小6)
- ・漢字のルビがほしい。(小6)
- ・用語が分からない、説明を詳しくしてほしい。絵をもっと入れてほしい。(中1)
- ・もう少し簡単な内容でもよかった。中1、中2には難しいのではないか。(中3)
- ・身近なことに置き換えたりすることも対策のひとつだが、注意書きや注釈で単語や言葉の説明をする方が難しい単語を覚えるながれになるのではないか。(中3)

具体的な要望について

- ・冒頭 「索引」があるとわかりやすいと思った。(親からも同様意見)(小6)
- ・P9, P10 昭和という表記より、西暦のほうが歴史と結び付けて理解しやすい。(中3)
- ・P9 大きく増減した年は理由の説明があったほうがいい。(中1)
- ・P10 高さで比較するなら、宇宙くらいといった方がおもしろい。(中1)
- ・P10 金額で比較するなら、身近なもの(ゲーム機や学校)が何個かえるかがいいのでは。(中1)
- ・P10 グラフはお札を積み重ねたイラストにすればいいのでは。(小5)
- ・P11 GDPの説明あったほうがいい。(中1)
- ・P12 突然メモが入るため、後のページを見ていない。メモはやめた方がよい。(小6)

関心を持った言葉や内容、覚えている言葉等

- ・パンフレットの分かりやすかった点については、エベレストの絵が分かりやすい、また借金が増えていること、などの意見が多かった。
- ・パンフレットの印象に残った点・興味・関心を持った点については、グラフやイラストが多い、という意見が多かった。
- ・パンフレットの分かりづらかった点については、P15、P16の内容全般、および「GDP」などの用語が難しい、という意見が目立った。

パンフレットの良かった点・悪かった点

- ・パンフレットの良かった点については、イラストやグラフが分かりやすいこと、また、全体的に読みやすいという意見が多く挙げられた。
- ・パンフレットの悪かった点については、難しい漢字や単語が含まれていることに対する意見が大半で、特に「GDP」、「硬直化」などの用語が難しく、分かりづらい印象を与えている。
- ・全体的な要望としては、難しい言葉の説明を求める意見が多い。
- ・具体的な要望としては、P10のグラフの表現に関する意見が多い。
- ・また、「GDP」などの難しい用語に関する説明も求められている。

■ 保護者（調査対象者）

ポジティブ意見

『 全体的な印象について

- ・全体的には良くできているし、こういうパンフレットが身近にあると良いと思った。
- ・このようなパンフレットが必要だと思う。子供だけでなく大人も読んだ方が良いと思う。

『 レイアウトや表現について

- ・全体的にイラストがたくさんあるのはよかった。
- ・イラストは非常に分かりやすいと感じた。
- ・イラストはタッチがほのぼのしていてとつきやすい。
- ・絵が多くわかりやすかった。また、文字が大きく量を絞っているのはよかった。

『 具体的に良かった点について

- ・P1～P13 最初の方は判りやすかった。
- ・P9 「ワニ口」のような例えがあると、イメージがつかみやすく興味が湧く。
- ・P9 借金のグラフは印象にのこった。
- ・P9、P10 このページの書き方がわかりやすいと思う。
- ・P9、P10 借金の累積を絵で表現することは分かりやすい。ワニの口も分かりやすい。

ネガティブ意見

『 全体的な印象について

- ・大人が読んでも判らないところがある
- ・振り仮名が少なかった。
- ・全体的に字が多すぎる印象。

『 レイアウトや表現について

- ・理解しにくい単語が出てくる。
- ・難しい言葉が多い印象。
- ・子どもには分かりづらい。単語が難しい。GDPが何を言っているか分からない。
- ・子どもの立場であればそのページをとばしてしまうと思う。
- ・分からない言葉が出ただけで、それ以降のことが頭に入っていかなくなってしまうと思う。

『 具体的に悪かった点について

- ・P7 国債自体の説明がない。どこから借りるというのかわからない。
- ・P10 富士山の何倍、エベレストの何倍の表現はよくわからなかった。
- ・P10 借金の総量を説明するのに、縦に積む必要はあるのか？山の例えが不要。
- ・P11 なぜGDPで比較するのか分からない。
- ・P11、P15、P16 遠い国だと想像しづらい
- ・P13 以降 大人が読んでも理解しにくい部分がある。
- ・P14 以降 後半が判り難かった（NO. 11くらいから）
- ・P14 「国債保有層」、「償還費」などは単語の意味がわからないのでは。
- ・P14 文字ばかりで分かりづらい、大人でも分からないと思う。
- ・P16 「小さい政府」とかは読み込まないと判らない。
- ・P16 No. 13 良く読まないで判らない。説明不足で不親切。

その他意見・要望等

『 全体的な印象について

- ・ 絵やイラストが多いとよいのではないか。
- ・ 漢字にはルビを振って欲しい。
- ・ もっと簡単に書いてほしい。※「受益」「償還費」
- ・ 最初に難しい言葉が出てきてしまうと、後に続かなくなってしまうのではないか。
- ・ よりきめ細かな説明や簡単な言葉に置き換える等々の対応が必要だと思う。
- ・ 単語や言葉の扱い方にはより一層気を付けていく必要なのかもしれない。
- ・ 家のなかの財政を持ち出すことでよりイメージはしやすくなるのではないか。
- ・ いかにして、見てもらうか、手に取ってもらうか、親しみを感じてもらえるかが重要だと思う。
- ・ もっとポジティブに、歳入を増やす方法とか、歳出を抑えなきゃならないとか、やるべきことも書いて、子供たちが未来を感じられるような内容にしてほしい。

『 追加してほしい要望について

- ・ 導入として身近なこと（例えば消費税）と関連づけて説明するといい。
- ・ 空いているページ（MEMO）が有るので、登場する言葉のインデックスが最後の方にあると良い。
- ・ 最初ページに伝えたいことのサマリーを作ってはどうか。
- ・ 復習を促すクイズや覚えておくべきキーワードをそのページ記載すればよいのではないか。

『 具体的な要望について

- ・ P7 国債自体の説明がない。どこから借りるというのわからない。下のほうに注意書きでもそもどういものなのか記載しては。
- ・ P7 もっとこの借金がどのくらい大変なことなのか判るような比較が有った方が良い。
- ・ P7 長期的に何故返済しなければいけないのか説明を。
- ・ P7 消費税が増えた結果、どれだけ税収が増えたのか結果を書いたほうがいいのでは。
- ・ P8 より生活での実感を沸かせるために、絶対量ではなく、税率（例えば消費税なら10%）も記載するのがよいのではないか。
- ・ P8 実際の数字（1,000・・・）で記載してもよいのではないか。
- ・ P9 GDPの説明を注を入れるなどしてあったほうが良い。比較する国の基準はあるのか。
- ・ P10, P13 借金の総額や社会保障について、今後（10年後、20年後）どうなるかも書いてあるといい。
- ・ P10 富士山の何倍の表現がわかりにくい。他国と比較したほうがわかりやすいのでは。
- ・ P10 借金が多いことは伝えているが、多くても円の信用が落ちない理由や今後どうするかも伝えた方がよいのでは。
- ・ P10 借金の量について記載されていたが、解消するにはそうしたらいいかという記載がなかったのが、あったほうが良かった。
- ・ P11, P15, P16 国の選定基準は何か。世界地図あればイメージが湧きやすい。
- ・ P11, P15, P16 中国や韓国など身近な国と比較してみてもは。
- ・ P11 なぜGDPで比較するのか分からない。借金の金額で比較してはどうか。
- ・ P14 強く言われているのに、最後の投げかけはゆるい。（考えてみましょう、で終わるのではなくもっと真剣に考えないといけないのでは）
- ・ P15 未来（2040）で比較してはどうか。
- ・ P16 中国が載っていないのはなぜか。なじみのない国ばかりで、韓国とかアジアの国があればわかりやすい。